岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第456集

滝の沢地区遺跡発掘調査報告書

国道4号拡幅工事関連遺跡発掘調査

国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

滝の沢地区遺跡発掘調査報告書

国道４号拡幅工事関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする１万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されております。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところであります。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の事前の緊急発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、「国道４号線拡幅工事」に関連して、平成14年度に発掘調査された北上市滝の沢地区遺跡の調査結果をまとめたものであります。

今回の調査では縄文時代に属する竪穴住居や埋設土器、配石遺構などが多数得られ、貴重な資料を提供することができました。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力を賜りました国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所、北上市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成17年１月

財団法人　岩手県文化振興事業団
理事長　合　田　　武

例　言

1．本報告書は、岩手県北上市大堤西１－１ほかに所在する滝の沢地区遺跡の発掘調査成果を収録したものである。

2．本遺跡の調査は国道４号拡幅工事事業に伴い行われたものである。調査は岩手県教育委員会と国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所（現岩手河川国道事務所）との協議を経て、（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが担当した。

3．岩手県遺跡台帳の遺跡番号はＭＥ75－0373、遺跡略号はＴＳ－02である。

4．発掘調査面積は1,646㎡である。

5．発掘調査期間と室内整理期間及び調査担当者は以下の通りである。
　発掘調査期間：平成14年９月２日～12月６日　村木　敬・青山　紀和

6．室内整理期間：平成14年12月２日～平成15年７月31日　村木　敬

7．野外での写真撮影は村木、遺物写真撮影は期限付職員福士昭夫・村田熹鴻・高橋和雄が担当した。

8．本報告書の執筆・編集・構成は、村木が担当した。なお、第Ⅰ章調査に至る経過は国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所にお願いした。

9．野外調査及び本報告書の作成にあたっては以下の機関及び方々にご指導いただいた。（順不同、敬称略）
　国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所、北上市教育委員会、北上市立埋蔵文化財センター
　八重樫憲司・稲野祐介・小田島知世・杉本良・大渡賢一・君島武史・岩田貴之・小野寺麻耶・藤原大輔（北上市立埋蔵文化財センター）、吉田秀享（福島県文化財センター）、宇田川浩一（秋田県埋蔵文化財センター）、森一欽（釜石市教育委員会）、西田昌弘（石川県教育委員会）、高瀬克範（東京都立大学）、中川真人（城山町教育委員会）、阿部朝衛（帝京大学）、菅野智則（東北大学大学院）、長沼正樹（北海道大学）

10．測量、分析、鑑定は以下の機関に委託した。
　基準点測量：有限会社北上測量設計
　石材鑑定：花崗岩研究会
　埋設土器内胎土分析：パリノ・サーヴェイ株式会社
　黒曜石産地同定：株式会社第四紀地質研究所
　琥珀産地同定：元興寺文化財研究所

11．土層の色調観察は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修　1993年版）を用いた。

12．本報告書の作成に伴い国土地理院発行の地形図「北上」1:50,000を使用した。

13．遺跡の基準点は、北上市教育委員会と同様のものを採用しており、日本測地系の数値である。それに伴う世界測地系への変換を行っていない。緯度・経度も日本測地系から変換したものである。

14．本遺跡の調査で得られた一切の資料は岩手県立埋蔵文化財センターが保管している。

15．調査成果はこれまでに現地公開資料や岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第423集『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成14年度）』に発表してきたが、本書の内容がこれに優先するものである。

目　次

序
例言

第Ⅰ章　調査に至る経過 …… 1
第Ⅱ章　遺跡概観
1．遺跡概略 …… 1
2．位置・立地 …… 1
3．地形・地質 …… 2
4．基本層序 …… 6
5．周辺の遺跡 …… 8
第Ⅲ章　野外調査と室内整理
1．野外調査の方法 …… 14
2．調査の経過 …… 15
3．室内整理の方法 …… 16
4．凡例 …… 17
第Ⅳ章　土器・石器分類
1．土器 …… 18
2．石器 …… 20
第Ⅴ章　検出された遺構と遺物
1．概要 …… 30
2．縄文時代の遺構・遺物 …… 38
3．時期不明の遺構・遺物 …… 106
4．遺構外出土遺物 …… 111
第Ⅵ章　自然科学分析
1．北上市滝の沢地区遺跡黒曜石産地同定 …… 298
2．滝の沢地区遺跡埋設土器内充填土壌分析 …… 320
3．滝の沢地区遺跡琥珀の分析 …… 324
第Ⅶ章　考察 …… 327
抄録
職員名簿

図版目次

第１図 遺跡位置図
第２図 遺跡周辺図……３
第３図 地形分類図……４
第４図 表層地質図……５
第５図 基本層序 ……７
第６図 周辺遺跡分布図 ……９
第７図 グリッド配置図……14
第８図 凡例 ……17
第９図 土器分類図……19
第10図 石器凡例 ……27
第11図 遺構配置図（１）……28
第12図 遺構配置図（２）……29
第13図 土器グリッド別重量 ……32
第14図 １号竪穴住居……39
第15図 １号竪穴住居出土遺物（１）……40
第16図 １号竪穴住居出土遺物（２）……41
第17図 １号竪穴住居出土遺物（３）……42
第18図 １号竪穴住居出土遺物（４）……43
第19図 １号竪穴住居出土遺物（５）……44
第20図 １号竪穴住居出土遺物（６）……45
第21図 １号竪穴住居出土遺物（７）……46
第22図 １号竪穴住居出土遺物（８）……47
第23図 １号竪穴住居出土遺物（９）……48
第24図 １号竪穴住居出土遺物（10）……49
第25図 １号竪穴住居出土遺物（11）……50
第26図 １号竪穴住居出土遺物（12）……51
第27図 １号竪穴住居出土遺物（13）……52
第28図 １号竪穴住居出土遺物（14）……53
第29図 １号竪穴住居出土遺物（15）……54
第30図 １号竪穴住居出土遺物（16）……55
第31図 １号竪穴住居出土遺物（17）……56
第32図 ２号竪穴住居……58
第33図 ２号竪穴住居出土遺物（１）……59
第34図 ２号竪穴住居出土遺物（２）……60
第35図 ３号竪穴住居……61
第36図 ３号竪穴住居出土遺物 ……62
第37図 ４号竪穴住居……63
第38図 ４号竪穴住居出土遺物（１）……65
第39図 ４号竪穴住居出土遺物（２）……66
第40図 ４号竪穴住居出土遺物（３）……67
第41図 ５号竪穴住居……68
第42図 ５号竪穴住居出土遺物（１）……69
第43図 ５号竪穴住居出土遺物（２）……70
第44図 ５号竪穴住居出土遺物（３）……71
第45図 ５号竪穴住居出土遺物（４）……72
第46図 ５号竪穴住居出土遺物（５）……73
第47図 ５号竪穴住居出土遺物（６）……74
第48図 ６～10号竪穴住居配置図 ……75
第49図 １～５号焼土・出土遺物 ……77
第50図 １～６号埋設土器……81
第51図 １号埋設土器出土遺物 ……83
第52図 ２・３号埋設土器出土遺物 ……84
第53図 ４～６号埋設土器出土遺物 ……85
第54図 １～３号配石遺構……87
第55図 ４～６号配石遺構……89
第56図 １～３号配石遺構出土遺物 ……90
第57図 ３号配石遺構出土遺物 ……91
第58図 ５号配石遺構出土遺物 ……92
第59図 ６号配石遺構出土遺物 ……93
第60図 １号陥し穴……94
第61図 １～５号土坑……96
第62図 １号土坑出土遺物……97
第63図 ２号土坑出土遺物……98
第64図 ４号土坑出土遺物……99
第65図 ５号土坑出土遺物……100
第66図 柱穴出土遺物（１）……101
第67図 柱穴出土遺物（２）……102
第68図 柱穴出土遺物（３）……103
第69図 柱穴出土遺物（４）……104
第70図 柱穴出土遺物（５）……105
第71図 柱穴出土遺物（６）……106
第72図 １号溝・６号土坑……107

第73図 1号溝出土遺物（1）……109
第74図 1号溝出土遺物（2）……110
第75図 Ⅰ層出土土器・Ⅱ層出土土器（1）…116
第76図 Ⅱ層出土土器（2）…… 117
第77図 Ⅱ層出土土器（3）……118
第78図 Ⅱ層出土土器（4）……119
第79図 Ⅱ層出土土器（5）……120
第80図 Ⅱ～Ⅲ層出土土器……121
第81図 Ⅲ層出土土器（1）……122
第82図 Ⅲ層出土土器（2）……123
第83図 Ⅲ層出土土器（3）……124
第84図 Ⅲ層出土土器（4）……125
第85図 Ⅲ層出土土器（5）……126
第86図 Ⅲ層出土土器（6）……127
第87図 Ⅲ層出土土器（7）……128
第88図 Ⅲ層出土土器（8）……129
第89図 Ⅲ層出土土器（9）……130
第90図 Ⅲ層出土土器（10）……131
第91図 Ⅲ層出土土器（11）……132
第92図 Ⅲ層出土土器（12）……133
第93図 Ⅲ層出土土器（13）……134
第94図 Ⅲ層出土土器（14）……135
第95図 Ⅲ層出土土器（15）……136
第96図 Ⅲ層出土土器（16）……137
第97図 Ⅲ層出土土器（17）……138
第98図 Ⅲ層出土土器（18）……139
第99図 Ⅲ層出土土器（19）……140
第100図 Ⅲ層出土土器（20）……141
第101図 Ⅲ層出土土器（21）……142
第102図 Ⅲ層出土土器（22）……143
第103図 Ⅲ層出土土器（23）・Ⅳ層出土土器（1）
……144
第104図 Ⅳ層出土土器（2）……145
第105図 Ⅳ層出土土器（3）……146
第106図 Ⅳ層出土土器（4）……147
第107図 Ⅳ層出土土器（5）……148
第108図 Ⅳ層出土土器（6）……149
第109図 Ⅴ層出土土器（1）……150
第110図 Ⅴ層出土土器（2）……151
第111図 Ⅴ層出土土器（3）……152
第112図 Ⅴ層出土土器（4）……153
第113図 Ⅴ層出土土器（5）……154
第114図 Ⅴ層出土土器（6）……155
第115図 Ⅴ層出土土器（7）……156
第116図 Ⅴ層出土土器（8）・
調査区一括出土土器（1）……157
第117図 調査区一括出土土器（2）……158
第118図 土製品（1）……160
第119図 土製品（2）……161
第120図 土製品（3）……162
第121図 石鏃長幅比……164
第122図 石篦長幅比……166
第123図 石篦長幅比……169
第124図 スクレイパー類長幅比 ……172
第125図 不定形石器長幅比……173
第126図 石錘長幅比……178
第127図 石錘長幅指数・重量比 ……178
第128図 礫石器長幅比……182
第129図 礫石器長さ・重量比 ……183
第130図 礫石器長幅指数・重量比 ……183
第131図 石鏃（1）……184
第132図 石鏃（2）……185
第133図 石鏃（3）……186
第134図 石鏃（4）・尖頭器……187
第135図 石篦（1）……188
第136図 石篦（2）……189
第137図 石篦（3）……190
第138図 石篦（4）……191
第139図 石篦（5）……192
第140図 トランシェ様石器・石匙（1）……193
第141図 石匙（2）……194
第142図 石匙（3）……195
第143図 石匙（4）……196
第144図 石錐・異形石器……197
第145図 スクレイパー（1）……198
第146図 スクレイパー（2）……199

第147図 スクレイパー（3）……200
第148図 スクレイパー（4）……201
第149図 スクレイパー（5）……202
第150図 スクレイパー（6）……203
第151図 スクレイパー（7）……204
第152図 スクレイパー（8）……205
第153図 スクレイパー（9）……206
第154図 スクレイパー（10）……207
第155図 スクレイパー（11）……208
第156図 スクレイパー（12）……209
第157図 スクレイパー（13）・不定形石器（1）…210
第158図 不定形石器（2）……211
第159図 不定形石器（3）……212
第160図 不定形石器（4）……213
第161図 不定形石器（5）……214
第162図 不定形石器（6）……215
第163図 不定形石器（7）……216
第164図 不定形石器（8）・楔形石器 ……217
第165図 石核（1）……218
第166図 石核（2）……219
第167図 石核（3）……220
第168図 打製石斧・磨製石斧（1）……221
第169図 磨製石斧（2）・石錘（1）……222
第170図 石錘（2）……223
第171図 石錘（3）……224
第172図 石錘（4）……225
第173図 石錘（5）……226
第174図 礫石器（1）……227
第175図 礫石器（2）……228
第176図 礫石器（3）……229
第177図 礫石器（4）……230
第178図 礫石器（5）…… 231
第179図 礫石器（6）……232
第180図 礫石器（7）……233
第181図 礫石器（8）……234
第182図 礫石器（9）……235
第183図 礫石器（10）……236
第184図 礫石器（11）……237
第185図 礫石器（12）……238
第186図 礫石器（13）……239
第187図 礫石器（14）……240
第188図 礫石器（15）……241
第189図 礫石器（16）……242
第190図 礫石器（17）……243
第191図 礫石器（18）……244
第192図 礫石器（19）……245
第193図 石製品……247
第194図 遺構配置図……328
第195図 石器使用痕……336
第196図 石器使用痕……337
第197図 石器使用痕……338
第198図 石器使用痕……339

表目次

第1表 周辺遺跡一覧（1）……10
第2表 周辺遺跡一覧（2）……11
第3表 周辺遺跡一覧（3）……12
第4表 周辺遺跡一覧（4）……13
第5表 遺構内出土土器出土一覧 ……30
第6表 遺構外土器出土一覧 ……31
第7表 遺構内石器出土一覧（1）……33
第8表 遺構内石器出土一覧（2）……34
第9表 遺構外石器出土一覧（1）……35
第10表 遺構外石器出土一覧（2）……36
第11表 石器石材組成表……37
第12表 石鏃出土グリッド一覧 ……164
第13表 石鏃出土層位一覧……164
第14表 尖頭器出土グリッド一覧 ……165
第15表 尖頭器出土層位一覧 ……165
第16表 石篦出土グリッド一覧 ……166

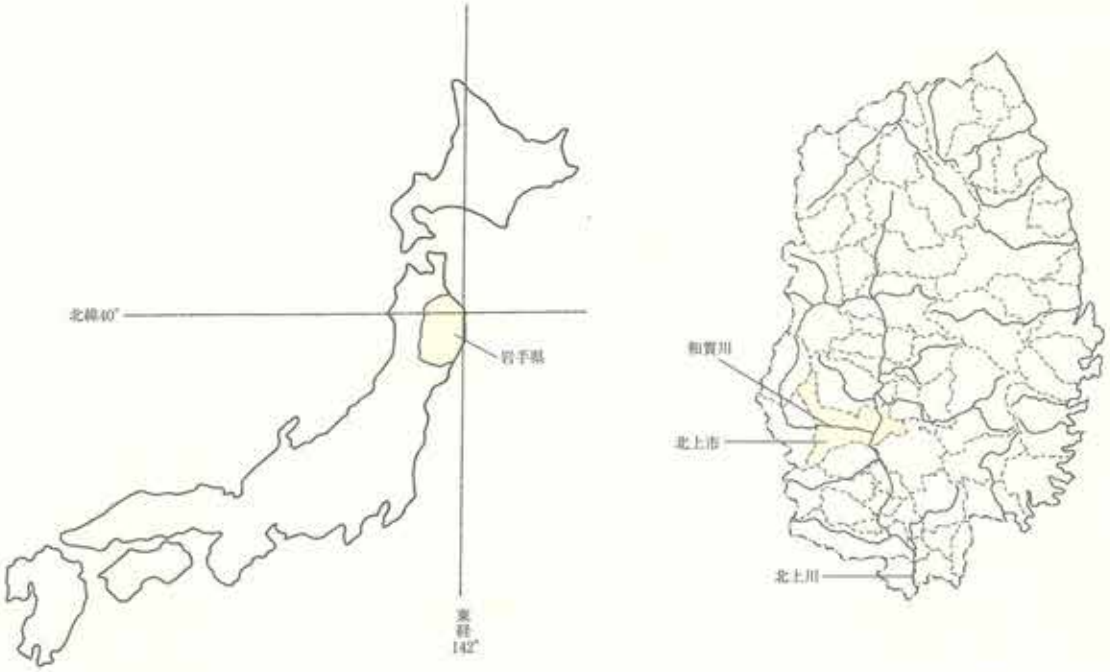
第17表 石篦出土層位一覧……166
第18表 トランシェ様石器出土グリッド一覧……167
第19表 石匙出土グリッド一覧……168
第20表 石匙出土層位一覧……168
第21表 石錐出土グリッド一覧……169
第22表 石錐出土層位一覧……169
第23表 異形石器出土グリッド一覧……169
第24表 スクレイパー類出土グリッド一覧……171
第25表 スクレイパー類出土層位一覧……171
第26表 不定形石器出土グリッド一覧……173
第27表 不定形石器出土層位一覧……173
第28表 楔形石器出土グリッド一覧……174
第29表 楔形石器出土層位一覧……174
第30表 石核出土グリッド一覧……175
第31表 石核出土層位一覧……175
第32表 打製石斧出土グリッド一覧……175
第33表 打製石斧出土層位一覧……175
第34表 磨製石斧出土グリッド一覧……176
第35表 磨製石斧出土層位一覧……176
第36表 剥片出土グリッド一覧……176
第37表 剥片出土層位一覧……176
第38表 石錘出土グリッド一覧……177
第39表 石錘出土層位一覧……178
第40表 礫石器出土グリッド一覧……182
第41表 礫石器出土層位一覧……183
第42表 柱穴一覧（1）……248
第43表 柱穴一覧（2）……249
第44表 柱穴一覧（3）……250
第45表 柱穴一覧（4）……251
第46表 土器観察表（1）……252
第47表 土器観察表（2）……253
第48表 土器観察表（3）……254
第49表 土器観察表（4）……255
第50表 土器観察表（5）……256
第51表 土器観察表（6）……257
第52表 土器観察表（7）……258
第53表 土器観察表（8）……259
第54表 土器観察表（9）……260
第55表 土器観察表（10）……261
第56表 土器観察表（11）……262
第57表 土器観察表（12）……263
第58表 土器観察表（13）……264
第59表 土器観察表（14）……265
第60表 土器観察表（15）……266
第61表 土器観察表（16）……267
第62表 土器観察表（17）……268
第63表 土器観察表（18）……269
第64表 土器観察表（19）……270
第65表 土器観察表（20）……271
第66表 土器観察表（21）……272
第67表 土器観察表（22）……273
第68表 土器観察表（23）……274
第69表 土器観察表（24）……275
第70表 土器観察表（25）……276
第71表 土器観察表（26）……277
第72表 土器観察表（27）……278
第73表 土製品観察表……279
第74表 石鏃観察表（1）……280
第75表 石鏃観察表（2）……281
第76表 尖頭器観察表……281
第77表 石篦観察表……282
第78表 トランシュ様石器観察表……282
第79表 石匙観察表（1）……282
第80表 石匙観察表（2）……283
第81表 石錐観察表……283
第82表 異形石器観察表……283
第83表 スクレイパー観察表（1）……284
第84表 スクレイパー観察表（2）……285
第85表 不定形石器観察表（1）……286
第86表 不定形石器観察表（2）……287
第87表 楔形石器観察表……287
第88表 石核観察表……287
第89表 打製石器観察表……288
第90表 磨製石斧観察表……288
第91表 石錘観察表（1）……289
第92表 石錘観察表（2）……290

第93表 礫石器観察表（1）……291
第94表 礫石器観察表（2）……292
第95表 礫石器観察表（3）……293
第96表 礫石器観察表（4）……294
第97表 礫石器観察表（5）……295
第98表 礫石器観察表（6）……296
第99表 礫石器観察表（7）……297
第100表 石製品観察表……297

写真図版目次

写真図版1 調査全景……349
写真図版2 遺物出土状況 ……350
写真図版3 遺構内・外出土土器 ……351
写真図版4 出土土製品……352
写真図版5 調査前風景……353
写真図版6 調査区完掘状況 ……354
写真図版7 調査区完掘状況 ……355
写真図版8 遺物出土状況・完掘状況 ……356
写真図版9 1号竪穴住居完掘 ……357
写真図版10 竪穴住居・1号埋設土器 ……358
写真図版11 3～6号埋設土器 ……359
写真図版12 1～4号配石遺構 ……360
写真図版13 4号配石・1～4号焼土 ……361
写真図版14 焼土・陥し穴・土坑 ……362
写真図版15 土坑・溝・遺物出土状況 ……363
写真図版16 遺物出土状況・基本土層 ……364
写真図版17 1号竪穴住居出土遺物（1）……365
写真図版18 1号竪穴住居出土遺物（2）……366
写真図版19 1号竪穴住居出土遺物（3）……367
写真図版20 1号竪穴住居出土遺物（4）……368
写真図版21 1号竪穴住居出土遺物（5）……369
写真図版22 1号竪穴住居出土遺物（6）……370
写真図版23 1号竪穴住居出土遺物（7）……371
写真図版24 1号竪穴住居出土遺物（8）……372
写真図版25 1号竪穴住居出土遺物（9）……373
写真図版26 1号竪穴住居出土遺物（10）……374
写真図版27 1号竪穴住居出土遺物（11）……375
写真図版28 2号竪穴住居出土遺物 ……376
写真図版29 3号竪穴住居出土遺物 ……377
写真図版30 4号竪穴住居出土遺物 ……378
写真図版31 5号竪穴住居出土遺物（1）……379
写真図版32 5号竪穴住居出土遺物（2）……380
写真図版33 5号竪穴住居出土遺物（3）……381
写真図版34 5号竪穴住居出土遺物（4）・
1号焼土・3号焼土・1号埋設土器（1）‥382
写真図版35 1号埋設土器（2） 2～4号埋設土
器……383
写真図版36 5・6号埋設土器.1号配石遺構・
2号配石遺構（1）……384
写真図版37 2号配石遺構（2）・3号配石 …385
写真図版38 5号配石遺構・6号配石遺構（1）
……386
写真図版39 6号配石遺構（2） 1・2号土坑
……387
写真図版40 4号土坑・5号土坑（1）……388
写真図版41 5号土坑（2）・柱穴（1）……389
写真図版42 柱穴（2）……390
写真図版43 柱穴（3）……391
写真図版44 1号溝……392
写真図版45 Ⅰ・Ⅱ層出土土器（1）……393
写真図版46 Ⅱ層出土土器（2）……394
写真図版47 Ⅱ層出土土器（3）……395
写真図版48 Ⅱ～Ⅲ層出土土器 ……396
写真図版49 Ⅲ層出土土器（1）……397
写真図版50 Ⅲ層出土土器（2）……398
写真図版51 Ⅲ層出土土器（3）……399
写真図版52 Ⅲ層出土土器（4）……400
写真図版53 Ⅲ層出土土器（5）……401
写真図版54 Ⅲ層出土土器（6）……402
写真図版55 Ⅲ層出土土器（7）……403

写真図版56 Ⅲ層出土土器（8）……404
写真図版57 Ⅲ層出土土器（9）……405
写真図版58 Ⅲ層出土土器（10）……406
写真図版59 Ⅲ層出土土器（11）……407
写真図版60 Ⅲ層出土土器（12）……408
写真図版61 Ⅲ層出土土器（13）……409
写真図版62 Ⅲ層出土土器（14）……410
写真図版63 Ⅲ層出土土器（15）……411
写真図版64 Ⅲ層出土土器（16）……412
写真図版65 Ⅲ層出土土器（17）……413
写真図版66 Ⅳ層出土土器（1）……414
写真図版67 Ⅳ層出土土器（2）……415
写真図版68 Ⅳ層出土土器（3）……416
写真図版69 Ⅳ～Ⅴ層出土土器 ……417
写真図版70 Ⅴ層出土土器（1）……418
写真図版71 Ⅴ層出土土器（2）……419
写真図版72 Ⅴ層出土土器（3）……420
写真図版73 Ⅴ層出土土器（4）……421
写真図版74 Ⅴ層出土土器（5）……422
写真図版75 Ⅴ層出土土器（6）……423
写真図版76 Ⅴ層出土土器（7）・調査区一括（1）
……424
写真図版77 調査区一括（2）・土製品 ……425
写真図版78 石鏃（1）……426
写真図版79 石鏃（2）石篦（1）……427
写真図版80 石篦（2）……428
写真図版81 石篦（3）……429
写真図版82 石匙（1）……430
写真図版83 石匙（2）・石錐 ……431
写真図版84 異形石器・スクレイパー（1）…432
写真図版85 スクレイパー（2）……433
写真図版86 スクレイパー（3）……434
写真図版87 スクレイパー（4）……435
写真図版88 スクレイパー（5）……436
写真図版89 スクレイパー（6）……437
写真図版90 スクレイパー（7）……438
写真図版91 不定形石器（1）……439
写真図版92 不定形石器（2）……440
写真図版93 不定形石器（3）……441
写真図版94 不定形石器（4）……442
写真図版95 楔形石器・石核（1）……443
写真図版96 石核（2）・打製石斧（1）……444
写真図版97 打製石斧（2）・磨製石斧・石錘（1）
……445
写真図版98 石錘（2）……446
写真図版99 石錘（3）……447
写真図版100 石錘（4）礫石器（1）……448
写真図版101 礫石器（2）……449
写真図版102 礫石器（3）……450
写真図版103 礫石器（4）……451
写真図版104 礫石器（5）……452
写真図版105 礫石器（6）……453
写真図版106 礫石器（7）……454
写真図版107 礫石器（8）……455
写真図版108 礫石器（9）……456
写真図版109 礫石器（10）……457
写真図版110 礫石器（11）……458
写真図版111 礫石器（12）……459
写真図版112 石製品・土器底部（1）……460
写真図版113 土器底部（2）……461
写真図版114 土器底部（3）……462



第1図　遺跡位置図

第Ⅰ章　調査に至る経過

一般国道４号は、東京を起点として福島県、宮城県、岩手県を経て青森県にいたる東北地方の大動脈の一端を担っている主要幹線道路である。

北上拡幅は、北上市内の国道４号の交通混雑解消、交通安全の確保、沿線環境の改善を図ると共に、高速交通時代の一端を担い、地域経済発展の根幹となる道路として、昭和57年度より事業を進めて来た。

平成10年度までに、終点側から和賀大橋手前までの延長6,200ｍと、北上運動公園前の延長900ｍについて４車線整備を完了している。

この区間の埋蔵文化財包蔵地については、岩手県教育委員会が分布調査を実施し、今回発掘調査を実施した「滝の沢地区遺跡」ほかの遺跡が確認され、その結果に基づいて、岩手県教育委員会は国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所との協議を行い、発掘調査を財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの受託事業とすることとした。これにより、岩手県教育委員会は平成14年度埋蔵文化財調査事業について、財団法人岩手県文化振興事業団へ通知し、それを受けて当埋蔵文化財センターは、平成14年９月２日付けの受託契約に基づいて平成14年９月２日から滝の沢地区遺跡の発掘調査に着手した。当初面積は1,646㎡で、終了面積は同じく1,646㎡である。

（国土交通省東北地方整備局岩手工事事務所）

第Ⅱ章　遺跡概観

１．遺跡概略

滝の沢地区遺跡は、土地区画整備事業や宅地造成に伴い北上市教育委員会・北上市埋蔵文化財センターによって1977年より複数回に及び緊急発掘調査が行われ（北上市教育委員会1977、1989、1991）、縄文時代前期末から中期初頭にかけての大規模な集落であるという成果が得られている「滝ノ沢遺跡」と同一遺跡である。今回の報告においては、岩手県教育委員会によって作成された「岩手県遺跡台帳」（2001）に従い、その掲載名称である「滝の沢地区遺跡」を採用している。

本遺跡は広範な面積を有する遺跡で、その中央を南北に国道４号が走っている。今回の発掘調査は国道４号拡幅工事に伴うものであることから、調査区は国道に平行した南北に長いものとなっており、本調査区はほぼ遺跡の中央部分を調査したことになる。

２．位置・立地

本遺跡は、岩手県北上市大堤西１丁目ほかに所在し、ＪＲ北上駅より南東約３kmに位置している。遺跡が所在する北上市は、県中央よりやや南部、北上山盆地の中央部に位置している。当市は平成３年に和賀町と江釣子村と合併して市制が施行されてからは東西に長く、東は江刺市と東和町、南は金ヶ崎町、西は湯田町、北は花巻市と沢内村に接する。古くに奥州街道の宿場町や北上川船運の中継地点として栄えた都市である。人口は約90.000人、面積は437.55㎢である。

遺跡は、北上川と和賀川が合流した南側の北東方向に張り出した和賀川によって形成された標高約79ｍの河岸段丘上に立地している。この段丘は和賀川と北上川が合流する北東方向に向かって緩やかに傾斜しており、遺跡はこの縁にある。国土地理院発行５万分の１地形図「北上」（ＮＪ－54－14－13）の図幅に含まれ、

北緯39度15分44秒、東経141度６分９秒に位置する。

３．地形・地質

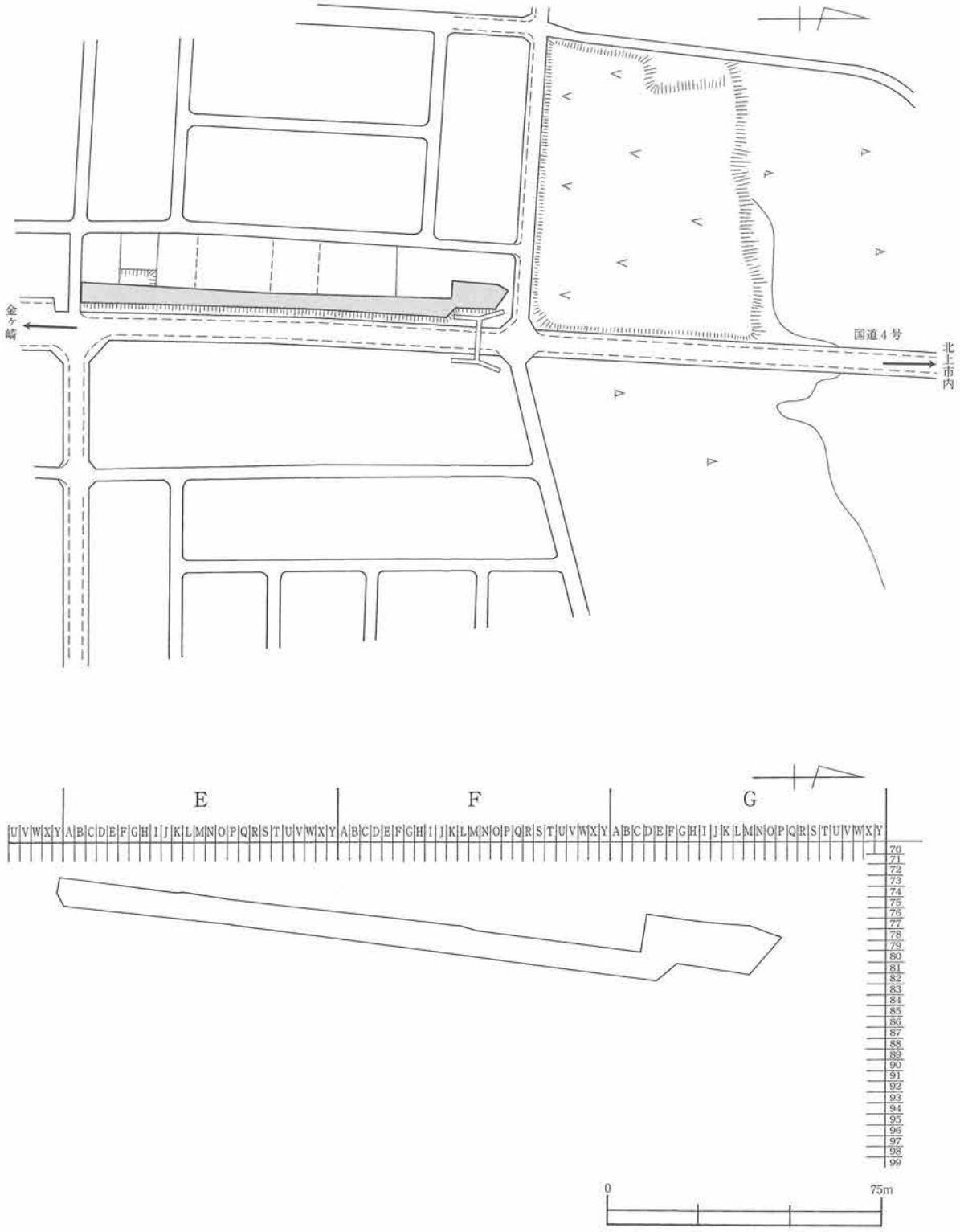
岩手県は、南北に長く、四国と同等の広範な面積を有している。その地勢は、東に北上山地、西に奥羽脊梁山脈がそれぞれ南北に延びている。諸説あるが岩手町御堂観音境内に端を発する北上川はその合間を河谷低地帯を形成しながら岩手県と宮城県を南流して宮城県石巻湾に、袖山高原に端を発する馬淵川は北流して青森県八戸湾に注ぐ。

遺跡が所在する北上市は、岩手県南部中央で北上川中流域にあたり、その地形は奥羽山脈と北上山地に挟まれている。市の中央を北上川が南流して、市の西側をほぼ南北に分断するように和賀川が東流して、それらはほぼ市内中央で合流する。各河川の両岸に低地と河岸段丘がそれぞれ形成されている。

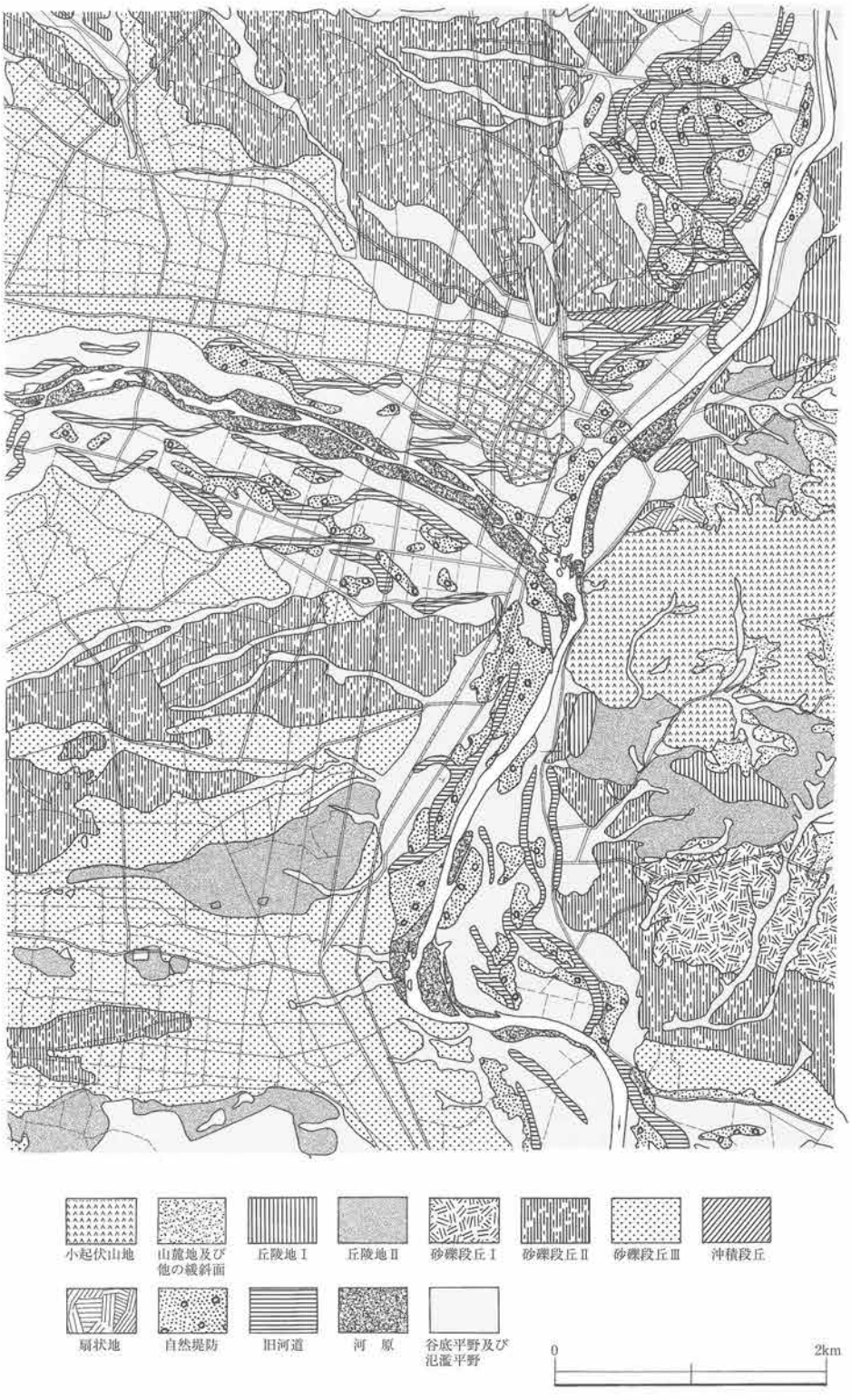
市内において北上川両岸で異なる地形・地質が見られる。北上川西岸は、先述したように北上川に向かって和賀川が東流し、夏油川や尻平川などの小河川がそれに注いでいる。西岸の段丘は北上川と和賀川によって形成され、低地がそれらの河川に沿って存在する。それに注ぐ小河川沿いも同様の地形にある。ただし和賀川によって南北に分断された地形は、北側は低位や高位砂礫段丘が形成され比較的平坦な段丘面が広がっているが、南側は面積の狭い低地の背後に高位段丘が存在し急斜度な地形を形成している。和賀川の両岸の地形は、西側に向かうにつれ奥羽山脈の東辺が存在していることから標高が高くなる。奥羽山脈の裾野に広がる小～中起伏山地には、和賀川右岸に前塚見山（標高915m）・羽山（標高583m）・鞍掛森山（標高942m）・牛形山（標高1340m）、その左岸に高森山（標高516m）・月山（標高583m）・明倉山（標高800m）などがある。また、北上川東岸は北上山地西辺の丘陵地となっていることから小起伏山地が多く見られ、西岸とは異なり急斜度の地形が迫り出している。このため低地が存在しているものの西岸に比べるとその面積は狭い。

表層地質や土壌も地形と同様に、北上川の両岸で異なる。表層地質は概ね三地域に大別され、南西部は奥羽山系の東縁部にあたり新第三期鮮新世の砂岩が主体、西部から中部は和賀川水系によって形成された洪積世と沖積世の段丘や扇状地などが主体、中部から東部は花崗岩質岩石と砂岩が主体となる。土壌は、西岸は洪積世の火山灰を主要母材とし、クロボク土壌が最も広く分布している。東岸は第三紀層を主要母材とし、全体的に赤色古風化を受けている。

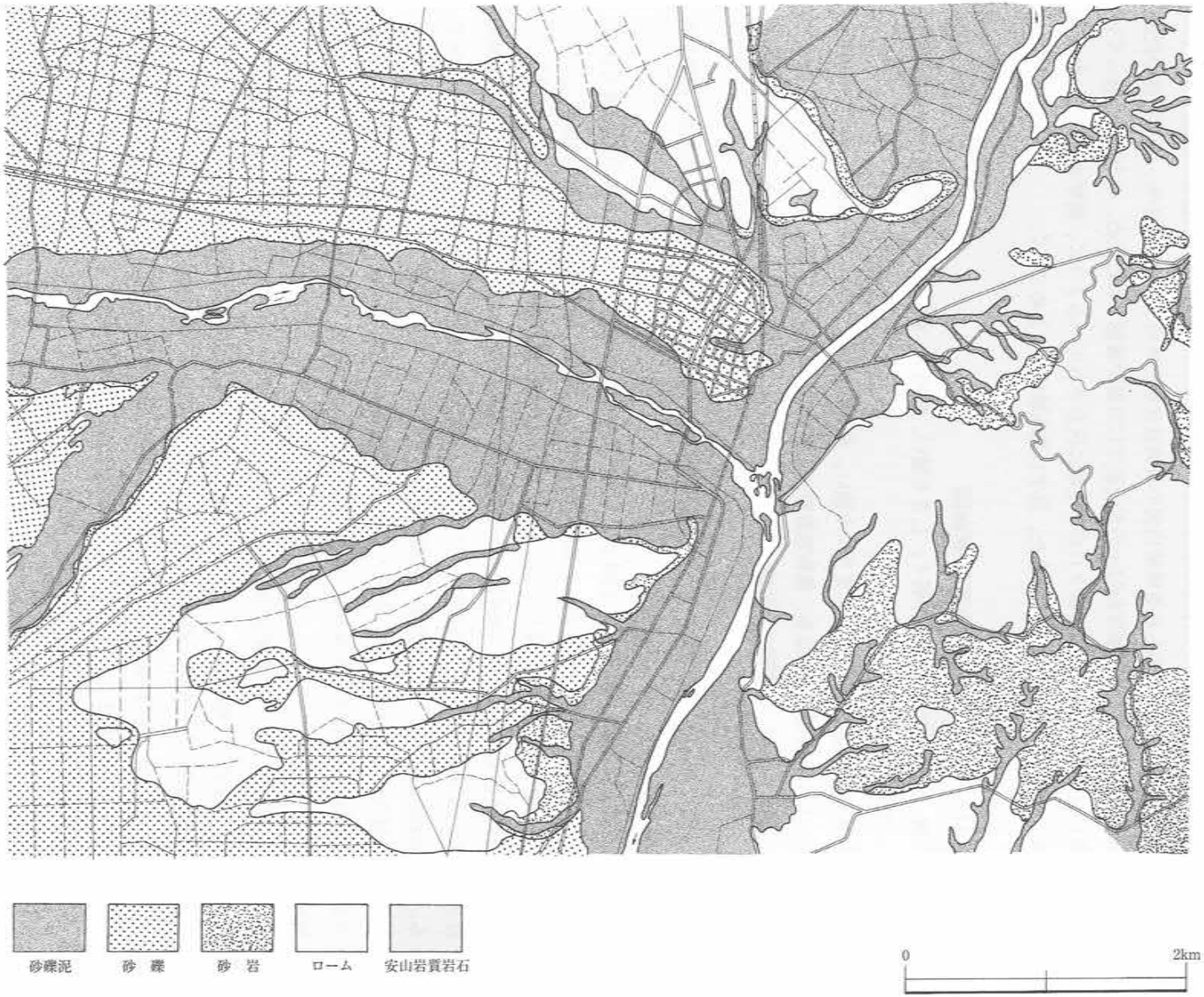
本遺跡は、先述した北上川西岸、和賀川南岸に形成された段丘上に立地している。この段丘は地形区分は六原台地、表層地質は洪積世ローム、土壌はクロボク土壌の板沢統か淡色クロボク土壌の黒岩統に分類されている。


金ヶ崎
国道４号
北上市内
E
F
G
U V W X Y A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y
70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99
0
75m

第２図　遺構周辺図


小起伏山地
山麓地及び他の緩斜面
丘陵地Ⅰ
丘陵地Ⅱ
砂礫段丘Ⅰ
砂礫段丘Ⅱ
砂礫段丘Ⅲ
沖積段丘
扇状地
自然堤防
旧河道
河　原
谷底平野及び氾濫平野
0
2km

第３図　地形分類図



第4図　表層地質図

4．基本層序

調査区は南北に長いことから遺構を確認できた場所でのみ基本層序の把握を行った。

遺構が確認できた場所は、ＥＮ77グッリド付近の調査区南端、ＦＩ78グリッド付近とＦＲ79グリッド付近の調査区中央、ＧＭ・Ｎ・Ｏ77グリッド付近の北端の４箇所であった。今回は調査区北端と南端においてのみ、複数層が堆積している状況が認められ遺構検出面や遺物包含層を確認できたことから、基本層序の把握を行った。調査区中央の２箇所では、層厚約0.2mの表土直下にⅥ層が確認されたため、その記録を行っていない。地形・地質において触れたが本遺跡はクロボク土壌に区分されているように、削平を受けていない場所では黒色土が厚く堆積している状況を確認できた。以下に基本層序をまとめておく。

調査区北端：ＧＭ・Ｎ・Ｏ77グリッド西壁断面図

Ⅰ層：黒色シルト層（10YR1.7/1）粘性やや弱く、しまり強い。腐植土。直径10～50㎜の礫をやや多く含む。層厚は0.2～0.25mである。

Ⅱ層：黒色シルト層（7.5YR2/1）粘性並、しまりやや強い。黄褐色スコリアをやや多く含む。層厚は0.1～0.2m、南に行くにつれ堆積が薄くなる。遺物包含層・遺構検出面。

Ⅲa層：黒褐色粘土質シルト層（10YR2/2）粘性、しまり共にやや強い。層厚は0.2mである。遺物包含層・遺構検出面。

Ⅲb層：黒褐色粘土質シルト層（10YR3/2）粘性、しまり共にやや強い。層厚は0.1～0.25mである。遺物包含層・遺構検出面。

Ⅳa層：黒褐色粘土質シルト層（10YR3/1）粘性並、しまりやや強い。直径３～10mmの炭化粒を多く含む。上層に比べ、遺物出土量が極端に減る。層厚は0.15～0.3mである。遺物包含層・遺構検出面。

Ⅳb層：黒褐色シルト層（10YR3/1）層厚は0.1mである。遺物包含層・遺構検出面。

Ⅴ層：灰褐色～黒褐色粘土質シルト層（10YR4/2～10YR3/1）粘性やや強く、しまり強い。若干下層の村崎野スコリアが入り込んでおり、地山ブロックの浮き上がりが見られる。Ⅲ層とⅥ層の漸移層と思われる。層厚は0.15mである。遺物包含層・遺構検出面。

Ⅵ層：明褐色粘土質シルト層（10YR5/8）粘性、しまり共に強い。直径10～30㎜の村崎野スコリアやパミスが多く含まれる。層厚は不明であるが、攪乱部より１m以上は堆積していることを確認できた。遺構検出面。

調査区南端：ＥＮ77グッリド東壁断面図

Ⅰ層：黒褐色土層（10YR2/2）粘性弱く、しまりやや強い。植物による腐植土。層厚は0.2mである。

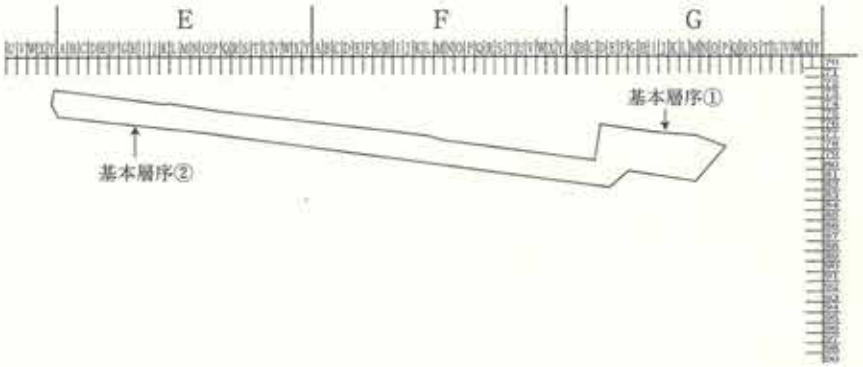
Ⅱ層：黒色粘土質シルト層（10YR2/1）粘性やや弱く、しまりやや強い。層厚は0.15mである。

Ⅲ層：黒色粘土質シルト層（10YR1.7/1）粘性、しまり共に並。当初本層はⅡ層と同一層と判断していたが、若干粘性が弱く暗味を増すことから区別した。層厚は0.1～0.15mである。

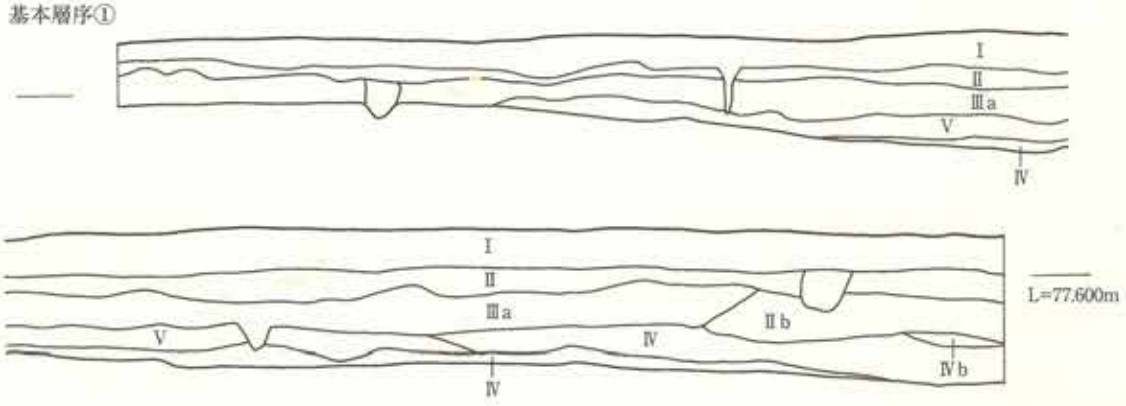
Ⅳa層：黒褐色粘土質シルト層（10YR3/2）粘性やや強く、しまり強い。層厚は0.15mである。遺物包含層・遺構検出面。

Ⅳb層：上層より若干明るく、Ⅴ層が僅かに混じる層。そのため部分的にしか確認できない。所々に黄褐色スコリアを少量含む。層厚は0.05mである。

Ⅴ層：灰黄褐色粘土質シルト層（10YR4/2）粘性強く、しまりやや強い。層厚は不明である。遺構検出面。



基本層序①



基本層序②

第5図　基本層序

5．周辺の遺跡

北上市には旧石器時代から近世にかけて所属する遺跡が数多く存在しており、その遺跡数は431を数える（岩手県教育委員会2001）。本遺跡と同様の縄文時代に属する遺跡は213遺跡あり、北上市の半数以上を占める。本遺跡の周辺にも縄文時代に所属する遺跡が数多く存在している。

今回の発掘調査では、縄文時代前期末から中期初頭にかけての遺構や遺物が検出された。ここではその時期に限って概観していく。市内において発掘調査が行われている遺跡は、新平遺跡・鳩岡崎遺跡・唐戸崎遺跡・物見崎遺跡・横町遺跡・樺山遺跡・煤孫遺跡などあり、その他の遺跡でも当該期の遺物が確認されている。それらは北上川と和賀川の合流地点に多く存在しており、本遺跡もその一つである。

近年、北上市周辺でも発掘調査が増加し、それに伴い当該期の資料が出土し多くの成果が得られている。それらの分布については、金子（2003）や千葉（2001）によって詳細にまとめられているのでそれらを参照されたい。ここでは発掘調査が行われた当該期の遺跡のみ触れておく。湯田町には白木野Ⅰ遺跡・清水ヶ野遺跡・峠山牧場Ⅰ遺跡、金ヶ崎町には和光6区遺跡、江刺市には新田遺跡・大中田遺跡・宝性寺跡、胆沢町には大清水上遺跡などがある。ここでは触れていないが数多くの遺跡が周辺には存在している。これらの多くは、北上川沿い及びそれに注ぐ支流によって形成された段丘の縁にあり、ほぼ河川が合流する地点に集中することが窺える。当該期の遺跡は、北上川と和賀川周辺の地域に比較的まとまって存在していることが明らかになりつつある。それらの遺跡では礫石錘が多く出土している遺跡とそれらが認められない遺跡の2種類が確認されており、前者は河川沿いに、後者はやや内陸部にある。このことは各集落の生業形態により分布する範囲に差異が生じたものと思われる。前者である本遺跡は、当時の様相を捉える手がかりに漁労具としての礫石錘にあるように考えられる。

今後、縄文時代前期末から中期初頭にかけて遺跡の報告例が増加することで、上述したことを踏まえて当該期の社会的な様相を捉えていくことが検討課題として挙げられる。

第Ⅱ章で使用した引用・参考文献

（ここでは財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターを岩文埋とする。）

北上市教育委員会1983『滝ノ沢遺跡』北上市文化財調査報告第33集

北上市教育委員会1990『滝ノ沢遺跡Ⅱ』北上市文化財調査報告第60集

北上市教育委員会1991『滝ノ沢遺跡Ⅲ』北上市文化財調査報告第63集

岩手県教育委員会2001『岩手県遺跡台帳』

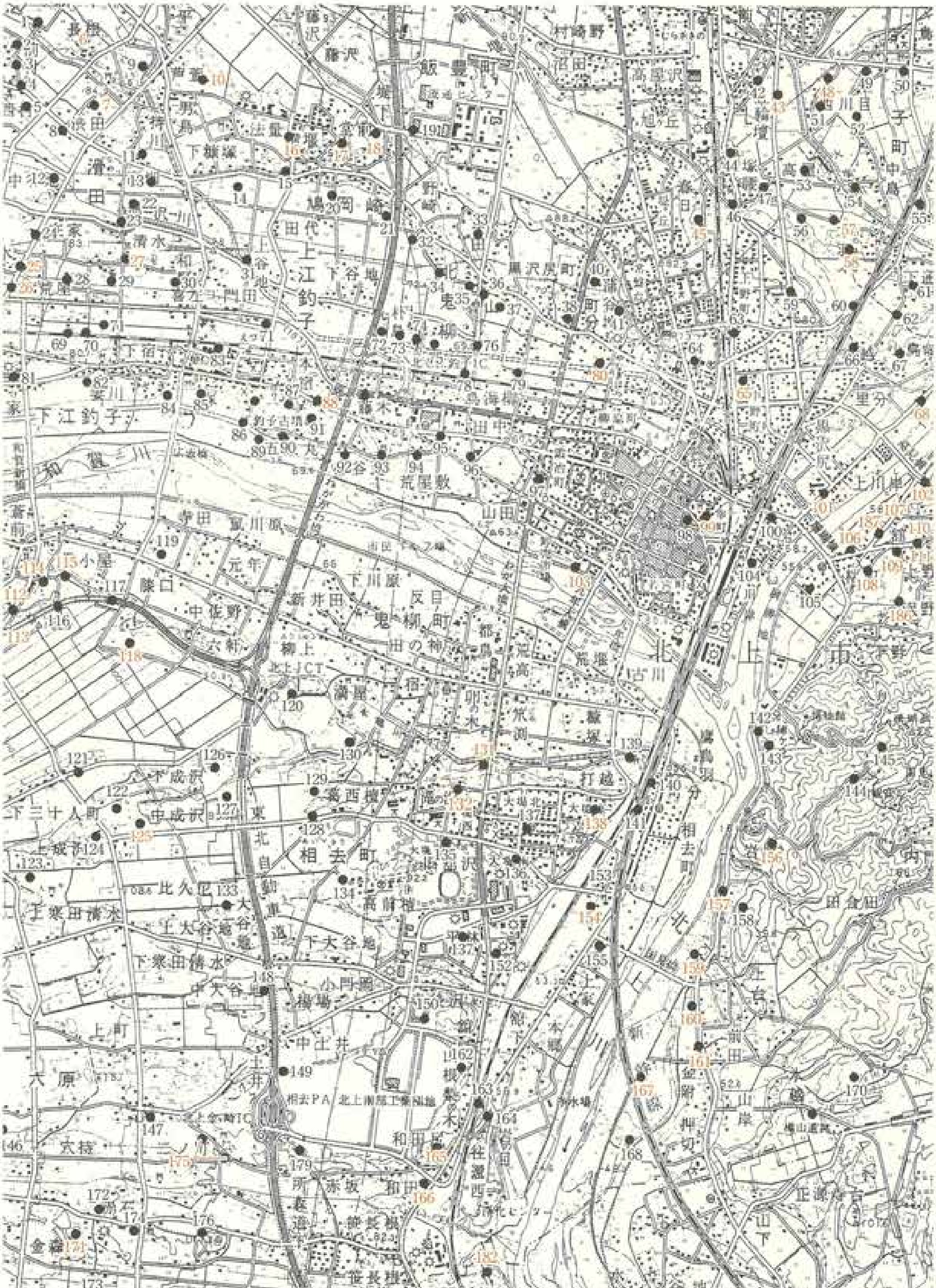
岩文埋1994『煤孫遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書196集

岩文埋1995『鳩岡崎上の台遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書240集

岩文埋2001『清水ヶ野遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書351集

岩文埋2002『新田遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書405集

岩手県1974『北上山地系開発地域　土地分類基本調査』



第６図　周辺遺跡分布図

第1表　周辺遺跡一覧（1）

No	遺跡	時代	出土遺物	住所	備考
1	道ノ上長根Ⅰ	平安	須恵器	滑田3地割	
2	道ノ上長根Ⅱ	平安	須恵器	滑田3地割	
3	道ノ上長根Ⅳ	平安	土師器、須恵器	滑田4地割	
4	道ノ上長根Ⅴ	平安	土師器、須恵器	滑田4地割	
5	道ノ上長根Ⅵ	平安	土師器、須恵器	滑田4地割	
6	新平	縄文･平安・中世	縄文土器･土師器・堀	新平2地割	一部県指定（1963/12/24）
7	長根	縄文	フレーク	滑田2地割	
8	渋田	奈良～平安	土師器	滑田14地割	
9	新平屋敷	近世	環濠	新平2地割	
10	芦萱	縄文・平安	縄文土器、土師器、須恵器	新平4地割	
11	持川	旧石器	石斧	滑田14地割	
12	谷地館	中世？		藤根下中野	
13	高畑	平安	土師器、須恵器	滑田12地割	
14	下糠塚古館	近世	堀跡	滑田19地割	
15	横堰Ⅱ	平安	土器、石鏃	滑田20地割	
16	横堰Ⅰ	縄文・奈良・平安	縄文土器、土師器、須恵器	滑田２０地割	
17	鳩岡崎高台	縄文・平安	土師器、須恵器	鳩岡崎3地割	
18	鳩岡崎上の台	縄文・平安	縄文土器、土師器	鳩岡崎1地割	平成５・６年度調査
19	藤沢	奈良・平安	縄文土器、土師器、須恵器	飯豊町字藤沢第12地割	
20		平安	須恵器	鳩岡崎	
21	鳩岡崎三館	平安・中世	縄文土器、土師器、須恵器、堀、郭	鳩岡崎2地割	
22	中通りⅠ	平安	土師器	滑田13地割	
23	中通りⅡ	平安	土師器	滑田13地割	
24	荒屋Ⅰ	平安	土器、土師器	藤根長清水、滑田9地割	
25	長清水Ⅲ	縄文、平安	縄文土器、土師器	藤根長清水	
26	長清水Ⅳ	縄文	縄文土器、石器	藤根長清水	
27	折橋	縄文・平安	土師器、フレーク	滑田9地割	
28	荒屋Ⅱ	奈良・平安	土師器	上江釣子3地割	
29	清水	平安	土師器	滑田9地割	
30	和野	奈良	土師器、竪穴住居跡	上江釣子8地割	
31	田代（田代主殿屋敷）	中世	古銭、堀跡	上江釣子10地割	
32	野崎Ⅰ	平安	土師器	鳩岡崎1地割	
33	中田	平安	土師器	北鬼柳2地割	
34	野崎Ⅱ	平安	土師器	鳩岡崎1地割	
35	清水端	奈良・平安	土師器	北鬼柳7地割	
36	曽山Ⅰ	平安	土師器、須恵器	北鬼柳5地割	
37	曽山Ⅱ	平安	土師器、須恵器	北鬼柳5地割	
38	蒲谷地Ⅰ				
40	藤沢窯跡群	平安	須恵器	黒沢尻町字2－81周辺	
41	常盤台	平安	土師器、須恵器	常盤台	
42	五輪壇	中世	土壇、周溝	二子町字南田	
43	南田	縄文	縄文土器	二子町字南田	
44	明神Ⅰ	古代	土師器	二子町字明神	
45	下春木場	縄文	縄文土器、竪穴住居跡	飯豊町	
46	二子一里塚	近世		二子町字高屋	S40、3県指定史跡
47	高屋Ⅰ	古代	須恵器	二子町字高屋	
48	堰向Ⅰ	縄文・古代	土師器、須恵器、石匙	二子町字堰向端	

第２表　周辺遺跡一覧（2）

No	遺跡	時代	出土遺物	住所	備考
49	鳥喰Ⅱ	古代	土師器	二子町字鳥喰	
50	鳥喰Ⅰ	古代	土師器・須恵器	二子町字鳥喰	
51	堰向Ⅱ	古代	土師器・須恵器	二子町字堰向	平成15年度調査
52	西川目	古代	土師器・須恵器	二子町字鳥喰	平成15年度調査
53	明神Ⅱ	古代	土師器	二子町	
54	中島	古代	土師器	二子町字中島	
55	岡島	古代	土師器・須恵器	二子町字岡島	
56	高屋Ⅱ	古代	須恵器	二子町字野田	
57	野田Ⅱ	縄文	フレーク	二子町字野田	
58	野田Ⅰ	弥生・縄文・古代	縄文土器(後・晩期)、弥生土器、土師器、須恵器	二子町	
59	上野			二子町	
60	中居俵Ⅰ			二子町	
61	上川端Ⅱ	古代	土師器	二子町字上川端	
62	千刈	平安	弥生土器、土師器、須恵器	二子町字千刈	
63	黒沢尻上野町住宅	平安	土師器	上野町	
64	黒沢尻北高グラウンド	平安	土師器、須恵器、鎌、砥石	常盤台	
65	梨子山	縄文	縄文土器（中期）	黒沢尻町字里分第２地割	
66	蟹沢			二子町	
67	小鳥崎館（館山）	中世	堀、帯郭	黒沢尻町字小鳥崎	
68	小鳥崎	縄文	縄文土器	黒沢尻町字小鳥崎	
69	荒屋Ⅲ	平安	須恵器	上江釣子２地割	
70	荒屋Ⅳ	平安	土師器	上江釣子４地割	
71	荒屋Ⅴ	平安	土師器	上江釣子４地割	
71	喜左エ門田	平安	土師器	上江釣子16地割	
72	下谷地	平安	土師器、木製品	上江釣子13地割	
73	朴島Ⅴ	平安	土師器、須恵器	北鬼柳11地割	
74	朴島Ⅰ	平安	土師器、須恵器	北鬼柳11地割	
75	朴島Ⅱ	平安	土師器、須恵器	北鬼柳11地割	
76	荻島	平安	土師器、木製品	北鬼柳10地割	
77	朴島	平安	土師器、須恵器	北鬼柳10地割	
78	三枚橋	平安	土師器、須恵器	北鬼柳10地割	
79	柳田	平安	土師器	北鬼柳６地割	
80	蒲谷地Ⅱ	縄文・奈良～平安	縄文土器・石器・土師器・須恵器	町分４地割	
81	下江釣子羽場	奈良・平安	土師器	下江釣子15地割	
82	江釣子城	中世	堀、複郭	上江釣子17地割	
82	妻川	平安	土師器・須恵器	下江釣子16地割	
84	江釣子宿	平安	土師器・須恵器	下江釣子16地割	
85	江釣子館	中世	堀、単郭	下江釣子16地割	
86	五条丸館	中世	堀跡、土塁	下江釣子16地割	
87	本宿羽場	奈良・平安	土師器	上江釣子19地割	
88	本宿	縄文・奈良	縄文土器、土師器	上江釣子19地割	
89	五条丸Ⅰ	奈良	土師器	上江釣子20地割	
90	五条丸古墳群	古墳・奈良	古墳、鉄刀、ガラス玉、土師器	上江釣子20地割	
91	五条丸Ⅱ	奈良	土師器、須恵器	上江釣子20地割	
91	上藤木	平安	土師器	北鬼柳14地割	
92	猫谷地古墳群	古墳・奈良	古墳、鉄刀、ガラス玉	上江釣子10地割	
93	八幡古墳群	古墳・奈良	古墳	北鬼柳21地割	

第3表　周辺遺跡一覧（3）

No	遺跡	時代	出土遺物	住所	備考
94	八幡	奈良・平安	土師器、竪穴住居跡	北鬼柳21地割	
95	高橋	平安	土師器、竪穴住居跡	北鬼柳19地割	
96	鳥海柳	奈良・平安	土師器、須恵器	北鬼柳22地割	
97	大曲西	平安	土師器、須恵器	大通り２丁目	
98	諏訪神社境内	平安	土師器	諏訪町１丁目	
99	和野	縄文	縄文土器（中期）	幸町	
100	方八丁館	平安		川岸、黒沢尻町字里分第14地割	
101	牡丹畑	縄文・平安	縄文土器（後・晩期）、須恵器	黒沢尻町字里分第12地割	
102	横町	縄文	縄文土器	黒沢尻町字立花	
103	九年橋	縄文	縄文土器（晩期）、石器、竪穴住居跡	九年橋３丁目	
104	黒沢尻柵（安倍館）	平安	竪穴住居跡、須恵器、堀	黒沢尻町字中川岸	
105	立花南	平安	土師器・須恵器	立花10地割	
106	立花館（館）	平安	土師器	黒沢尻町字立花	
107	館Ⅱ	縄文	縄文土器（中期）	黒沢尻町字立花	
108	館Ⅰ	縄文	縄文土器（中期）	黒沢尻町字立花	
109	館Ⅳ	縄文	縄文土器	黒沢尻町字立花	
110	立花小学校下	縄文	縄文土器、打製石斧	黒沢尻町字立花	
111	館Ⅴ	縄文	縄文土器、打製石器	黒沢尻町字立花	
112	小寺	縄文・平安	須恵器、フレーク	岩崎福田	
113	高田坂	縄文・平安	縄文土器、土師器、須恵器	岩崎高田	
114	小平	縄文・平安	縄文土器、土師器、須恵器、尖頭器	岩崎福田	
115	伍大坂Ⅱ	縄文・平安	石器、土師器	岩崎蒼前	
116	伍大坂Ⅰ	中世	石塚、土塁	岩崎蒼前	
117	欠ノ下台地	平安	方形周溝墓、布目瓦、須恵器、土師器、甕	岩崎欠ノ下	
118	六軒	縄文	縄文土器（晩期）、土師器	鬼柳町字上鬼柳六軒	
119	里小屋	平安	土師器、須恵器	岩崎里小屋	
120	柳上	平安	土器、土師器、須恵器	鬼柳町字上鬼柳六軒	
121	三十人町Ⅱ	平安	土師器	相去町字下三十人町	
122	三十人町Ⅰ	平安		相去町字三十人町	
123	上成沢	平安	土師器、須恵器	相去町字上成沢	
124	成沢	平安	土師器、砥石	相去町字成沢	
125	成沢Ⅱ	縄文・平安	縄文土器・土師器・須恵器	相去町成沢	
126	下成沢Ⅰ	平安	縄文土器（早・中・後・晩期） 土師器、須恵器、鉄滓	相去町字下成沢	
127	下成沢Ⅱ	旧石器	旧石器、石核、剥片、磨製石斧、石皿、ナイフ形石器	相去町字下成沢	
128	葛西壇	平安	竪穴住居跡、土師器	相去町字葛西壇	
129	高前田	平安	竪穴住居跡、土師器、須恵器	相去町字下高前田	
130	鹿島館（羽場館）	中世	堀、土塁、郭	鬼柳町字宿	
131	丸子館跡	縄文～弥生・平安・中世	縄文・弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器		
132	滝の沢地区	縄文	縄文土器（晩期）、竪穴住居跡	鬼柳町字上鬼柳14・17	
133	高前壇Ⅰ	平安	土器、土師器、須恵器	相去町字高前壇	
134	高前壇Ⅱ	平安	土器、土師器、須恵器	相去町字高前壇	
135	大堤	平安	土師器、須恵器	相去町大堤	
136	蒼前森	平安	土師器・須恵器	相去町蒼前森	
137	中筋	平安	土師器・須恵器	大堤南二丁目	
138	南館	縄文・近世	縄文土器（晩期）、墳墓（江戸）	相去町字門覚	
139	観音館	中世		鬼柳町字白鬚	
140	鬼柳西裏	平安		鬼柳町字町分	

第4表　周辺遺跡一覧（4）

No	遺跡	時代	出土遺物	住所	備考
141	西野	平安	土師器	相去町字西野	
142	陣ケ岡	中世		稲瀬町	
143	展勝地	平安		稲瀬町	
144	西谷	平安		稲瀬町字内門岡	
145	国見山廃寺(僧館・曽館)	平安	土師器、須恵器、三郭、堀	稲瀬町字内門岡	S44.6 県指定史跡
146	新館（六原新館）		中近世	土塁、堀	六原新館
147	天神社				
148	上大谷地	平安	竪穴住居跡、土師器、	相去町字上大谷地	
149	土井	平安		相去町	
150	相去城（鶴野館）	中世	堀、主郭、空堀、土塁、腰郭	相去町字山根	
151	平林Ⅰ	平安	土師器、須恵器	相去町字平林	
152	平林Ⅱ	平安		相去町字平林	
153	松の木	古代	土師器	相去町字松の木	
154	小糠沢	縄文	縄文土器（中期）、須恵器	相去町字小糠沢	
155	八木畑	平安	土師器、須恵器	相去町字八木畑	
156	男山	縄文	縄文土器	稲瀬町岩脇	
157	岩脇	縄文	縄文土器、石器	稲瀬町字岩脇	
158	上台	平安	竪穴住居跡、土師器	稲瀬町字上台第223地割	
159	斉羽場館	縄文・旧石器・中世	縄文土器（早期）、吹切沢、旧石器、石鏃、ナイフ、堀	稲瀬町字下門岡	
160		縄文	縄文土器、剥片	稲瀬字金附	
161	相田	縄文		稲瀬町字内門岡	
162	館	平安		相去町字山根	
163	梨の木	平安		相去町字山根梨の木	
164	岩の目館	中世	堀切	相去町字岩の目	
165	和田尻	縄文	縄文土器（晩期）	相去町字和田尻	
166	和田前	縄文	縄文土器（晩期）	相去町	
167		縄文	縄文土器	稲瀬字金附	
168	馬場崎	平安	土師器、須恵器	稲瀬町字馬場崎	
169	樺山	縄文	縄文土器（中期）	稲瀬町字大谷地	S54.7 県指定史跡
170	下門岡ひじり塚	中世	墳丘、周溝	稲瀬町字水越	S44.6 県指定史跡
171	ふくべ堤北	縄文			
172	赤石	奈良・平安	土師器、須恵器	六原赤石	
173	二ッ堤				
174	六原森合				
175	二ノ町	縄文・平安	縄文土器、土師器	六原二ノ町	
176	道所森館	近世	平場、土塁	六原道所森	
178	北田中	縄文	縄文土器、石器	西根改断	
179	前稗沢	奈良・平安	土師器、須恵器	北上市相去町	
180	北荒巻		縄文土器	西根荒巻北	
181	花沢		縄文土器	三ケ尻花沢	
182	瘤木		縄文土器	三ケ尻瘤木	
183	西浦		縄文土器	三ケ尻西浦	
184	後生平		縄文土器	三ケ尻後生平	
185	東浦洞穴			三ケ尻東浦	
186	沢野	縄文	縄文土器、石器	黒沢尻町字立花	
187	館Ⅲ	縄文	縄文土器（中期）	黒沢尻町字立花	

第Ⅲ章　野外調査と室内整理

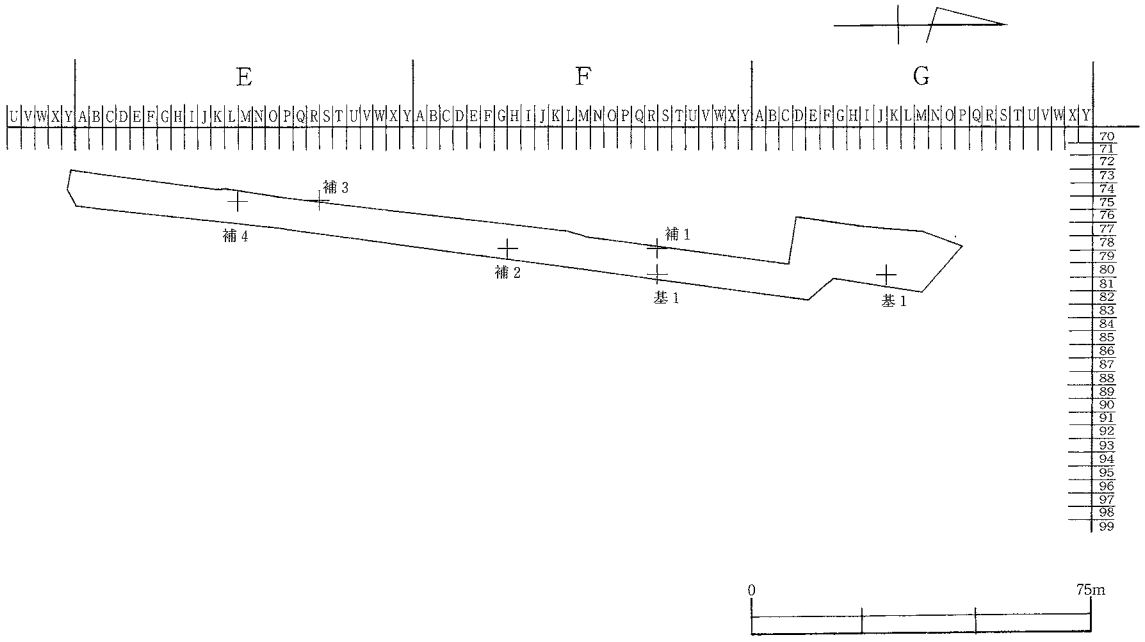
1．野外調査の方法

1）調査区設定

グリッド設定については、1987年度の北上市教育委員会によって設定されたものに従い行っている。設定の経緯については「滝ノ沢遺跡Ⅲ」（北上市教育委員会1991）に詳細に報告されているので参照願いたい。よって座標値は日本測地系の平面直角座標（第Ⅹ系）によるものである。

ここでは簡単なグリッド設定方法と本遺跡のグリッドについて記述する。今回の発掘調査におけるグリッド設定は滝ノ沢遺跡で使用されているものをそのまま本遺跡にも対応させ、現存する基準点から回して以下に示した基準杭及び補点を設置した。下記の表は本遺跡の調査を行った際に打設した基準点2点、補点4点の計6点の数値を表記しておく。なお今回の報告においては、先行する「滝ノ沢遺跡」で得られている成果と対比するため日本測地形の数値のまま報告を行っており、それに伴う緯度や経度も変換していない。

	X	Y	H	グリッド名
基準点1	-81845.000	23243.000	77.226	ＧＫ80南東隅
基準点2	-81895.000	23243.000	79.058	ＦＳ80南東隅
補点1	-81896.000	23237.000	78.721	ＦＳ78南東隅
補点2	-81929.000	23237.000	79.569	ＦＨ78南東隅
補点3	-81971.000	23228.000	79.400	ＥＳ75南東隅
補点4	-81989.000	23228.000	79.550	ＥＭ75南東隅



第7図　グリッド配置図

2）表土掘削・遺構検出・精査・遺物の取り上げ方

粗掘りは人力により任意に数カ所設定したトレンチを掘り下げ、堆積状況や遺物包含状況、遺構検出面の確認を行った後、ＧＦ77～81グリッドより南は重機を用いて掘り下げを行った。また、それより北は砕石による盛土のみ重機で掘削を行い、表土から遺構検出面まで人力により掘り下げた。

遺構検出は、表土を除去した面及び遺物包含層の層界を両刃鎌で行った。

遺構精査は検出された遺構を適宜２分法・４分法を使い分けて行い、必要な記録は野帳や図面等に記録した。また、遺構の精査ではサブトレンチを積極的に利用し、正確な遺構の把握に務めた。

各遺構からの出土遺物の取り上げ方は、「埋土」・「床面」に分けて行い、観察表中でも同様に表記している。

遺物包含層は、精査当初にＧＨ78から西壁に沿って北側に向かってトレンチを入れ、層位と遺構検出面及び遺物出土状況をそれぞれ確認した。遺物取り上げの際に、出土層位の確認を行うために78と79グリッドの境、ＧＭとＧＮの境とＧＫとＧＪとの境に約50cm幅のベルトを「キ」状に設定し、６ｍ四方で土層断面を網羅できるようにした。それぞれのグリッドにおいて各層を複回数掘り下げ、出土遺物を柱状に残しながら、その都度層位を確認し遺物の取り上げを行う。本来ならば地山までベルトを残しながら掘り下げ作業を進めたかったが、土捨て場などの関係から起こる作業の制約から複数回掘り下げ各層界を検出した後、ベルトを除去し再度次の層界までベルトを残すようにして掘り下げた。遺構検出は各層界において行い、包含層中において遺構が確認されればその都度精査を行っている。掘り下げは、表土であるⅠ層はスコップ、Ⅱ層以下は移植篦により行った。

3）実測

遺構の平面実測は、簡易遣り方測量と平板測量で作成している。縮尺は竪穴住居や焼土遺構、土坑、柱穴類は原則として１/20、埋設土器や配石遺構は１/10、溝や調査区などは１/40で作成し、その他は必要に応じて任意の縮尺を用いた。

4）写真撮影

写真撮影は、35mm判カメラ２台（モノクロ・リバーサル）と６×９cm判カメラ１台（モノクロ）を使用し、遺構や遺物の検出状況や出土状況に応じて行っている。

5）広報活動

埋蔵文化財に対する啓蒙普及活動の一環として、調査成果を公開する現地説明会を平成14年11月20日に開催し、約30名が参加している。

２．調査の経過

９月２日：器材搬入し現場設営開始。

９月３日：ＧＦ77グリッドより以南の調査区東壁側を試掘開始。

９月４日：ＥＮ77グリッドから北に向けて重機により掘削開始。

９月19日：調査区内の重機による掘削を終了。調査区北端（ＧＩ～Ｏグリッド）の包含層精査開始。調査区西側にトレンチを入れ遺物出土層位を確認。

９月24日：基準点設置業務完了。

10月15日：調査区南端・中央部の柱穴完掘状況の写真撮影が終了し、ＦＩ79グリッドより南側の調査区は精査終了。

10月８日：ＦＲ78グリッド付近で陥し穴を検出。
10月30日：１号溝精査中に１号竪穴住居を確認。
11月６日：Ⅱ～Ⅲ層掘り下げ中に埋設土器や配石遺構を検出。
11月18日：Ⅲ層上面にて４・５号竪穴住居を確認。
11月20日：午後現地公開を行う。（約30人参加）
11月22日：調査区北側において地山までの掘り下げを終了する。焼土や土坑、柱穴等を複数確認し、精査及び図面作成開始。
11月25日：委託者・生涯学習文化課・当センターによる終了確認を行う。
12月５日：調査区北側の包含層範囲の写真撮影を終了。
12月６日：調査区北側の平面図作成業務が終了。午後現場撤収。

３．室内整理の方法

１）作業手順

取り上げた遺物は全てセンターに持ち帰り、水洗、注記、重量計測と平行して遺物の接合復元し、石膏入れ作業を行った。選別後に本報告書掲載遺物の登録、実測、遺物写真撮影、遺構・遺物のトレースを順に行い、図版及び観察表を作成した。また、先述した作業と平行して原稿執筆、各鑑定分析を行い報告書に掲載している。

２）遺構

遺構図版はスケール・縮尺率を付しており、一部例外があるものの以下の縮尺を原則としている。

竪穴住居方位は１/40、配石遺構や埋設土器は１/20、焼土や土坑は１/40、溝は１/60である。第Ｘ系の北を示している。方位がないものはグリッドでその方角を示している。

遺構配置図は、調査区が南北に細長いことから、遺構が検出できた範囲に限定し掲載している。その結果、遺構配置図が掲載されていない範囲については、遺構検出面まで攪乱を受け遺構が存在していないことを意味している。その遺構配置図は１/40で作成し、１/80で報告した。

３）遺物掲載基準・縮尺

土器実測は原則として立体土器を中心とし、復元できないものは口縁部を中心に、体部は文様を含むもの、底部は底径が出せるものに限って行っている。石器は定形石器を中心に行い点数が多いため類型化し、それらの中から完形品を中心に掲載している。また、土製品及び石製品は全て図化している。原則としてはこれが全てではなく、遺構内外共にできる限り図化するように務めた。ただし、このような基準から土器と石器の掲載比率が一部悪くなってしまった箇所ができてしまったことはお詫び申し上げる。

掲載遺物の縮尺率は以下に記す。土器は１/３、土製品は１/２とした。剥片石器は８cm以下は４/５、それ以上は２/３、石核・礫石器は１/３を基本としている。また大きさに合わせて適宜縮尺を変えており、各図版ごとに縮尺を示している。

写真図版の縮尺は基本的に遺物図版と同じものを使用するように務めているが、土器と礫石器は１/３、剥片石器は２/３を使用している。

4．凡例

・遺構名称については、遺構配置や観察表中にのみ以下の略号を付している。

竪穴住居：ＳＩ　　埋設土器：ＳＲ　　配石遺構：ＳＱ　　焼土：ＳＸ　　土坑：ＳＫ　　溝：ＳＤ

ただし、遺構配置図には柱穴は番号のみ付している。また本報告用に新番号に振り直し報告している。その際には新番号脇に旧番号を付しているが、整理時には旧番号を用いており、室内整理における遺物の注記などの変更を行っていない。

・観察表中に用いている「調査区一括」とは、調査区北端の包含層中のＧＩ～Ｏグリッドを表した言葉であり、発掘調査及び整理作業時に帰属不明となった資料である。

・基本層序に伴うローマ数字、遺構に伴う記載はアラビア数字を使用している。

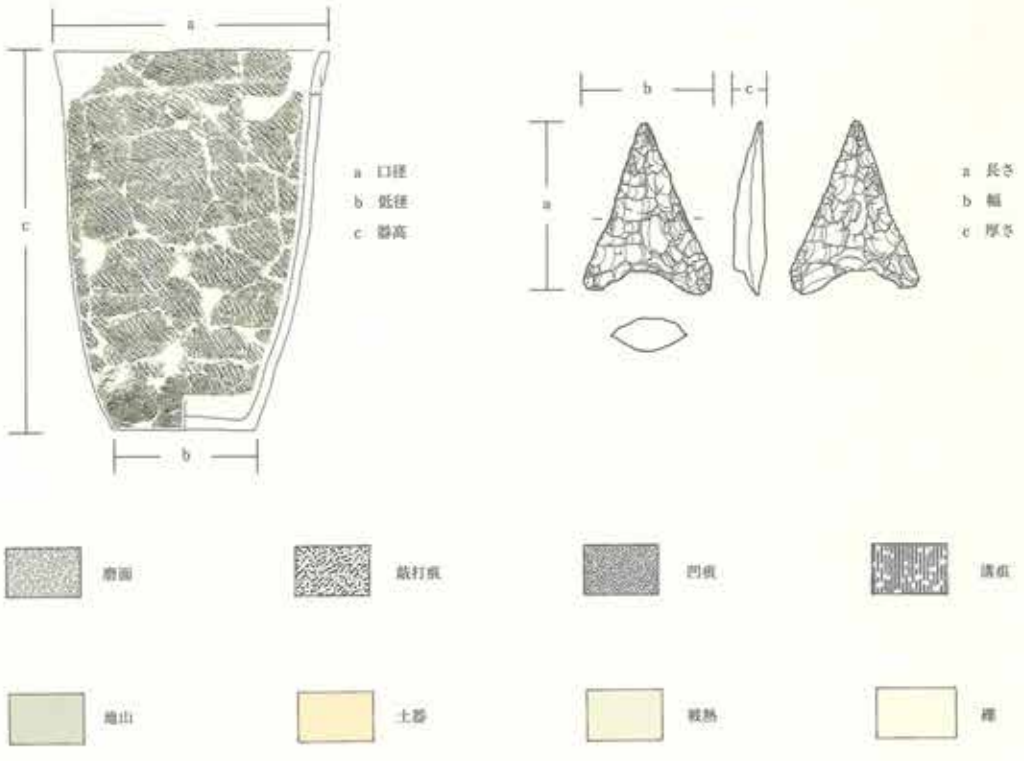
・観察表中に用いた（○）は欠損による最大値を、〔○〕は推定値を表している。すべて（cm）である。

・石器石材を以下のようにに略す。

頁岩・・Sh、凝灰岩・・Tu、黒曜石・・Ob、赤色頁岩・・Rsh、泥岩・・Sil、玉髄・・Cha、珪質頁岩・・Ssh、瑪瑙・・Aga、デイサイト・・Dac、蛇紋岩・・Ser、礫岩・・Gra、安山岩・・An、砂岩・・San、滑石・・Ta、ホルンフェルス・・Ho、粘板岩・・Sla、石英・・Qua、角礫岩・・Bre、凝灰角礫岩・・T.Bre、花崗岩・・Gra、珪化木・・Ke、石英安山岩・・Qu.an、ひん岩・・Por、斑糲岩・・Gab、細粒斑糲岩・・Grb、松脂石・・Pit、閃緑岩・・Dio、細粒閃緑岩・・dio、花崗岩緑岩・・G.dio、花崗閃緑岩・・Grano、花崗斑岩・・Gra.po、軽石・・Pum、熔岩・・Lav、流紋岩・・Rhy、石英ひん岩・・Qu.por

・遺物番号の下に掲載しているローマ数字は層位、アルファベットは上記の石材の略号を表している。

また、本報告書では以下の凡例を使用している。



第８図　凡例

第Ⅳ章　土器・石器分類

今回の報告では、遺構出土の遺物と包含層中の出土遺物はほぼ同時期であることから、それぞれから出土した土器と石器を同一分類基準のもとに扱う。

1．土器分類

土器の器形は深鉢、浅鉢、ミニチュア土器に大別し、各器形上の特徴からのように分類基準を設定している。

深鉢：Ⅰ類

A類：頸部が「く」の字状にくびれ、口縁は外反ないし外傾し、胴部は膨らむもの。胴部径が頸部径と口縁部径より大きいもの。

1．胴部中央より上半部に胴部最大径があるもの。

2．胴部中央より下半部に胴部最大径があるもの。

B類：頸部が「く」の字状にくびれ、口縁は外反ないし外傾し、胴部は膨らむもの。胴部径が頸部径より大きく口縁部径より小さいもの。

1．胴部中央より上半部に胴部最大径があるもの。

2．胴部中央より下半部に胴部最大径があるもの。

C類：胴部が球状に膨らみ、口縁部は外傾、胴下部は円筒・円錐台状を呈する。頸・胴部にそれぞれくびれをもつ。

D類：胴部上位に膨らみをもち、頸部で緩やかにくびれ口縁部が外傾するもの。

E類：胴部が膨らみ最大径をもち、口縁部がやや内湾ないし内傾してすぼまるもの。

F類：胴部が筒状もしくは開き気味、頸部で「く」の字状ないし緩やかにくびれ、口縁部は外傾するもの。所謂「朝顔型」も含む。

G類：底部から口縁にかけて外反ないし外傾するもの。ほぼ筒状を呈する。

1．口縁部まで外反ないし外傾するもの。

2．口縁部のみ小さく外反するもの。

浅鉢：Ⅱ類

A類：底部から内湾気味に立ち上がり、胴部から口縁まで直線的に立ち上がる。ボウル状の形状を呈する。

B類：外傾して立ち上がる。口縁部まで残存するものが存在していないが、底部でA類とは区分できる。滝ノ沢遺跡（北上市教育委員会1983.1991）を参考にすると鉢状を呈するものの底部であると思われる。

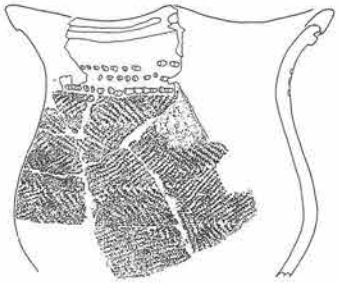
ミニチュア土器：Ⅲ類

小形の土器の総称である。

Ⅰ類

A1

B1

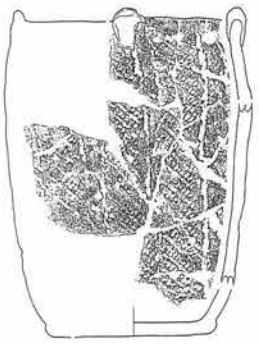


B2

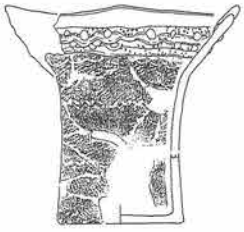
A2

C

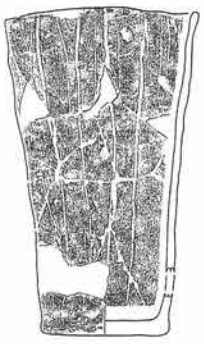
D



E



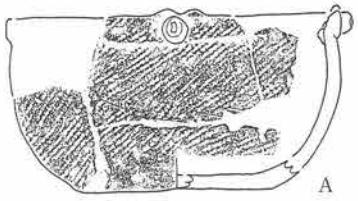
F



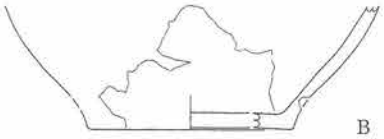
G1

G2

Ⅱ類



A



B

第9図　土器分類図

2．石器分類

本遺跡からは石鏃・尖頭器・石篦・石錐・石匙・スクレイパー類・不定形石器・楔形石器・石核・打製石斧・磨製石斧・石錘・礫石器などが出土している。それぞれ各石器について下記のような分類基準を設定している。

石鏃

石鏃は「扁平で左右対称で、先端部を形成した5cm未満のもの」を対象としている。平面形状及び基部形状で下記のように分類でき、さらにその中で細分している。ただし例外として5cm以上でも、尖頭器のような形状を持たないものは未製品の可能性があることから石鏃として扱っている。

Ⅰ類：有茎鏃。有茎であり、尖頭部と基部との境が明瞭なものである。

1．基部が尖頭部より短いもの。

2．基部が尖頭部より長いもの。

Ⅱ類：尖基鏃。平面形状が柳葉形を呈し、有茎であるが尖頭部と基部の境が不明瞭である。長さが5cm未満のものとした。

Ⅲ類：平基無茎鏃。基部側が平坦なもので、尖頭部と基部の境が存在しないもの。その平坦部の調整の有無で細分できる。平面形状が三角形や二等辺三角形を呈する。

1．二次加工が施されているもの。

2．二次加工が施されておらず、素材の縁辺がそのまま残されているもの。

Ⅳ類：凹基無茎鏃。基部が調整加工により抉りが入り、形成されているもの。長幅比とその抉りの深さで細分できる。（抉りの深さは、抉り／幅で算出している。27頁参照。）

1．長さが幅の1.8以上で、抉り／幅が1／3以上のもの。

2．長さが幅の1.8以上で、抉り／幅が1／3以下で、抉り部分が直線的なもの。

3．長さが幅の1.8以上で、抉り／幅が1／3以下で、抉り部分が三角形ないし丸味帯びるもの。

4．長さが幅の1.8以下で、抉り／幅が1／3以上のもの。

5．長さが幅の1.8以下で、抉り／幅が1／3以下で、抉り部分が直線的なもの。

6．長さが幅の1.8以下で、抉り／幅が1／3以下で、抉り部分が三角形ないし丸味帯びるもの。

Ⅴ類：円基鏃。二次加工により基部側が円形を呈するもの。

Ⅵ類：未製品ないし欠損品と捉えれるもの。剥離が粗雑なものであるが、その形状は三角形ないしティアドロップ形状を呈する。

尖頭器

尖頭器は、「5cm以上のものを対象とし、基本的には扁平縦長で一方の先端に鋭い先頭部をもつ石器」である。平面形は柳葉形かそれに近い形態を呈する。今回は石鏃のⅡ類は形状から判断すると本石器に含まれるものがあるが、大きさをその基準として区分しただけである。

篦状石器

篦状石器は、「器中軸線で左右対称となり断面形状がカマボコ・菱形・台形・凸レンズ状で、平面形が撥形・長方形・小判形・長楕円形を呈し、一端ないし両端に刃部が形成された石器」を対象としている。平面形状などで分類を行っている。刃角は最小値～最大値を計測している。

ここでは平面形状を以下のように扱う。

撥形～細い基部から刃部へ幅が広がり、基本的には刃部付近に最大幅があるもの。

長方形～刃部と基部の幅に差がなく、両側縁がほぼ平行なもの。刃部が直線ないし弱い外湾を呈する。

小判形～両端が外湾し両側縁がほぼ平行し、最大幅が中央付近にあるもの。長／幅が2.6未満のもの。刃部は強い外湾を呈する。

長楕円形～両端が丸味が強く両側縁はほぼ平行で、長／幅が2.6以上のもの。

Ⅰ類：平面形が撥形を呈するもの。刃部の作出方法により細分している。

1．刃部は両面加工により形成されている。

2．刃部は片面加工により形成されている。

Ⅱ類：平面形が長方形を呈するもの。

Ⅲ類：平面形が小判形を呈するもの。断面形状により細分している。

1．二次加工により両面体が形成されており、断面形状が凸レンズ形を呈している。

2．二次加工により両面体を形成されているが、基本的には素材腹面から剥離を行っているため断面形状は蒲鉾形を呈している。

Ⅳ類：平面形が長楕円形を呈する。刃部及びその周辺に細かい二次加工が施されている。二次加工及び断面形状により細分している。

1．断面形状が凸レンズ状を呈する。先端及びその周辺に二次加工が施されている。

2．器面全体が粗雑な剥離により形成され断面形状が菱形を呈する。刃部付近にのみ細かな二次加工が施されている。

Ⅴ類：未製品ないし欠損品と捉えれるもの。粗雑な剥離により両面体を形成し、断面は三角形及び台形、平面形はU字ないしV字形を呈する。両端に刃部が形成されていないことから石核やスクレイパー類の可能性もあるが粗雑な加工により形成されていることから、製作段階による廃棄と考えたため本類で扱うこととした。

トランシェ様石器

素材剥片の縁辺を刃部を設け基部側に二次加工を施し、平面形が台形状を呈している石器である。

石匙

石匙は「両側辺から抉りを入れつまみ部を一端に作出し、二次加工により片側ないし両側に刃部が形成された石器」を対象としている。そのつまみ部の中軸線と刃部の交わる角度によって分類を行っている。刃角は最小値～最大値を計測している。

Ⅰ類：縦型＝中軸線と最も長い刃部が平行する縦長のもの。

1．つまみ部及び刃部は両面に二次加工が施され、刃部の2側縁が外側に膨らみ左右対称のもの。

2．刃部は両面に二次加工が施され、刃部の2側縁が直線的で柳葉形を呈し急斜度の先端部を作出しているもの。

3．刃部は片面より二次加工が施され、1側縁に作出されているもの。平面形は素材剥片の形状を大きく残しているため定形化されておらず、断面形は三角形や台形を呈し、4類より厚みがある。

4．刃部は片面より二次加工が施され、2側縁に作出されているもの。刃部はやや外側に膨らむか直線的である。平面形が定形化し、断面形は三角形か台形状を呈し、3類に比べ厚みがない。

5．刃部は片面より二次加工が施され、両側縁の刃部と直交する末端部に刃部が形成され、3側縁に刃部が作出されているもの。平面形状は台形状を呈する。

6．刃部は両面より二次加工が施され、平面形が不定形なもの。

Ⅱ類：横型＝中軸線と最も長い刃部がほぼ直交する横長のもの。

1．刃部は両面に二次加工が施されたもの。

2．刃部は片面より二次加工が施されたもの。

Ⅲ類：斜型＝中軸線と最も長い刃部が交差するもの。その交差角度で大きく2つに分類できる。

1．交差角度が20～35度の範囲内に含まれるもの。

2．交差角度が45～65度の範囲内に含まれるもの。

Ⅳ類：未製品ないし欠損品と捉えられるもの。

石錐

両側縁から二次加工を施し、両面加工された錐部（先頭状の端部）を有する石器である。断面形状が三角形や菱形を呈し、つまみ部と錐部によって細分される。

Ⅰ類：つまみ部の縁辺と錐部に両面加工が施され、特に錐部の断面は菱形を呈する。つまみ部と錐部との比が同じかつまみ部が長い。

Ⅱ類：棒状の錐部のみでつまみ部が存在しないもの。断面は菱形を呈する。ここで該当する石器は1点のみである。それはつまみ部が破損しているものの錐部がつまみ部に向い幅が広がらず、錐部全体に二次加工が施されていることから、他類とは区分できるものと判断したため本類に含めている。

Ⅲ類：二次加工が施されていないつまみ部を有し、錐部の断面形状を三角形を呈する。つまみ部と錐部の比は錐部が長い。

Ⅳ類：剥片の側縁に二次加工を施して錐部のみが形成され、錐部の断面は菱形を呈する。

スクレイパー類

今回ここでスクレイパー類として扱うものは、二次加工が施されている石器の中から1側縁の半分以上に二次加工により刃部が形成されている石器のみを抽出し、それらの中から下記のような基準により分類した。それらの中には所謂スクレイパー・掻器・削器を一括して扱い分類作業を行った。分類作業は大きくは剥片への刃部形成箇所で行い、作出方法でさらに細分している。刃角は最小値～最大値を計測している。

Ⅰ類：二次加工により１側縁に刃部が形成されている石器。

１．素材腹面から背面にかけて二次加工が施され、背面に刃部が形成されているもの。

２．素材背面から腹面にかけて二次加工が施され、腹面に刃部が形成されているもの。

３．両面に刃部が形成されているもの。

Ⅱ類：二次加工により両側縁に刃部が形成されている石器。

１．素材腹面から背面にかけて二次加工が施され、背面に刃部が形成されているもの。

２．素材背面から腹面にかけて二次加工が施され、腹面に刃部が形成されているもの。

３．両面に刃部が形成されているもの。

４．１・２類の加工により刃部が形成されているもの。

Ⅲ類：二次加工により剥片末端部に刃部が形成されている石器。

１．素材腹面から背面にかけて二次加工が施され、背面に刃部が形成されているもの。

２．素材背面から腹面にかけて二次加工が施され、腹面に刃部が形成されているもの。

３．両面に刃部が形成されているもの。

４．１・２類の加工により刃部が形成されているもの。

Ⅳ類：二次加工により剥片の一端にのみ刃部が形成されている石器。

剥片の一端に形成された刃部は急角度である。

Ⅴ類：二次加工により打面及び打面以外の周縁に刃部が形成されている石器。平面形状は円形ないし楕円形を呈する。

１．素材腹面から背面にかけて二次加工が施され、背面に刃部が形成されているもの。

２．素材背面から腹面にかけて二次加工が施され、腹面に刃部が形成されているもの。

３．両面に刃部が形成されているもの。

Ⅵ類：二次加工により１側縁及び剥片末端部に刃部が形成されている石器。「Ｊ」字状を呈する。

１．素材腹面から背面にかけて二次加工が施され、背面に刃部が形成されているもの。

２．素材背面から腹面にかけて二次加工が施され、腹面に刃部が形成されているもの。

３．１・２類の加工により刃部が形成されているもの。

４．刃部が両面に形成されているもの。

Ⅶ類：二次加工により２側縁及び剥片末端部に刃部が形成されている石器。「Ｕ」字状を呈する。

１．素材腹面から背面にかけて二次加工が施され、背面に刃部が形成されているもの。

２．素材背面から腹面にかけて二次加工が施され、腹面に刃部が形成されているもの。

３．１・２類の加工により刃部が形成されているもの。

４．両面に刃部が形成されているもの。

Ⅷ類：二次加工により剥片の両端に刃部が形成された石器。

１．素材腹面から背面にかけて二次加工が施され、背面に刃部が形成されているもの。

２．素材背面から腹面にかけて二次加工が施され、腹面に刃部が形成されているもの。

Ⅸ類：欠損品。

不定形石器

不定形石器は縁辺に二次加工を有するものでスクレイパー類の規定から外れ、二次加工が縁辺の一部もしくは半分以下に形成されているものと微細剥離が認められるものをここで扱う。

Ⅰ類：剥片の１縁辺に連続した片面方向から二次加工による剥離を有する石器。スクレイパーの分類に該当しないものはここに含まれる。

１．連続もしくは部分的に形成されているもの。

２．複数カ所に形成されているもの。

Ⅱ類：複数の縁辺に二次加工による剥離を有する石器。

Ⅲ類：１縁辺に両面から二次加工による剥離を有する石器。

Ⅳ類：剥片の縁辺に抉り（ノッチ）を有する石器。

１．片面に二次加工が施されているもの。

２．両面に二次加工が施されているもの。

Ⅴ類：両面に刃部とは異なる剥離が施され、両面体を形成している石器。スクレイパーのⅠ・Ⅱ－３類に含まれないものである。

１．細かい剥離面が素材腹面に形成されているもの。

２．大きな剥離面が素材腹面に形成されているもの。

Ⅵ類：微細剥離痕が認められる石器である。

異形石器

異形石器は二次加工により形成された他の分類に含まれない形状を呈する石器である。釣針状石器や石錘を模倣したもの、２つ以上の突起を有するもの等がある。

楔形石器

楔形石器は２つの側縁から互いに向き合う方向の両端剥離が表裏面に生じている石器である。

Ⅰ類：上下の一対の両極剥離痕を有するもの。

Ⅱ類：上下左右の二対の両極剥離痕を有するもの。

石核

剥片剥離作業が認められた石器である。

打製石斧

「敲打・剥離によって仕上げられた石斧」である。素材・平面形態・断面形態・二次加工で分類を行っている。

Ⅰ類：扁平な円礫を使用し両面に自然面を残しているもの。

Ⅱ類：剥片を素材として使用し片側に自然面を残しているもの。

Ⅲ類：剥片を素材として使用し二次加工により自然面を残していないもの。

磨製石斧

「敲打・剥離により整形され、研磨が施され仕上げられた石斧」である。形状と研磨で分類を行っている。

Ⅰ類：両側縁及び頭部が研磨され、正裏両面と側面の間に稜を持ち、断面形状が隅丸長方形を呈する。所謂「定格式磨製石斧」と呼ばれるものである。

Ⅱ類：正裏両面と側面の間に稜を持たず、断面形状が楕円形を呈する。所謂「乳棒状磨製石斧」と呼ばれるものである。

Ⅲ類：石材をそのまま利用し、一部に研磨を施し刃部を形成したものである。

石錘

石錘は、「扁平な礫を素材とし、１箇所から４箇所の抉りを有するもの」を対象としている。その抉りの数とその部位、平面形態によって分類している。平面形態は抉り部を中心とした長幅関係で、縦長と横長を決めている。

Ⅰ類：抉り部が１つのみのもの。ａ縦長・ｂ横長。

Ⅱ類：抉り部が２つで対のあるもの。ａ縦長・ｂ横長。

Ⅲ類：抉り部が３つ以上存在するもの。ａ縦長・ｂ横長。

Ⅳ類：抉り部の他に凹痕等の痕跡を有するもの。ａ縦長・ｂ横長 。

Ⅴ類：欠損品。

礫石器

全てを礫石器と総称し、使用痕跡による器種認定を下記のような分類のもとに行っている。各石器を使用痕跡部位においてそれぞれ細分していくことは可能であったが、複合石器においてそれらの組み合わせを行うことで本来の姿を確認できなくなると考えられたことから、ここでは行っていない。使用痕跡は下記の用語を使用している。

敲打痕～先端ないし側面に形成された「あばた」状の痕跡。

磨痕～正裏面や側面に形成された摩耗の痕跡。

凹痕～礫の平坦な面に形成された敲打状の痕跡。

溝痕～礫面に形成された溝状の痕跡。

Ⅰ類：敲石のみが確認され端部や側面に敲打痕を有する石器である。複数の敲打痕を持つものもある。

Ⅱ類：磨石のみが確認され正裏面ないし側面において磨面を有する石器である。複数面に持つものもある。

Ⅲ類：凹石のみが確認され正裏面に凹痕を有する石器である。

Ⅳ類：敲石（Ⅰ類）と磨石（Ⅱ類）の痕跡を確認できる石器である

Ⅴ類：敲石（Ⅰ類）と凹石（Ⅲ類）の痕跡を確認できる石器である。

Ⅵ類：磨石（Ⅱ類）と凹石（Ⅲ類）の痕跡を確認できる石器である。

Ⅶ類：敲打痕（Ⅰ類）と磨面（Ⅱ類）と凹痕（Ⅲ類）の痕跡を確認できる石器である。

Ⅷ類：砥石（有溝石）溝状の痕跡を有する石器である。

Ⅸ類：敲打痕（Ⅰ類）と溝状（Ⅷ類）の痕跡を確認できる石器である。

Ⅹ類：凹痕（Ⅲ類）と溝状（Ⅷ類）の痕跡を確認できる石器である。

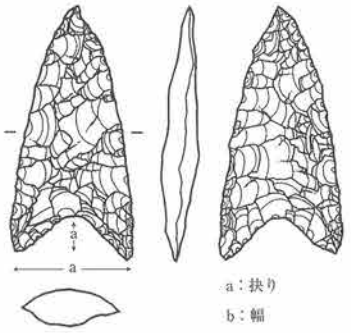
ＸⅠ類：敲打痕（Ⅰ類）と溝状（Ⅷ類）と磨面（Ⅱ類）の痕跡を確認できる石器である。
ＸⅡ類：敲打痕（Ⅰ類）と磨面（Ⅱ類）と凹痕（Ⅲ類）と溝状（Ⅷ類）の痕跡を確認できる石器である。
ＸⅢ類：所謂「特殊磨石」である。礫の側縁部に平坦な磨面を持つものである。
1．擦り面の両側に剥離痕が存在するもの。
a．1側縁に存在するもの。
b．2側縁以上に存在するもの。
2．擦り面のみで形成されているもの。
a．1側縁に存在するもの。
b．2側縁以上に存在するもの。
3．擦り面以外に敲打痕等を有するもの。
ＸⅣ類：細長い円礫の先端近くで敲打ないし磨面で形成され、その先端が角錐状を呈する石器である。
ＸⅤ類：「礫器」で、二次加工により礫の縁辺に刃部が作出されたものである。
1．片面より剥離が行われ刃部が形成されたもの。
2．両側より剥離が行われ刃部が形成されたもの。
ＸⅥ類：「台石」で、敲打痕による凹みを有するものである。この中には多孔のもの「蜂の巣」状も含む。
ＸⅦ類：「石皿」で、基本的に磨面で構成されているもの。
ＸⅧ類：有孔石である。
1．孔が一つのもの。
2．孔を複数有するもの。
ＸⅨ類：原石。

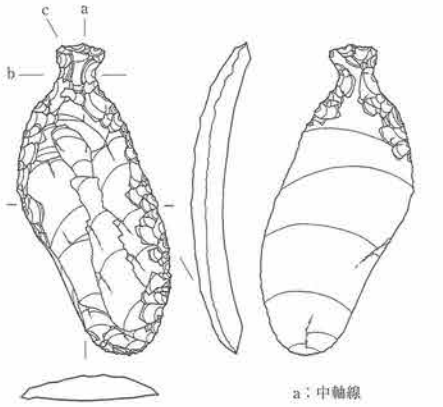
剥片

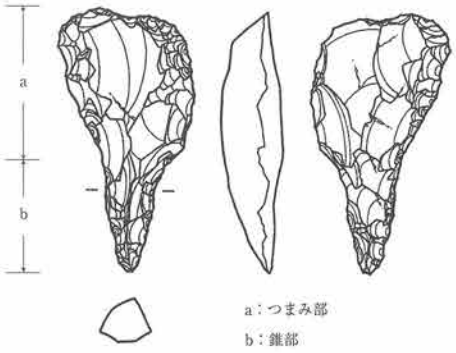
上記の分類項目から外れた全ての剥片石器を対象としている。大きさにより剥片やチップと分けて報告すべきであるが、ここでは全てを総称して剥片とした。なお今回の報告では点数が多く、剥片の分析から剥片剥離技術を把握したかったが、時間的な制約から行っていない。ここでは石材のみを報告とする。

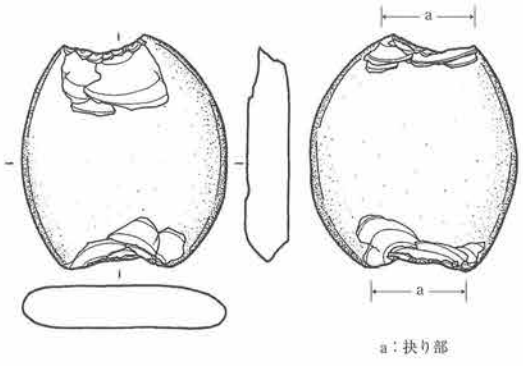
母岩別資料

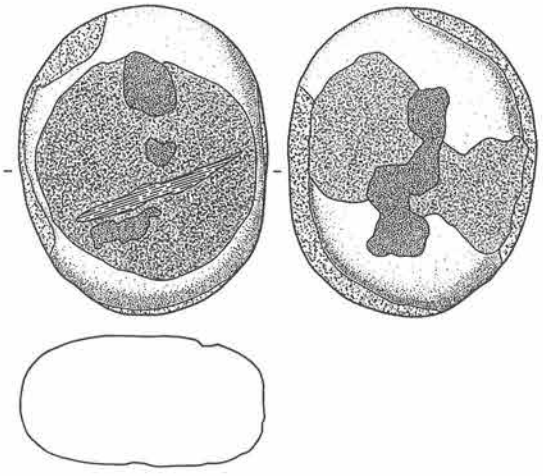
本来ならば同一母岩を抽出し、母岩数や剥片剥離技術の把握を試みたかったが時間的制約から、母岩分類作業までは行えなかった。


a
a
a：抉り
b：幅


c
a
b
a：中軸線
b：つまみ部
c：中軸線との交差角


a
b
a：つまみ部
b：錐部


a
a
a：抉り部

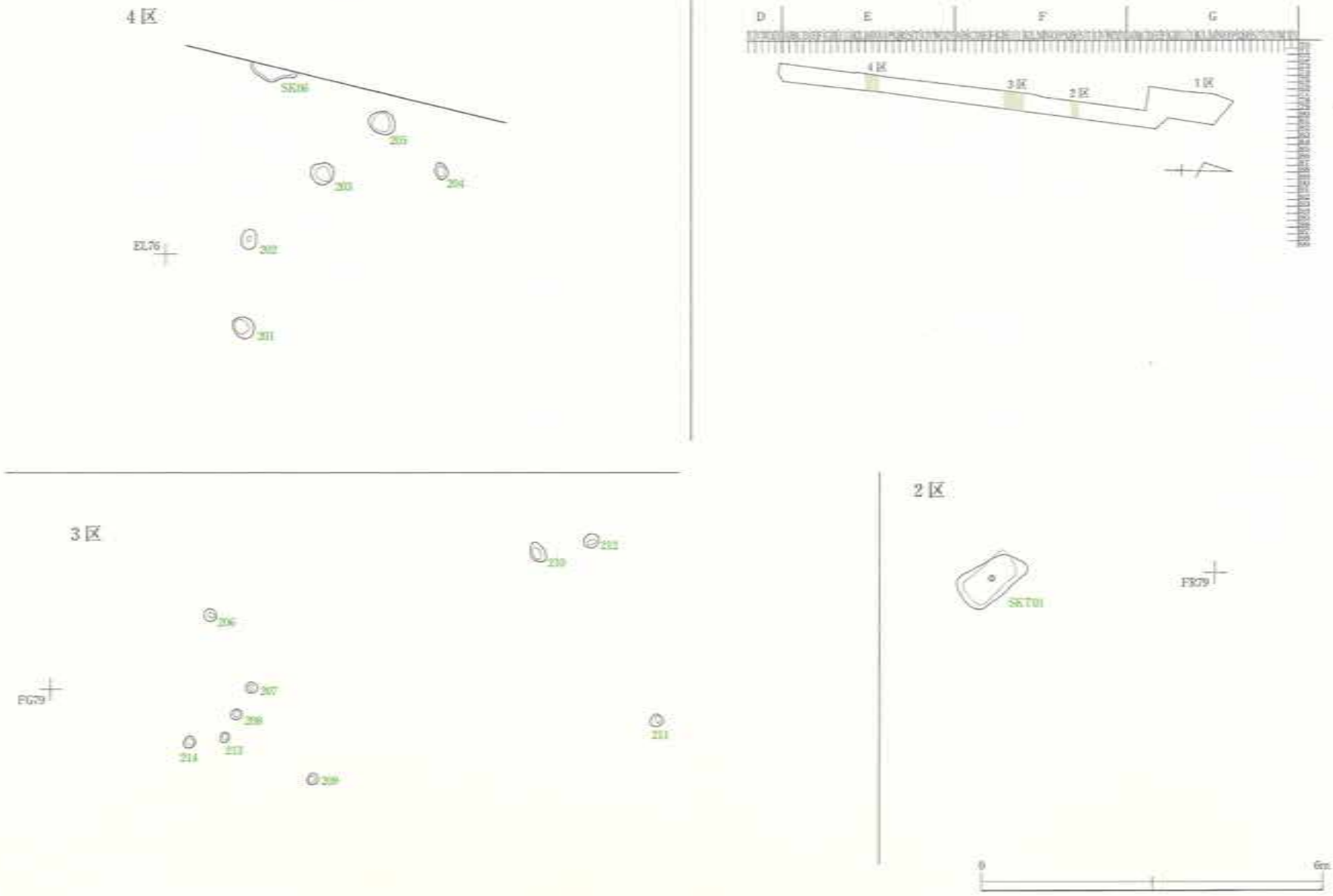


磨面
敲打面
凹痕
溝痕

第10図　石器凡例

D
E
F
G
1区
GL78
GL81
SB01
SB02
SB03
SB04
SB05
SB06
SD01
SD02
SD03
SD04
SD05
SK01
SK02
SK03
SQ01
SQ02
SQ03
SQ04
SQ05
SQ06
SX01
SX02
SX03
SX04
SX05
SB04.SX
SB05.SX
SB05.P1
Ⅱ～Ⅴ層中検出遺構：茶色、遺構番号：青字
Ⅶ層上面検出遺構：黒色、遺構番号：緑字
0
3
6m

第11図　遺構配置図（1）


4区
SK06
205
203
204
EL76
202
201
D
E
F
G
4区
3区
2区
1区
3区
210
212
206
FG79
207
208
214
213
209
211
2区
SK701
FR79
0
6m

第12図　遺構配置図（2）

第Ⅴ章　検出された遺構と遺物

1．概要

発掘調査は国道４号沿拡幅工事に伴うもので、調査区は約200mと南北に細長く国道に平行して設定されている。調査区は国道４号線の西側にのみ存在する。遺跡範囲から見ていくと今回の調査区はほぼ遺跡中央部にあたり、東西を分断するような場所に位置する。

今回の調査ではＧＦグリッド以南においては遺構検出面が削平されており、遺構及び遺物等が確認されている範囲が部分的であった。そのため遺構が集中して確認できた範囲を北から順に１～４区と便宜的に付し報告している。遺構が検出されたのは１区（ＧＩ～Ｏ・78～82グリッド付近）、２区（ＦＲ79グリッド）、３区（ＦＩ78・79グリッド付近）、４区（ＥM75・76グリッド）で、出土遺物が確認できたのは１区と４区である。

検出された遺構は、１区では竪穴住居５棟、埋設土器・配石遺構は各６基、焼土遺構・土坑は５基ずつ、柱穴199個、２区では陥し穴１基、３区では柱穴９個、４区では土坑１基、柱穴５個である。

出土遺物の大半は１区からで、僅かに２～４区からも出土している。１区は遺構からは土器（第５表）3,096点、51.946kｇ、石器（第８・９表）811点が出土している。遺構外からは土器（第６・７表）42,687点、554.61kｇ、石器（第10・11表）5,452点が出土している。土器と石器共にⅢ層を中心に出土している。その他の地区の遺構外からは土器は見られず、不定形石器や打製石斧、石錘等のみの出土である。

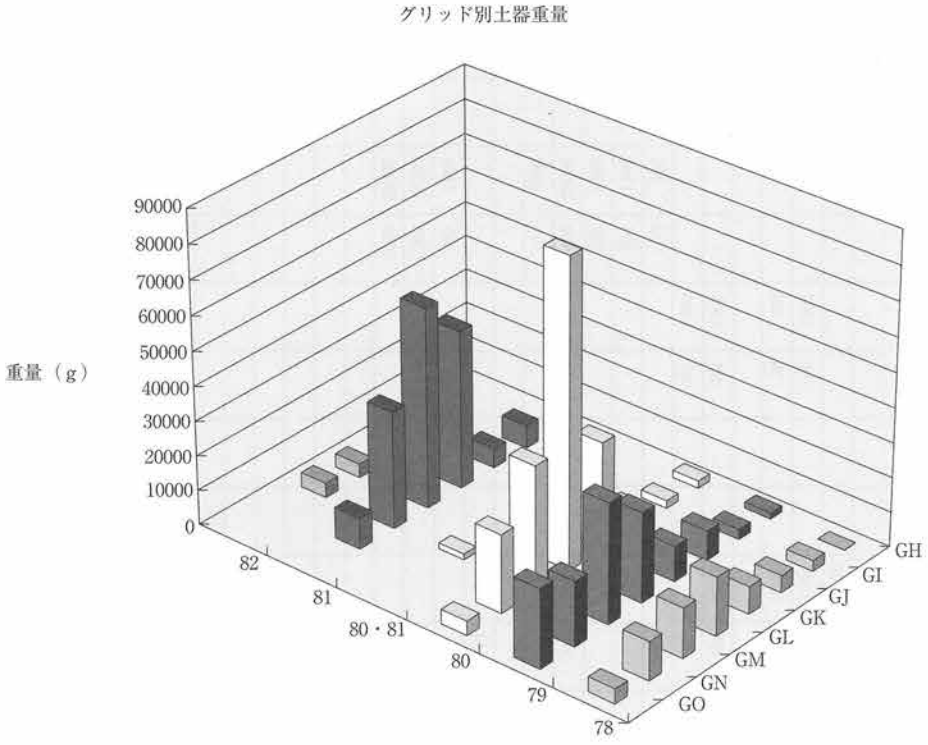
第５表　遺構内出土土器一覧

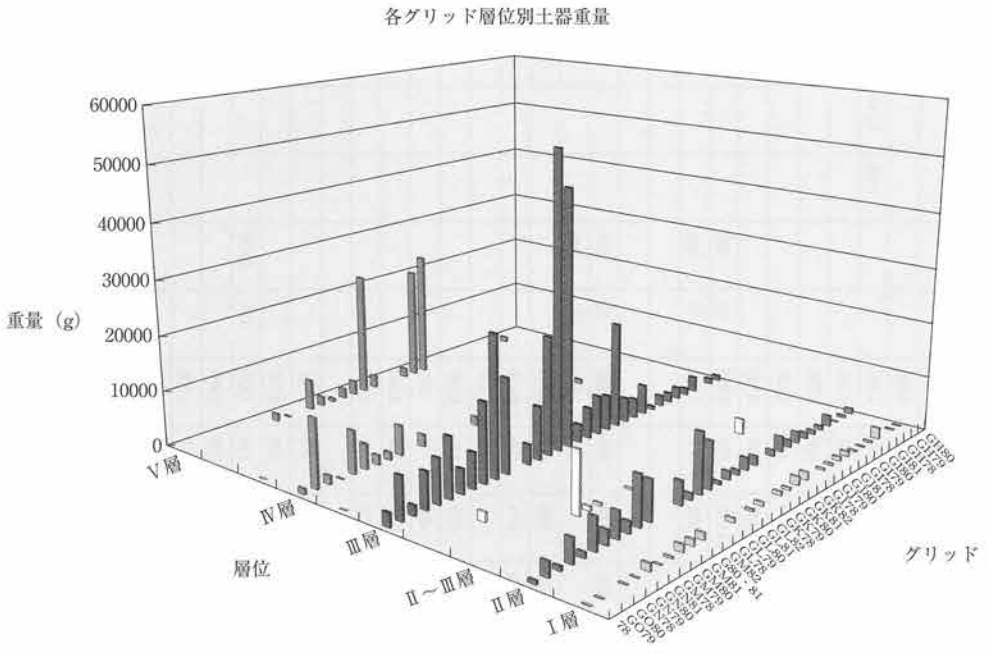
遺構名	点数	重量	遺構名	点数	重量
ＳＩ01	586	8,428	ＳＲ04	7	700
ＳＩ02	96	1,470	ＳＲ05	1	810
ＳＩ03	395	5,110	ＳＲ06	1	1,095
ＳＩ04	898	13,210	Ｐ58	4	150
ＳＩ05	181	2,590	Ｐ60	56	1,450
ＳＱ03	18	725	Ｐ64	10	120
ＳＱ04	63	755	Ｐ72	1	10
ＳＱ05	43	730	Ｐ81	23	300
ＳＱ06	33	460	Ｐ96	2	70
ＳＫ01	69	870	Ｐ98	6	40
ＳＫ02	10	100	Ｐ100	4	60
ＳＫ03	7	70	Ｐ104	39	130
ＳＫ04	65	1,520	Ｐ106	4	50
ＳＫ05	84	1,030	Ｐ122	20	120
ＳＤ01	226	2,290	Ｐ137	8	80
ＳＮ01	74	820	Ｐ163	31	260
ＳＲ01（外）	1	2,825	Ｐ171	12	150
ＳＲ01（入れ子）	1	890	Ｐ181	4	60
ＳＲ01（埋土内）	6	140	Ｐ188	5	150
ＳＲ02	1	1,380	合　計	3,096	51,946
ＳＲ03	1	728			

第6表　遺構外土器出土一覧

	Ⅰ層		Ⅱ層		Ⅱ～Ⅲ層		Ⅱ～Ⅳ層		Ⅲ層		Ⅲ～Ⅳ層		Ⅳ層		Ⅲ～Ⅴ層		Ⅳ～Ⅴ層		Ⅴ層		一括		合計	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
GO78	11	80	75	690					210	2,460			75	1,050									371	4,280
GO79	18	80	234	2,690					624	7,730			850	12,420									1,726	22,920
GO80			52	820					157	1,830			135	1,540									344	4,190
GN78	14	110	376	4,380					599	6,670			10	70									999	11,230
GN79	12	80	132	1,050			166	1,740	692	8,040			549	7,790									1,551	18,700
GN80	106	1,330	484	5,790					743	10,890			433	4,610									1,766	22,620
GN81	3	60	189	2,700					405	4,470			129	1,730									726	8,960
GM78	66	310	442	4,820					558	6,470			99	1,430			100	1,380					1,265	14,410
GM79	179	1,330	226	2,160					1,153	14,410			418	5,480			28	120					2,004	23,500
GM80	84	1,140	702	8,950	96	800			2,032	25,265													2,914	36,155
GM81	121	1,251	661	7,230	73	440			1,454	17,010			194	2,210			523	5,600					3,026	33,741
GM80・81																	117	1,690					117	1,690
GM82									331	3,660									43	590			374	4,250
GL78	115	780	293	4,330	23	270			687	9,705									104	1,845			1,222	16,930
GL79			125	1,260	84	720			1,695	21,335									229	2,580			2,133	25,895
GL80	57	360	799	11,000					3,816	53,363			135	1,540					1,560	22,580			6,367	88,843
GL81	63	691	596	8,610					3,099	46,220									174	2,230			3,932	57,751
GL82			48	640					273	3,320													321	3,960
GK78	63	690	131	1,540					385	5,570			10	140									589	7,940
GK79	65	470	75	910					551	7,060									103	1,680			794	10,120
GK80	172	1,520	183	2,260					617	6,400									1,383	20,780			2,355	30,960
GK81	111	1,450	241	1,720					1,133	19,090									1,753	23,300			3,238	45,560
GK82									254	4,430													254	4,430
GJ78	36	310	103	1,115					304	3,530													443	4,955
GJ79	51	390	206	2,770					371	5,420													628	8,580
GJ80	93	710	136	1,320	155	2,800			51	590													435	5,420
GJ81	31	870	130	1,990					149	1,910			59	830									369	5,600
GI78	20	260	77	1,100					167	1,710													264	3,070
GI79	15	190	66	710					196	2,050													277	2,950
GI80	42	330	87	740					121	1,170													250	2,240
GI81	185	2,000	116	1,930					262	2,710									49	1,010			612	7,650
GH78			1	80																			1	80
GH79	29	210	34	470					20	1,010													83	1,690
GH80	12	130	63	1,030					61	930													136	2,090
調査区																					801	11,250	801	11,250
合計	1,774	17,132	7,083	86,805	431	5,030	166	1,740	23,170	306,428	0	0	3,096	40,840	0	0	768	8,790	5,398	76,595	801	11,250	42,687	554,610

第13図　グリッド別土器重量





第７表　遺構内石器出土一覧（1）

	石鏃	尖頭器	石匙	石篦	トランシェ様石器	スクレイパー類	異形石器	楔形石器	石錘	石錐	石製品	不定形石器	打製石斧	磨製石斧	礫器	石核	剥片石器	合計
ＳＩ01	10		9			22		1	21	1		16			42	5	158	285
ＳＩ02									2			2			6	1	26	37
ＳＩ03	3		1			1			1			1					7	14
ＳＩ04									5						13		7	25
ＳＩ05	2		4			1			1		1	7		1	19	3	48	87
ＳＱ01															4		2	6
ＳＱ02	1														2		2	5
ＳＱ03			1												8		5	14
ＳＱ04															1			1
ＳＱ05	1		1			1						1			3		4	11
ＳＱ06															2			2
ＳＫ01						1									2		3	6
ＳＫ02						1						1					1	3
ＳＫ03																	1	1
ＳＫ04						1								1	3			5
ＳＫ05			2			1			1			1			2		7	14
ＳＸ01																	1	1
ＳＸ02																	1	1
ＳＸ03															1		5	6
ＳＲ01						1			1						2		1	5
ＳＲ02																		0
ＳＲ03									5									5
ＳＲ04																	1	1
ＳＲ05																		0
ＳＲ06	1																	1
Ｐ2																	1	1
Ｐ4											1							1
Ｐ9															1		2	3
Ｐ15																	1	1
Ｐ16	1								1								1	3
Ｐ26															1		1	2
Ｐ27						1											1	2
Ｐ47				1											1			2
Ｐ52															1			1

第8表　遺構内石器出土一覧（2）

	石鏃	尖頭器	石匙	石篦	トランシェ様石器	スクレイパー類	異形石器	楔形石器	石錘	石錐	石製品	不定形石器	打製石斧	磨製石斧	礫器	石核	剥片石器	合計
P57															1			1
P58															1		1	2
P64									2									2
P71	1																1	2
P73						1									1			2
P75																	1	1
P76																	2	2
P81																	1	1
P83																	1	1
P87	1					1												2
P88															2			2
P90															1			1
P91															1			1
P95				1														1
P96															1		2	3
P103												1			1	1		3
P112																	1	1
P114																	1	1
P130																	1	1
P137									1									1
P149															1			1
P151															1			1
P153															1			1
P163																	1	1
P165															1			1
P181	1																	1
P187														1			1	3
P188																	1	1
P190									1						1			2
P197						1											9	10
P198															2			2
P199									1						2		1	4
SD01	6		2	1		3			3	1		12			10		162	200
合計	28	0	20	3	0	37	0	1	46	2	2	43	0	3	143	10	474	811

第９表　遺構外石器出土グリッド一覧（1）

	石鏃	尖頭器	石匙	石錐	トランシェ様石器	スクレイパー類	異形石器	楔形石器	石錘	石錐	石製品	不定形石器	打製石斧	磨製石斧	礫器	石核	剥片石器	合計
GO78			1	2		1			1			3			15	1	21	45
GO79	7		4	1		4			17			1			40	2	116	192
GO80	1								1			2			3		35	42
GO81																	1	1
GO82												1					1	2
GN78	2		1	2		2			6		1	5			15		88	122
GN79	3		2	3		7			9			9			28	4	178	243
GN80	7		3	8	1	7		5	11			20			50	2	182	296
GN81				1		2			5			4			11		50	73
GM78	3		4	1		4	1		12		1	17			22	1	155	221
GM79	8		2	2		8			12			12		2	38		223	307
GM80	5	1	2	3		5		1	9			8		1	43	1	170	249
GM81	6		1	5		8		3	9			15			35		230	312
GM80・81	1		1			1			1			2			1		8	15
GM82												3			9	1	36	49
GL78	3		2	1		10	1	2	7	1		9		1	32	2	103	174
GL79	9		3	5		5	1	2	6	1		14			40		211	297
GL80	6		1	5		14		3	20	1	1	25	2	1	76	1	349	505
GL81	4		1	5	1	7	1	1	8		2	15		1	61	5	200	312
GL82		1		1								3			7	1	18	31
GK78	2			1		6			4			6	1		9	2	123	154
GK79	2		2			4		2	7			13			14		125	169
GK80	11		2	3		12		1	11		1	13		1	36	1	235	327
GK81	4		5	2		7		1	8		2	10			36	1	113	189
GK82	1					1						1			3		8	14
GJ78	2					6		1	10			9			15	1	85	129
GJ79	1		1			8			9			9		1	18	2	99	148
GJ79・80															8			8
GJ80	4		1	1		4		1	2			6			6	1	78	104
GJ81						1		1	3	1		4		1			64	75
GJ・I															1			1
GI78	2		1			6			4			2			7	1	62	85
GI79	5		1	1		2			6			5			11	1	56	88
GI80	4		2			1			2			3			5	1	73	91
GI81	1			2		3			3						6		34	49
GH78																		0
GH79			2						1			2			2		21	28
GH79・80															2		18	20
GH80						1			1						5			7
GF79	1	1				1			1			1					18	23
GE82															2			2
FU81															1			1
FT81																	1	1
FI77												1						1
EQ76									1						2	1		4
EP75													2				1	3
EP76									1									1
EN75												1						1
EL75															1			1
調査区一括	3					15			3			15		1	12		191	240
合計	108	3	45	55	2	163	4	24	211	4	8	269	5	10	728	33	3,780	5,452

第10表　遺構外石器出土層位一覧（2）

	石鏃	尖頭器	石匙	石篦	トランシェ様石器	スクレイパー類	異形石器	楔形石器	石錘	石錐	石製品	不定形石器	打製石斧	磨製石斧	礫器	石核	剥片石器	合計
Ⅰ	23		3	7		14		7	9	1		44		1	25	5	778	917
Ⅱ	20		7	12		22		6	41		1	70	1	2	145	7	778	1112
Ⅱ～Ⅲ	2		1			2		1	4			5			14	1	67	97
Ⅱ・Ⅲ一括	3					16					1			1	3		184	208
Ⅲ	30	2	23	24	2	75	4	7	115	2	3	97	2	5	365	15	1,438	2,209
Ⅲ一括															2			2
Ⅲ～Ⅳ																	3	3
Ⅳ上面									2			1						3
Ⅳ	8	1	6	6		14		1	16			15	2	1	91	3	246	410
Ⅳ～Ⅴ																	3	3
Ⅳ～Ⅵ																	6	6
Ⅴ	11		4	6		17		2	19	1	3	24			78	1	241	407
Ⅴ下位						1										1	11	13
Ⅴ--括															2			2
Ⅵ上面			1						2								22	25
包含層一括												2						2
調査区一括						1			3			9			3		1	17
不明	11					1						2					2	16
合計	108	3	45	55	2	163	4	24	211	4	8	269	5	10	728	33	3,780	5,452

第11表　石器石材分類表

	Sh	Rsh	SSh	Tu	Bre	T.Bre	Ser	Rhy	An	Sil	San	Dio	Gra	G.dio	Grano	Gra.po	Gra	dio	Pum	Qu.Pum	Sla	Grb	Qua	Qu.an	Quapor	Dac	Ho	Ob	Cha	Aga	Jas	Pit	Ta	Gab	Por	Ke	Lav	不明	合計
石鏃	129	1		2				1		1																		2											136
尖頭器	3																																						3
石篦	51	2	2	1				1																														1	58
トランシェ様石器	2																																						2
石匙	50	7	1	3																								1	2	1									65
石錐	5		1																																				6
スクレイパー類	190	4	2	1				1																		4													200
不定形石器	286	4	1	9				2			1															3	1		1	2		1							311
楔形石器	19	2	1	1			1	1																															25
石核	23	12	4						1																					3									43
打製石斧	2																									2	1												5
磨製石斧	4																	4			3	2																	13
異形石器	4																																						4
石錘	12			2					55		16		1				16	16								137	2												257
剥片	3,566	364	38	125			5		1		17	7												1		29	10	31	1	46	5							8	4,254
石製品	5			3																													2						10
礫石器																																							
Ⅰ	5			27					89		22		2		7		2	8			1	1			3	114	4										1		286
Ⅱ									37				9		1	3										6													56
Ⅲ				9				1	17				3			2										20											2		54
Ⅳ									29		1		12		3	2		1								8													56
Ⅴ				12				2	9		10			1	8	1									1	20										1			65
Ⅵ									14		1				2											3													20
Ⅶ									13		1		9		9			1								11													44
Ⅷ－1																										2													2
Ⅷ－1ｂ									1																														1
Ⅷ－2				1					1								2			1						1													6
Ⅷ－3				1																1						1													3
Ⅷ－b									2																														2
Ⅸ											1															2													3
Ⅹ				1					1		1															1													4
ⅩⅠ											1													1															2
ⅩⅡ									1																	1													2
ⅩⅢ											1																												1
ⅩⅢ－1ａ				1		1			12		4		1					4								17	1							1					42
ⅩⅢ－1ｂ									2																	2													4
ⅩⅢ－2ａ									35		4		2		1			2								32	2								3				81
ⅩⅢ－2ｂ									5		1															5													11
ⅩⅢ－3				4				1	19		2		3		5			1								20									1				56
ⅩⅣ																											2												2
ⅩⅤａ	3								1		1																												5
ⅩⅤｂ	2			1																				2															5
ⅩⅥ				3	1				13										1							2													20
ⅩⅦ									4										1							3											4		12
ⅩⅦ－1		1																																					1
ⅩⅧ－1									2																	14													16
ⅩⅨ－2																										1													1
ⅩⅨ	2	5																												1									8
合計	4,362	402	50	207	1	1	6	10	364	1	85	7	42	1	36	8	20	37	2	2	4	3	1	3	4	461	23	34	4	53	5	1	2	1	5	1	6	9	6,263

2．縄文時代の検出遺構

1）竪穴住居跡

1号竪穴住居跡（調査時には3号竪穴住居と登録）（第13～31図）

［検出位置］ＧＫ78・79、ＧＪ78・79、ＧＩ78・79グリッドに位置する。

［検出面］Ｖ下部からⅥ層上面。本来は上層から掘り込まれていると思われるが層位は不明である。

［検出状況］１号溝精査中に底面から焼土が検出されたことから、これを中心とした竪穴住居跡の存在を想定していた。そのことを確認するため溝の壁を利用して竪穴住居跡の立ち上がりを精査した結果、本遺構と２号竪穴住居跡が重複していることが明らかとなった。しかし、埋土と地山の判別ができず平面プランを把握できないことから、サブトレンチをベルト脇に入れ本遺構の広がり及び壁の立ち上がりを把握し、平面形は楕円形を呈しほぼ床面のみの残存であることを確認した。精査当初に溝の底面で検出した焼土は、住居の掘り方か住居内に形成された土坑へ流入したものと判断している。

［重複関係］２号竪穴住居跡と１号溝と重複しており、２号竪穴住居跡→本遺構→１号溝の順に新しくなる。

［平面形］南西方向が攪乱により削平されているが、残存している形状は楕円形を呈する。

［規模］5.19×4.61m、深さは0.10～0.19mである。

［埋土］黒～暗褐色シルト層主体で10層に分層される。

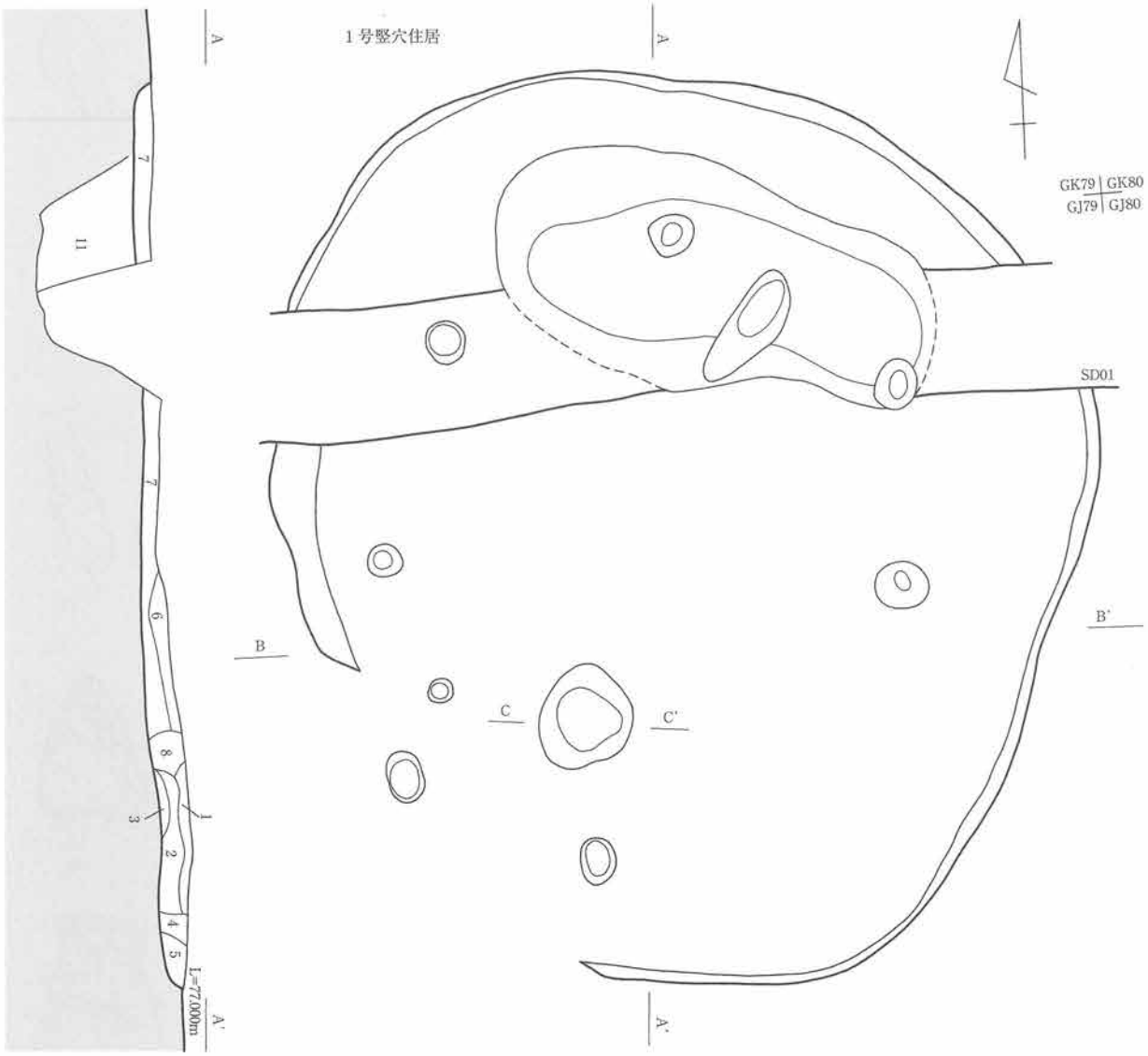
［床面・壁］床面は若干南北に傾斜しているがほぼ平坦である。確認できた壁は0.1m前後で、外傾して立ち上がる。

［柱穴］10個検出されており、地床炉を取り囲むように住居の平面形と同じ楕円形に配置されている。柱穴は形状や規模共に類似しているが、住居の掘り方か土坑内に存在する柱穴のみ深さは異なる。

［炉］中央よりやや南西寄りで地床炉が１基確認された。平面形は不整形を呈する。規模は0.60×0.51m、厚さは0.21mである。

［遺物］土器586点、石器285点が出土している。土器は体部が大半であったため代表的な口縁部のみを抽出し、石器は各器種の分類ごとに掲載している。１～11はすべて深鉢の口縁部である。２は大木５ａ式、10は大木７ａ～ｂ式、それ以外は大木６式に比定される。12～18は石鏃。Ⅱ類（18）・Ⅲ類（12～14）・Ⅳ類（15～17）が見られるが、Ⅲ類の占める割合が高い。19～26・1036は石匙。Ⅰ-１類（19）・Ⅰ-３類（21.1036）・Ⅱ類（22～24）・Ⅲ類（25・26）の各類が見られる。27の石錐はⅢ類で先端部にのみ錐部を作出している。28～49はスクレイパー。Ⅰ類（28～32）・Ⅱ類（33・35～38）・Ⅲ類（34・39・40）・Ⅳ類（44）・Ⅴ類（43）・Ⅵ類（41・42・45）・Ⅶ類（46～49）の各類が見られるが、Ⅱ類とⅦ類の割合が高い。50～63は不定形石器。Ⅰ類（50～55・57・59・62）・Ⅱ類（56・61）・Ⅴ類（58）・Ⅵ類（60）が見られ、Ⅰ類が主体となる。64は楔形石器である。65・66は石核。65は分厚い剥片、66は扁平な礫とそれぞれ異なる素材を用いているが、両者共に一定方向からのみ剥離作業を行っている。67～86は石錘で凹痕を有するⅢ類（84・85）以外はすべてⅡ類である。礫石器は42点出土し以下の各類が認められている。Ⅰ類（87・89～95）、Ⅱ類（96～99）、Ⅲ類（100・101）、Ⅳ類（88・102・103）、Ⅴ類（104・105）、Ⅵ類（106）、Ⅶ類（107～110）、ⅩⅢ類（111～117）、ⅩⅤ類（119・120）、ⅩⅥ類（118）、ⅩⅦ類（121）、ⅩⅧ類（122～124）である。剥片石器の石材は大半が頁岩で、剥片の中に小赤沢産黒曜石が１点含れている。礫石器の石材はデイサイトが多く使用されているが、器種による石材選択は見受けられない。また赤色頁岩の原石が搬入されている。

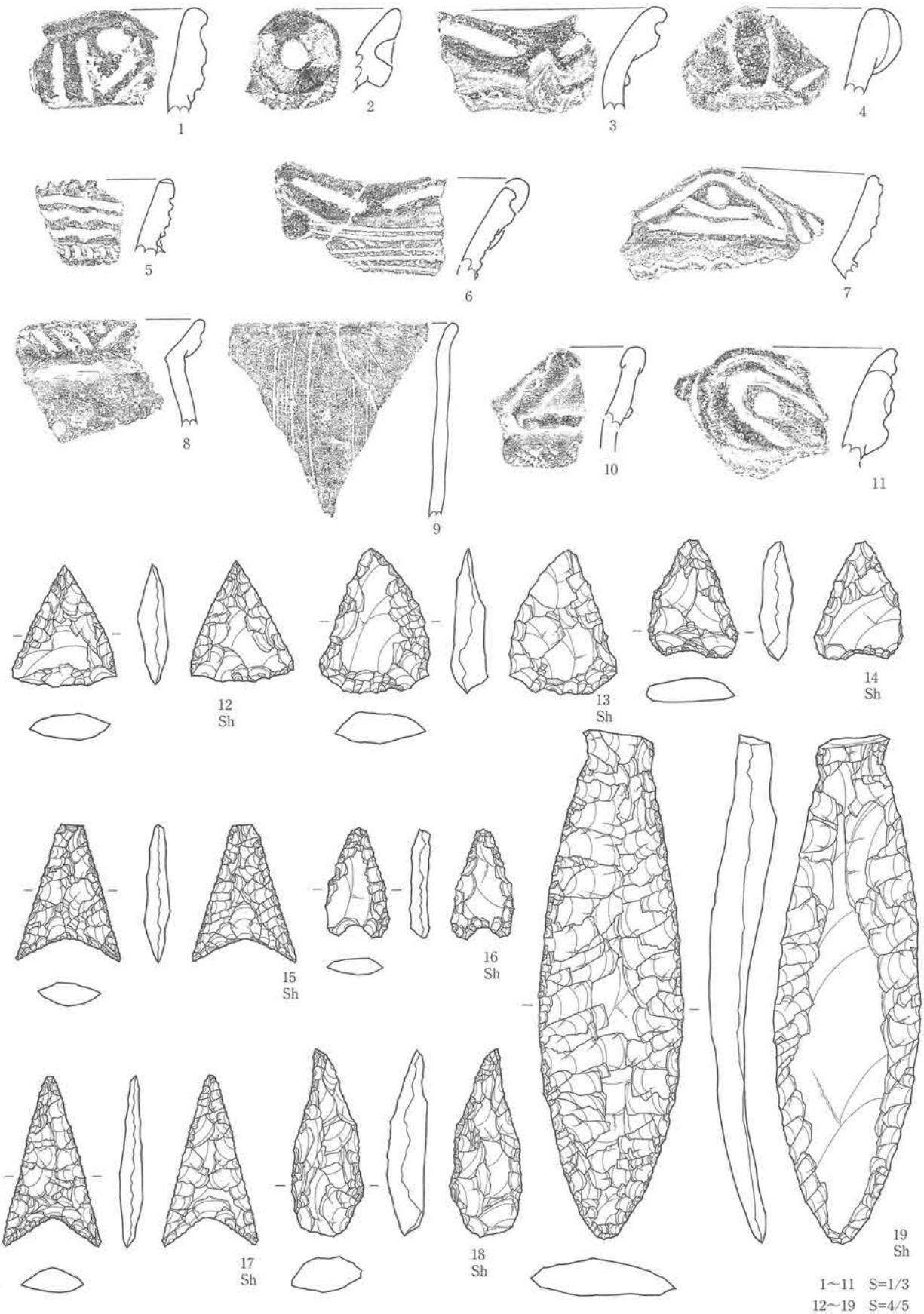
［遺構時期］縄文時代前期末から中期初頭に所属する。



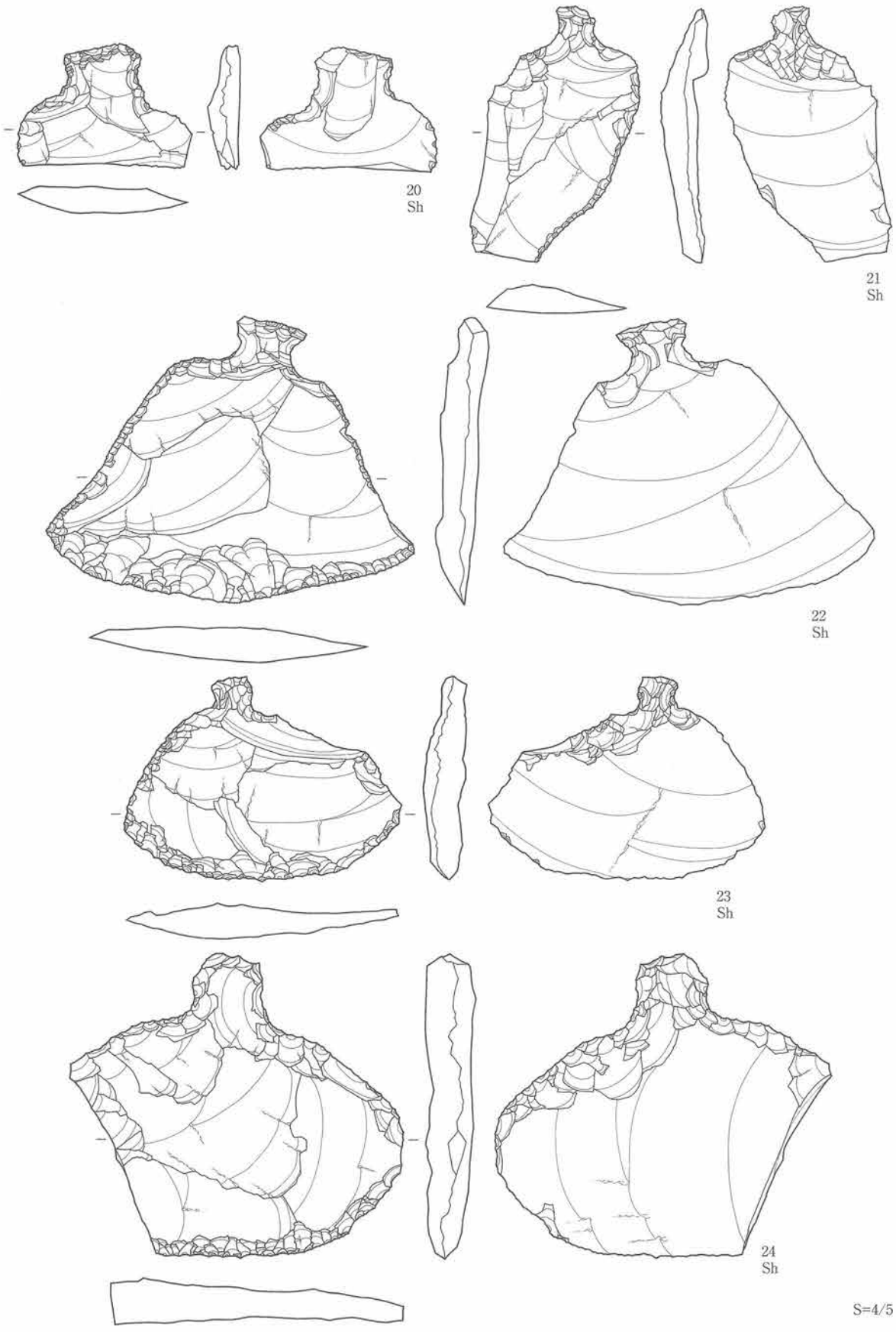
1号竪穴住居
1　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性やや弱く、しまり並。
　φ2～5mmの焼土、炭化粒を少量含む。
2　暗褐色シルト層（10YR3/3）粘性並で、しまりやや強い。
　φ5～10mmの焼土、炭化粒を少量含む。
3　暗褐色シルト層（10YR3/4）粘性、しまり共にやや強い。
　φ1～5mmの炭化粒を微量に含む。
4　黒色シルト層（10YR2/1）粘並、しまりやや弱い。
5　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性やや弱く、しまり並。
6　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性弱く、しまり並。
　φ3～5mmの炭化粒を少量含む。
7　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性並、しまりやや強い。
　φ5～10mmの焼土、炭化粒をやや多く含む。
8　暗褐色シルト層（10YR3/4）粘性やや強く、しまり並。
9　暗褐色シルト層（10YR3/3）粘性、しまりやや強い。
　φ5～10mmの焼土ブロックを少量含む。
10　褐色シルト層（10YR4/4）粘性やや弱く、しまり並。
　焼土付近では焼土粒が多く見られ、炭化粒を並含む。
11　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性やや強く、しまり並。
　φ20mmの焼土が混入。人為的な埋没土。
　基本的には溝に削手され、本層は北側の壁際しか残存していない。

地床炉
1　黒褐色シルト層（5YR3/1）粘性やや強く、しまり強い。
　埋土と焼土まじり。
2　赤褐色シルト層（2.5YR4/6）粘性並、しまり強い。焼土。
3　灰褐色シルト層（7.5YR4/2）粘性やや弱く、しまり弱い。
　直径5～10mmの焼土を微量に含み、地山崩落土を含む。

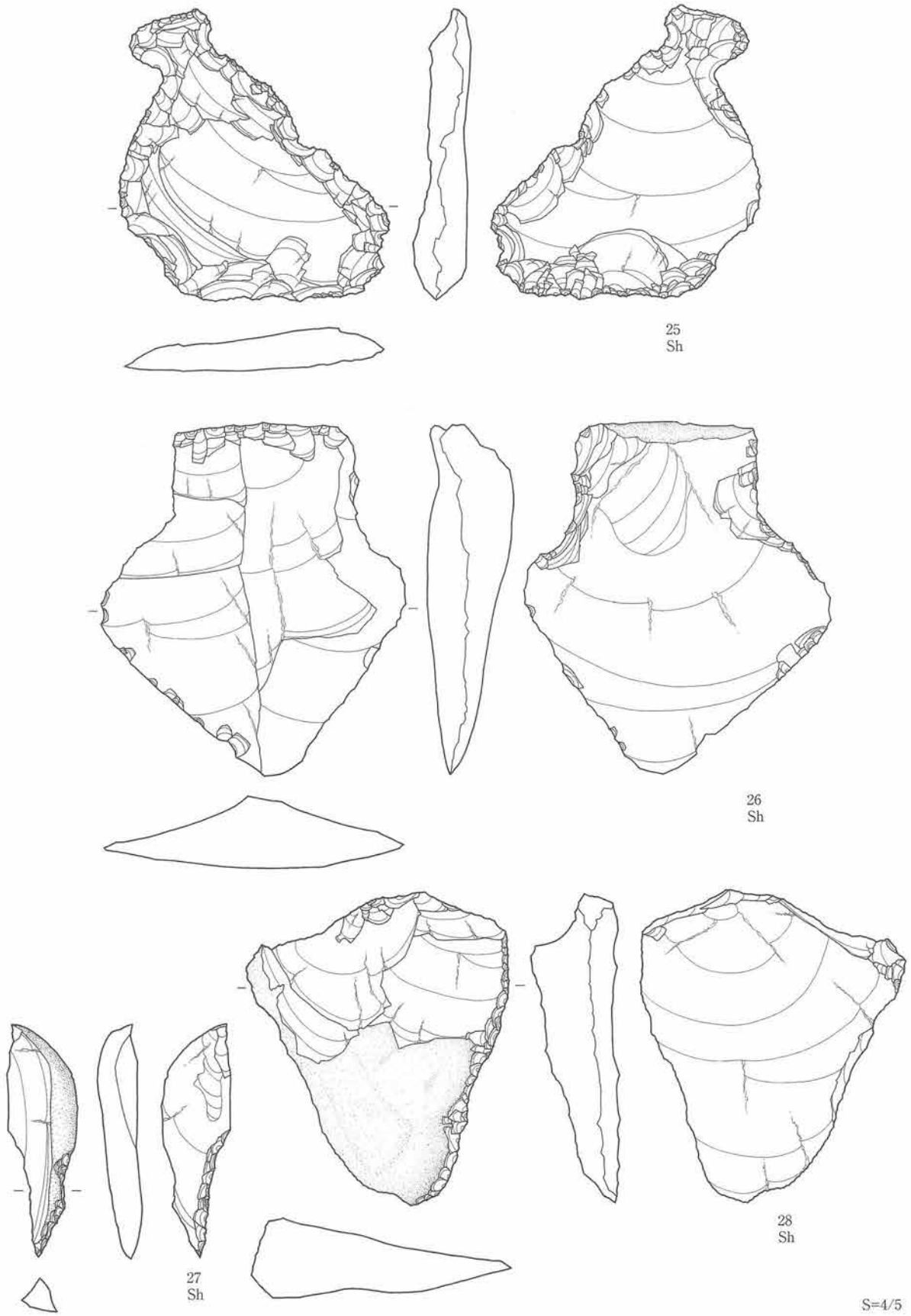
第13図　1号竪穴住居



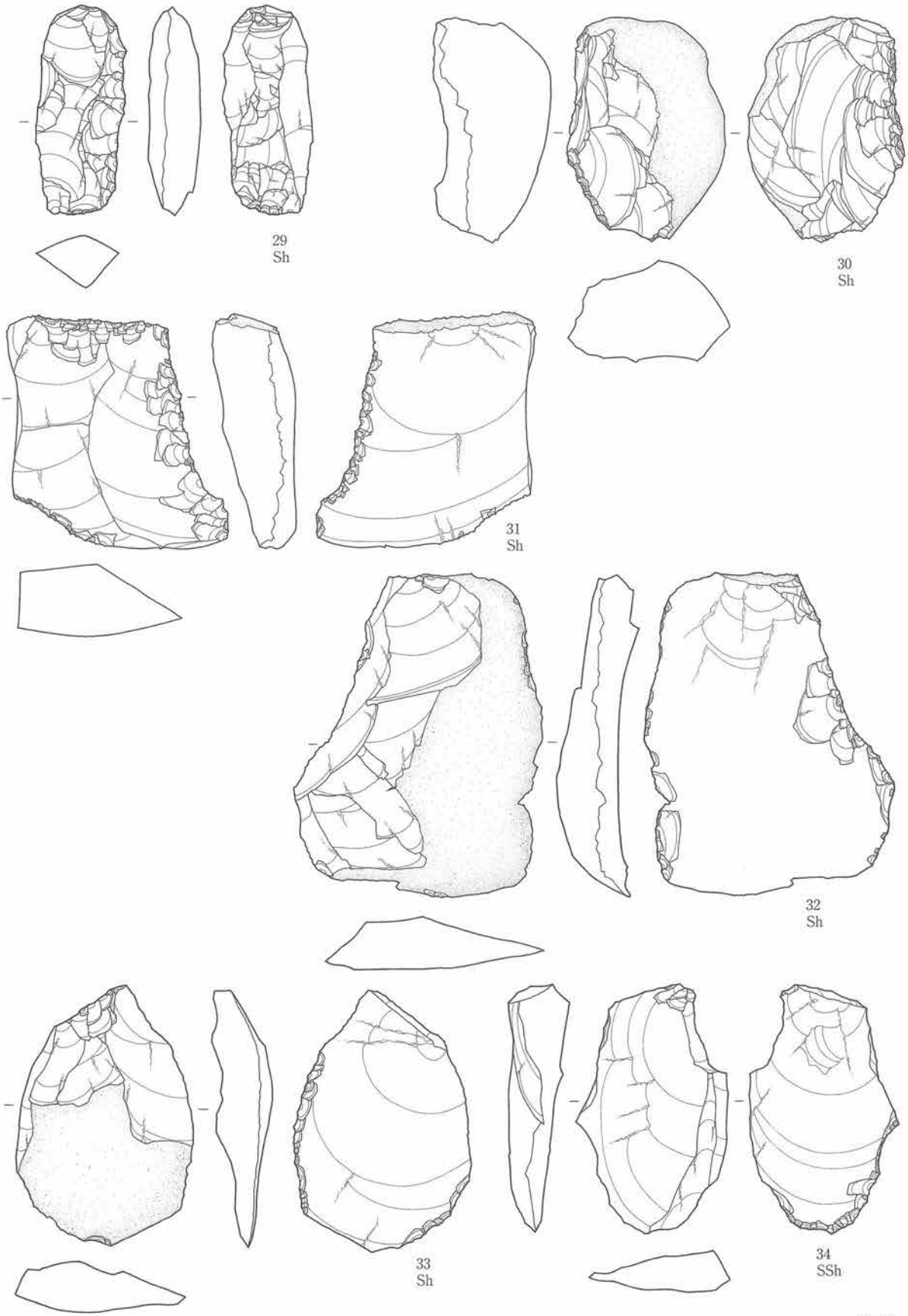
第15図　1号竪穴住居出土遺物（1）



第16図　1号竪穴住居出土遺物（2）

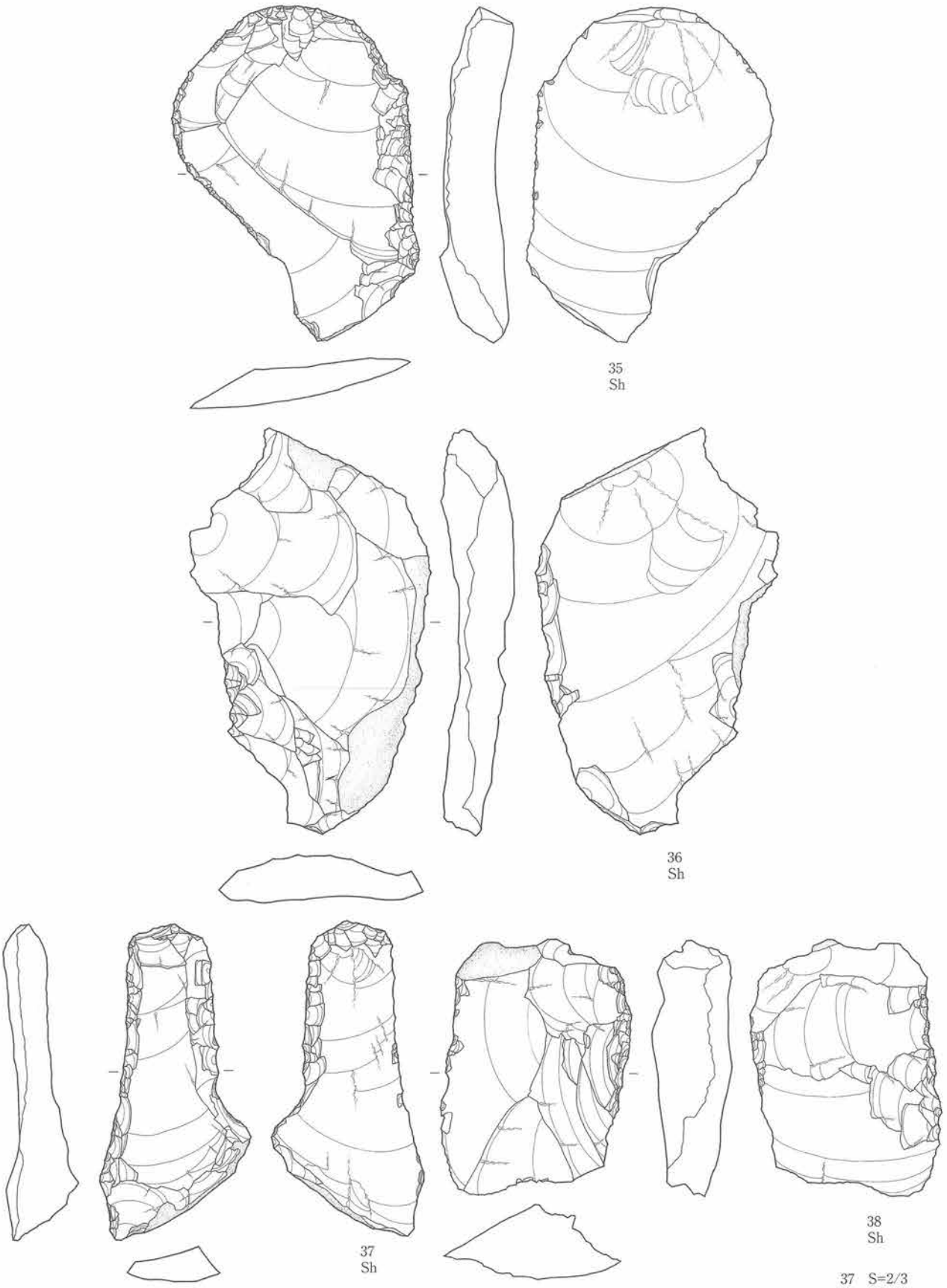


第17図　1号竪穴住居出土遺物（3）



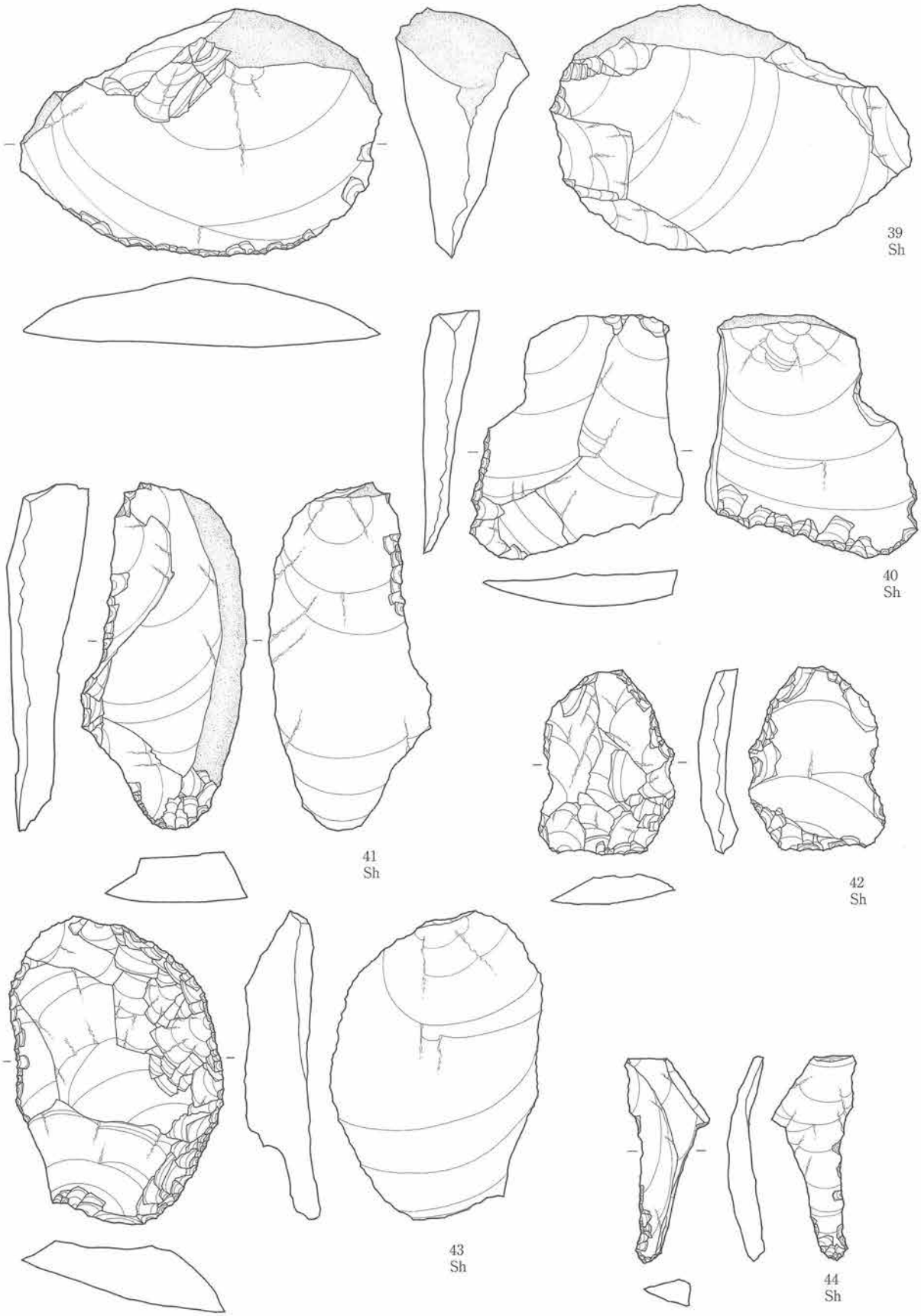
S=4/5

第18図　1号竪穴住居出土遺物（4）

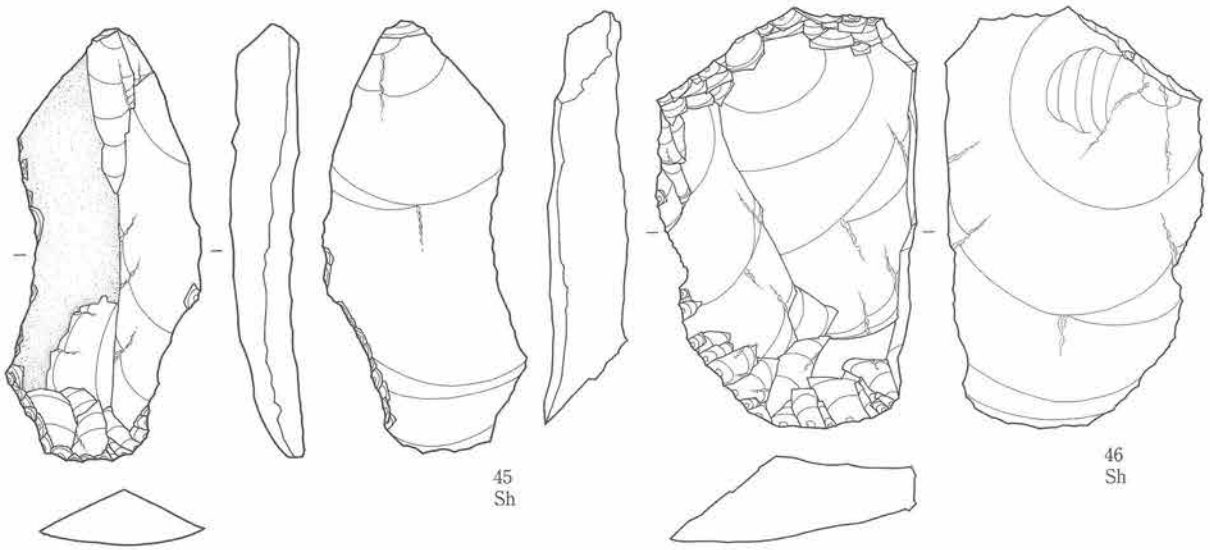


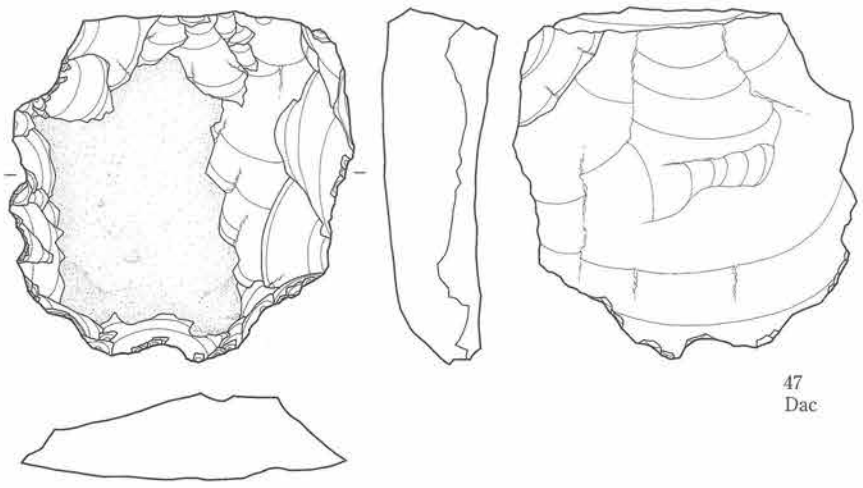
37　S=2/3
他　S=4/5

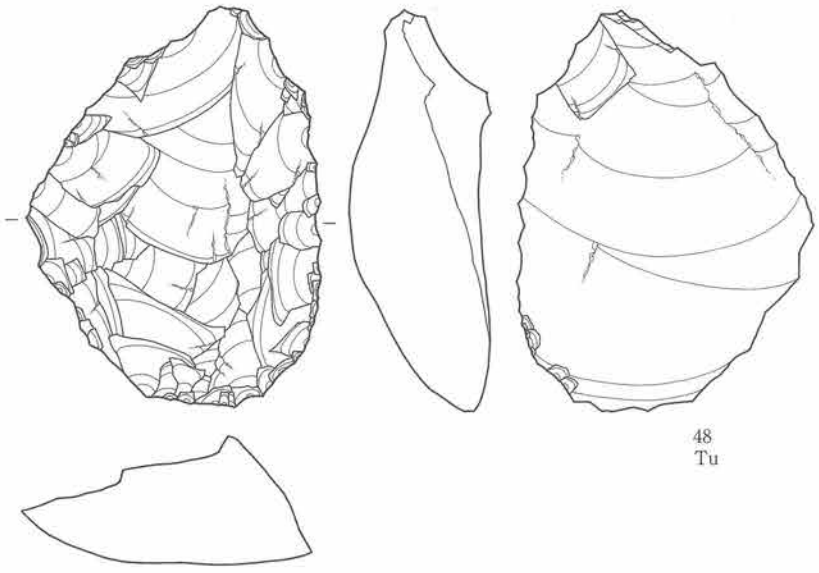
第19図　1号竪穴住居出土遺物（5）



第20図　1号竪穴住居出土遺物（6）

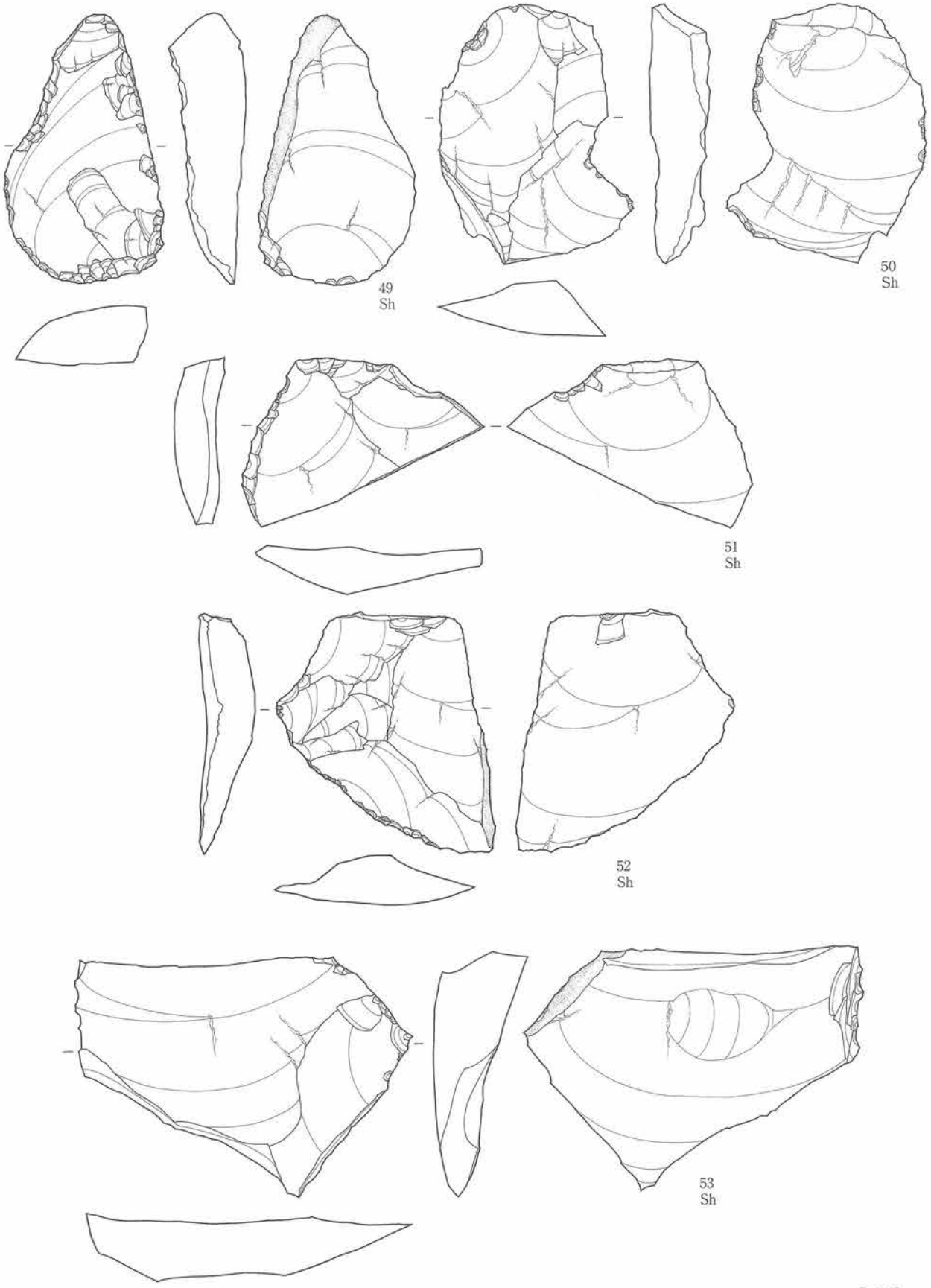






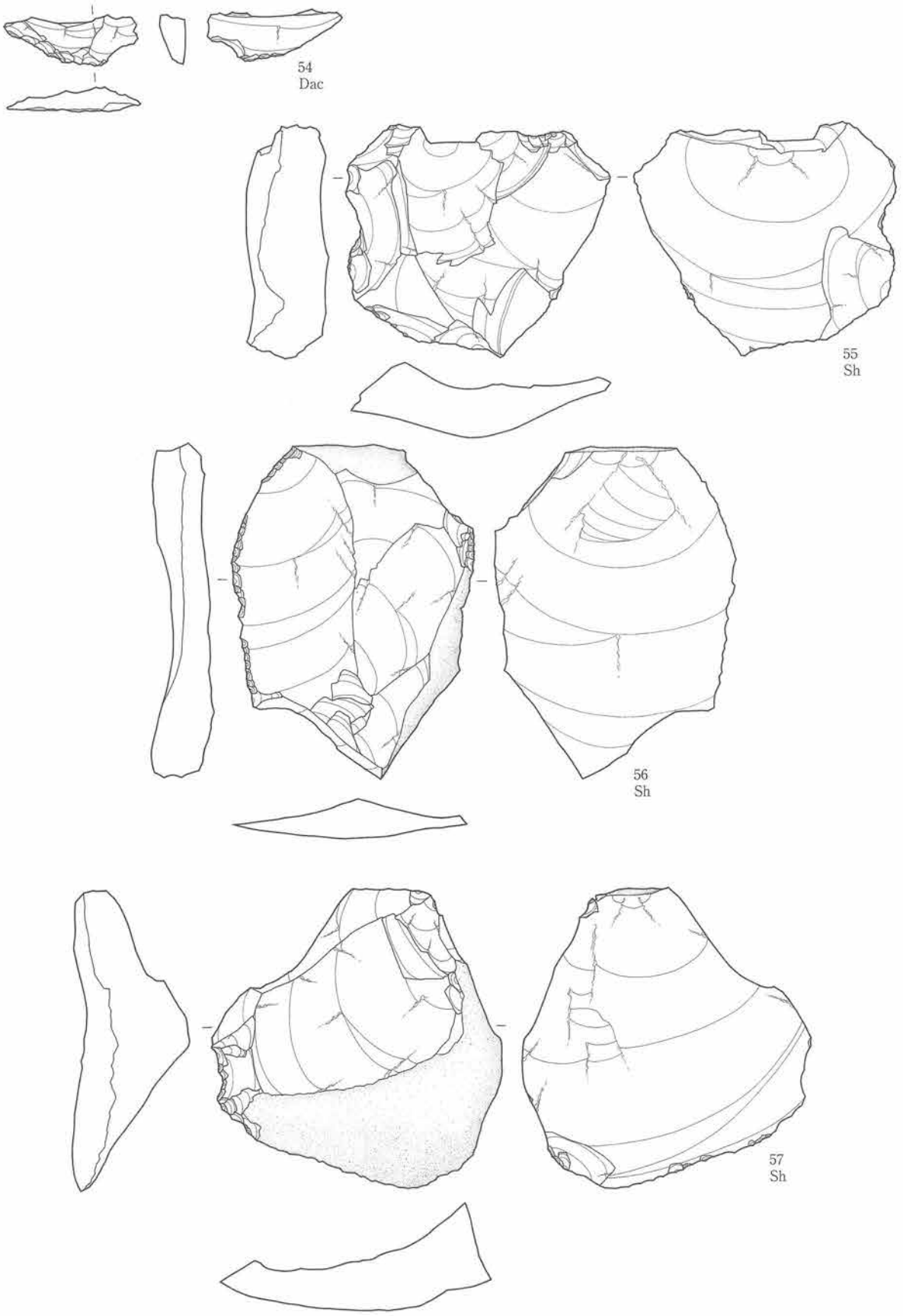
S=4/5

第21図　1号竪穴住居出土遺物（7）



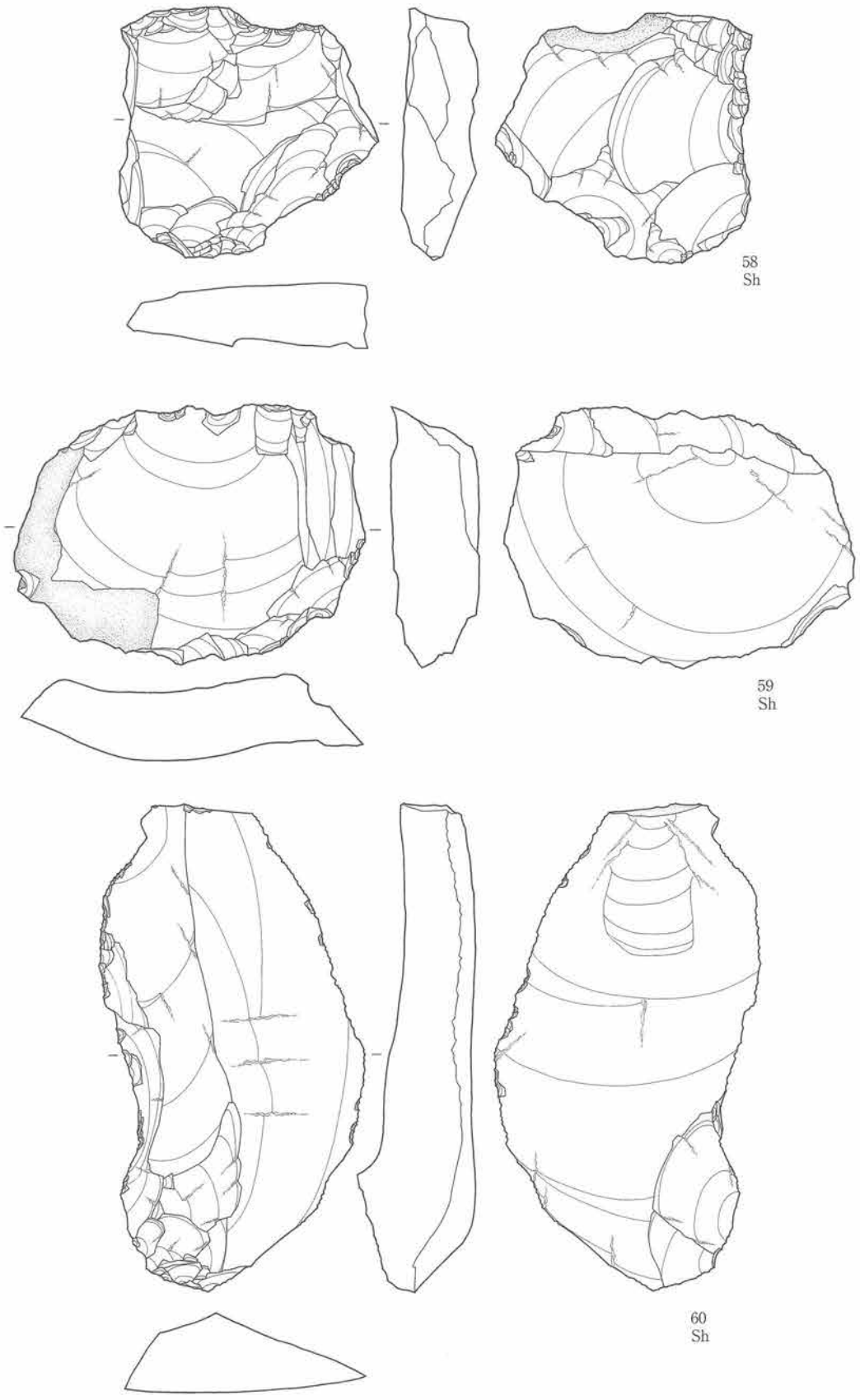
S=4/5

第22図　1号竪穴住居出土遺物（8）



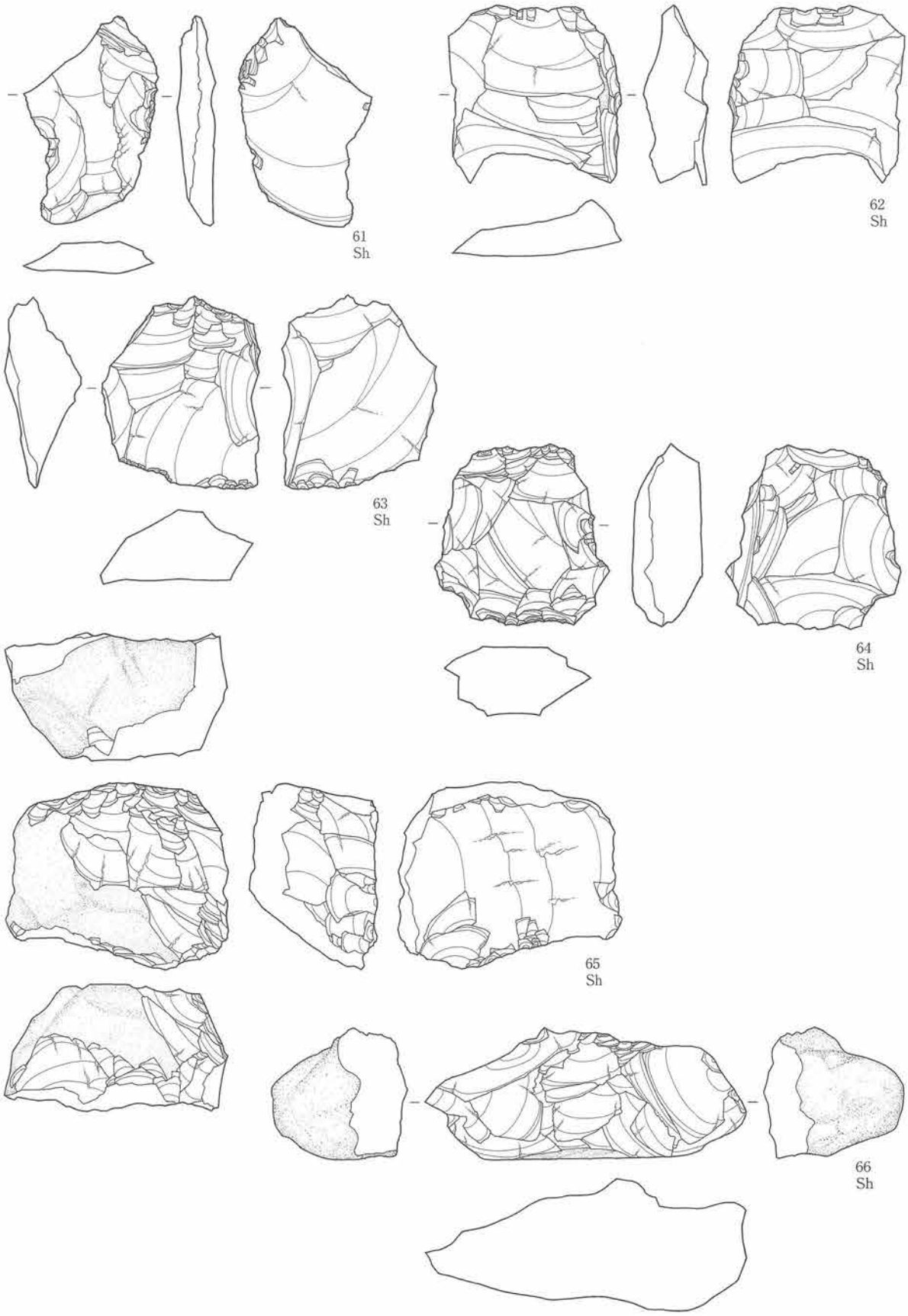
第23図　1号竪穴住居出土遺物（9）

S=4/5



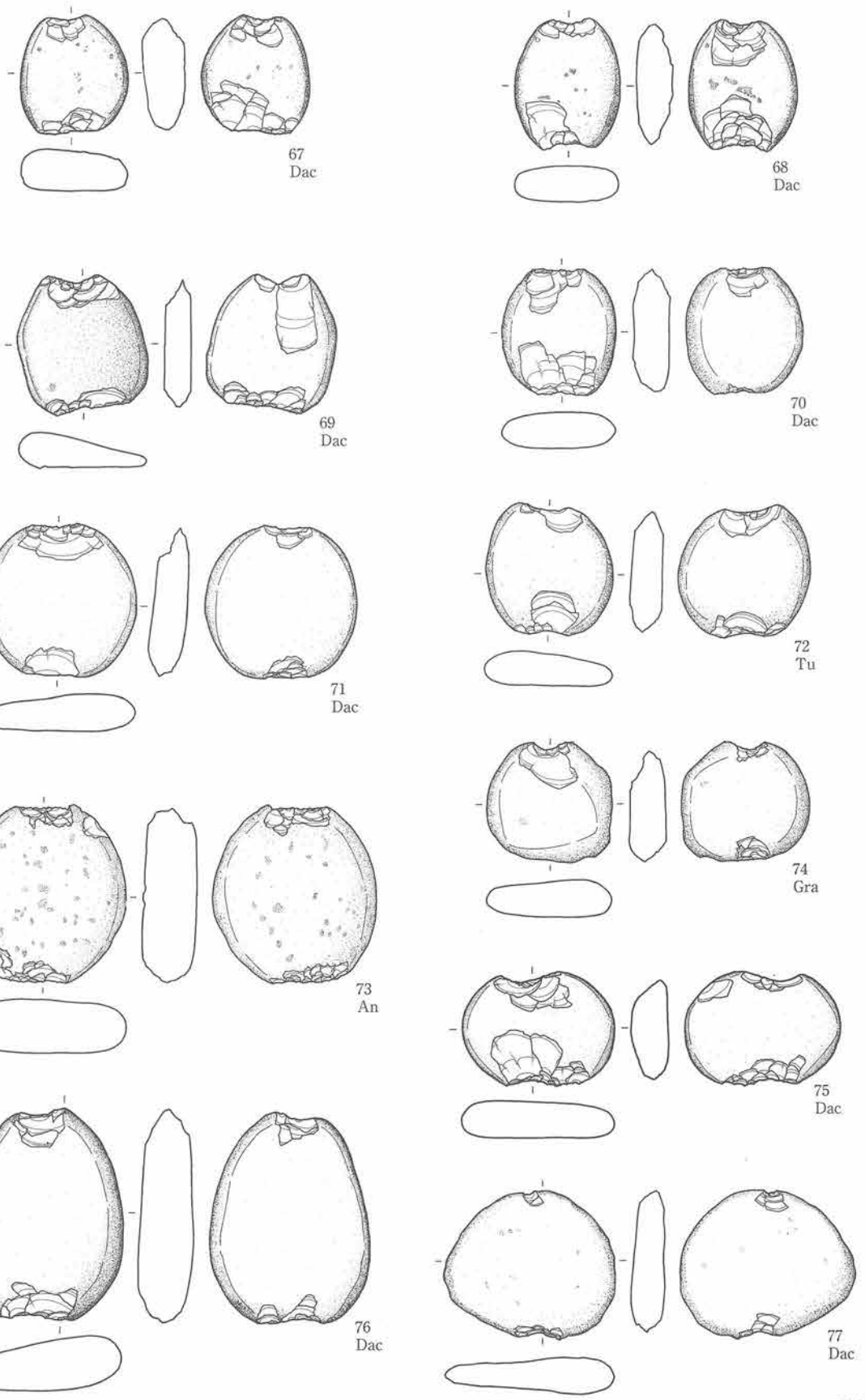
S=4/5

第24図　1号竪穴住居出土遺物（10）



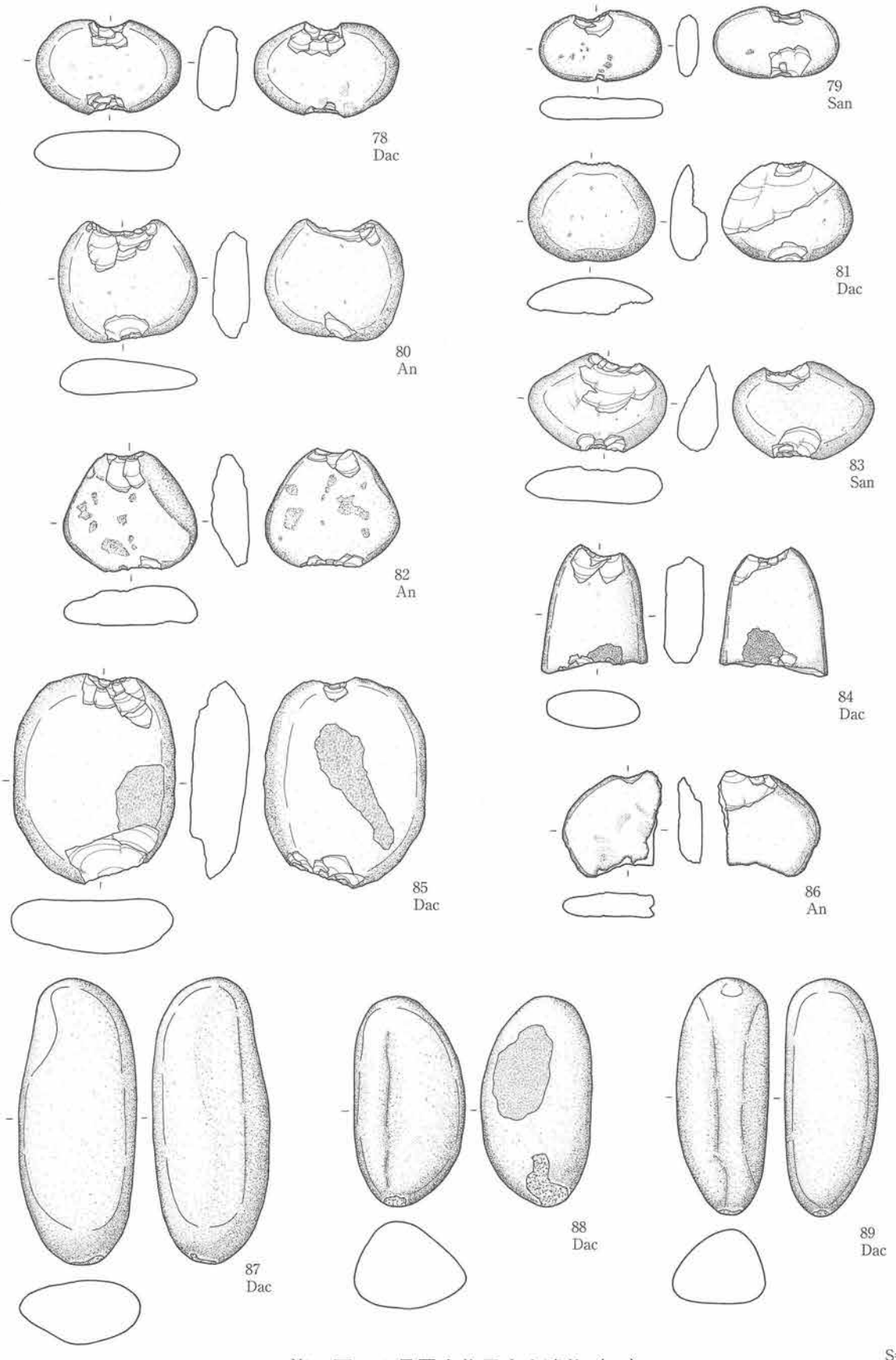
S=4/5

第25図　1号竪穴住居出土遺物（11）



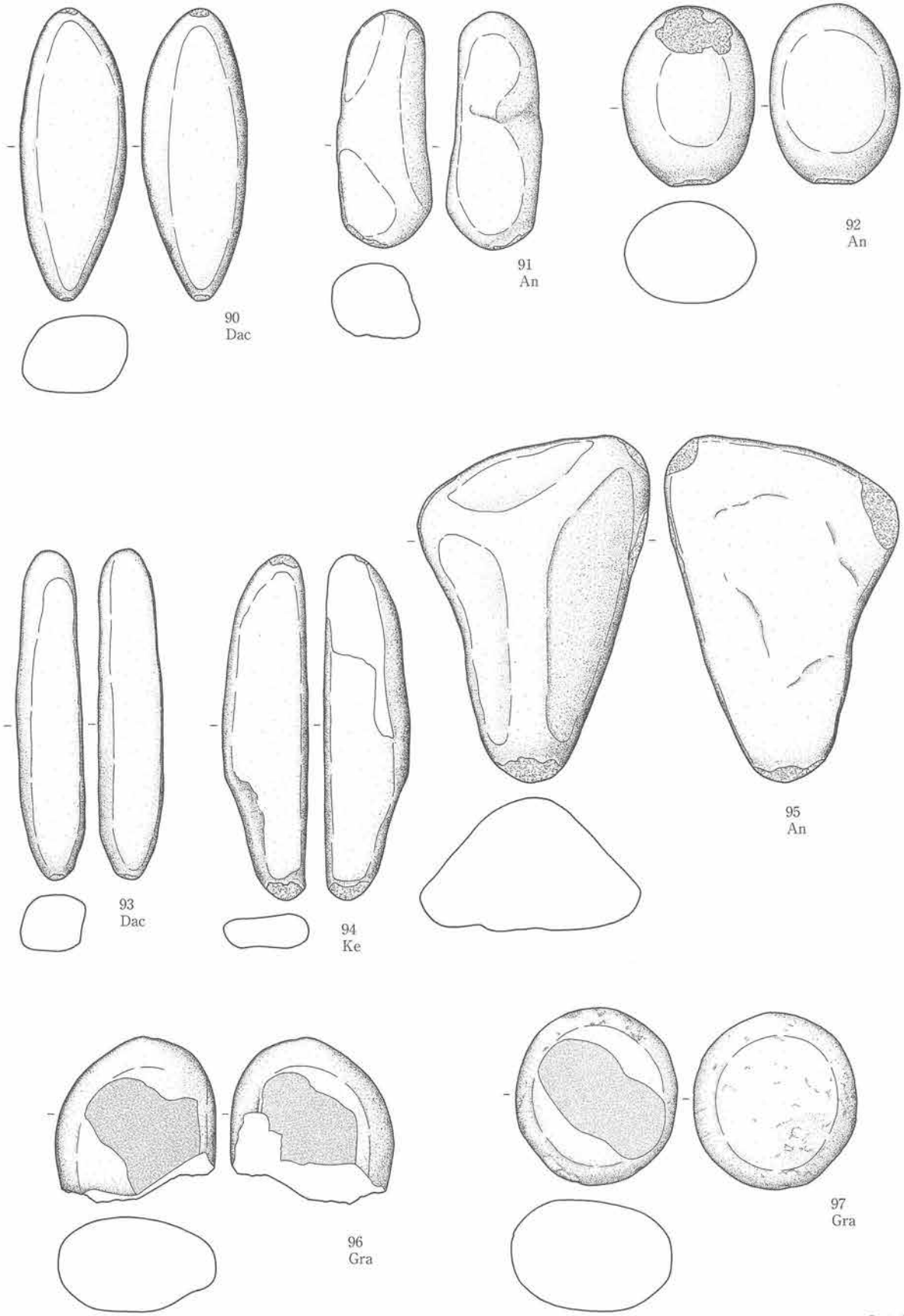
S=1/3

第26図　1号竪穴住居出土遺物（12）



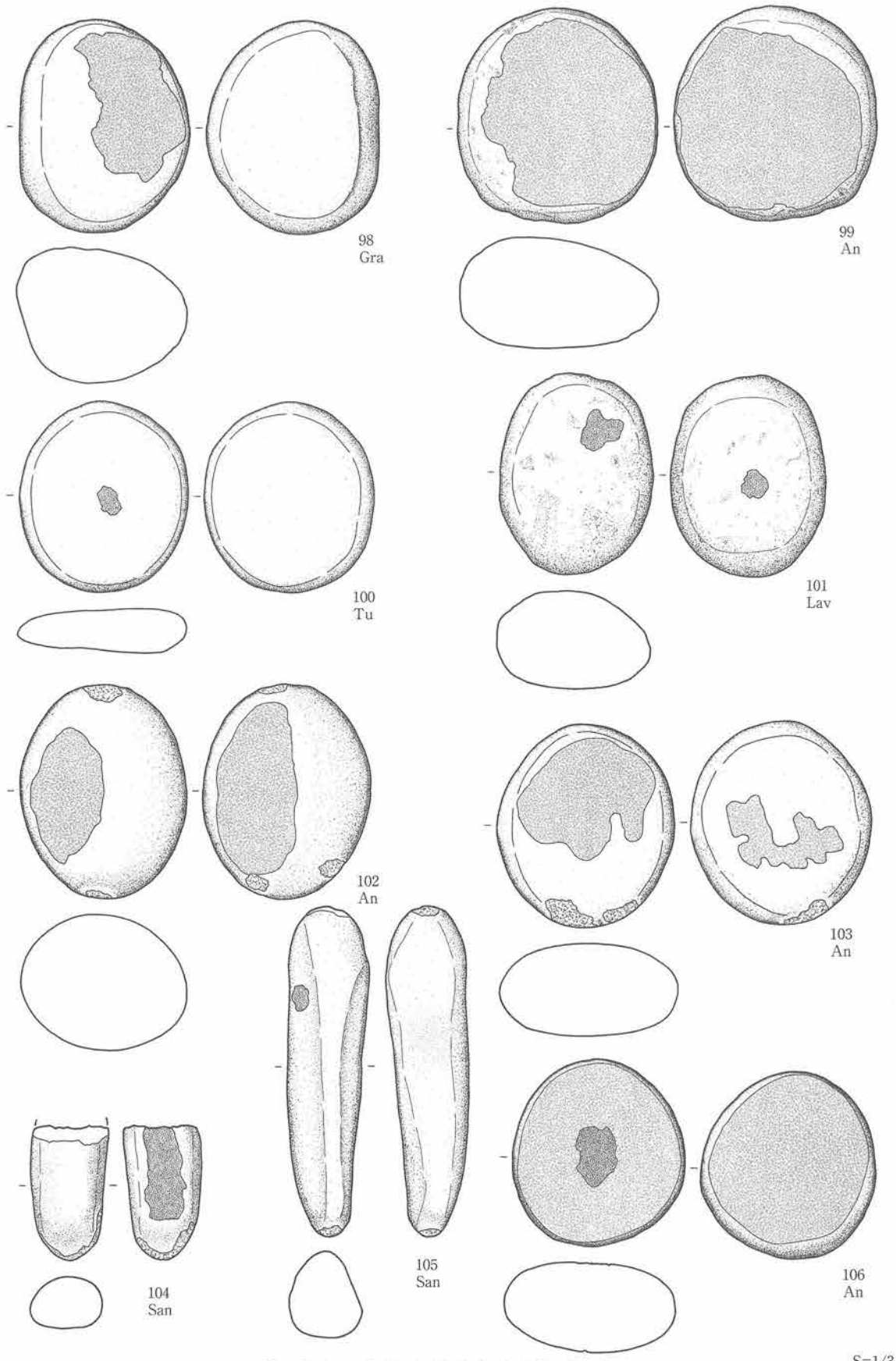
S=1/3

第27図　1号竪穴住居出土遺物（13）



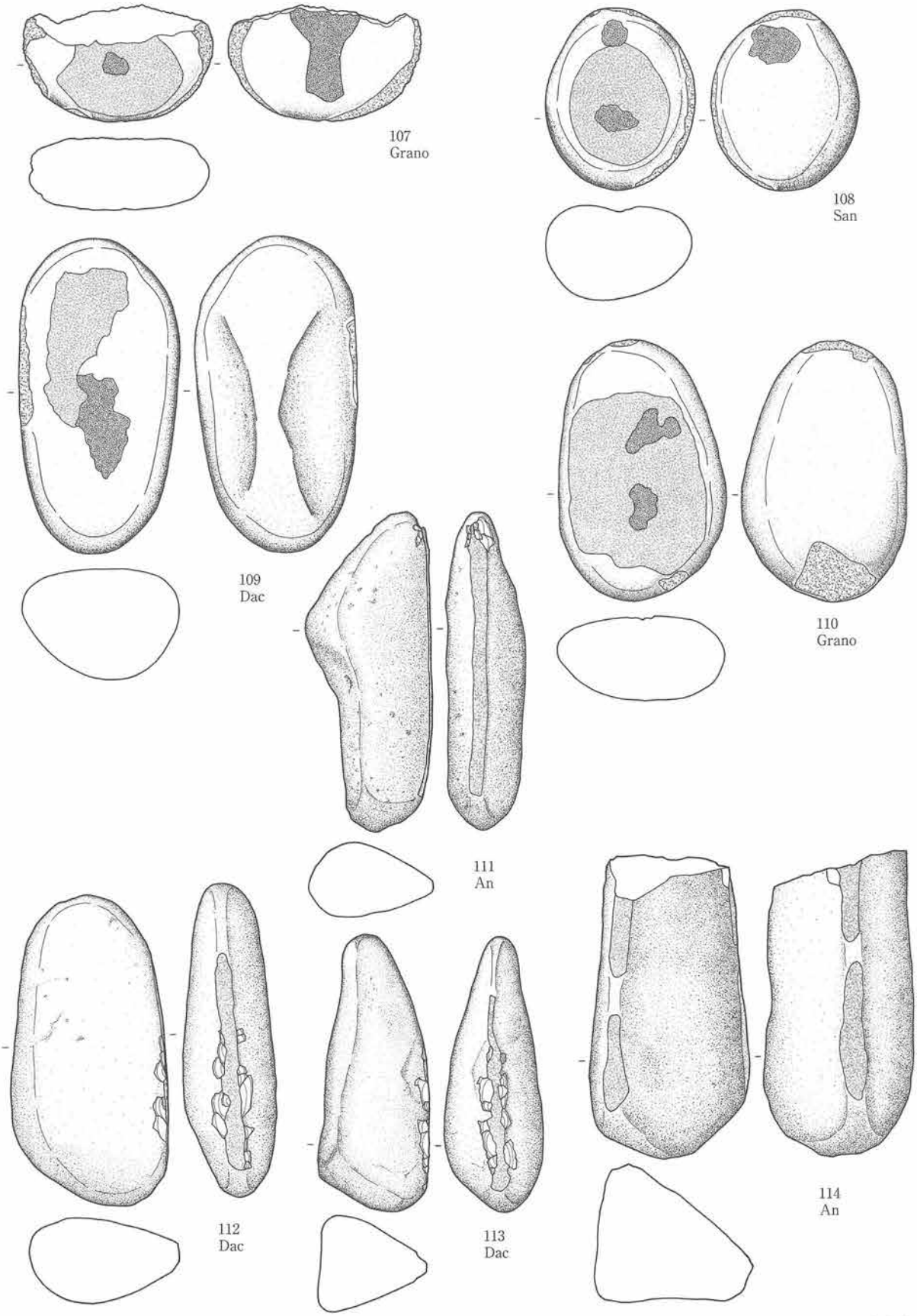
S=1/3

第28図　1号竪穴住居出土遺物（14）



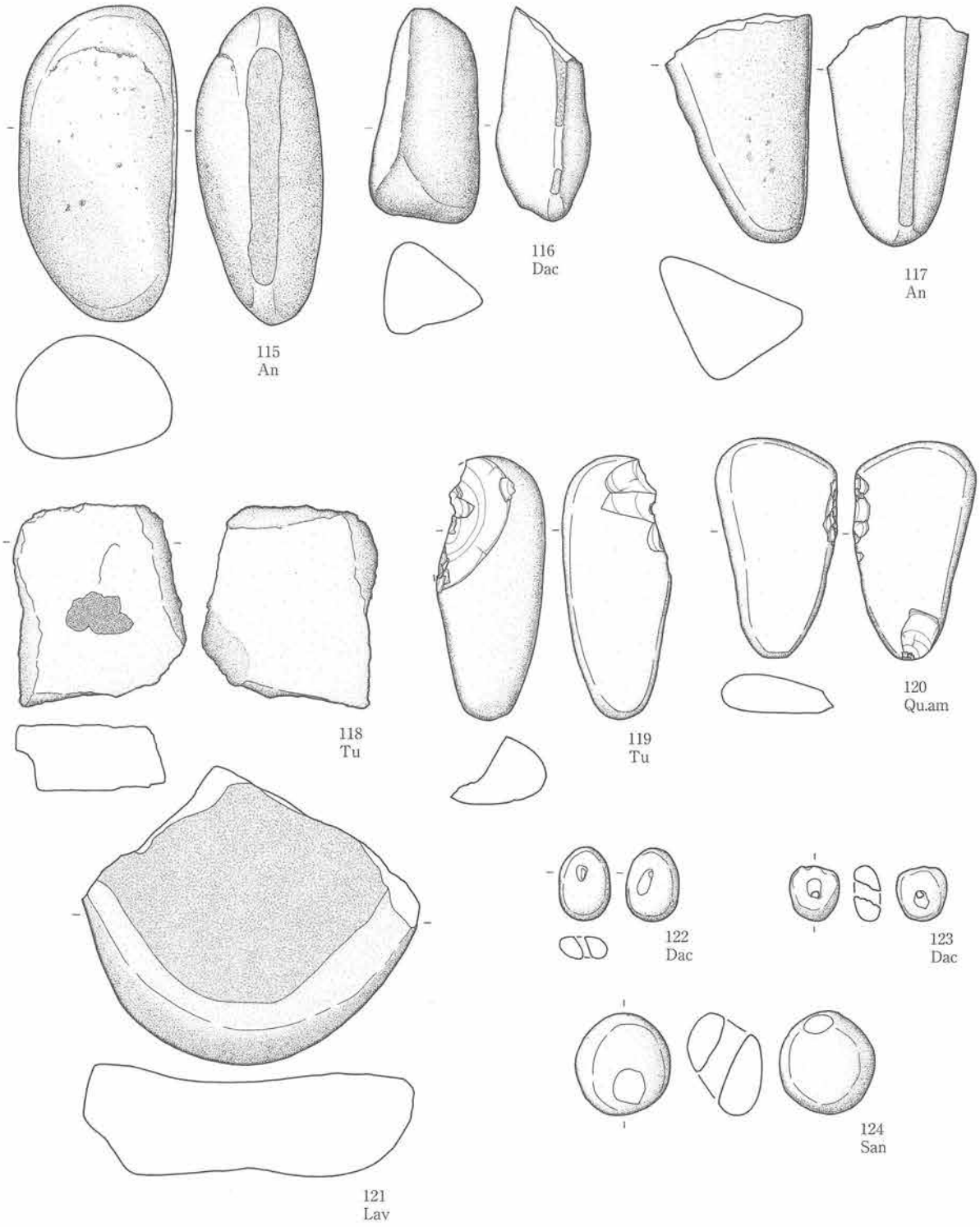
S=1/3

第29図　1号竪穴住居出土遺物（15）



S=1/3

第30図　1号竪穴住居出土遺物（16）



S=1/3

第31図　1号竪穴住居出土遺物（17）

2号竪穴住居跡（調査時には8号竪穴住居と登録）（第32～34図）

［検出位置］ＧＫ78・79、ＧＪ78・79、ＧＩ78・79グリッドに位置する。

［検出面］Ｖ層下部からⅥ層上面。本来は上層から掘り込まれていると思われるが層位は不明である。

［検出状況］1号竪穴住居跡と同様の状況で本遺構の存在を確認していた。本遺構も平面プランを把握できないことからサブトレンチを入れ、楕円形プランを呈することと壁の立ち上がりを確認して精査に入る。

［重複関係］1号竪穴住居跡と重複するが本遺構の方が古い。

［規模］5.59×5.25m、深さは0.05～0.09mである。

［平面形］確認できたプランは不整楕円形を呈する。

［埋土］黒褐色シルト層主体で4層に分層される。

［床面・壁］床面は若干北に向かって緩やかに傾斜していくが、ほぼ平坦である。確認できた壁は0.05～0.12m、ほぼ垂直に立ち上がる。

［柱穴］8個検出され、壁の付近に配置されている。配置されている柱穴の規模や形状等に類似性は認められない。

［遺物］土器96点、石器37点が出土している。125は口縁部と126は頸部～体部で大木6式に比定される。127・128は不定形石器。Ⅰ類（128）とⅡ類（127）である。129は円盤状の石核で打面を周回させ表裏面において剥片剥離作業が行われている。130・131の石錘はⅠ類（130）とⅡ類（131）が見られる。礫石器は6点出土しており以下の各類が確認されている。Ⅰ類（132）、Ⅳ類（134）、Ⅵ類（133）Ⅶ類（135）、ＸⅢ類（136・137）である。剥片石器は頁岩、礫石器はデイサイトや安山岩を使用している。

［遺構時期］縄文時代前期末から中期初頭に所属する。

3号竪穴住居跡（調査時には4号竪穴住居と登録）（第35・36図）

［検出位置］ＧＫ79、ＧＬ78・79、ＧＭ78・79、ＧＮ78・79グリッドに位置する。

［検出面］Ⅲ層。

［検出状況］包含層のⅢ層上面にて遺構検出を行った際に、焼土と柱穴が複数確認されたため遺構検出作業を行った。その結果、焼土の周辺に楕円形に配置された柱穴を確認し、本遺構は床面のみ残存していることを確認して精査に入る。

［規模］柱穴から確認できた規模は8.18×4.44mである。

［平面形］柱穴の配置状況から楕円形を呈するものと思われる。

［埋土］柱穴の埋土主体層はすべて黒褐色シルト層が主体である。

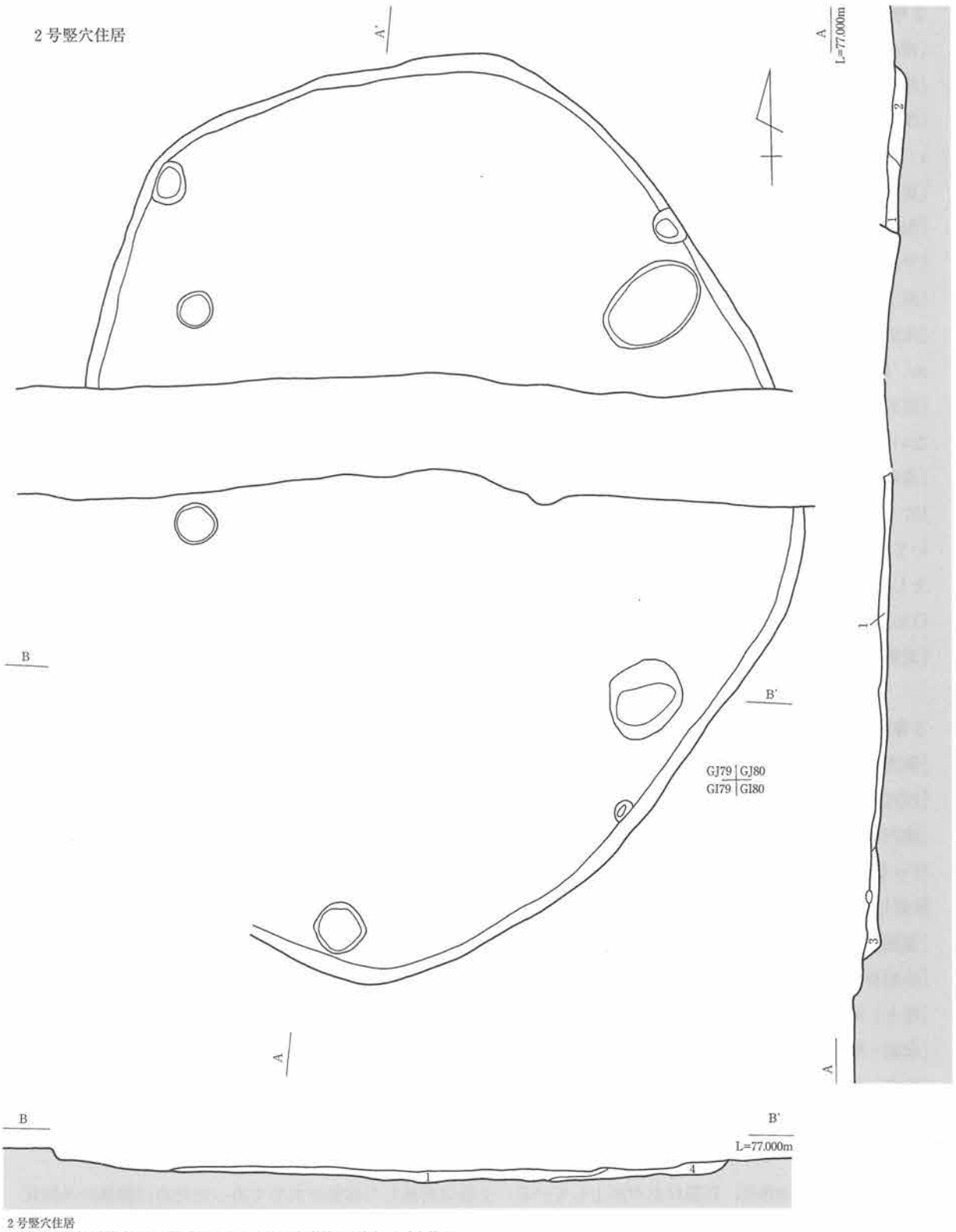
［床面・壁］床面・壁共に確認されなかった。

［柱穴］13個検出され、楕円形状に配置されているが規模や形状共に類似していない。

［炉］柱穴範囲のほぼ中央に地床炉が1基確認された。平面形は円形を呈する。規模は0.68×0.68m、厚さは0.21mである。

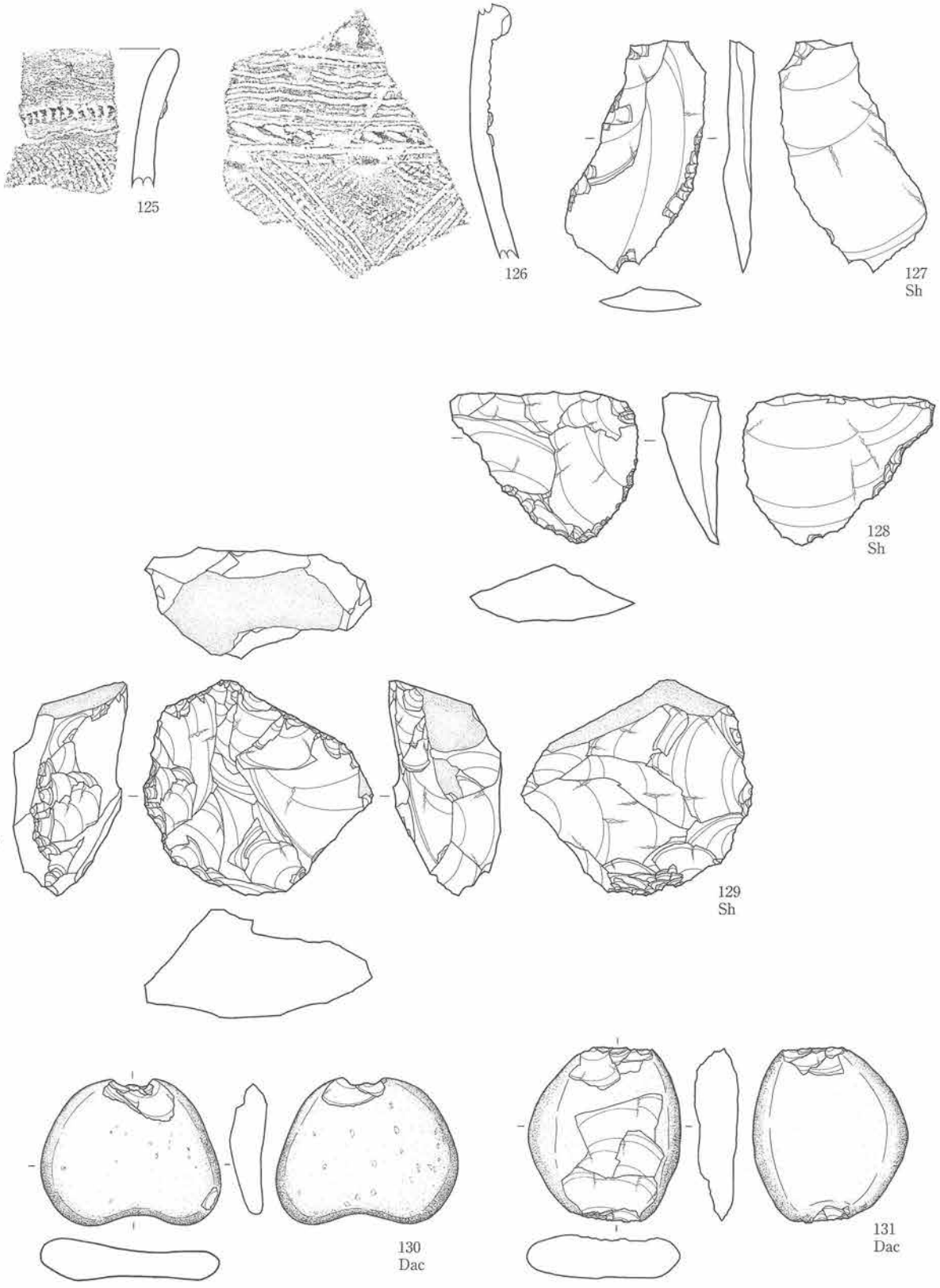
［出土遺物］土器395点、石器14点が出土している。土器は磨滅した体部が大半であったため口縁部のみ図化した。138・139は口縁部で、前者は大木6式、後者は大木6～7ａ式に比定される。140～142の石鏃はすべてⅣ類である。143の石匙はⅡ類である。144はスクレイパー、145は不定形石器である。146は石錘。147は礫石器Ⅰ類である。剥片石器の使用石材は頁岩や凝灰岩である。

［遺構時期］縄文時代前期末から中期初頭に所属する。



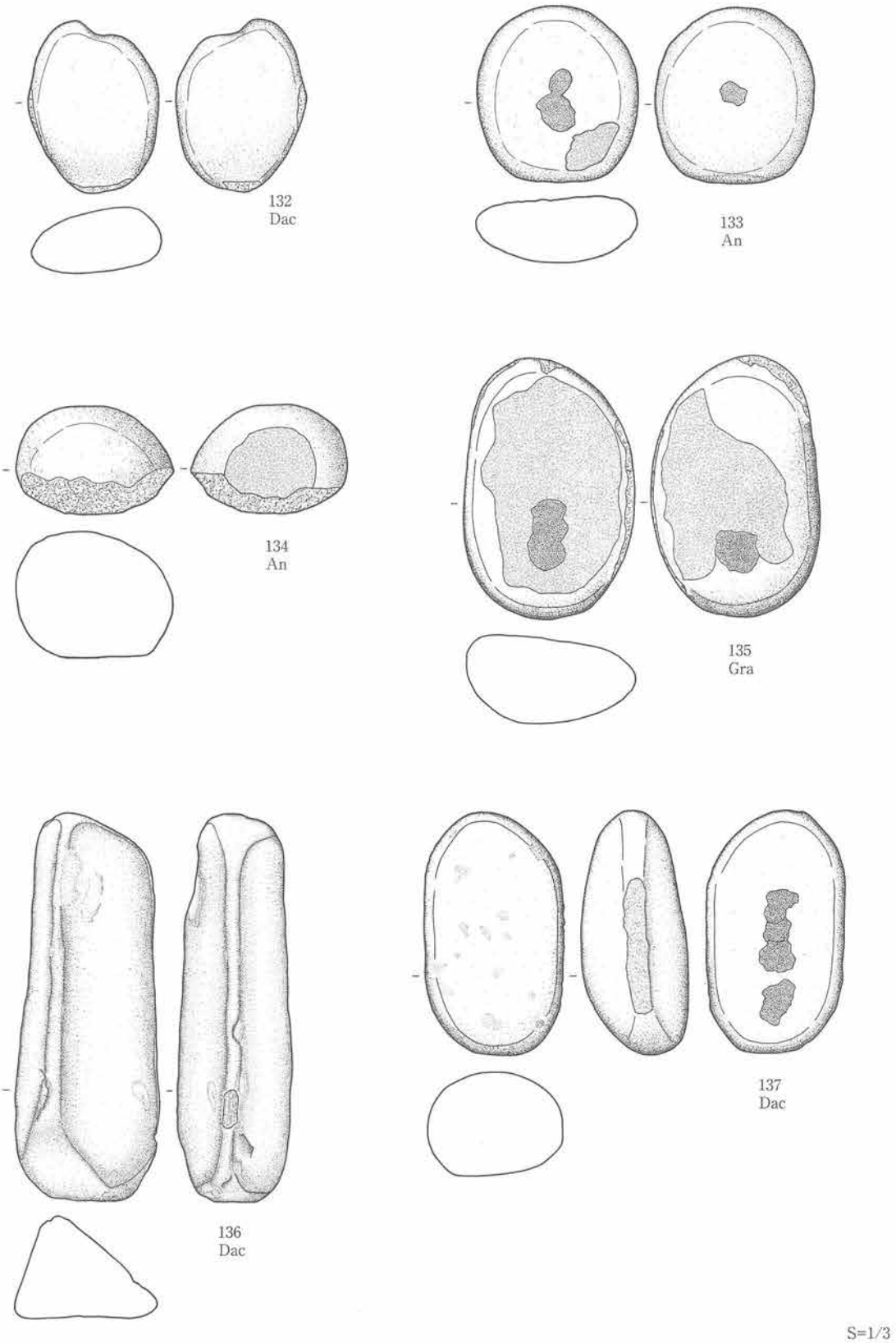
2号竪穴住居
1　にぶい褐色～黒褐色シルト層（10YR5/4～10YR3/2）粘性やや強く、しまり強い。
2　褐色シルト層（10YR4/4）粘性並、しまりやや強い。
　直径5～10mmの焼土ブロックが混入。
3　暗褐色シルト層（10YR3/3）粘性やや強く、しまり並。
　地山崩落土を少量含む。
4　3層に近いが、シルト層の粘性、しまり共に弱い。

第32図　2号竪穴住居



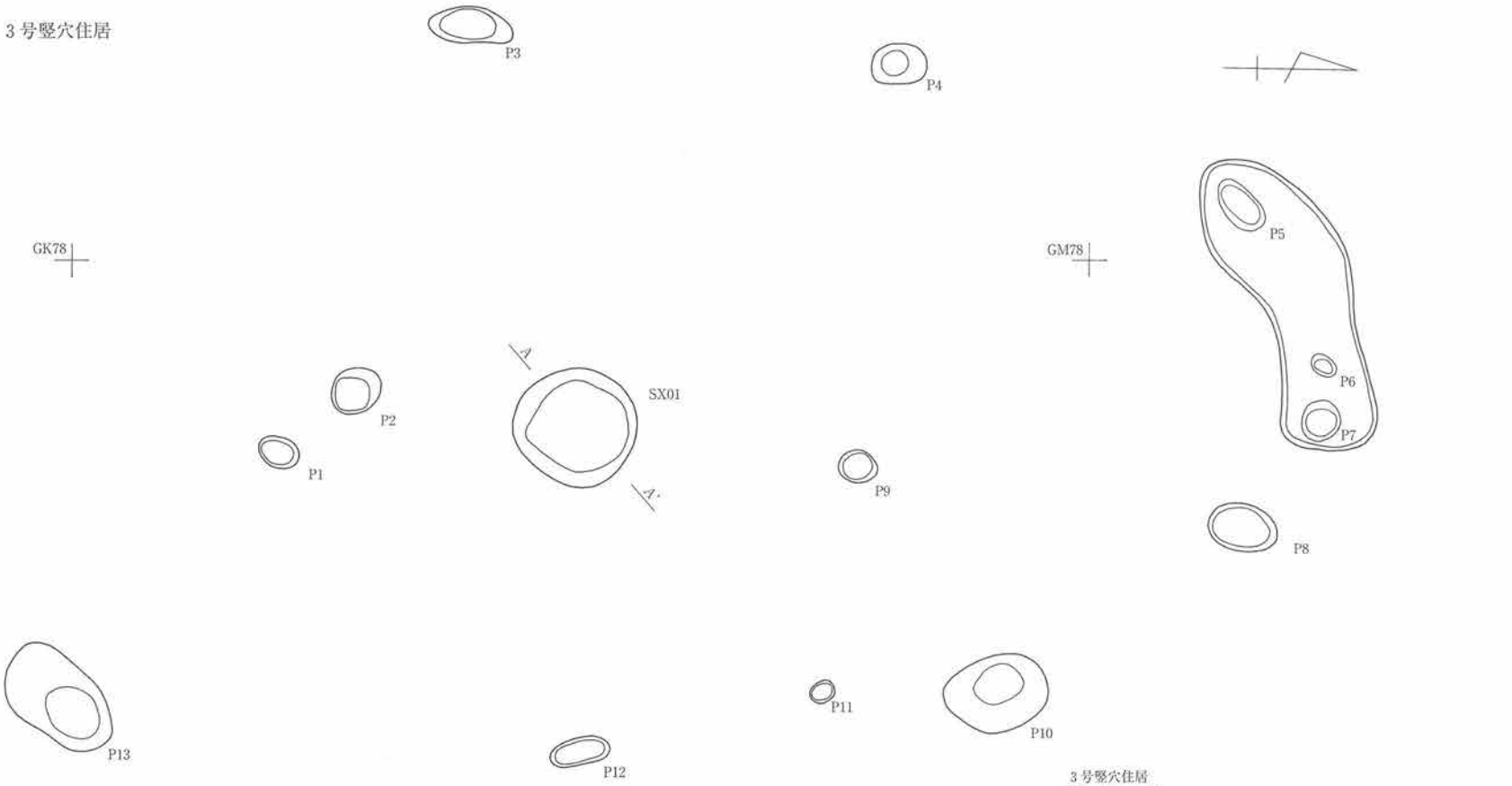
127～129　S=4/5
他　S=1/3

第33図　2号竪穴住居出土遺物（1）

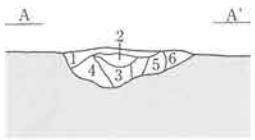


第34図　2号竪穴住居出土遺物（2）

3号竪穴住居

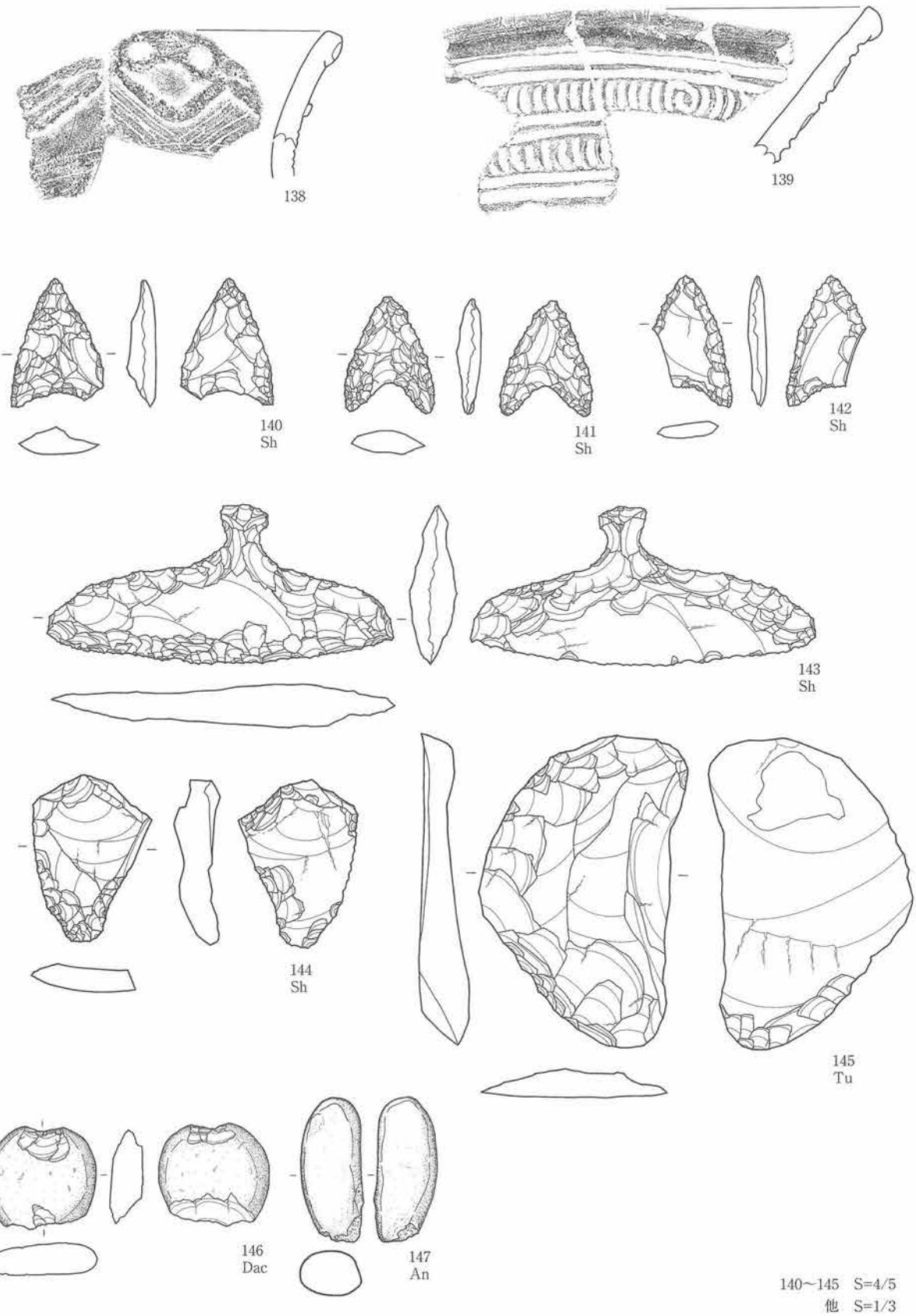


3号竪穴住居
柱穴（P1～13）
1　黒褐色シルト層（10YR2/2）粘性やや強く、しまり並。
　基本的には類似しているが若干異なる。



SX01
1　赤褐色シルト層（5W4/8）粘性やや強く、しまり強く。
2　赤褐色シルト層（2.5YR4/6）粘性やや強く、しまり強い。焼土。
3　褐色シルト層（7.5YR4/4）粘性、しまり共に強い。
　焼土ブロック少量含む。
4　褐色シルト層（7.5YR4/4）粘性、しまり共に強い。
5　暗褐色シルト層（10YR3/4）粘性、しまり共に並。
6　褐色シルト層（7.5YR4/4）粘性、しまり共に強い。
　地山崩落土を少量含む。

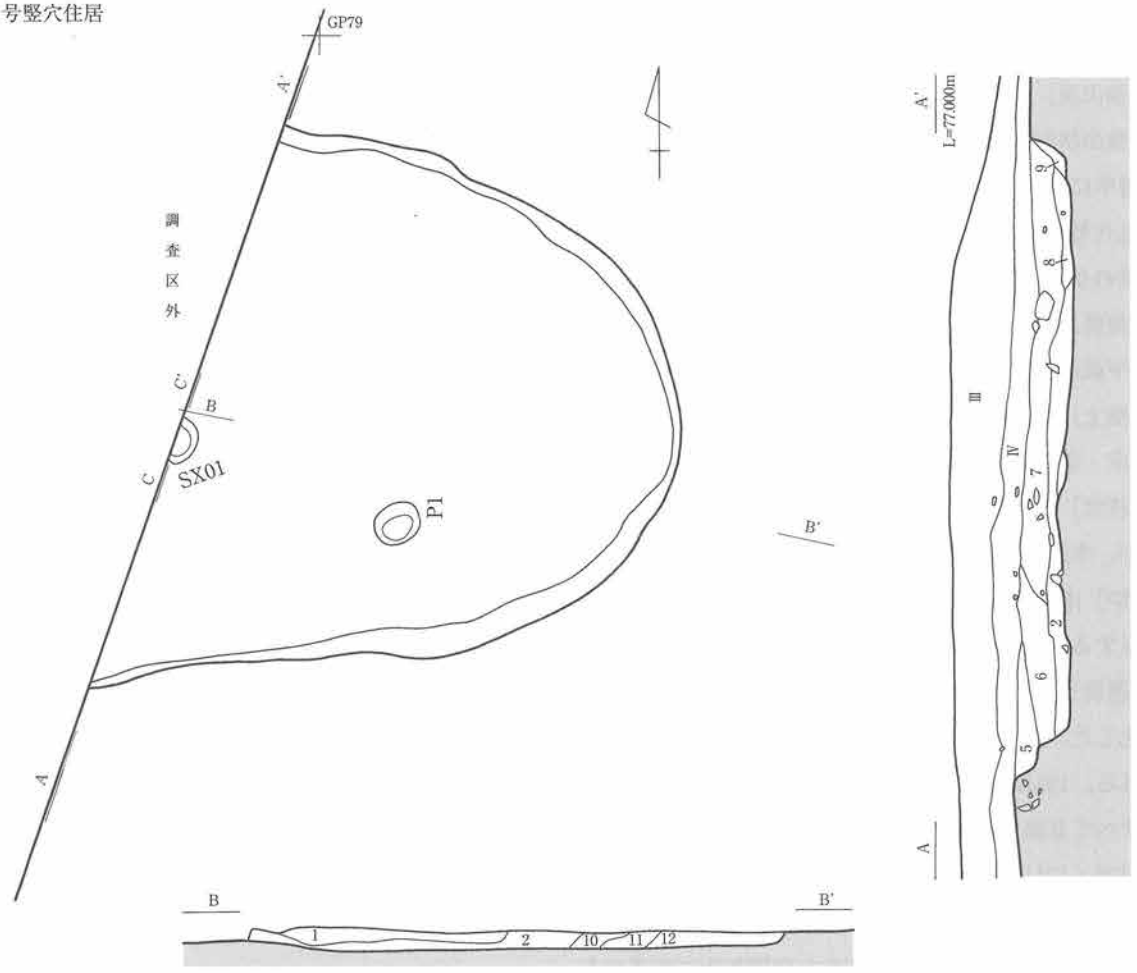
第35図　3号竪穴住居



140～145　S=4/5
他　S=1/3

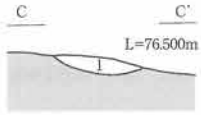
第36図　3号竪穴住居出土遺物

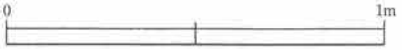
4号竪穴住居



4号竪穴住居
1　暗褐色シルト層（10YR3/3）粘性やや弱く、しまり強く。
　φ5～10mmの焼土を少量含む。
2　黒褐色シルト層（10YR2/2）粘性並、しまりやや強い。
　φ5～10mmの焼土をやや多く含む。
　地床炉周辺は焼土ブロックが多く、その広がりが見られるが、
　本層として扱う。
3　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性並、しまりやや強い。
　φ5mmの焼土、炭化粒を微量に含む。
4　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性、しまり共にやや強い。
　φ10mmの焼土を微量に含む。
5　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性強く、しまりやや強い。
6　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性、しまり共に並。
　φ5～10mmの焼土、炭化粒を微量に含む。
7　暗褐色シルト層（10YR3/4）粘性強く、しまり並。
　φ10mm前後の焼土、炭化粒を少量含む。
8　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性強く、しまり並。
　φ5mmの焼土、炭化粒を微量に含む。
9　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性強く、しまり並。
　φ5～10mmの焼土ブロックを少量含む。
10　暗褐色シルト層（10YR3/3）粘性やや強く、しまり並。
　φ5～10mmの炭化粒を少量含む。
11　暗褐色シルト層（10YR2/2）粘性やや強く、しまりやや弱い。
　φ5～10mmの焼土、炭化粒を並含む。
12　暗褐色シルト層（10YR2/3）粘性やや弱く、しまり並。
　φ3～5mmの焼土、炭化粒を微量含む。

SX01
1　赤褐色シルト層（5YR4/6）





第37図　4号竪穴住居

4号竪穴住居跡（調査時には5号竪穴住居と登録）（第37～40図）

［検出位置］ＧＮ78・79、ＧＯ78・79グリッドに位置する。

［検出面］Ⅲ層。西壁断面よりその掘り込み面を確認する。

［検出状況］調査区北側に包含層の層位観察用にサブトレンチを入れた結果、本遺構の地床炉となる焼土をⅢ層中に存在することを確認していた。しかし、その段階ではただ焼土が単独で存在するものと把握していた。包含層を焼土より若干高いⅢ層下位まで掘り下げ、西壁と直行するようにサブトレンチを入れたことから、壁の立ち上がりと半楕円形の平面プランを確認して精査に入る。

［規模］3.14×2.56m、深さは0.19～0.28mである。

［平面形］調査区外に延びていくため全容は不明であるが、確認できた平面形は楕円形を呈する。

［埋土］黒褐色～暗褐色シルト層主体で12層に分層される。

［床・壁］床面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がる。

［柱穴］１個検出されている。また、Ⅵ層上面で確認した柱穴においても埋土主体層の存在から検討してみたが、本遺構に配置される柱穴かどうかは不明である。

［炉］床面のほぼ中央で地床炉が１基検出された。調査区外に延びていくため全容は不明であるが、楕円形を呈すると思われる。確認できた規模は0.24×0.12m、厚さは0.05mである。

［遺物］土器898点、石器25点が出土している。土器は磨滅している体部がほとんどで、代表的なもののみ図化した。148～154は深鉢。149は大木６式、151～153は大木７ａ式、154は大木７ａ～ｂ式にそれぞれ比定される。155はミニチュア土器である。156は板状土偶の頭部、157はボタン状土製品である。158～162は石錘。すべてⅡ類である。礫石器は13点出土し以下の各類が確認されている。Ⅰ類（163～167）、Ⅲ類（168）、Ⅳ類（170・171）ＸⅢ類（169・172～174）で、Ⅰ類が多く出土している。石錘と礫石器の石材は共にデイサイトを主体としている。

［遺構時期］縄文時代前期末から中期初頭に所属する。

5号竪穴住居跡（調査時には6号住居と登録）（第41～47図）

［検出位置］ＧＬ81、ＧＫ81・82、ＧＪ81・82グリッドに位置する。

［検出面］Ⅲ層。

［検出状況］１号溝精査中に調査区南端において焼土混じりの土を一部確認できたことから、竪穴住居跡が存在するものと考えていた。しかし、Ⅲ層上面においては本遺構のプランを確認できないでいた。調査区北側から包含層を掘り下げた結果、地山から柱穴や焼土が検出されたことから再度精査を行ったところ、壁の立ち上がりを確認できたため竪穴住居跡として精査を行う。

［重複関係］１号溝と重複しているが本遺構の方が古い。

［規模］確認できた規模は東西1.94m、深さは0.26mである。

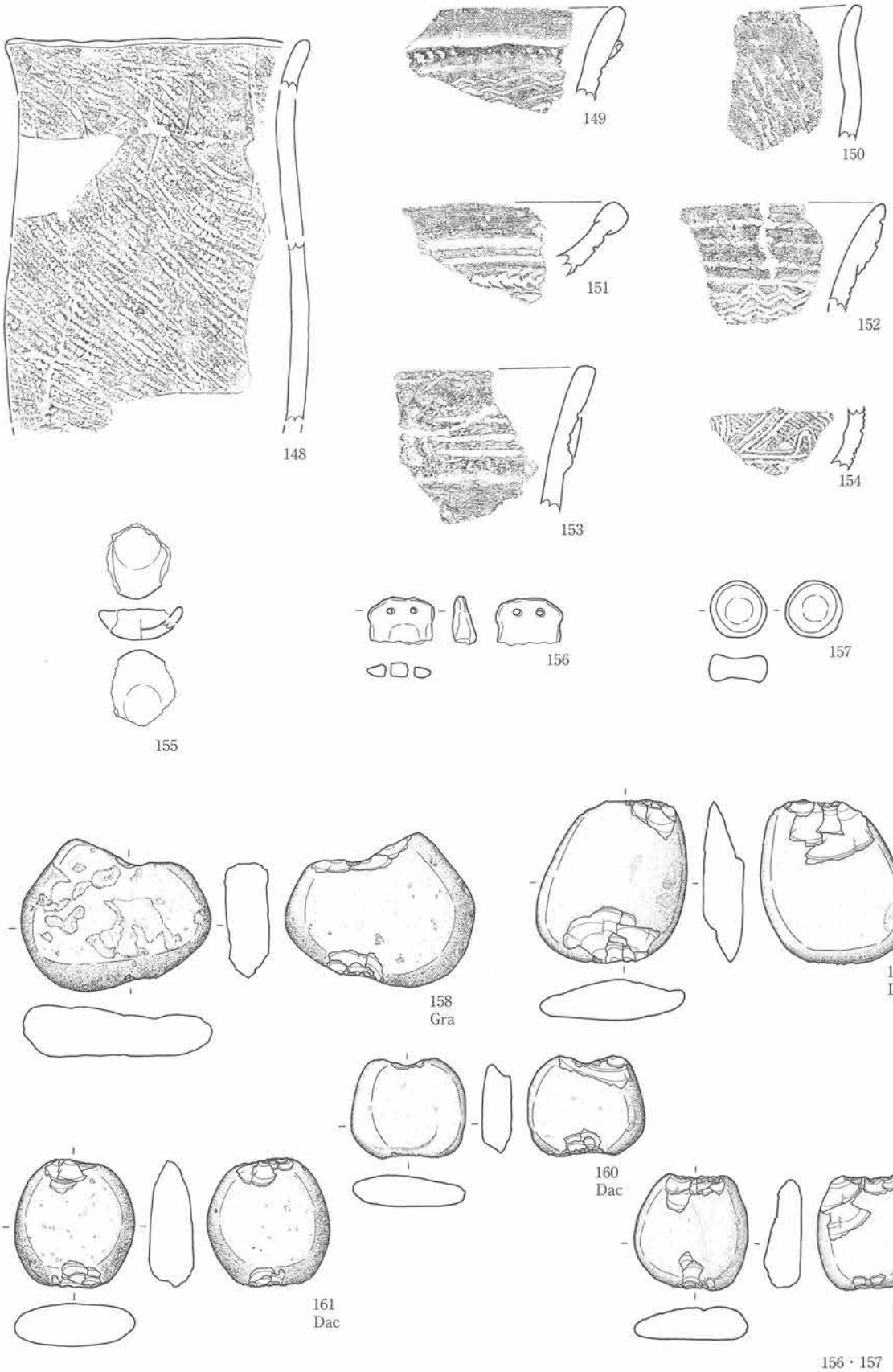
［平面形］削平を受けているため全容は不明であるが、確認できた平面形は半楕円形を呈する。

［埋土］暗褐色シルト層主体で５層に分層される。

［床面・壁］床面はほぼ平坦で、壁際に向かって若干傾斜している。壁は外傾して立ち上がる。

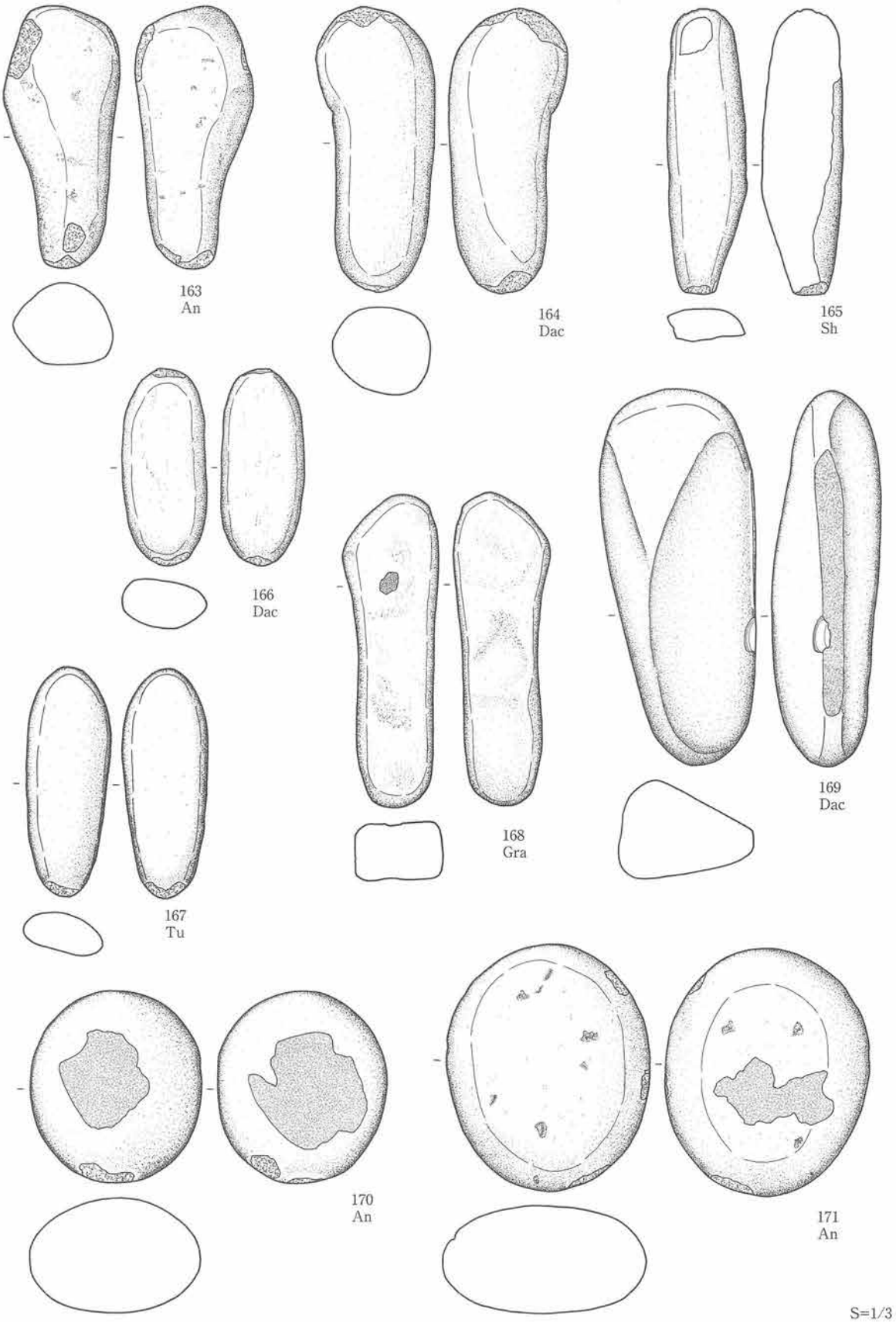
［柱穴］４個検出された。規模や形状共に類似せず、配置に規則性は認められない。

［炉］地床炉１基検出された。平面形は楕円形を呈する。規模は0.54×0.22m、厚さは0.14mである。

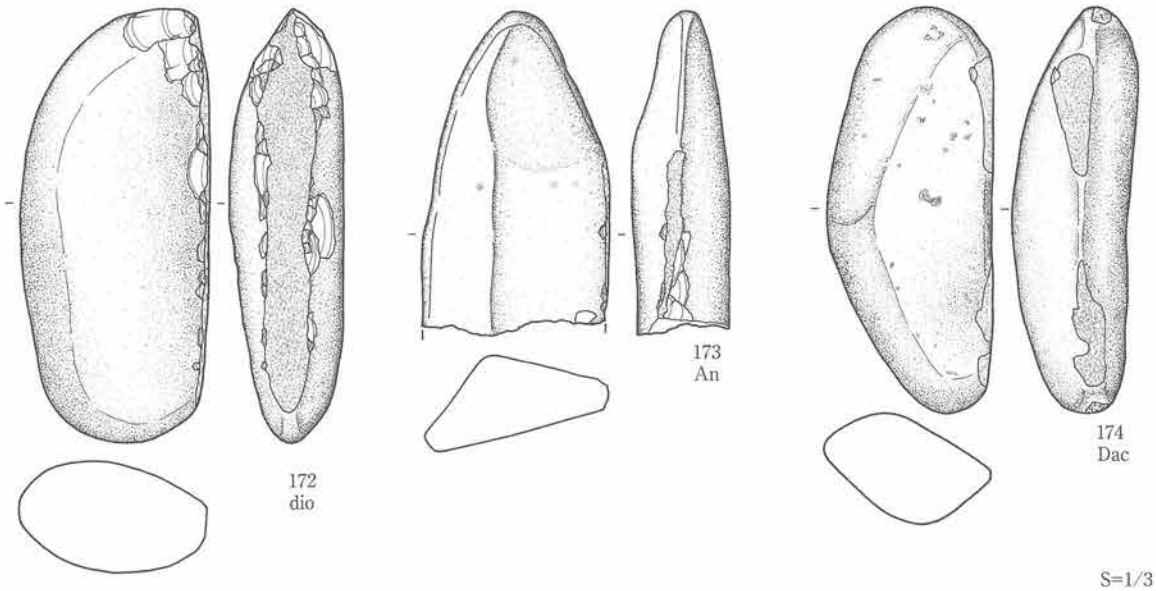


156・157　S=1/2
他　S=1/3

第38図　4号竪穴住居出土遺物（1）



第39図　4号竪穴住居出土遺物（2）



第40図　4号竪穴住居出土遺物（3）

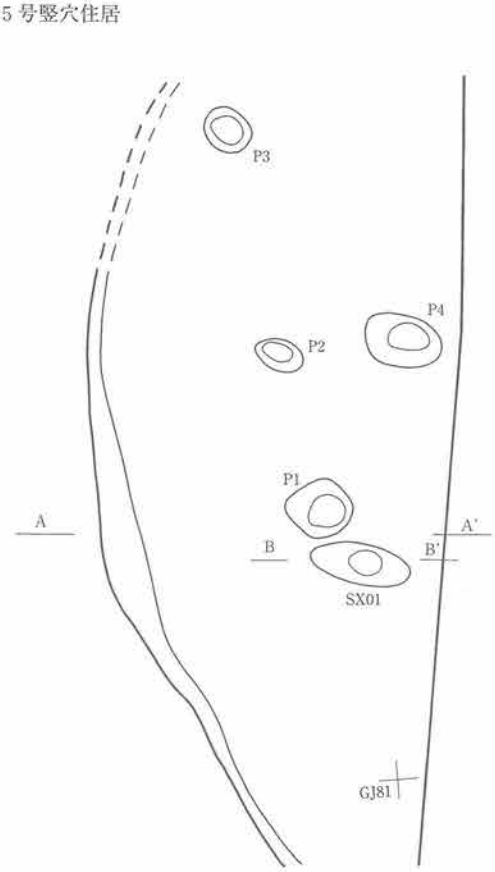
［遺物］土器181点、石器87点が出土している。175～192は深鉢。175・177・181・182・184・186・188・190・191は大木6式、187は大木6～7a式、180は大木7a式、189は大木2式、それ以外の176・178・179・183・185・192は大木6式か7a式に比定される。193・194は石鏃のⅣ類である。195～198は石匙。Ⅰ類とⅢ類が2点ずつ出土している。201はスクレイパーである。199・200・202～206は不定形石器。Ⅰ類の占める割合が高い。207～209は石核。207は分厚い剥片を素材とし一定方向から打面を後退させながら、208は素材は不明であるが上下に打面を設定し180度転移させながら、それぞれ連続して剥片剥離を行っている。前者は自然面を有しているが、後者は残存していない。209は打面を頻繁に転移させ剥離作業を行っており、同一打面において連続して剥離する回数は極めて少ない。210は頁岩製磨製石斧である。211は石錘である。礫石器は19点出土し以下の各類が見られる。Ⅰ類（212～215）、Ⅲ類（216）、Ⅴ類（217・218）、Ⅵ類（219）、Ⅷ類（220）、Ⅸ類（222）、ⅩⅠ類（221）、ⅩⅢ類（223～227）である。他の住居と同様Ⅰ類とⅩⅢ類の占める割合は高い。228は頁岩製垂飾石製品である。剥片石器は頁岩が主体であるが、石核はそれ以外に瑪瑙や安山岩なども用いられている。礫石器はデイサイトが主体である。

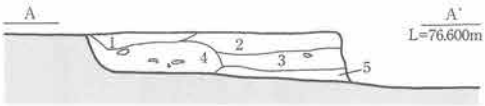
［遺構時期］縄文時代前期末から中期初頭に所属する。

6～10号竪穴住居跡（第47図）

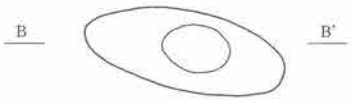
［検出面・検出状況］Ⅳ層下位やⅤ層下位にまで掘り下げた後、柱穴・焼土の配置から竪穴住居の平面プランの推定したため提示しておく。ただし。今回は柱穴の標高や埋土主体層等からの検討は行っていない。ここで報告するのは6～10号竪穴住居で、下記にその形状及び規模を提示しておく。これらの検出面はⅤ層下位からⅥ層上面である。

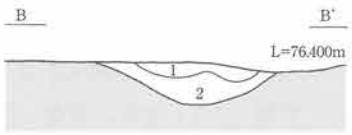
5号竪穴住居





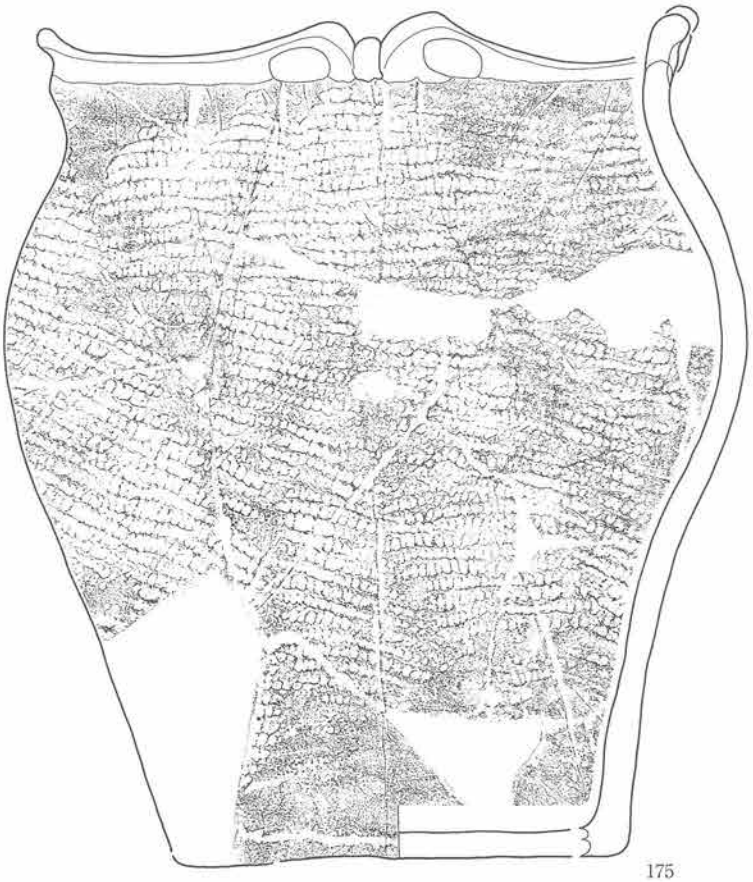
5号竪穴住居
1　黒褐色シルト層（10YR2/3）粘性やや強く、しまり強い。φ3mm前後の焼土、炭化粒を微量含む。
2　暗褐色シルト層（10YR3/3）粘性、しまり共。φ5～10mmの炭化粒を微量含む。
3　暗褐色シルト層（10YR2/2）粘性やや強く、しまり並。φ5～10mmの焼土を微量含む。
4　暗褐色シルト層（10YR3/2）粘性並で、しまりやや弱い。φ5～10mmの炭化粒を微量含む。
5　暗褐色シルト層（10YR2/2）粘性やや弱く、しまり並。

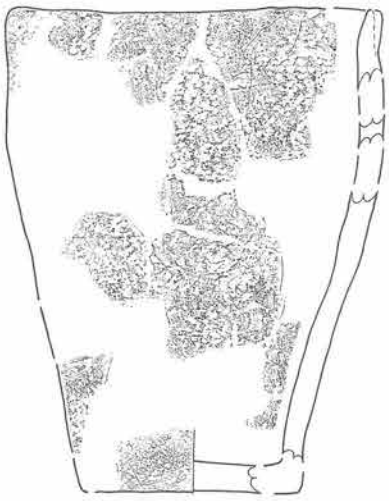


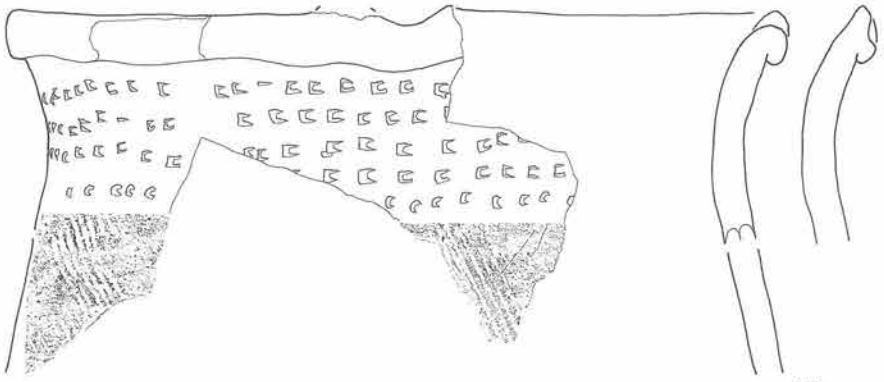


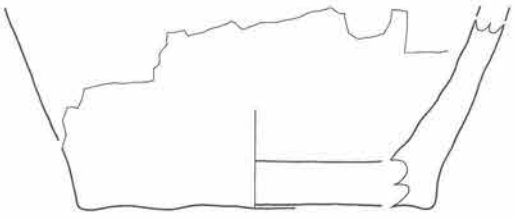
SX01
1　赤褐色シルト層（2.5YR4/6）粘性強く、しまりやや強い。焼土。
2　明褐色シルト層（7.5YR5/6）粘性強く、しまり弱い。5YR5/6を微量含む。

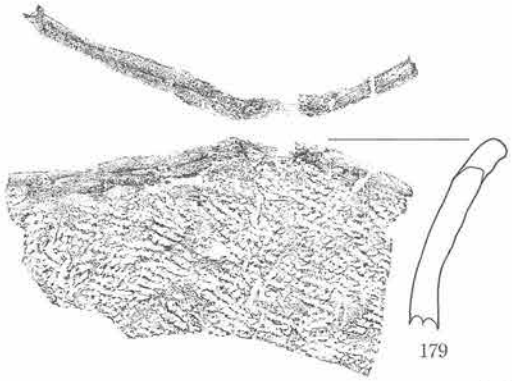
第41図　5号竪穴住居


175


176

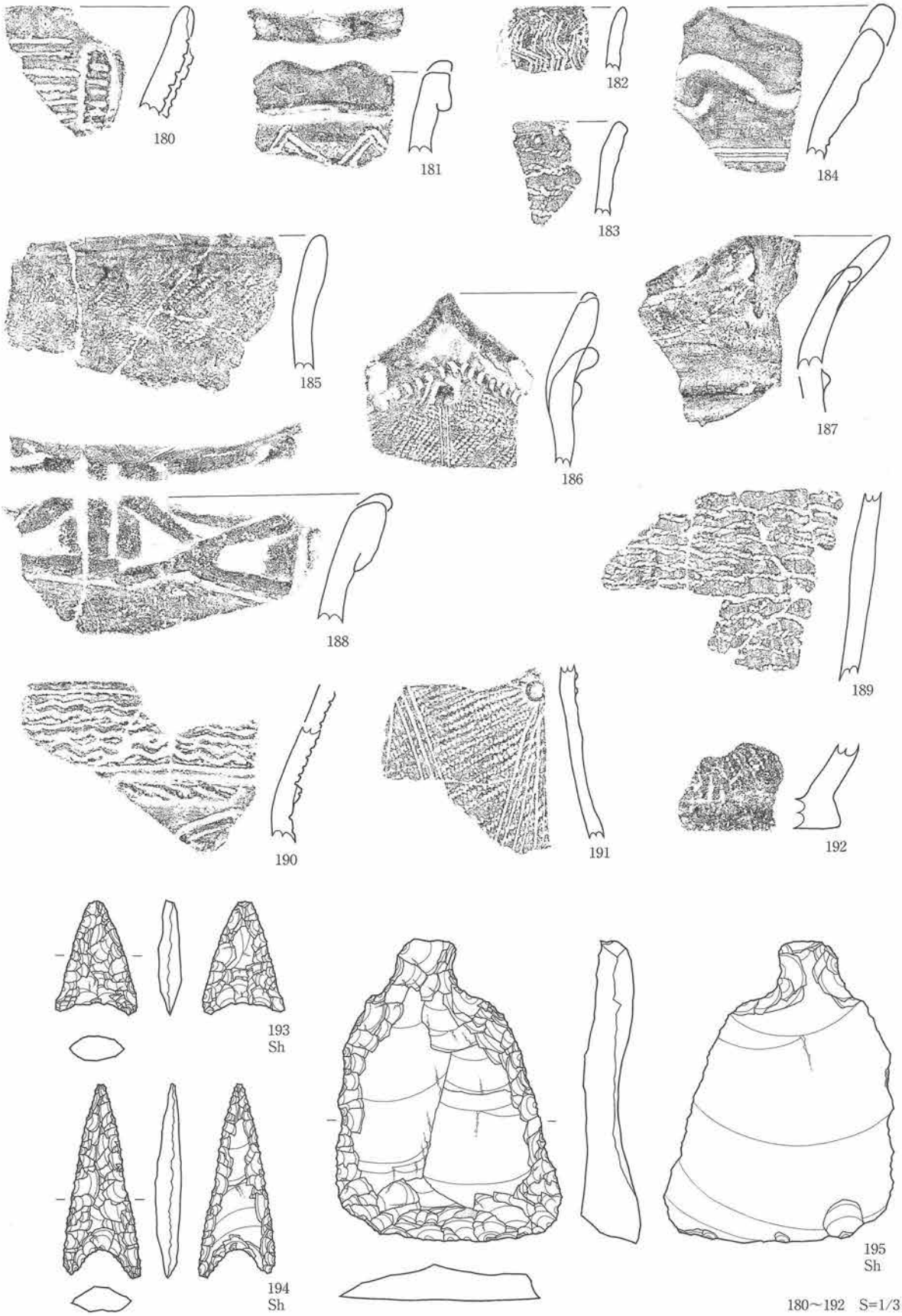

177


178


179

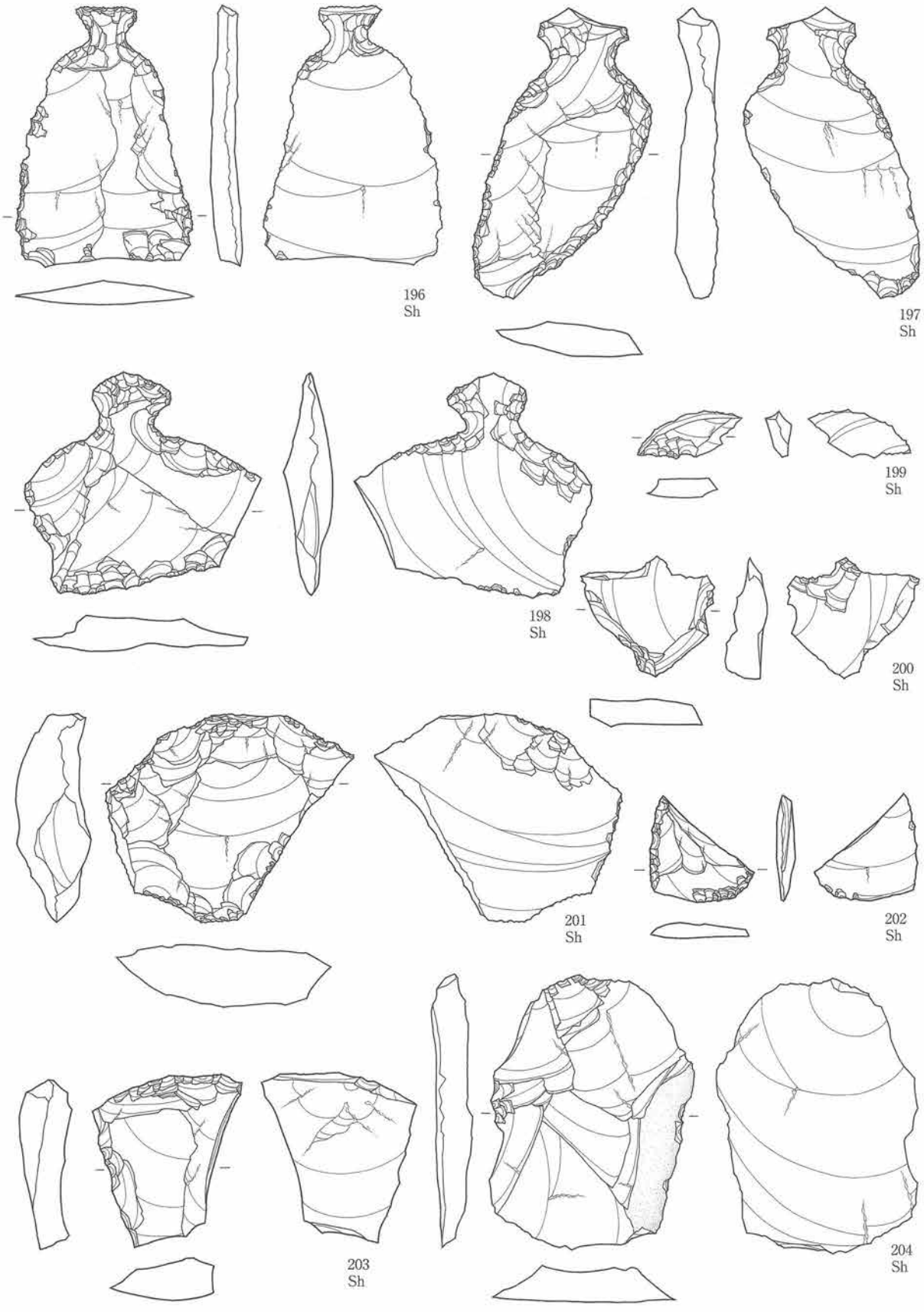
S=1/3

第42図　5号竪穴住居出土遺物（1）



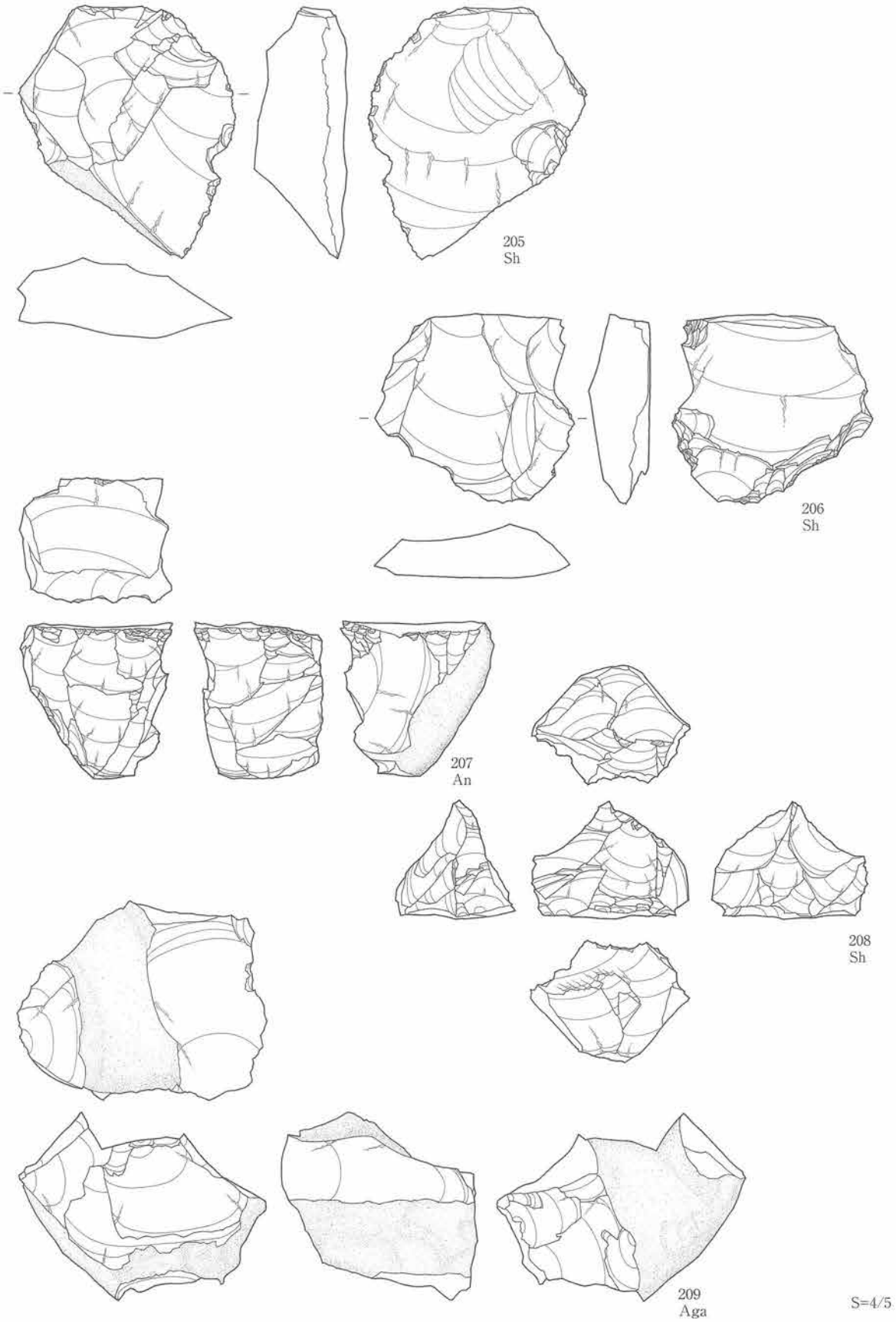
180～192　S=1/3
193～195　S=4/5

第43図　5号竪穴住居出土遺物（2）

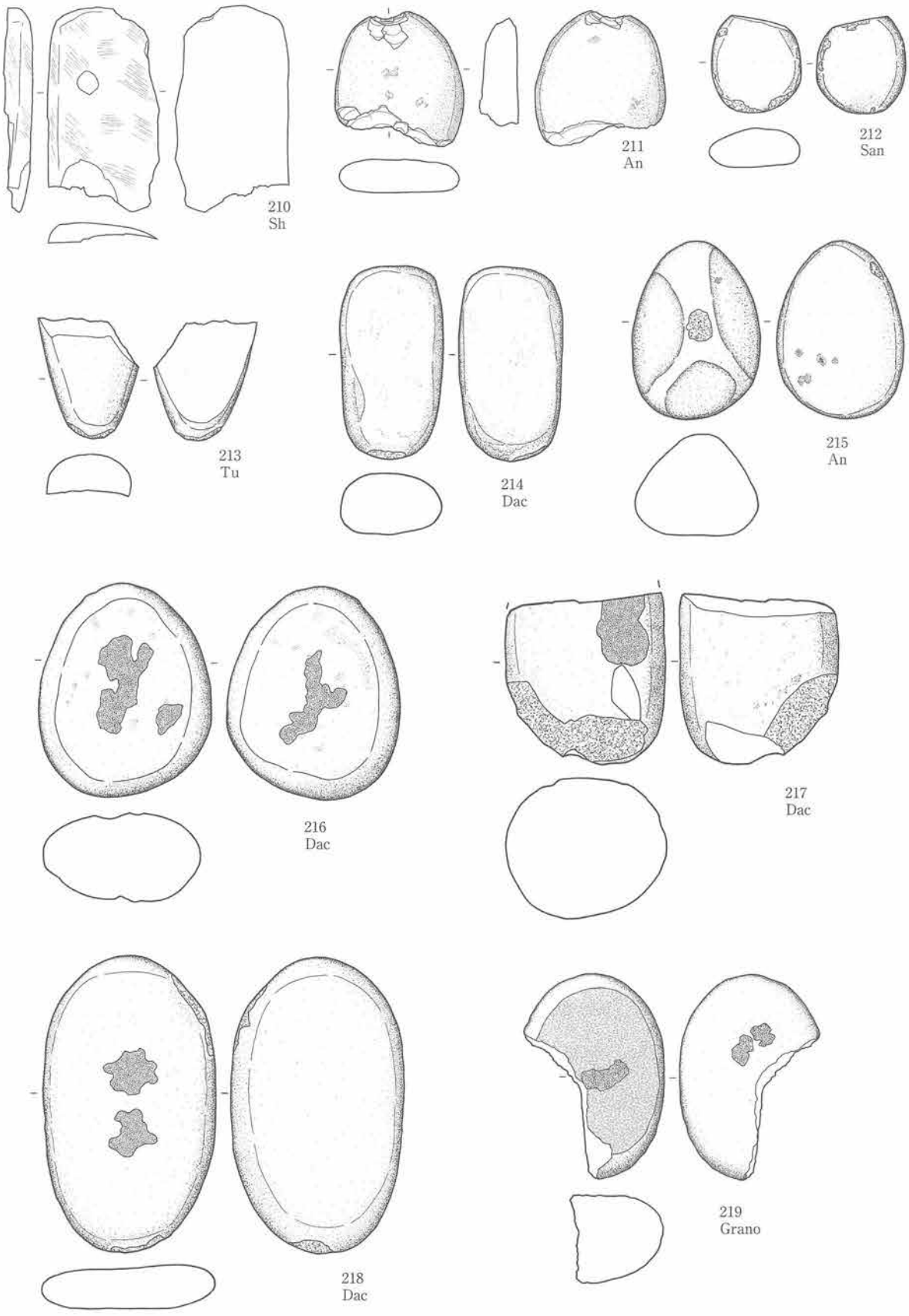


S=4/5

第44図　5号竪穴住居出土遺物（3）

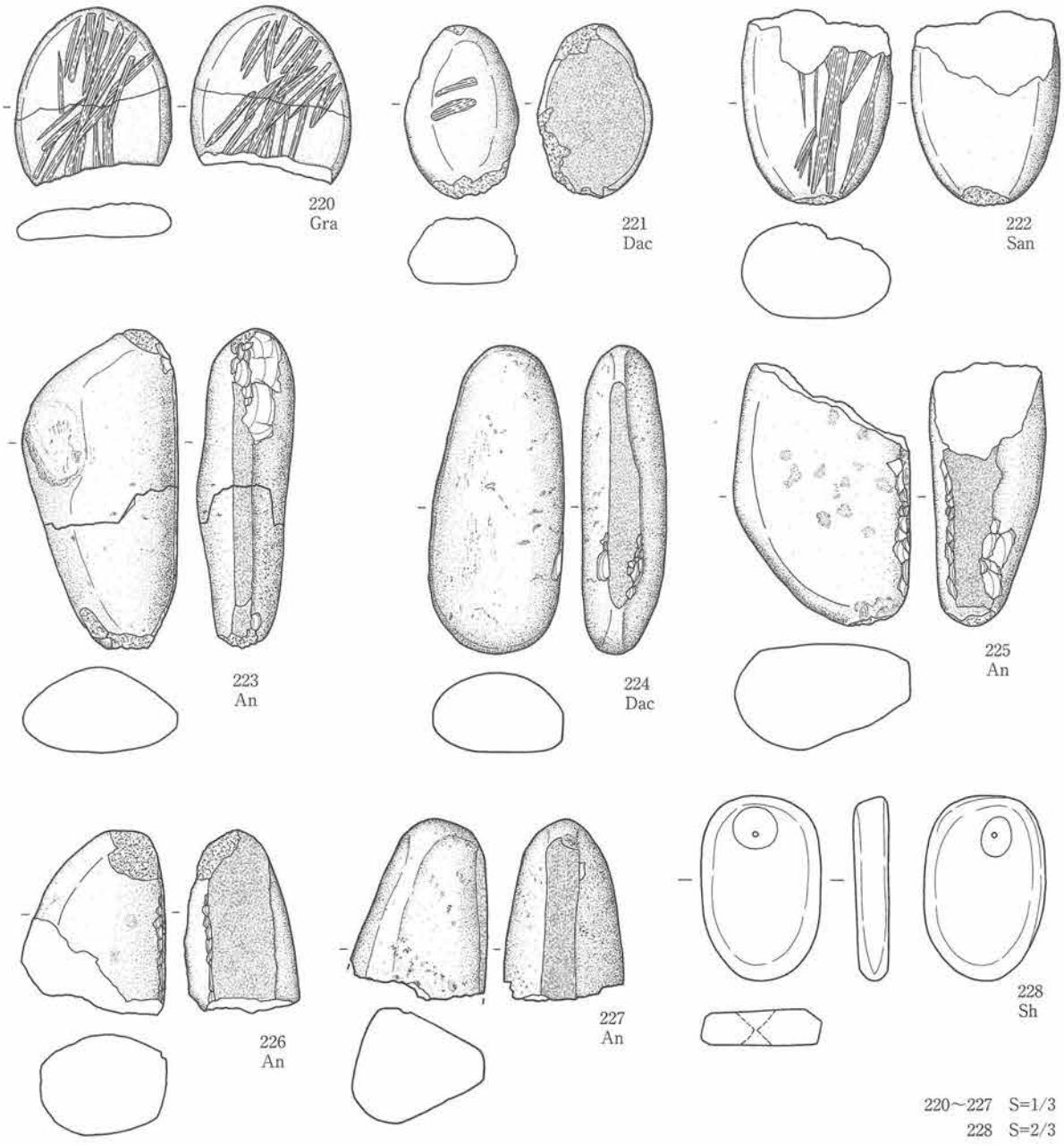


第45図　5号竪穴住居出土遺物（4）



S=1/3

第46図　5号竪穴住居出土遺物（5）



第47図　5号竪穴住居出土遺物（6）

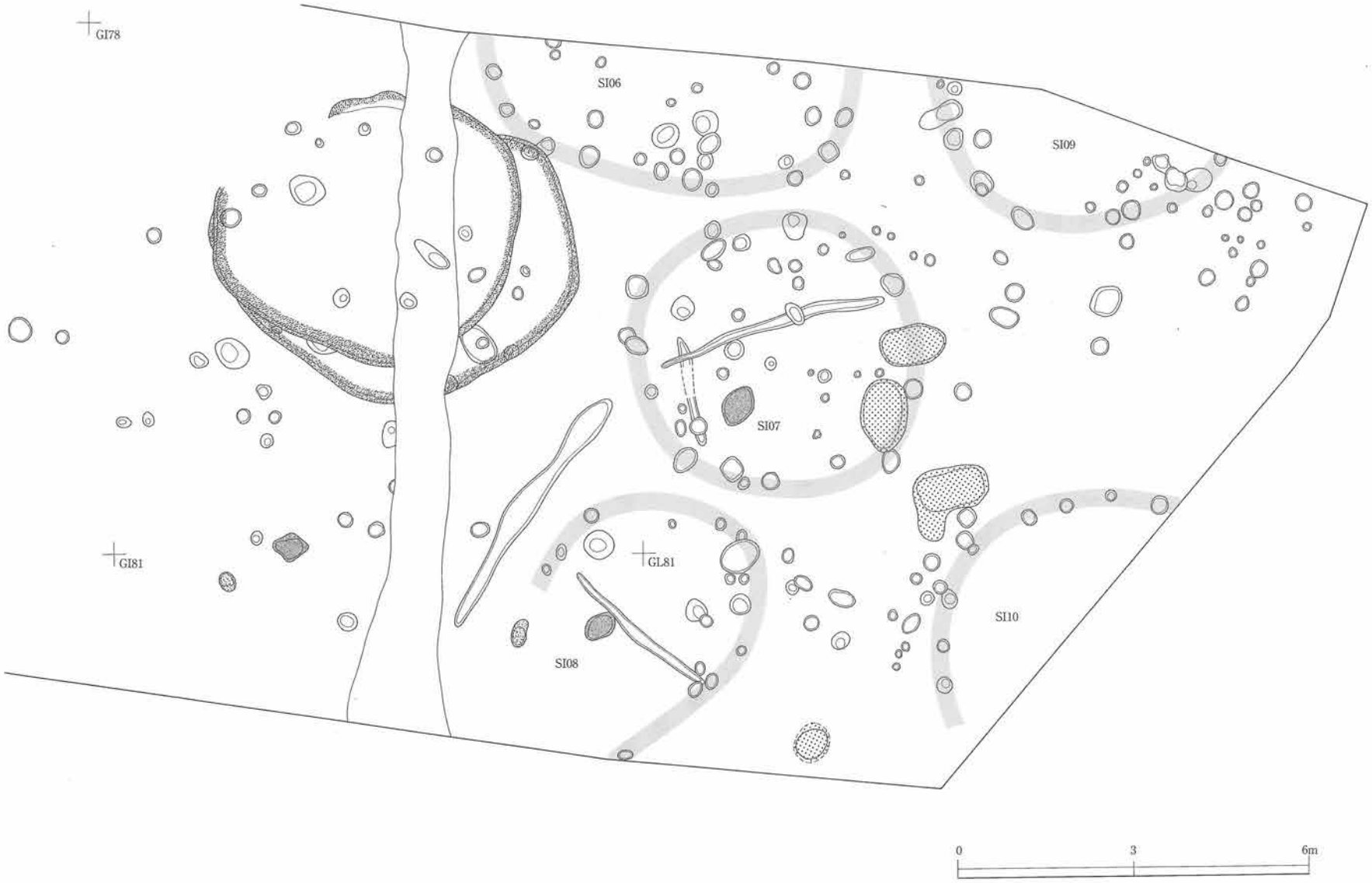
・6号竪穴住居はＧＫ・ＧＬ78に位置する。平面形は楕円形を呈する。規模は6.32×2.5mである。

・7号竪穴住居はＧＬ79・80、ＧＭ79・80に位置する。平面形は円形を呈する。規模は5.06×4.98mである。本遺構の南東寄りに5号焼土が位置する。

・8号竪穴住居はＧＬ80・81、ＧＫ80・81に位置する。平面形は楕円形を呈する。規模は4.52×3.94mである。本遺構のほぼ中央に4号焼土が位置する。

・9号竪穴住居はＧＭ78・79、ＧＮ78・79に位置する。平面形は円形を呈する。規模は5.09×2.32mである。

・10号竪穴住居はＧＭ80・81、ＧＮ80・81に位置する。平面形は円形を呈する。規模は5.23×2.24mである。



第48図　6～10号竪穴住居配置図

2）焼土

1号焼土（第49図）

［検出位置］ＧＭ81グリッドに位置する。

［検出面］Ⅲ層上面。

［規模］1.02×0.76m、層厚は0.1～0.16mである。

［平面形］不整形を呈する。

［埋土］暗褐色シルト層主体で８層に分層される。４層にあたる中央部が焼成を強く受けている。

［底面・壁］底面は凹凸があり、若干北側が深くなっている。壁は緩やかに立ち上がる。

［遺物］土器74点、石器は剥片１点のみの出土である。229は所属時期不明の口縁である。他の土器は磨滅しているものが大半である。

［遺構時期］縄文時代前期末～中期初頭に所属する。

2号焼土（調査時には３号焼土と登録）（第49図）

［検出位置］ＧＭ81グリッドに位置する。

［検出面］Ⅲ層上面。

［検出状況］Ⅲ層中を掘り下げを行っている際に楕円形プランを呈した焼土範囲を確認できたことより精査に入る。

［重複関係］５号埋設土器と重複し、本遺構の方が新しい。

［規模］0.56×0.42m、層厚は0.08mである。

［平面形］楕円形を呈する。

［埋土］赤褐～黒褐色シルト層が主体で４層に分層される。

［底面・壁］底面はほぼ平坦である。壁は外傾しながら立ち上がる。

［遺物］剥片が１点出土している。

［遺構時期］縄文時代前期末～中期初頭に所属する。

3号焼土（調査時には４号焼土と登録）（第49図）

［検出位置］ＧＪ80・81、ＧＩ80・81グリッドに位置する。

［検出面］Ⅲ層下位。

［検出状況］Ⅲ層中を掘り下げを行っている際に不整形プランを呈した焼土範囲を確認できたことより精査に入る。

［規模］1.06×0.99m、層厚は0.11mである。

［平面形］不整形を呈する。

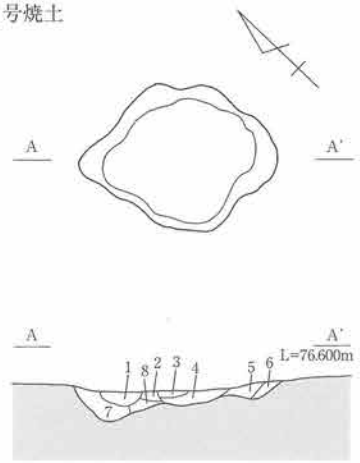
［埋土］赤褐～褐色シルト層主体で３層に分層される。中央部の１層が強く焼成を受けている。

［底面・壁］底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がる。

［遺物］石器が６点出土しており、230は礫器Ⅰ類でそれ以外のものは剥片である。

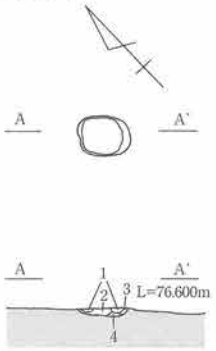
［遺構時期］縄文時代前期末～中期初頭に所属する。

1号焼土



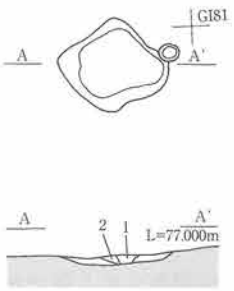
1号焼土
1　暗褐色シルト層（10YR3/3）粘性、しまりともに並。
2　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性やや強く、しまりやや弱い。
3　暗褐色シルト層（10YR3/4）粘性、しまり共にやや弱い。
4　暗赤色シルト層（10R3/6）粘性弱く、しまり強い。
5　暗褐色シルト層（10YR3/3）粘性やや弱く、しまり並。
6　暗褐色シルト層（10YR3/3）粘性やや弱く、しまりやや強い。
7　暗褐色シルト層（10YR4/3）粘性やや強く、しまりやや弱い。
8　にぶい黄褐色シルト層（10YR4/3）粘性やや強く、しまり並。

2号焼土



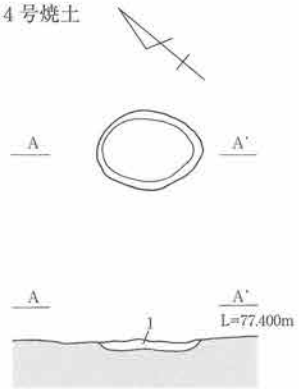
2号焼土
1　赤褐色シルト層（5YR4/6）粘性やや強く、しまり強い。
2　黒褐色シルト層（7.5YR3/2）粘性強く、しまりやや弱い。焼土ブロックが少量混入。
3　2層と同じだが、焼土ブロックがやや多く入る。
4　黒褐色粘土質シルト層（10YR2/2）粘性、しまり共にやや強い。

3号焼土



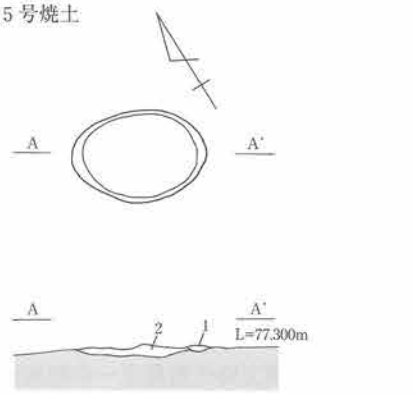
3号焼土
1　赤褐色シルト層（5YR4/6）粘性並、しまりやや弱い。
2　褐色シルト層（7.5YR4/6）粘性並、しまりなし。ブロック状に崩壊した焼土。

4号焼土



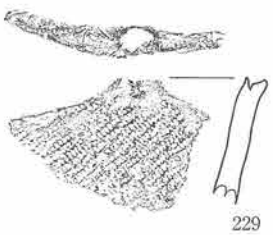
4号焼土
1　赤褐色シルト層（2.5YR4/8）粘性弱く、しまり強い。黒色土ブロックが混入する。

5号焼土

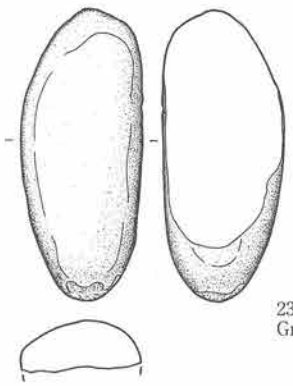


5号焼土
1　暗褐色シルト層（10YR2/2）粘性やや弱く、しまりやや強い。φ3～5mmの焼土、炭化粒を少量含む。
2　赤褐色シルト層（5YR4/8）粘性弱く、しまり強い。焼土。

SX01



SX03



S=1/3

第49図　1～5号焼土、出土遺物

4号焼土（調査時には6号焼土と登録）（第49図）

［検出位置］ＧＫ81グリッドに位置する。

［検出面］Ⅵ層上面。

［検出状況］本遺構は地山で遺構検出を行った際に、楕円形プランを呈した焼土範囲を確認できたことから精査に入る。

［規模］0.67×0.41m、層厚は0.06mである。

［平面形］楕円形を呈する。

［底面・壁］底面は皿状に窪んでいる。壁は緩やかに立ち上がる。

［埋土］赤褐色シルト層である。焼成を強く受けている。

［遺物］なし。

［遺構時期］縄文時代前期末～中期初頭に所属する。

5号焼土（調査時には8号焼土と登録）（第49図）

［検出位置］ＧＬ80グリッドに位置する。

［検出面］Ⅵ層上面。

［検出状況］本遺構は地山で遺構検出を行った際に、楕円形プランを呈した焼土範囲を確認できたことから精査に入る。

［規模］0.81×0.49m、層厚は0.06mである。

［平面形］楕円形を呈する。

［底面・壁］底面は皿状に窪んでいる。壁は緩やかに立ち上がる。

［埋土］赤褐色シルト層である。焼成を強く受けている。

［遺物］なし。

［遺構時期］縄文時代前期末～中期初頭に所属する。

3）埋設土器

1号埋設土器（第50・51図）

［検出位置］ＧＬ78グッリドに位置する。

［検出面］Ⅱ～Ⅲ層。

［検出状況］ＧＬ78グリッドをⅡ層からⅢ層にかけて西から東に向かって掘り下げを行っている時に、本遺構の存在を確認した。周辺を精査した結果、完形土器であることとプランを確認できたことから精査に入るが、掘り方の西半分の上端は消滅してしまった。また、断面図作成のため埋土を若干精査した結果、入れ子が存在することを確認した。

［埋設土器の状態］埋設土器は正立、入れ子は倒立していた。

［規模］掘り方の規模は0.43×0.28m、深さは0.26mである。

［平面形］掘り方の平面形は円形を呈する。

［底面・壁］掘り方の底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がるため、断面形は擂り鉢状を呈する。

［埋土］掘り方は暗褐色シルト層が主体で2層に分層される。土器内は土壌サンプル採取を優先しため分層はしていない。

［出土遺物］入れ子の外側から土器6点と石器5点が出土している。出土土器は磨滅しているため図化していない。231は埋設土器として使用され、深鉢で口縁部がやや肥厚している。232は入れ子として使用され、ⅠC類の深鉢である。口縁部がやや肥厚で、口縁部と胴部共に文様は施文されていない。両者共に大木6式に比定されるものと思われる。233は頁岩製スクレイパーⅠ類である。234石錘、235・236は礫石器XⅢ類である。

［遺構時期］縄文時代前期末～中期初頭に所属する。

［性格］動物遺体埋納遺構の可能性がある。遺構の性格は374頁参照。

2号埋設土器（第50・52図）

［検出位置］GⅠ81グリッドに位置する。

［検出面］Ⅲ層下位。

［検出状況］GⅠ81グリッドをⅢ層からⅥ層にかけて掘り下げを行っている時に、破損しているものの残存している土器の底部と楕円形プランを合わせて確認できたことにより精査に入る。掘り方のプラン精査中に土器が倒れてしまったために、遺構の平面図には埋設した土器が周回していない状態となる。プラン確定時に土器の底面が確認できたために、胎土内のサンプリングを行わなかった。

［埋設土器の状態］土器の上半部は削平されているため、状態は不明である。残存していた底部から正立していたものと思われる。

［規模］掘り方の規模は0.36×0.28m、深さは0.09mである。

［平面形］掘り方の平面形は楕円形を呈する。

［底面・壁］掘り方の底面は皿状に窪んでいる。壁は緩やかに外傾しながら立ち上がり、断面形は皿状である。

［埋土］掘り方はにぶい黄褐色シルト層、埋設土器内は暗褐色シルトが主体である。

［出土遺物］埋設土器内からはない。237は埋設土器に使用されたの深鉢底部である。

［遺構時期］縄文時代前期末～中期初頭に所属するものと思われる。

［性格］動物遺体埋納遺構の可能性がある。このことは他の埋設土器の性格から判断している。

3号埋設土器（第50・52図）

［検出位置］GM78・79グリッドに位置する。

［検出面］Ⅲ層中位。

［検出状況］GM78・79グッリドをⅢ層からⅣ層にかけて掘り下げを行っている時に、土器の口縁部が確認できたことから本遺構の存在を認識した。土器周辺を精査した結果、楕円形のプランを持つことを確認し精査に入る。

［埋設土器の状態］土器は斜位で東に傾斜している。

［規模］掘り方の規模は0.33×0.32m、深さは0.1mである。

［平面形］掘り方の平面形は円形を呈する。

［底面・壁］掘り方の底面は若干凹凸があるもののほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がり、断面形は擂り鉢状である。

［埋土］掘り方は暗褐色粘土質シルト層である。土器内は土壌サンプル採取を優先しため分層はしていない。

［出土遺物］埋設土器内から石器5点が出土している。238は本遺構に使用された深鉢で口縁部がやや肥厚し

縦位に沈線が施されている。本遺構に使用された土器は大木６～７ａ式に比定されるものと思われる。埋納された石器はすべて石錘Ⅱｂ類（239～243）である。埋設土器内は底に239～241の３点を縦位、それらの上に242・243の２点が斜位から横位にして埋納されていた。

［遺構時期］縄文時代中期初頭に所属するものと思われる。

［性格］デポである。遺構の性格は374頁参照。

４号埋設土器（第50・53図）

［検出位置］ＧＭ81グリッドに位置する。

［検出面］Ⅲ層中位。

［検出状況］ＧＭ81グリッドをⅢ層からⅣ層にかけて掘り下げを行っている際に、土器を確認した。その土器の周辺を遺構検出を行った結果、不整円形のプランを持つことを確認し精査に入る。

［埋設土器の状態］土器は正立。半裁した結果、土器上部が破損し体部下半から底部のみであった。

［規模］掘り方の規模は0.24×0.21m、深さは0.14mである。

［平面形］掘り方の平面形は不整円形を呈する。

［底面・壁］掘り方の底面は中央が窪み皿状を呈し、壁は外傾して立ち上がる。

［埋土］掘り方は暗褐色～褐色シルト層主体で２層に分層される。土器内は土壌サンプル採取を優先しため分層はしていない。

［出土遺物］埋設土器内から土器６点、石器１点が出土している。244は埋設土器の底部で、底部からの立ち上がりからＩＣ類かＩＦ類の形態である。本遺構に使用された土器は大木６～７ａ式に比定されるものと思われる。出土した土器は磨滅しているため図化していない。石器は剥片である。

［遺構時期］縄文時代前期末～中期初頭に所属すると思われる。

［性格］動物遺体埋納遺構の可能性がある。遺構の性格は374頁参照。

５号埋設土器（第50・53図）

［検出位置］ＧＭ81グリッドに位置する。

［検出面］Ⅲ層上位～中位。

［検出状況］ＧＭ81グリッドに存在する３号焼土の精査時に、本遺構に伴う土器が存在することを確認した。その精査終了した後、土器を若干掘り下げた際に破損はしているものの周回する口縁部と、不整円形のプランを持つことを合わせて確認し精査に入る。

［重複関係］３号焼土と重複しているが本遺構の方が古い。

［埋設土器の状態］土器はほぼ正立しているが若干西に傾いている。

［規模］掘り方の規模は0.27×0.24m、深さは0.18mである。

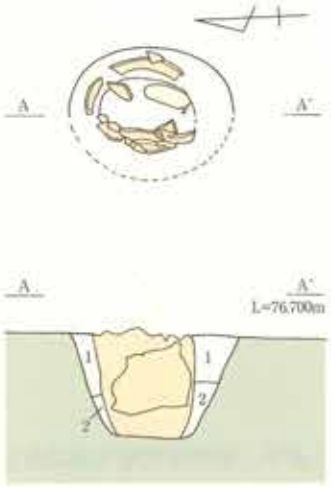
［平面形］掘り方の平面形は楕円形を呈する。

［底面・壁］掘り方の底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。

［埋土］掘り方は暗褐色シルト層である。土器内は土壌サンプルの採取を優先しため分層はしていない。

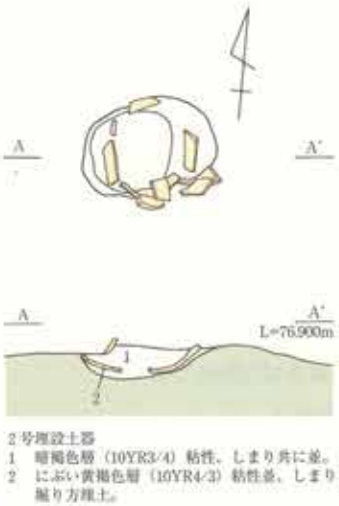
［出土遺物］埋設土器内からはない。245は埋設土器に使用された土器である。口縁部に中央が凹孔を有し円形刺突された円形粘土板が４単位で貼られ、口縁部にも同様に円形刺突が施されており、大木６式に比定される。

1号埋設土器



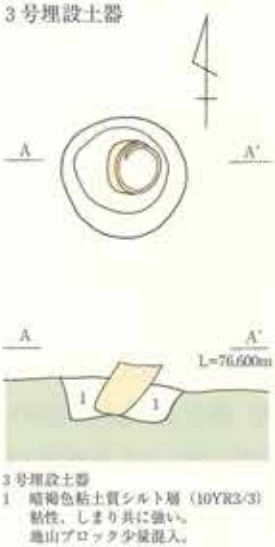
1号埋設土器
1　暗褐色シルト層（10YR3/3）粘性やや弱く、しまりやや強い。
2　暗褐色粘土質シルト層（10YR3/4）粘性並、しまりやや強い。
埋土にスコリアが混入しない。

2号埋設土器



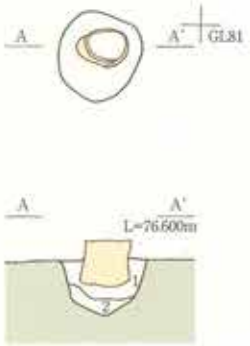
2号埋設土器
1　暗褐色層（10YR3/4）粘性、しまり共に並。
2　にぶい黄褐色層（10YR4/3）粘性並、しまりなし。
掘り方埋土。

3号埋設土器



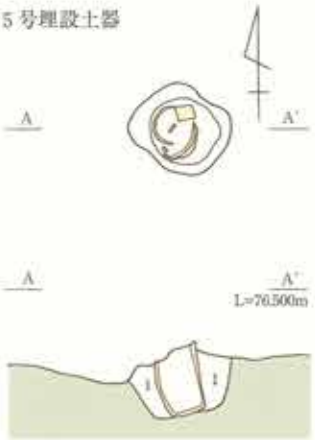
3号埋設土器
1　暗褐色粘土質シルト層（10YR3/3）粘性、しまり共に強い。
地山ブロック少量混入。

4号埋設土器



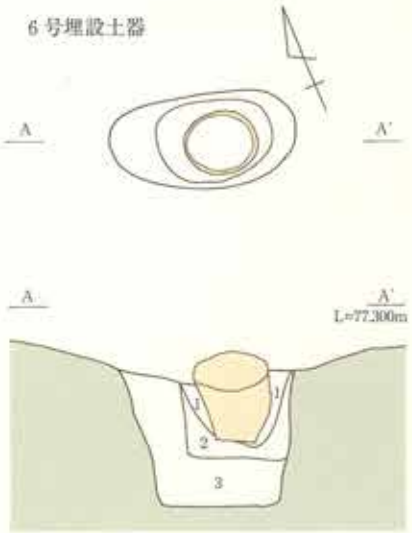
4号埋設土器
1　暗褐色シルト層（10YR3/3）粘性、しまり共に並。
2　暗褐色（7.5YR4/3）粘性強く、しまり並。

5号埋設土器



5号埋設土器
1　暗褐色層（10YR3/3）粘性、しまり共に並。
掘り方埋土。

6号埋設土器



6号埋設土器
1　暗褐色シルト層（10YR3/3）粘性並、しまり弱い。
スコリアを多く含む。
2　褐色シルト層（10YR4/6）粘性やや強く、しまりやや弱い。
スコリアを多く含む。
3　褐色シルト層（10YR4/6）粘性、しまり共にやや強い。
スコリアを少量含む。φ5～10mmの炭化粒を微量含む。

第50図　1～6号埋設土器

［遺構時期］縄文時代前期末に所属する。

［性格］動物遺体埋納遺構の可能性が高い。遺構の性格は374頁参照。

6号埋設土器（第50・53図）

［検出位置］GM81グッリドに位置する。

［検出面］Ⅳ層下位。

［検出状況］Ⅳ層下位からⅥ層にかけて掘り下げを行っている時に本遺構の存在を確認した。周回する口縁部と、楕円形のプランを持つことを合わせて確認し精査に入る。

［埋設土器の状態］土器は正立であるが若干北に傾いている。

［規模］掘り方の規模は0.49×0.25m、深さは0.36mである。

［平面形］掘り方の平面形は楕円形を呈する。

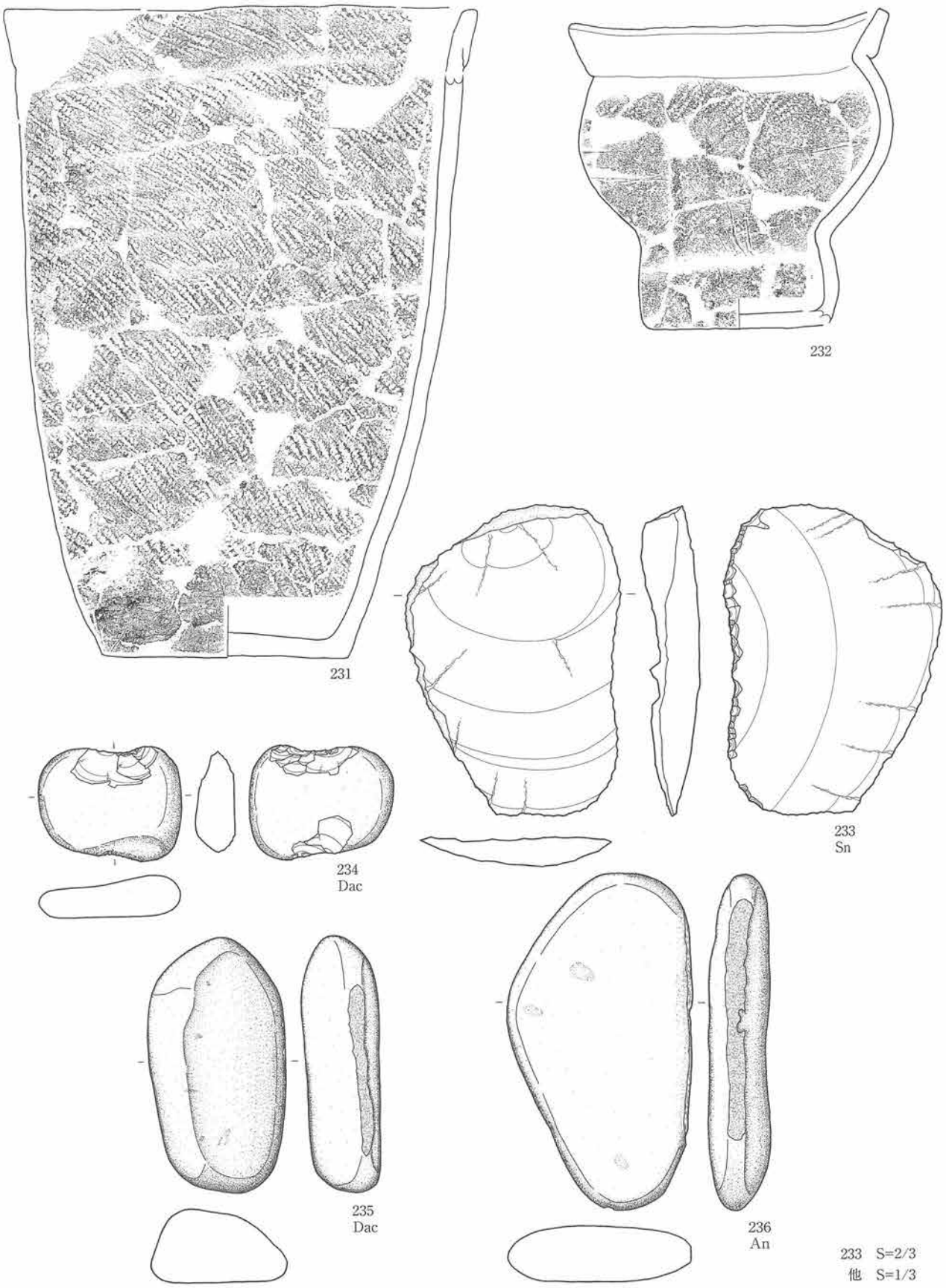
［底面・底面］掘り方の底面は平坦である。壁は外傾ないし垂直気味に立ち上がり、断面形は擂り鉢状を呈する。

［埋土］掘り方は暗褐色～褐色シルトが主体で3層に分層される。土器内は土壌サンプルの採取を優先しため分層はしていない。

［出土遺物］土器内から石鏃（247）1点が出土している。246は埋設土器に使用された土器である。底部が欠損している深鉢で、大木6～7a式に比定されるものと思われる。

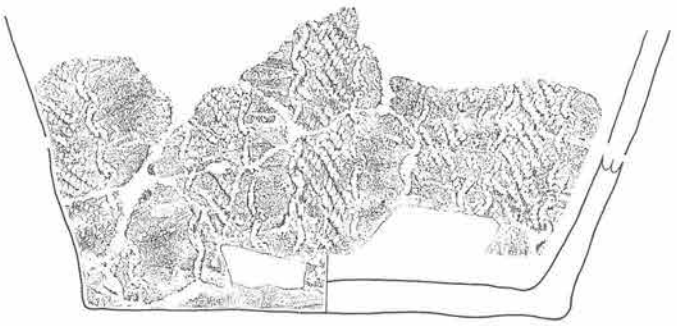
［遺構時期］縄文時代前期末～中期初頭に所属すると思われる。

［性格］動物遺体埋納遺構の可能性があり、他の埋設土器の性格から判断している。



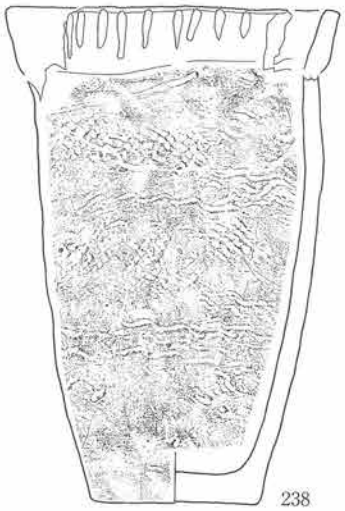
第51図　1号埋設土器出土遺物

SR02

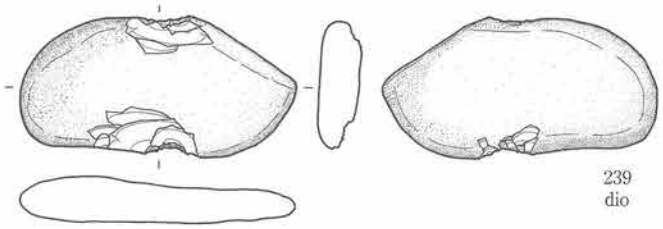


237

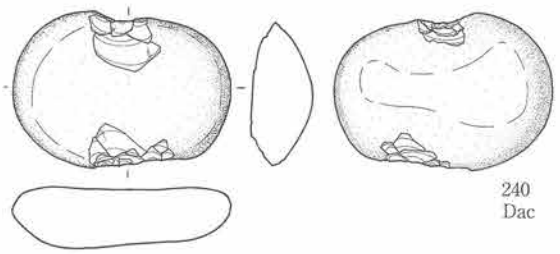
SR03



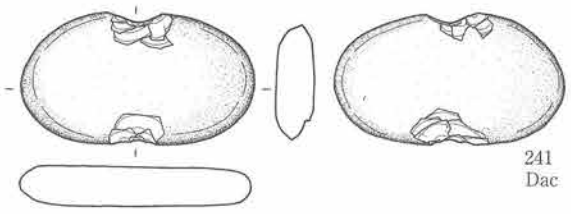
238



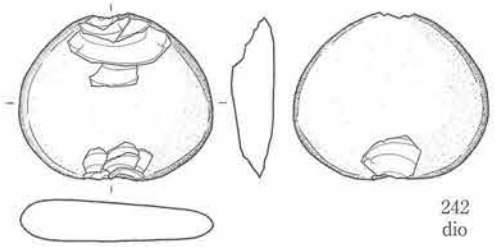
239
dio



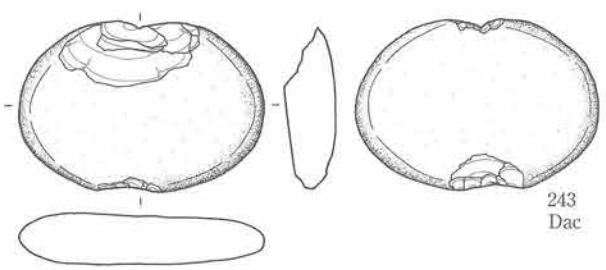
240
Dac



241
Dac



242
dio

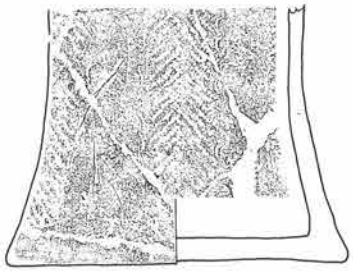


243
Dac

S=1/3

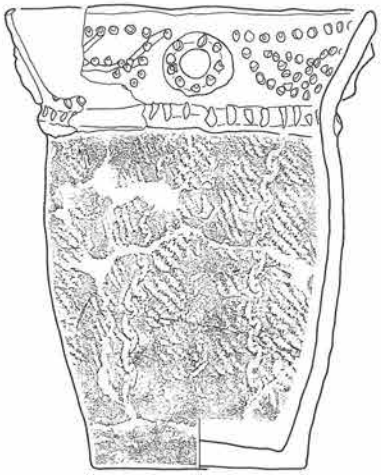
第52図　2・3号埋設土器出土遺物

SR04



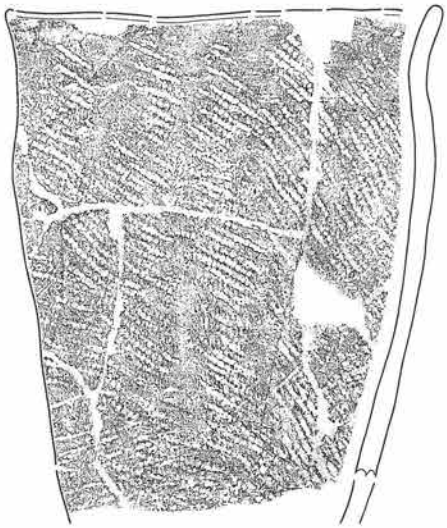
244

SR05

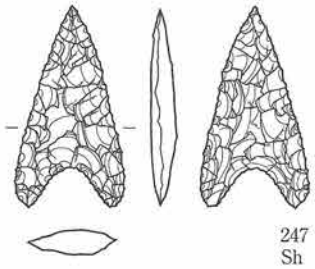


245

SR06



246



247
Sh

244～246　S=1/3
247　S=4/5

第53図　4～6号埋設土器出土遺物

4）配石遺構

1号配石遺構（調査時には1号集石と登録）（第54・56図）

［検出位置］ＧＬ80・ＧＭ80グリッドに位置する。

［検出面］Ⅲ層上面。

［検出状況］Ⅱ層上面より礫は確認できていたが、その段階では遺構として認識していなかった。Ⅲ層まで掘り下げた結果、複数の礫が直立している状況を確認できた。立石の周辺を遺構検出した際に土坑を伴うことが明らかになり精査に入る。

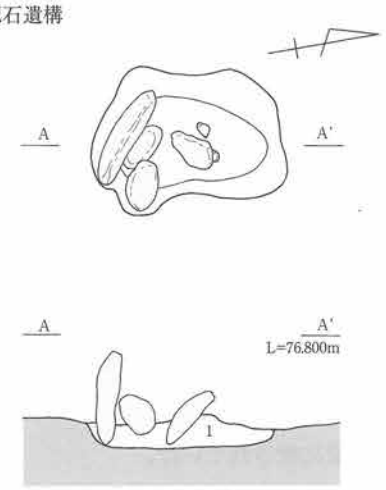
［配石の状況］遺構中央からと南端にかけてまとまりをみせている。南端で検出された扁平礫（石皿）を支えるように他の礫が配置されている。

［規模］土坑の規模は0.51×0.39m、深さは0.09mである。
［平面形］土坑の平面形は不整形を呈する。
［底面・壁］土坑の底面は皿状を呈し部分的に凹凸がある。壁は緩やかに外傾しながら立ち上がる。
［埋土］土坑の埋土は黒褐色粘土質シルト層である。
［使用された礫］4点使用され、総重量は8.13kgである。石材は安山岩、花崗岩、デイサイトである。
［出土遺物］土坑内から剥片2点が出土している。使用された礫はすべて礫石器である。Ⅰ類（248）、Ⅱ類（249）、ⅩⅢ類（250）である。図化していないが礫石器ⅩⅦ類が出土している。
［遺構時期］縄文時代前期末～中期初頭に属すると思われる。

2号配石遺構（調査時には2号集石と登録）（第54・56図）
［検出位置］GM81グリッドに位置する。
［検出面］Ⅲ層上面。
［検出状況］1号配石と同様の状況で本遺構を確認した。立石を確認後に周辺を精査した結果、土坑を伴うことが明らかになり精査に入る。
［配石の状況］遺構中央でまとまりを見せているが、中央に斜位に配された礫を支えるように直立した礫がある。またその西脇にある礫も同様に直立した状態である。
［規模］土坑の規模は0.53×0.37m、深さは0.21mである。
［平面形］土坑の平面形は楕円形を呈する。
［底面・壁］土坑の底面は西側に傾斜している。壁は緩やかに外傾しながら立ち上がる。
［埋土］土坑の埋土は黒褐～暗褐色粘土質シルト層主体で2層に分層される。
［使用された礫］4点で使用され、総重量は15kgである。石材はデイサイト、安山岩である。
［出土遺物］埋土から石器4点が出土している。礫器Ⅰ類（251）、図化していないが石鏃と剥片が出土している。配石に使用された礫はすべて礫石器である。その内の一点は、Ⅶ類（252）である。
［遺構時期］縄文時代前期末～中期初頭に属すると思われる。

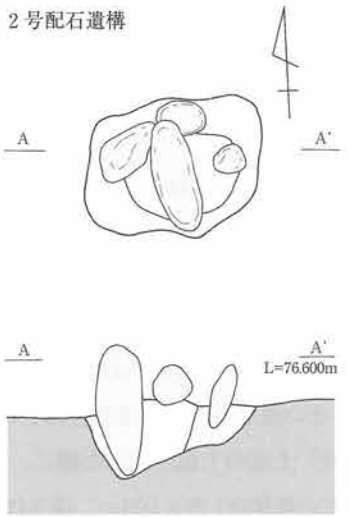
3号配石遺構（調査時には3号集石と登録）（第54・56・57図）
［検出位置］GM79・GN79グリッドに位置する。
［検出面］Ⅲ層上面。
［検出状況］Ⅱ層下部～Ⅲ層上面にかけて掘り下げを行った際に、複数の礫が散漫ではあるものの確認できたことから遺構検出を行った。その結果、不整円形の土坑を伴うものと確認して精査に入る。
［配石の状況］掘り方の上面に礫14点が配置されている。直立したものは存在していない。
［規模］土坑の規模は1.59×0.81m、深さは0.12mである。
［平面形］土坑の平面形は不整形を呈する。
［底面・壁］土坑の底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。
［埋土］土坑の埋土は暗褐色粘土質シルト層である。
［使用された礫］14点使用され、確認できた8点の重量は4.72kgである。石材はデイサイト、安山岩、花崗岩、石英斑岩、凝灰岩である。
［出土遺物］土坑から土器18点、石器6点が出土している。253・254は口縁部で文様から大木6式に比定され

1号配石遺構



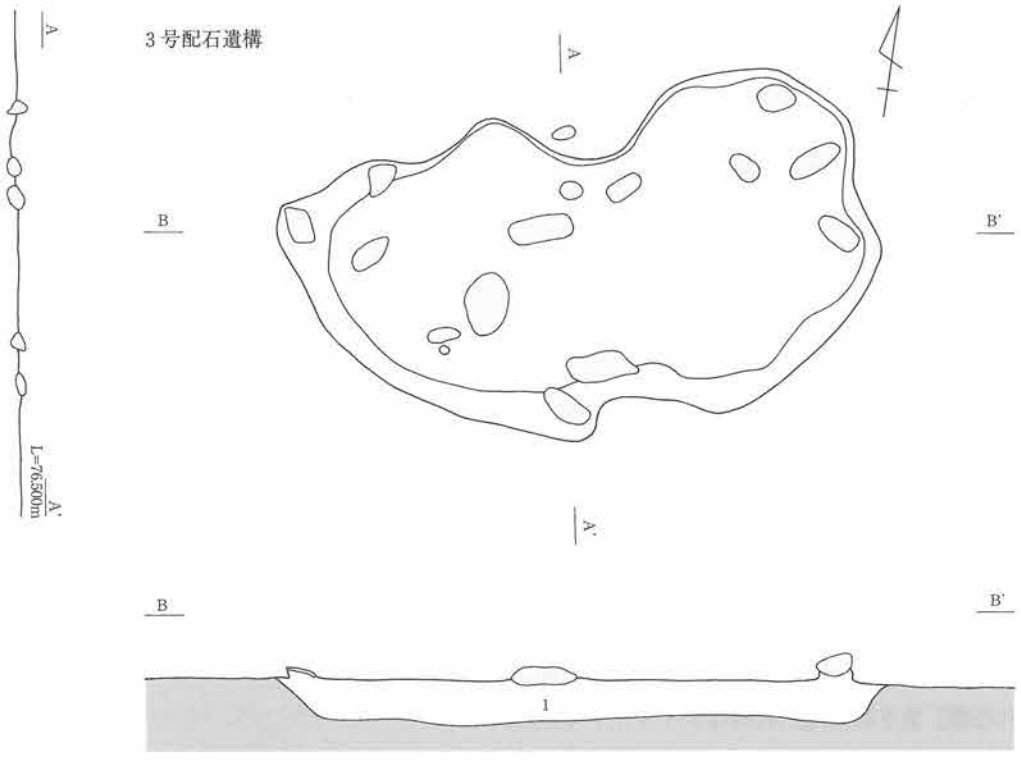
1号配石
1　黒褐色　粘土質シルト層（10YR3/2）粘性やや強く、しまり強い。
　礫と土器がまじる。2号の1層と同じ色調。

2号配石遺構



2号配石
1　黒褐色粘土質シルト層（10YR3/2）粘性、しまり共に強い。
2　暗褐色粘土質シルト層（10YR3/3）粘性、しまり共に強い。
　地山崩落土を含む。

3号配石遺構



3号配石
1　暗褐色粘土質シルト層（10YR3/3）粘性、しまり共に強い。
　地山ブロックを少量混入。

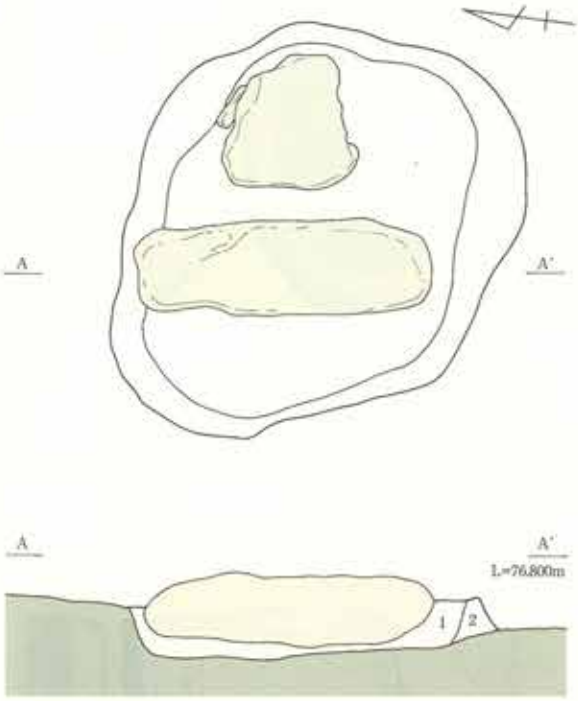
第54図　1～3号配石遺構

る。255は頁岩製石匙でⅠ類である。他の石器はすべて剥片である。256～263は配石に使用された礫石器である。Ⅰ類（256・257）、Ⅴ類（258～260）、ⅩⅢ類（261～263）である。
［遺構時期］縄文時代前期末～中期初頭に属すると思われる。

4号配石遺構（調査時には2号土坑と登録）（第55図）
［検出位置］ＧＬ79・80グリッドに位置する。
［検出面］Ⅲ層。
［検出状況］ＧＬ79・80グリッドを掘り下げていく段階で、この礫はⅡ層中から下位にかけて本遺構の礫を確認できていたが、その段階では遺構としては把握できていなかった。Ⅲ層上面の検出中に長軸0.78mの礫が出土した。その後その周辺を遺構検出したところ土坑を伴うことを確認し精査に入る。
［配石の状況］土坑の上面に大きな礫に、床面において扁平の礫が横位に配されていた。
［規模］土坑の規模は1.25×1.03m、深さは0.13mである。
［平面形］土坑の平面形は円形を呈する。
［底面・壁］土坑の底面はほぼ平坦であり、壁は緩やかに外傾しながら立ち上がる。
［埋土］土坑の埋土は黒褐～暗褐色粘土質シルト層主体で2層に分層される。
［使用された礫］大きさは0.78m×0.25m、重さは56kg、石材はデイサイトである。使用痕跡は認められなかった。
［出土遺物］土坑からは土器63点、石器1点が出土している。土器は磨滅しているため図化していない。底面から出土した石器は安山岩製磨石で、重さが23kgである。
［遺構時期］縄文時代前期末～中期初頭に属すると思われる。

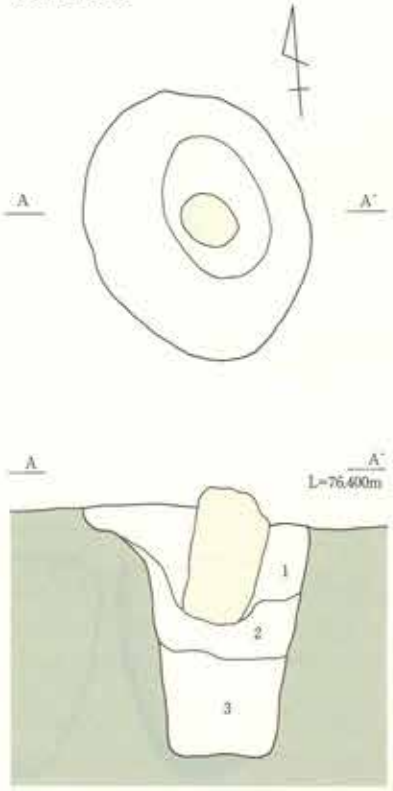
5号配石遺構（調査時には4号土坑と登録）（第55・58図）
［検出位置］ＧＬ79・80グリッドに位置する。
［検出面］Ⅳ層中位～下位である。
［検出状況］本遺構は当初土坑として、半截を行っていた。その際に礫が直立している状況を確認できたことから配石と判断し精査を進めた。
［配石の状況］礫1点が土坑中央に直立している。
［規模］土坑の規模は0.73×0.61m、深さは0.66mである。
［平面形］土坑の平面形は円形を呈する。
［底面・壁］土坑の底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がる。
［埋土］土坑の埋土は黒～暗褐色シルト層主体で3層に分層される。
［使用された礫］重さは14kg、石材はデイサイトである。
［出土遺物］土坑から土器43点、石器11点（264～270）が出土している。土器は磨滅しているため図化していない。264は石鏃Ⅳ類。266は石匙Ⅲ類。265はスクレイパーⅡ類。267は不定形石器Ⅰ類で、すべて石材は頁岩である。礫石器はⅠ類（268）、Ⅱ類（269）、ⅩⅢ類（270）である。
［遺構時期］縄文時代前期末～中期初頭に属すると思われる。

4号配石遺構



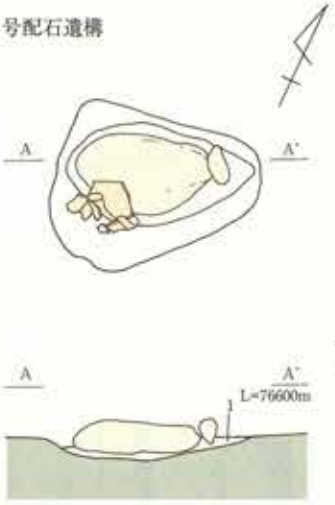
4号配石
1　黒褐色粘土質シルト層（10YR3/1）粘性やや強く、しまり強い。
2　暗褐色粘土質シルト層（10YR3/3）粘性並、しまり強い。

5号配石遺構



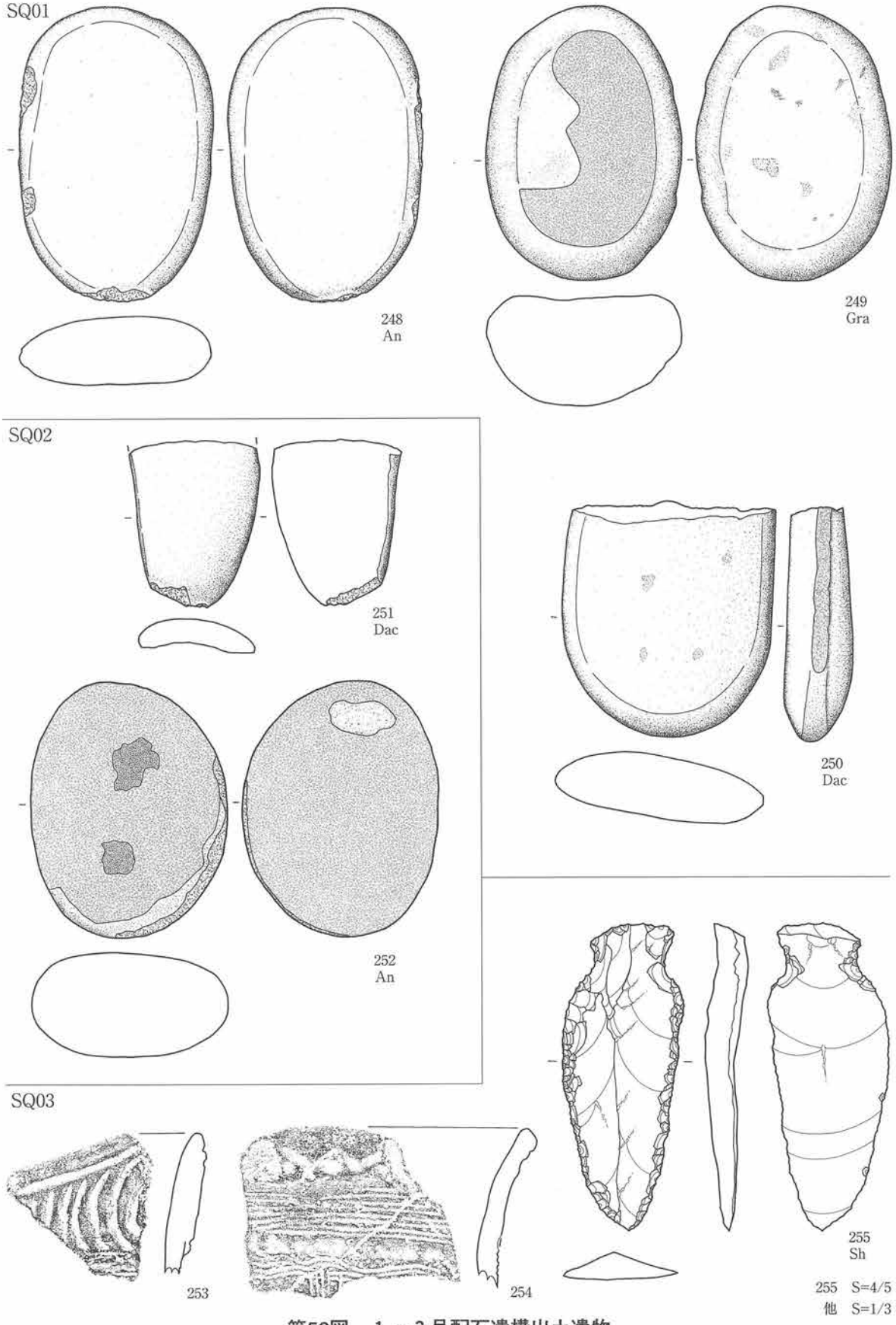
5号配石
1　黒色シルト層（10YR2/1）粘性やや強く、しまりやや弱い。
　φ5～10mmの炭化粒を少量含む。
2　暗褐色シルト層（10YR3/3）粘性並、しまりやや弱い。
3　2層に近いが、若干粘性強い。地山ブロックをやや多く含む。

6号配石遺構

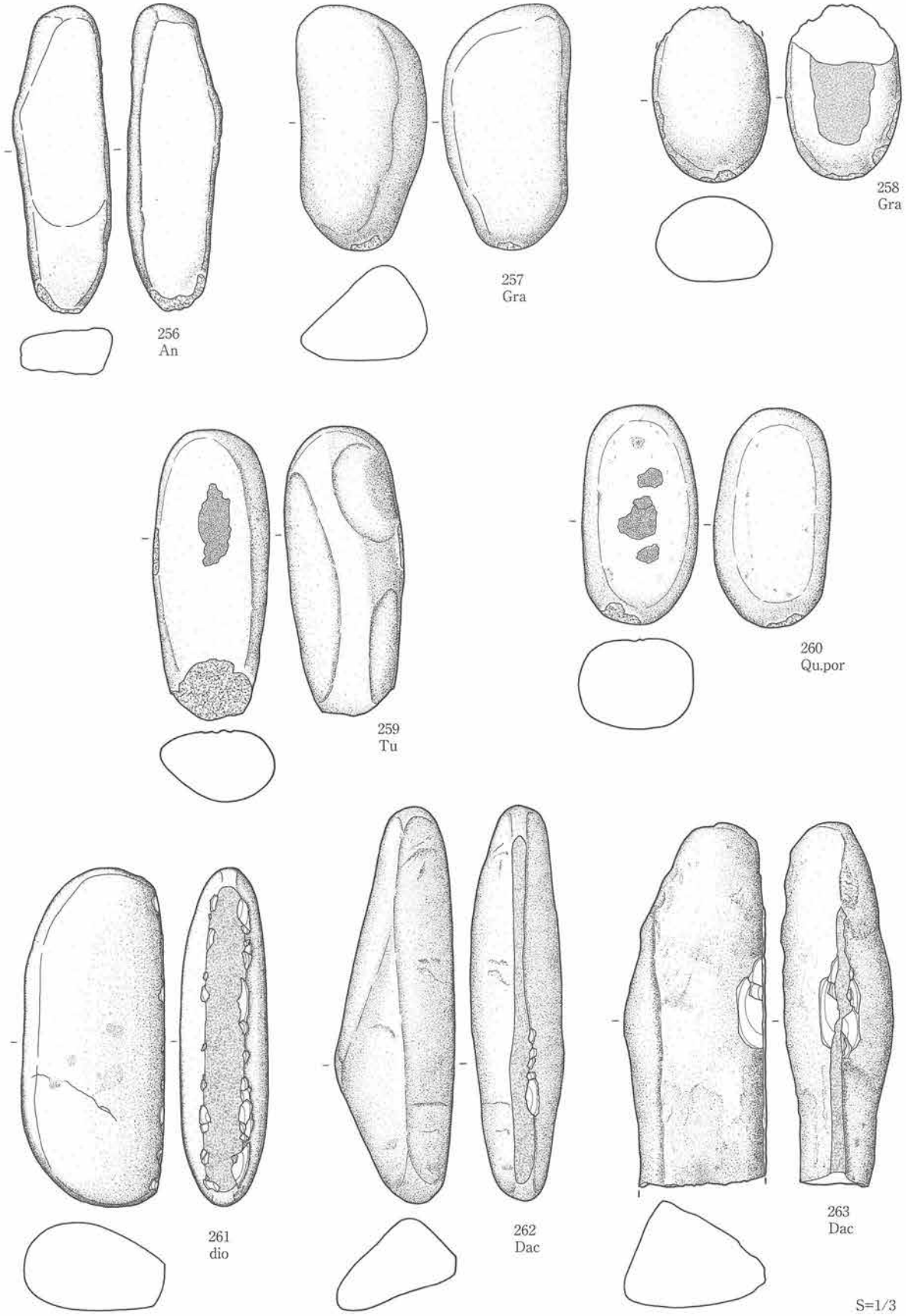


6号配石
1　暗褐色シルト層（10YR3/4～3/3）粘性並、しまりやや強い。

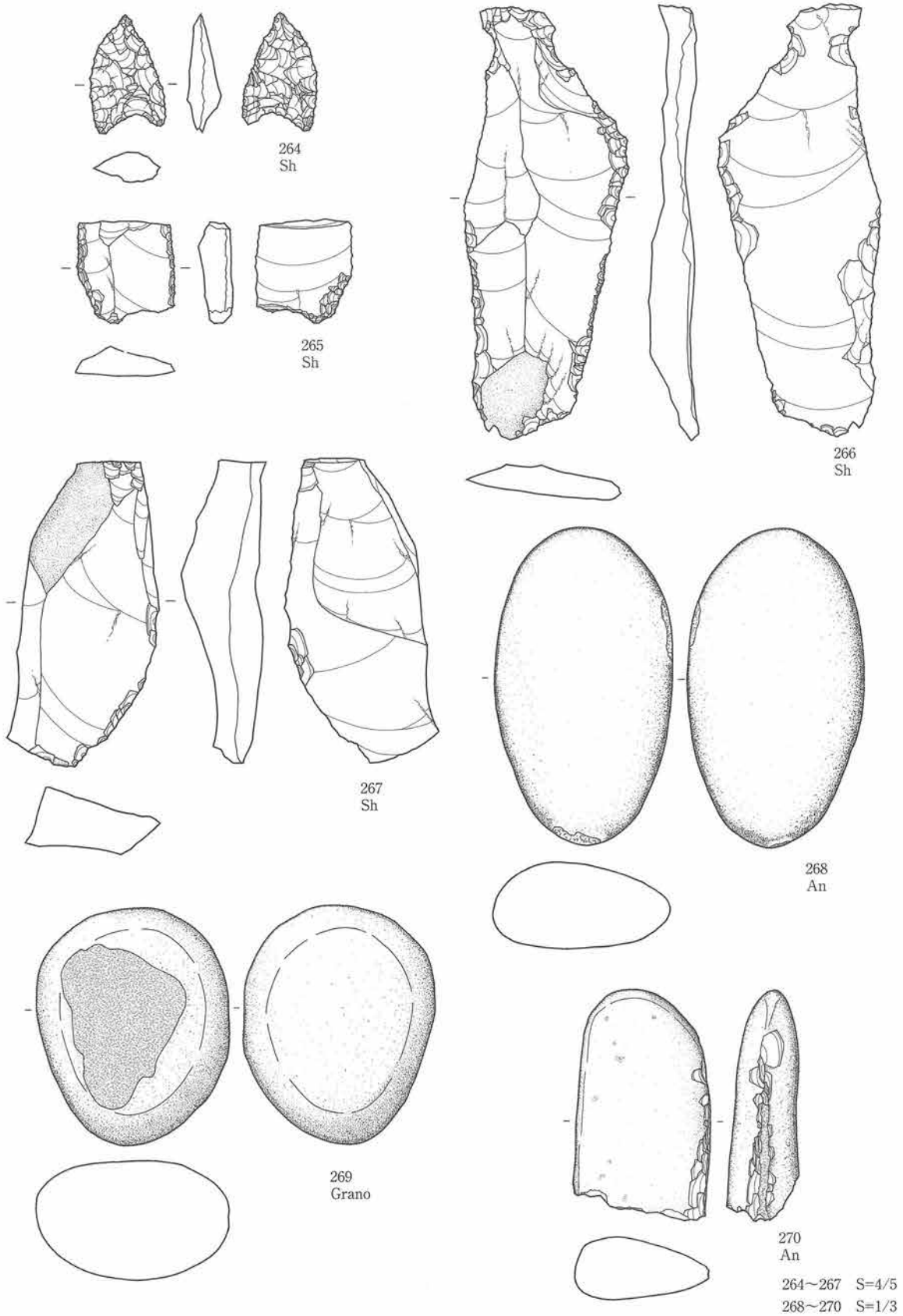
第55図　4～6号配石遺構



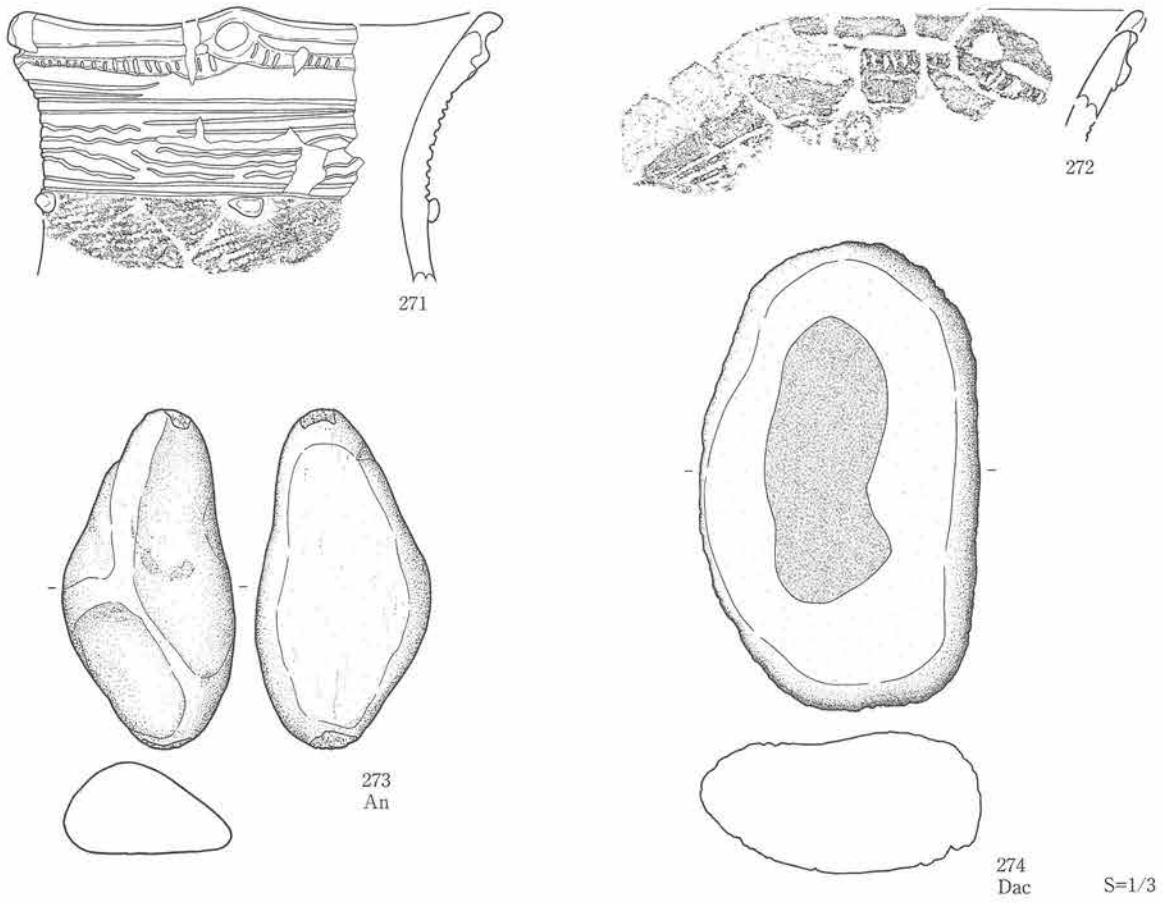
第56図　1～3号配石遺構出土遺物



第57図　3号配石遺構出土遺物



第58図　5号配石出土遺物



第59図　6号配石出土遺物

6号配石遺構（調査時には5号土坑と登録）（第55・59図）

［検出位置］ＧＫ80グリッドに位置する。

［検出面］Ⅳ層中位～下位。

［検出状況］ＧＫ80グリッドを掘り下げ中に本遺構に伴う礫が横位の状況にあり、また不整楕円形の土坑を伴うことを確認できたことから精査に入る。

［配石の状況］礫は横位に配されている。

［規模］土坑の規模は1.14×0.91m、深さは0.06mである。

［平面形］土坑の平面形は不整楕円形を呈する。

［底面・壁］土坑の底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに外傾しながら立ち上がる。

［埋土］土坑の埋土は暗褐色シルト層である。

［使用された礫］２点の礫は、重量が9.2kg、石材は安山岩とデイサイトを使用されている。

［出土遺物］埋土から土器33点が出土している。271・272は口縁でそれぞれ波頂部直下に円形凹孔を有し半截竹管による施文が見られる。両者は大木６式に比定される。使用された礫（273・274）２点は礫石器で、Ⅰ類（273）とⅩⅦ類（274）である。

［遺構時期］縄文時代前期末～中期初頭に属する。

5）陥し穴

1号陥し穴（第60図）

［検出位置］ＦＱ78・79グリッドに位置する。

［検出面］Ⅵ層。

［検出状況］表土除去後に隅丸長方形の平面プランを確認した。

［規模］1.16×0.66m、底面までの深さは0.71mである。逆茂木痕の規模は0.11×0.1m、深さは0.34mである。

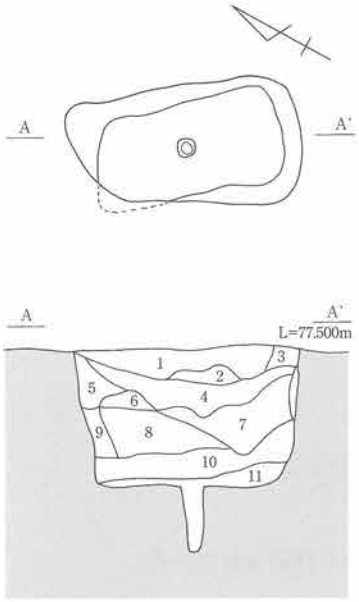
［平面形］隅丸長方形を呈する。

［底面・壁］底面は平坦で底面中央に逆茂木痕１カ所を有する。壁は垂直気味に立ち上がるが、北西隅のみオーバーハングして立ち上がる。

［埋土］黒褐色～暗褐色粘土質シルト層が主体で11層に分層される。

［出土遺物］なし。

［遺構時期］縄文時代前期末～中期初頭以外に所属するものと思われる。この時期は埋土主体層が、１区の基本層序において確認できなかったことから判断している。



1号陥し穴
1　黒褐色粘土質シルト層（10YR2/2）粘性やや強く、しまり強い。
　φ1～3mmの炭化粒を微量、明黄褐色のスコリア軽石を多く含む。
2　黒褐色粘土質シルト層（10YR3/2）粘性やや強く、しまり強い。
　明黄褐色のスコリア軽石を少量含む。
3　褐色粘土質シルト層（7.5YR4/6）粘性、しまり共に強い。
　地山ブロックを多く含む。
4　黒褐色粘土質シルト層（10YR2/2）粘性強く、しまりやや強い。
　明黄褐色のスコリア軽石を少量含む。
5　暗褐色粘土質シルト層（10YR3/3）粘性、しまり共に強い。
6　５層に似ているが、若干粘性が強い。
7　暗褐色粘土質シルト層（10YR3/4）粘性、しまり共に強い。
8　暗褐色粘土質シルト層（10YR3/3）粘性強く、しまりやや強い。
9　暗褐色粘土質シルト層（10YR3/3）若干色調が明るい。地山ブロックを少量含む。
10　褐色粘土質シルト層（10YR4/4）粘性、しまり共に強い。
11　灰黄褐色～にぶい黄褐色粘土質シルト層（10YR4/2～10YR4/3）粘性、しまり共に強い。

第60図　１号陥し穴

6）土坑

1号土坑（調査時には6号土坑と登録）（第61・62図）

[検出位置] GM80グリッドに位置する。

[検出面] Ⅵ層。

[検出状況] 遺構検出時に楕円形プランを確認したことにより精査に入る。

[規模] 1.14×0.71m、深さは0.72mである。

[平面形] 楕円形を呈する。

[底面・壁] 底面は中央が窪む。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[埋土] 黒褐色～暗褐色シルト層が主体で3層に分層される。

[出土遺物] 埋土から土器69点、石器6点が出土している。土器は磨滅しているため図化していない。275はスクレイパーⅠ類。276は石核で上下に打面設定し作業面を180度転移させながら剥片剥離が行れている。背面にも剥離が及んでいることから自然面を除去しながら打面を後退させている。礫石器は2点確認され、Ⅰ類（277）とⅦ類（278）である。

[遺構時期] 縄文時代前期末～中期初頭に属する。

2号土坑（調査時には7号土坑と登録）（第61・63図）

[検出位置] GN79グリッドに位置する。

[検出面] Ⅵ層。

[検出状況] 遺構検出時に長楕円形プランを確認したことにより精査に入る。

[規模] 1.47×0.34m、深さは0.21mである。

[平面形] 長楕円形を呈する。

[底面・壁] 底面は凹凸がある。壁は緩やかに外傾しながら立ち上がる。

[埋土] 黒褐色シルト層が主体で3層に分層される。

[出土遺物] 埋土から土器10点、土製品1点、石器2点が出土している。土器は磨滅しているため図化していない。279は耳栓である。280はスクレイパーⅠ類である。

[遺構時期] 縄文時代前期末～中期初頭に属する。

3号土坑（調査時には8号土坑と登録）（第61図）

[検出位置] GM80グリッドに位置する。

[検出面] Ⅵ層。

[検出状況] 遺構検出時に楕円形プランを確認したことにより精査に入る。

[規模] 1.22×0.8m、深さは0.18mである。

[平面形] 楕円形を呈する。

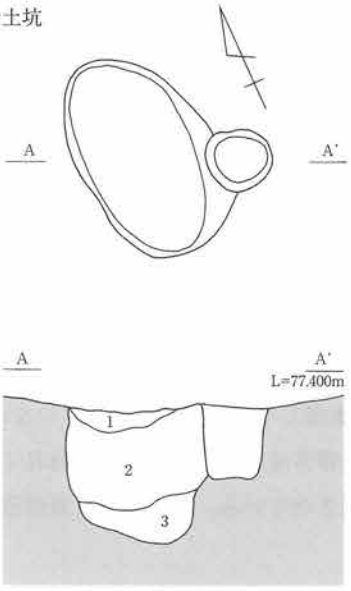
[底面・壁] 底面はほぼ平坦である。壁は外傾しながら立ち上がる。

[埋土] にぶい黄褐色～黄褐色シルト層が主体で3層に分層される。

[出土遺物] 土器7点、石器1点出土している。土器は磨滅しているため図化していない。石器は剥片である。

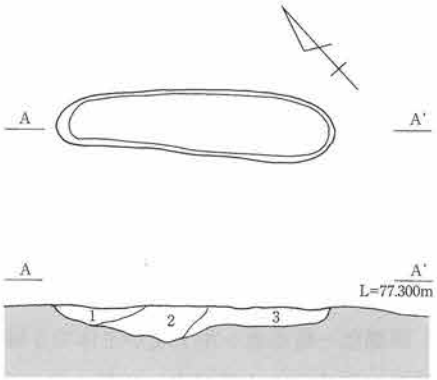
[遺構時期] 縄文時代前期末～中期初頭に属する。

1号土坑



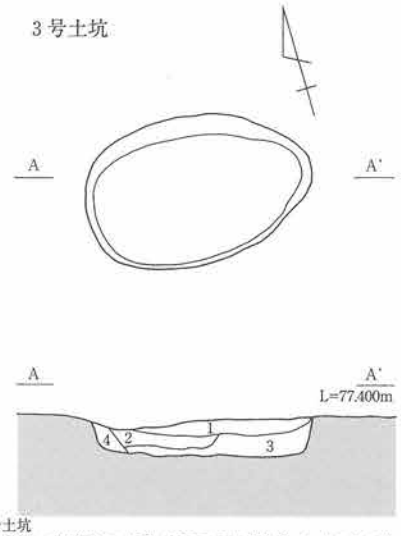
1号土坑
1　黒褐色粘土質シルト層（10YR3/2）粘性やや強く、しまりやや弱い。
　φ3～5mmの焼土、炭化粒を微量含む。
2　暗褐色シルト層（10YR3/3）粘性、しまり共に並。
　地山ブロックを多く。人為堆積土。
3　褐色シルト層（10YR4/4）粘性並、しまりやや強い。

2号土坑



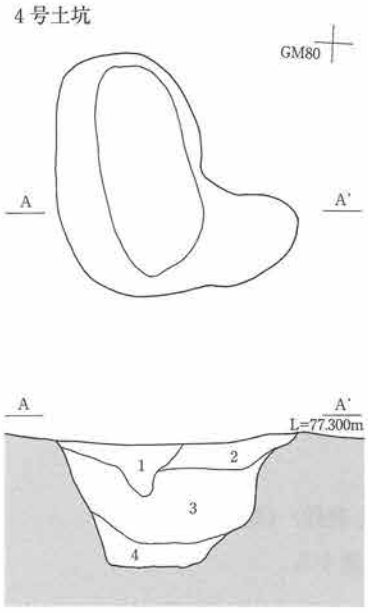
2号土坑
1　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性並、しまりやや強い。
　φ5～10mmの焼土、炭化粒を微量含む。
2　黒褐色シルト層（10YR3/1）粘性、しまり共にやや強い。
　φ5～10mmの焼土、炭化物を少量含む。
3　黒褐色シルト層（10YR2/2）粘性並、しまりやや強い。
　φ5～20mmの焼土、炭化粒を少量含む。

3号土坑



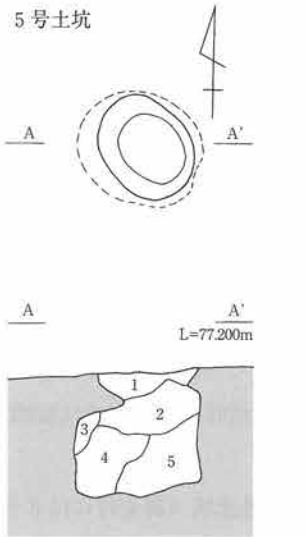
3号土坑
1　にぶい黄褐色シルト層（10YR4/3）粘性並、しまりやや強い。
　φ5～10mmの焼土、炭化粒を微量含む。
2　黄褐色シルト層（10YR5/6）粘性強く、しまり弱い。
3　褐色シルト層（10YR4/4）粘性、しまり共に並。
　1層の混入物が若干増す。
4　にぶい黄褐色シルト層（10YR4/3）粘性、しまり共に強い。
　地山崩落土を含む。

4号土坑



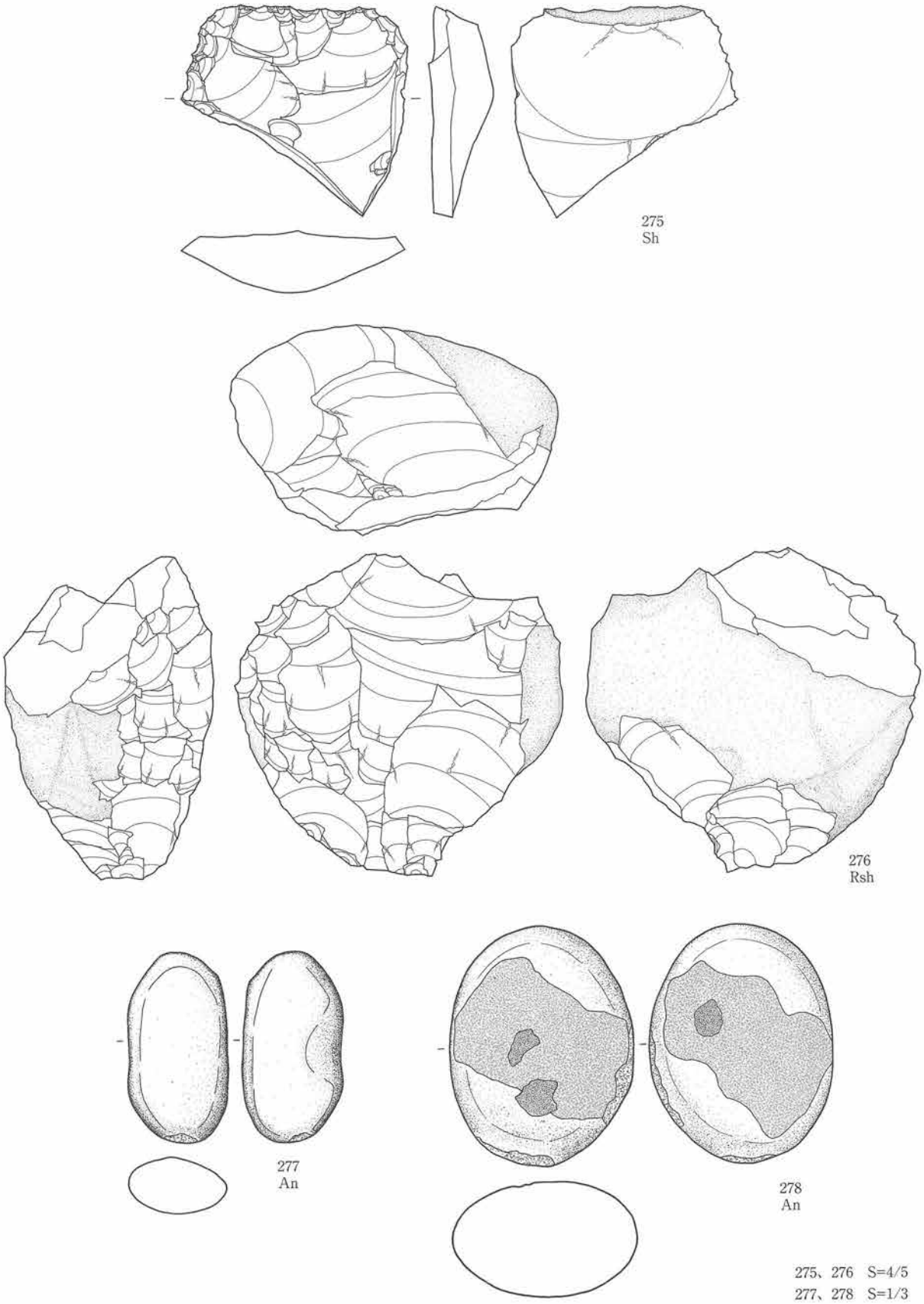
4号土坑
1　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性、しまり共にやや強い。φ5～10mmの焼土、炭化粒を少量含む。
2　1層と同じだが、しまり弱い。混入物は減るが、土器片含む。
3　暗褐色シルト層（10YR3/4）粘性、しまり共に並。地山崩落土を含む。
4　3層と同じ。φ2～5mmの焼土、炭化粒を微量含む。地山崩落土を含む。

5号土坑



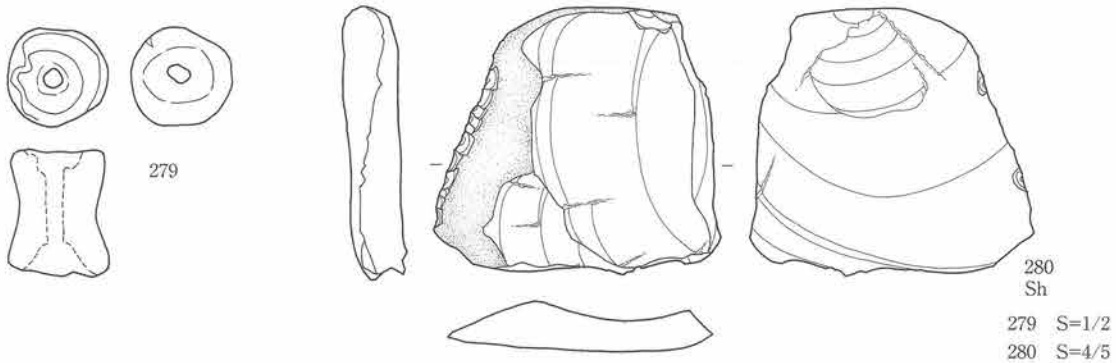
5号土坑
1　黒褐色シルト層（10YR3/2）粘性並、しまり弱い。φ3～5mmの炭化粒を微量含む。
2　暗褐色シルト層（10YR3/3）粘性やや強く、しまりやや弱い。φ3～5mmの炭化粒を含む。
3　2層に類似しているが、地山ブロックを混入しているため色調が明るい。
4　暗褐色シルト層（10YR3/4）粘性強く、しまりやや弱い。
5　暗褐色シルト層（10YR3/3）粘性やや強く、しまりやや弱い。

第61図　1～5号土坑



275、276　S=4/5
277、278　S=1/3

第62図　1号土坑出土遺物



第63図　2号土坑出土遺物

4号土坑（調査時には9・10号土坑と登録）（第61・64図）

［検出位置］ＧＭ80グリッドに位置する。

［検出面］Ⅵ層。

［検出状況］遺構検出時に不整形プランを確認したことにより精査に入る。

［規模］1.31×1.19m、深さは0.54mである。

［平面形］不整形を呈する。

［底面・壁］底面は平坦である。壁は外傾しながら立ち上がる。

［埋土］黒褐色～暗褐色シルト層が主体で4層に分層される。

［出土遺物］土器65点、石器5点が出土している。281～284は深鉢、281はＥ類で口唇部に縦位隆帯を貼り付けている。深鉢282～284は同一個体で円形凹孔と半截竹管による刺突列がある。これらは大木6式に比定される。285はスクレイパーⅢ類、286は磨製石斧である。287・288は礫石器ＸⅢ類である。

［遺構時期］縄文時代前期末～中期初頭に属する。

5号土坑（調査時には11・12号土坑と登録）（第61・65図）

［検出位置］ＧＬ81・82、ＧＭ81・82グリッドに位置する。

［検出面］Ⅵ層。

［検出状況］ＧＬ81・82、ＧＭ81・82グリッドをⅤ層からⅥ層にかけて掘り下げている際に円形のプランを確定できたことにより精査に入る。半截し掘り下げていった結果、本遺構は中端が存在しさらに底面へ広りながら下がっていくことを確認できた。

［規模］0.53×0.42m、深さは0.67mである。

［平面形］楕円形を呈する。

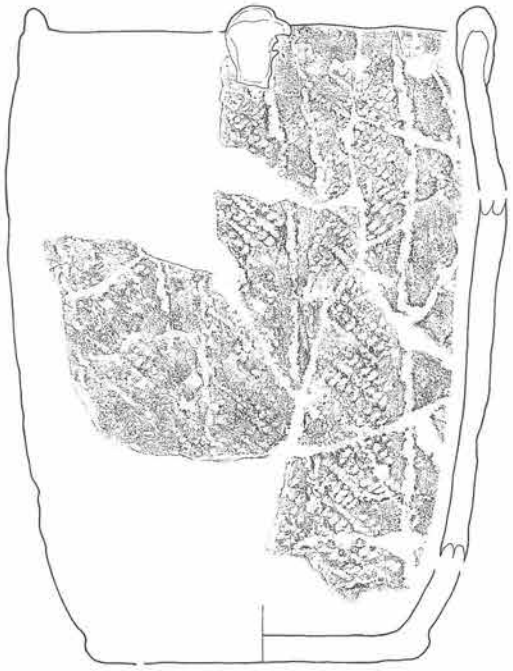
［底面・壁］底面はほぼ平坦である。壁は底面から中端までオーバーハングし、中端から上端まで外傾しながら立ち上がる。

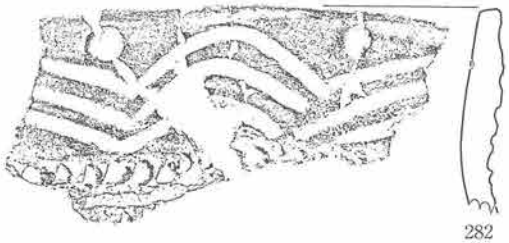
［埋土］黒褐色～暗褐色シルト層が主体で5層に分層される。人為堆積である。

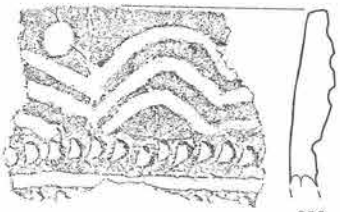
［出土遺物］土器84点、石器12点出土している。土器は磨滅しているため図化していない。289・290は石匙。前者はⅢ類、後者はⅡ類である。293は石錘Ⅰ類である。礫石器はⅤ類（294・295）のみである。

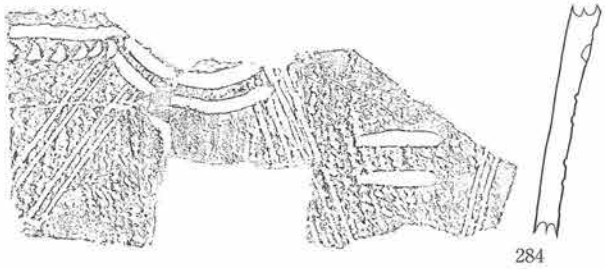
［遺構時期］縄文時代前期末～中期初頭に属する。

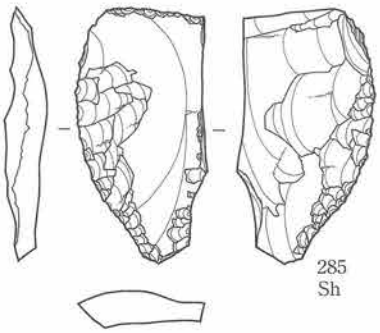
［性格］断面形状からフラスコ状土坑と考えられる。

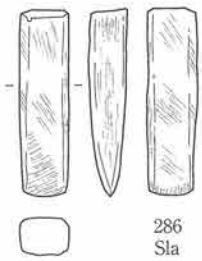

281

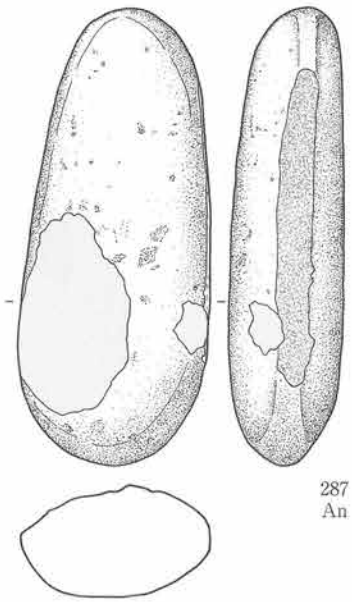

282

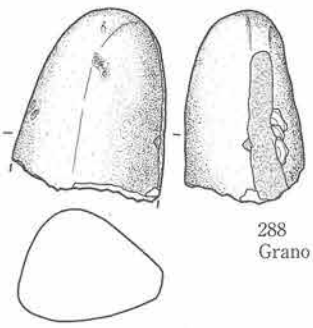

283
Sh


284


285
Sh

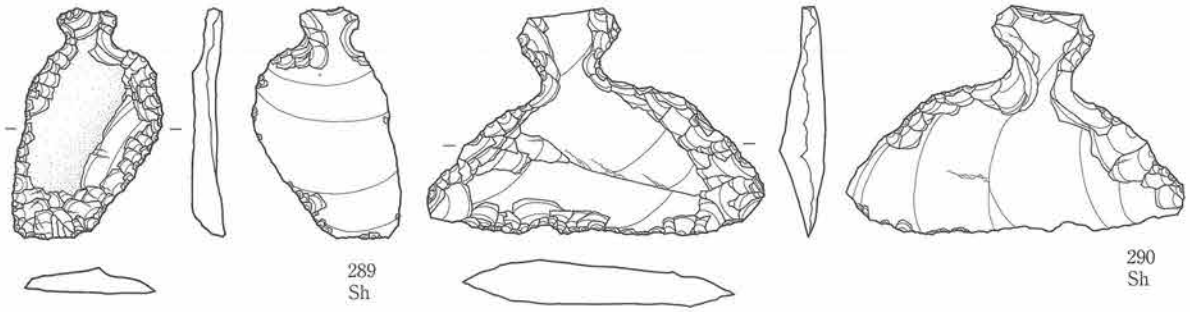

286
Sla

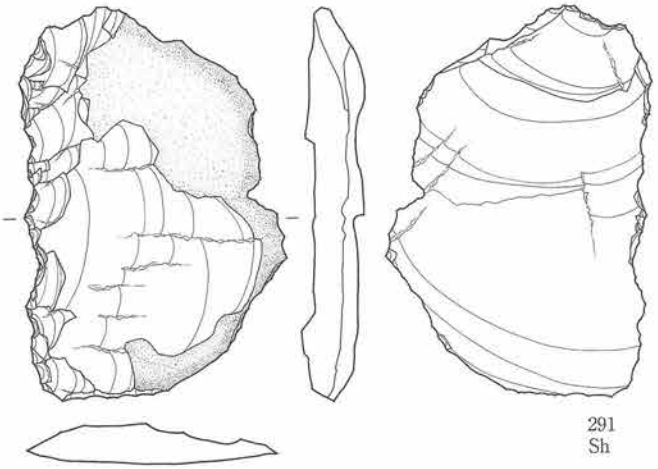

287
An

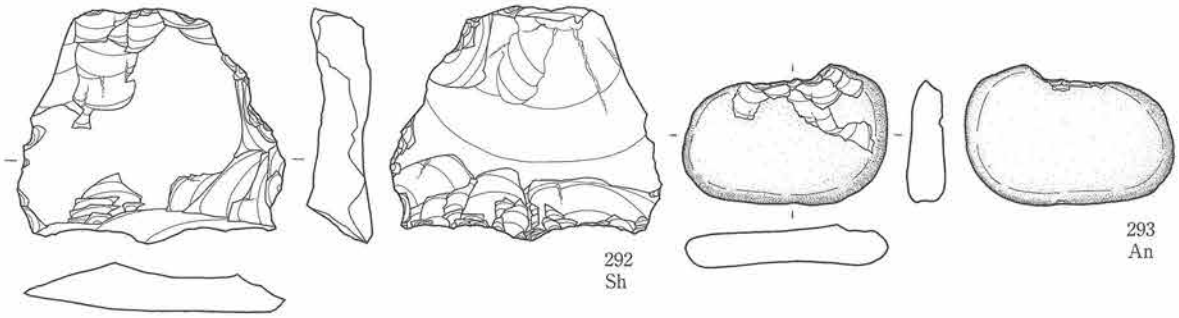

288
Grano

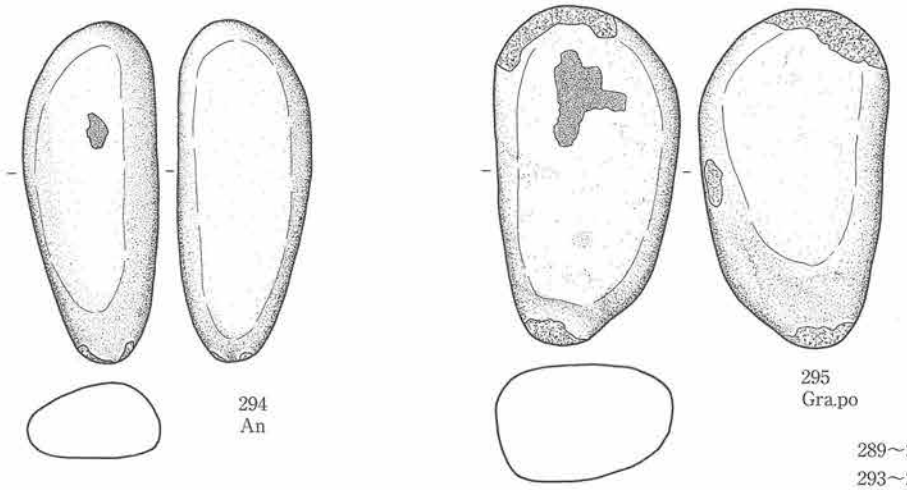
285　S=4/5
286　S=1/2
他　S=1/3

第64図　4号土坑出土遺物









289～292　S=4/5
293～295　S=1/3

第65図　5号土坑出土遺物

7）柱穴（第66～71図）

［検出位置］調査区１区に位置する。

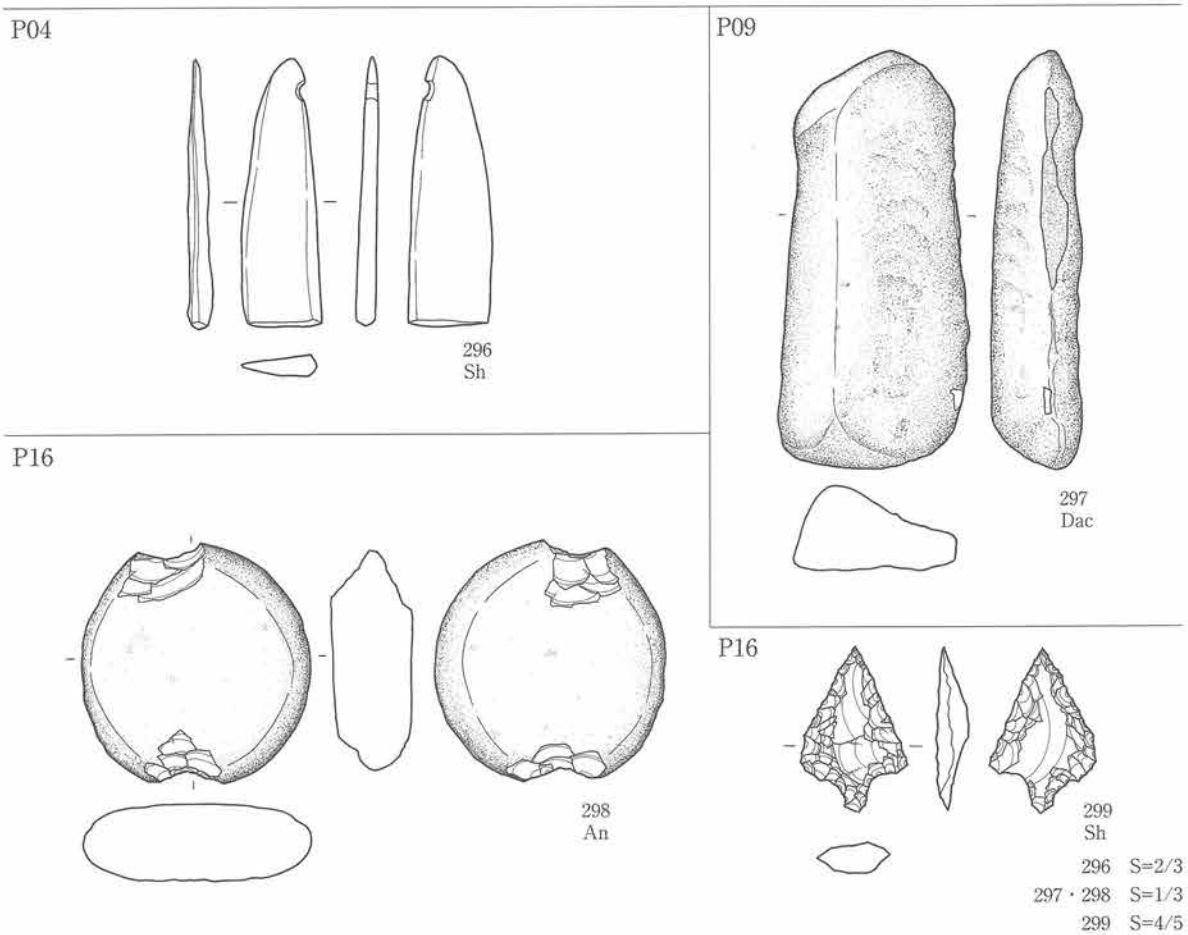
［検出面］Ⅲ～Ⅳ層とⅤ層下位～Ⅵ層にかけて検出されている。

［検出状況］各層界において遺構検出を行ったところ、上記の層中でプランを確認する。

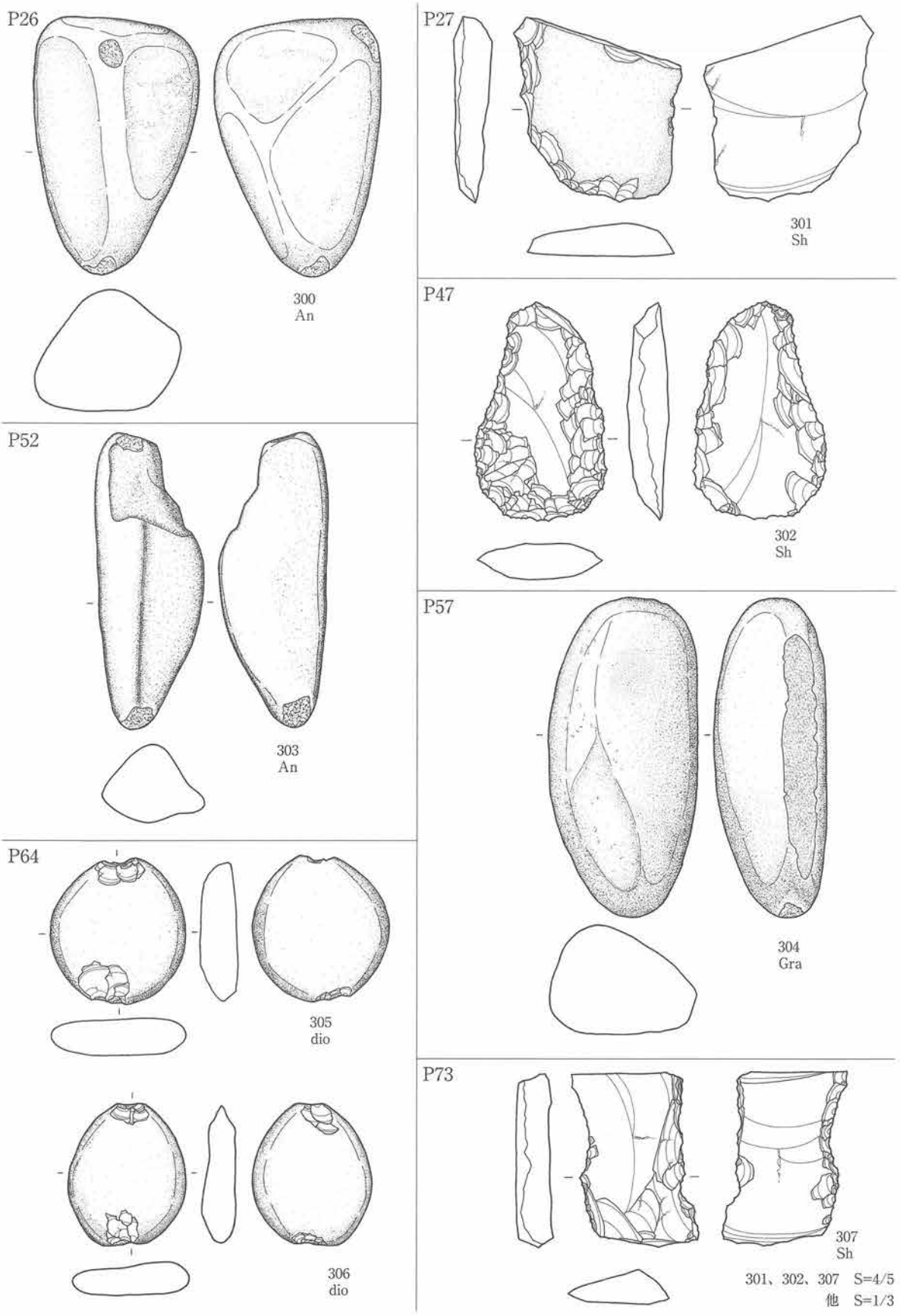
［平面形・規模・形状］第42～45表に示した通りである。

［出土遺物］各柱穴から出土しており、土器と石器共に第５・７・８表に記載した通りである。出土した土器は磨滅しているため図化していない。掲載した遺物は296～333である。299・309・325は頁岩製石鏃。それぞれⅠ類、Ⅱ類、Ⅳ類である。302・314は頁岩製石篦でⅣ類とⅢ類である。301・307・310・328はスクレイパー。それぞれⅣ類、Ⅱ類、Ⅷ類、Ⅲ類である。316は不定形石器である。317は石核。90度ないし180度の打面転移を繰り返し、一定の打面が確保されると連続して剥離作業を行っている。324は磨製石斧。先端に剥離を施し刃部を整形した後、研磨を施している。298・305・306・320・326・331は石錘である。礫石器は以下の各類が見られる。Ⅰ類（300・303・308・312・315・319・321・323・324・329・332）、Ⅲ類（318・322）、Ⅳ類（311）、Ⅵ類（327）、Ⅷ類（333）、ⅩⅢ類（297・304・313・330）である。296は　状耳飾である。

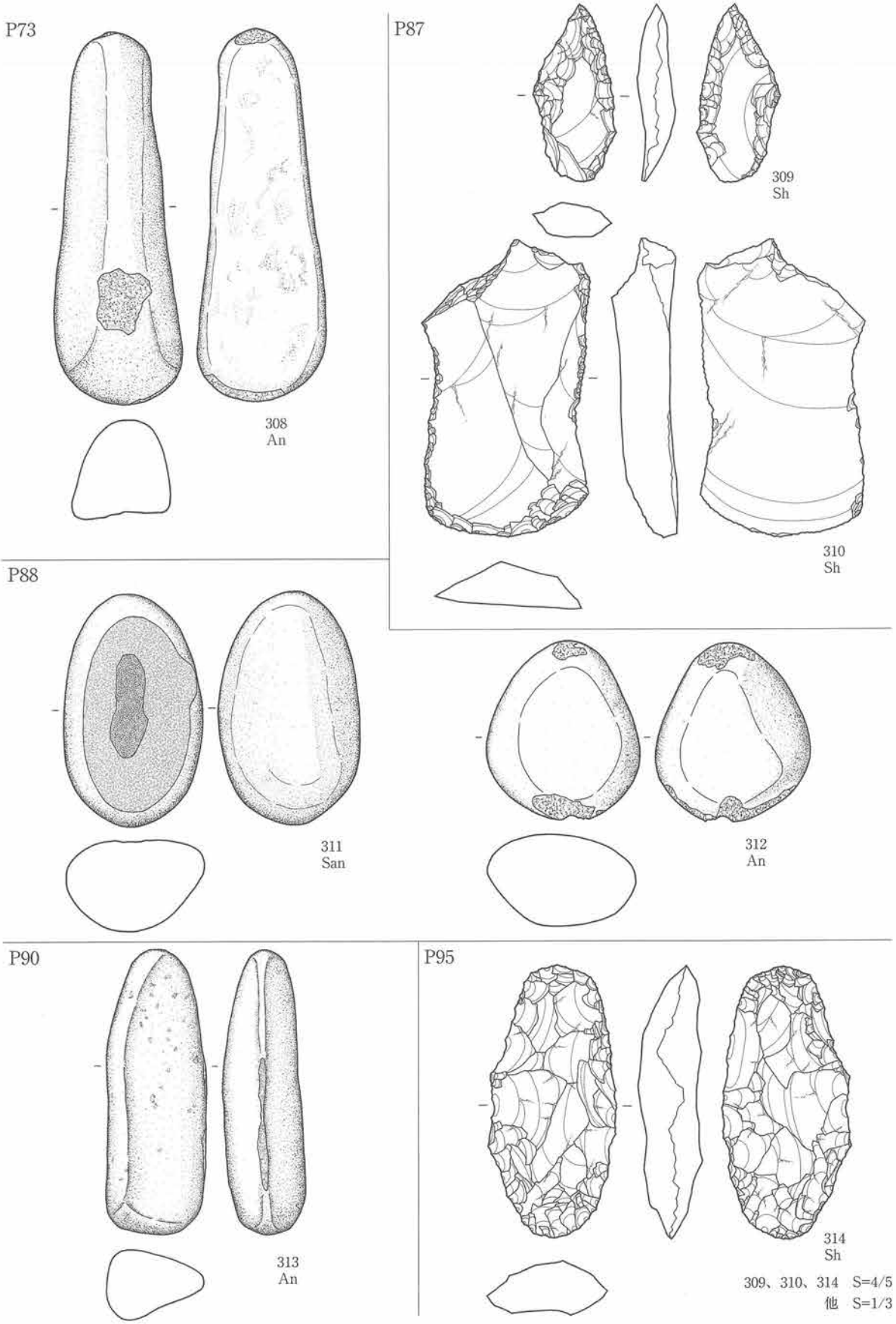
［遺構時期］縄文時代前期末～中期初頭に属する。



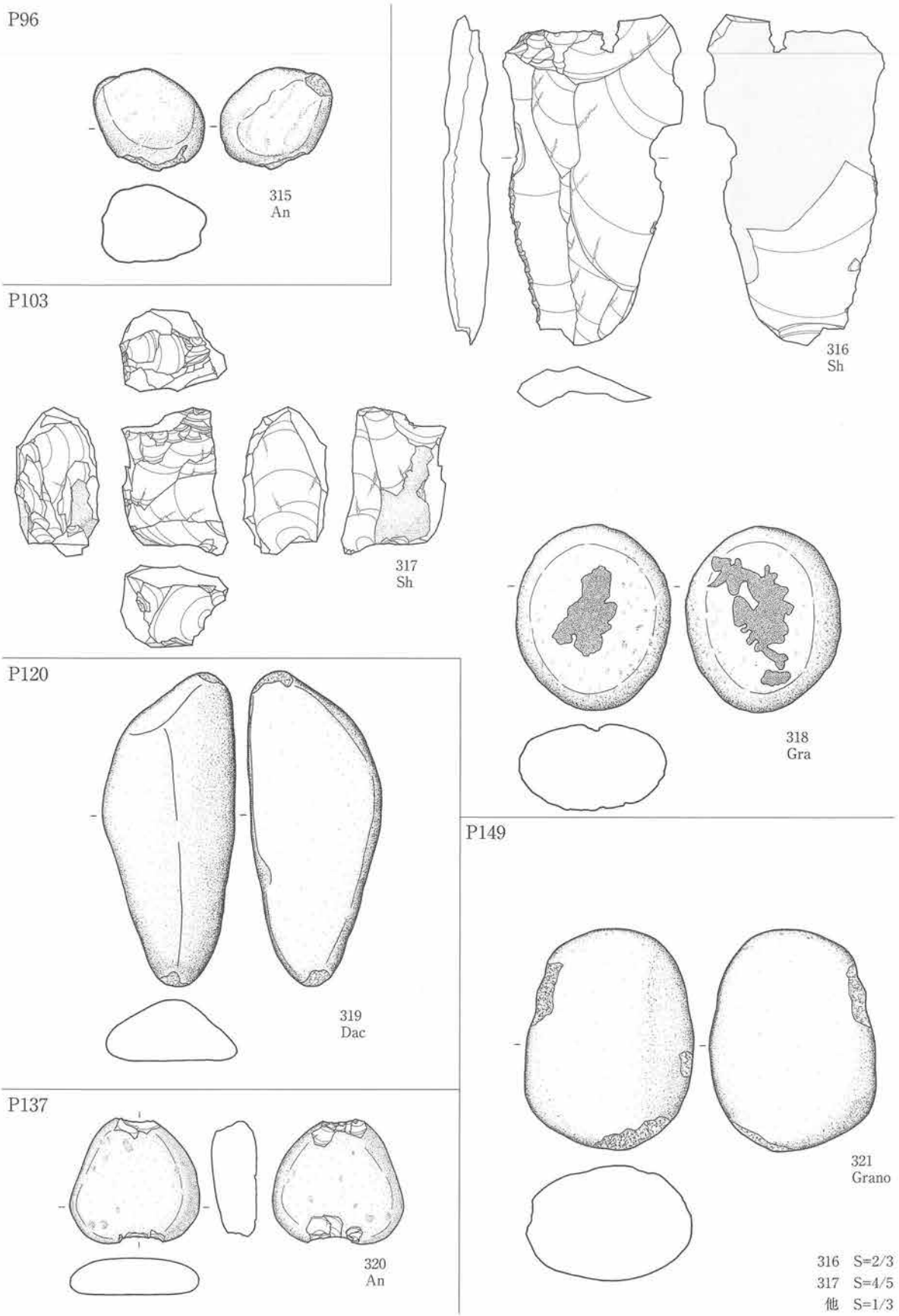
第66図　柱穴出土遺物（1）



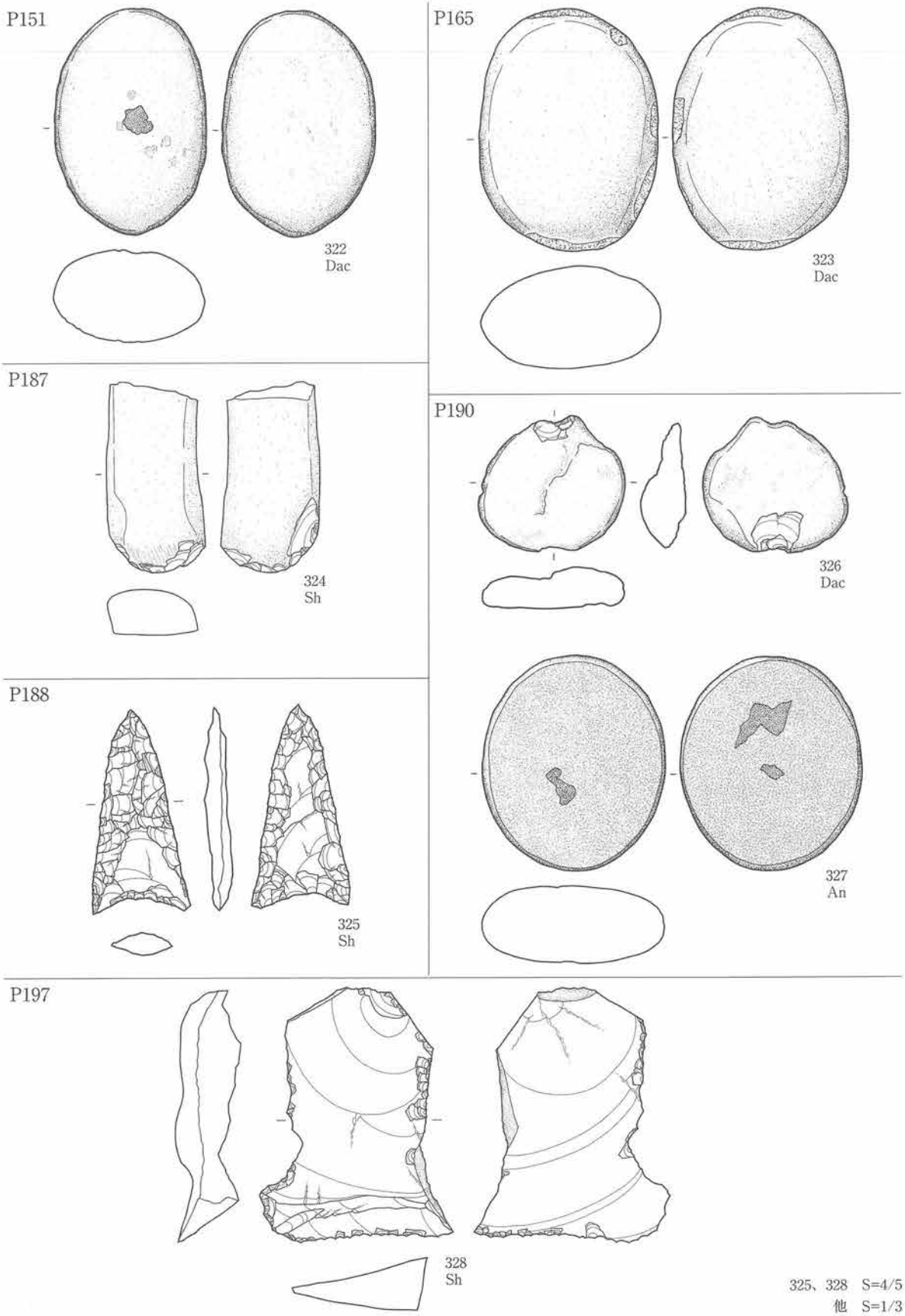
第67図　柱穴出土遺物（2）



第68図　柱穴出土遺物（3）

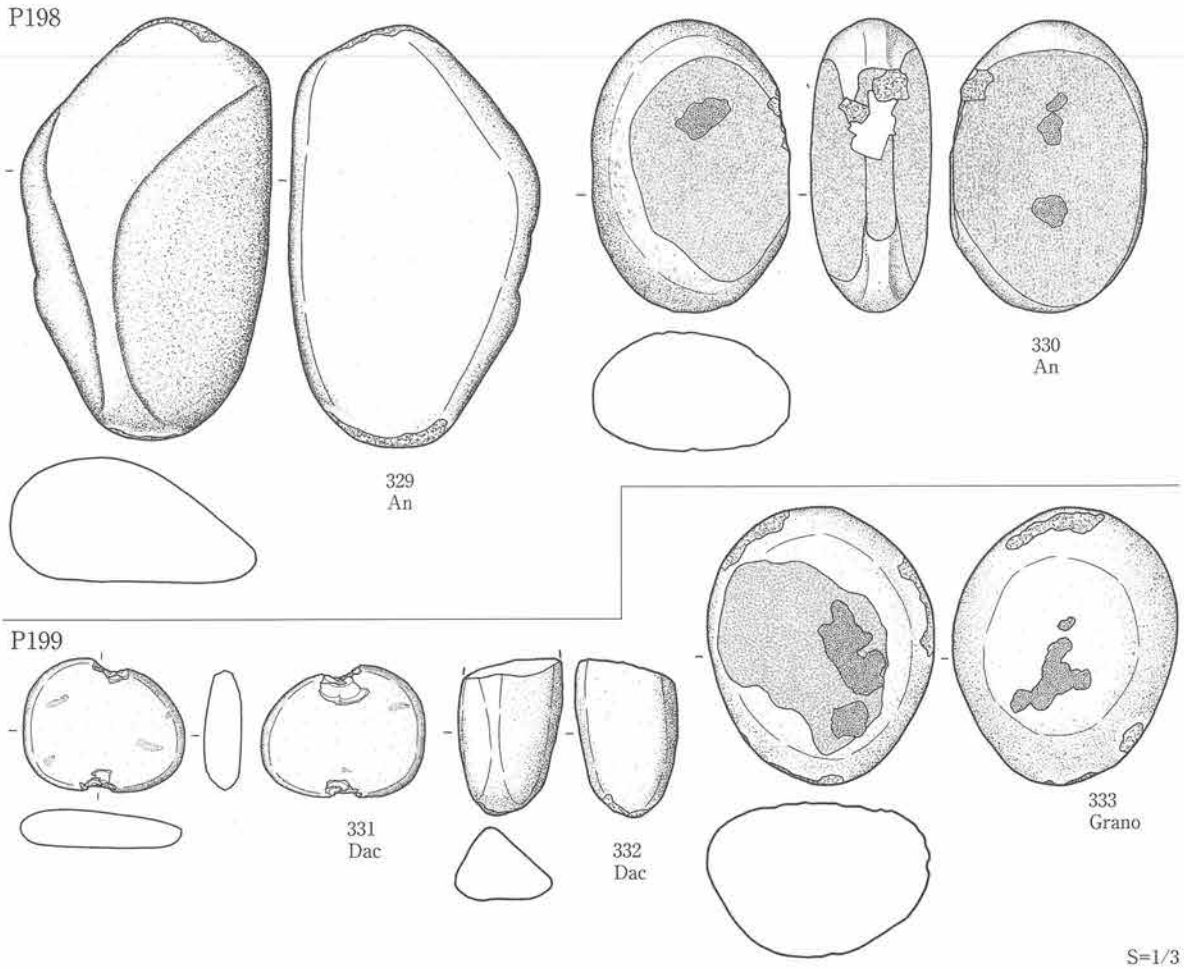


第69図　柱穴出土遺物（4）



325、328　S=4/5
他　S=1/3

第70図　柱穴出土遺物（5）



第71図　柱穴出土遺物（6）

3．時期不明の遺構

1）溝

1号溝（第72～74図）

［検出位置］ＧＪ78～81グリッドに位置する。

［検出面］Ⅲ層。

［検出状況］Ⅲ層上面において西壁に試掘トレンチを入れた結果、本遺構の存在を把握した。断面観察によりⅡ層を掘り込んで形成されていることを確認した。

［重複］１号・２号竪穴住居跡と重複しており本遺構の方が新しい。

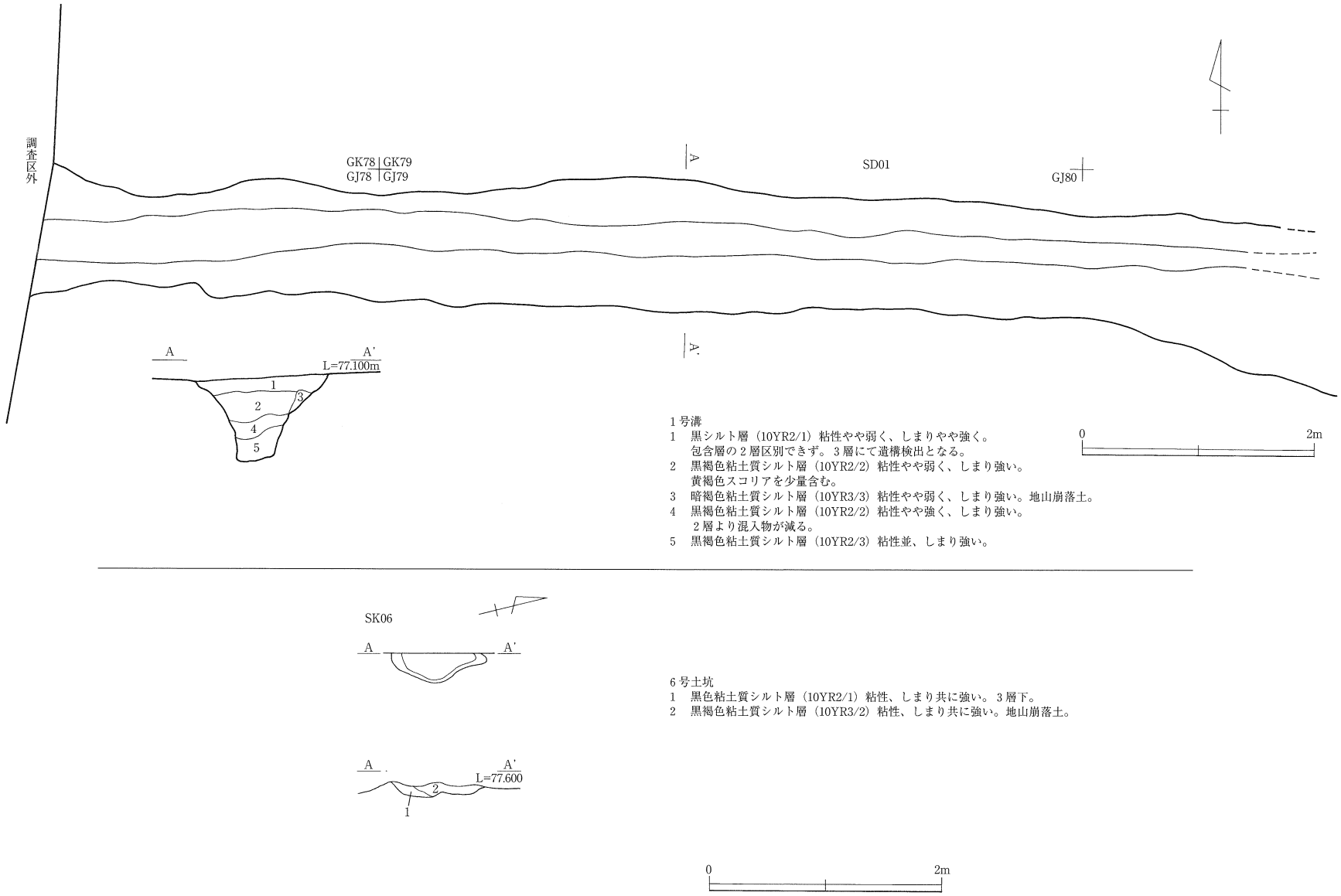
［規模］検出長は11.06m、上端は0.74～1.24m、下端は0.2～0.32mである。深さは0.71mである。

［平面形］上端と下端が共に平行し、東西にほぼ真っ直ぐである。

［底面・壁］底面は概ね平坦である。壁は外傾して立ち上がる。

［埋土］黒褐色シルト層が主体で５層に分層される。

［出土遺物］縄文土器226点、石器200点が出土している。334は浅鉢の口縁部と思われる。335は石鏃、336は石錐、337は石匙、338は不定形石器、339・340はスクレイパー類である。礫石器のⅡ類（341）、Ⅶ類（342・



第72図　1号溝・6号土坑

343)、XⅢ類（344）である。本遺構と竪穴住居跡が重複した範囲で主にこれらの遺物が出土していることから、1号・2号竪穴住居跡の遺物である可能性が高い。

[所属時期] 縄文時代以外の遺物は出土しておらず、また調査区西壁でⅡ層より掘り込まれている状況を確認していることから縄文時代中期以降に属するが、詳細は不明である。

2）土坑

6号土坑（1号土坑で登録）（第72図）

[検出位置] EM74グリッドに位置する。

[検出面] Ⅴ層。

[検出状況] Ⅴ層の遺構検出面まで掘り下げを行った結果、壁際に調査区外に延びていく不整形プランを検出した。断面において遺構はⅢ層より掘り込まれていることを確認した。

[規模] 0.77×0.26m、深さは0.11mである。

[平面形] 不整形を呈するが、調査区外に延びていくため全容は不明である。

[底面・壁] 底面は皿状に凹む。壁は緩やかに立ち上がる。

[埋土] 黒色～黒褐色粘土質シルト層主体で2層に分層される。

[出土遺物] なし。

[遺構時期] 縄文時代以降に属すると思われるが所属時期は不明である。

3）柱穴

柱穴（第12図）

[検出位置] FⅠ78・79グリッド付近（3区）とEM75・76グッリド付近（4区）に位置する。

[検出面] それぞれ地山である。

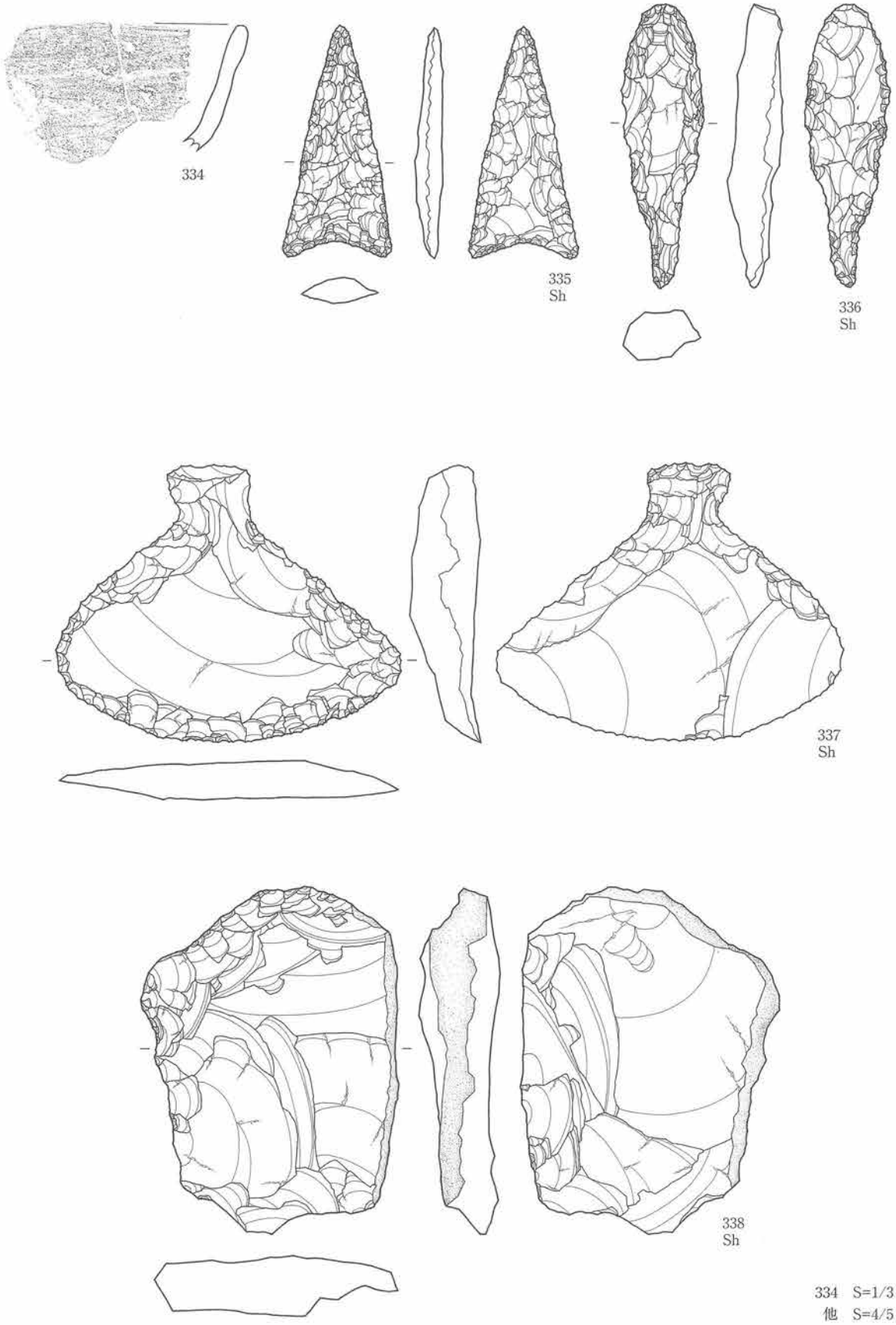
[検出状況] 3区では9基、4区では5基検出され、第12・13図に示した通りである。

[平面形・規模・形状] 観察表に記載した通りである。

[埋土] それぞれの区で確認できた柱穴の埋土主体層は同一である。

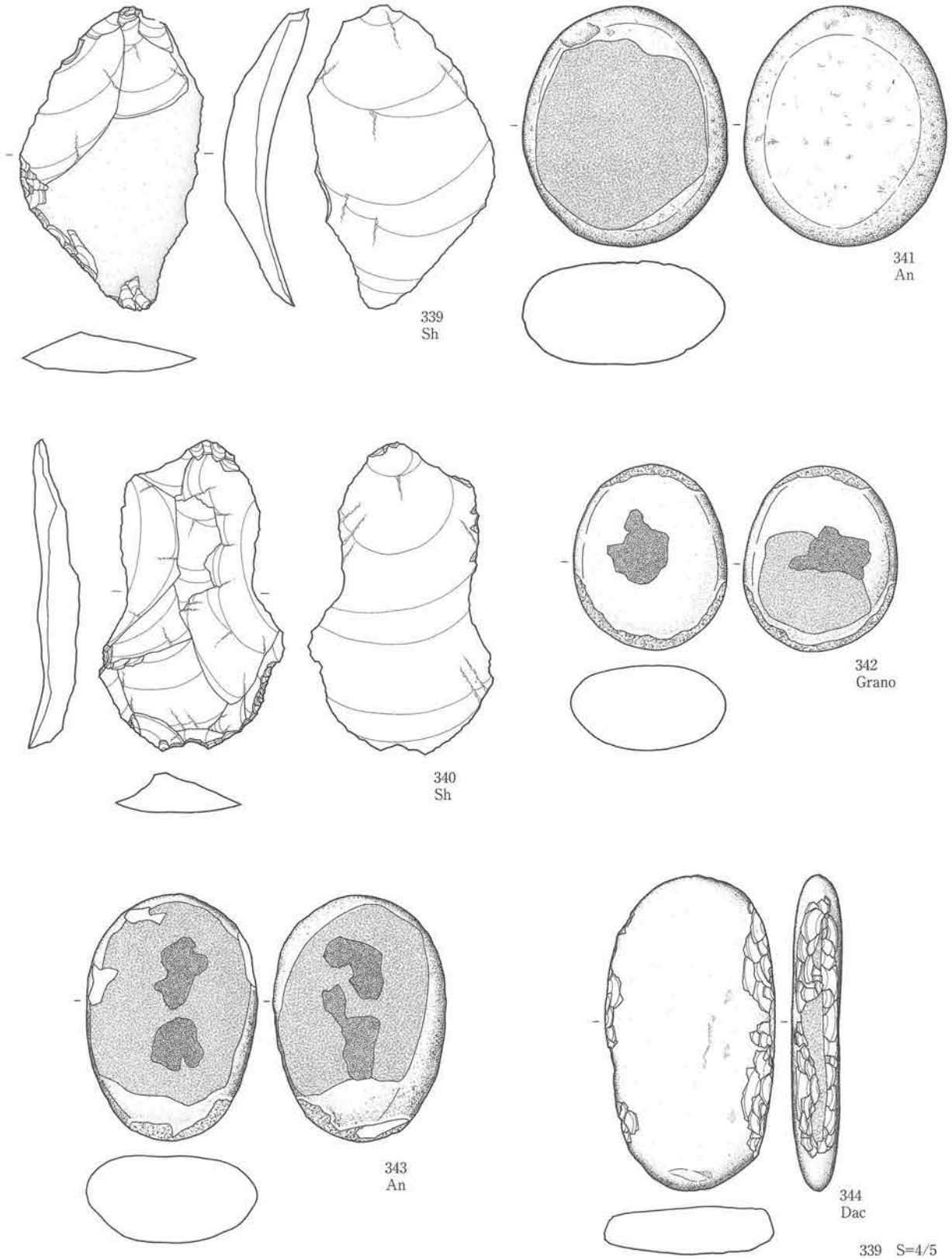
[出土遺物] なし。

[遺構時期] 所属不明である。



334　S=1/3
他　S=4/5

第73図　1号溝出土遺物（1）



339　S=4/5
340　S=2/3
341～344　S=1/3

第74図　1号溝出土遺物（2）

４．遺構外出土遺物

１）土器

遺構外からは遺物が多く、特に調査区１区のⅠ層からⅤ層にかけては多くの土器が出土し、約42,687点、重量は554.61kgである。各層位ごとに遺物を取り上げを行ったため、それぞれまとめておく。

各包含層からは大木６式を中心に大木２ａから大木７ｂ式期にかけての土器が確認された。下記に分類した大木５ｂ～６式・６～７ａ式・７ａ～７ｂ式は、区分できなかったためこのような扱いを行った。以下に各層ごとに記載する。

Ⅰ層出土土器（第75図）

1,774点出土している。

［大木６式］（346・348）

346は半截竹管による縦位沈線、348は棒状工具による斜位沈線を施文。

［大木７ａ～７ｂ式］（345・347）

345は「し」字状隆帯貼付。347は円文・縦位沈線を組み合わせたものである。

Ⅱ層出土土器（第75～79図）

7,083点出土している。

［大木６式］（349・351・352・357・360・361・363・366・373・378・380・382・388～390・392・394・396・399・400・405～408・412・413・415・416・418・420・421・424・427・433・435）

351は縦位隆帯２列貼付と円形竹管による刺突、352は鋸歯状平行沈線にボタン状貼付文、351と352は共にＩＣ類である。435は頸部と体部の間に横位の三角印刻を有するものである。その他は半截竹管・棒状工具による沈線や刺突、円形粘土・縦位隆帯を貼付けられているものがある。

［大木７ａ式］（358・362・368・370・371・374・376・377・383・393・417・423・434）

370・374・423は縦位直交に刻まれた隆帯が貼付され、平行沈線と鋸歯状沈線、縦位沈線と頸部と体部を区画する横位隆帯に組み合わせによるものである。377は「Ｘ」字状隆帯を貼付、その脇に沈線を施文し、体部にも縦位沈線施文。383は他の口縁部形態とは異なる波状縁を呈す。393は口唇部に横位隆帯、その直下に複数の縦位隆帯を貼付。417は口縁部突起で口唇部及び内外面に沈線を有する。その他は隆帯貼付、沈線との組み合わせで施文されたものである。

［大木７ａ～７ｂ式］（356・367・385・391・397・401・402・409・422・425・426・429・431・432・436・437）

356は隆帯を三角形状に巡らし、渦巻状・斜位・横位沈線と組み合わせたものである。367・402は「Ｘ」字状隆帯貼付、前者の内面にのみ渦文貼付。385・422・429・431・432は鋸歯状隆帯を横位ないし縦位に貼付。426は「し」字状隆帯貼付。436と437は口縁部突起で、前者は沈線により装飾されているが、後者は隆帯貼付と沈線を組み合わせ、「ふくろう？」を模している。その他は細い隆帯貼付、沈線を施文されたものである。

［大木７ｂ式］（364・372・386・387・398・404・410・411・414・428）

364はボタン状貼付文。372は隆沈線文。386は弧状沈線と平行沈線の組み合わせたもの。387は格子状沈線。410は渦巻状隆帯。411は横位隆帯に平行させ側面圧痕を施している。その他は細い隆帯を貼付し、沈線が施文されたものである。

［分類不明］（350・353～355・359・365・369・375・379・381・384・395・403・419・430）

分類不明としたものは縄文のみ施文された完形個体や底部のみのもので、上記の型式に含まれる。深鉢が大半を占めるが、355・369のみⅡＢ類である。

Ⅱ～Ⅲ層出土土器（第80図）

431点出土している。

［大木６式］（438・439・442・446）

438と439は口縁部が肥厚でＩＢ１類である。439のみ棒状工具による波状沈線が施文されている。

［大木７ａ～７ｂ式］（443・444・445）

443と445は鋸歯状隆帯貼付。444は「Ｘ」字状隆帯貼付。

［大木７ｂ式］（440・441）

440は弧状沈線文と平行沈線の組み合わせたもの。441は横位隆帯貼付。

［分類不明］（447）

447は深鉢の底部、上記の型式内に含まれる。

Ⅲ層出土土器（第81～103図）

23,170点出土している。

［大木２ａ式］（756）

756は撚糸文が横走し、胎土中に繊維を含む。

［大木５ａ式］（708・744・759）

708は波状口縁の波頂部に円形竹管による刺突が施された山形貼付文と縦位鋸歯状隆帯を貼付。744と759は鋸歯状沈線文。

［大木５ｂ～６式］（483・608）

483と608は口唇部に刻みが施されており、前者はＩＧ２類である。

［大木６式］（448・451～453・456～466・468～472・475・479・481・484～486・495・506～509・514～516・518～520・523・524・526・529・533・537～539・547～549・554・565～567・571～574・577・581・583・585・586・588・590・593～598・601～606・609・613・614・616・618～620・624・625・627・629・630・632・635・637・638・640・644～646・649・652・653・657・659・661・663・668・669・671・678～683・685・689・690・694・695・699・701・702・705・707・709・714～716・718・719・724・727・728・731・732・742・743・748・755・757・760）

448・460は単頭突起直下に円形粘土貼付。451・456は双頭突起直下に円形凹孔を施文。457は口唇部に刻みを有する。458は三頭突起直下に円形凹孔を施文。462は細い横位隆帯を貼付し、その上を半截竹管を刺突。その他は基本的に平口縁や単頭・双頭・三頭突起等の口縁形態が確認できる。文様は縦位及び横位隆帯や円形粘土貼付、円形凹孔、円形・半截竹管による刺突、棒状工具・半截竹管による沈線、側面圧痕などを組み合わせて施文している。また口唇部に刻みを有するものがある。

また、本型式は完形個体が多いことからＩ類に分類した各器形を確認でき、最もバリエーションが多い。

［大木６～７ａ式］（480・530・532・556・570・580・587・626・654・717・751・752）

480は半截竹管による刺突がある縦位隆帯貼付。560は横位平行沈線と縦位沈線組み合わせ、円形粘土板を貼付。その他は横位隆帯、平行沈線が施文されたものである。

［大木７ａ式］（449・450・473・474・476～478・505・513・521・525・528・535・536・540・541・543・545・546・553・560・562・564・579・589・592・600・607・610・611・622・634・641・643・650・655・656・665・667・670・672～674・676・686・691・720・729・734～736・739・741・745～747・750・753・758）

449と450は内面に渦文を貼付していることは共通しているが、前者は口縁部に渦文と縦位隆帯を貼付、後者はボタン状貼付文である。476～478・643・670・729・758は縦位直交に刻まれた隆帯を貼付。473・474・650・655・656・750・753は直交に刻まれた「ノ」字状ないし渦巻状隆帯貼付。560は中央に凹みがある円形粘土貼付。これらは縦位隆帯と渦巻状隆帯、円形粘土貼付には平行沈線、鋸歯状沈線、縦・斜位沈線をそれぞれ組み合わせたものである。その他は平行沈線、鋸歯状沈線、縦・斜位沈線をそれぞれ組み合わせたもので施文されている。本層から完形個体は少なく、大木６式に比べ器形のバリエーションは少ない。449・476・477はＩＢ１類、473・474・478はＩＤ類、450はⅡＡ類である。その他は不明である。

［大木７ａ～７ｂ式］（531・542・544・552・563・557・559・563・578・642・651・658・662・677・684・687・688・693・700・703・712・718・721・723・730・737・738・740）

531・557は波状縁の波頂部に円形状突起を有する。563は渦文貼付。578は口唇部にボタン状貼付文。651は口唇部に深さの異なる刺突を複数有する。700・703は穿孔しており、内外面共にやや膨らむ。684・740は「Ｃ」字状隆帯貼付。730は格子状沈線文。737円形ないし渦文貼付、それに沿って細い隆帯を貼付。その他は鋸歯状・縦位・横位隆帯貼付、円形刺突文が施文されている。

［大木７ｂ式］（522・591・636・647・664・675・692・697・698・726）

522・636・664は口唇部に沈線が施され、口縁部はやや厚みがある。522は口唇部に隆帯を貼付し、沈線が施文。591は内面と口唇部に渦文貼付。664は縦位隆帯貼付。636は鉢状を呈するものである。647・697は弧状沈線と平行沈線を組み合わせたもの。675は口唇部と口縁に棒状工具による刺突列が施されている。698は口縁部に縦位沈線が施され、Ⅱ類に分類されるものである。726は横位一列に穿孔され、その直下に隆帯貼付。

［円筒下層ｄ式］（696）

696は口縁部は側面圧痕、胴部は木目状撚糸文が施文されている。

［分類不明］（454・455・467・482・487～494・496～504・510～512・517・527・534・550～551・555・558・561・568・569・575・576・582・584・599・612・615・617・621・623・628・631・633・639・648・660・666・704・706・710・711・713・722・725・733・749・754）

分類不明としたものは縄文のみ施文された完形個体や底部で、上記の型式に含まれると思われる。454・482は１Ｄ類、455はＩＢ１類、491・497・499はＩＣかＩＧ類の底部と思われる。493・498・501はＩＣ類の底部である。504はⅡＢ類の底部である。その他の底部はⅠ類である。口縁部から599・706・713はⅡ類と思われる。その他はⅠ類と思われ、無文や縄文のみのもの、側面圧痕が施されたものがある。

Ⅳ層出土土器（第103～108図）

3,096点出土している。

［大木５ａ式］（801）

801はドーナツ状突起貼付。

［大木５ｂ～６式］（761・778・798・837）

761は細い鋸歯状隆帯を横位に施文されたＩＣ類である。778は口唇部と肥厚帯下端にそれぞれ刻みを有する。798と837は口唇部に刻みがあり、798のみ口縁部に半截竹管による刺突が施文されている。

［大木６式］（764・765・767～770・779～781・785・786・790・792・793・797・799・803・805・813・815～818・822・823・825・828・831・833・835・836・838・840～843）

768は双頭突起で鋸歯状沈線を施文。770は平口縁で口唇部に刻みを有し平行沈線を施文。793・764は単頭突起で、前者はその直下に円形凹孔、後者はその直下に円形粘土板貼付。797は口縁部に円形凹孔列。842は円形状隆帯貼付。その他は縦位隆帯や円形凹孔、円形・半截竹管による刺突、棒状工具・半截竹管による沈線、側面圧痕などをそれぞれ組み合わせて施文されている。ＩＢ・Ｄ類が確認されているが、本層からは器形が確認できるものは少ない。

［大木６～７ａ式］（763・795）

822は縦位隆帯貼付と側面圧痕を組み合わせているものである。

［大木７ａ式］（771・782・783・789・794・796・808・812・829・832）

785は渦巻状沈線。789・808は「Ｘ」字状隆帯貼付。その他は縦位直交に刻まれた隆帯に平行沈線、鋸歯状沈線、縦・斜位沈線をそれぞれ組み合わせたものと各沈線だけを組み合わせたものである。出土点数が少なく器形を確認できるものはない。

［大木７ａ～７ｂ式］（800・807・810・814）

800は鋸歯状隆帯貼付。その他には円形刺突、平行沈線、ボタン状貼付文が施文されている。

［分類不明］（762・766・772～777・784・787・788・791・802・804・806・809・811・819～821・824・826・827・830・834・839）

分類不明としたものは縄文のみ施文されたもので、上記の型式に含まれると思われる。762・772はＩＧ類に分類される。他の底部はＩ類に含まれるが詳細は不明である。776はミニチュア土器である。口縁部には無紋や縄文のみのもの、側面圧痕が施されたものがある。

Ⅳ～Ⅴ層出土土器（第108図）

768点出土している。

［大木６式］（844）

844は単頭突起直下にボタン状貼付文、ＩＣ類である。

Ⅴ層出土土器（第109～116図）

5,398点出土している。

［大木５ｂ～６式］（864）

864は細い隆帯を縦・横位の直線と鋸歯状を組み合わせて貼付。

［大木６式］（845・846・858・860・861・863・871・873～879・890・893～896・901・902）

845は単頭突起で鋸歯状沈線を施文。846は双頭突起で波底部直下に円形凹孔を施文。858は平口縁で体部に刷毛目状工具による沈線を施文。これらはすべてＩＢ１類である。860・863は側面圧痕と横位隆帯を組み合わせたもので、両者共に平口縁のＩＧ類である。その他には半截竹管や棒状工具による沈線、円形凹孔、縦位隆帯貼付がそれぞれ施文されている。

[大木７ａ式]（865・882・885・891・897・898）

865は縦位隆帯２列の貼付と横位沈線と鋸歯状沈線を組み合わせで施文。885は波頂部に渦文貼付。その他には縦位直交に刻まれた隆帯と横位平行・鋸歯状沈線、縦・斜位沈線をそれぞれ組み合わせたものである。865のみＩＤ類であるが、その他の器形については点数が少ないため不明である。

[分類不明]（847～857・859・862・866～870・872・880・881・883・884・886～889・892・899～900・903）

分類不明としたものは縄文のみ施文されたもので、上記の型式に含まれると思われる。器形が分かる深鉢であるが、縄文のみであるため型式分類は行っていない。

調査区一括出土土器（第116図）

810点ある。

[大木５ａ～５ｂ式]（923）

932は円形竹管による刺突が施された縦位山形隆帯貼付。

[大木６式]（904・906・907・911・912・915・916・924）

912・915・916は円形凹孔と平行沈線を組み合わせたもので、いずれも口縁は波状縁である。906は口縁部がやや肥厚で胴部のみ縄文を施文。その他は半截竹管や棒状工具による沈線が施文されている。

[大木７ａ式]（905・910・917・919・920）

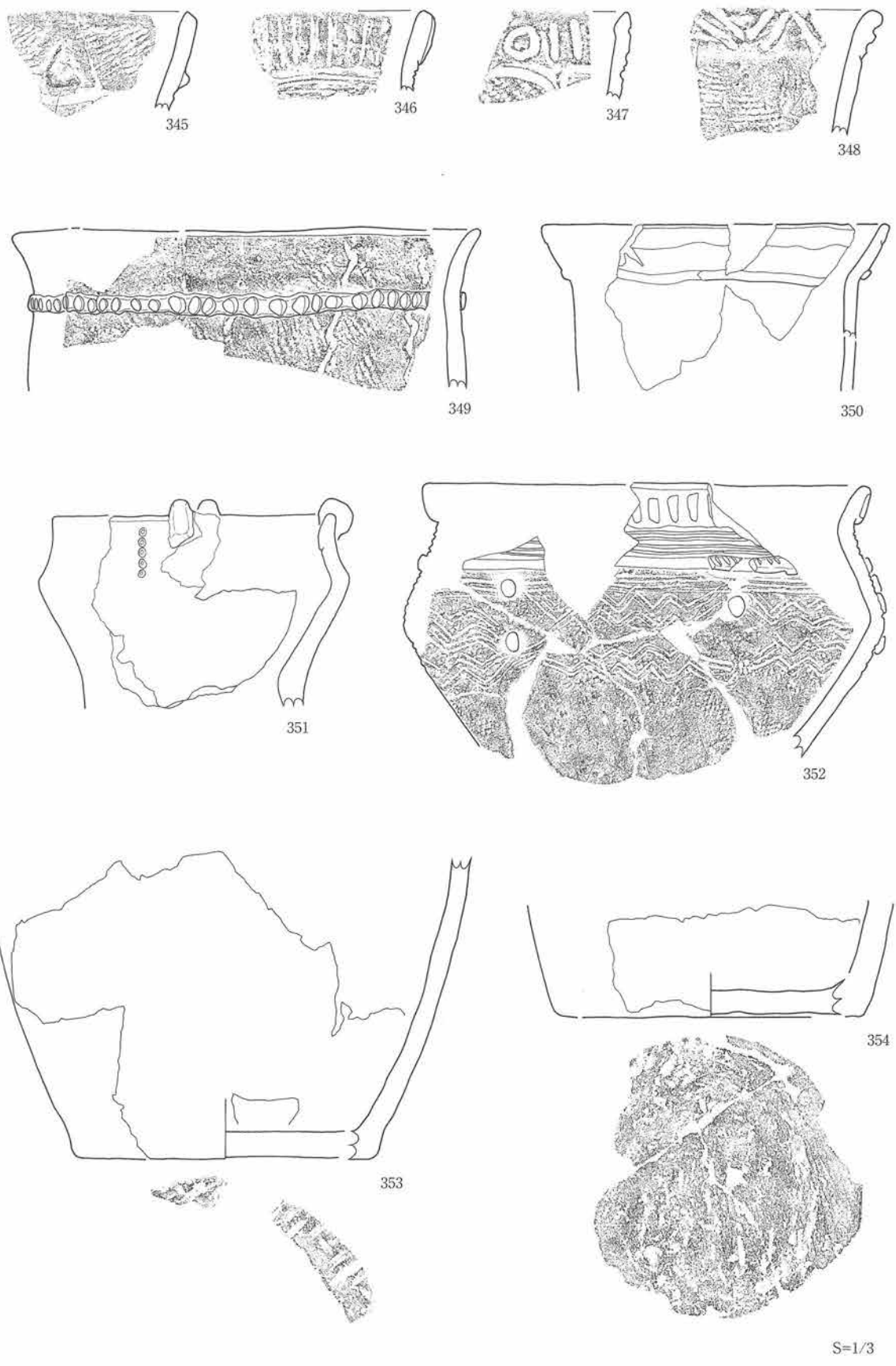
913は内外面に渦文貼付。919は縦位直交に刻まれた隆帯と横位平行・縦位・斜位沈線をそれぞれ組み合わせて施文されている。920は前述した沈線のみで施文されている。

[大木７ａ～７ｂ式]（913・914・926）

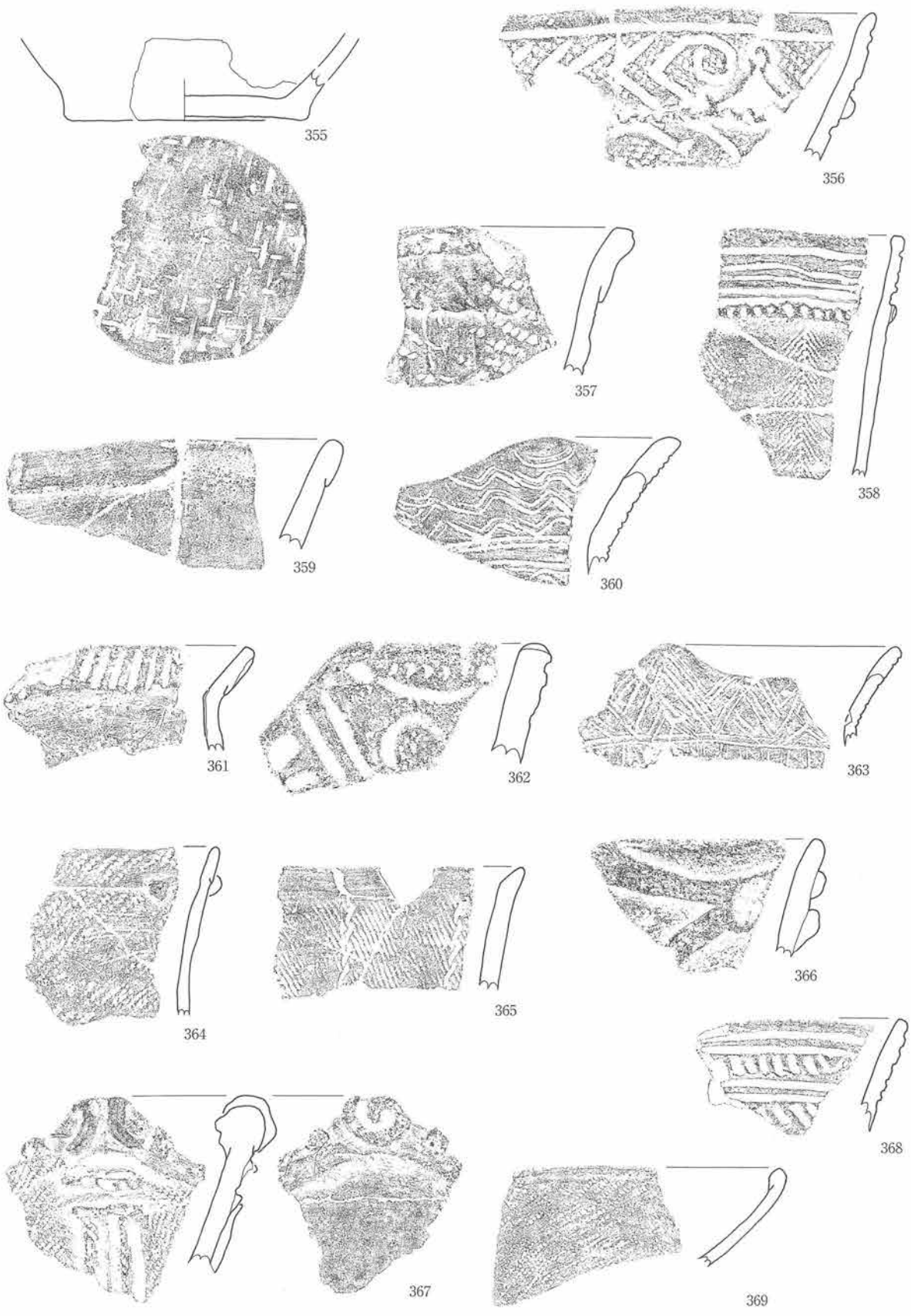
平行沈線、半裁竹管による刺突が施されている。

[分類不明]（908・909・918・921・922・925）

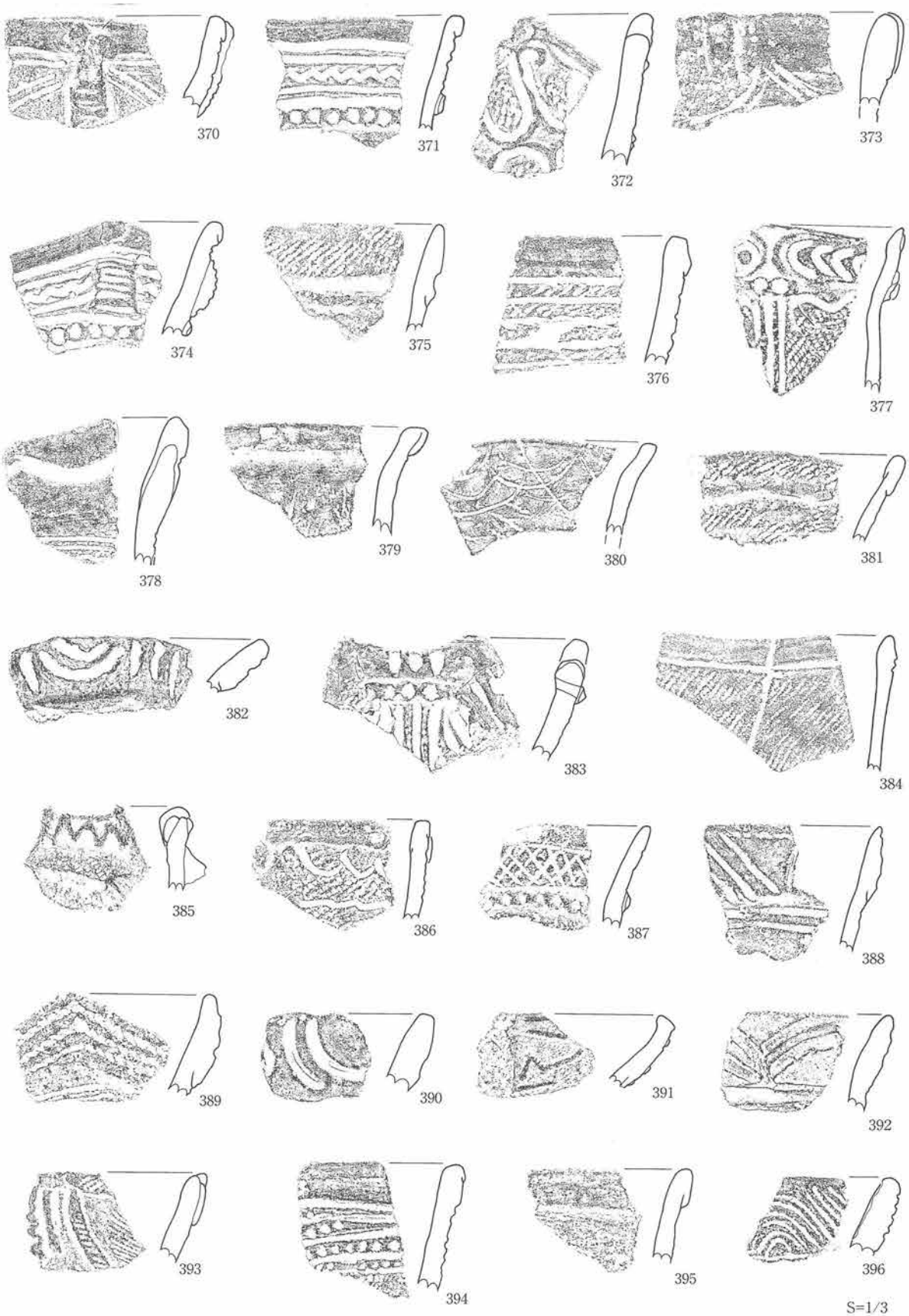
分類不明としたものは、底部及び縄文のみ施文された体部で上記の型式に含まれると思われる。器形が分かるものもあるが、文様が施文されていないため分類できなかった。



第75図　Ⅰ層出土土器、Ⅱ層出土土器（1）



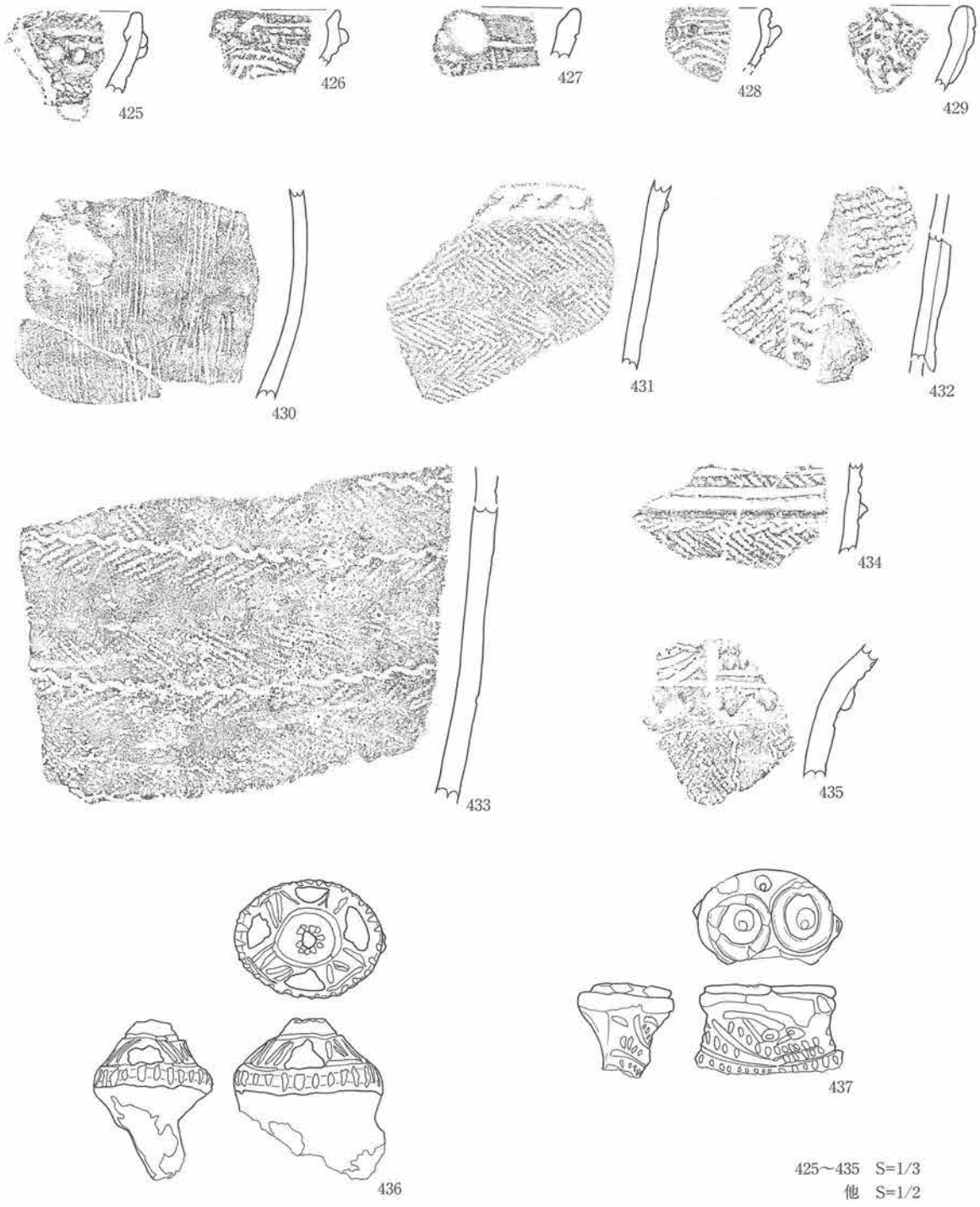
第76図　Ⅱ層出土土器（2）



第77図　Ⅱ層出土土器（3）

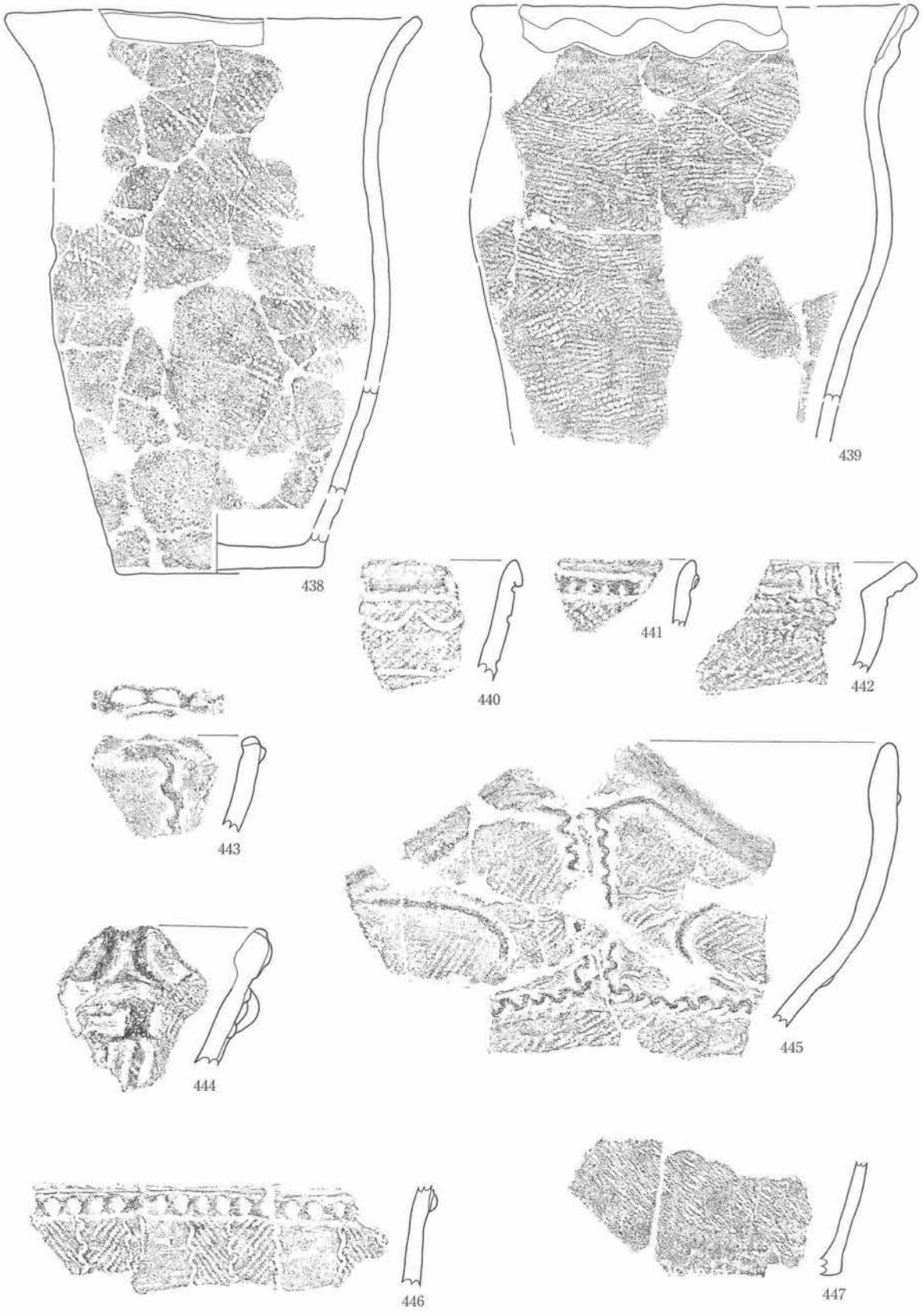
S=1/3

第78図　Ⅱ層出土土器（4）



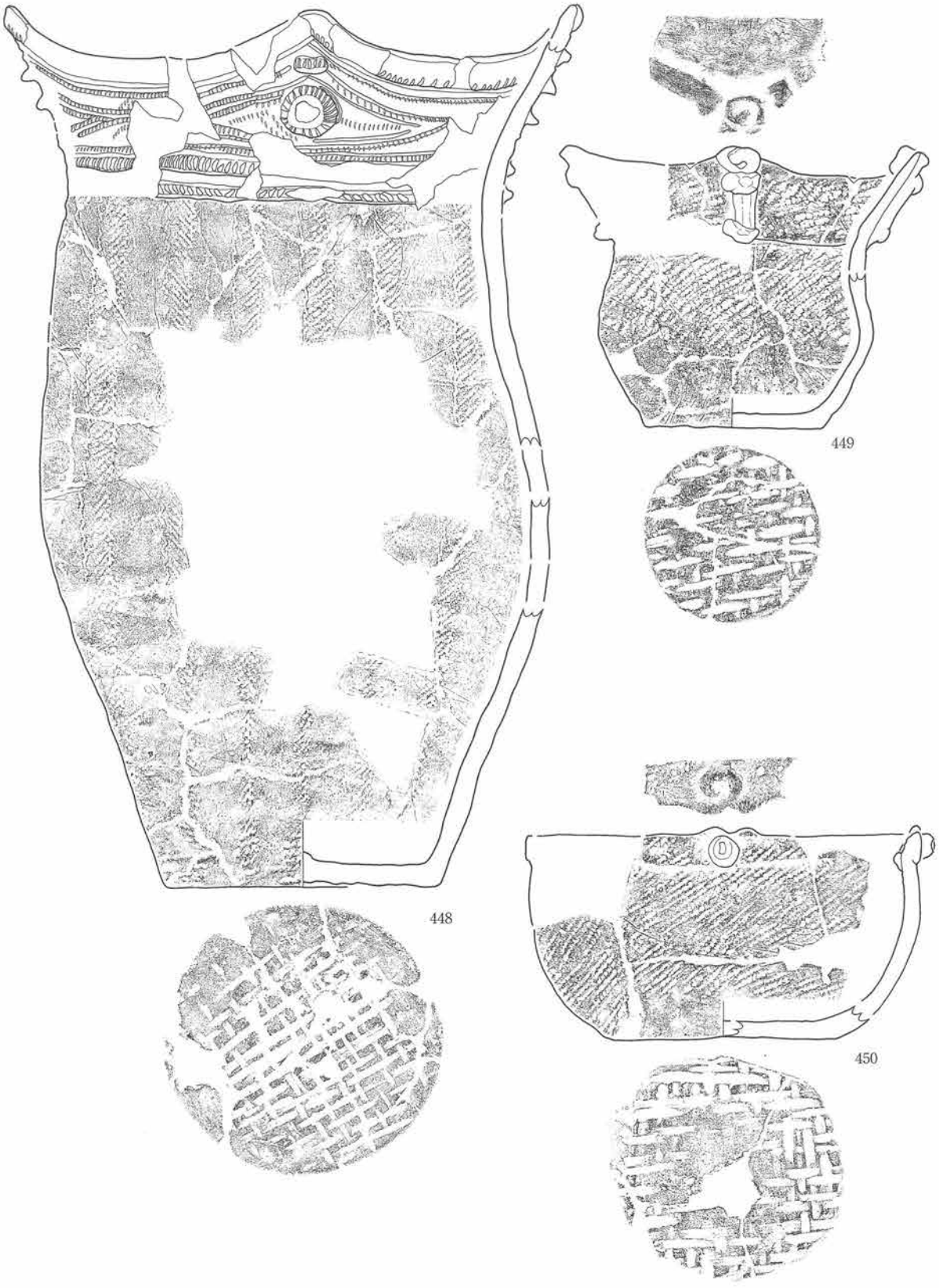
425～435　S=1/3
他　S=1/2

第79図　Ⅱ層出土土器（5）



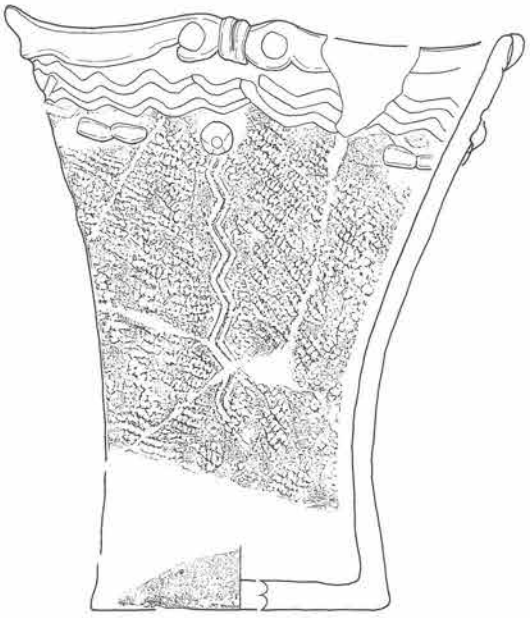
S=1/3

第80図　Ⅱ～Ⅲ層出土土器

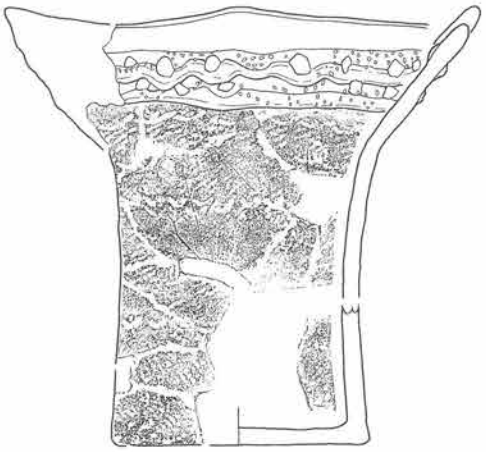


448　S=1/4
他　S=1/3

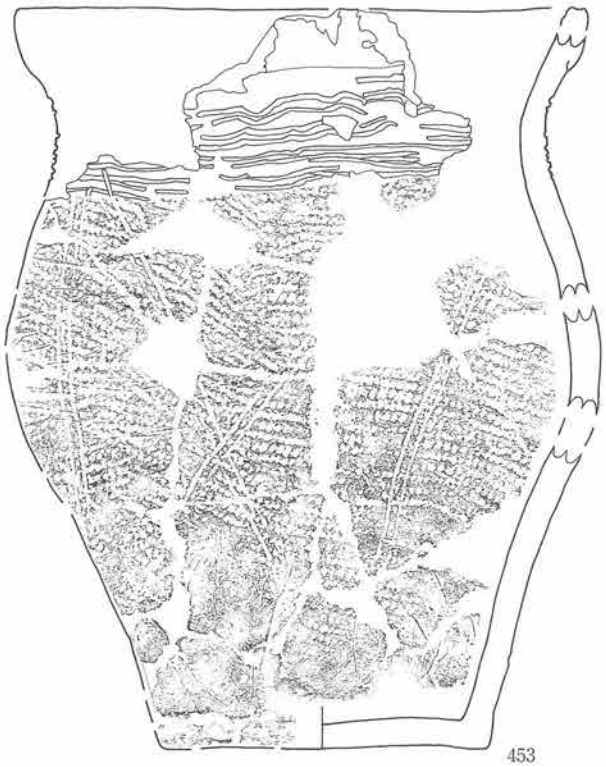
第81図　Ⅲ層出土土器（1）



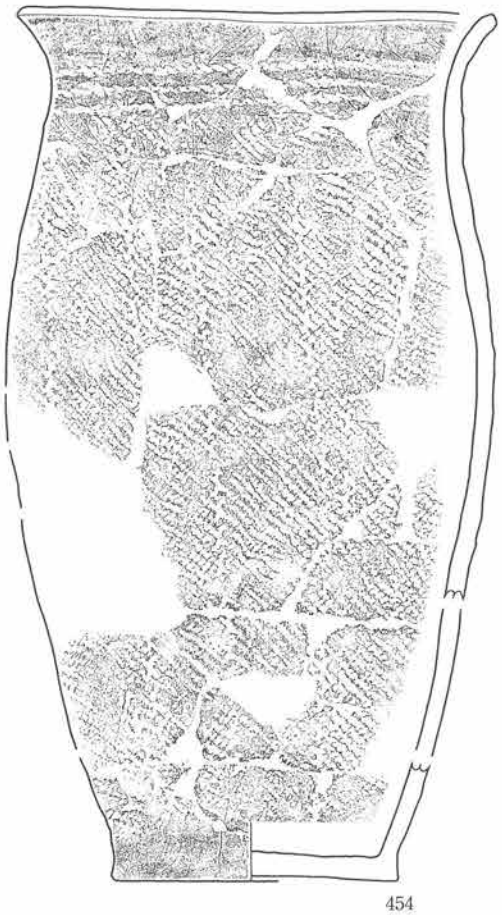
451



452



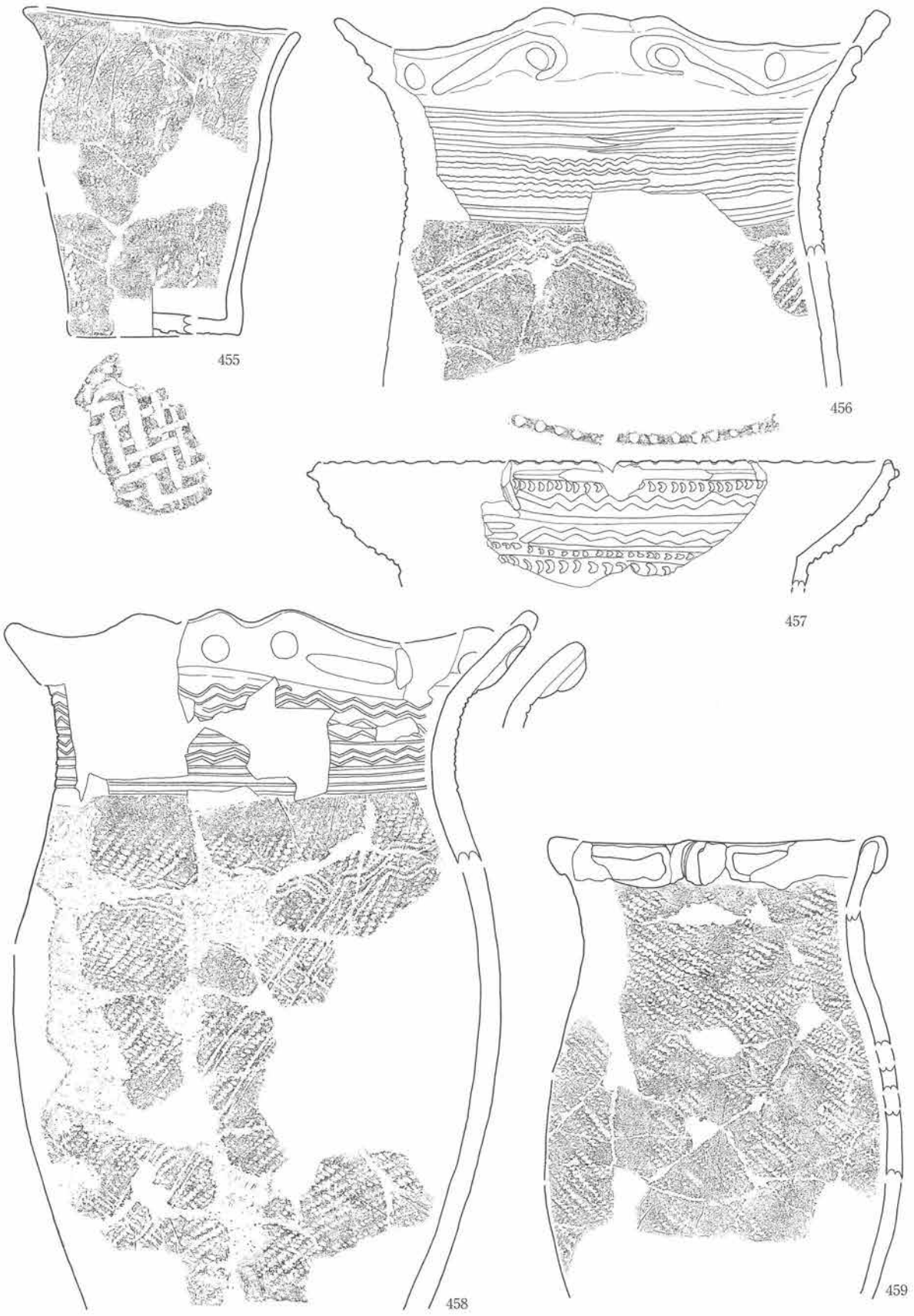
453



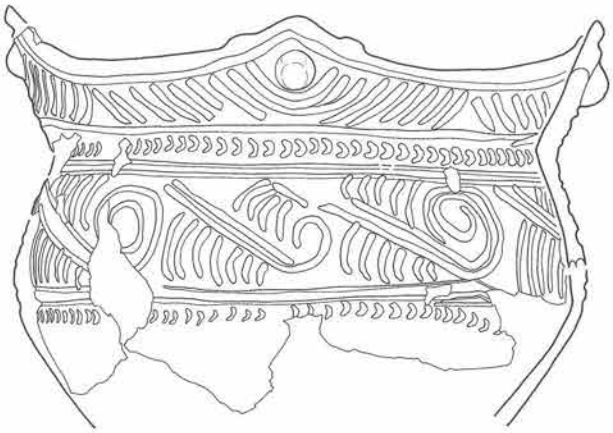
454

S=1/3

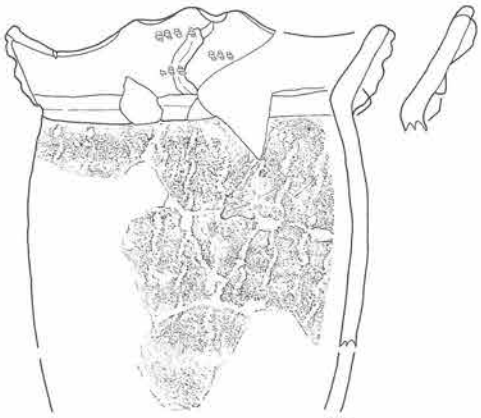
第82図　Ⅲ層出土土器（2）



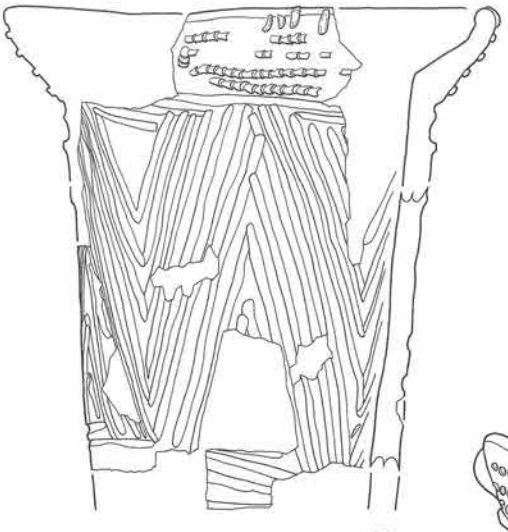
第83図　Ⅲ層出土土器（3）　S=1/3



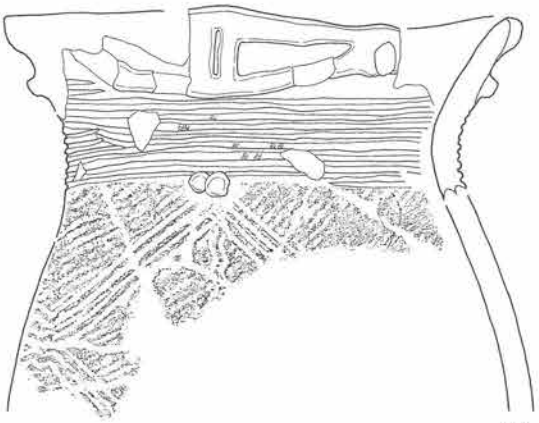
460



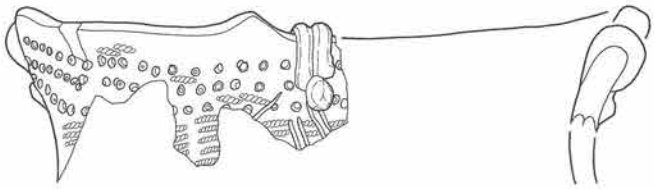
461



462

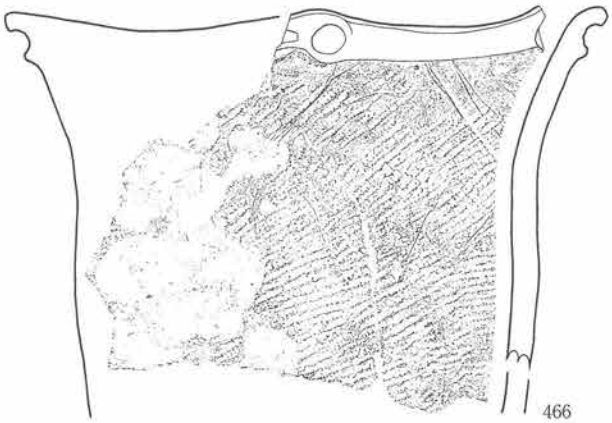


463



464

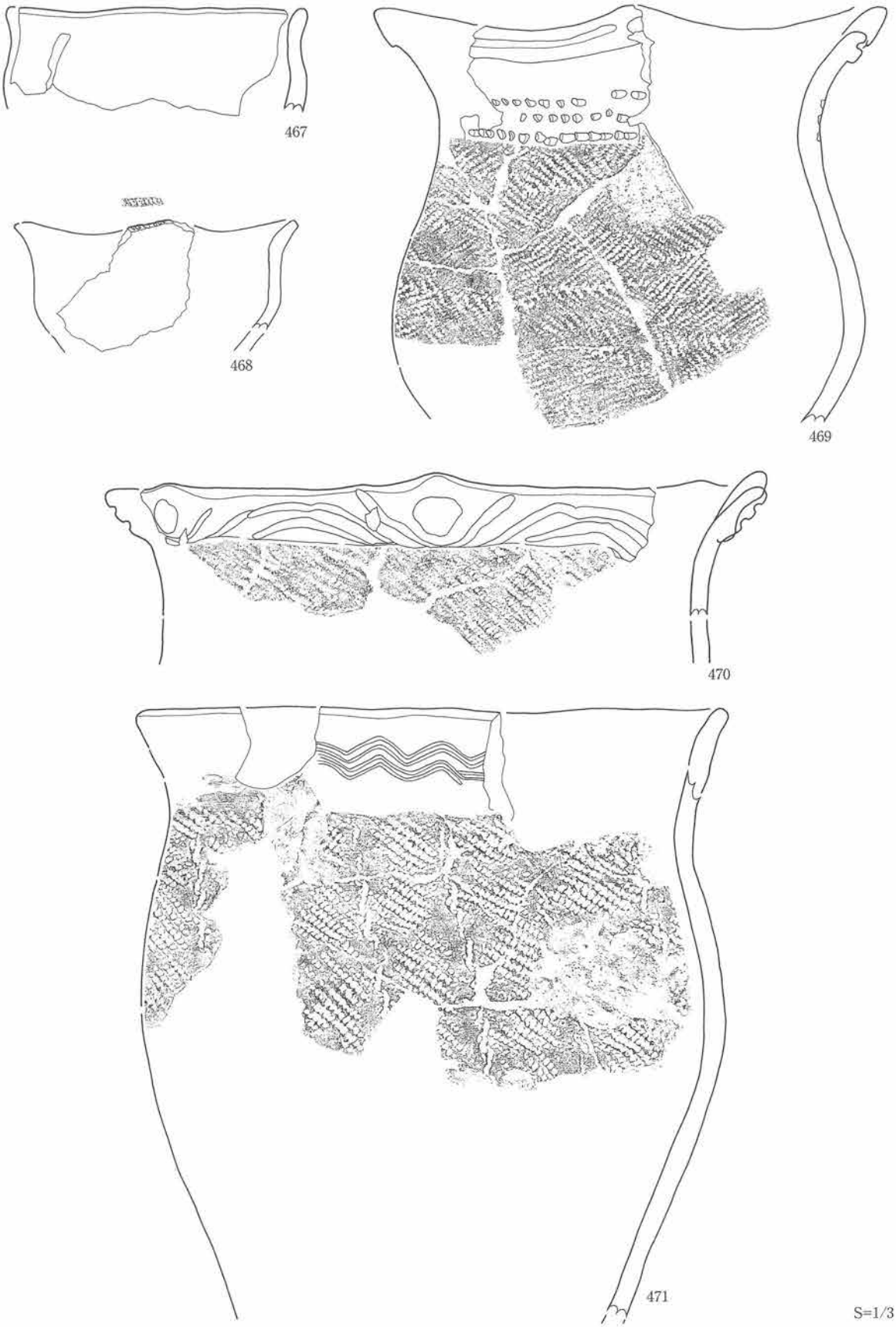
465



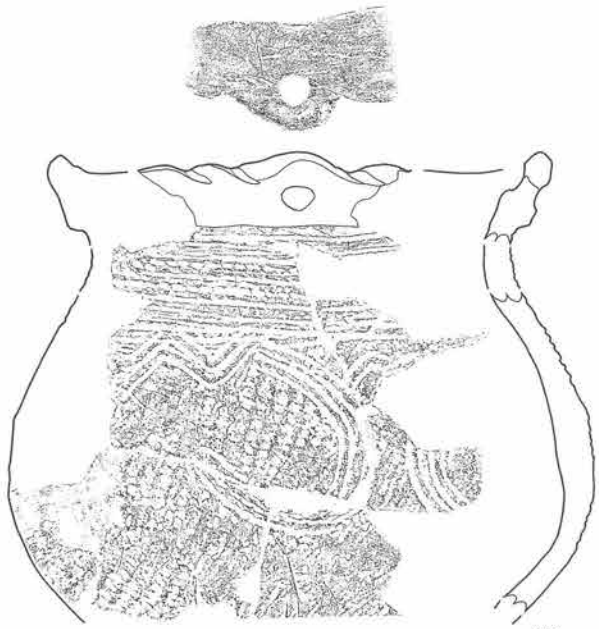
466

第84図　Ⅲ層出土土器（4）

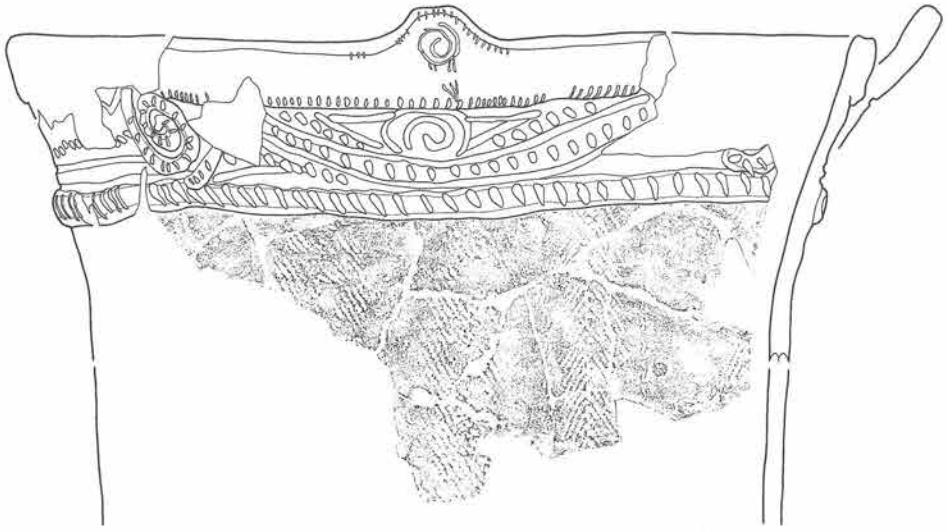
S=1/3



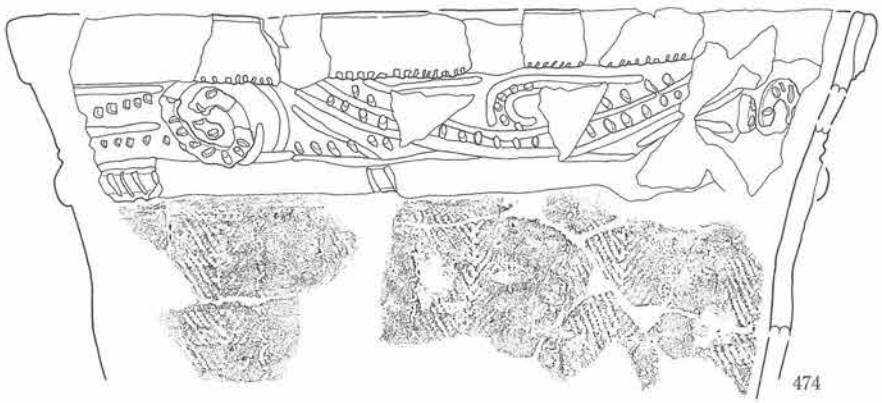
第85図　Ⅲ層出土土器（5）



472



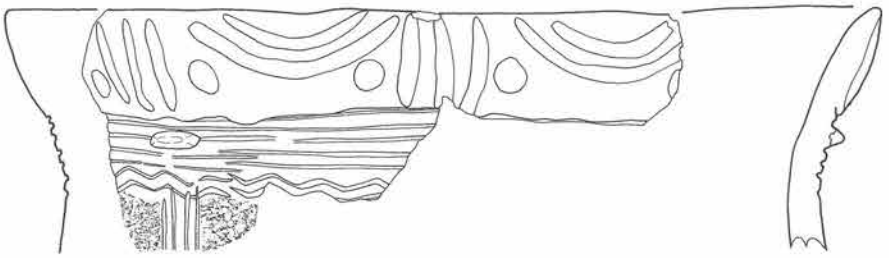
473



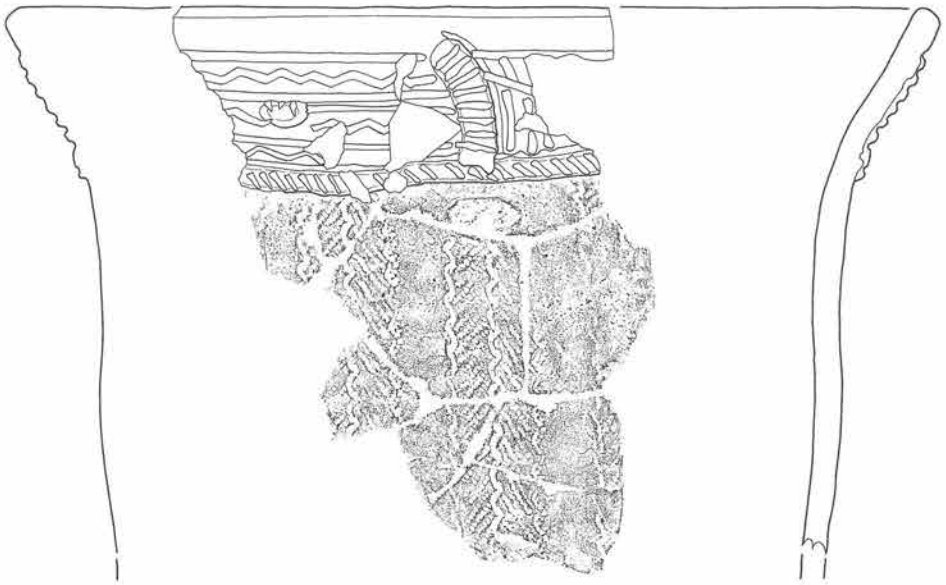
474

S=1/3

第86図　Ⅲ層出土土器（6）



475

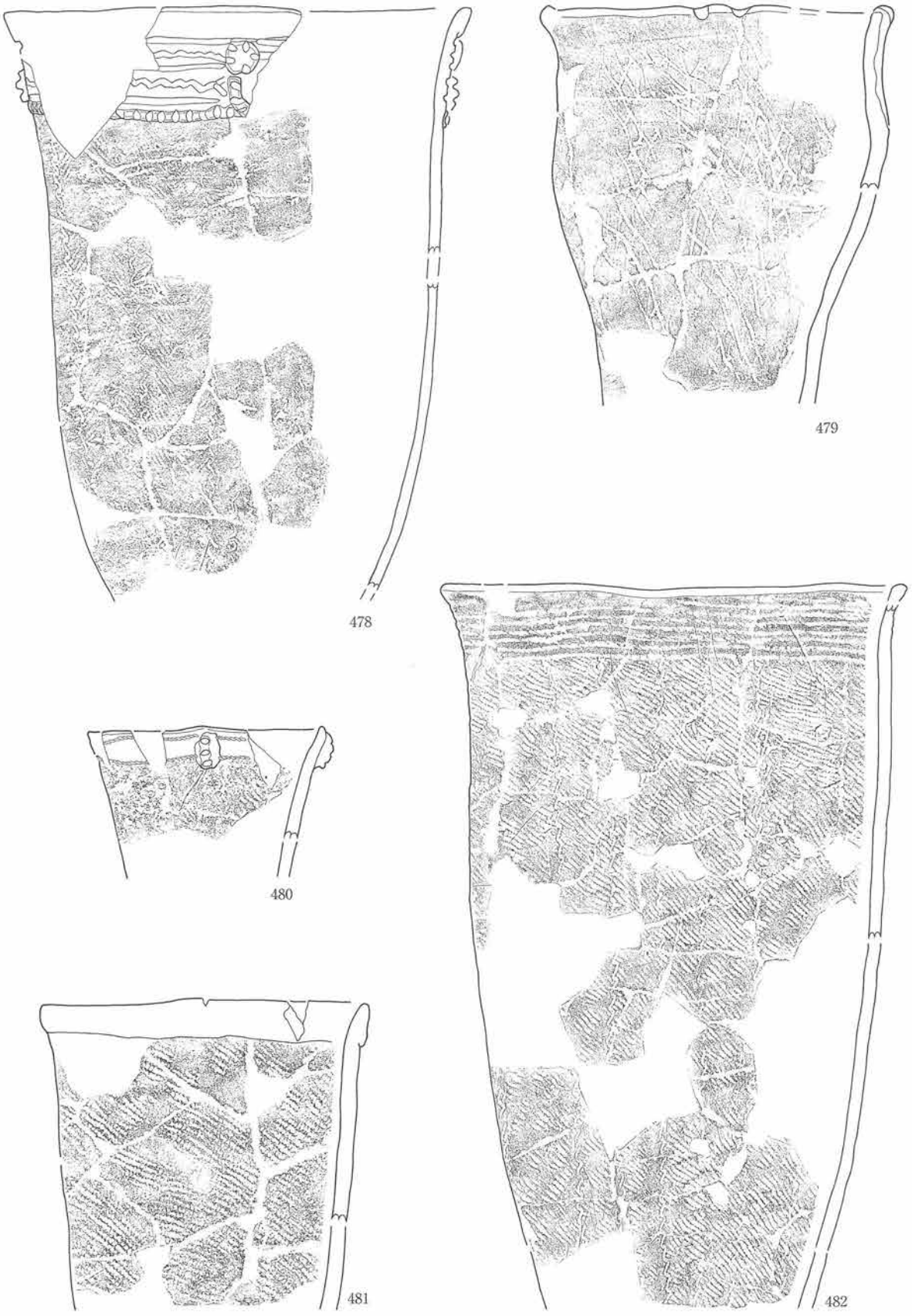


476

477

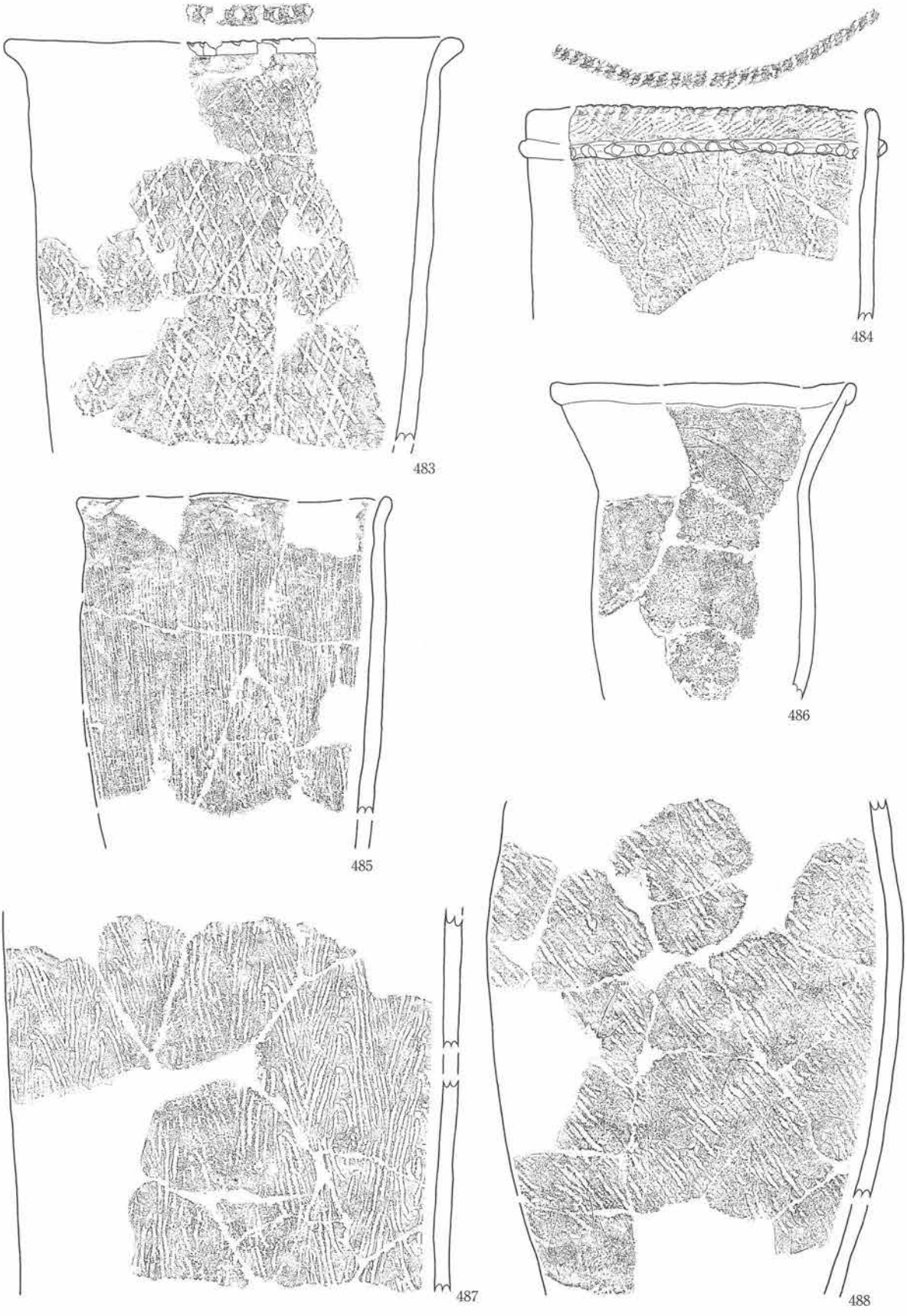
S=1/3

第87図　Ⅲ層出土土器（7）

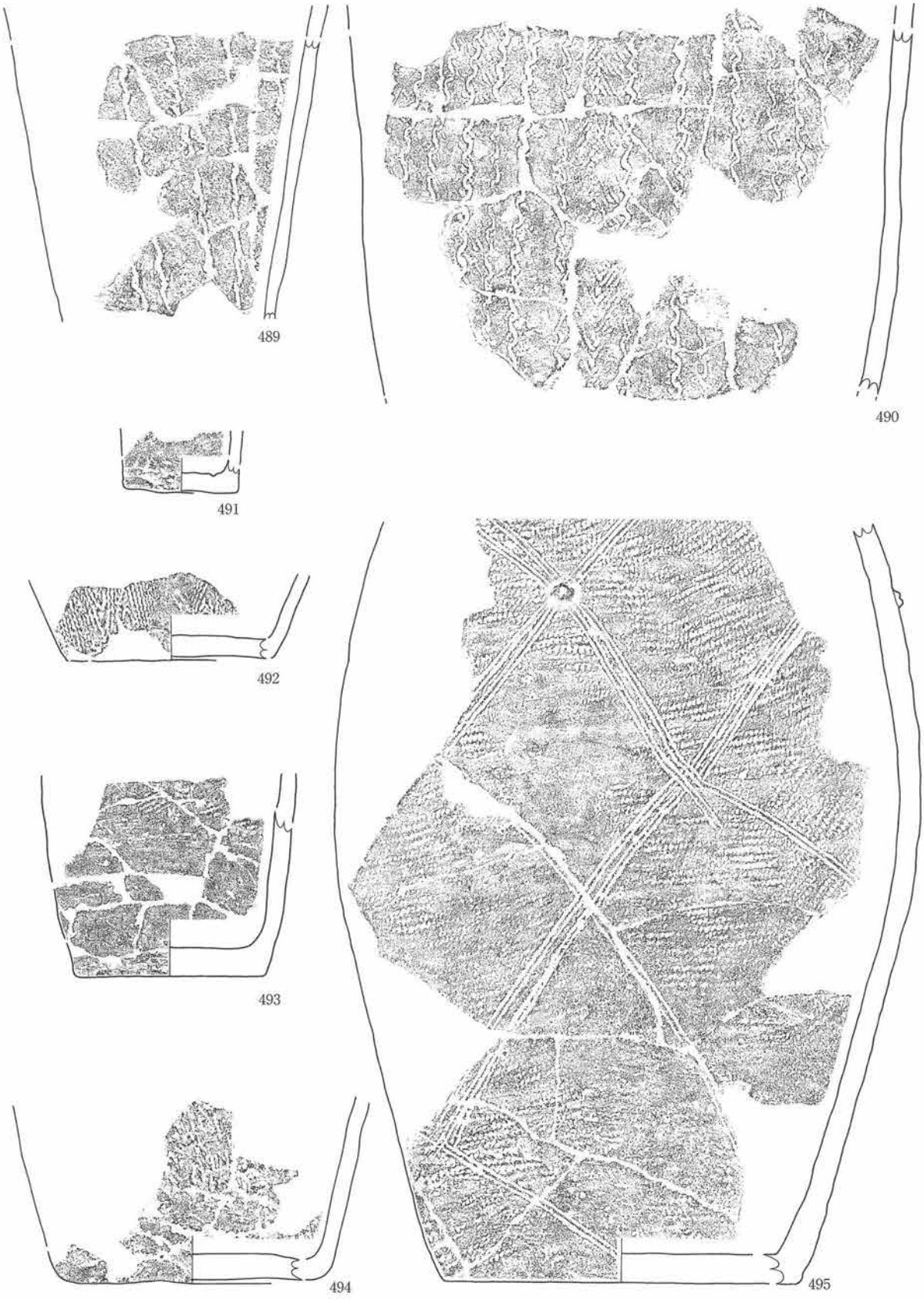


S=1/3

第88図　Ⅲ層出土土器（8）



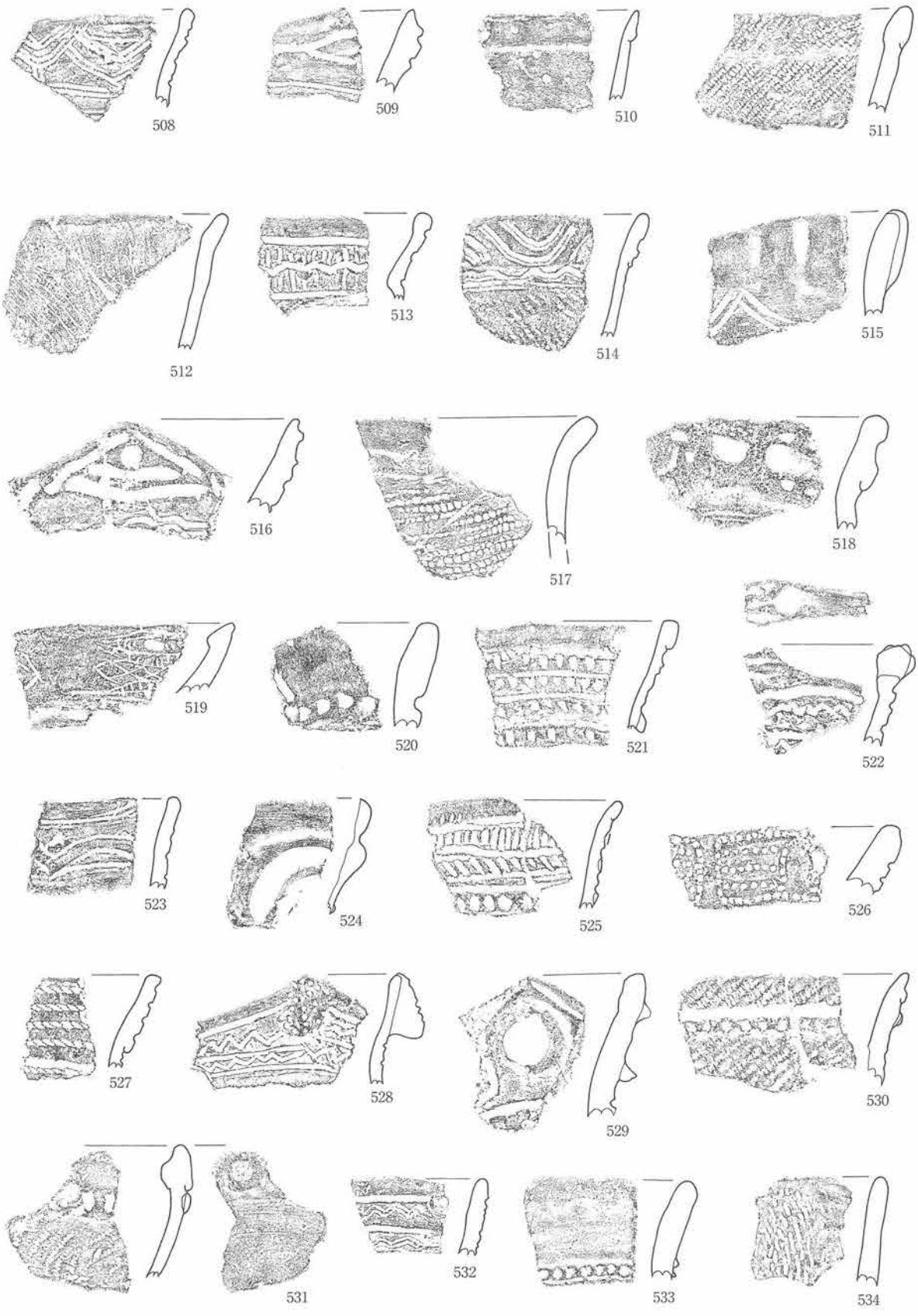
第89図　Ⅲ層出土土器（9）　S=1/3



S=1/3

第90図　Ⅲ層出土土器（10）

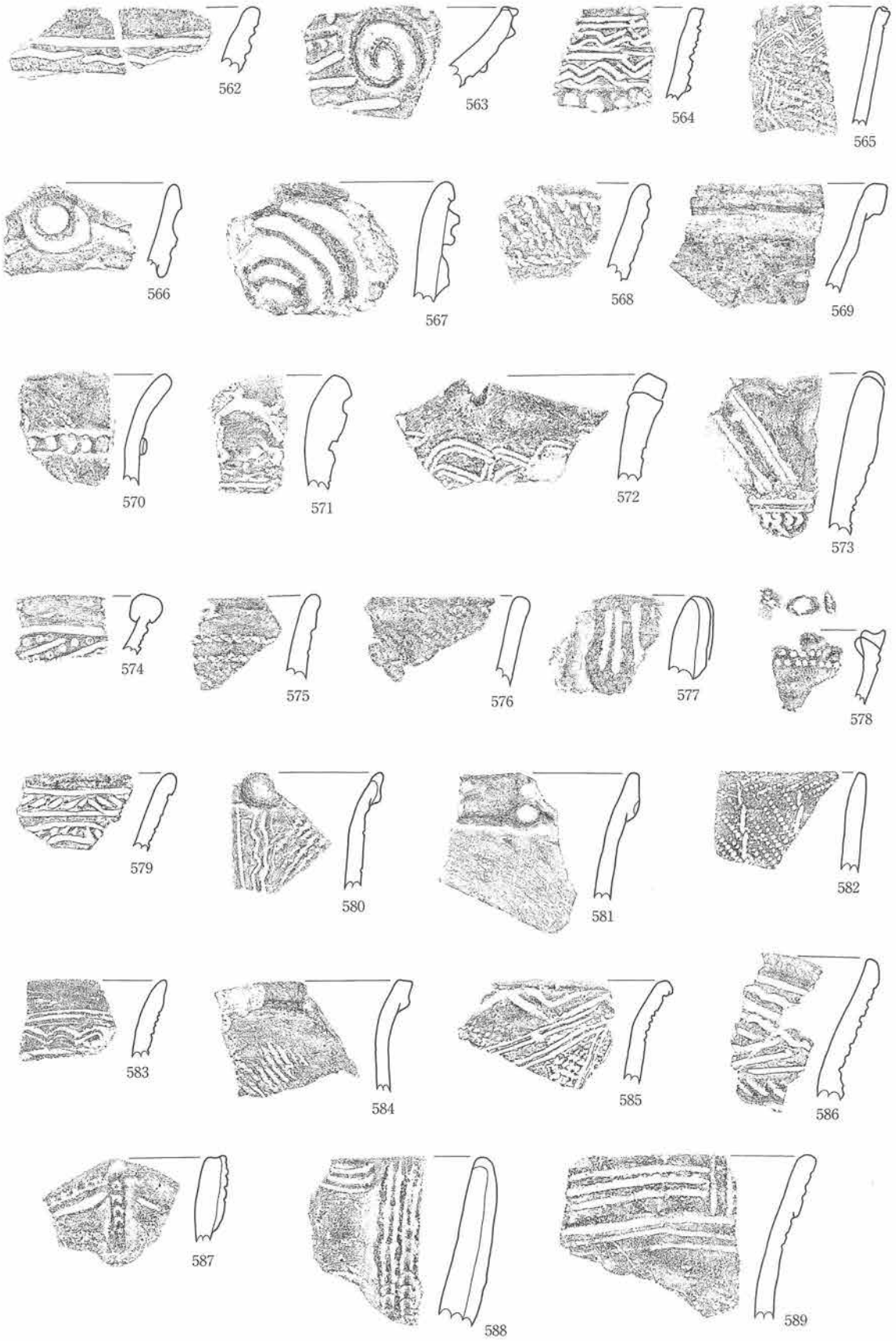
第91図　Ⅲ層出土土器（11）　S=1/3



S=1/3

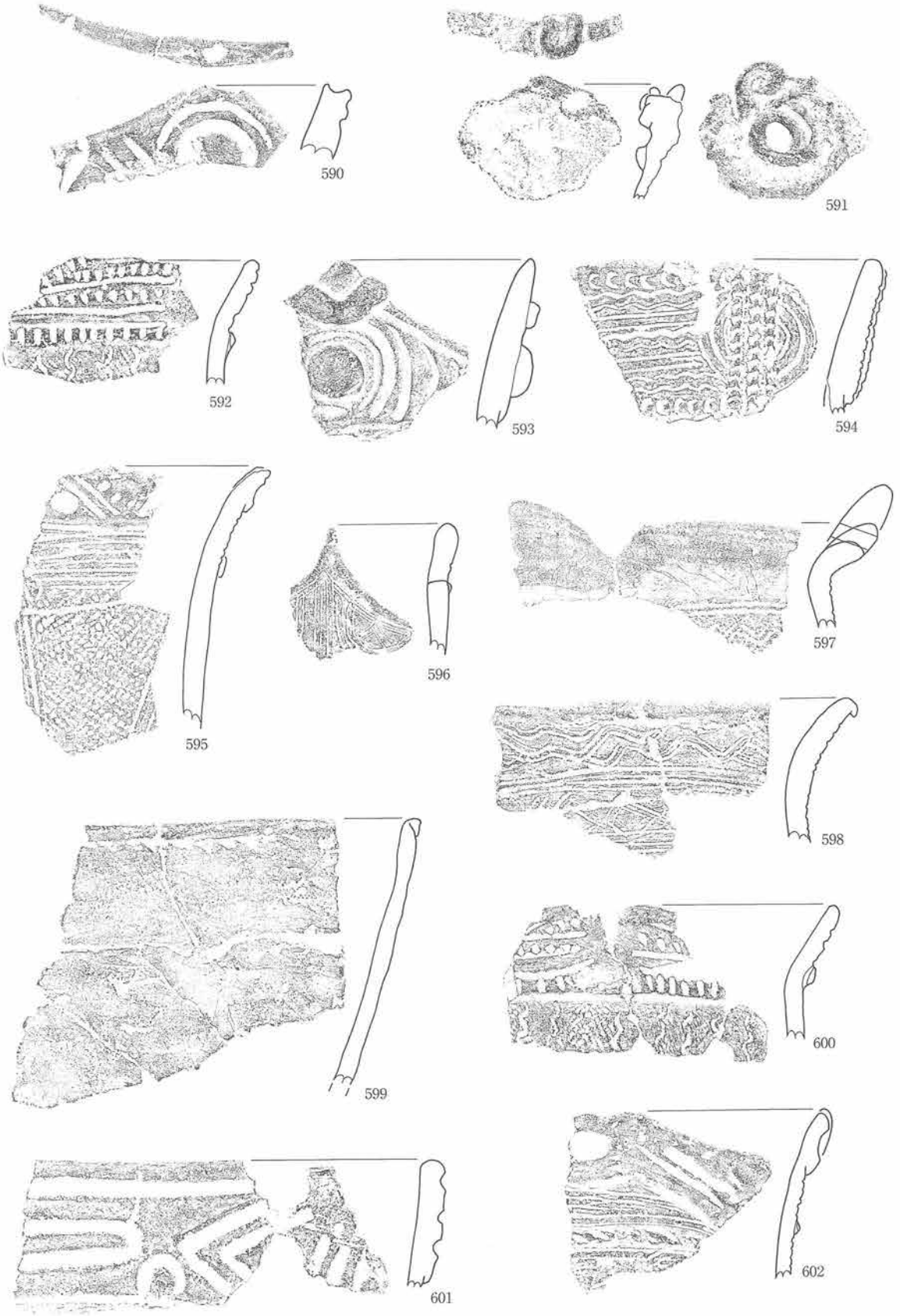
第92図　Ⅲ層出土土器（12）

第93図　Ⅲ層出土土器（13）　S=1/3



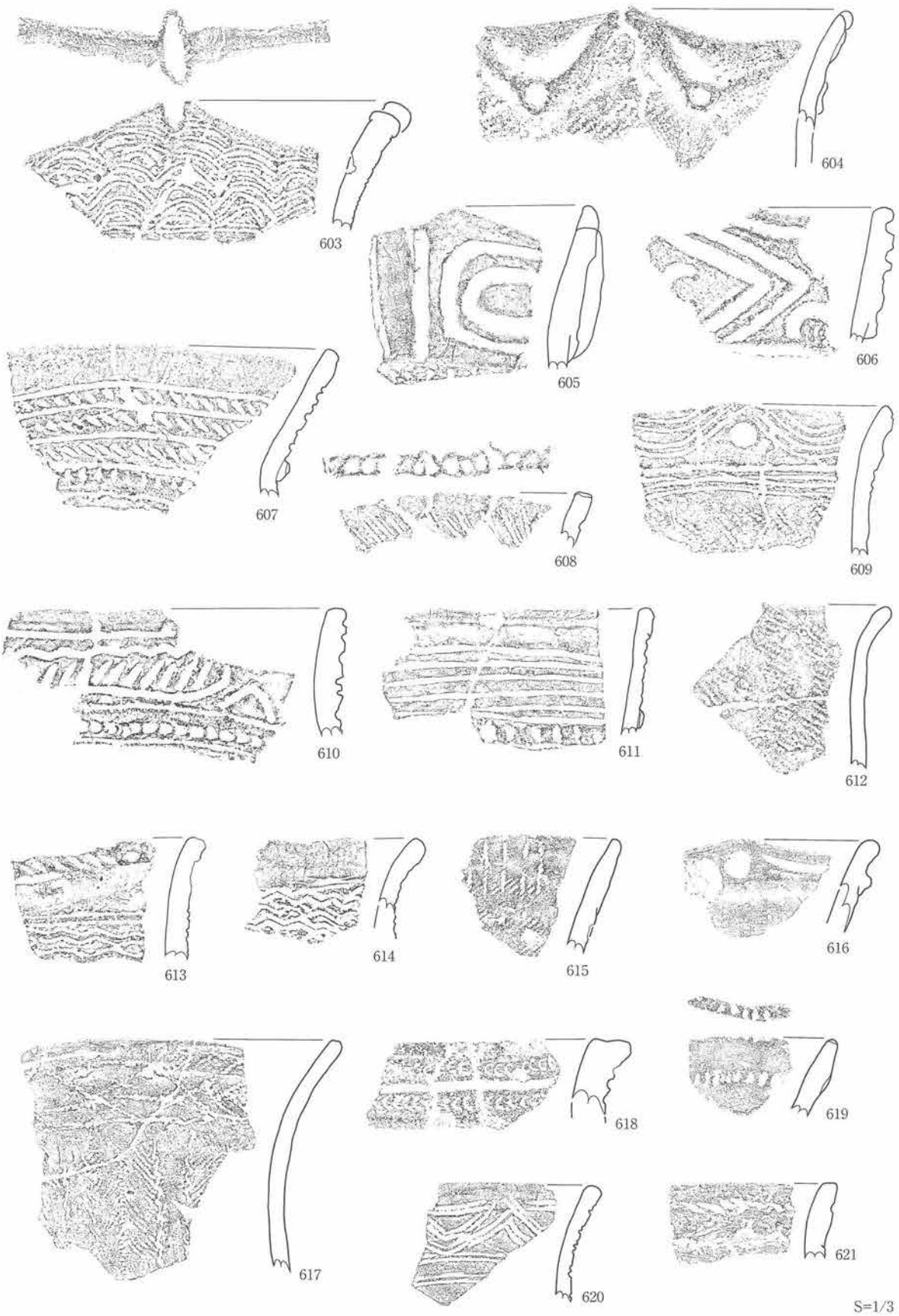
S=1/3

第94図　Ⅲ層出土土器（14）



S=1/3

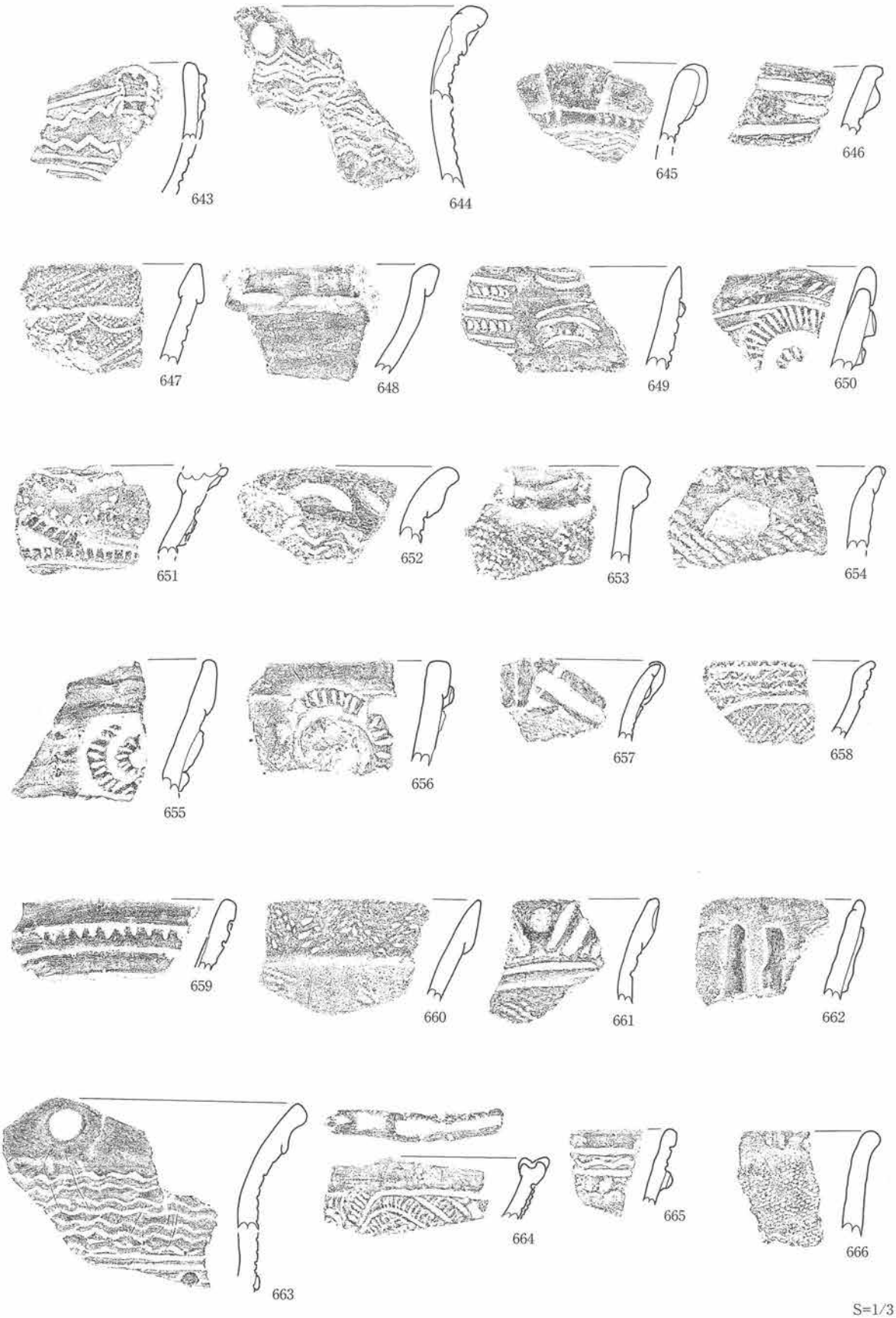
第95図　Ⅲ層出土土器（15）



第96図　Ⅲ層出土土器（16）

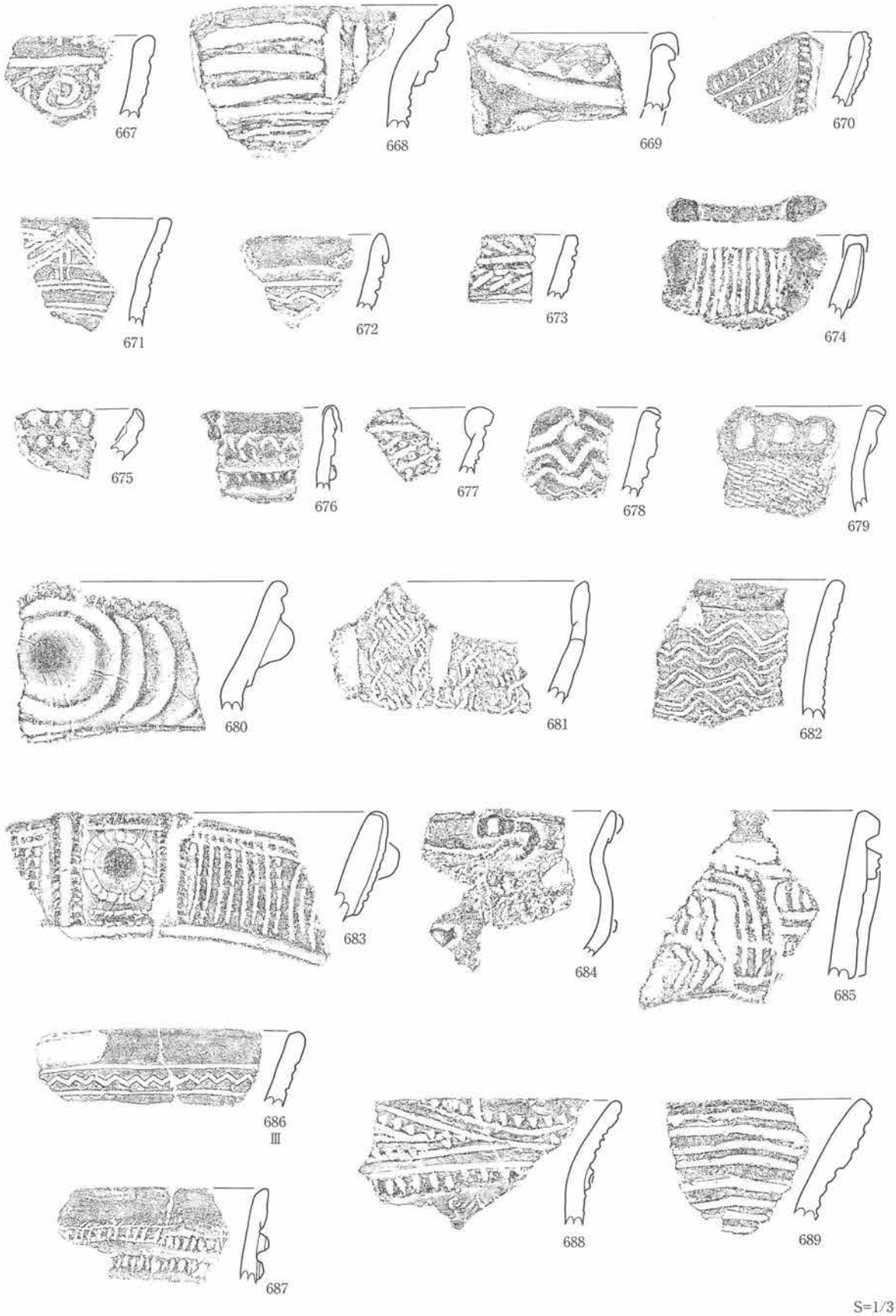
S=1/3

第97図　Ⅲ層出土土器（17）



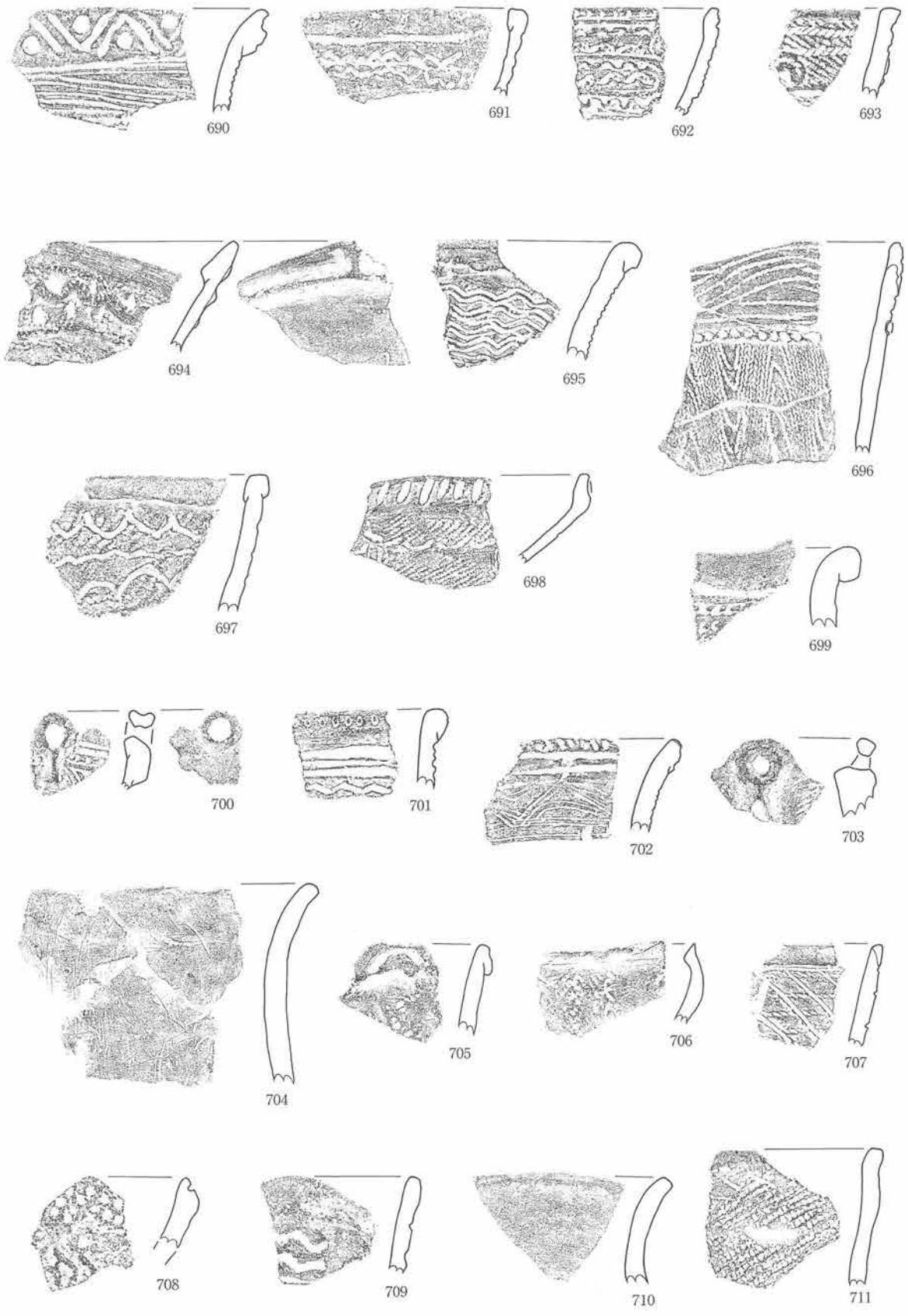
S=1/3

第98図　Ⅲ層出土土器（17）



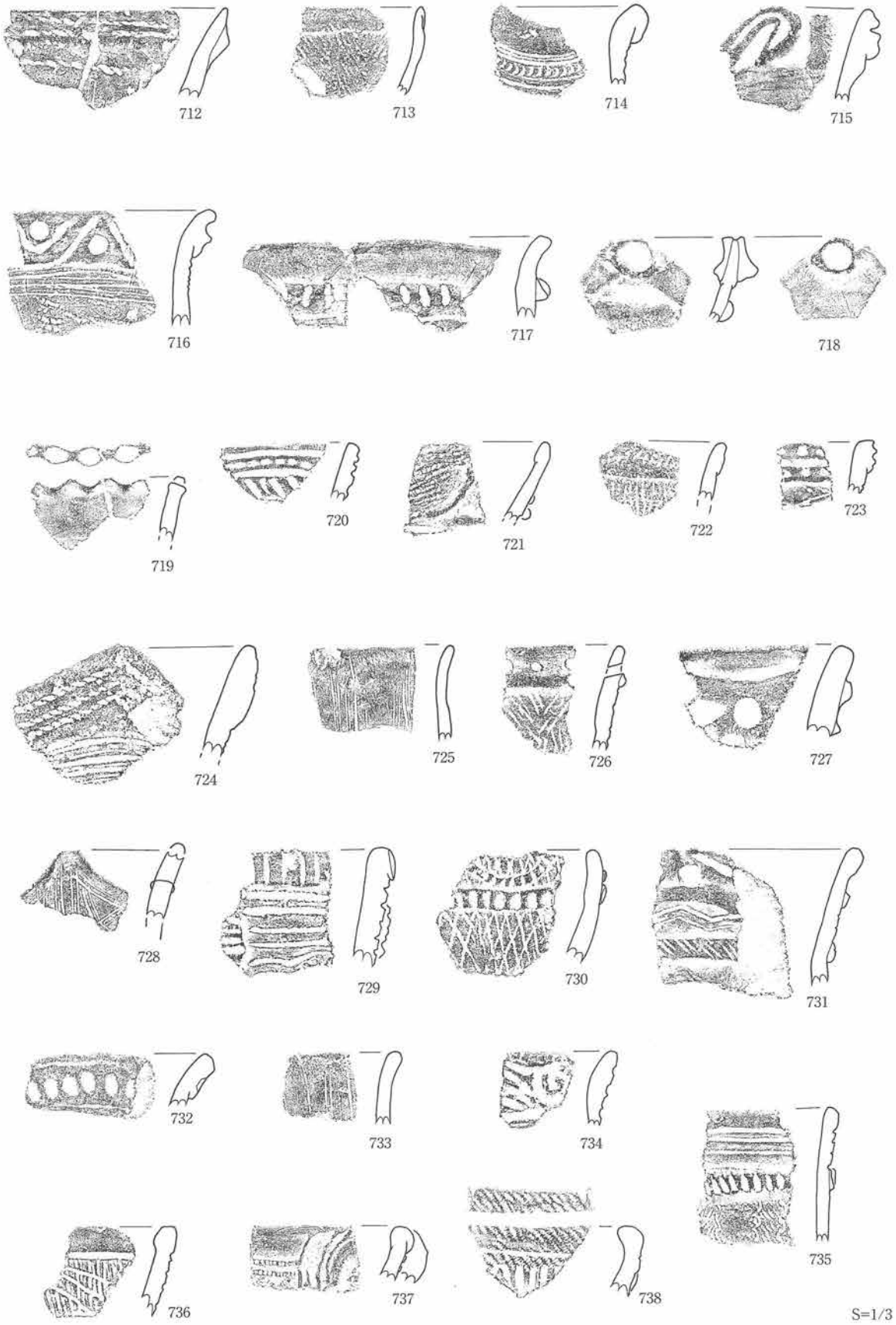
S=1/3

第99図　Ⅲ層出土土器（19）



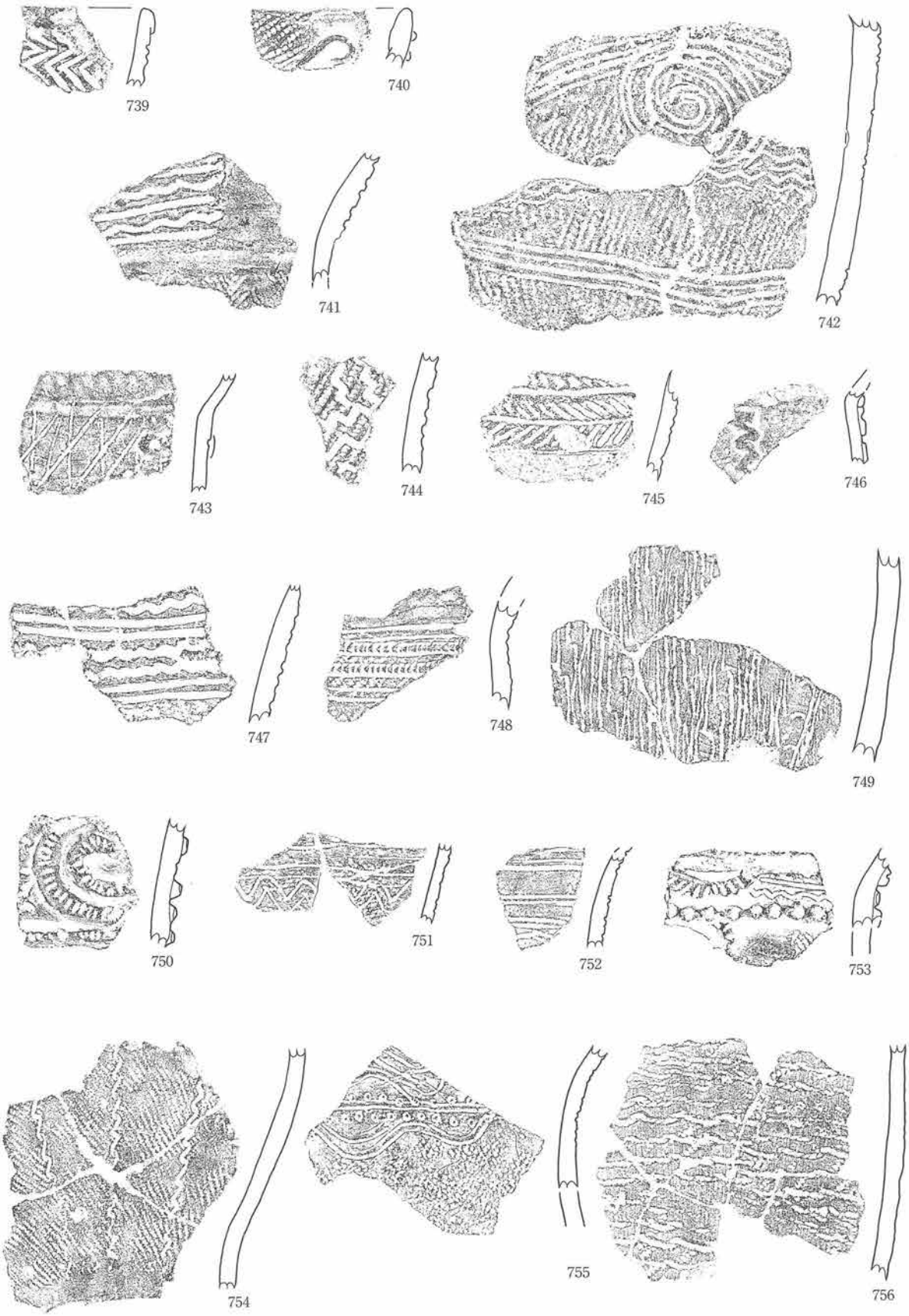
S=1/3

第100図　Ⅲ層出土土器（20）



S=1/3

第101図　Ⅲ層出土土器（21）

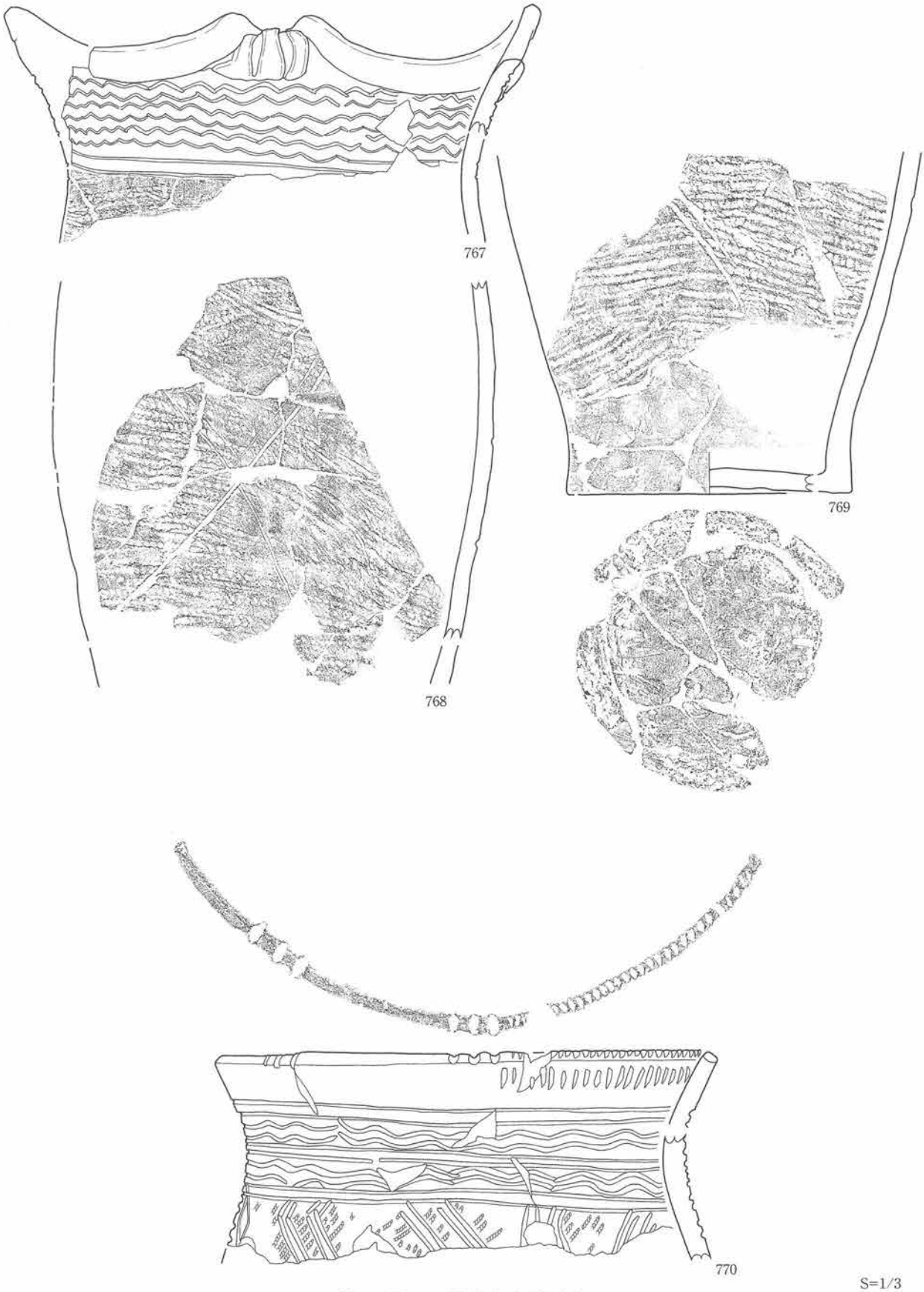


S=1/3

第102図　Ⅲ層出土土器（22）

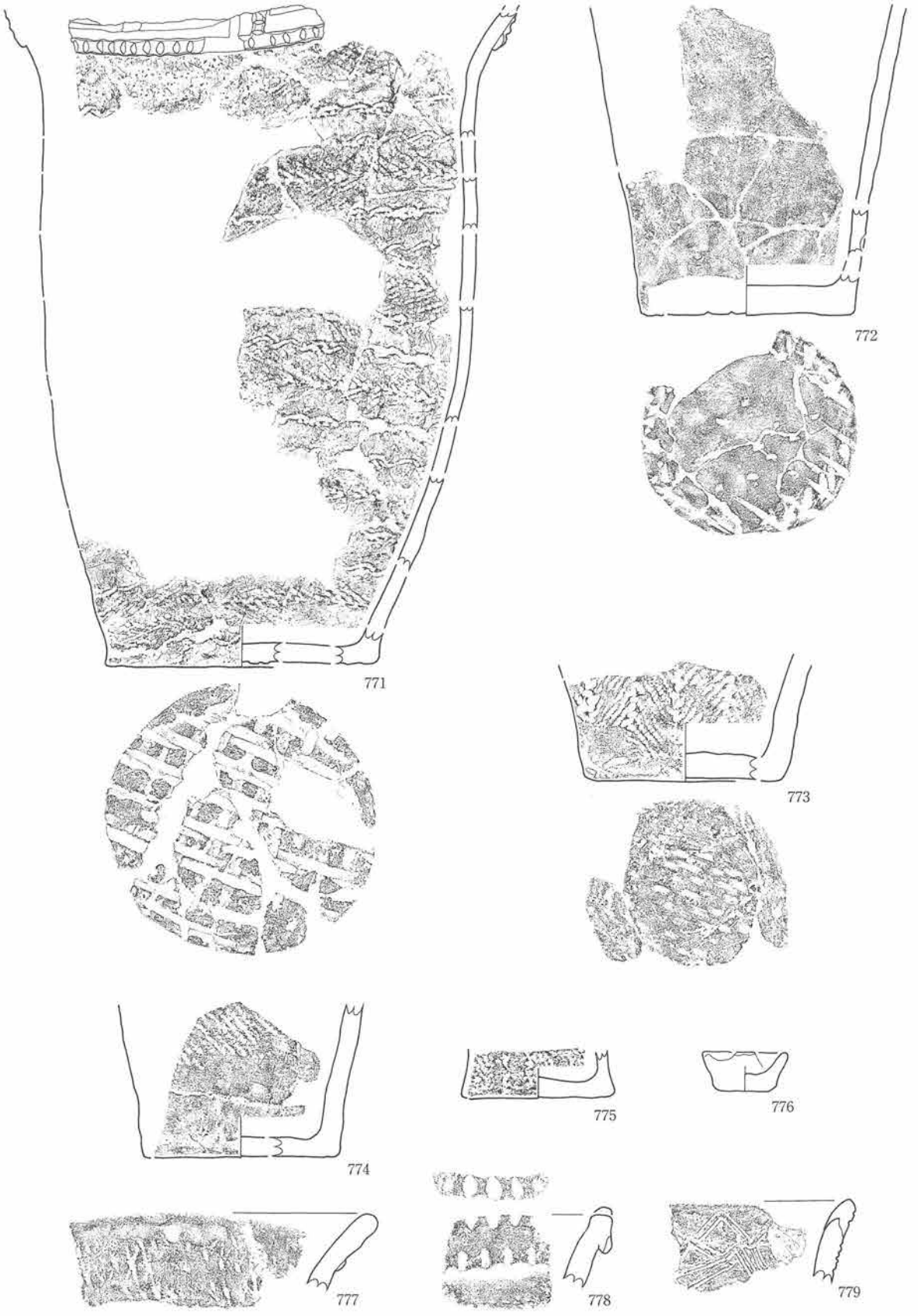
S=1/3

第103図　Ⅲ層出土土器（23）、Ⅳ層出土土器（1）



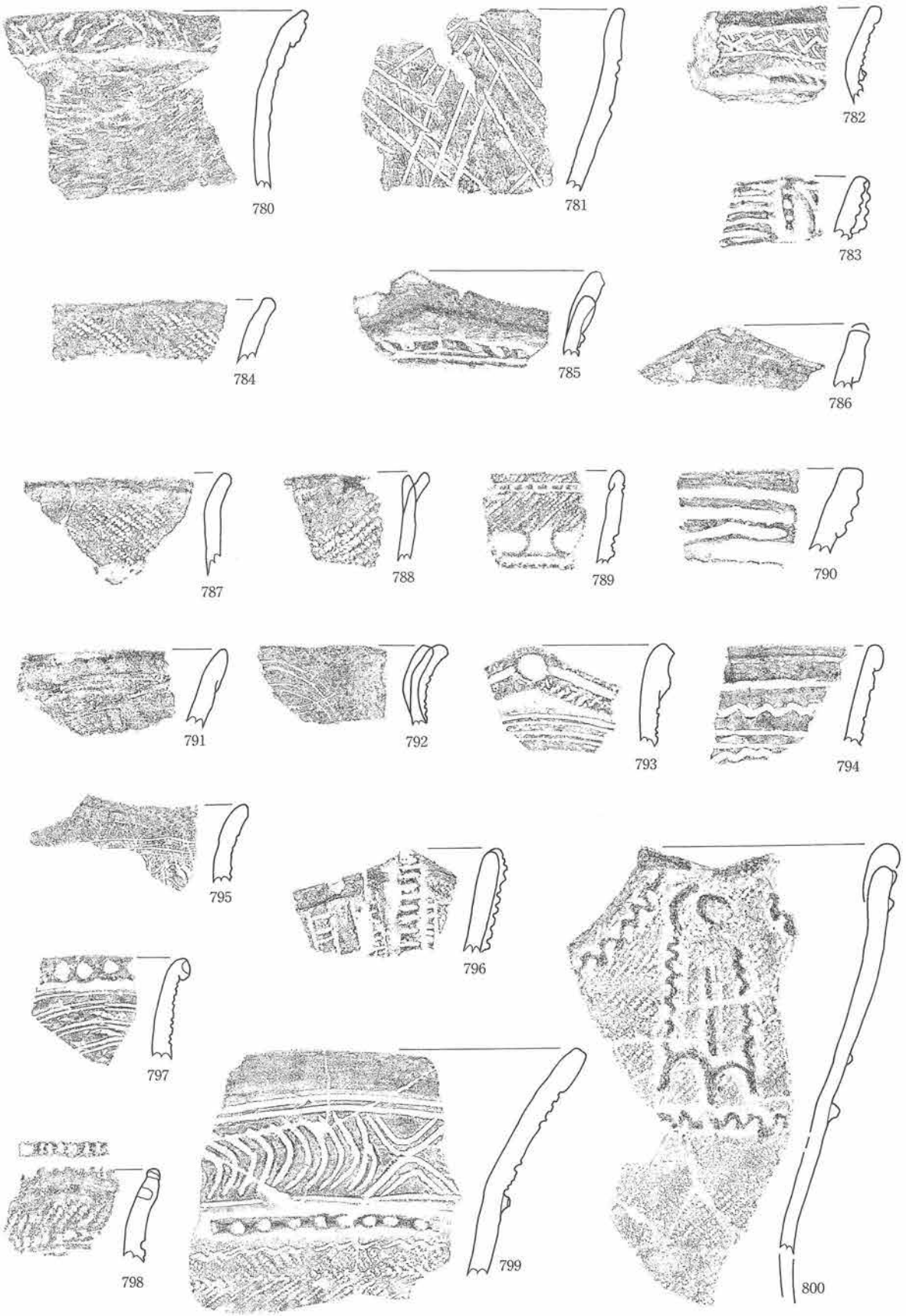
S=1/3

第104図　Ⅳ層出土土器（2）



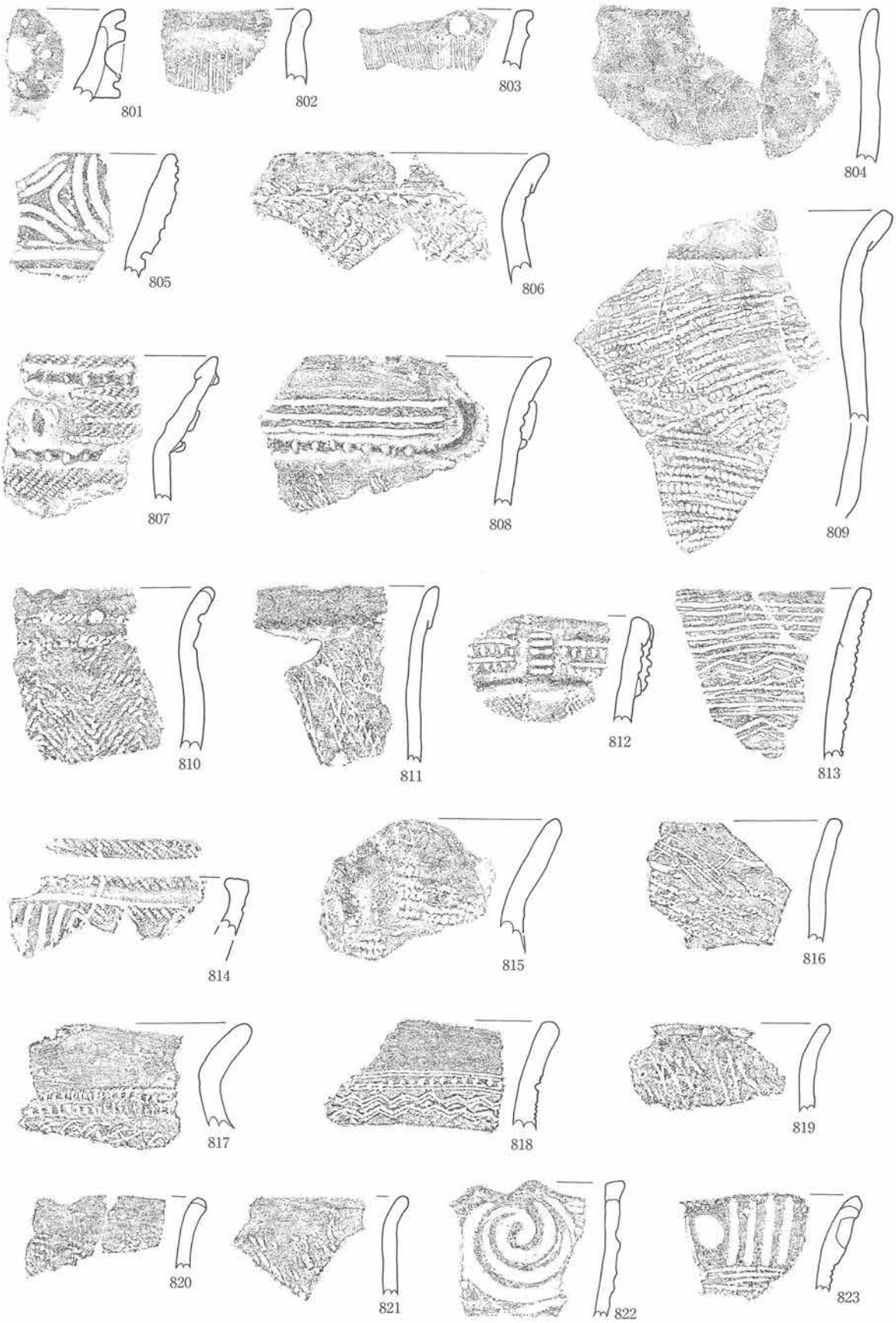
S=1/3

第105図　Ⅳ層出土土器（3）



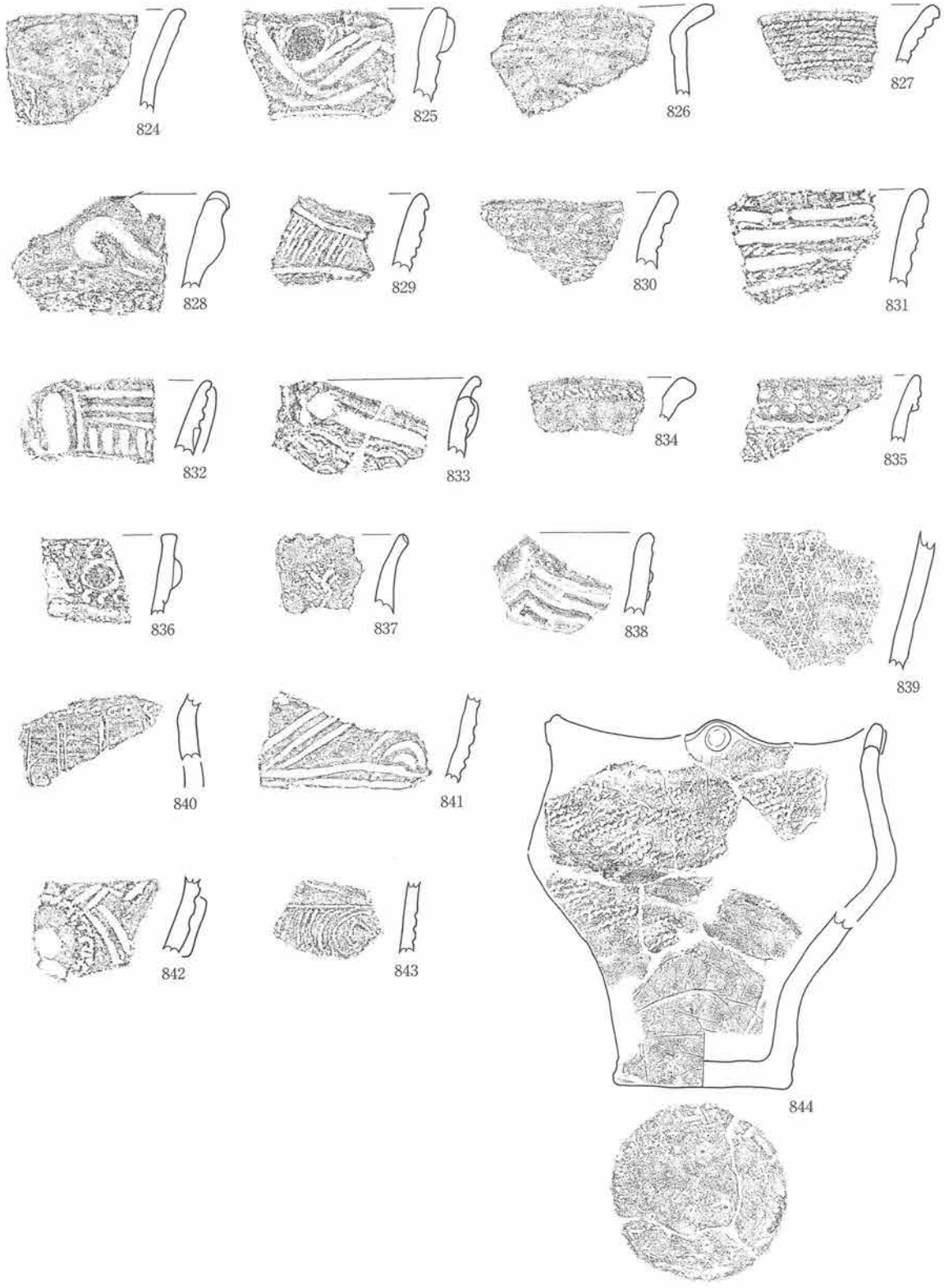
S=1/3

第106図　Ⅳ層出土土器（4）



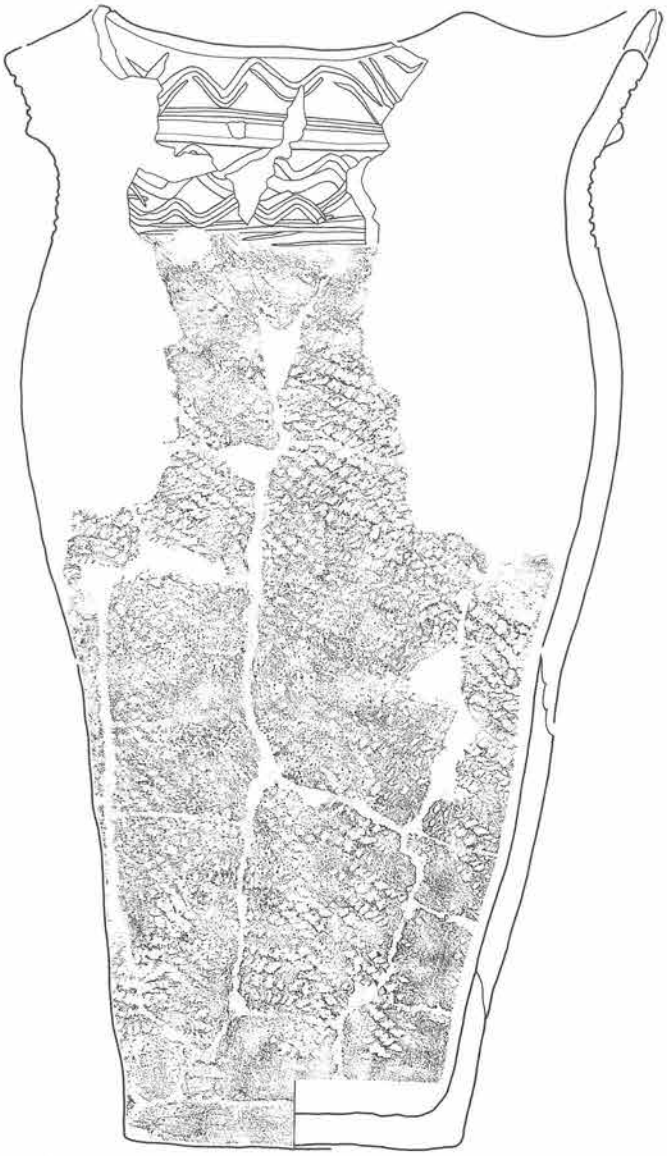
S=1/3

第107図　Ⅳ層出土土器（5）



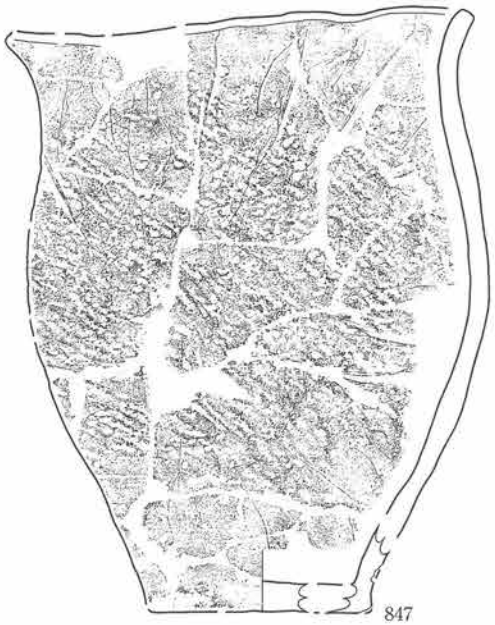
S=1/3

第108図　Ⅳ層出土土器（6）、Ⅳ～Ⅴ層出土土器



845

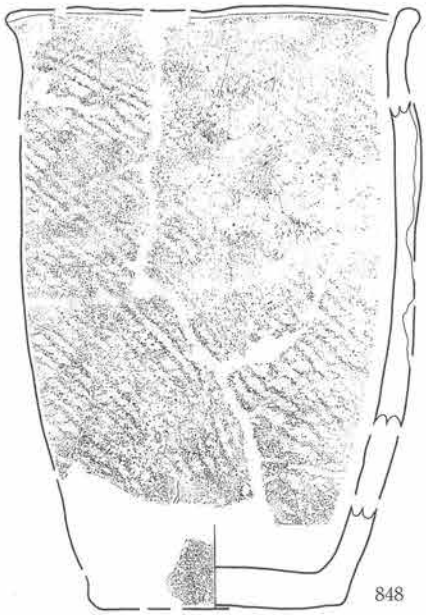
846

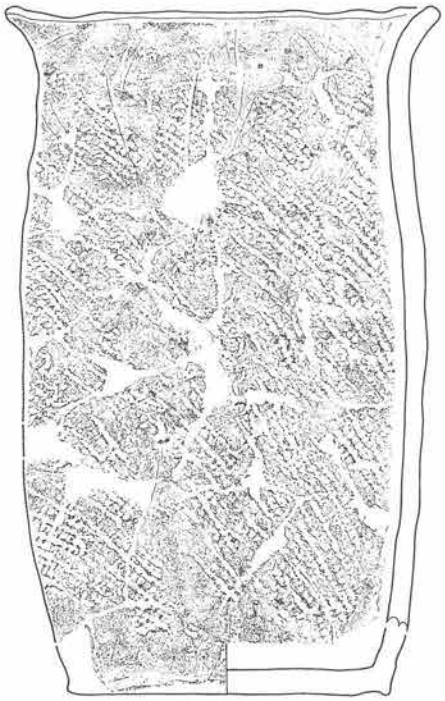


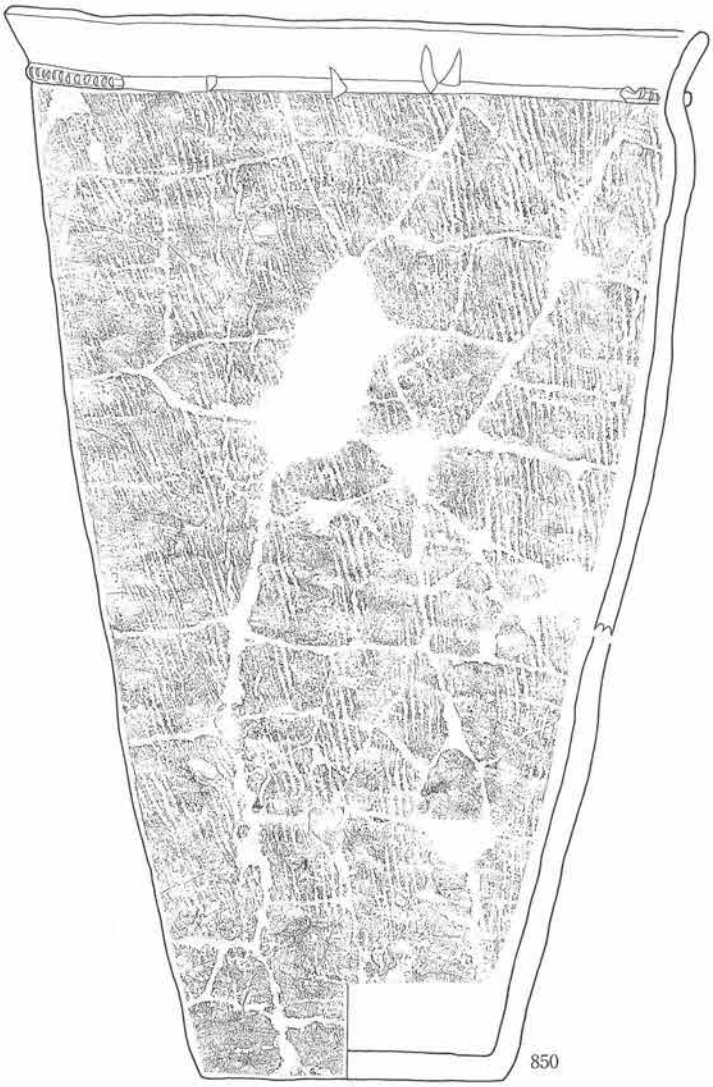
847

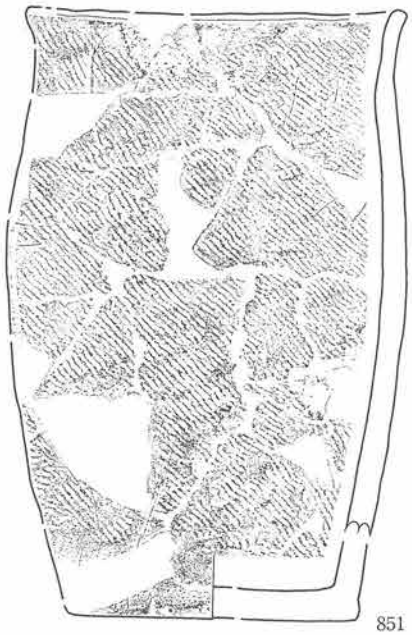
S=1/3

第109図　V層出土土器（1）







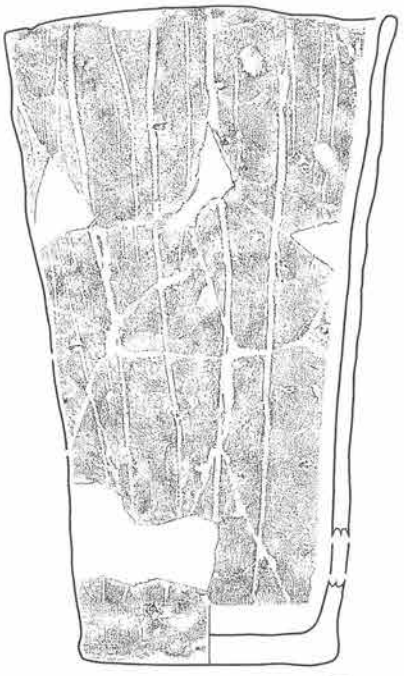


S=1/3

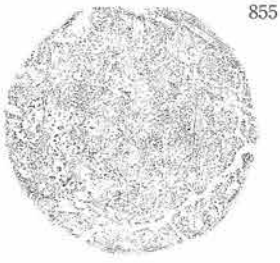
第110図　V層出土土器（2）

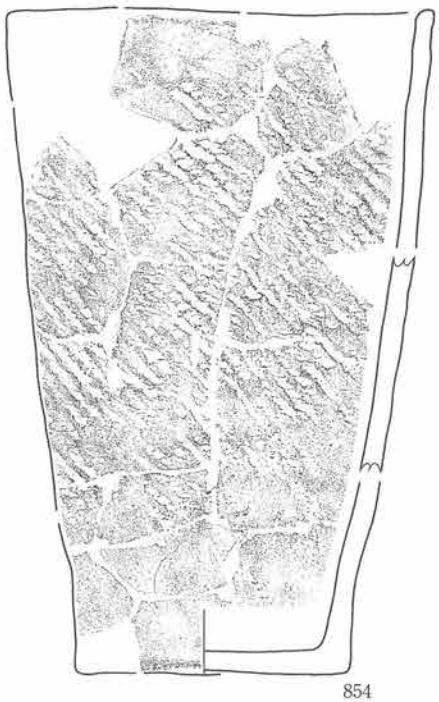
852

853



855



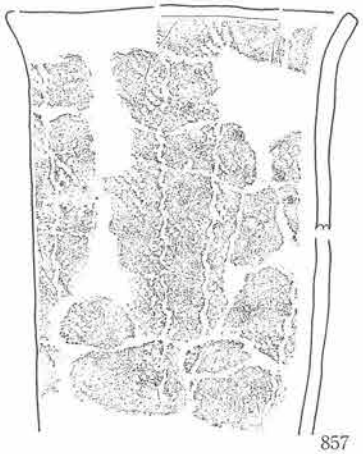


854

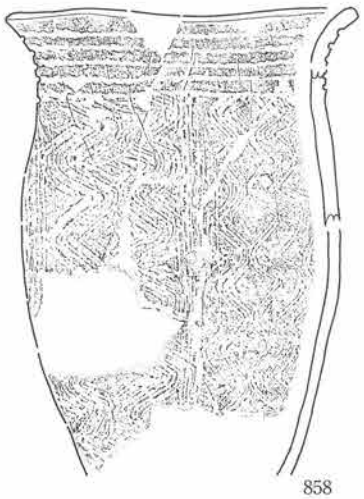
S=1/3

第111図　V層出土土器（3）

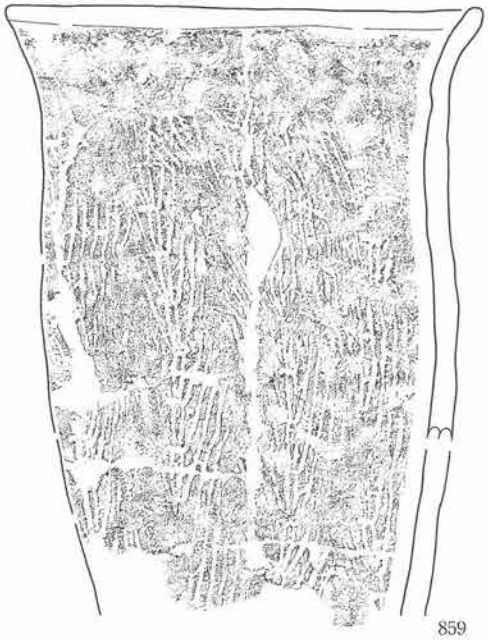
856



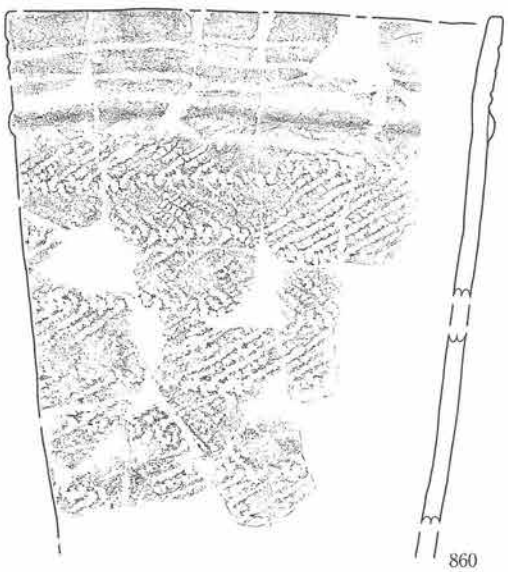
857



858



859



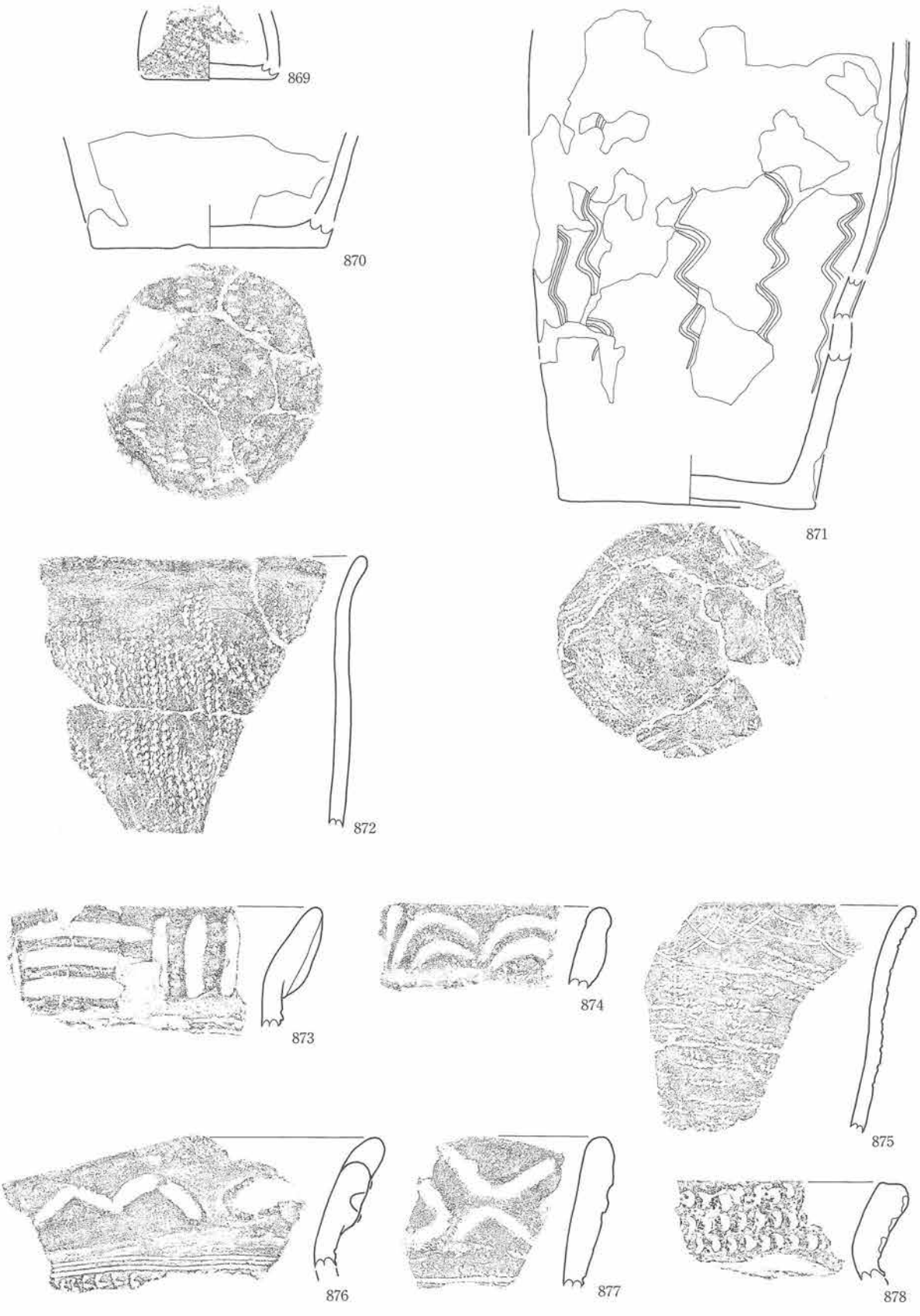
860

第112図　V層出土土器（4）

S=1/3

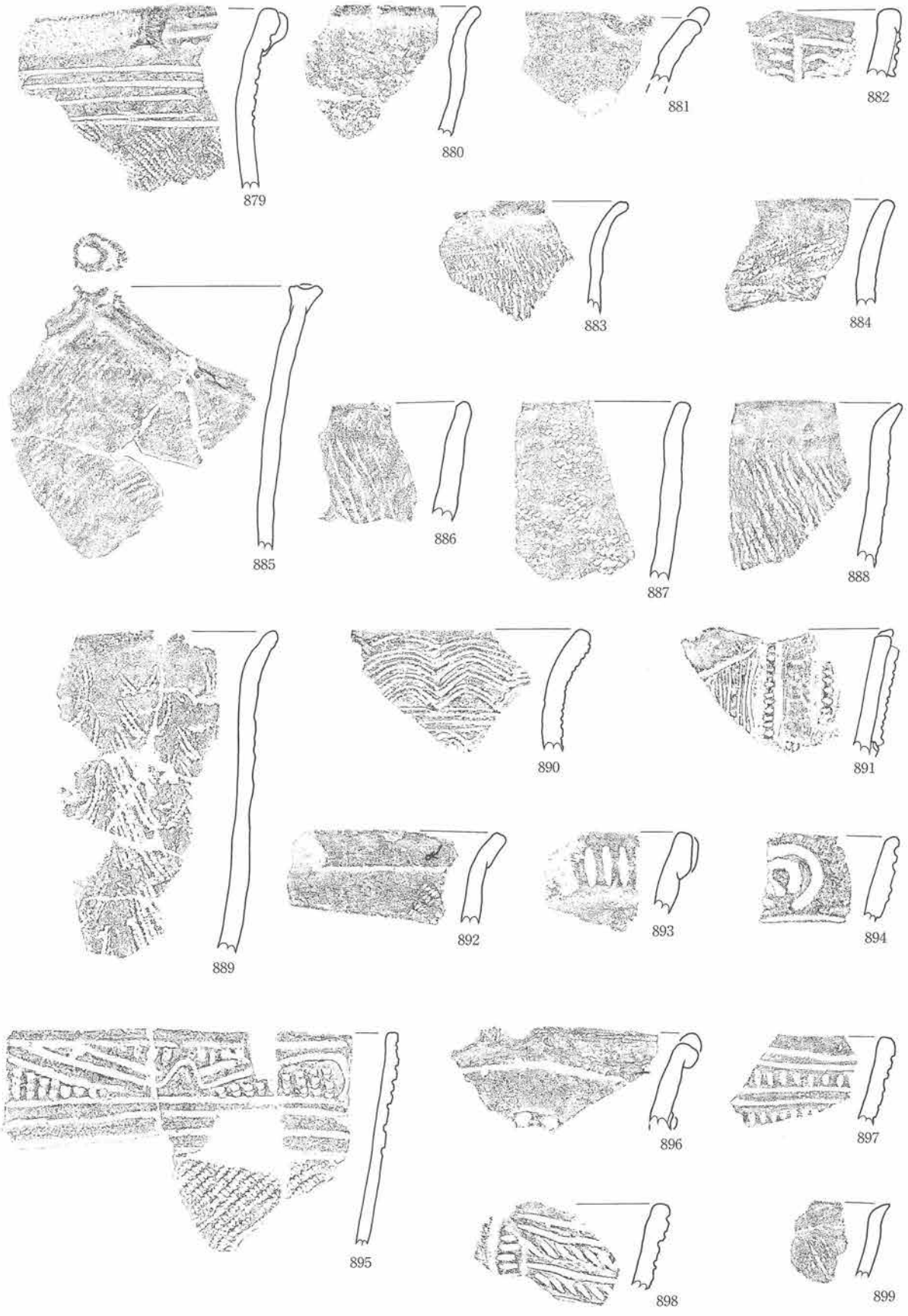
第113図　V層出土土器（5）

S=1/3



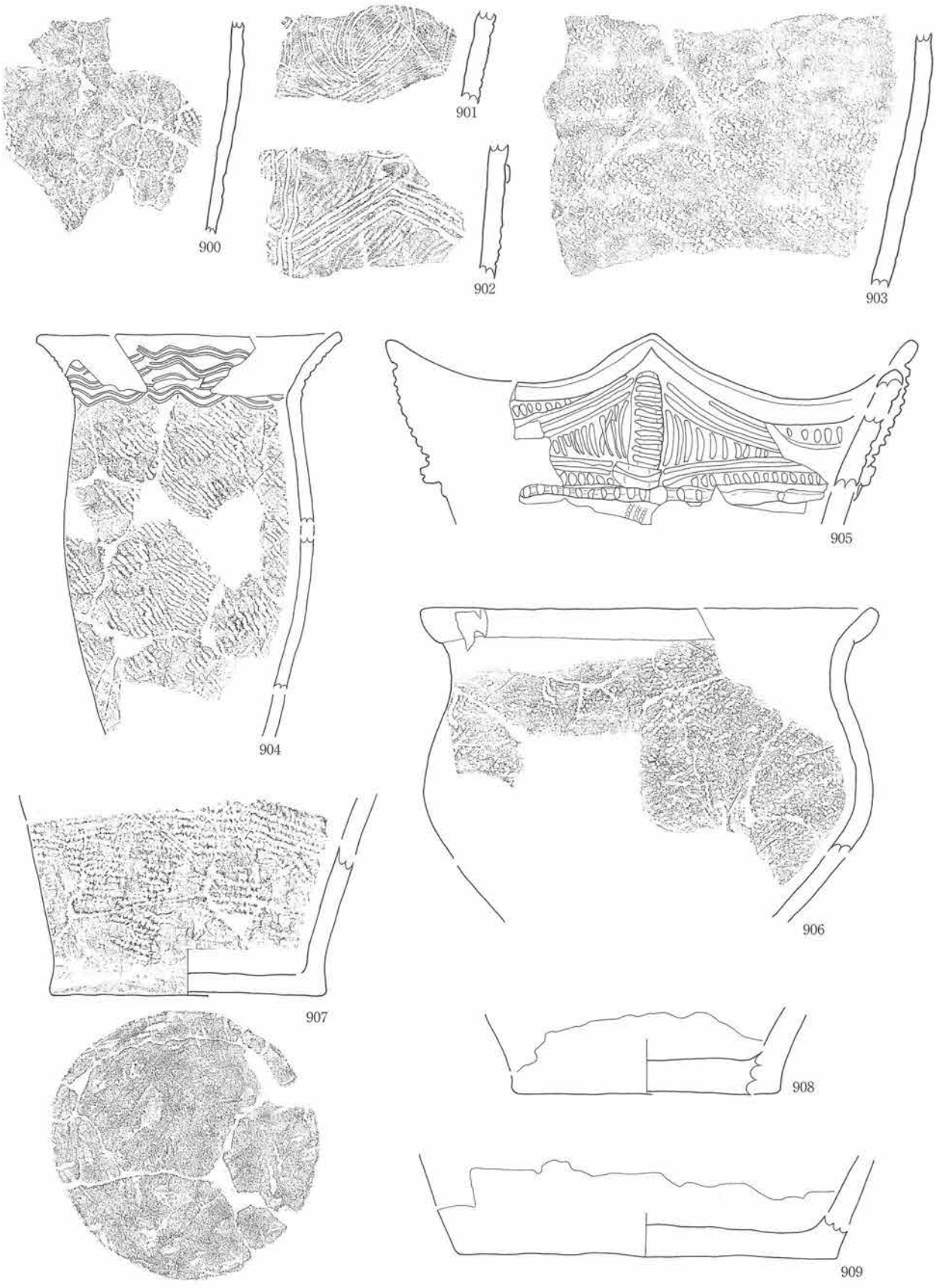
S=1/3

第114図　V層出土土器（6）

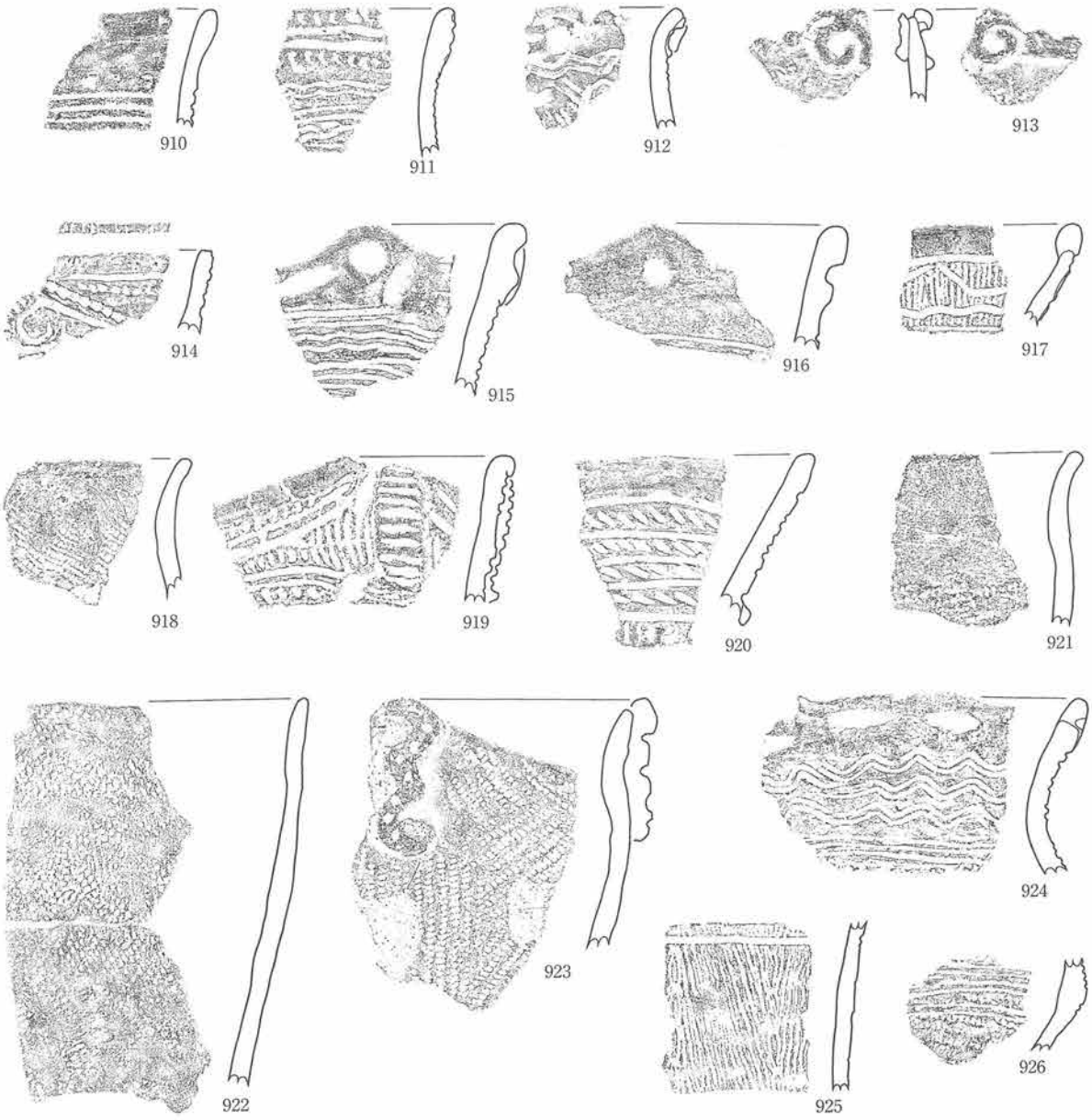


第115図　V層出土土器（7）

S=1/3



第116図　Ⅴ層出土土器（8）、調査区一括出土土器（1）　S=1/3



S=1/3

第117図　調査区一括出土土器（2）

2）土製品　（第118～120図）

土製品は、板状土偶・耳栓・その他の土製品が調査区１区の包含層から出土している。

土偶

全て板状のものでⅡ～Ⅲ層から計11点出土している。

Ⅱ層からは４点出土している。928は体部上半部、頭部と僅かに両腕が張り出している。胸部中央に浅い楕円形の凹みがある。頭部と体部中央、腕部に穿孔がある。背面にのみ直線で施文されている。929は体部上半部の肩部、乳房が残存している。乳房の直上に穿孔を有し、表面と背面に４～５本で１単位の直線で施文されている。930と931は体部上半部の碗部で、両方とも穿孔がある。930は直線のみの施文で、931は直線及び弧線で表面と背面に施文されている。

Ⅱ～Ⅲ層からは１点出土している。933は体部下半部、膨隆部を有するものである。表面と背面に直線で施文されている。

Ⅲ層からは６点出土している。934は頭部から体部上半部のものでまとまった状態で出土している。頭部と両腕が張り出しており、頭部と両腕部に穿孔がある。直線及び弧線で表面と背面に施文されている。935と936は腕部が欠けているが、胎土や焼成等から同一個体と思われる。頭部に穿孔を有し、体部下半部に膨隆部を有するものである。直線及び弧線で表面と背面に施文されている。937は体部上半から下半部にかけてのもので、膨隆部を有する。表面に直線と点で施文されている。938は体部上半から下半部にかけてのものである。異なる場所から出土した３点が、接合している。表面は直線、背面は直線及び渦巻文が施文されている。939は脚部で穿孔を持つものである。表面と背面に直線で施文されている。

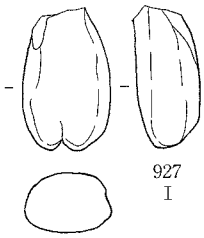
基本的にⅡ層とⅢ層からの出土であるが、表面と背面に直線ないし弧線で施文されてるものが大半である。938のみ渦巻文が施文されているものが存在している。大木式の土偶の編年をしている小笠原（1984）を参考にすれば、基本的に直線及び弧線で施文され、膨隆部をもつ929～931・933・937～939は大木６式、928は体部に凹みをもち、両腕部がわずかに出ているのは大木５式、938は背面に渦巻状のが施文されていることから大木７ａ～ｂ式である。このことから本遺跡では大木６式を中心に出土し、一部前後する時期のものが確認されているということになる。

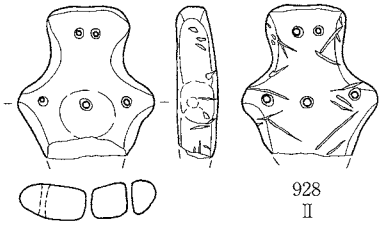
耳栓

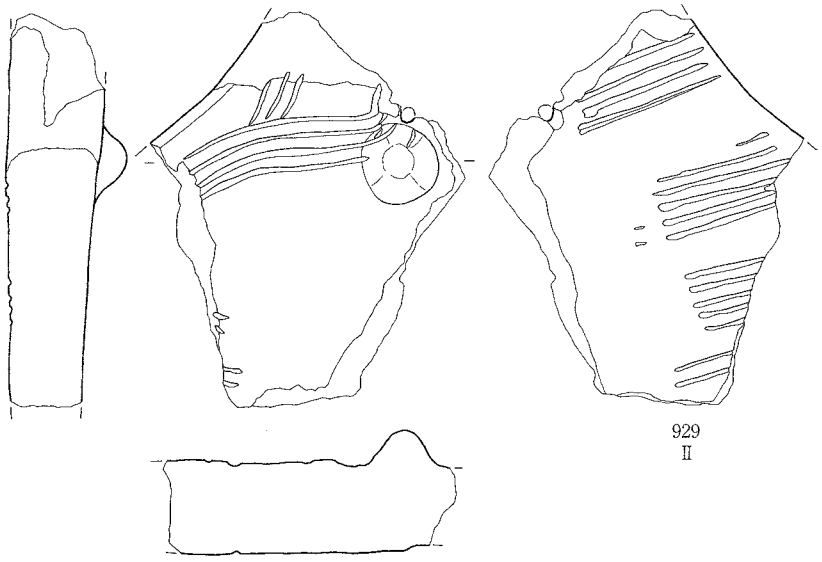
Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ層と１点ずつ計３点出土している。940と945は穿孔しており、946は焼成が悪く、上下に凹みを有するものである。

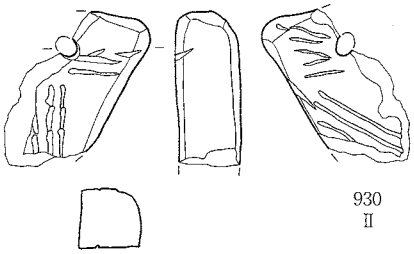
その他の土製品

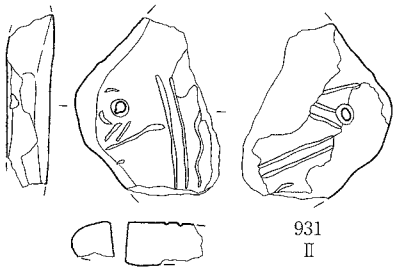
上記に含まれない土製品は５点で、Ⅰ層からⅢ層にかけて出土している。927は不明土製品、土塊あるいは刻みが入っていることから土錘の可能性がある。932は不明土製品である。ミニチュア土器とも考えられたが、内面中央に膨らみを有することからここで報告している。942は土錘で、長さ2.9cmのものである。941は垂飾状土製品である。一端に穿孔を有する。943と944は舟形土製品である。同一個体であるが接合はしない。944にのみ穿孔を有する。

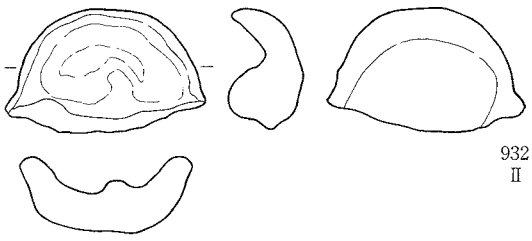

927
Ⅰ

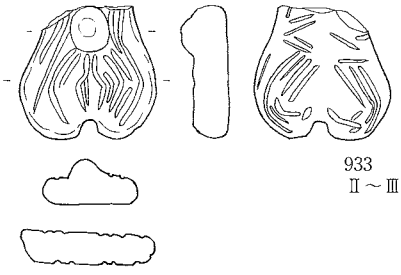

928
Ⅱ


929
Ⅱ


930
Ⅱ

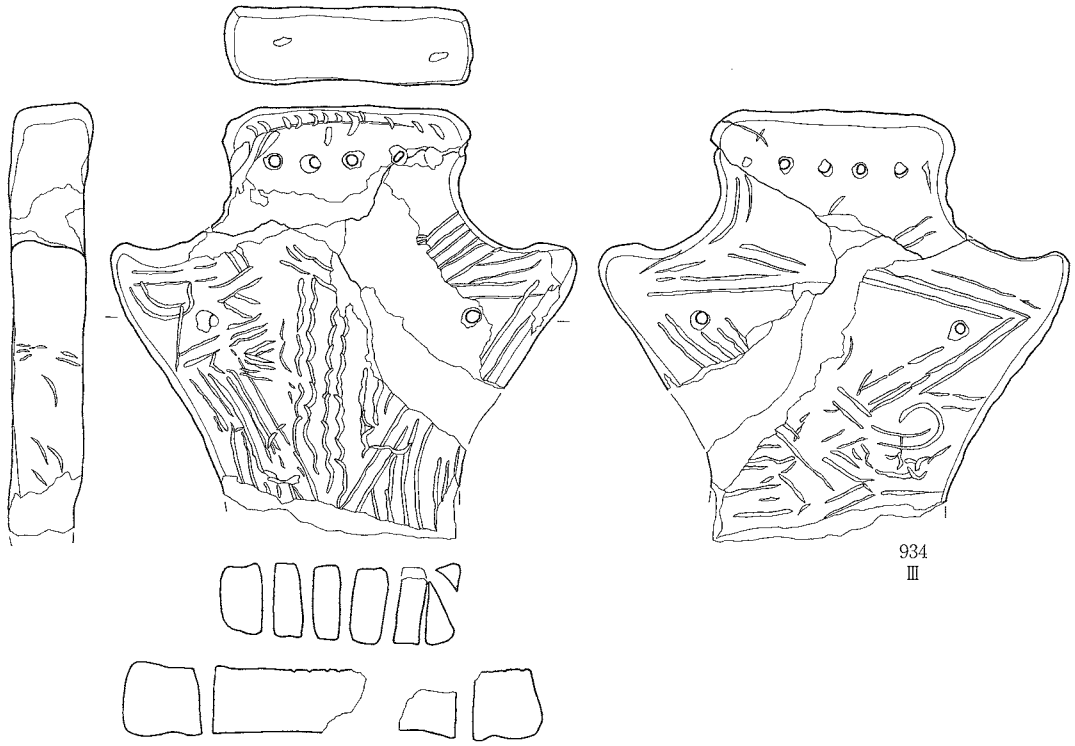

931
Ⅱ

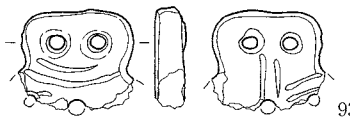

932
Ⅱ

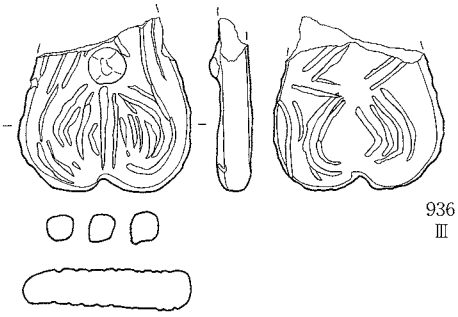

933
Ⅱ～Ⅲ

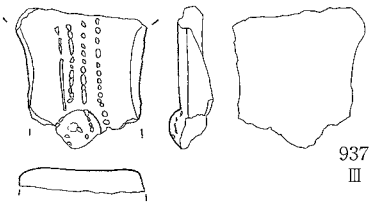
S=1/3

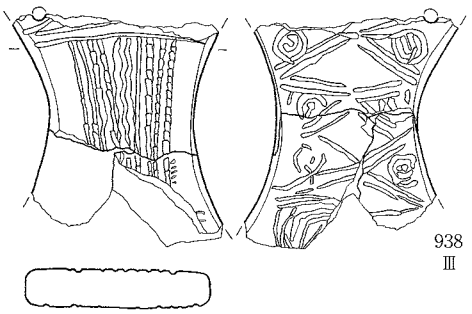
第118図　土製品（1）

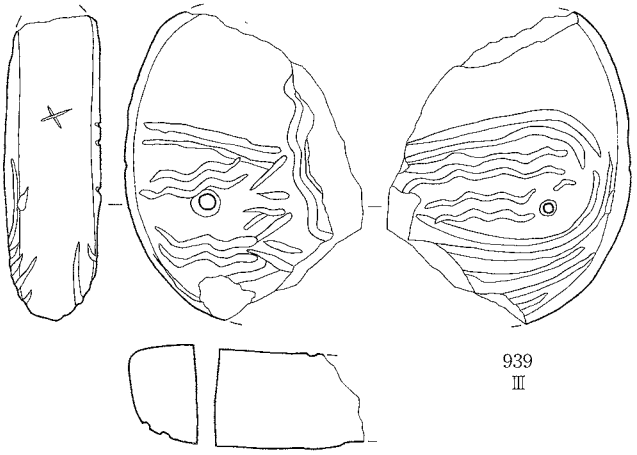






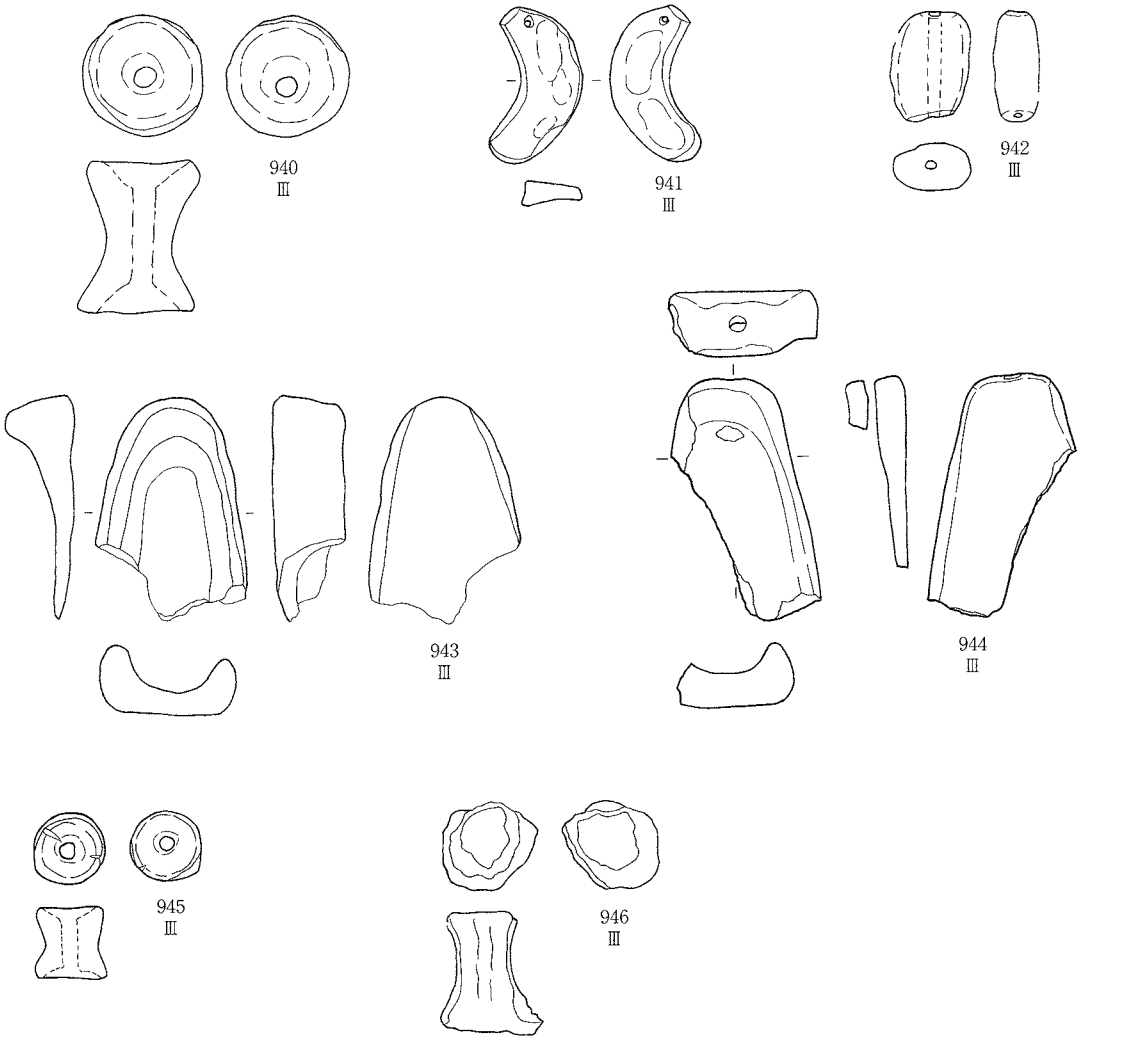






S=1/2

第119図　土製品（2）



S=1/2

第120図　土製品（3）

3）石器

遺構外から剥片石器や礫石器を含めると石器は5,452点出土している（第120～181図・第10・11表）。ほとんどの石器が調査区北端のＧＯ～Ｊグリッドから出土しており、それ以外の調査区から出土した石器は僅かである。

下記には分類した石器ごとにまとめておく。また、基本的に遺構外の記載であるが、分類項目に遺構内にしか存在しない場合はその記載を行うこととしている。

石鏃（第131～134図）

遺構外からは108点出土しており、本石器のすべての出土位置はＧＫ・Ｌ・Ｍ・Ｎ79・80グリッドに集中している。石材は頁岩が主体で、各分類ごとでの相違は見られない。出土層位においてはⅠ層からⅤ層にかけて出土しているが、Ⅲ層に多く見られる。平面形及び基部形状で５分類している。

Ⅰ類は有茎鏃でⅠ層とⅡ層から１点ずつ出土している（993）。本類は石鏃の中で占める割合が最も低く、基部と先端部の長さにより細分される。993は２類である。

Ⅱ類は尖基鏃で３点出土している（950・963）。Ⅰ層とⅡ～Ⅲ層で見られている。本類のみ他類と異なり長さが幅の２倍を越えるものである。950・963は腹面は共に周縁部にのみ二次加工が施され、素材腹面を残している。

Ⅲ類は平基無茎鏃で14点出土している。本類は分類項目の中でⅣ類に次いで多く確認されている。基部側の調整の有無で細分したが、１類は11点（951～953・959・977・979・983）、２類は３点（978）である。978のように打面を基部側に用い加工をしていない２類は少ない。952・977・979は基部側の調整が粗雑である。本類及び他類を含めても基部側の調整が行われていることから、それらはⅣ２・５類またはⅥ類の製作段階と983のような形体への製作段階での廃棄と考えられる。

Ⅳ類は凹基無茎鏃で53点出土している。本類は最も多く認められるもので約1/4を占める。長幅比と基部形状において細分した。それらの内訳であるが、１類は10点（962・981・985・987～989）、２類は３点（949・970）、３類は５点（971・984）、４類は17点（984・954～956・966～969・980・992）、５類は６点（957・958・982・991）、６類は11点（964・965・973～975）、不明は１点である。６分類を長幅比の関係から概観する。規模が同一基準である１～３類をみていくと２類は点数が少ないことから判断できないが、３類に比べ１類は幅が狭くなる細身の傾向がある。また４～６類は、４類は長さ30cm・幅20cm前後にまとまりがあるが、５・６類にはまとまりが見られずばらつきがある。同一基部形状を中心にみていくと、１・４類は概ね長さ30前後から40mm・幅15～20mmにあり、その前後に３・６類が分布しそれらの分布域が異なりを見せる。本類を基部形状と規模から各類との関連性について言及していきたい。基部形状は抉り部の深さにより分類を行っているが単に深度の差と捉えるならば、3・6類は1・4類の製作段階途中に廃棄された未製品と想定することができる。その場合、基本的には長幅比で示した分布域で1・3類と4・6類が重なり合う分布状況を示しても良いものと思われる。長幅比において少なからず各類がまとまりを見せていることから基部形状はそれぞれを目的として製作されたものと考えられ、1・4類と3・6類の基部形状の2種類が存在したことになる。規模の差は素材となる剥片の規模により生まれた結果と考えられ、今回のような基部形状による分類が妥当かと思われる。ただし、2・5類に限っては点数が少ないことから言及できないので、他類との関係は今後の課題としたい。

Ⅴ類は円基鏃でⅢ層とⅣ層と合わせて３点出土している（976・986）。986は基部が円形を呈しているが、976は刃部末端が外側に張り出さず丸味帯びていることから判断している。

Ⅵ類は未製品及び欠損品で22点出土し、Ⅱ層に多く見られる（960・961・990）。長幅比からみるとⅠ～Ⅴ類に比べ幅が広いものが大半で、製作段階で廃棄された可能性が高い。欠損品は上記の分類に該当できなかったものである。

このように分類作業を行った結果、各種の形態の石鏃を確認することができ、本地区ではⅣ類が主体を占ることがわかった。その中でⅣ１・４類とⅣ３・６類は形態差であることを提示できたことは成果と言える。滝ノ沢遺跡（北上市教育委員会1987）でも上記の各分類が見られることから、今後は全てを合わせて当該期の石鏃として検討していく必要がある。

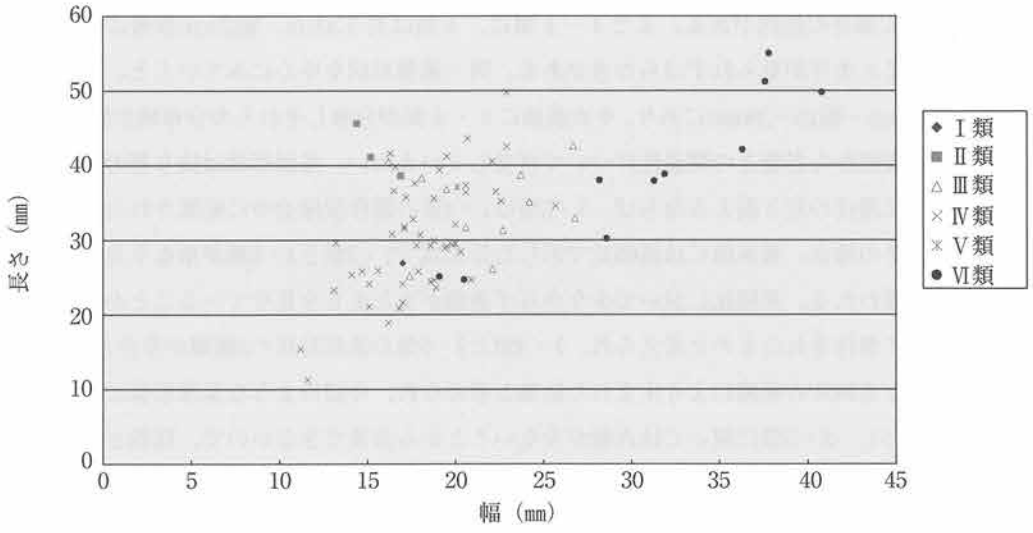
第12表　石鏃出土グリッド表

	78	79	80	80・81	81	82		合計
ＧＯ		7	1					8
ＧＮ	2	3	7					12
ＧＮ・Ｍ				1				1
ＧＭ	3	8	5		6			22
ＧＬ	3	9	6		4			22
ＧＫ	2	2	11		4	1		20
ＧＪ	2	1	4					7
ＧＩ	2	5	4		1			12
ＧＨ								
ＧＦ			1					1
調査区一括							3	3
合計	14	35	39	1	15	1	3	108

第13表　石鏃出土層位一覧

層位＼分類	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ1	Ⅲ2	Ⅳ1	Ⅳ2	Ⅳ3	Ⅳ4	Ⅳ2・5	Ⅳ5	Ⅳ6	Ⅴ	Ⅵ	不明	合計
Ⅰ	1	2	4		1	1	1	3	1	1	2		6		23
Ⅱ	1		2					5		3			9		20
Ⅱ～Ⅲ					1						1				2
Ⅲ			4	3	1	2	2	6			7	1	4		30
Ⅱ・Ⅲ一括		1			1								1		3
Ⅳ					2		1	2		1		2			8
Ⅴ			1		4		1	1		1	1		2		11
不明														11	11
合計	2	3	11	3	10	3	5	17	1	6	11	3	22	11	108

第121図　石鏃長幅比



尖頭器（第134図）

Ⅲ層からⅣ層にかけて3点出土し、石材は全て頁岩である（994～996）。当該期に見られる尖頭器や尖頭器様石器は見られない。994は素材腹面より二次加工を施し、平面形状は柳葉形、断面形状は三角形を呈する。995・996は基部のみ残存し、先端部が欠損している。周縁のみのもので不定形類に属する可能性もあるが、平坦な剥離を行っていることからこのような扱いをしている。いずれも石材は頁岩である。

第14表　尖頭器出土グリッド一覧

	79	80	82	合計
GO				
GN				
GN・M				
GM		1		1
GL			1	1
GK				
GJ				
GI				
GH				
GF	1			1
調査区一括				
合計	1	1	1	3

第15表　尖頭器出土層位一覧

層位	点　数
Ⅲ	2
Ⅳ	1
合計	3

石篦（第135～139図）

遺構外からは55点、GN80グリッドを中心として出土している。各層位によって形態による差異は認められない。石材は頁岩が主体で僅かに流紋岩や凝灰岩が見られる。平面形状において4分類している。

Ⅰ類は撥形を呈するもので14点出土している。刃部調整により細分しており、1類は（999・1005・1006・1012・1016）、2類は（1003・1010）である。Ⅲ層からⅤ層にかけて出土している。長幅比からみると長さ／幅が2.5倍前後にまとまりをみせる。刃角は29～50°前後の範囲であるが、概ね40°前後である。基本的に両面に二次加工が施されている。1類は素材腹面を残すもの（1005・1006・1012）と二次加工により素材腹面が確認できないもの（999・1016）があり、両側縁の加工に比べ刃部側に細部加工が施されている。2類は、1003は両面の刃部加工が基本であることから1類の製作段階の可能性がある。1010はスクレイパーの可能性があるが、両側縁部に部分的ではあるが加工されていることから判断している。

Ⅱ類は長方形を呈するものでⅡ層から1点出土している。両面加工によるものは本類にはない。片面調整により刃部が形成され、基部側に一部加工が施されている。形態はスクレイパーに類似している。

Ⅲ類は小判形を呈するもので9点出土している（1001・1007・1011・1015）。Ⅰ層からⅤ層にかけて見られるが、Ⅱ層からⅢ層が主体である。断面形状で細分したが、刃角に差は見られない。1001や1011は両面に加工を施されているが、1007・1015は両面に加工されているものの腹面への加工は粗雑であり、刃部周辺及び背面に二次加工が施されている。

Ⅳ類は長楕円形を呈するもので10点出土している（1000・1004・1008・1009・1013・1014）。Ⅱ層からⅤ層にかけて出土している。本類の断面形状は基本的に凸レンズないし菱形を呈し、二次加工は全面におよぶ。刃角は33～60°とばらつきが見られる。1000・1004・1008・1013は二次加工が両面に施されている。1009は先端部を中心に刃部形成をしている。1014のように断面が蒲鉾形を呈しているものもある。

Ⅴ類は未製品及び欠損品で、18点出土している（1002・1017）。未製品は断面は三角形及び台形、平面形は

U字ないしV字形を呈するもの、欠損品に関しては器体中央で欠損しているものが大半を占める。

上記のように細分したものの分類形態と石材には関係を見出せない。また、Ⅰ類やⅣ類において直線的な刃部と外湾ないし弧状の刃部の両者が観察され、分類形態と刃部形態にも差はない。

今回は二次加工の調整方法に特徴が認められたので詳述する。二次加工により両面と背面のみを中心に形成されているものが大半であるが、刃部及び刃部付近の両側縁に集中して加工が施されているものが認められる。このことは998・1000・1004・1007・1009のように作業工程が進み刃部調整を繰り返せば、作業部位である刃部先端だけが先細りしていくことが窺え、全体形状より刃部付近のみ再生作業を繰り返していると捉えることができる。またその想定される作業部位の他に基部側の両側縁に細部加工が一部確認される資料が存在しており、装着に対しての加工痕と捉えられるものもいくつか確認できた。これらのことは分類した各類において想定され、作業部位と基部形状が共に変形していくことが考えられる。石器製作当初から見られる形態差が何から起こりうるかは、この分類からは判断できないことから、これらは今後の課題としたい。本石器の出土点数の約3割に使用痕が各類において観察できたので考察にまとめて掲載しておく。

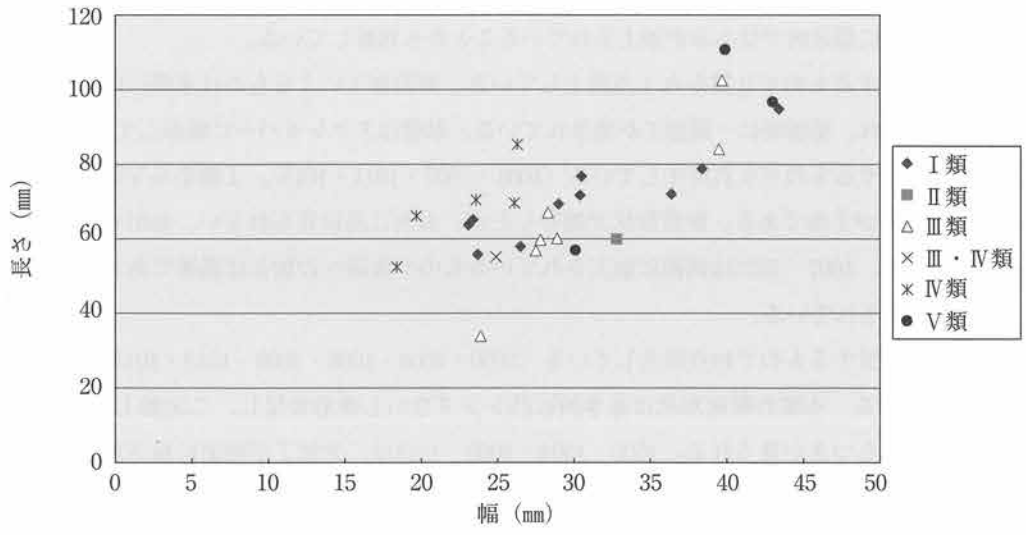
第16表　石篦出土グリッド一覧

	78	79	80	81	82	合計
GO	2	1				3
GN	2	3	8	1		14
GM	1	2	3	5		11
GL	1	5	5	5	1	17
GK	1		3	2		6
GJ			1			1
GI		1		2		3
合計	7	12	20	15	1	55

第17表　石篦出土層位一覧

層位＼分類	Ⅰ	Ⅰ1	Ⅰ2	Ⅰ3	Ⅰ4	Ⅰ・Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅲ1	Ⅲ1？	Ⅲ2	Ⅲ・Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ1	Ⅳ2	Ⅴ	合計
Ⅰ			1	1	1				1							3	7
Ⅱ					1		1	2	1			1	1	1		4	12
Ⅲ	3	2	1	1					2	1	1	1	1	3	1	7	24
Ⅳ		1				1								2		2	6
Ⅴ		1	1						1					1		2	6
合計	3	4	3	2	2	1	1	2	5	1	1	2	2	7	1	18	55

第122図　石篦長幅比



トランシェ様石器（第129図）

Ⅲ層から２点出土している。1018は背面に自然面を有する剥片を素材としている。素材を横位に用い両面より調整を施し基部を形成し素材の縁辺を刃部としている。1019は刃部範囲に剥離が見られ、小判形の形状を呈することから、石篦やスクレイパー類の可能性もあるが、両面より基部を形成していることから本石器としている。どちらも石材は頁岩である。

第18表　トランシェ様石器出土グリッド一覧

	80	82	合計
ＧＯ			
ＧＮ	1		1
ＧＭ			
ＧＬ		1	1
ＧＫ			
ＧＪ			
ＧＩ			
ＧＨ			
合計	1	1	2

石匙（第140～143図）

石匙は45点出土し、調査区北側のほぼ全域で見られる。出土位置による差異は認められなかった。使用石材は頁岩が主体で、赤色頁岩や瑪瑙や凝灰岩が僅かにある。出土層位はⅠ層からⅥ層上面にかけて確認され、Ⅲ層が主体である。摘み部を中心とした中軸線と刃部が交差する角度により、縦型・横型・斜位型に分類している。

Ⅰ類は縦型で17点出土しており平面形状により６分類している（1020・1021・1023・1026～1029・1035・1036・1040）。長幅比では長さが幅の1.5倍以上のものが大半であるが、細分と長幅比に関係性は見いだせない。刃部加工において両面加工が施される１・２類は３点のみで、その他の片面加工の３～６類のものが約８割を占める。１類は遺構内にのみ確認されている。２類（1026・1040）は共に、刃部先端が錐部と類似した形状を呈している。1026は抉り部から摘み部にかけて、1040は抉り部のみに加工が施されている。３類（1027・1036）は１側縁にのみ二次加工が施され、他類とは異なり刃部の断面形状は厚みがある。４類（1020・1023・1029・1035）は本類の中で最も多く見られる。素材となる剥片の打面は除去されているが、打面を上にして使用している。５類（1021・1028）は刃部が中軸線と平行していることから本類として扱っているが、末端部に形成される刃部の後退により３類に含まれる可能性も考えられる。６類は今回は図化していない。刃部は概ね中軸線と平行しているが、他類に比べ平面形が一定ではない。刃角の平均はⅠ類は30°前後、２類は60°前後、その他は全般的に共通した数値を示し26～68°の範囲に収まるが、30～50°前後に集中する。石材は頁岩が主体で、瑪瑙が僅に存在する。

Ⅱ類は横型で５点出土している（1024・1030・1031）。刃部加工が片面か両面により細分している。１類（1024・1030・1031）は、1024・1030は刃部に細かな加工を施している。刃部再生が行われればⅢ類への変化を想定できる。1031は抉り部と刃部に加工を施していることから未製品と考えられる。いずれも素材の打面を摘み部側に用いている。２類は遺構内から１点出土している（22）。長幅比では幅／長さが1.5前後に集中している。刃角は29～59°の範囲で、40°前後に集中している。石材は頁岩である。

Ⅲ類は斜位型のもので、15点出土している。中軸線と刃部の交差する角度が20～35°と45～60°において細分している。１類（1025・1039・1041・1042）は、刃部位置により細分できるが点数が少ないため今回は行わなかった。1025は刃部が外側、1039は刃部が内側、1041は刃部が両側縁、にそれぞれ形成され同一形状を示すのものは確認されていない。ただしこれらは素材打面を刃部末端側に用いるということは共通する。

1042は両面に加工が施されているが、一部刃部と思われる部分は右側縁に形成されているが明確な刃部加工は行われていないが、摘み部の作出されていることから本石器としている。２類（1022・1032～1034・1037・1038）は、遺構外から最も多く出土している。同一形状を呈するものは少なくバリエーションが多く見られる。1032のように素材の刃部側を打面部に用いているが、それ以外のものは横位ないし摘み部側に打面部を用いている。長幅比でみてみると全体的にはばらつきがあるが、概ね長さ／幅が２倍以上と1/1.5前後に集中する。これは一部例外があるもののほとんど前者は１類、後者は２類である。刃角は33～73°の範囲に収まり、概ね40～50°前後である。また１類と２類では刃角に違いは見られない。石材は他とは異なり頁岩以外に凝灰岩や瑪瑙、黒曜石（1034）などが使用されている。本類は上記のように細分したがいずれ刃部再生により中軸線に対する刃部の角度は変更がされるものと思われる。

Ⅳ類は欠損品で、８点出土している。

上記に示したように分類したが、それらの関係性を認められなかった。長幅比でみると、Ⅰ類とⅡ類に分布のまとまりが見られた。これはⅠ・Ⅱ類共に刃部を再生を繰り返せば、１：１の比率から乖離していくのは当然のことである。また、石材からはⅢ類において頁岩以外の複数の石材が使用されているが、黒曜石以外の石材において石材と石器の規模による違いは見られなかった。本石器において使用痕を観察できたので考察にまとめて掲載しておく。

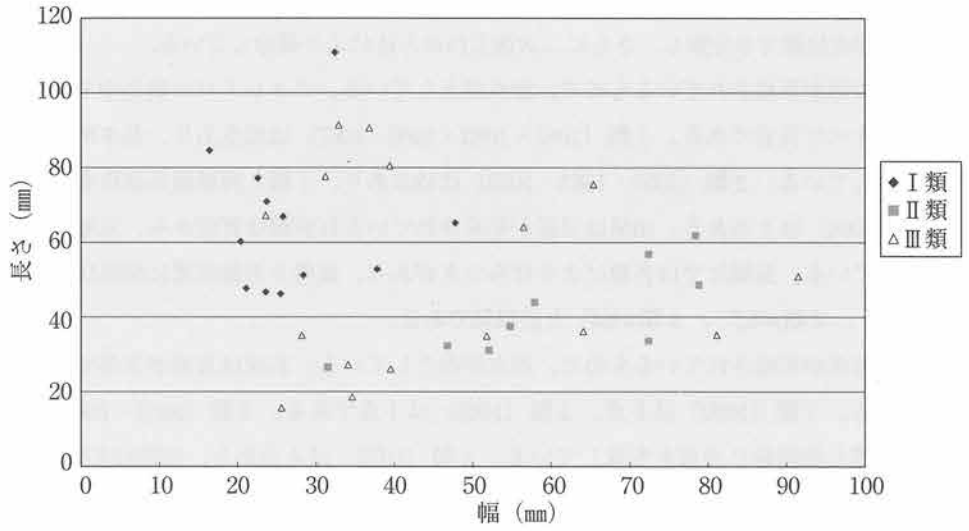
第19表　石匙出土グリッド一覧

	78	78	78	78	78	78
GO	1	4				5
GN	1	2	3			6
GN・M				1		1
GM	4	2	2		1	9
GL	2	3	1		1	7
GK		2	2		5	9
GJ		1	1			2
GI	1	1	2			4
GH		2				2
合計	9	17	11	1	7	45

第20表　石匙出土層位一覧

層位＼分類	Ⅰ1	Ⅰ2	Ⅰ3	Ⅰ4	Ⅰ5	Ⅰ6	Ⅰ1・4	Ⅱ1	Ⅱ2	Ⅱ3	Ⅲ1	Ⅲ2	Ⅴ	合計
Ⅰ				1	1							1		3
Ⅱ				1					1		1	2	2	7
Ⅱ～Ⅲ													1	1
Ⅲ		1	3	3	1	1	1	1	2	1	1	5	3	23
Ⅳ	1			1							1	2	1	6
Ⅴ		1	1								1		1	4
Ⅵ上面											1			1
合計	1	2	4	6	2	1	1	1	3	1	5	10	8	45

第123図　石箆長幅比



石錐（第144図）

石錐は4点出土し摘み部の形状と二次加工により分類している。Ⅰ類は2点、Ⅱ・Ⅲ類は1点ずつである。石材はすべて頁岩である。

Ⅰ類（1043・1046）は、1043の摘み部及び錐部は二次加工が施され、素材腹面を裏面に確認できる。1046は錐部先端が欠損しており、素材の打面部を腹面に残存するものである。

Ⅱ類（1044）は、つまみ部ないし錐部のどちらかが欠損しており、残存する錐部断面は菱形を呈する。

Ⅲ類（1045）は、残存しているつまみ部の右側辺に二次加工が施されていないことから本類とした。

第21表　石錐出土グリッド一覧

	78	79	80	80・81	81	合計
GO						
GN						
GN・M						
GM						
GL	1	1	1			3
GK						
GJ					1	1
GI						
GH						
合計	1	1	1		1	4

第22表　石錐出土層位一覧

層位＼分類	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	合計
Ⅰ	1		1	1
Ⅱ				
Ⅱ～Ⅲ				
Ⅲ		1	1	2
Ⅳ				
Ⅴ	1			1
Ⅵ				
合計	2	1	1	4

異形石器（第144図）

異形石器は4点すべてⅢ層から出土し、石材は頁岩である（1047～1049）。1047は石錘を模倣したもので、上下の位置に凹みに相当する箇所を表裏から二次加工を施している。1048は釣針状石器で、二次加工によりすべての断面形状が菱形か台形状を呈する。1049は二次加工により2つ以上の突起を有している。

第23表　異形石器出土グリッド一覧

	78	79	81	合計
GO				
GN				
GN・M				
GM	1			1
GL	1	1	1	3
GK				
GJ				
GI				
GH				
合計	2	1	1	4

スクレイパー類（第145～157図）

ＧＫ・Ｌ80を中心に165点確認され、Ⅰ層からⅤ層にかけて見られるものの半数近くがⅢ層からである。二次加工による刃部形成位置で８分類し、さらに二次加工作出方法により細分している。

Ⅰ類は１側縁に刃部が形成されているもので、39点出土している。スクレイパー類の中で最も多く確認されている。石材はすべて頁岩である。１類（1061・1062・1066・1067）は23点あり、基本的には縦長剥片の側縁に刃部を形成している。２類（1050・1063・1068）は12点あり、１類と同様縦長剥片を素材として使用している。３類（1056）は２点ある。1056は刃部が形成されている打面側は背面から、末端側は腹面からそれぞれ刃部形成している。長幅比では各類によりばらつきがあり、規模と刃部位置に関係は見られない。また刃角も１類が58°、２類が62°、３類が64°と近似値である。

Ⅱ類は２側縁に刃部が形成されているもので、22点が出土している。石材は頁岩が主体で赤色頁岩や流紋岩が僅かに含まれる。１類（1069）は６点、２類（1065）は１点である。３類（1051・1096）は12点あり、1051は素材腹面を残し両側縁に刃部を形成している。４類（1070）は４点あり、1070は左側縁は腹面から、右側縁背面からそれぞれ刃部を形成している。長幅比では各類によりばらつきがあり、規模と刃部位置に関係は見られない。また刃角の平均値は１類は57°、２類は59°、３類は61°、４類は58°と近似値である。縦長剥片を素材とし、打面を上位に用いている。

Ⅲ類は末端に刃部が形成されているもので、35点出土している。石材は頁岩が主体でデイサイトが僅かに含まれる。１類（1072・1075・1076）は10点、２類（1071・1074）は12点、３類（1100）は５点、４類（1073）は１点である。また刃角は１類は57°、２類は55°、３類は69°、４類は72°で、１・２類と３・４類は近似値である。素材となる剥片には縦長・横長剥片が用いられている。

Ⅳ類は一端に急斜度の刃部が形成されているもので、５点出土している（1053・1077）。1053・1077は刃角はⅢ類と変わらないが、末端に幅の狭い刃部が形成されていることから本類としている。刃角は48～87°の範囲にあるが、平均すると63°前後である。石材はどちらも頁岩である。

Ⅴ類は打面部以外の周縁に二次加工により刃部が形成されているもの（打面除去されているものも含む）で、９点出土している。１類（1054・1078～1080・1082・1099・1101）は７点あり、基本的には素材打面を上位に設定し、剥片の側縁に刃部を形成している。1054はほぼ円形状に刃部が形成されているが、折れ面に二次加工を施している。1078・1079・1099は刃部形成により素材打面が除去されている。1099は素材打面の除去を背面側から行っている。1080・1082・1101はそれぞれほぼ周縁するように刃部が形成されているが素材打面を残している。1101はⅦ類との区分は不明瞭であるが、刃部が素材打面側にも行われていることから本類に含めている。これら素材打面の除去による有無はあるが、基本的には打面部を上位に設定している。２類（1052）は１点あり、1052は素材背面に刃部が一部認められるが、主要な刃部は腹面に形成されてる。素材打面は除去され、背面と腹面に形成された刃部はほぼ周回する。３類（1055・1058）は２点出土している。1055は平面形状は三角形を呈しており、両面の各縁辺にそれぞれ刃部が施されている。1058は平面形は円形を呈し、背面と腹面に形成された刃部はほぼ周回する。石材はすべて頁岩である。また刃角の平均値は１類は61°、２類は80°、３類は53°である。

Ⅵ類は１側縁と末端部に刃部が形成されており「Ｊ」字状を呈するもので、29点出土している。１類（1057・1081・1098・1102・1103）は10点あり、1098は素材打面を末端にして刃部形成をしているが、他のものは素材打面を上位に用い刃部形成している。前者は素材打面は除去しており、後者は素材打面が残存している。２類（1084・1087）は８点あり、1084は素材打面を横位、1087は素材打面を上位に用いそれぞれ刃部

形成している。3類（1083・1086）は8点あり、それぞれ側縁と末端に形成された刃部の剥離方向が異なる。縦長剥片を使用し素材打面を上位に設定していることは同じである。4類（1085）は3点あり、1085は右側縁が両面より刃部が形成されているため本類に含めた。刃部形成は3類と類似している。石材は頁岩が主体でデイサイトが僅かに含まれる。また刃角の平均値は1類は53°、2類は54°、3類は54°、4類は64°で、4類以外は近似値である。

Ⅶ類は2側縁及び末端ないし打面部に刃部が形成されており「U」字状を呈するもので、30点出土している。本類は4分類され、1類（1088・1089・1091・1094・1095）は8点あり、1095は素材打面を横位に用いているが、その他のものは縦位である。2類（1090・1093）は5点あり、1090は素材打面を上位に用い、背面に自然面を有する剥片を使用している。3類（1092）は10点あり、刃部を背面と腹面からそれぞれ加工を施しており、素材剥片は横長剥片を使用している。4類（1059・1097・1104）は7点あり、1059・1104は素材剥片の打面を上位に用いているが、1097は横位に用いている。石材は頁岩が主体で凝灰岩とデイサイトが僅かに含まれる。また刃角の平均値は1類は59°、2類は52°、3類は58°、4類は58°と近似値である。

Ⅷ類は剥片の両端に刃部が形成されているもので、本遺跡から出土しているものは1類（1105）のみである。

基本的に長幅比から縦長剥片を素材としていたことが窺える。素材の用い方では、素材打面を上位に設定し剥片を縦位に用いるのが大半である。打面は各類において残存させているものが多く認められるが、Ⅴ類において素材剥片の打面を除去し刃部形成を施していることを把握できた。また形態により刃角に相違は見られず、27～89°の範囲とその幅は大きく見られるものの、それらの平均値で比較すると近い数値を示している。このように刃角でも近似値を示していることを合わせて検討していくと、少なくとも素材の用い方と刃部の作出方法が同じであれば、各類が変形していくものと考えられる。また上記のような分類を行ったもののⅤ類とⅦ類に分類できないものが存在していることからも、それぞれが関連していることを裏付るものと思われる。このことから、刃部が側縁部にのみ施されているⅠ・Ⅱ類→刃部箇所が末端部にも施されるⅥ・Ⅶ類→全周に刃部が存在するⅤ類へと変化し、石材等の諸条件が合えばこれらは連動していくことが想定される。

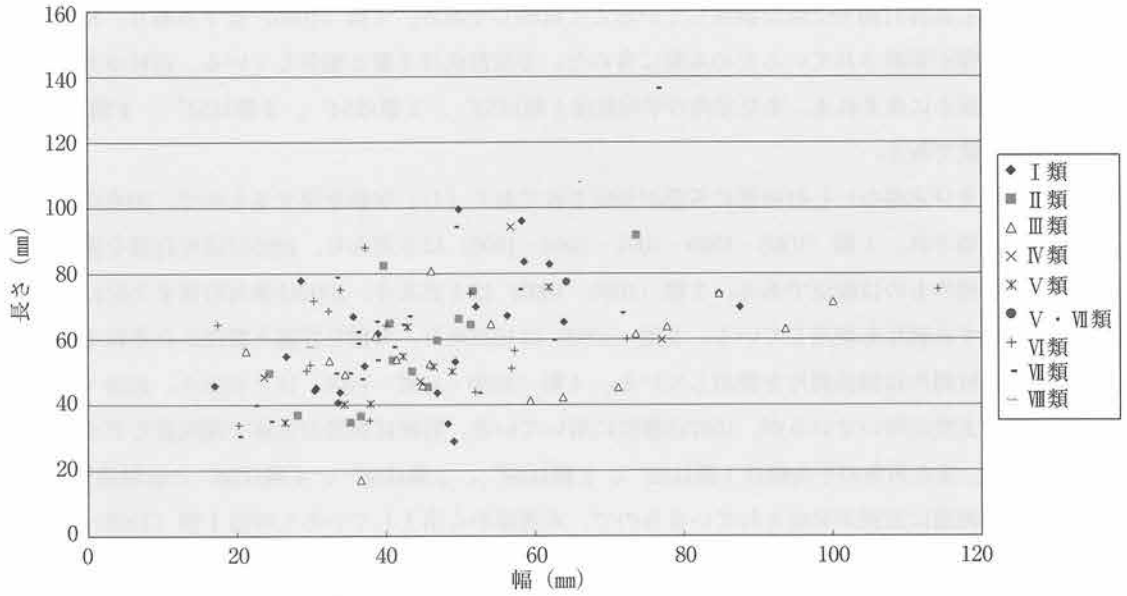
第24表　スクレイパー類出土グリッド一覧

	78	79	80	80・81	81	82		合計
GO	1	4						5
GN	2	7	7		2			18
GN・M				1				1
GM	4	8	5		8			25
GL	10	5	14		7			36
GK	6	4	12		7	1		30
GJ	6	8	4		1			19
GI	6	2	1		3			12
GH			1					1
GF		1						1
調査区一括							15	15
合計	35	39	44	1	28	1	15	163

第25表　スクレイパー類出土層位一覧

層位＼分類	Ⅰ	Ⅰ1	Ⅰ2	Ⅰ3	Ⅱ1	Ⅱ3	Ⅱ4	Ⅲ1	Ⅲ2	Ⅲ3	Ⅲ4	Ⅳ	Ⅴ1	Ⅴ2	Ⅴ3	Ⅵ1	Ⅵ2	Ⅵ3	Ⅵ4	Ⅶ1	Ⅶ2	Ⅶ3	Ⅶ4	Ⅷ1	合計
Ⅰ		6	1		1	1										1	2	1				1		14
Ⅱ		3	2		2	4	1	2	1	1		1		2			1	1	1			1			22
Ⅱ～Ⅲ								1							1										2
Ⅱ～Ⅲ一括		1	1	2			1	1					1		1	2	1			1	2	1	1		16
Ⅲ	2	9	6		3	5	1	3	8	3	1	3	4			4	4	3	1	5	3	6	1		75
Ⅳ			2			1	1	1	1				1			1		1		2		1	2		14
Ⅴ		2				1		2	2	1						2		2	1			1	2	1	17
Ⅴ下位												1													1
調査区一括		1																							1
不明		1																							1
合計	2	23	12	2	6	12	4	10	12	5	1	5	6	2	2	10	8	8	3	8	5	10	7	1	163

第124図　スクレイパー類長幅比



不定形石器（第157～164図）

遺構外からは269点、ＧＬ80グリッドを中心に出土している。出土層位は、Ⅱ層からⅢ層にかけて多く見られる。各層位によって形態ごとの差異は抽出されなかった。スクレイパーと比べると刃部は連続せず、二次加工が粗雑なことを判断基準として本石器を抽出している。

Ⅰ類は１縁辺に連続した片面方向に二次加工を有する石器である。二次加工の部位の数で分類しており、１類は１カ所、２類は複数カ所に有するものである。１類（1110・1112・1118・1121・1122・1126～1128）は、128点出土し本石器の半数近くを占める。本類は側縁に刃部があるもので、末端部に刃部が形成されたものはない。２類は（1108）４点と少ない。1108は刃部を形成している側縁部が欠損しているが、末端に形成された刃部が連続していないことから本類に含めた。

Ⅱ類は複数の縁辺に二次加工を有する石器である（1120・1124）。Ⅱ層とⅢ層を中心に48点出土しており、頁岩が主体である。素材は縦長剥片を使用してその打面を上位に設定し、長い側縁部の複数カ所に刃部を形成している。

Ⅲ類は両面からの二次加工を有する石器である（1123・1129）。Ⅱ層とⅢ層を中心に38点出土しており、頁岩が主体である。Ⅰ類と明確に区分することは困難であるが、1123・1129のように一部分でも両面に加工されていれば本類に含めている。

Ⅳ類は抉り部（ノッチ）を有する石器である（1107）。Ⅲ層を中心に12点出土しており、頁岩を主体にホルンフェルスや凝灰岩が僅に含まれている。1107は右側縁中央に抉り部を有している。

Ⅴ類は素材腹面に剥離が行われている石器である（1106・1109・1111・1113・1114・1119・1125）。Ⅱ層からⅢ層を中心に23点出土している。刃部調整のようなものとは異なり、素材腹面に大きな剥離面を有するものを対象としている。1109は素材腹面が確認できないくらい剥離が施されているが、それ以外のものは素材腹面を確認することができる。素材腹面を残すものの中でも1111・1114は、背面腹面共に調整され素材形状を留めておらず、他器種の製作段階のものと考えられる。

Ⅵ類は微細剥離痕を有する石器である。Ⅲ層中心に計17点出土している（1116・1117）。

各類を長幅比でみてみると大きさにはばらつきがあり長さ40～60mm、幅30～60mmにまとまるものの、各類との関連性は見られない。Ⅴ類以外の石器は形状を大幅に変形させることなくこの範囲でまとまることから、遺跡内で製作されている剥片の大きさであることが考えられる。また、各類と他器種との関係を見いだすことを前提に本石器の分類を試みたが、各類間との関係性は認められない。先述したように1111・1114の素材形状を留めていないものは他器種の製作段階を示唆できるが、他類は便宜的に縁辺に刃部形成し使用しているだけに留まっている。Ⅰ・Ⅱ類は素材剥片の用い方や刃部位置などからスクレイパー類との関連性が窺えるものも中には存在しているので、それらとの比較は今後の課題である。

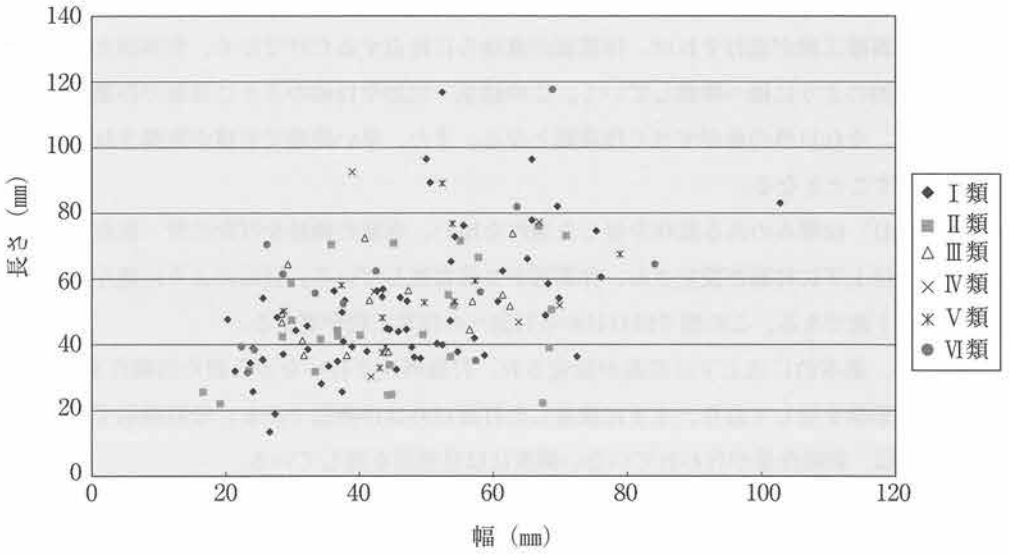
第26表　不定形石器出土グリッド一覧

	75	77	78	79	80	80・81	81	82		合計
GO			3	1	2			1		7
GN			5	9	20		4			38
GN・M						2				2
GM			17	12	8		15	3		55
GL			9	14	25		15	3		66
GK			6	13	13		10	1		43
GJ			9	9	6		4			28
GI			2	5	3					10
GH				2						2
GF				1						1
FI		1								1
EN	1									1
調査区一括									15	15
合計	1	1	51	66	77	2	48	8	15	269

第27表　不定形出土層位一覧

層位＼分類	I1	I2	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	V1	V2	VI	合計
Ⅰ	26		11	4	1		1		1	44
Ⅱ	32	1	12	14	4		4	2	1	70
Ⅱ～Ⅲ	2		2					1		5
Ⅲ	39	2	16	15	4	1	4	5	11	97
Ⅳ上面									1	1
Ⅳ	10		1	2	1		1			15
Ⅴ	11		5	1	2		1	1	3	24
調査区一括	5		1	2				1		9
包含層一括	1							1		2
層位不明	2									2
合計	128	3	48	38	12	1	11	11	17	269

第125図　不定形石器長幅比



楔形石器（第164図）

遺構外からは24点出土している。ＧＬ・Ｍ・Ｎグリッドを中心にⅠ層からⅤ層にかけて見られる。

Ⅰ類（1131・1132・1134）は上下にのみ両極剥離痕を有するもの、Ⅱ類（1133・1135～1137）は上下以外にも他の縁辺に両極剥離痕を有するものである。Ⅰ類とⅡ類に分類したが、出土層位と位置によってその差は見られない。一部例外があるものの概ね長軸が1.9cm～4.5cmの間に納まる。石材は頁岩が主体で、流紋岩や蛇紋岩、凝灰岩がある。図化したもの中で1137のみ流紋岩で、それ以外は頁岩と赤色頁岩である。自然面を残すものは全体の約25%であり、残りは両面に両極剥離ないし使用以前の剥離を有するものである。また素材の腹面が確認できるものが大半であることから、素材の大半は比較的厚みのある剥片であったことが窺える。それ以外には礫核素材のものが１点ある。

ⅠⅠ類とⅡ類に区分しているが、1135などの剥離から上下から左右へと両極剥離痕が移動していることが観察できることから、Ⅰ類からⅡ類への使用過程により形成されたものと捉えるられる。本石器に使用する素材には剥片と礫核素材の２種類が窺えた。それらの素材の規模は1131・1134などのように上下に両極剥離が少ない段階に廃棄された石器から検討すると、使用過程によりその規模は縮小していくが素材の規模は比較的小さいものを用いていたと考えられる。

第28表　楔形石器出土グリッド一覧

	78	79	80	80・81	合計
ＧＯ					
ＧＮ			5		5
ＧＭ			1	3	4
ＧＬ	2	2	3	1	8
ＧＫ		2	1	1	4
ＧＪ	1		1	1	3
ＧＩ					
ＧＨ					
合計	3	4	11	6	24

第29表　楔形石器出土層位一覧

	Ⅰ	Ⅱ	合計
Ⅰ	6	1	7
Ⅱ	4	2	6
Ⅱ～Ⅲ	1		1
Ⅲ	4	3	7
Ⅳ		1	1
Ⅴ	1	1	2
合計	16	8	24

石核（第165～167図）

遺構外からは33点出土している。Ⅰ層からⅤ層にかけて見られ、出土位置や層位により差は見られない。石材は頁岩・赤色頁岩・珪質頁岩が主体で、安山岩と瑪瑙なども使用されているがその頻度は低い。自然面を残すものが32点あり、全体の約９割を占める。石核は最終形態から分類している。

Ⅰ類（1139・1140・1142・1144）は、扁平な礫を使用し幅の狭い面を作業剥離面に用い、上下に打面を設定しそれらは自然面を除去しながら剥離作業を行う。礫そのものの幅を作業面とすることで作業面に奥行きを持たせている。剥離工程が進行すれば、作業面が真後ろに後退するだけでなく、作業面と打面の両者の条件が得られれば1139のように横へ移動していく。この結果、1139や1140のように当初の作業面の反対方向にのみ自然面を残し、それ以外の面がすべて作業面となる。また、早い段階で石核が放棄されれば1144のように自然面を多く残すこととなる。

Ⅱ類（1138・1141）は厚みのある板状を呈した剥片を用い、素材の側縁を打面に背・腹面を作業面とするものである。1138は上下に打面が設定され、作業面が２面存在している。1141のように剥片の腹面をそのまま残し、作業面が１面である。この類では1141から1138への作業工程が窺える。

Ⅲ類（1143）は、基本的には上下に打面が設定され、打面再生を行いながら剥片剥離作業を行っている。ほぼサイコロ状の形態を呈しており、上下に設定した打面以外は作業面である。今回提示できなっかた本類に相当する石核には、剥離作業が行われていない箇所には自然面を残している。

Ⅳ類は遺構内から出土している（129）。円盤状の石核で打点を周回させながら剥離作業を行っているものである。

第30表　石核出土グリッド一覧

	76	78	79	80	81	82	合計
GO		1	2				3
GN			4	2			6
GM		1		1		1	3
GL		2		1	5	1	9
GK		2		1	1		4
GJ		1	2	1			4
GI		1	1	1			3
EQ	1						1
合計	1	8	9	7	6	2	33

第31表　石核出土層位一覧

層位	点数
Ⅰ	5
Ⅱ	7
Ⅱ～Ⅲ	1
Ⅲ	15
Ⅳ	3
Ⅴ	1
Ⅴ下位	1
Ⅵ	
合計	33

石核の分類から剥片剥離技術についてまとめておきたい。

本遺跡においては上記のような剥片剥離行程が確認された。打面の在り方や剥離技術、自然面の残存状況などⅠ類とⅢ類に共通するものが認められ、両者は同一の技術体系にあったものと思われる。しかし、本遺跡からはⅠ類とⅢ類の中間的な資料は存在していなかったが、仮に珪質頁岩や瑪瑙、節理の少ない頁岩というような石材の条件が整えば、Ⅰ類のような作業工程が進行した結果、Ⅲ類への形状に変化していくことが見込まれる。Ⅰ類・Ⅲ類とⅡ類では使用する素材が異なることから、両間での変化は考えにくいが、上下に打面を設定する剥離工程から同一技術体系にあると思われる。

これらをまとめると、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ類、Ⅳ類の２種類の製作技術が存在していたものと思われ、これらの技術に使用される石材に差異は認められない。大半の石材は基本的に自然面のある頁岩であることから、石材環境において頁岩採取が容易であったことが窺える。また、先述したような良質な石材のみ剥片剥離工程が進行しⅢ類のような形状を留めていることから、頁岩において採取箇所の相違が存在するか、良質な頁岩のみ選択され剥片剥離作業が行われたなどにより生じたていたことなどが考えられる。

打製石斧（第168図）

打製石斧は調査区１区と４区から計５点出土し、その形態により３分類している。Ⅰ類（1147）は４区のⅣ層より出土したもので頁岩製である。Ⅱ類（1145・1148）は、1145は１区のⅡ層から出土したもので、形状から「石鍬」と思われる。1148は４区のⅣ層からの出土である。両者の石材はデイサイトである。Ⅲ類（1146）は基部側を欠損している。他類では刃部付近にも自然面が残存しているが、本石器には自然面が刃部側に残存していな事から本類に含めた。1147と1148は共伴遺物が石錘しか存在しないため、時期は不明である。1145のみ石鍬と思われる形状を呈しているが、それ以外は刃部と基部の幅は近似している。

第32表　打製石斧出土グリッド一覧

	75	78	80	合計
GO				
GN				
GM				
GL			2	2
GK		1		1
GJ				
GI				
GH				
EP	2			2
合計	2	1	2	5

第33表　打製石斧出土層位一覧

層位＼分類	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	合計
Ⅰ				
Ⅱ		1		1
Ⅱ～Ⅲ				
Ⅲ		1	1	2
Ⅳ	1	1		2
Ⅴ				
Ⅵ				
合計	1	3	1	5

磨製石斧（第168・169図）

遺構外から10点出土している。形状と研磨の状況で分類している。これらの半数はⅢ層からの出土である。

Ⅰ類（1149～1151）は欠損品であるが、残存部位の側面において研磨が施されていることから本類に含めた。使用している石材は細粒斑糲岩や頁岩などであるが、頁岩の占める割合がやや高い。

Ⅱ類（1152～1154）はすべて細粒閃緑岩を使用している。側面にも研磨が施されているが、Ⅰ類のような側面が整形されておらず断面は楕円形を呈する。1154は側面の研磨する以前の敲打して形状を整形していく段階で破損したものと思われる。よって1154のように敲打により形状を整形した後に研磨を施した結果、1152のような形状へと変化していくことが見込まれる。

Ⅲ類（1155）はすべて粘板岩を使用している。基本的に刃部にのみ研磨が施されており、体部には一部のみ施されてはいるがそれが全周に及ぶことはない。

基本的に各分類と刃部形状には関係は見られない。Ⅰ類は頁岩などの複数の石材、Ⅱ類は細粒閃緑岩、Ⅲ類は粘板岩、各類と石材の間には関係が認められる。出土点数が少ないことから言及できないが、これらのことが当該期において石材選択された結果によるものか、地域の石材環境により起因したものか今後の検討課題としたい。また、完成形態が異なるということは使用目的や対象物の相違から起こりうるものと考えられることから、Ⅲ層時に全ての種類が確認できるということはそれぞれ異なる作業が存在していたこと考えられる。

第34磨製石斧出土グリッド一覧

	78	79	80	80・81		合計
ＧＯ						
ＧＮ						
ＧＭ		2	1			3
ＧＬ	1		1	1		3
ＧＫ			1			1
ＧＪ		1		1		2
ＧＩ						
ＧＨ						
調査区一括					1	1
合計	1	3	3	2	1	10

第35表　磨製石斧出土層位一覧

層位＼分類	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	合計
Ⅰ	1				1
Ⅱ	1	1			2
Ⅱ～Ⅲ	1				1
Ⅲ	1	2	1	1	5
Ⅳ			1		1
Ⅴ					
Ⅵ					
合計	4	3	2	1	10

剥片

遺構外からは3780点出土している。石材頁岩が主体で、僅かに黒曜石、蛇紋岩、瑪瑙、碧玉などある。

第36表　剥片石器出土グリッド一覧

	75	78	79	80	80・81	81	82		合計
ＧＯ		21	116	35		1	1		174
ＧＮ		88	178	182		50			498
ＧＮ・Ｍ					8				8
ＧＭ		155	223	170		230	36		814
ＧＬ		103	211	349		200	18		881
ＧＫ		123	125	235		113	8		604
ＧＪ		85	99	78		64			326
ＧＩ		62	56	73		34			225
ＧＨ			21	18					39
ＧＦ			18						18
ＦＴ						1			1
ＥＰ	1								1
調査区一括								191	191
合計	1	637	1047	1140	8	693	63	191	3780

第37表　剥片石器出土層位一覧

層位	点数
Ⅰ	778
Ⅱ	778
Ⅱ～Ⅲ	67
Ⅱ～Ⅲ一括	184
Ⅲ	1438
Ⅲ～Ⅳ	3
Ⅳ	246
Ⅳ～Ⅴ	3
Ⅳ～Ⅵ	6
Ⅴ	241
Ⅴ下位	11
Ⅵ	2
Ⅵ上面	20
調査区一括	2
層位不明	1
合計	3780

石錘（第169～173図）

ＧＬ80やＧＯ79からの出土量が突出しているが、主に調査区１区の遺構外からで211点出土している。また調査区４区でも２点確認されている。出土層位はⅠ層からⅥ層にかけてで、Ⅲ層にそのピークが見られ半数以上である。報告にあたっては、抉り部の数と他器種からの転用などにより４分類しており、その中で縦長

と横長により細分している。石材はデイサイトが半数で占められ、次いで安山岩、その他には頁岩、砂岩、礫岩、細粒閃緑岩、ホルンフェルス等も僅かであるが含まれている。各分類において石材による差異は認められない。

Ⅰ類（1159・1163・1164・1172・1178）は16点出土しており、b類13点、欠損による不明が3点である。不明に分類したものを除けば確認できたものにおいては縦長はなく、横長と使用する傾向がある。使用する礫の平面形態が「三角形状」か「丸状」を呈するものがあるが、前者の形態の方が多い。

Ⅱ類（1156～1158・1161・1162・1165・1166・1168～1170・1173～1177・1180・1182～1185・1187・1189・1190・1192～1194・1196～1201）は172点出土しており、本遺跡で最も多く出土している。a類は78点、b類は82点であり、ほぼ同数である。先述したように長さ50～80mmで、重さ100g前後に集中している。

Ⅲ類（1160・1167・1179・1181・1191・1202）は4点出土し、a類は2点、b類は2点である。横位にある抉り部は上下の抉り部に比べ剥離数が少なく浅い。上下以外に抉り部を複数使用することを目的としたものか、剥離ができないことから抉り部の変更が行われたのかは不明である。

Ⅳ類（1171・1186・1188）は、凹痕ないし磨面を有するもので、6点出土している。本類には凹痕を有するものが多い。

Ⅴ類は欠損品で13点出土しており、遺跡内における欠損率は低い。

各分類において長幅比との関係を概観してみたが、Ⅰ類に横長のものを使用する以外はⅡ～Ⅳ類における長幅比と抉り部の数には関係は見られない。石錘全体の傾向として長さと幅共に概ね50～100mmの間に収まり、主に60～80mmの間にまとまりをみせている。長さと重量比の関係も合わせみていくと、長さに関わらず50～400gの範囲の重量を使用していることが窺える。特に100～150ｇ前後にピークが見られることから、それらの重量にのみ比重を置き選択している傾向が見られる。

各分類による長幅比、重量などから検討したが、これらからは関係性を見出せず何らかの選択により製作されたとは言い難い。このことは滝ノ沢遺跡の石錘を稲野氏が検討していることと同一見解である（北上市教育委員会1987）。使用された石材に僅かながら特徴を見出すことができる。礫石器Ⅰ類と使用する石材の傾向が類似し、形態の近い礫石器Ⅱ類とは異なる石材を使用する傾向にある。出土は点数が最も多い礫器Ⅰ類と主要石材が同じであることは、基本的に近くで採取可能なデイサイトを選択した結果同様な傾向になったものと考えるのが妥当であり、形状が類似している礫石器Ⅱ類に使用された石材には、石錘に適した規模のものが存在していなかったからであろう。遺跡内で主要石材となるものを石錘の石材としていることから遺跡近辺で容易に獲得できた石材と考えられる。

本石器の重量が100～150ｇに集中する。このことは滝ノ沢遺跡（北上市教育委員会1987）や煤孫遺跡（岩文埋1994）・清水ヶ野遺跡（岩文埋2001）・鳩岡崎遺跡（岩手県教育委員会1983）でも同一傾向にあることから、重量にのみ選択条件が適用された結果と考えられる。さらに礫石器の長幅比や長幅指数・重量比と比較検討を加えていくと本石器は明らかに礫石器とは異なる形状の礫を選択をしている傾向が認められる。このことから本石器に見られる凹痕は礫石器Ⅲ類とは区分できるもので、目的は不明であるが製作時ないし使用時の痕跡と考えられる。今後は当該期の石錘が多量に出土している遺跡が数多く存在していることから、点数や規模、重量などから検討を加えその様相を明らかにしていく必要があるものと思われる。

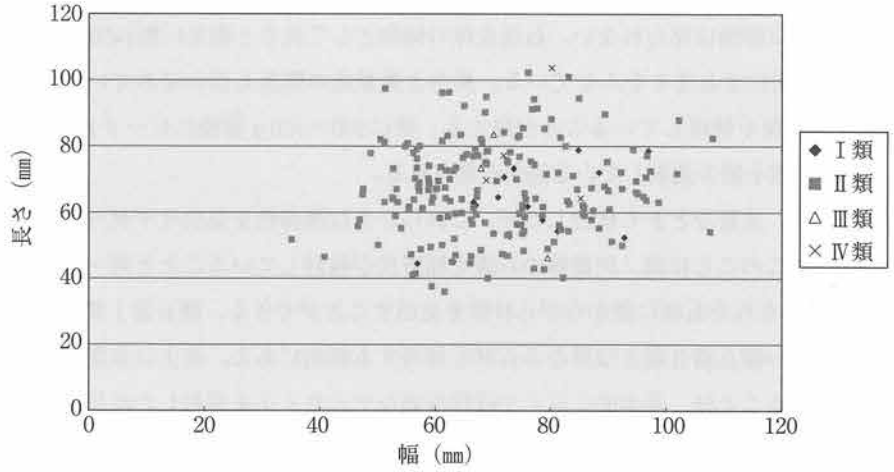
第38表　石錘出土グリッド一覧

	76	78	79	80	80・81	81		合計
GO		1	17	1				19
GN		6	9	11		5		31
GN・M					1			1
GM		12	12	9		9		42
GL		7	6	20		8		41
GK		4	7	11		8		30
GJ		10	9	2		3		24
GI		4	6	2		3		15
GH			1	1				2
GF			1					1
EQ	1							1
EP	1							1
調査区一括							3	3
合計	2	44	68	57	1	36	3	211

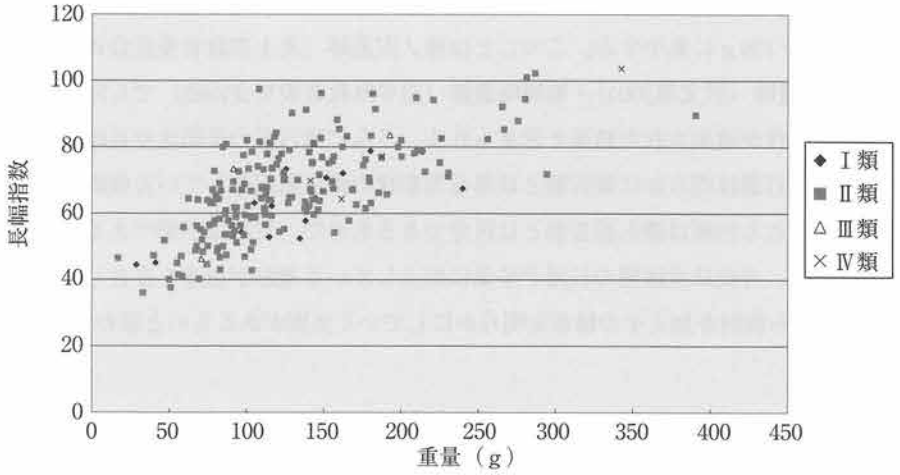
第39表　石錘出土層位一覧

層位＼分類	Ⅰ	Ⅰb	Ⅱ	Ⅱa	Ⅱb	Ⅱc	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	Ⅳa	Ⅳb	Ⅴ	合計
Ⅰ				5	3							1	9
Ⅱ	1	3	2	13	17			1		1	1	2	41
Ⅱ～Ⅲ	1			2	1								4
Ⅲ	1	9	7	41	44	1		1	1		2	8	115
Ⅳ			2	5	8		1						16
Ⅳ上面		1			1								2
Ⅴ				11	4		1			1		2	19
Ⅵ				1									
調査区一括					2								3
地山上面					2								2
合計	3	13	11	78	82	1	2	2	1	2	3	13	211

第126図　石錘長幅比



第127図　石錘長幅指数・重量比



礫石器（第173～192図）

礫石器は、728点出土している。それらを敲打痕・凹痕・磨痕・溝痕などの痕跡を有するものなどを17分類、有孔石や原石を合わせて19分類している。ＧＬ80グリッドを中心に出土し、本包含層が残存しているＧＯ79・ＧＮ80グリッドの北側まで出土範囲は広がっている。逆に南に行くに連れその出土量は極端に減る。出土層位はⅠ層からⅤ層にかけて確認されるが、その主体はⅢ層である。使用石材は安山岩が約５割、デイサイト約４割と主体を占め、その他に砂岩や花崗閃緑岩、凝灰岩などがある。

［Ⅰ類］

敲打痕を有する石器である（1203・1206・1207・1237～1243・1316～1318・1333～1336）。礫石器の中で最も多い240点が出土し、礫器の約３割を占める。石材はデイサイトと安山岩で７割弱で、凝灰岩や砂岩などが使用されている。Ⅰ層からⅤ層にかけて確認されているが、半数近くはⅢ層である。敲打痕は長楕円形を呈した礫の両端部に形成されているものが大半であるが、円礫の側面に敲打痕を周回させるものもある。長幅比では長さは100～150mm・幅は40～80mmの範囲に集中が見られ、基本的に縦に細長い礫を使用していることが窺える。重量は100～500g前後にまとまりをみせている。

［Ⅱ類］

磨面を有する石器である（1208・1209・1244～1246・1319・1320）。Ⅰ層からⅤ層にかけて48点出土しており、半数近くはⅢ層である。円形ないし楕円形を呈した礫の表裏面の平坦面を使用しているものが大半である。側面に磨面を有する場合も表裏面と組み合わせて形成され、側面のみに磨面が存在するものはない。石材は安山岩を主体とし、花崗岩やデイサイト等も見られる。長幅比では長さは70～120mm・幅は70～110mmの範囲に集中する。重量は100～1200gと幅広い範囲に分布し、分散する傾向にある。

［Ⅲ類］

凹痕を有する石器である（1210・1211・1247～1250・1321）。Ⅰ層からⅤ層にかけて46点出土しており、半数近くはⅢ層である。石材はデイサイトと安山岩で大半を占め、凝灰岩や花崗岩、熔岩などが見られる。長幅比では長さは100mm前後・幅は50～100mmに比較的集中している。重量は500g前後に比較的まとまりをみせる。長楕円形から円形を呈した礫を使用し、Ⅰ類とⅡ類の石材の使用傾向に分けられる。

［Ⅳ類］

敲打痕と磨面が確認できるものでⅠ類とⅡ類の複合石器である（1212・1213・1252～1258）。Ⅰ層からⅤ層にかけて50点が出土しており、その半数以上はⅢ層である。楕円形ないし円形を呈した礫を使用し、表裏面に磨面と側面に敲打痕とそれぞれ組み合わせて形成されている。石材は安山岩や花崗岩、デイサイトなどが使用されている。長幅比では長さは100～120mm・幅は約80～100mmに集中する。

［Ⅴ類］

敲打痕と凹痕が確認できるものでⅠ類とⅢ類の複合石器である（1231・1259～1262・1322～1324・1337）。56点出土しているがⅠ層からⅤ層にかけてで、その多くはⅢ層である。長楕円形から円形を呈した礫を使用し、表裏面に凹痕と両端に敲打痕が形成されている。長幅比などから使用する礫はⅢ類と同じ傾向にある。石材は凝灰岩、安山岩、砂岩、花崗閃緑岩、デイサイトなどである。長幅比では長さは概ね80～160mmに納まるが、幅は60mm以下と80mm以上にそれぞれまとまりをみせる。重量は183～1105ｇの範囲にあり、概ね500ｇ前後に集中する。

［Ⅵ類］

磨面と凹痕が確認できるものでⅡ類とⅢ類の複合石器である（1232・1266～1270・1325）。15点出土し、主体はⅢ層である。石材は安山岩を主体とし、花崗閃緑岩やデイサイトなどが見られる。長幅比では長さは90～120mm・幅は80～100mmにまとまりをみせる。重量は500～1000ｇの範囲に入る。楕円形から円形を呈した礫を使用し、表裏面に磨面と凹痕が形成されている。磨面と凹痕の前後関係は不明であるが、使用する礫はⅡ類と同様の傾向である。

［Ⅶ類］

本類は敲打痕と磨面と凹痕が確認できるものでⅠ類とⅡ類とⅢ類の複合石器である（1216・1218・1219・1233・1234・1271～1280・1326・1327・1346）。35点出土し、その多くはⅡ層からⅢ層である。楕円形から円形を呈した礫を使用し、表裏面に磨面と凹痕と両端及び側面に敲打痕が形成されている。これらの痕跡の前後関係は不明であるが、使用する礫はⅡ類と同じ傾向である。石材は安山岩、花崗岩、花崗閃緑岩、デイサイトなどである。長幅比では長さは100～140mm・幅は90～110mmにまとまりを見せる。重量は360～1150ｇの範囲にあり、500～700ｇに集中する。

［Ⅷ類］

溝状の痕跡を有する石器である（1205・1220～1222・1283・1284）。14点出土し、その多くはⅡ層からⅢ層である。石材は安山岩、軽石、デイサイトなどである。主に扁平の楕円形を呈した礫の表裏面に溝状の痕跡が形成されている。長幅比では長さは60～100m・幅は40～80mm、長さと幅共に100mm以上の２つのまとまりを示す。重量は96～639ｇの範囲にありまとまりはない。使用されている礫においても他類と比較しても関係性が見出せない。重量においては先述したように幅はあるものの、長幅指数と重量比から検討するとⅠ類と同様の傾向にある。

［Ⅸ類］

敲打痕と溝状の痕跡が確認できるものでⅠ類とⅧ類の複合石器である（1222・1282）。Ⅱ層とⅢ層から１点ずつ出土している。楕円形を呈した礫を使用し、表裏面に溝痕と側面及び両端に敲打痕が形成されている。石材はデイサイトと砂岩である。どちらとも規模は類似し、長さは110mm前後で、幅は75～80mmである。使用する礫は点数が少ないことから判断しがたいが、Ⅱ類に近い傾向がある。

［Ｘ類］

凹痕と溝状の痕跡が確認できるものでⅢ類とⅧ類の複合石器である（1281・1340・1341）。４点出土し、主にⅣ層である。楕円形から円形を呈した礫を使用し、表裏面に溝状の痕跡と凹痕が形成されている。この痕跡の前後関係は不明である。石材は砂岩とデイサイトである。長さは94～110mmで、幅は80mmである。

［ＸⅠ類］

敲打痕と磨面と溝状の痕跡が確認できる複合石器である。Ⅲ層から１点出土しているが図化はしていない。表裏面に磨面と溝状の痕跡、両端及び側面に敲打痕を有する。石材は石英安山岩と砂岩である。

［ＸⅡ類］

敲打痕と磨面と凹痕と溝状の痕跡が確認できる複合石器である（1223）。Ⅱ層から１点出土しており、1223は楕円形を呈した礫を使用し、両端及び側面に敲打痕が形成されている以外は、表裏面に痕跡がある。長さ112mm、幅97mm、重さ884ｇ、石材は安山岩である。

［XⅢ類］

所謂「特殊磨石」と呼称されるもので、側面に磨面が形成されているものを総称しており、159点出土している。磨面の脇に存在する剥離面の有無と磨面以外の痕跡を有するもので3分類している（1224～1228・1235・1285～1298・1328～1330・1342～1343）。長さは150前後～200mm、幅は60～90mmに集中し、重量は500前後～1000gの範囲にある。石材は安山岩とデイサイトが主体で、砂岩、閃緑岩、玢岩などがある。Ⅰ層からⅤ層にかけて出土しているが、Ⅲ層主体である。基本的に長楕円形を呈した礫を使用し、断面形状は隅丸三角形が大半で、楕円形を呈したものが稀にある。ここでは両者を区分できなかったため一括して扱っている。

長幅指数と重量比で見ていくと、一部においてⅠ類が分布する範囲と重なるが、全般的に本類はまとまって分布している。使用する礫は他類と異なる傾向にあり、本類を目的とした選択がされている。本遺跡においては約半数が2類（75点）で、1類（34点）と3類（48点）がそれぞれ半数ずつである。3類においては8割以上が敲打痕（24点）や凹痕（6点）、両者を伴うもの（11点）で、残りが磨面（7点）を伴うものである。3類はⅠ類ないしⅢ類からの転用が窺えることから、先述した分布範囲が重なる傾向と一致し、前後関係は不明であるがⅠ・Ⅲ類と連動した作業工程にあることが想定できる。

［XⅣ類］

細長い円礫の先端近くに磨面が形成され、その端が角錐状を呈するものである（1299・1300）。Ⅲ層から2点出土している。1299は磨面により形成された面は一端のみで、1300は先端が複数面が形成され角錐状を呈している。両者共に石材はホルンフェルスである。

［XⅤ類］

剥離により刃部を形成しているものを礫器とした。8点出土し、刃部形成方法で細分している。（1301～1303）Ⅱ層からⅣ層にかけて確認され、主体はⅢ層である。石材は頁岩、凝灰岩、安山岩、砂岩などが見られる。1類（1301・1303）は5点あり、1301は長軸の側面に、1303は短い側面に両面からの加工により刃部を形成している。2類（1302）は3点あり、いずれも片側からの加工により刃部を形成している。

［XⅥ類］

台石である（1229・1304～1307）。18点はⅢ層を中心に出土している。石材は安山岩が主体で、凝灰岩やデイサイトなども見られる。1229は凹痕が礫面全体に形成され、1304は凹痕が深く形成されている。1305・1306は規模の大きい礫面に凹痕が形成されている。1307はⅢ類と類似しているが、1229と類似した凹痕が形成されていたため本類に含めた。

［XⅦ類］

石皿である（1308・1309・1344・1345）。Ⅲ層を中心に9点出土している。石材は熔岩とデイサイトである。1309・1344は敲打痕と磨面が片面ずつに形成されている。磨面が全面に形成されていることから本類に含めた。

［XⅧ類］

有孔石である（1204・1230・1236・1310～1315）。13点確認されており、Ⅲ層を中心に出土している。石材はデイサイトが主体である。孔が単数か複数かで細分している。孔が複数カ所有するものは1点のみで、残りは単数である。

［XⅨ類］

原石で、6点出土している。石材は頁岩、赤色頁岩、瑪瑙などが遺跡内に搬入されている。

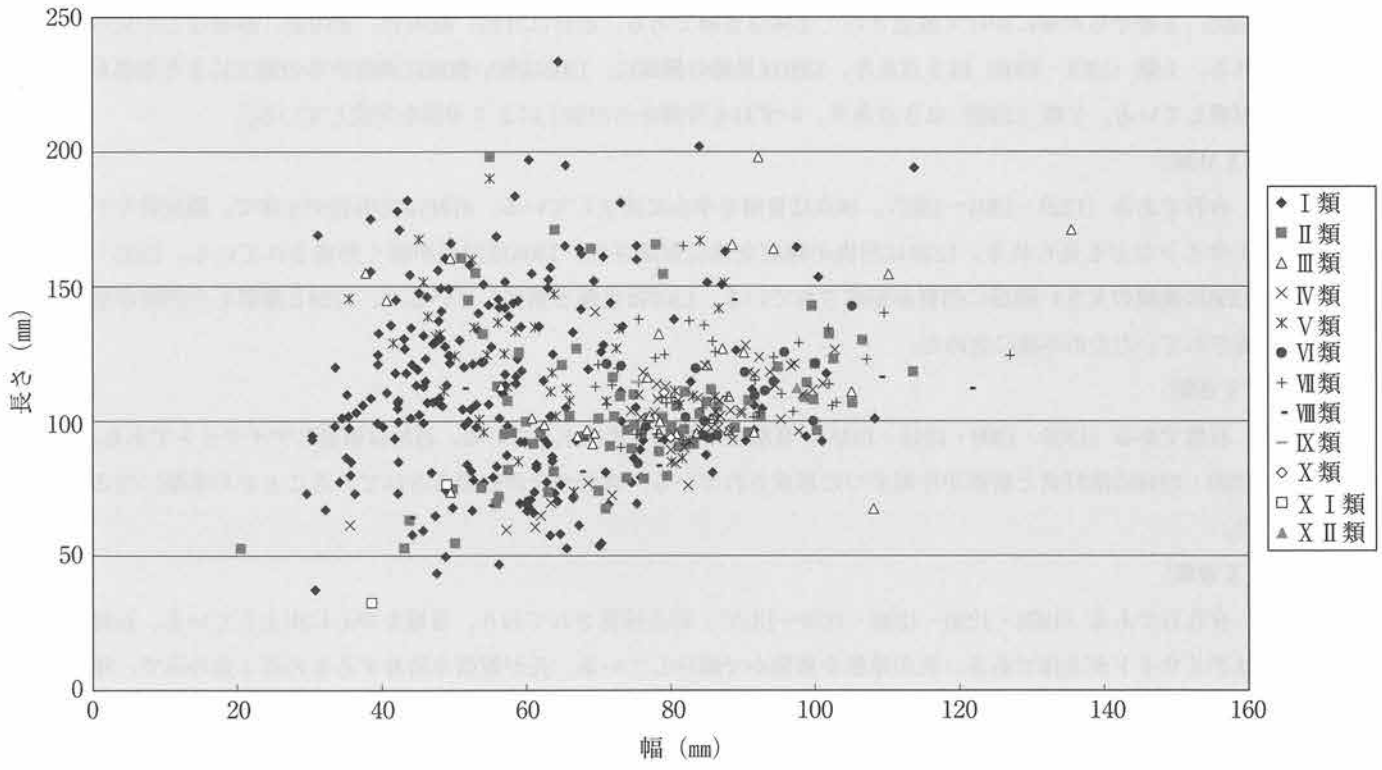
第40表　礫石器出土グリッド一覧

	75	76	78	79	79・80	80	80・81	81	82		合計
GO			15	40		3					58
GN			15	28		50		11			104
GN・M							1				1
GM			22	38		43		35	9		147
GL			32	40		76		61	7		216
GK			9	14		36		36	3		98
GJ			15	18	8	6					47
GJ・I										1	1
GI			7	11		5		6			29
GH				2	2	5					9
GE									2		2
FU								1			1
EL	1										1
EQ		2									2
調査区一括										12	12
合計	1	2	115	191	10	224	1	150	21	13	728

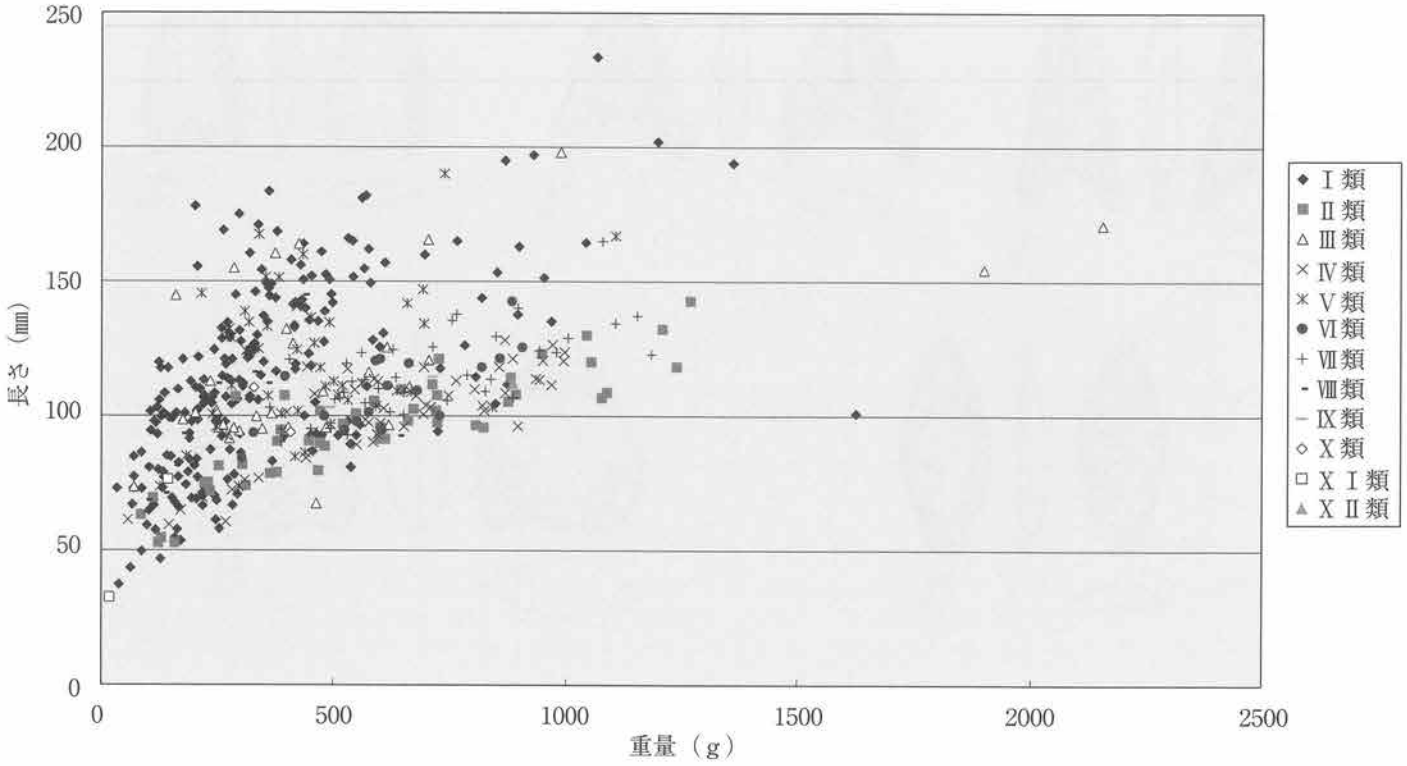
第41表　礫石器出土層位一覧

層位＼分類	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	Ⅸ	Ⅹ	ⅩⅠ	ⅩⅡ	ⅩⅢ	ⅩⅢ1a	ⅩⅢ1b	ⅩⅢ2a	ⅩⅢ2b	ⅩⅢ3	ⅩⅣ	ⅩⅤa	ⅩⅤb	ⅩⅥ	ⅩⅦ	ⅩⅧ1	ⅩⅧ1	ⅩⅧ2	ⅩⅨ	合計
Ⅰ	10		2	2	1	1		1						2		3		2							1			25
Ⅱ	54	8	11	6	9	1	10	6	1			1	1	3	1	15	1	9		2		4			1	1			145
Ⅱ～Ⅲ	2	1	1	2	1	1	2									1		1			1				1			14
Ⅱ～Ⅲ一括	1	1																1										3
Ⅲ	114	20	21	32	32	9	15	5	1	1	1		1	20		34	6	20	2	3	1	12	5		6	1	3	364
Ⅲ一括	1	1																										3
Ⅳ	26	10	6	5	8	3	5	1						5		2		10			1	2	2		3		1	90
Ⅴ	30	6	4	3	5		2	1		3				3		11	2	5					2				2	79
Ⅴ一括	2																											2
調査区一括		1	1				1																					3
合計	240	48	46	50	56	15	35	14	2	4	1	1	2	33	1	66	9	48	2	5	3	18	9	1	12	1	6	728

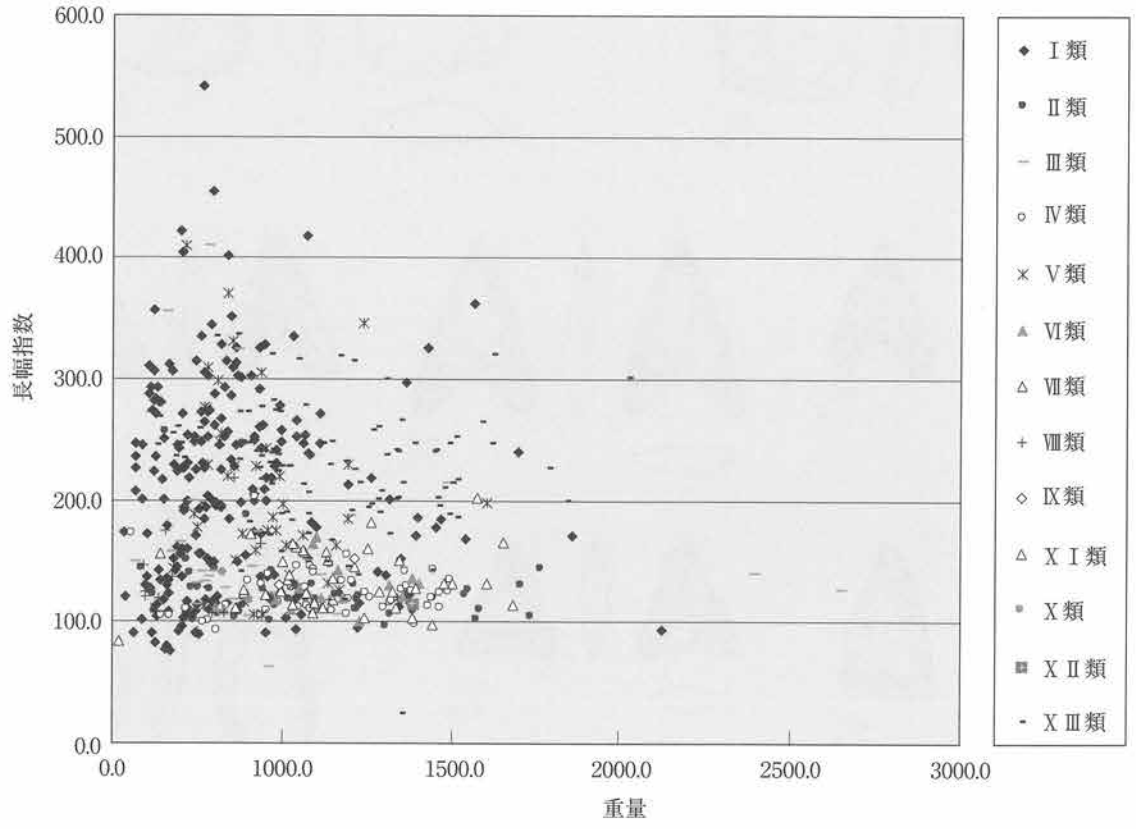
第128図　礫器長幅比

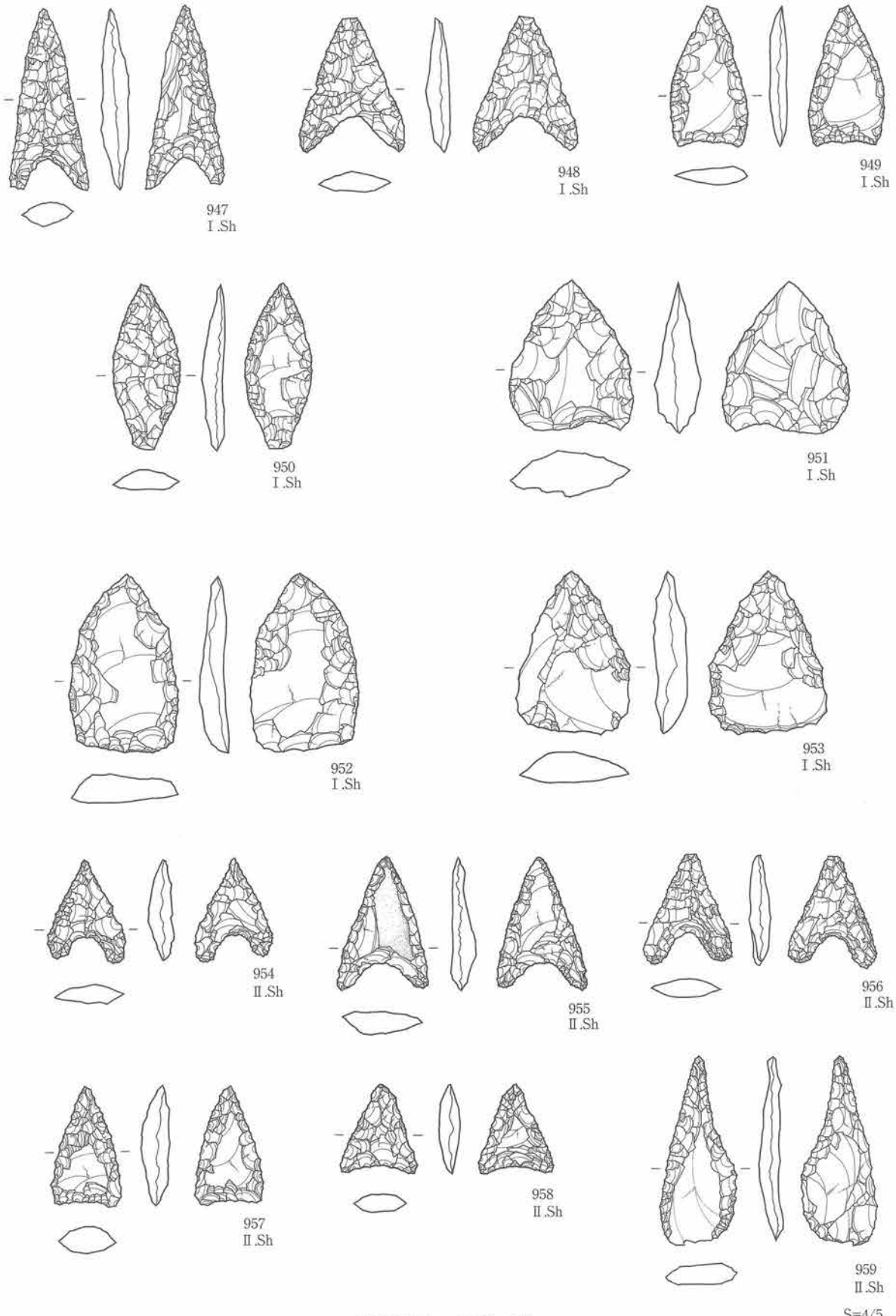


第129図　礫器長さ・重量比

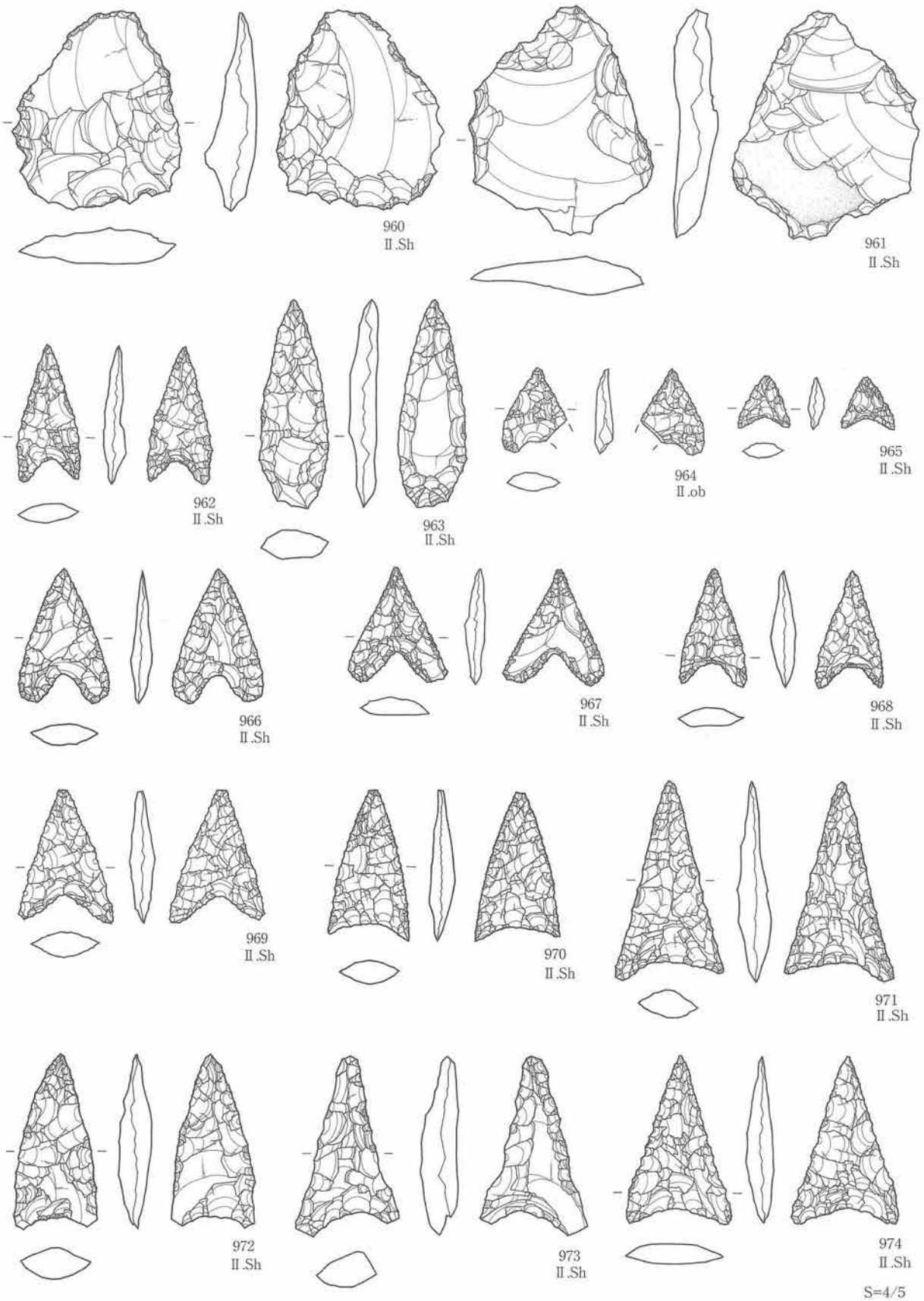


第130図　礫器長幅指数・重量比

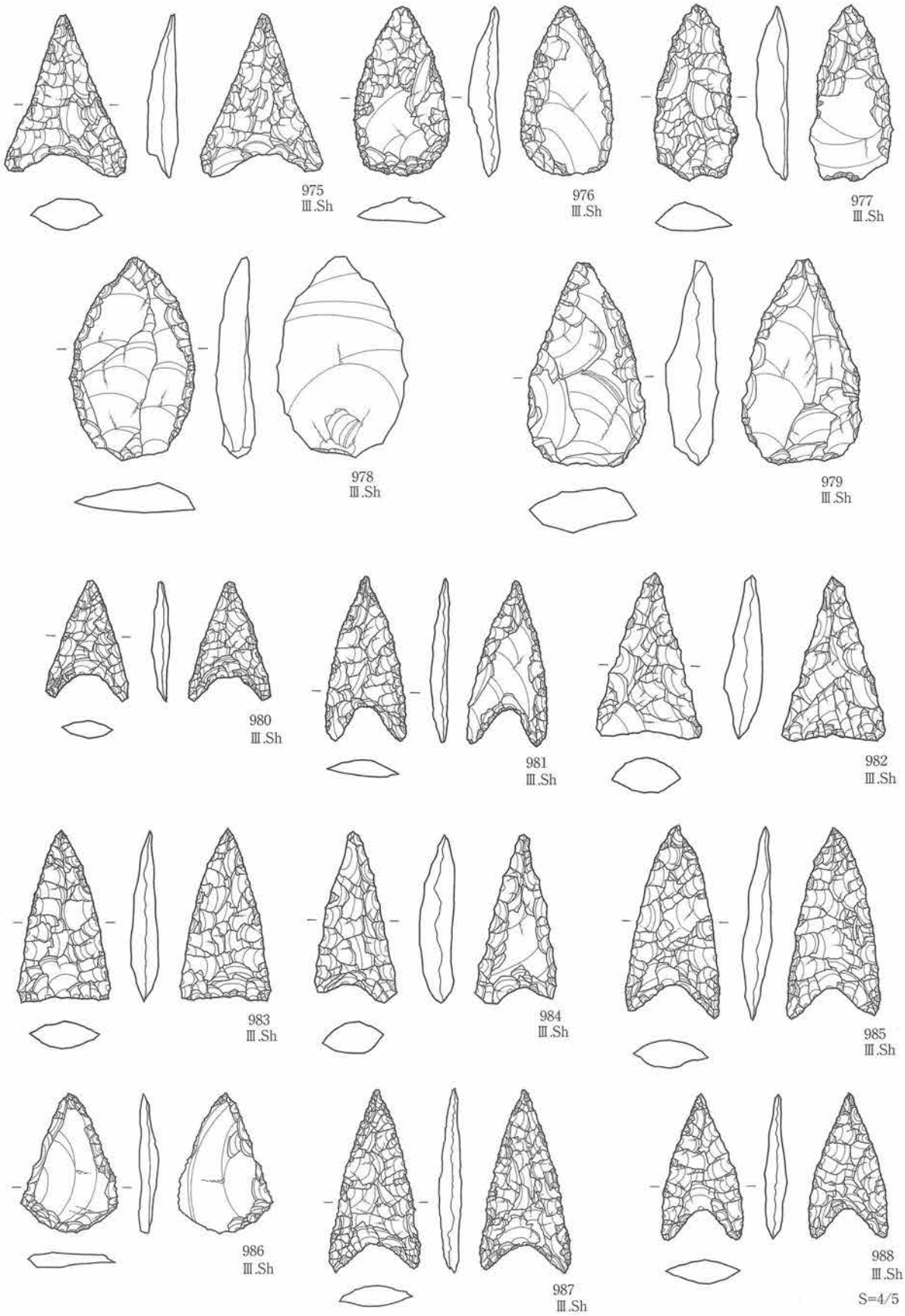



947
I .Sh
948
I .Sh
949
I .Sh
950
I .Sh
951
I .Sh
952
I .Sh
953
I .Sh
954
II .Sh
955
II .Sh
956
II .Sh
957
II .Sh
958
II .Sh
959
II .Sh
S=4/5

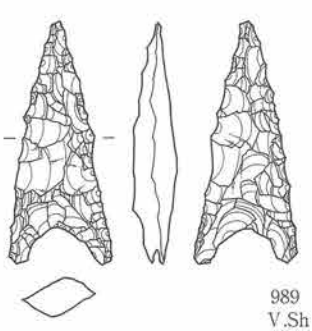
第131図　石鏃（1）

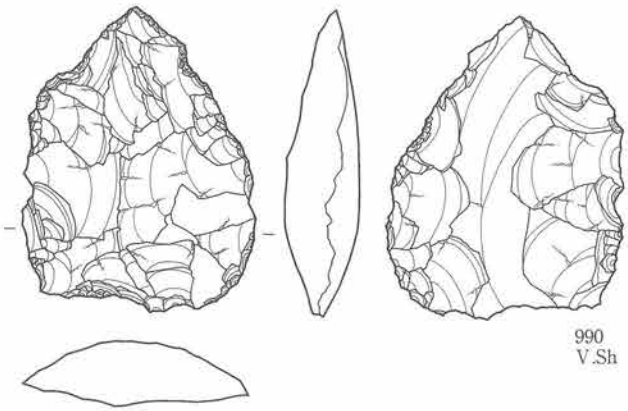

960
Ⅱ.Sh
961
Ⅱ.Sh
962
Ⅱ.Sh
963
Ⅱ.Sh
964
Ⅱ.ob
965
Ⅱ.Sh
966
Ⅱ.Sh
967
Ⅱ.Sh
968
Ⅱ.Sh
969
Ⅱ.Sh
970
Ⅱ.Sh
971
Ⅱ.Sh
972
Ⅱ.Sh
973
Ⅱ.Sh
974
Ⅱ.Sh
S=4/5

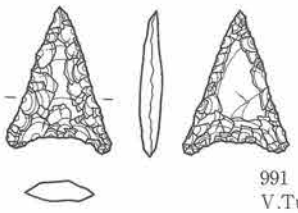
第132図　石鏃（2）

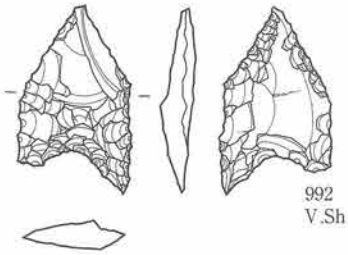

975
Ⅲ.Sh
976
Ⅲ.Sh
977
Ⅲ.Sh
978
Ⅲ.Sh
979
Ⅲ.Sh
980
Ⅲ.Sh
981
Ⅲ.Sh
982
Ⅲ.Sh
983
Ⅲ.Sh
984
Ⅲ.Sh
985
Ⅲ.Sh
986
Ⅲ.Sh
987
Ⅲ.Sh
988
Ⅲ.Sh
S=4/5

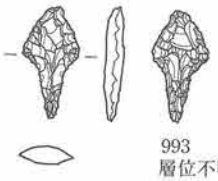
第133図　石鏃（3）

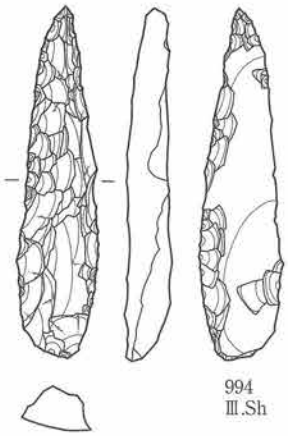

989
V.Sh

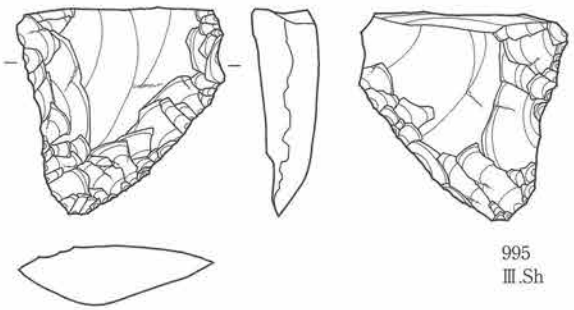

990
V.Sh

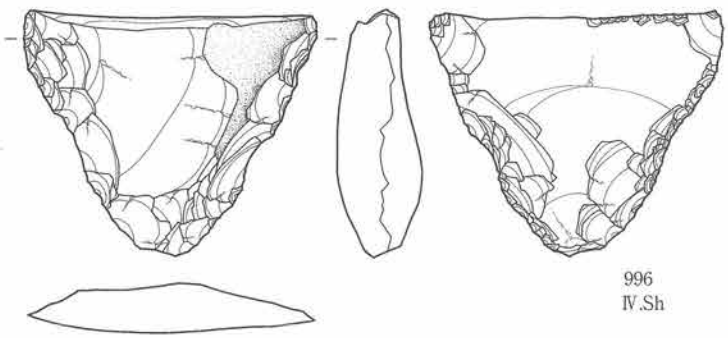

991
V.Tu


992
V.Sh


993
層位不明.Sh

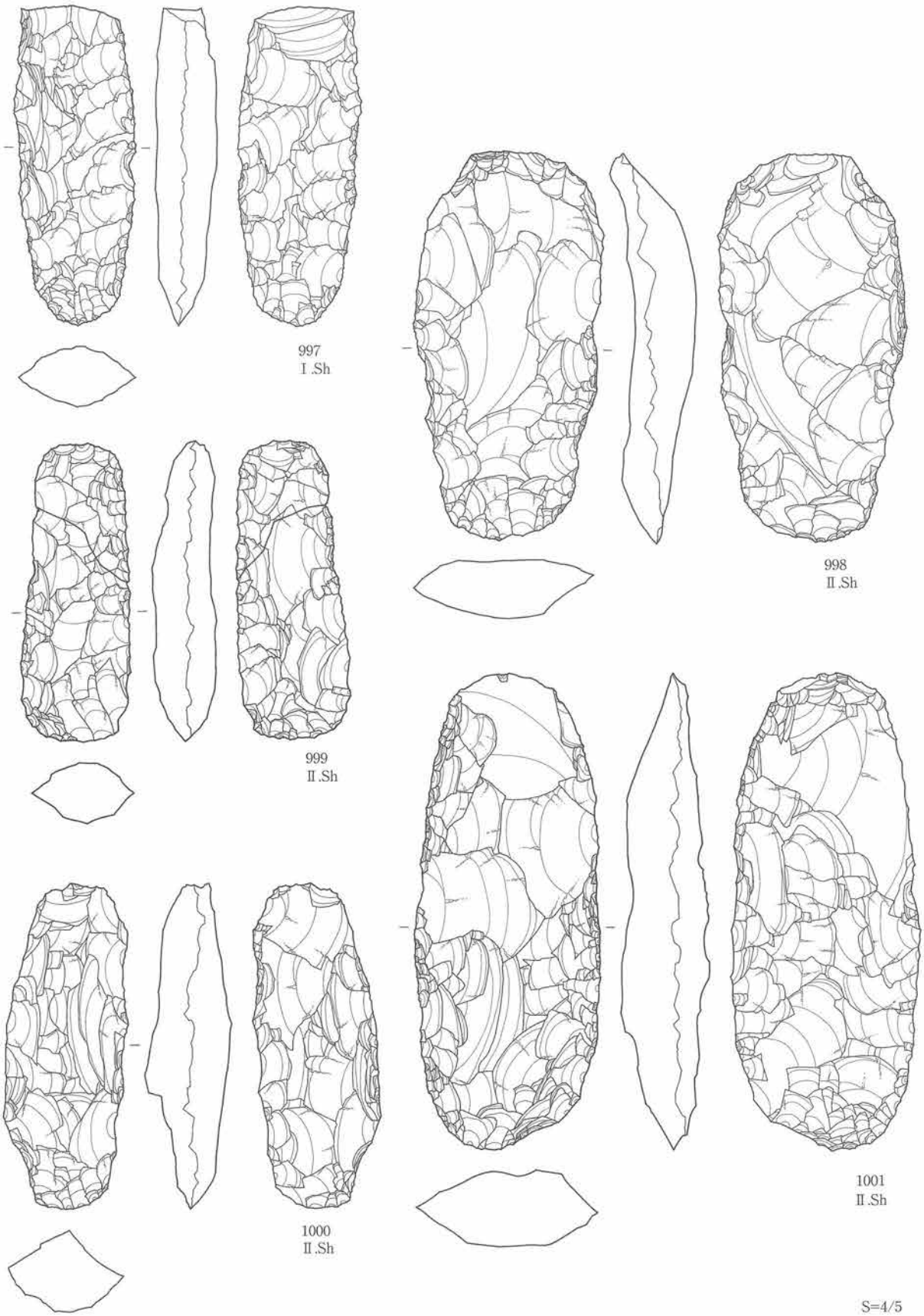

994
Ⅲ.Sh


995
Ⅲ.Sh

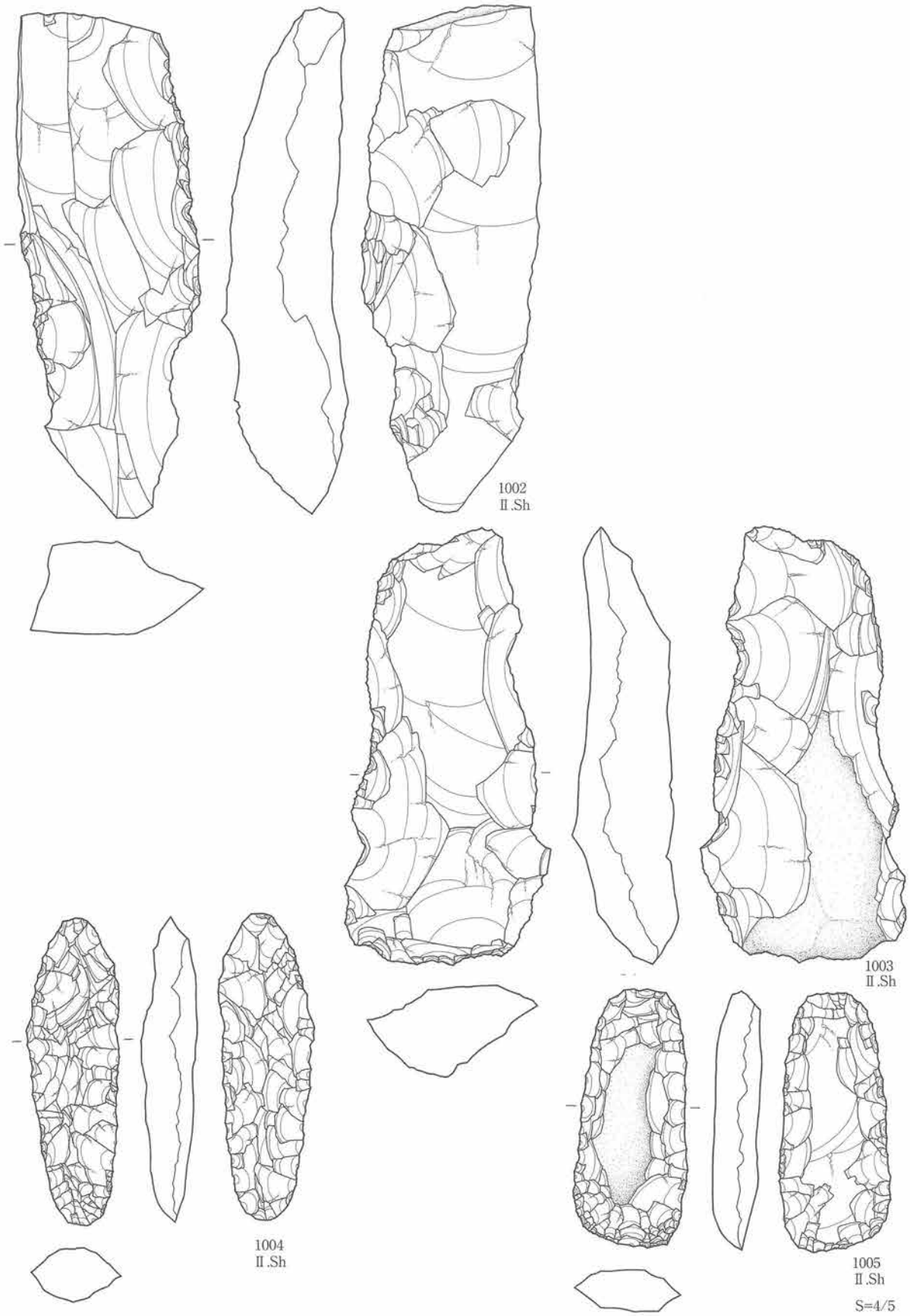

996
Ⅳ.Sh

S=4/5

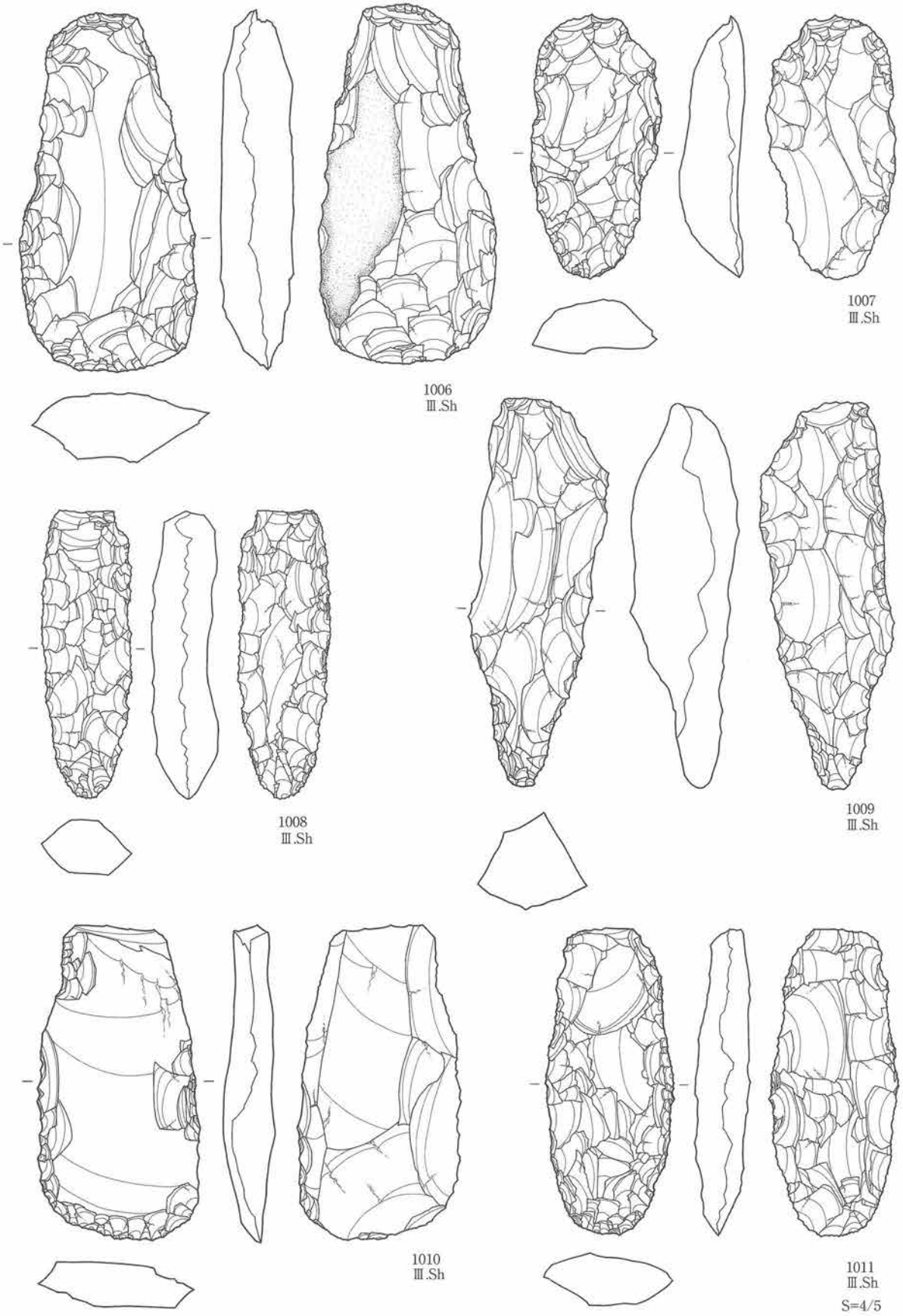
第134図　石鏃（4）、尖頭器



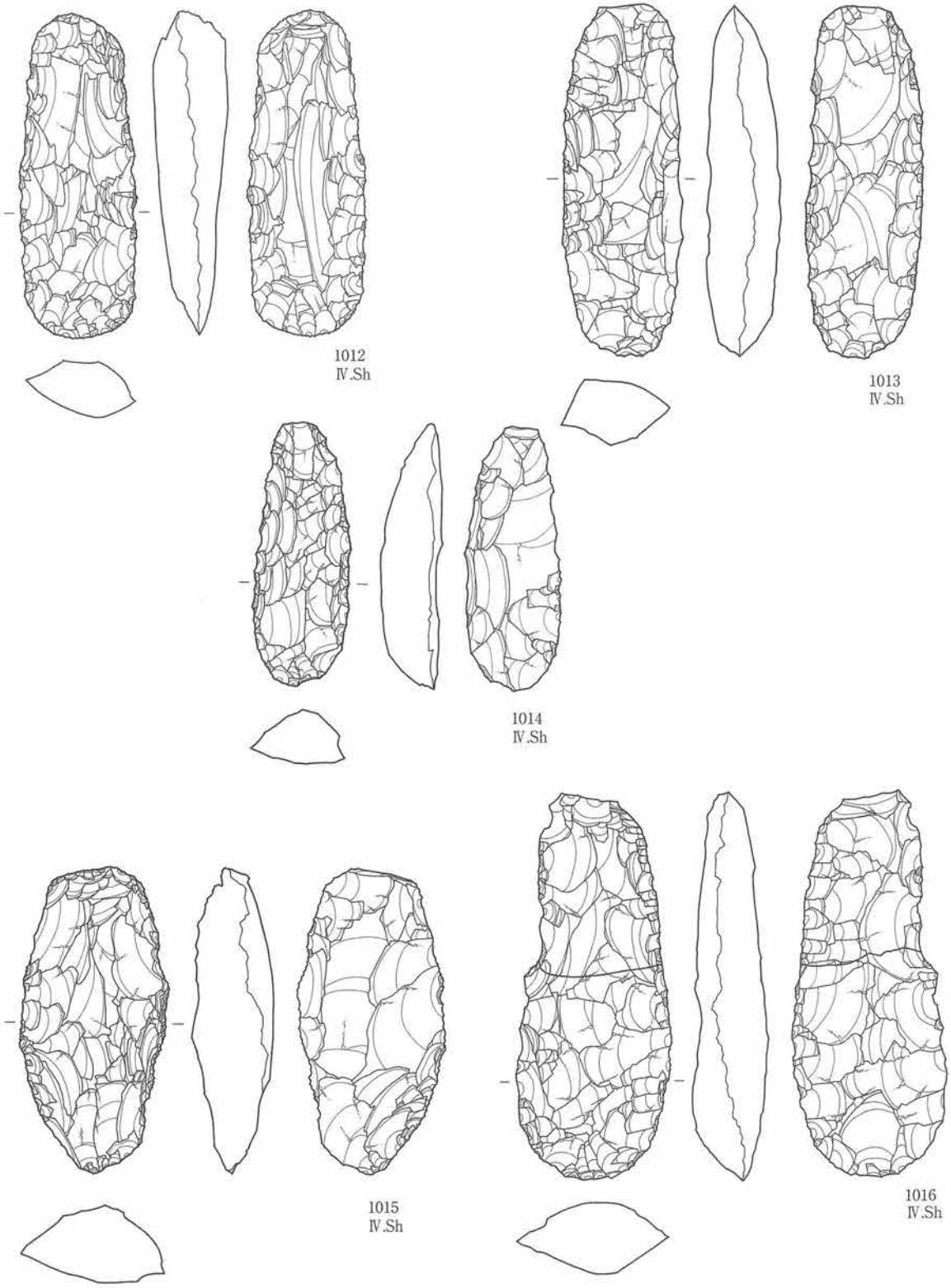
第135図　石篦（1）



第136図　石篦（2）

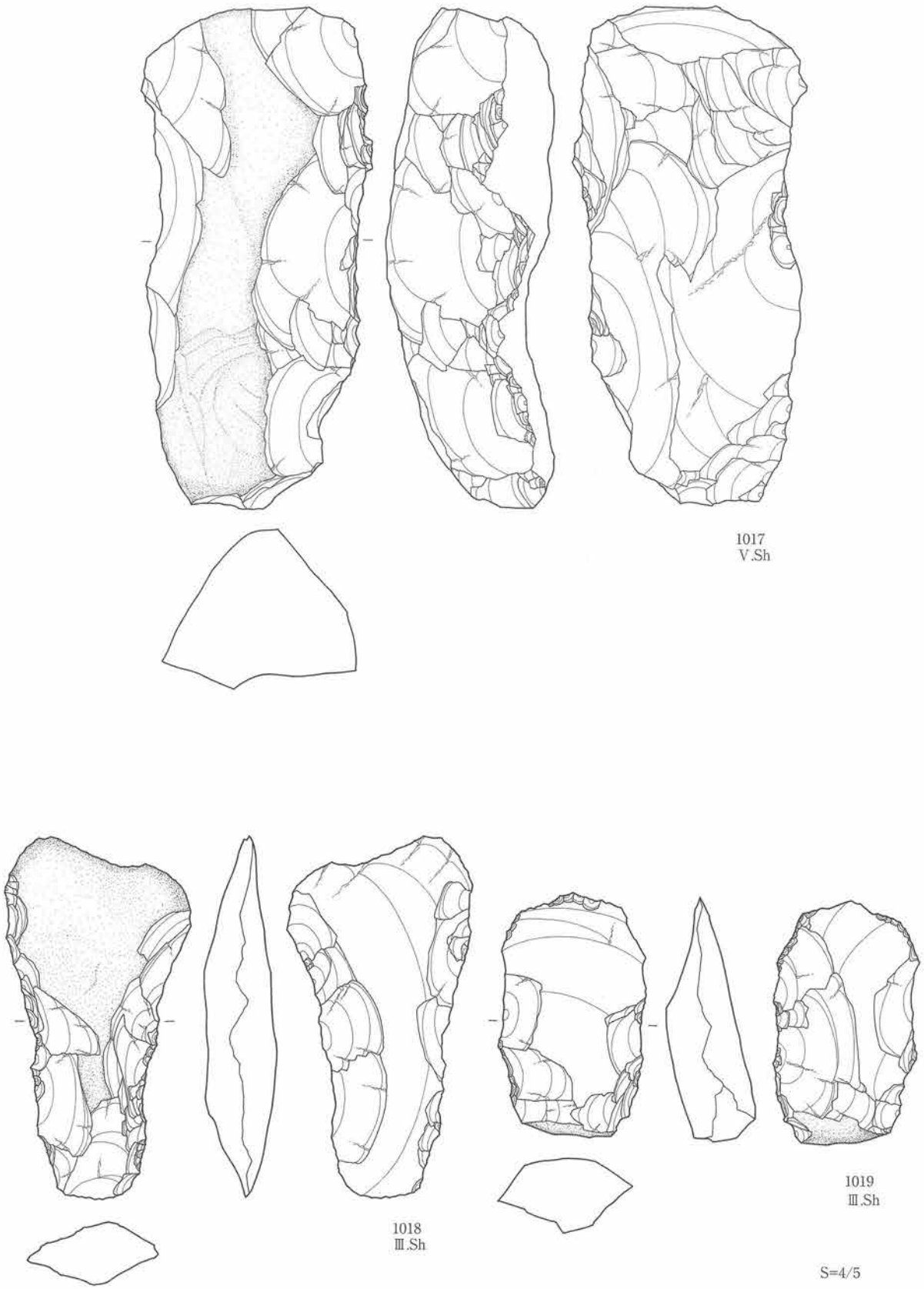


第137図　石篦（3）

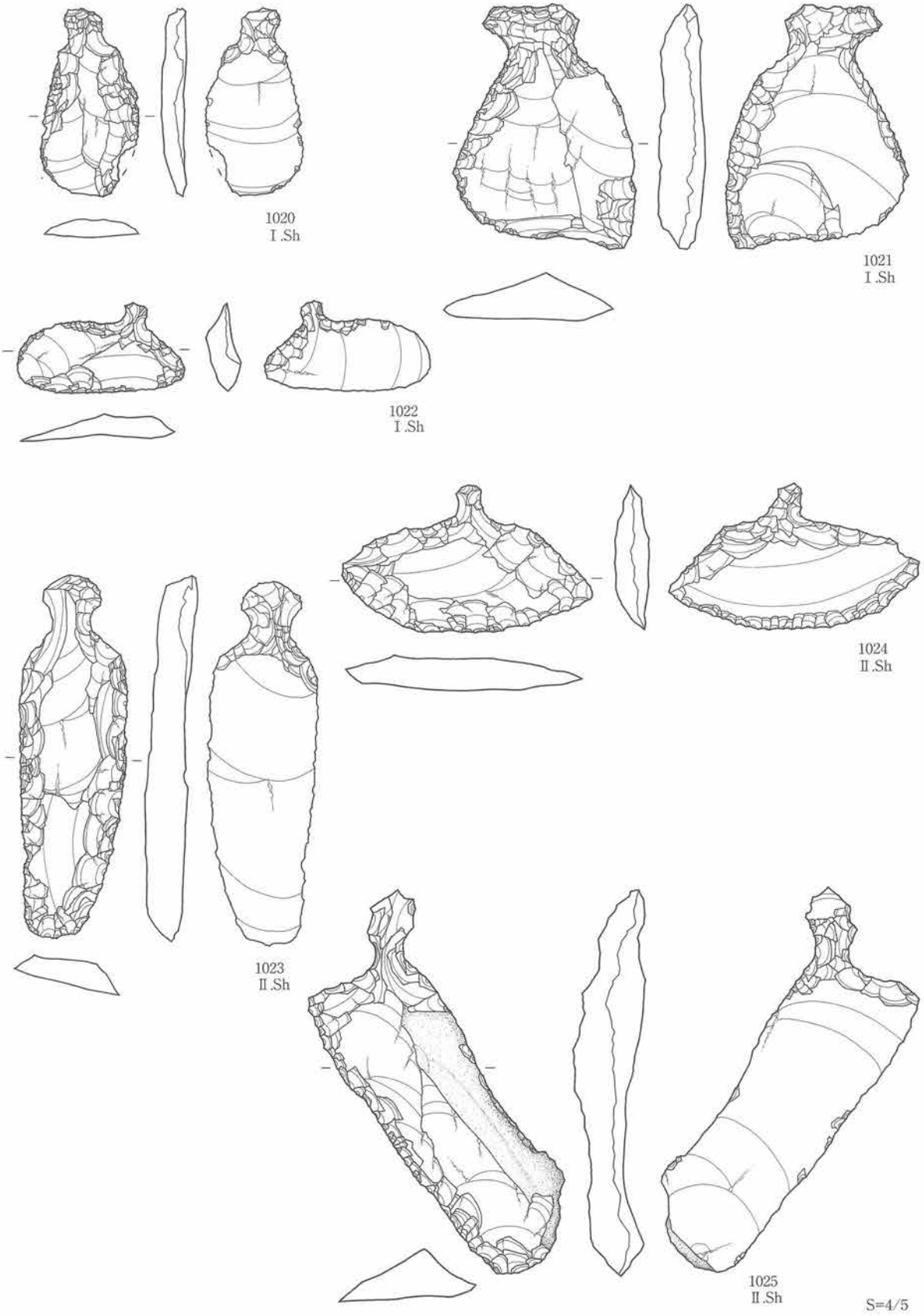


S=4/5

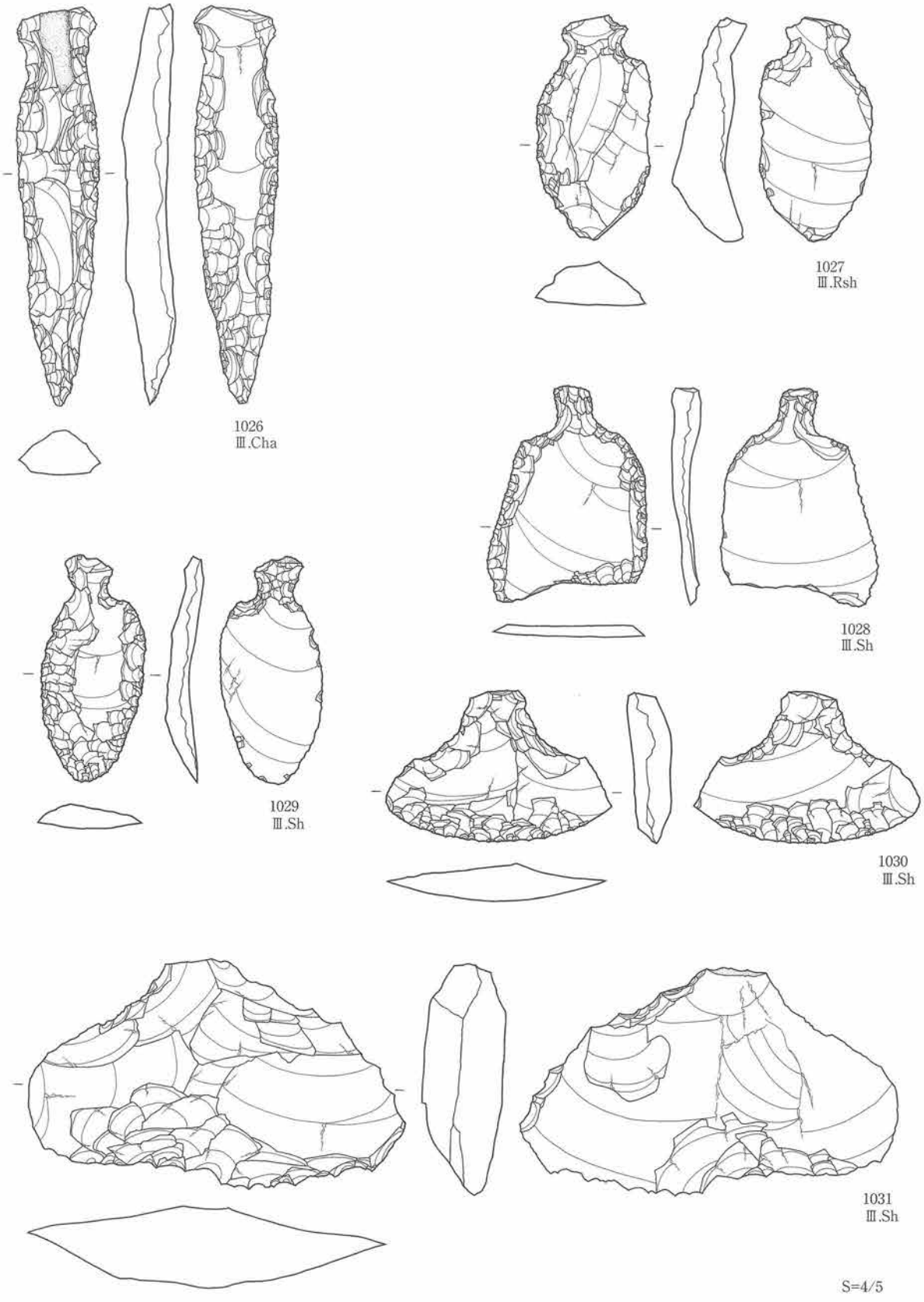
第138図　石篦（4）



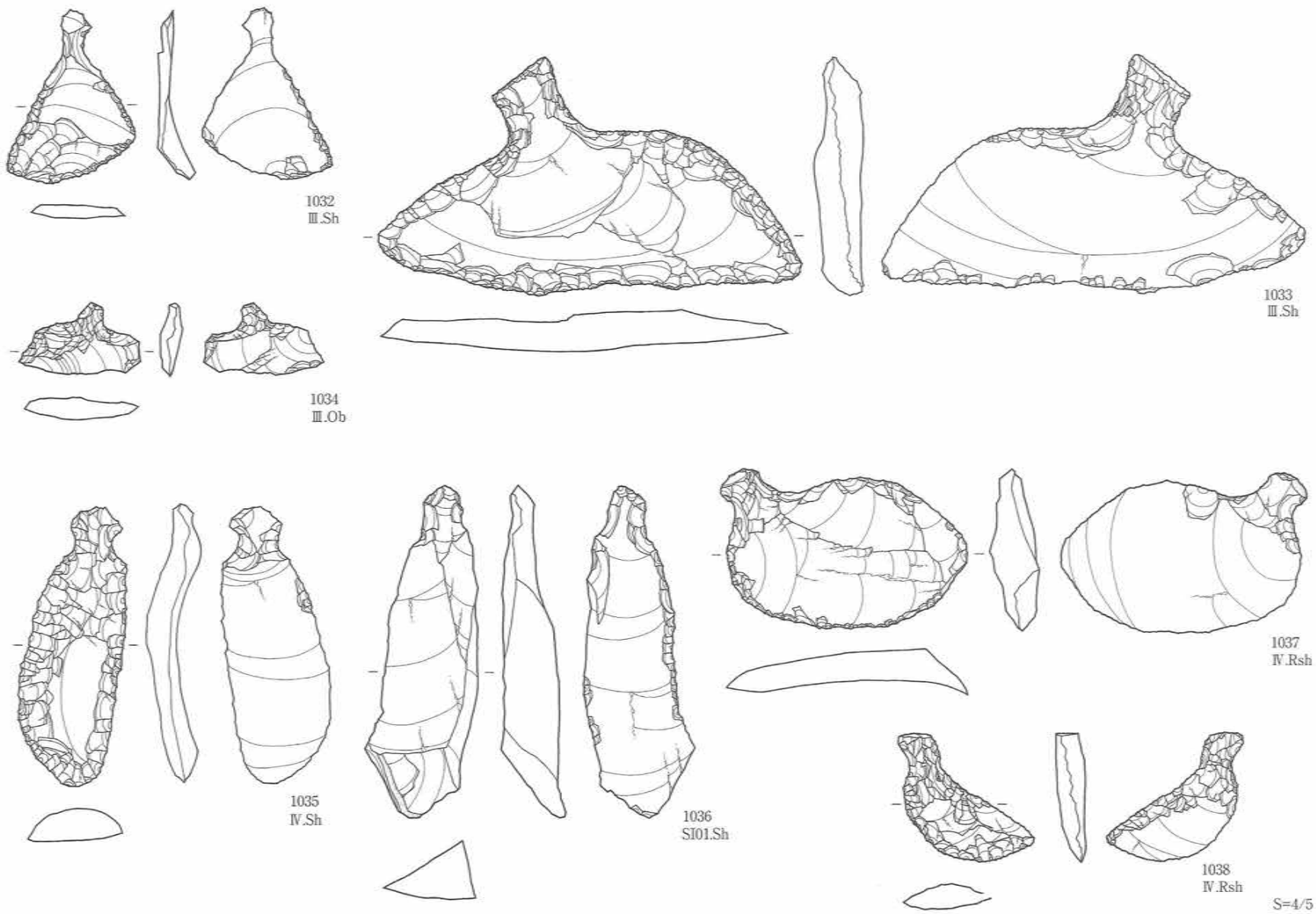
第139図　石篦（5）、トランシェ様石器



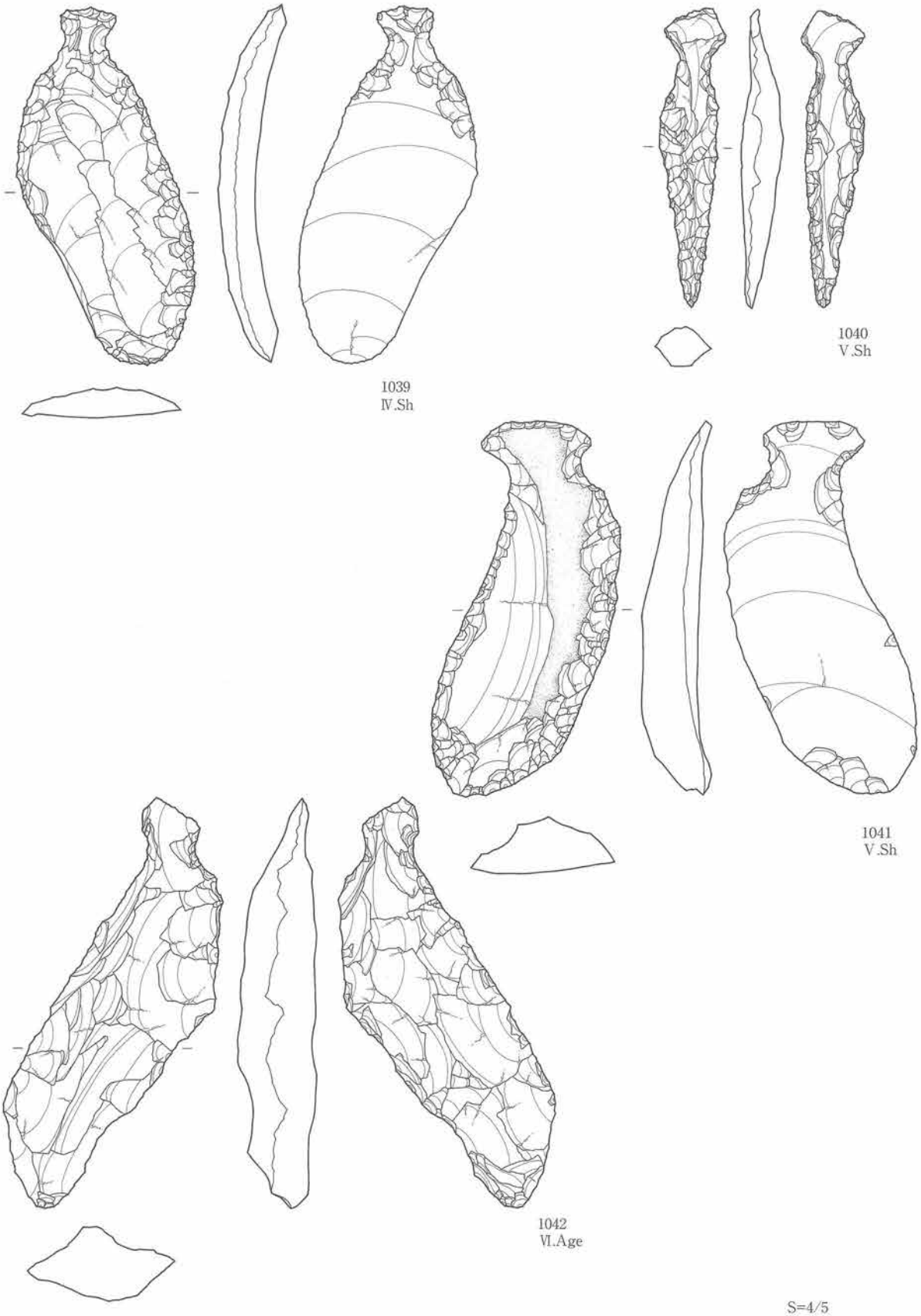
第140図　石匙（1）



第141図　石匙（2）

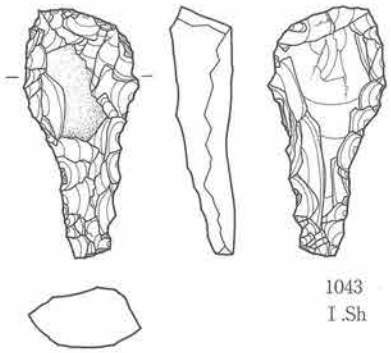

1032
Ⅲ.Sh
1033
Ⅲ.Sh
1034
Ⅲ.Ob
1035
Ⅳ.Sh
1036
SI01.Sh
1037
Ⅳ.Rsh
1038
Ⅳ.Rsh
S=4/5

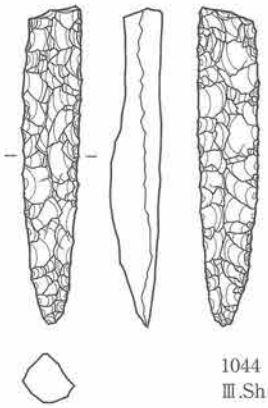
第142図　石匙（3）

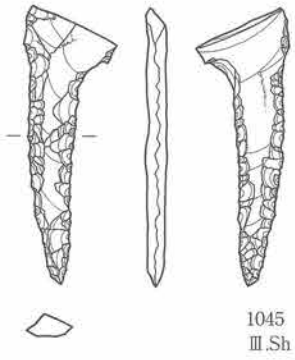


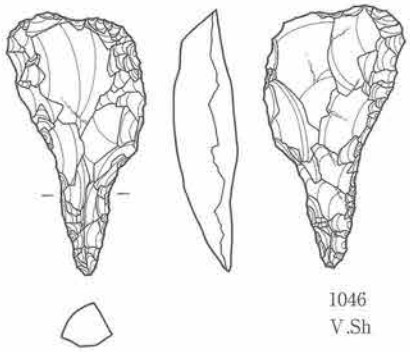
S=4/5

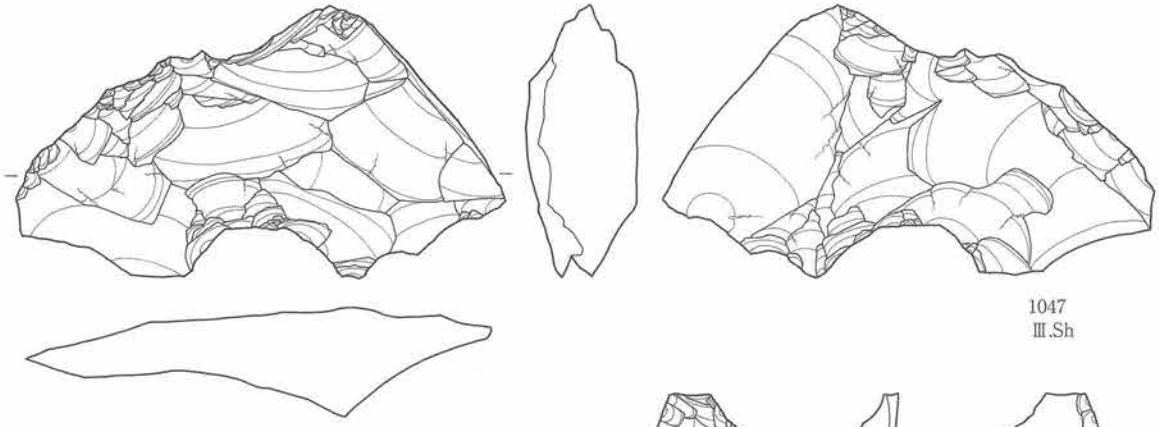
第143図　石篦（4）

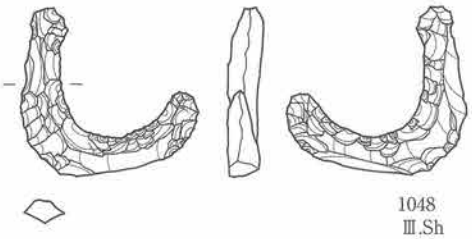


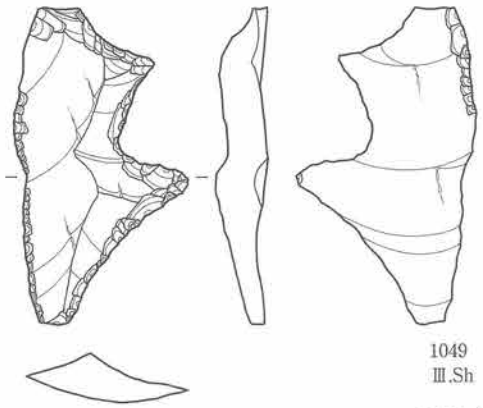






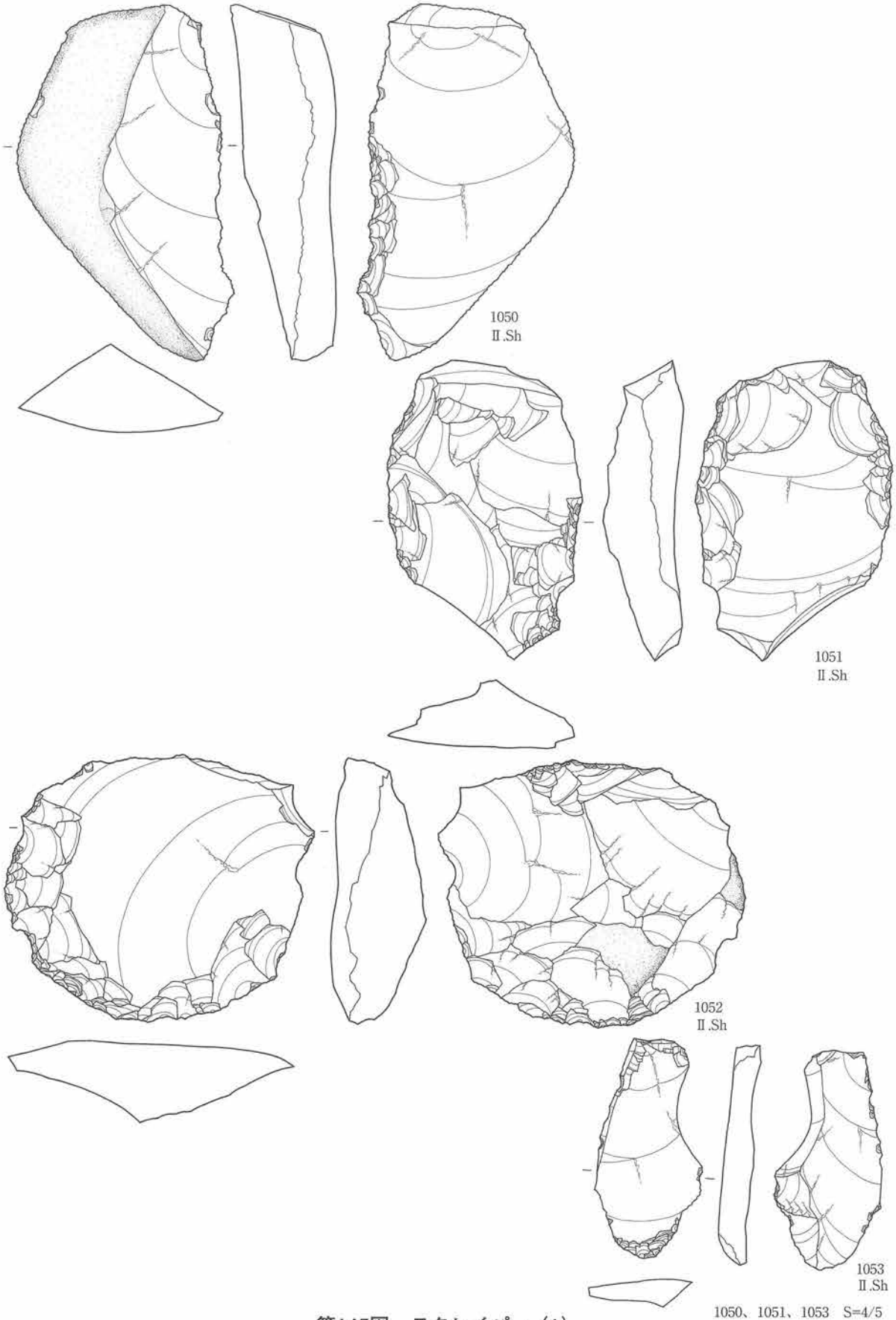






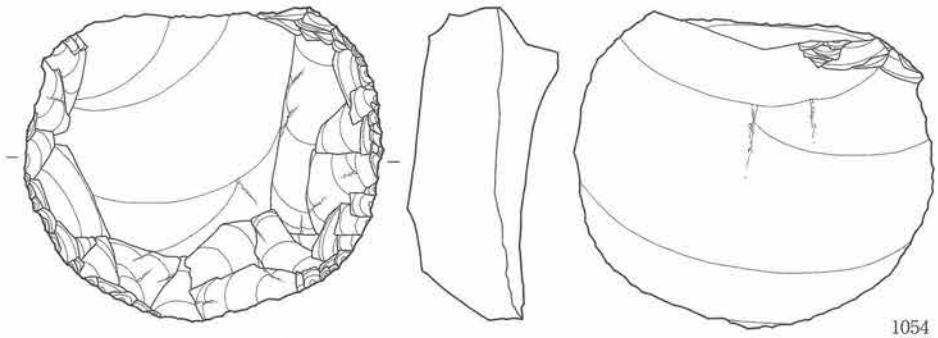
1047　S=2/3
他　S=4/5

第144図　石錐、異形石器

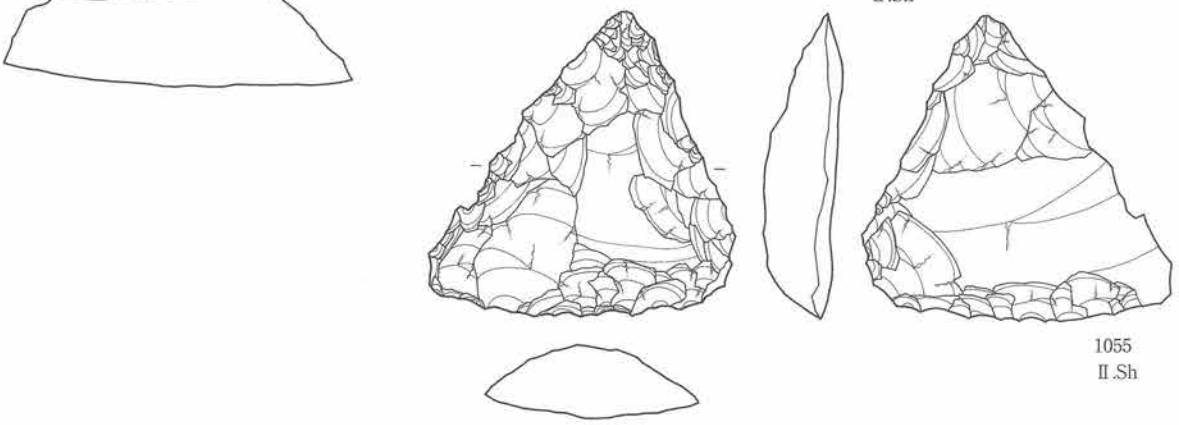


第145図　スクレイパー（1）

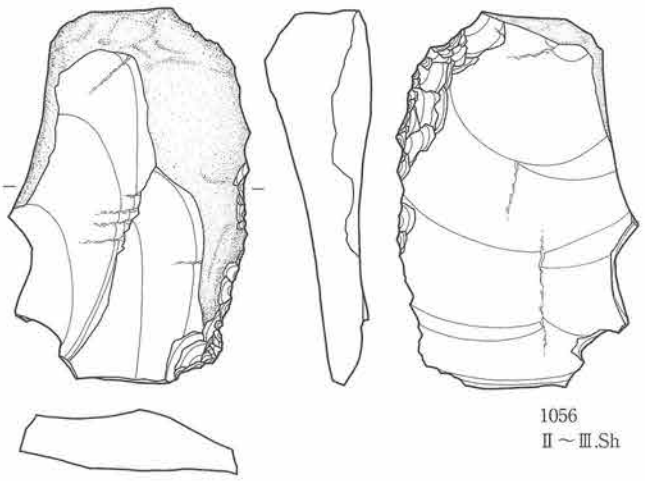
1050、1051、1053　S=4/5
他　S=2/3



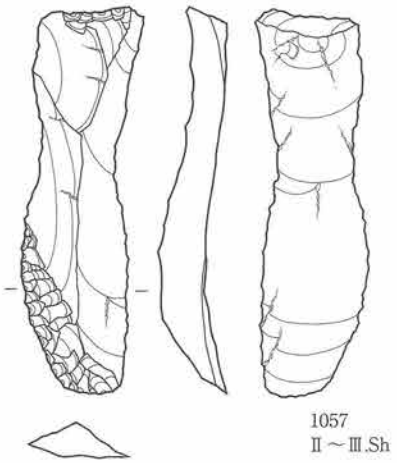
1054
Ⅱ.Sh



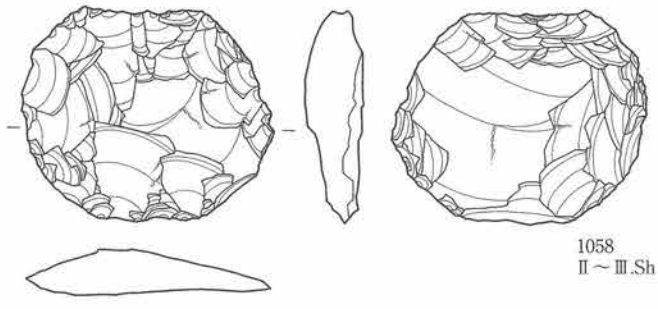
1055
Ⅱ.Sh



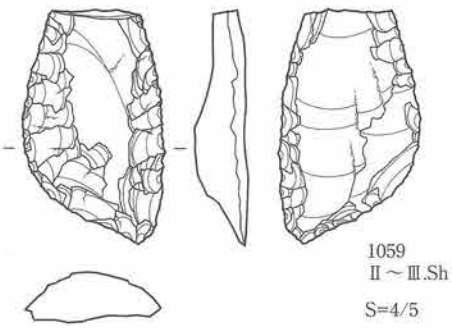
1056
Ⅱ～Ⅲ.Sh



1057
Ⅱ～Ⅲ.Sh



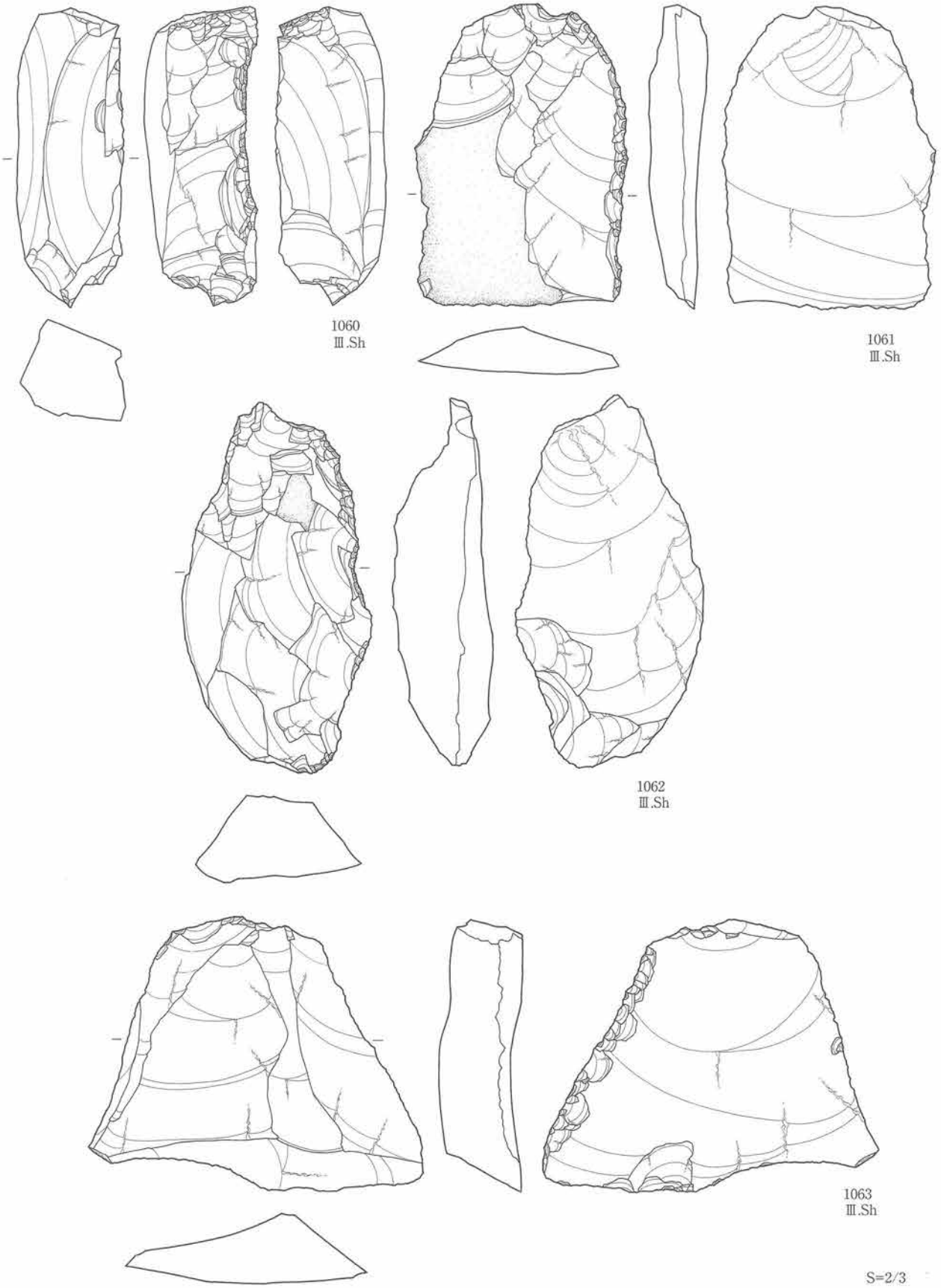
1058
Ⅱ～Ⅲ.Sh



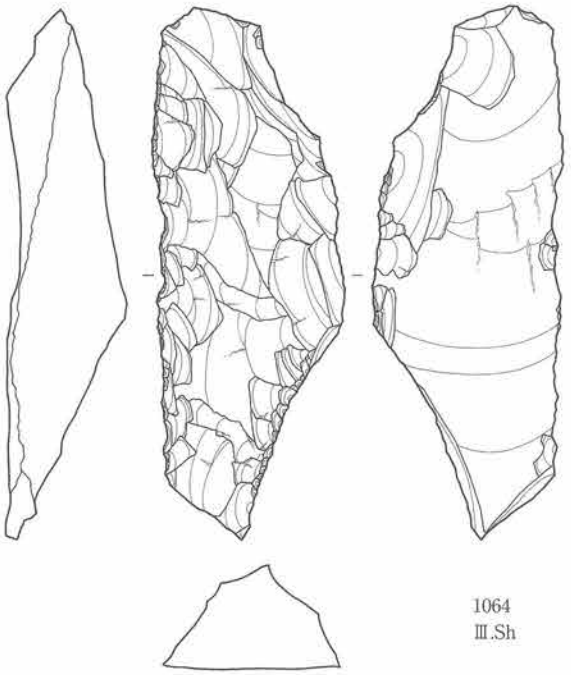
1059
Ⅱ～Ⅲ.Sh

S=4/5

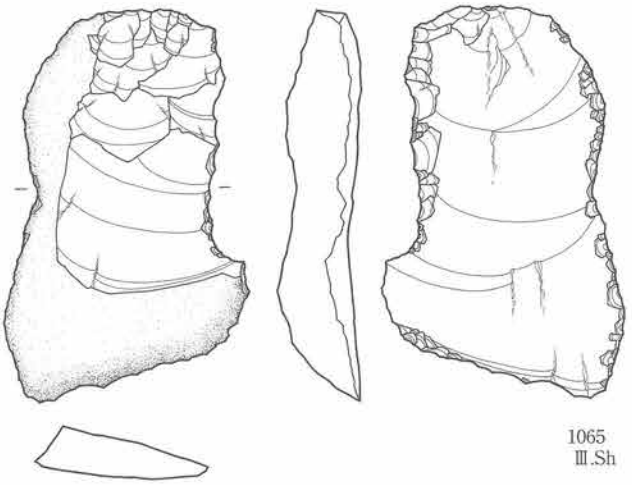
第146図　スクレイパー（2）



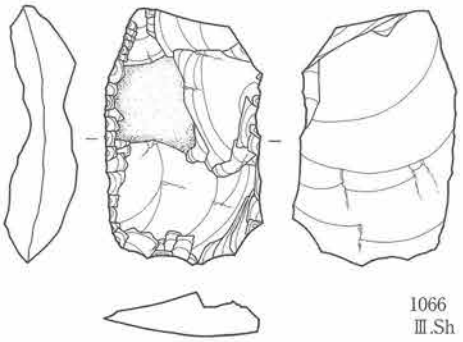
第147図　スクレイパー（3）



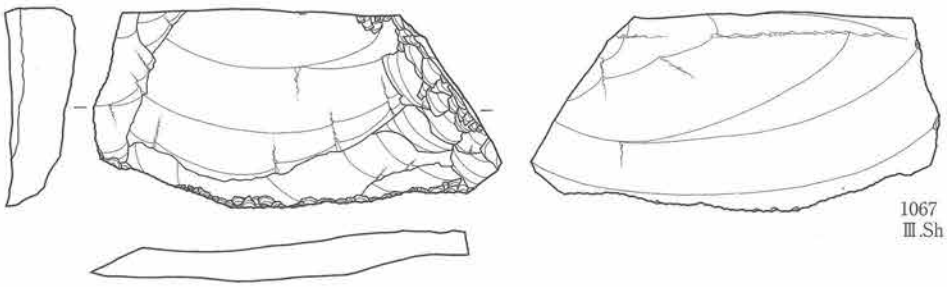
1064
Ⅲ.Sh



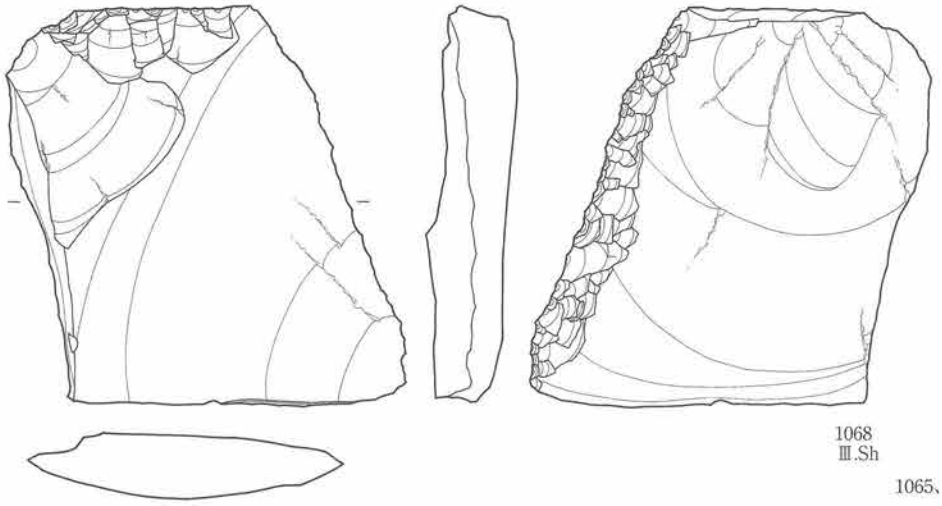
1065
Ⅲ.Sh



1066
Ⅲ.Sh



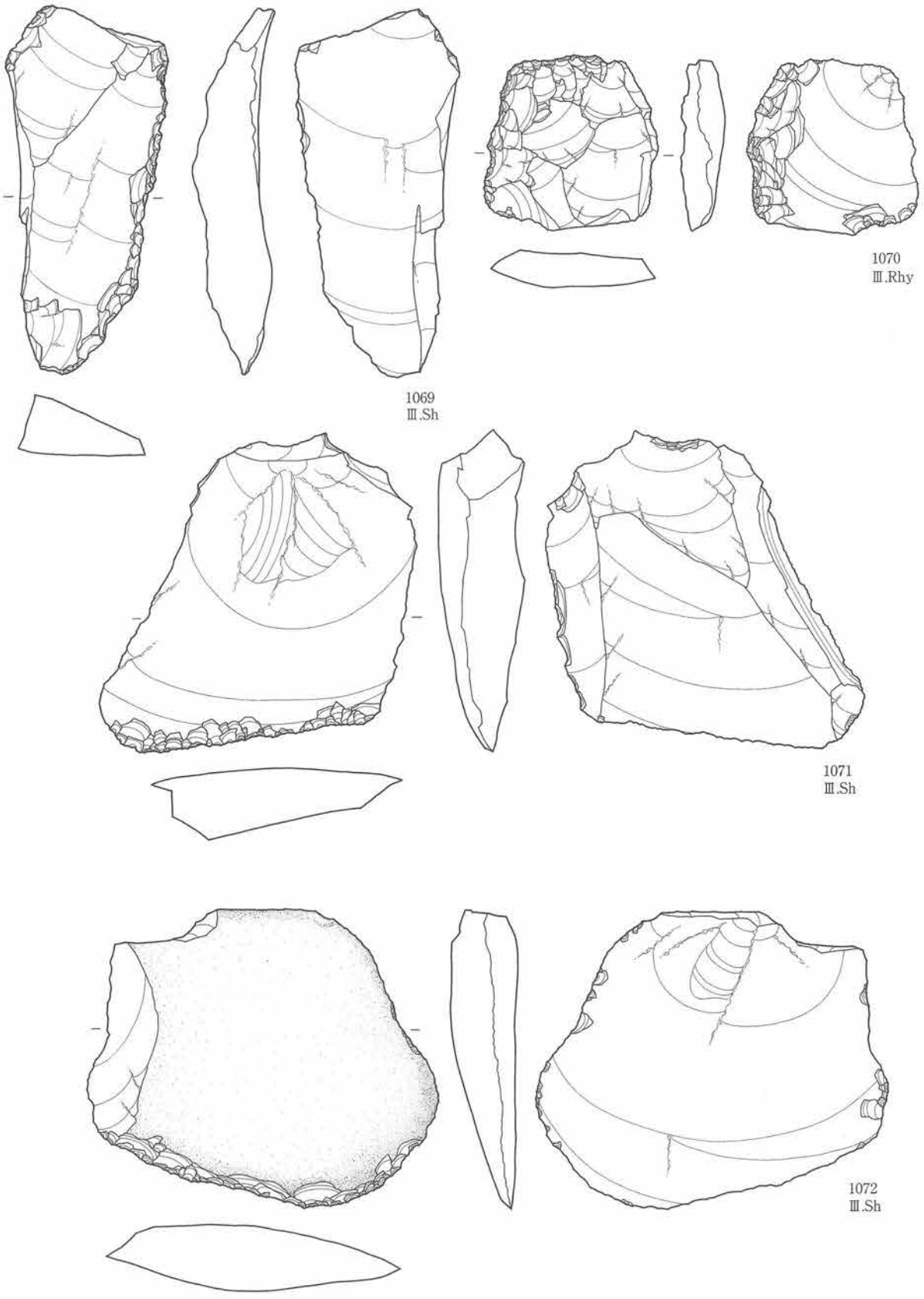
1067
Ⅲ.Sh



1068
Ⅲ.Sh

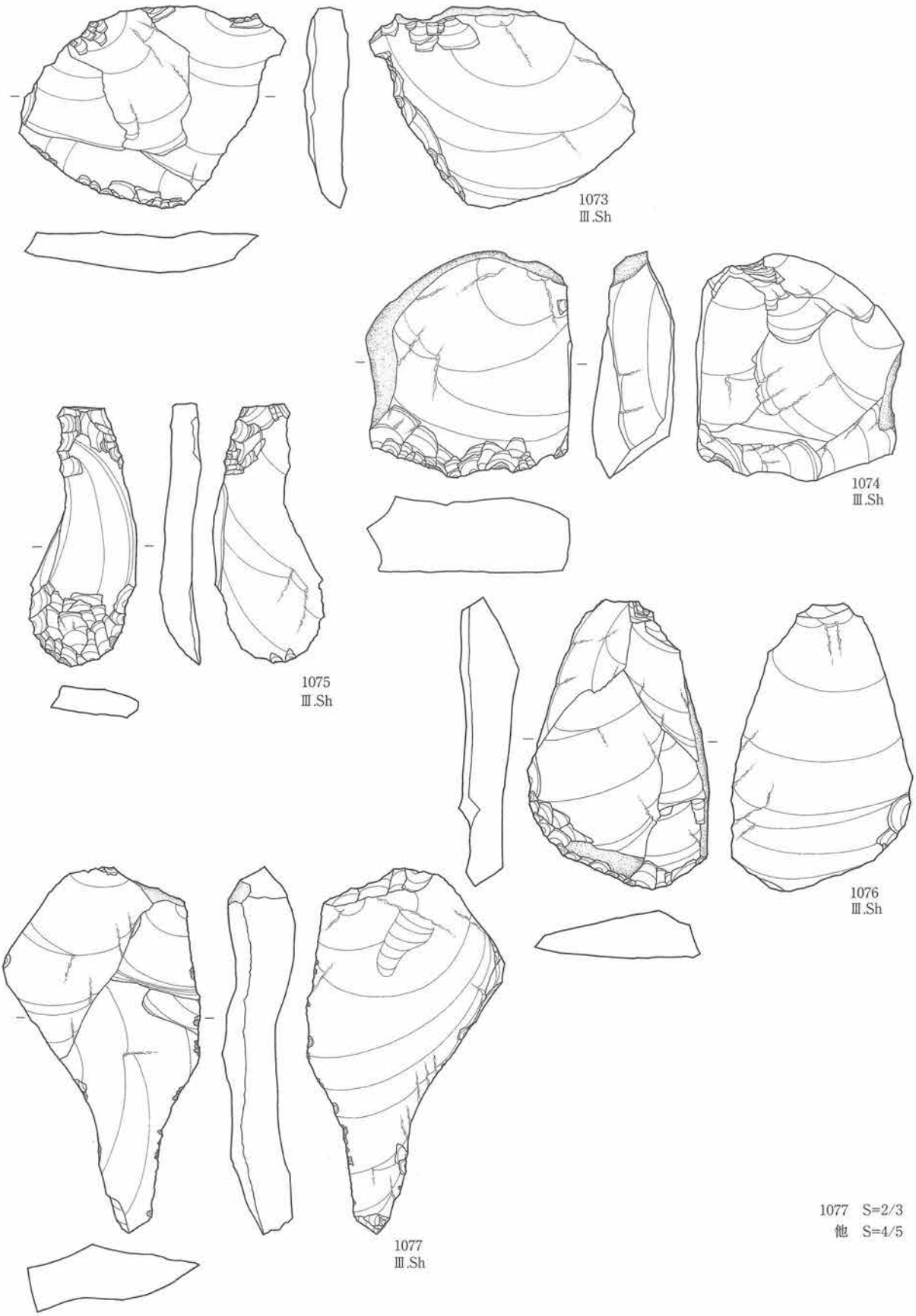
1065、1066　S=4/5
他　S=2/3

第148図　スクレイパー（4）

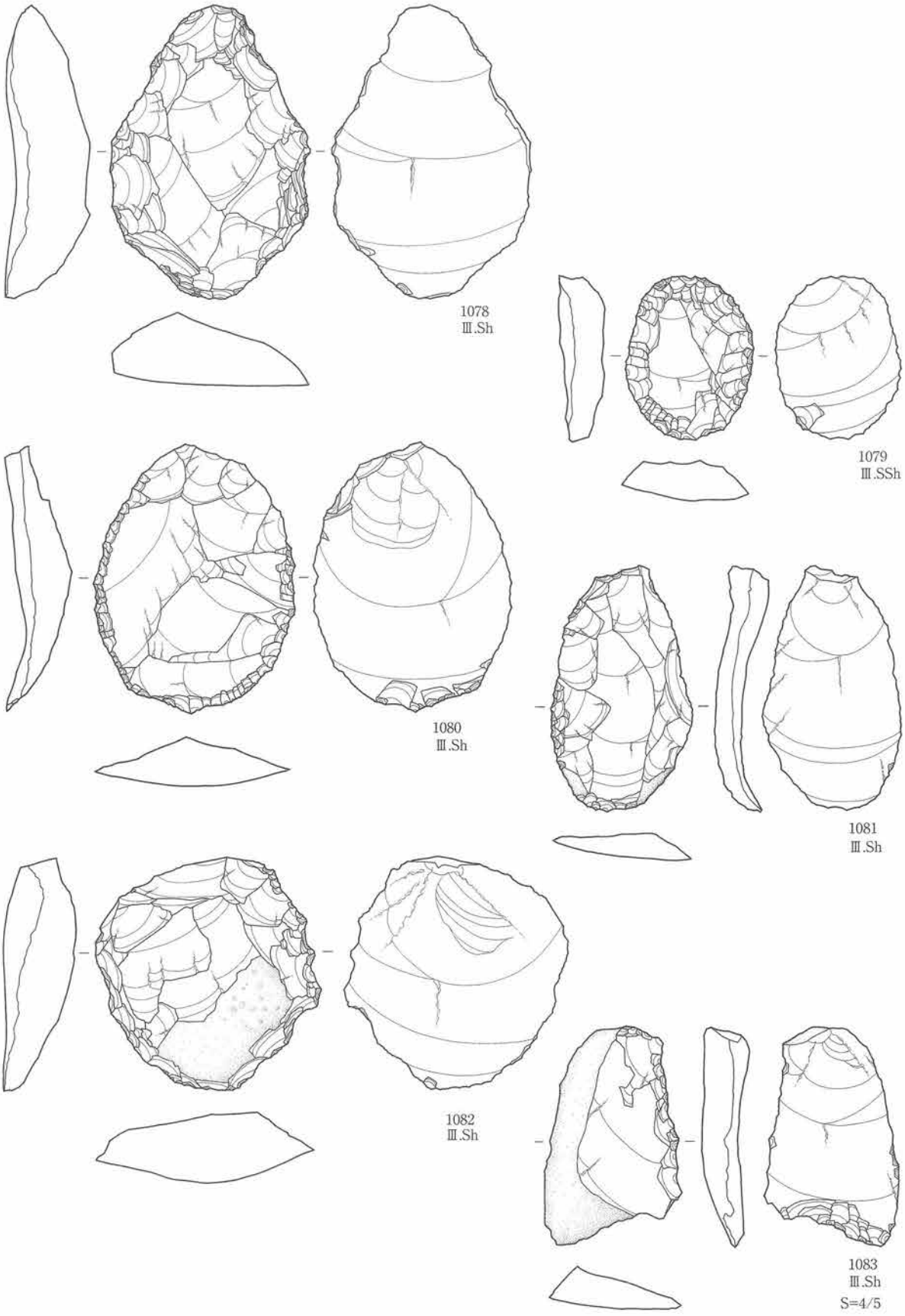


S=4/5

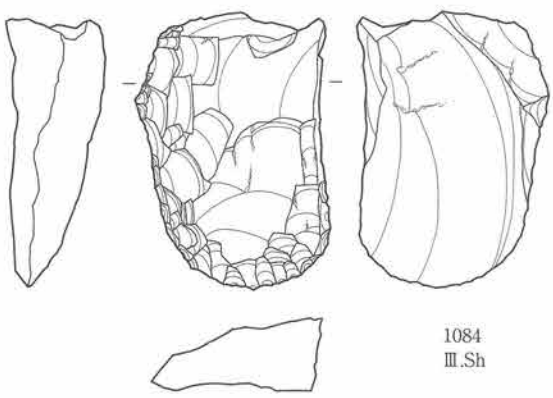
第149図　スクレイパー（5）



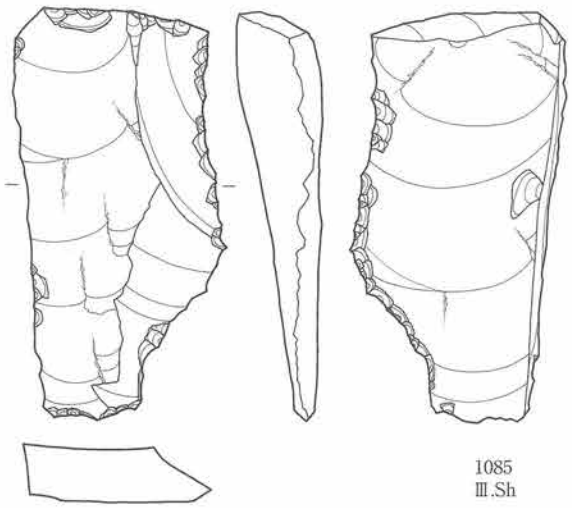
第150図　スクレイパー（6）



第151図　スクレイパー（7）

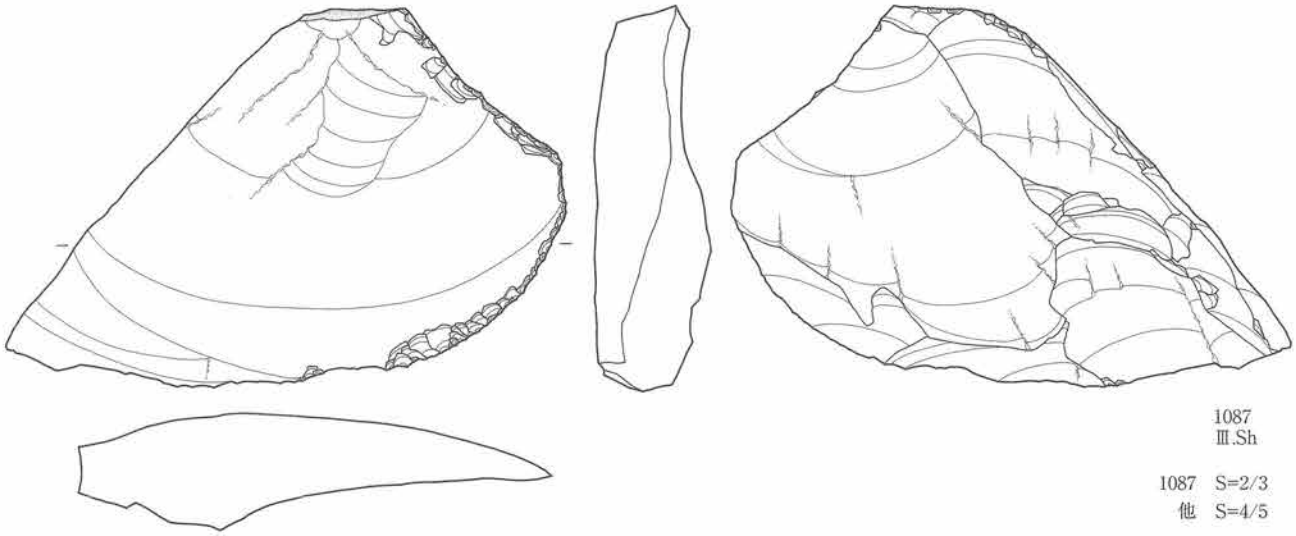


1084
Ⅲ.Sh



1085
Ⅲ.Sh

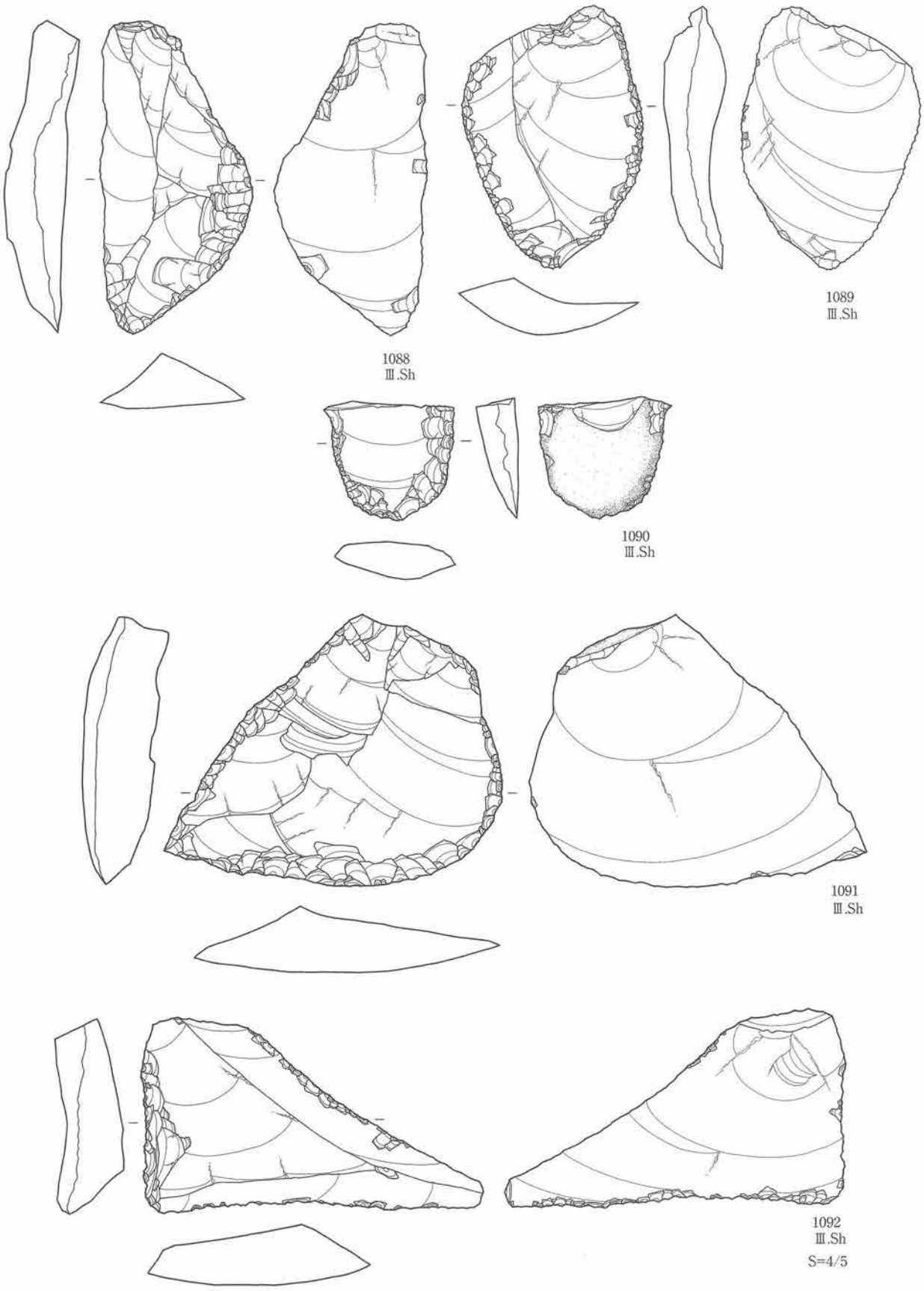
1086
Ⅲ.Sh



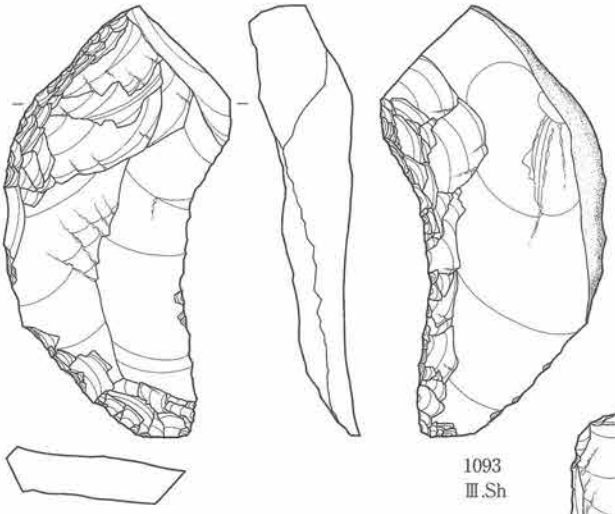
1087
Ⅲ.Sh

1087　S=2/3
他　S=4/5

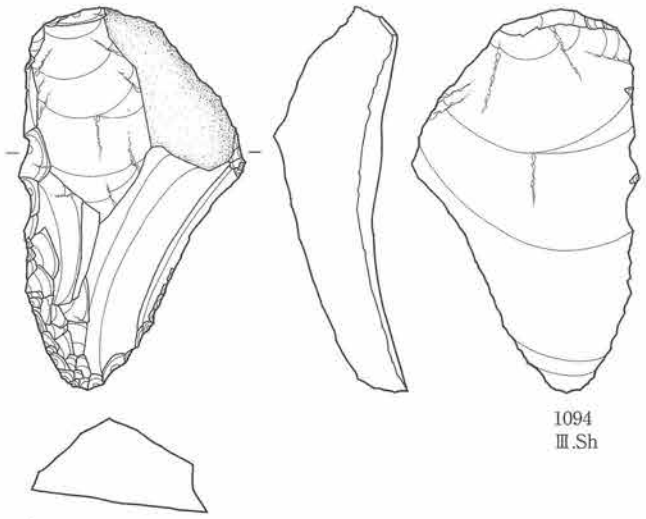
第152図　スクレイパー（8）



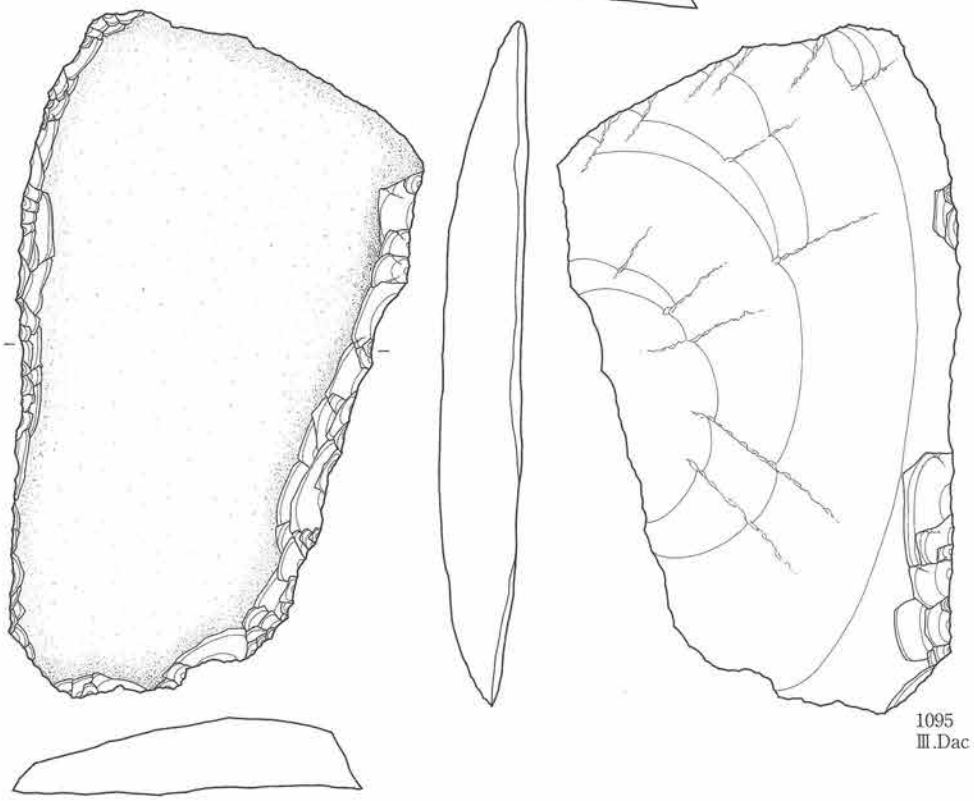
第153図　スクレイパー（9）



1093
Ⅲ.Sh



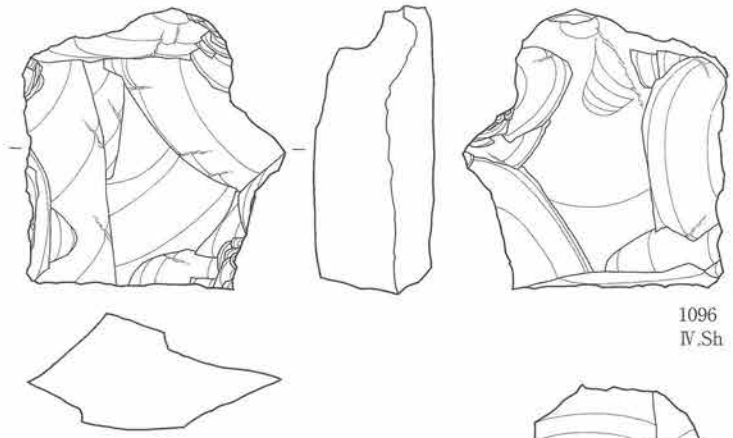
1094
Ⅲ.Sh



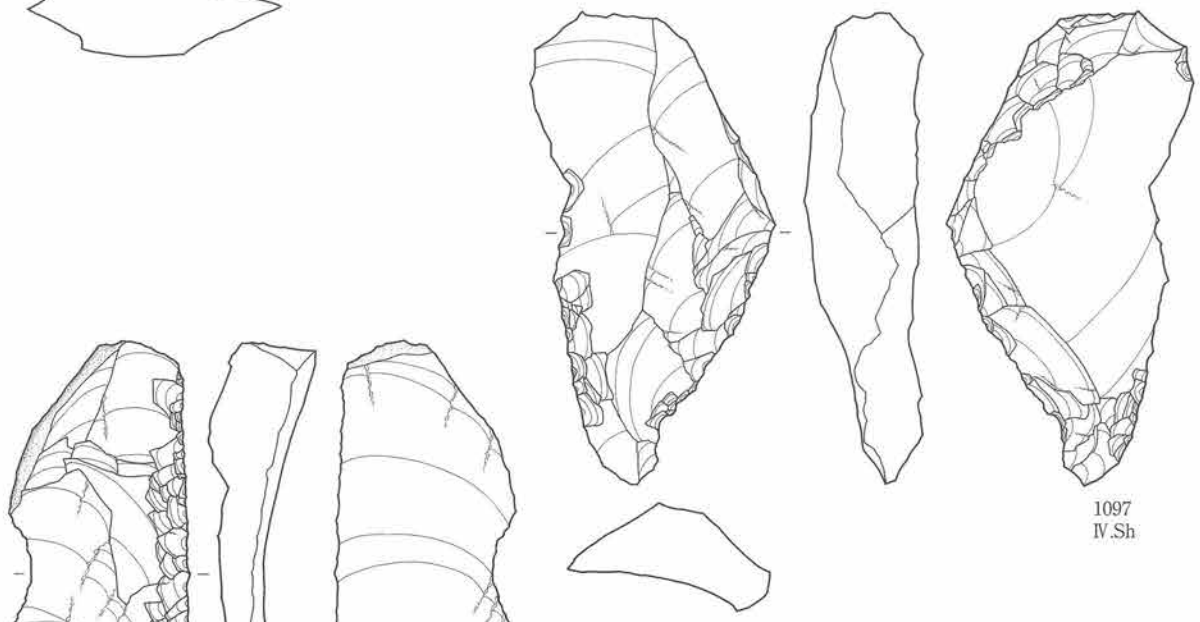
1095
Ⅲ.Dac

1094　S=4/5
他　S=2/3

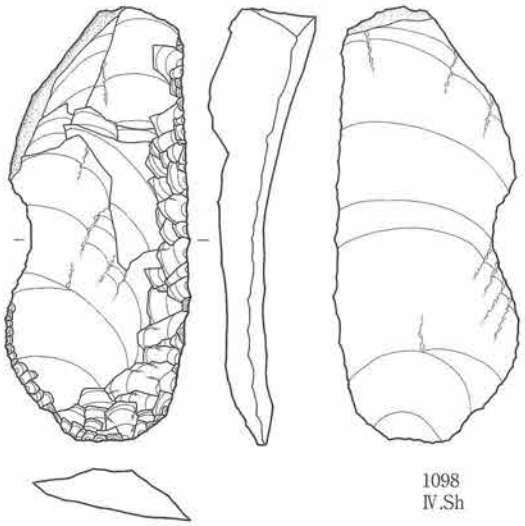
第154図　スクレイパー（10）



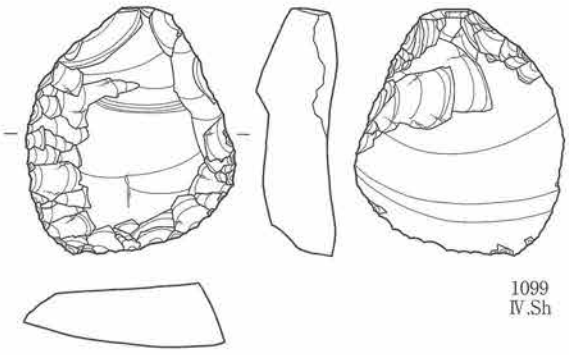
1096
Ⅳ.Sh



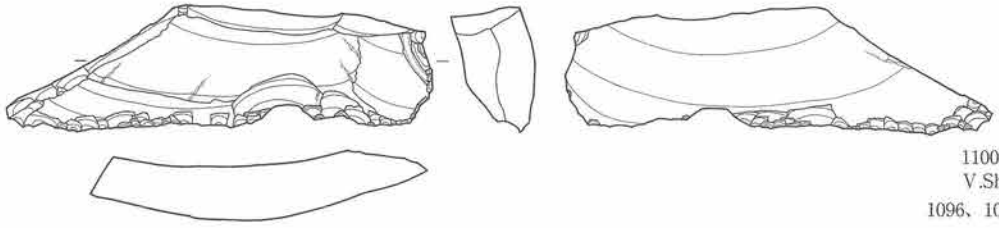
1097
Ⅳ.Sh



1098
Ⅳ.Sh

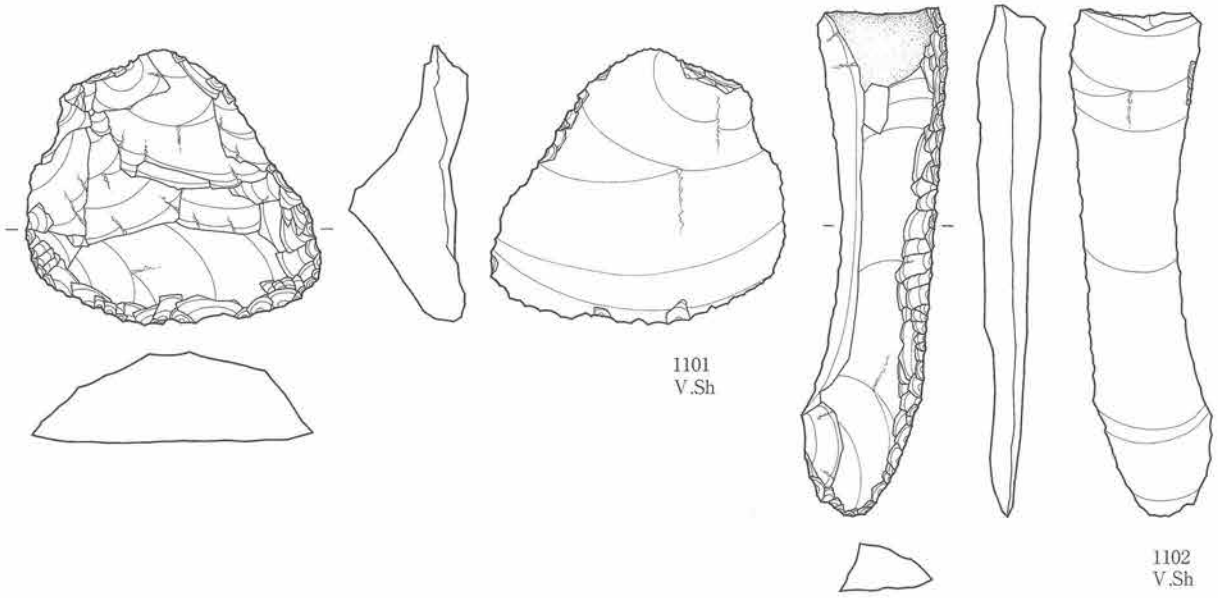


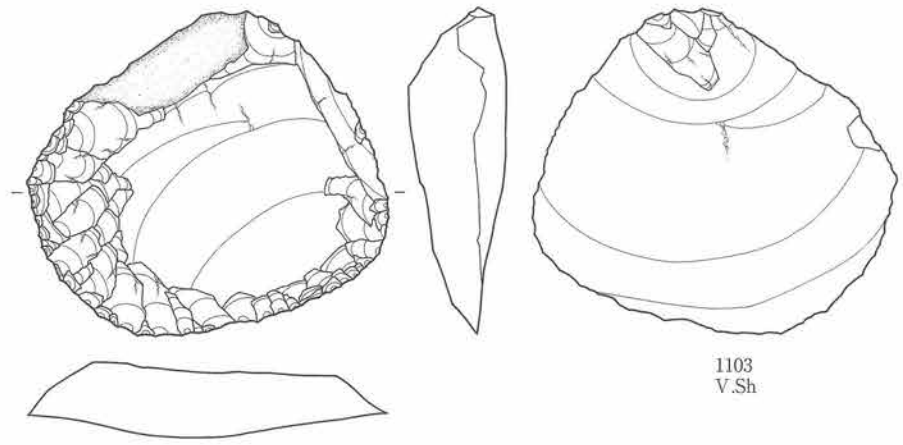
1099
Ⅳ.Sh

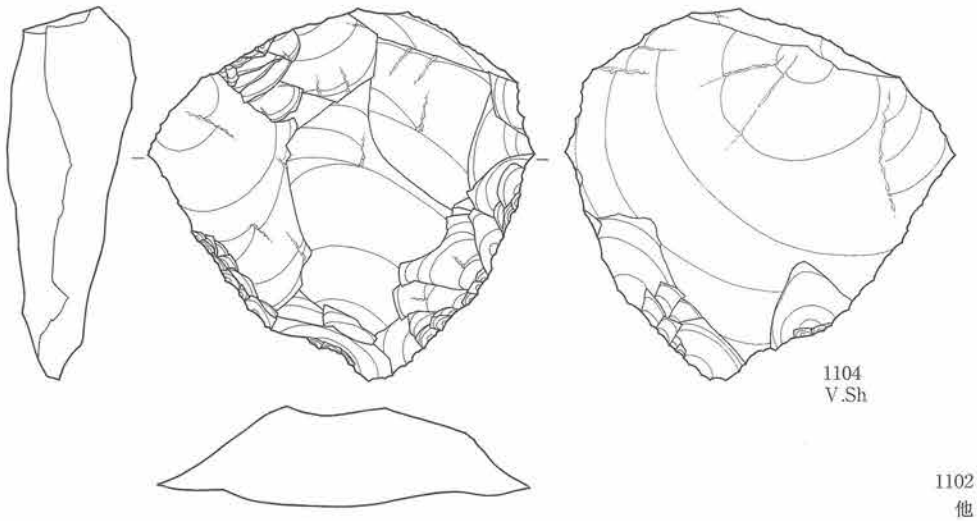


1100
Ⅴ.Sh
1096、1099　S=4/5
他　S=2/3

第155図　スクレイパー（11）

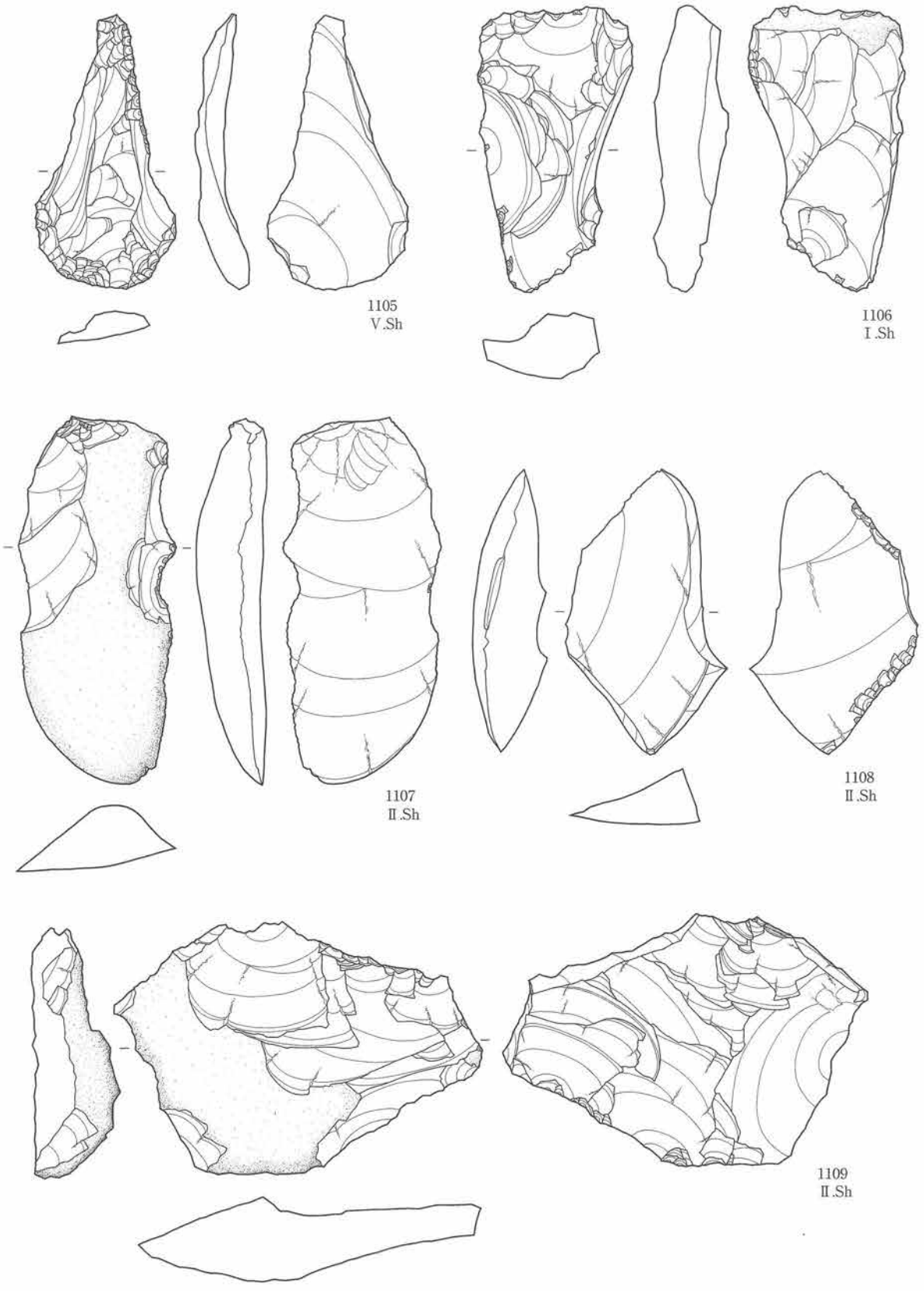




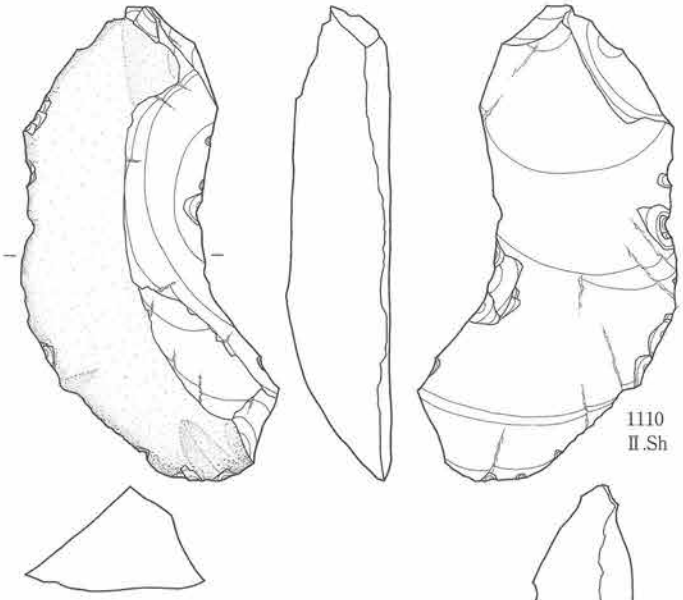


1102　S=2/3
他　S=4/5

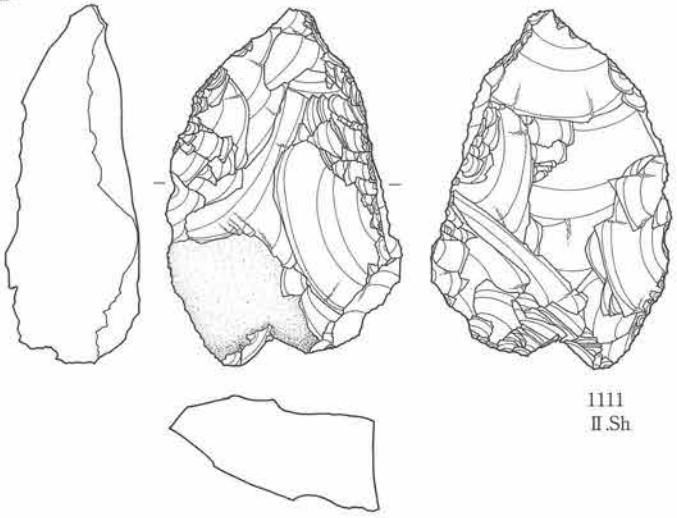
第156図　スクレイパー（12）



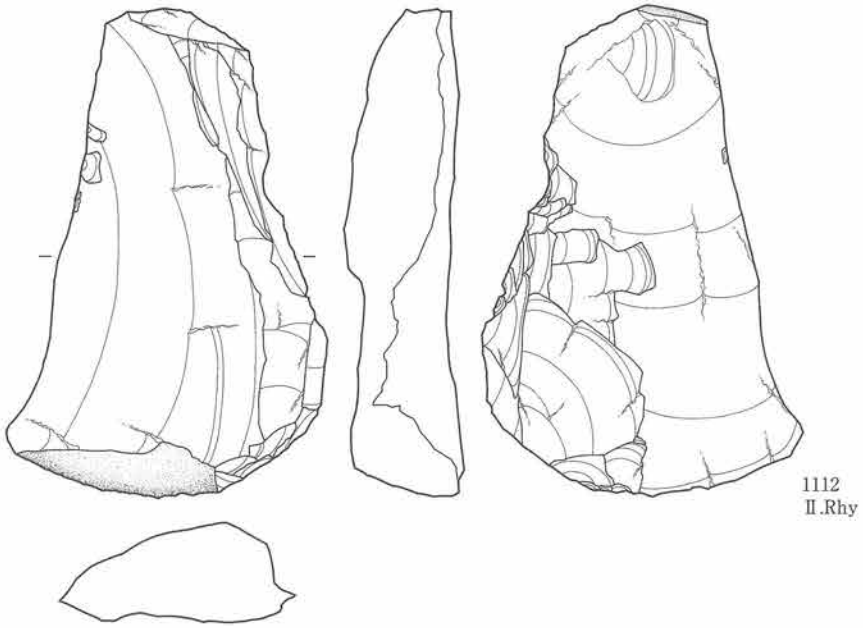
第157図　スクレイパー（13）、不定形石器（1）



1110
Ⅱ.Sh



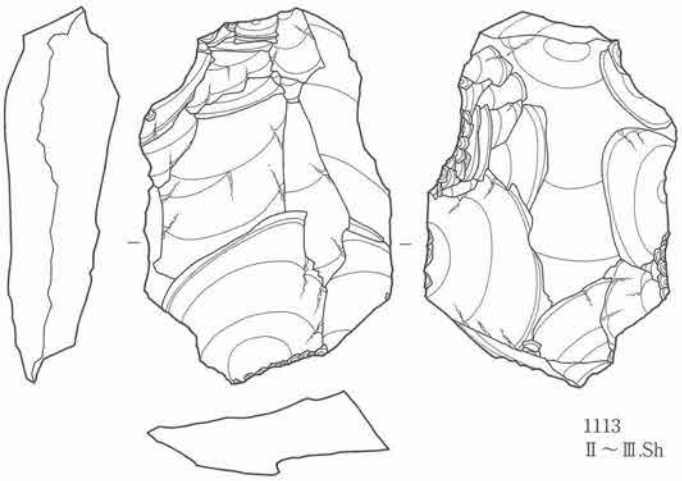
1111
Ⅱ.Sh



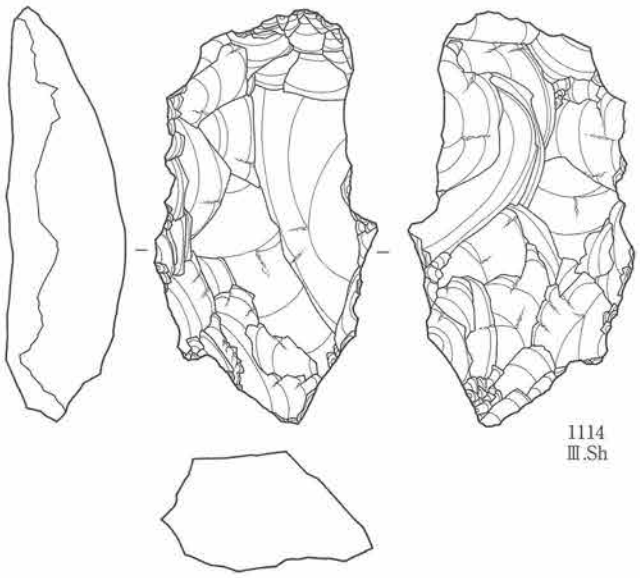
1112
Ⅱ.Rhy

1111　S=4/5
他　S=2/3

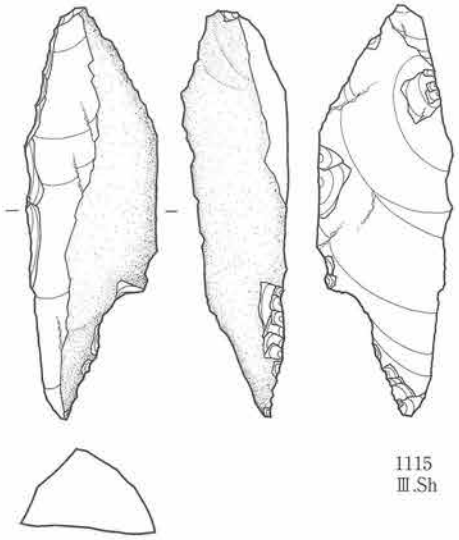
第158図　不定形石器（2）



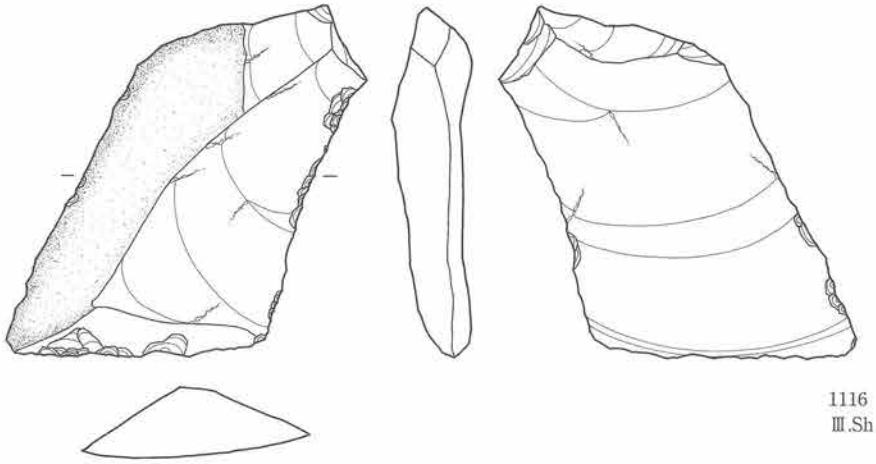
1113
Ⅱ～Ⅲ.Sh



1114
Ⅲ.Sh



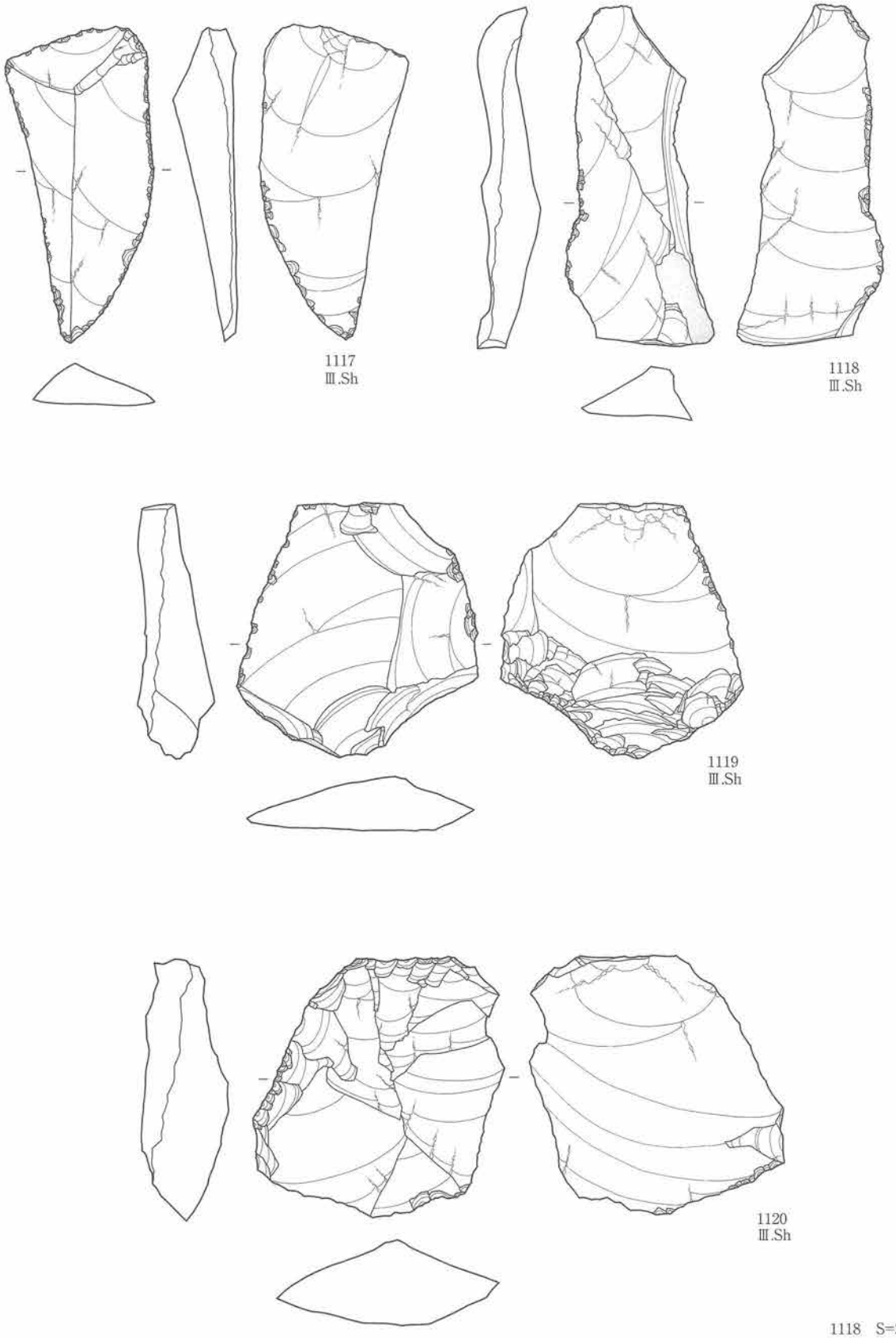
1115
Ⅲ.Sh



1116
Ⅲ.Sh

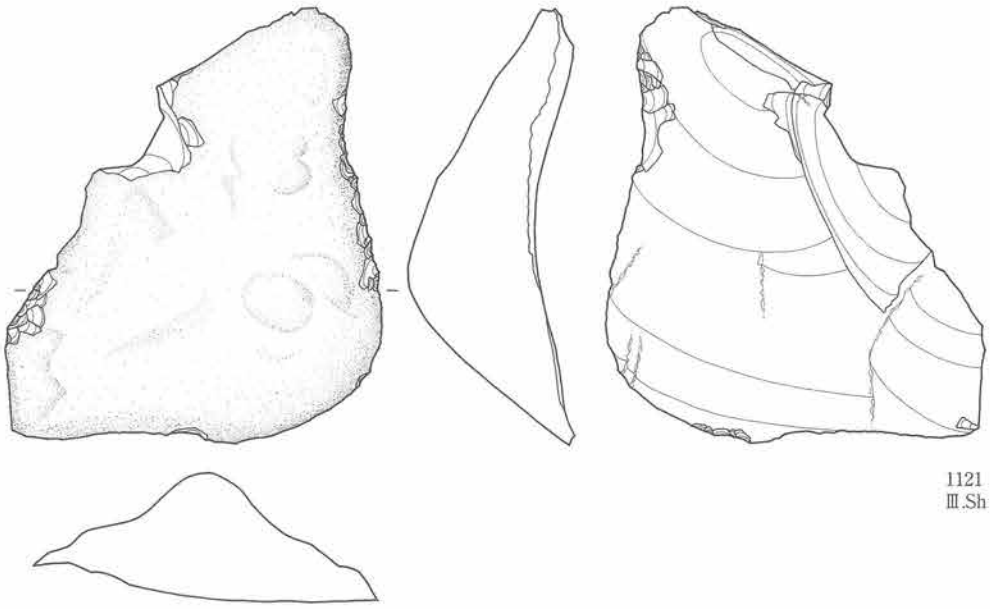
S=4/5

第159図　不定形石器（3）

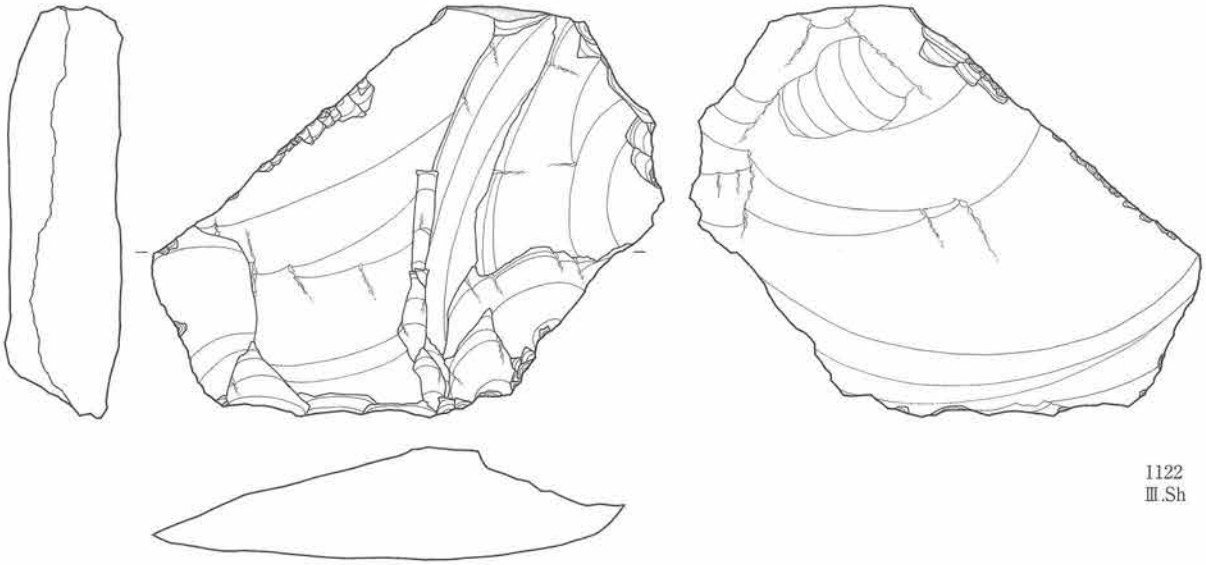


1118　S=2/3
他　S=4/5

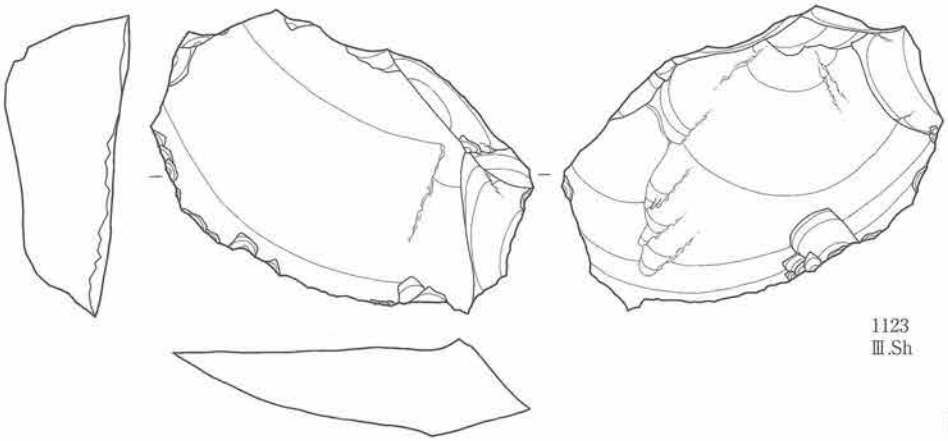
第160図　不定形石器（4）



1121
Ⅲ.Sh



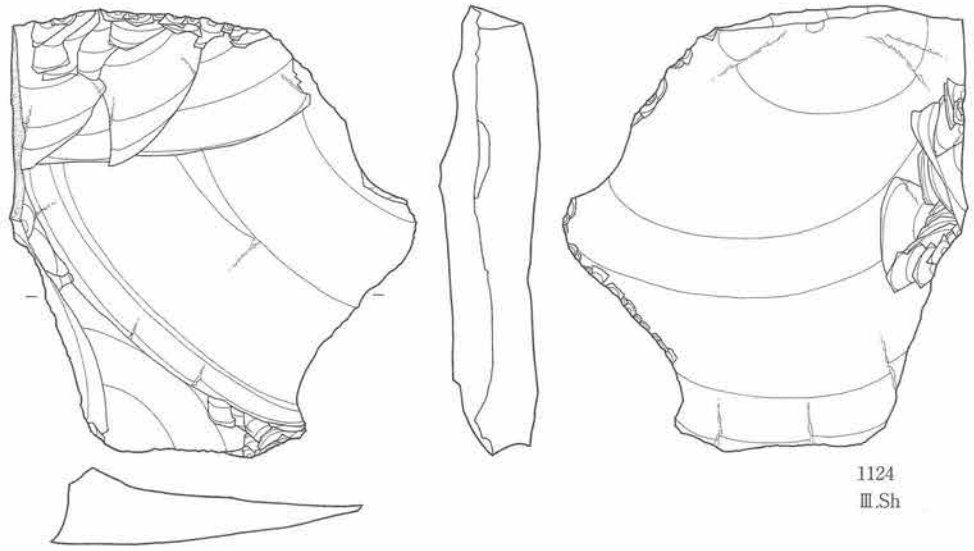
1122
Ⅲ.Sh



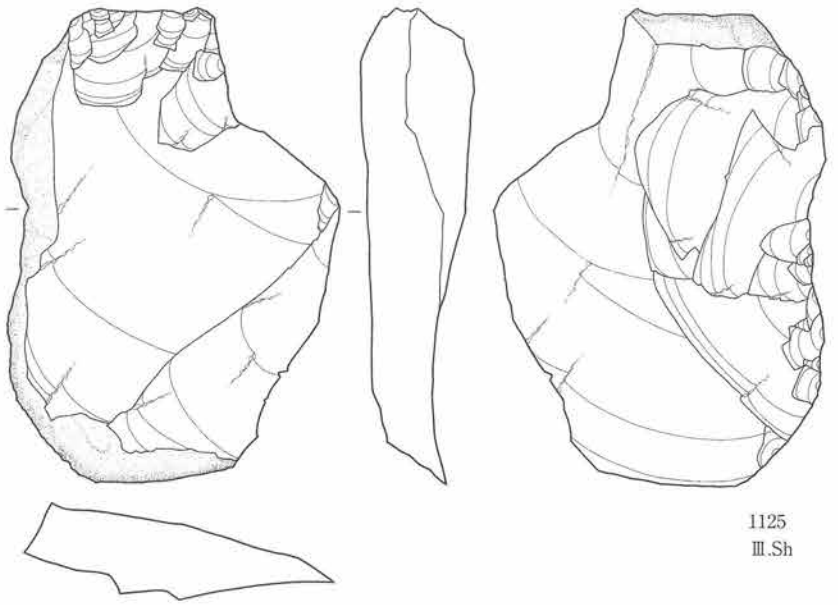
1123
Ⅲ.Sh

1123　S=4/5
他　S=2/3

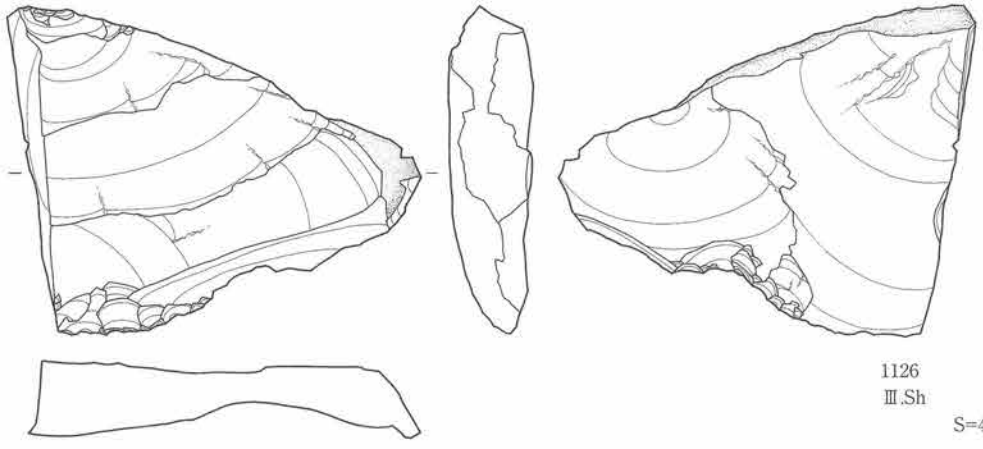
第161図　不定形石器（5）



1124
Ⅲ.Sh



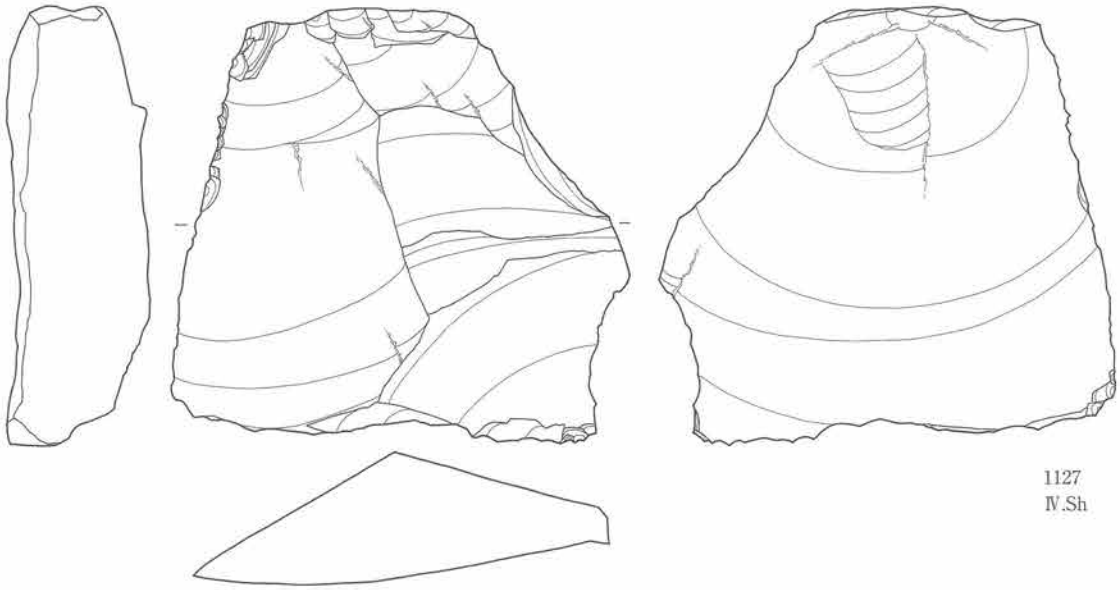
1125
Ⅲ.Sh



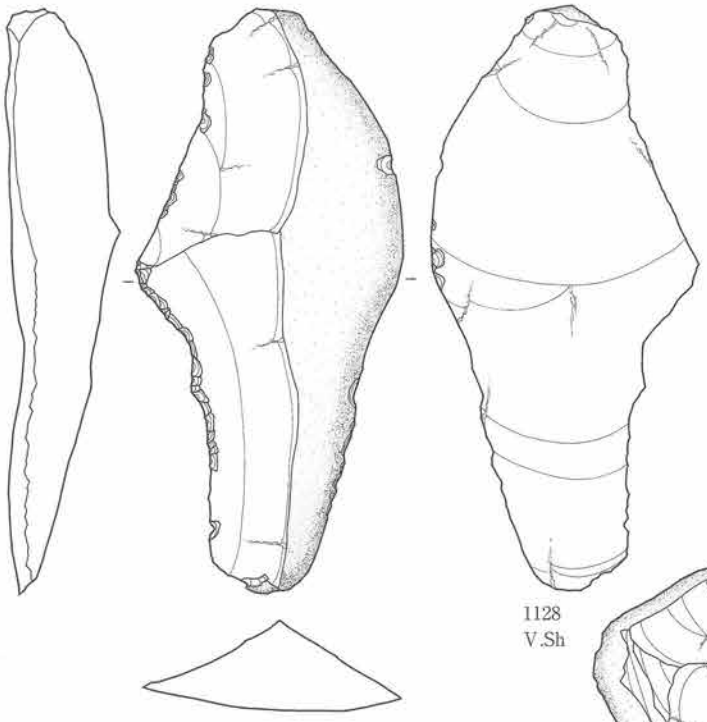
1126
Ⅲ.Sh

S=4/5

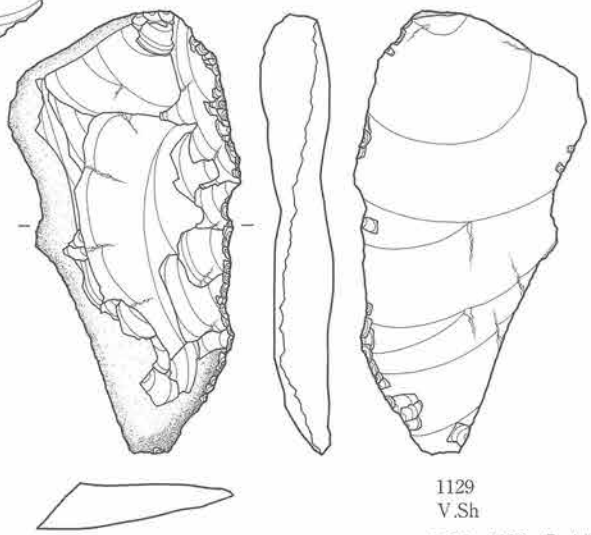
第162図　不定形石器（6）



1127
Ⅳ.Sh



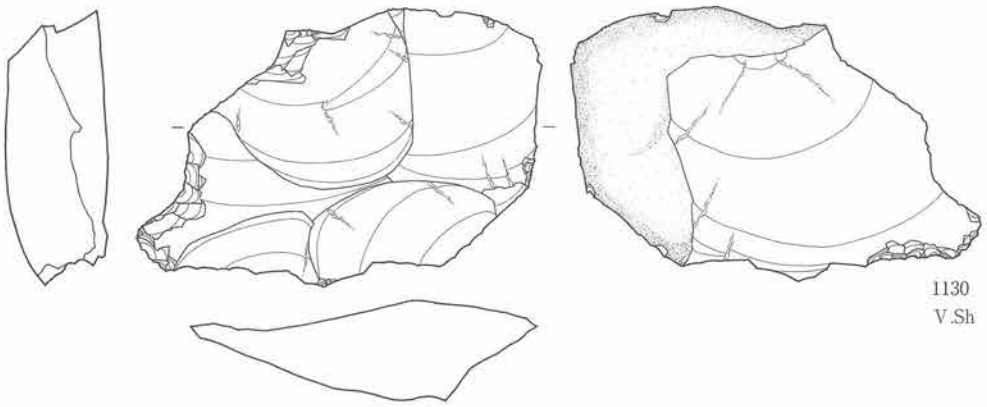
1128
V.Sh

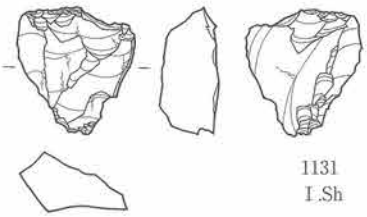


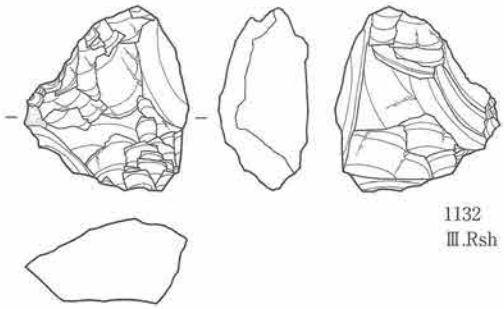
1129
V.Sh

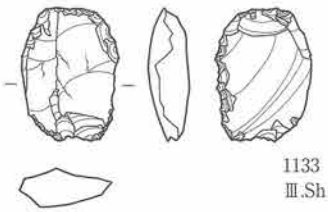
1127、1129　S=4/5
他　S=2/3

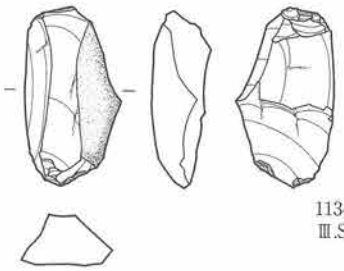
第163図　不定形石器（7）

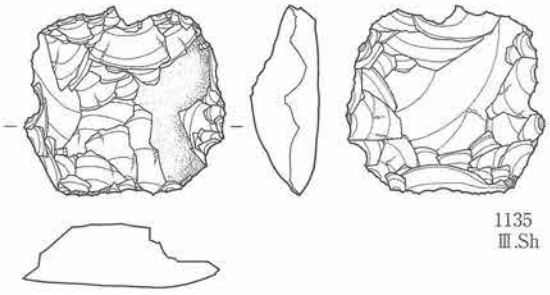


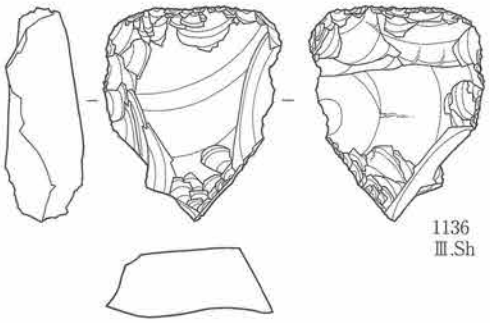


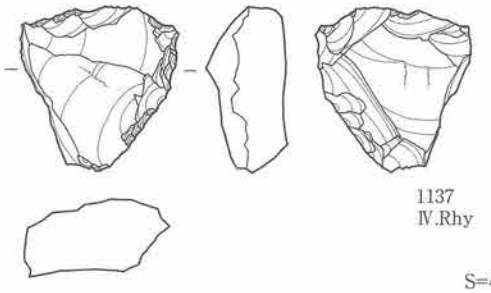






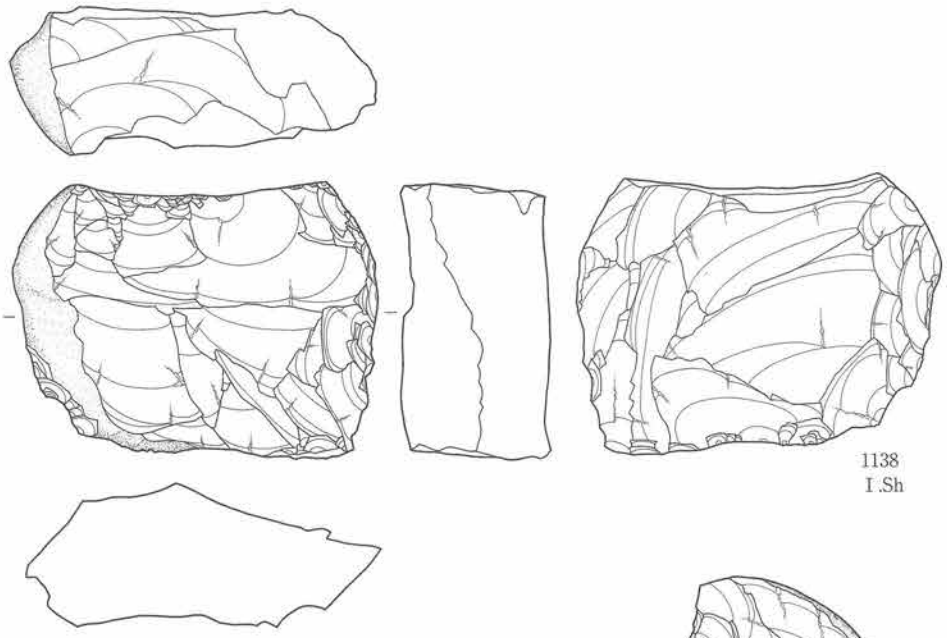


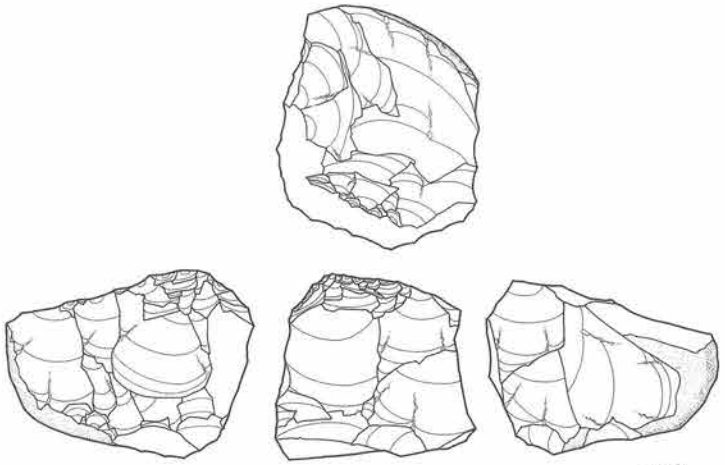


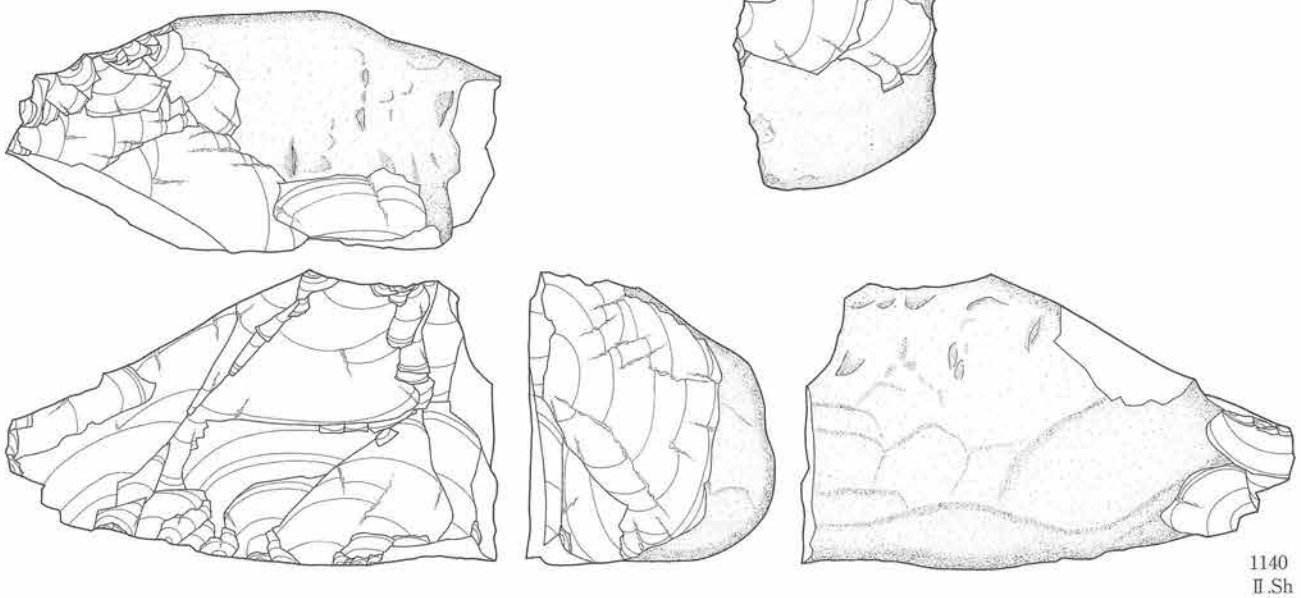


S=4/5

第164図　不定形石器（8）、楔形石器

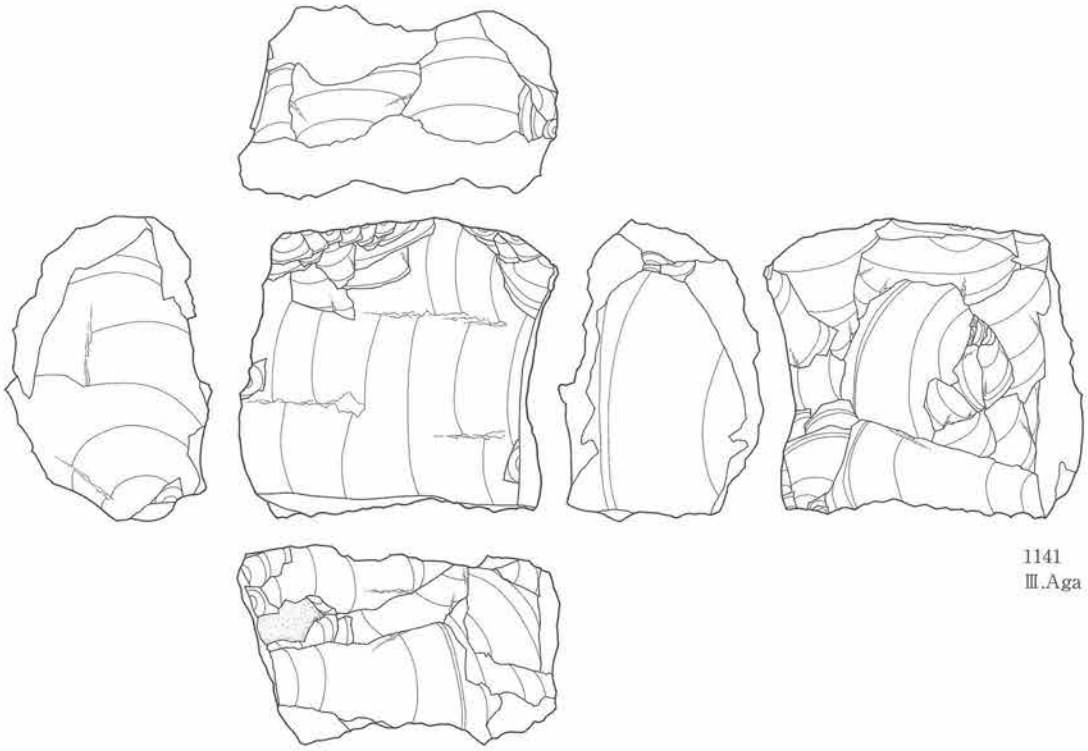




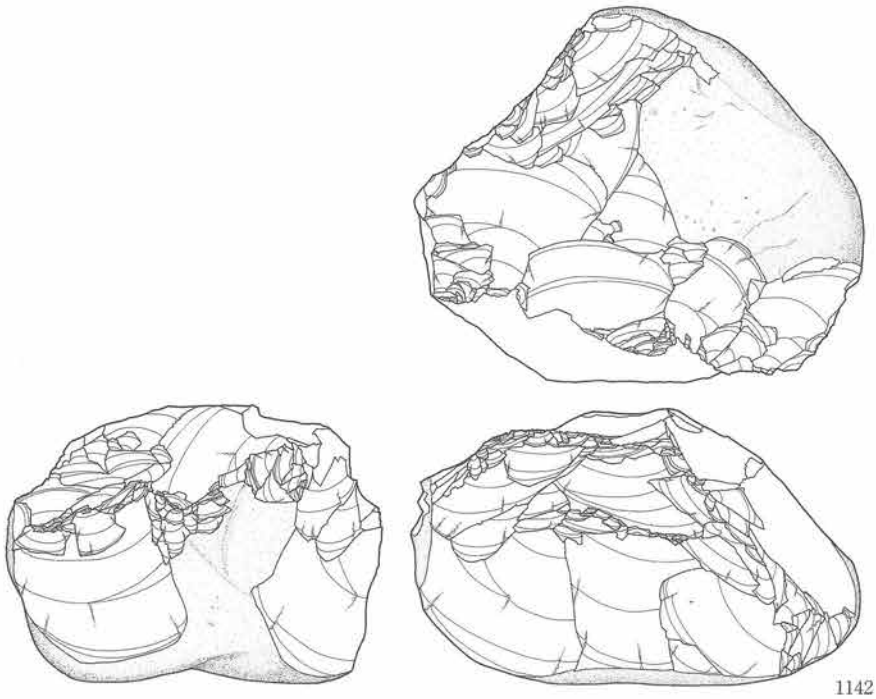


第165図　石核（1）

1138、1139　S=4/5
他　S=2/3



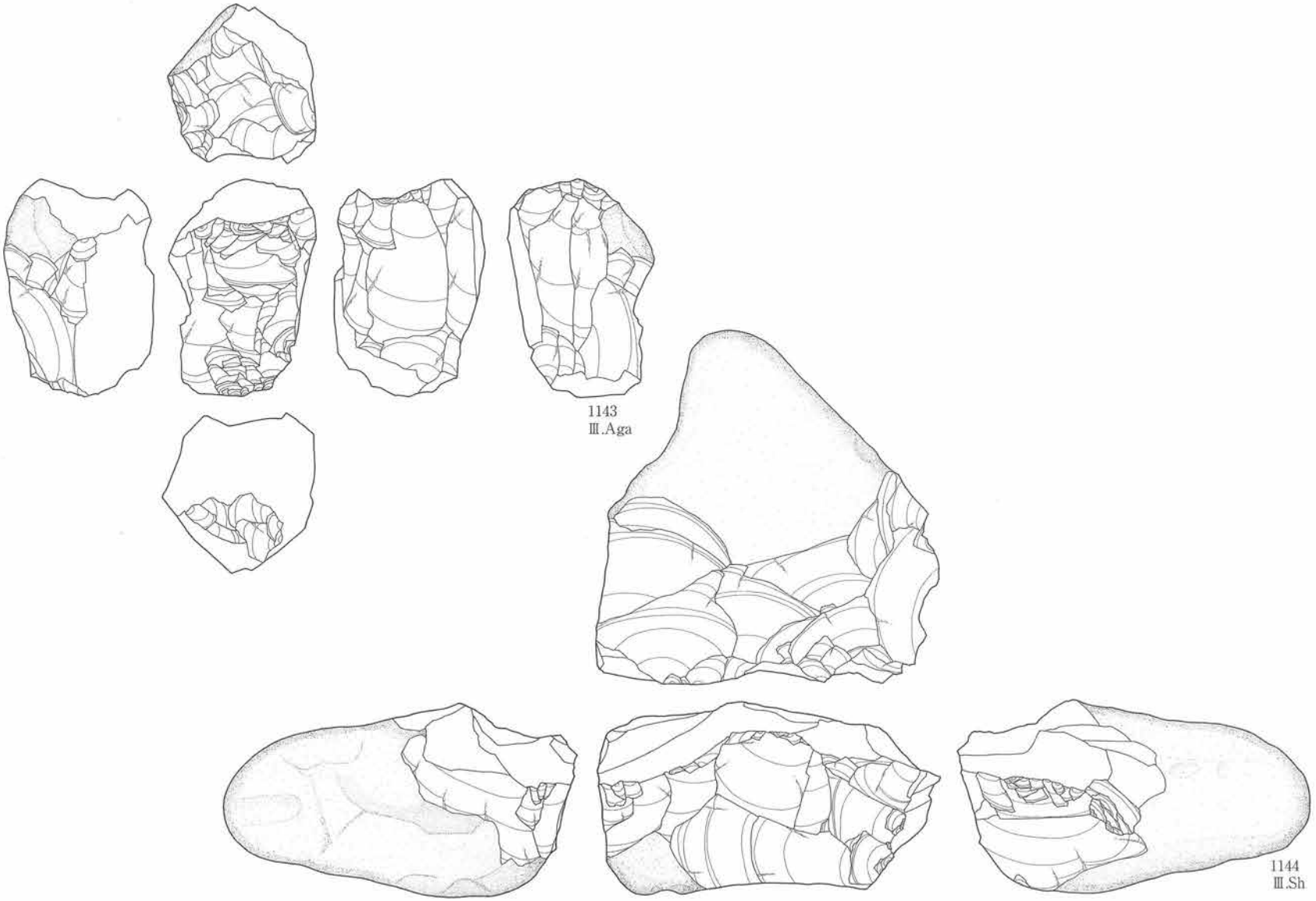
1141
Ⅲ.Aga



1142
Ⅲ.Sh

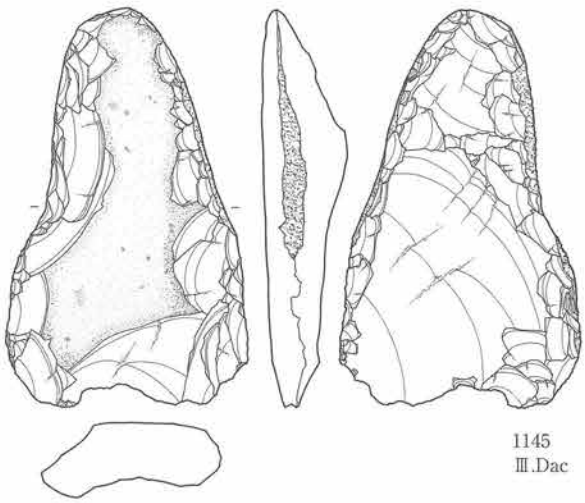
1141　S=4/5
1142　S=1/3

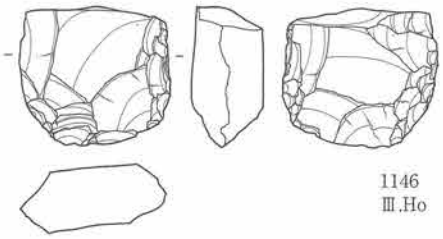
第166図　石核（2）

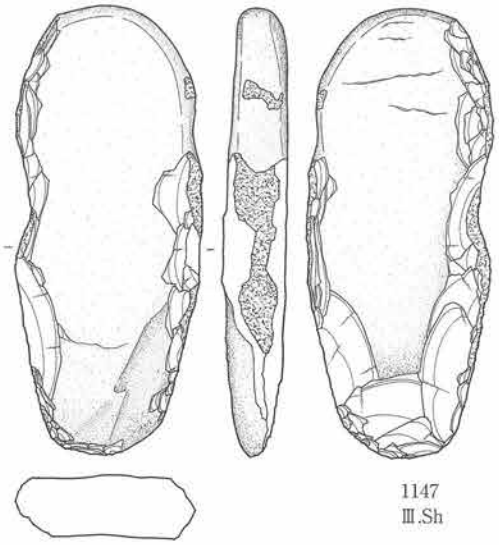


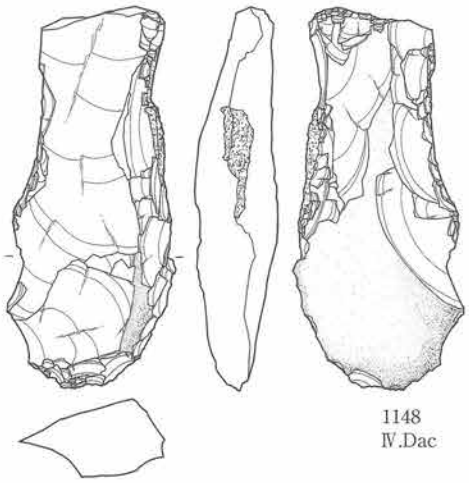
1143　S=4/5
1144　S=1/3

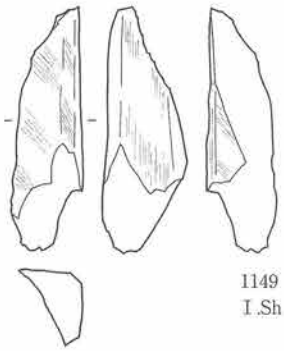
第167図　石核（3）

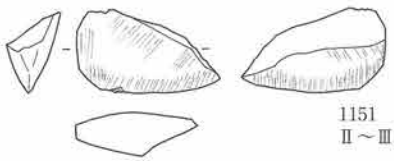


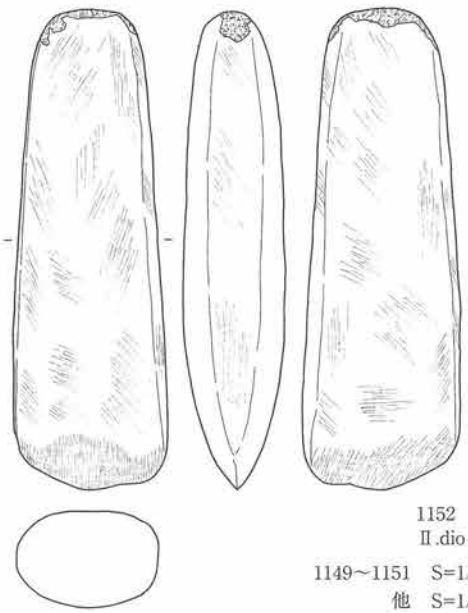






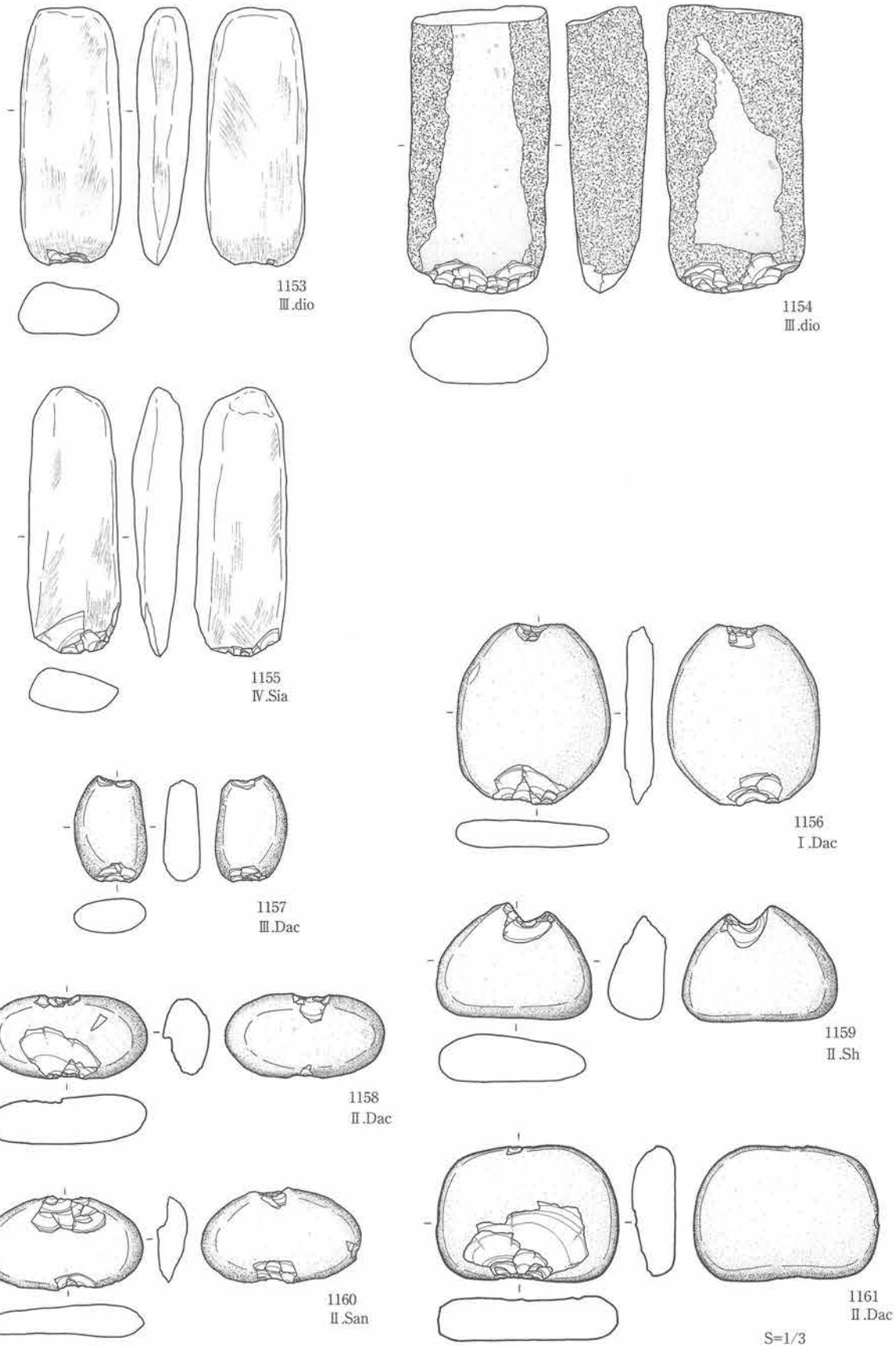




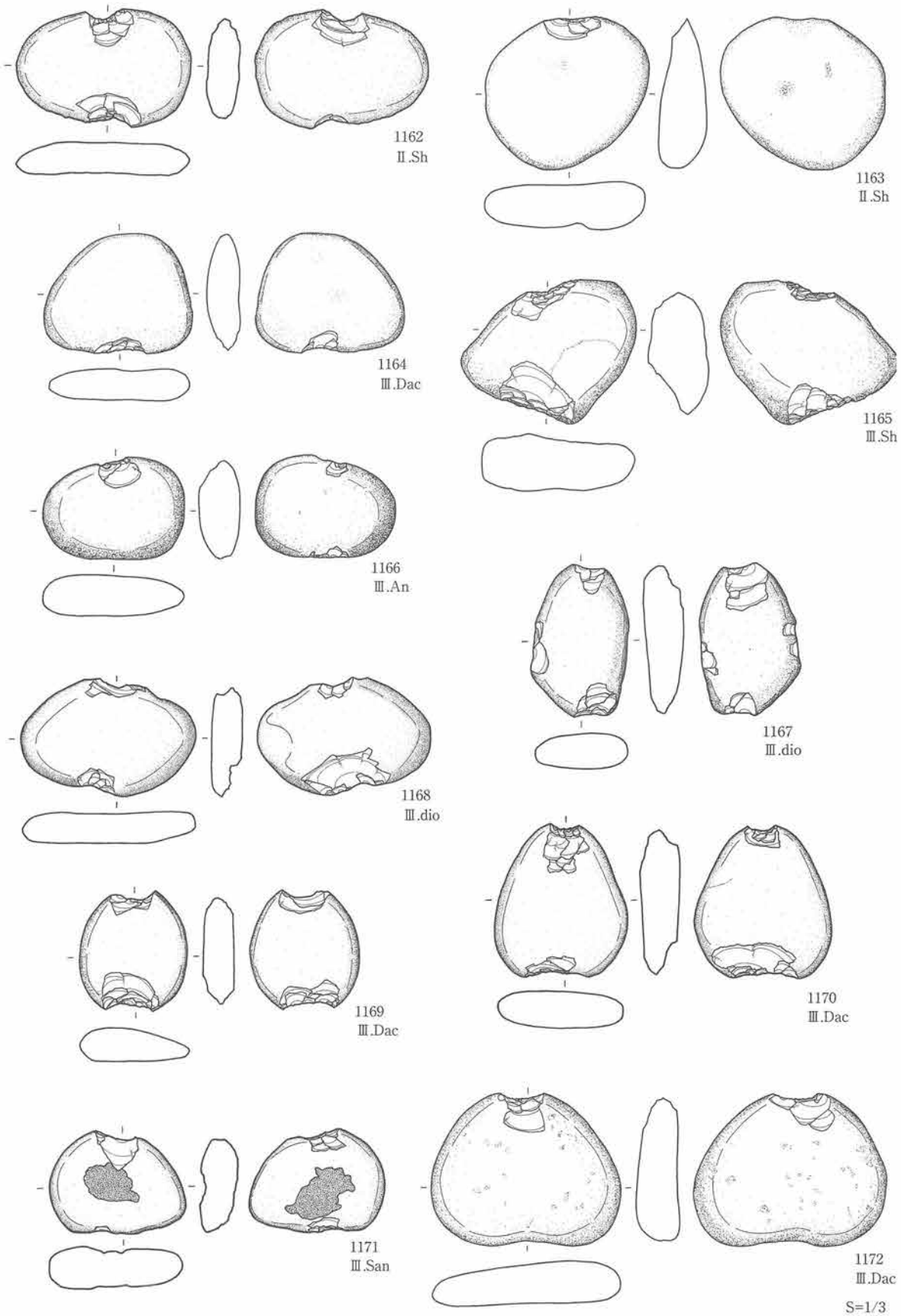


1149～1151　S=1/2
他　S=1/3

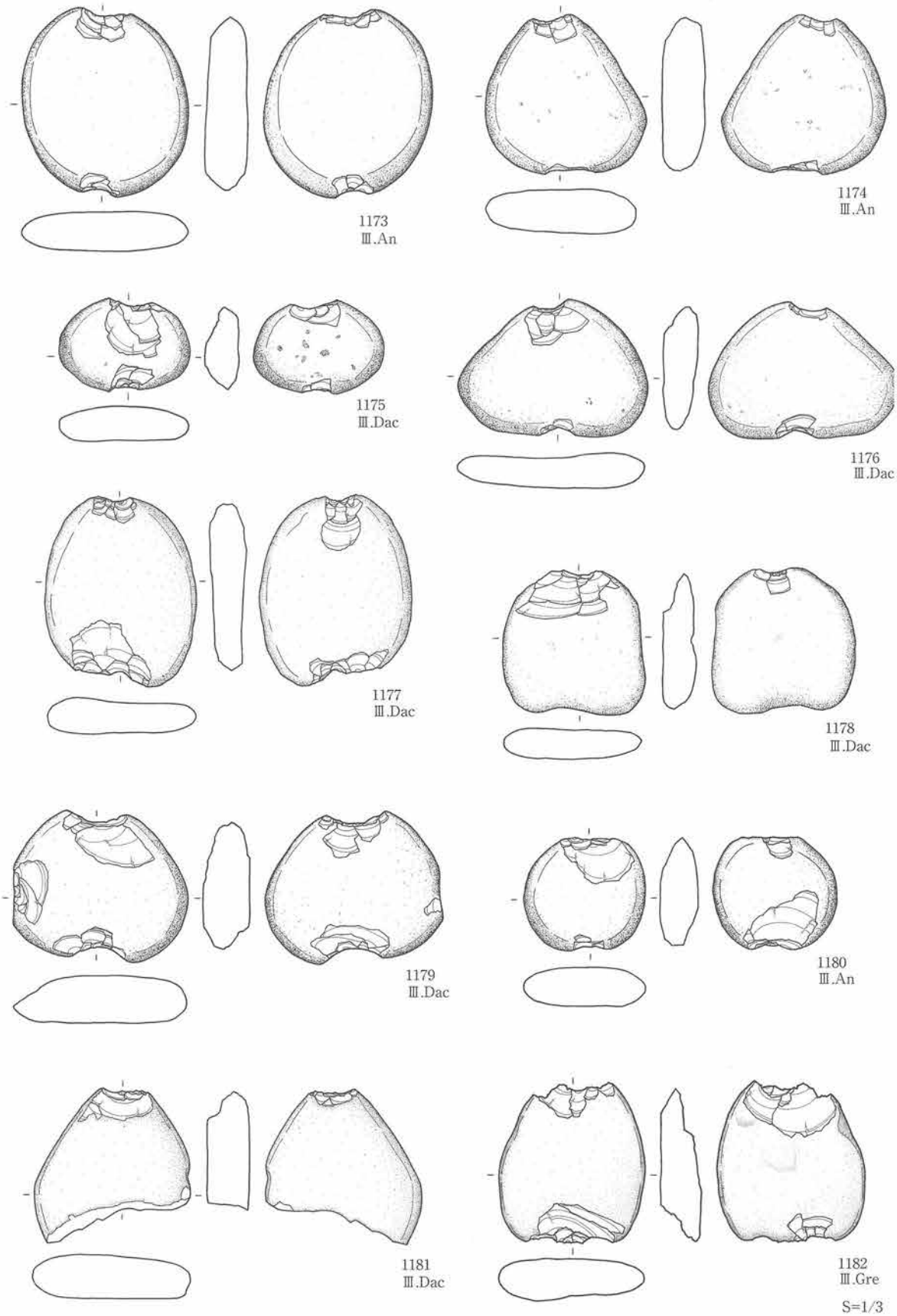
第168図　打製石斧、磨製石斧（1）



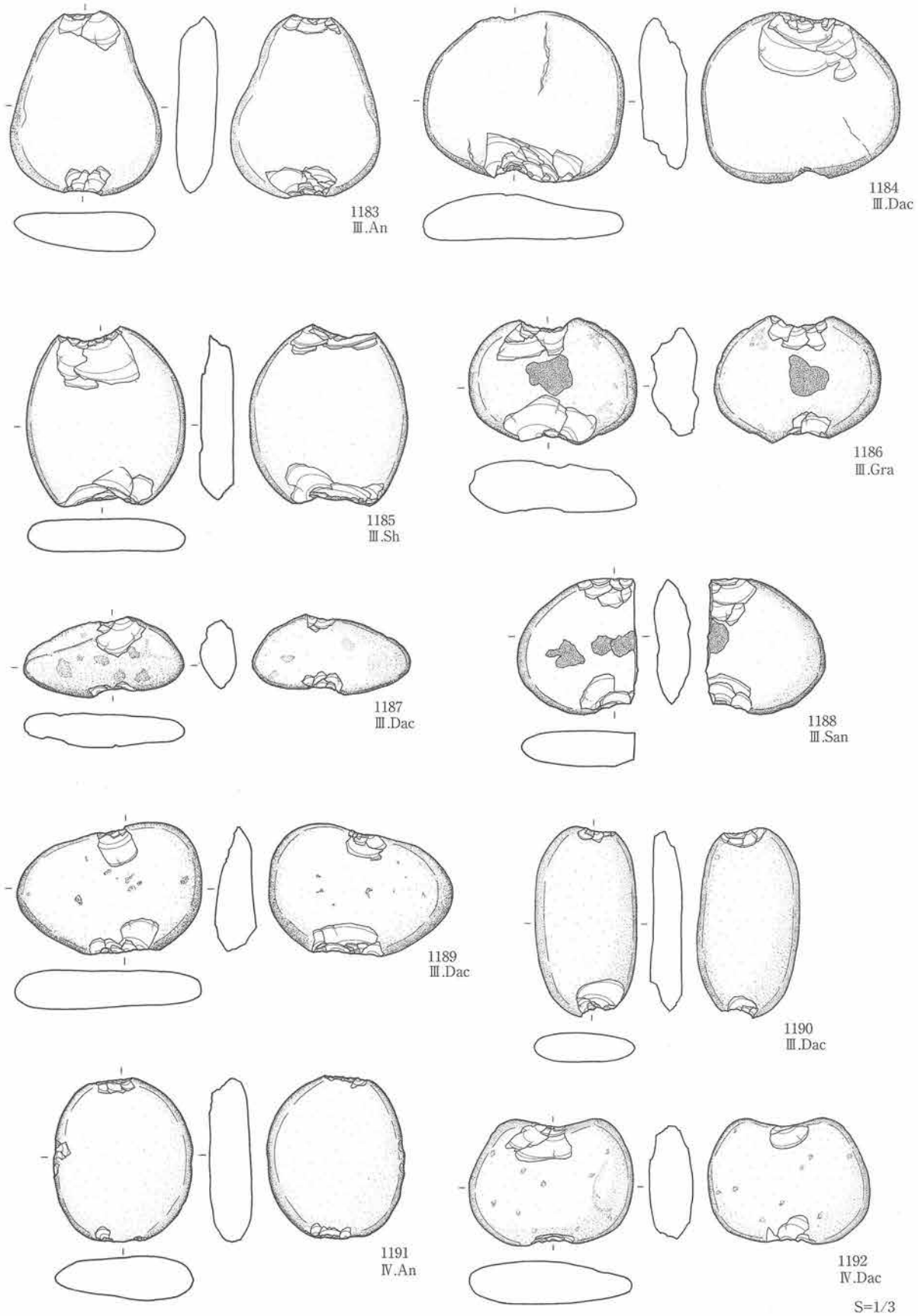
第169図　磨製石斧（2）、石錘（1）


1162
Ⅱ.Sh
1163
Ⅱ.Sh
1164
Ⅲ.Dac
1165
Ⅲ.Sh
1166
Ⅲ.An
1167
Ⅲ.dio
1168
Ⅲ.dio
1169
Ⅲ.Dac
1170
Ⅲ.Dac
1171
Ⅲ.San
1172
Ⅲ.Dac
S=1/3

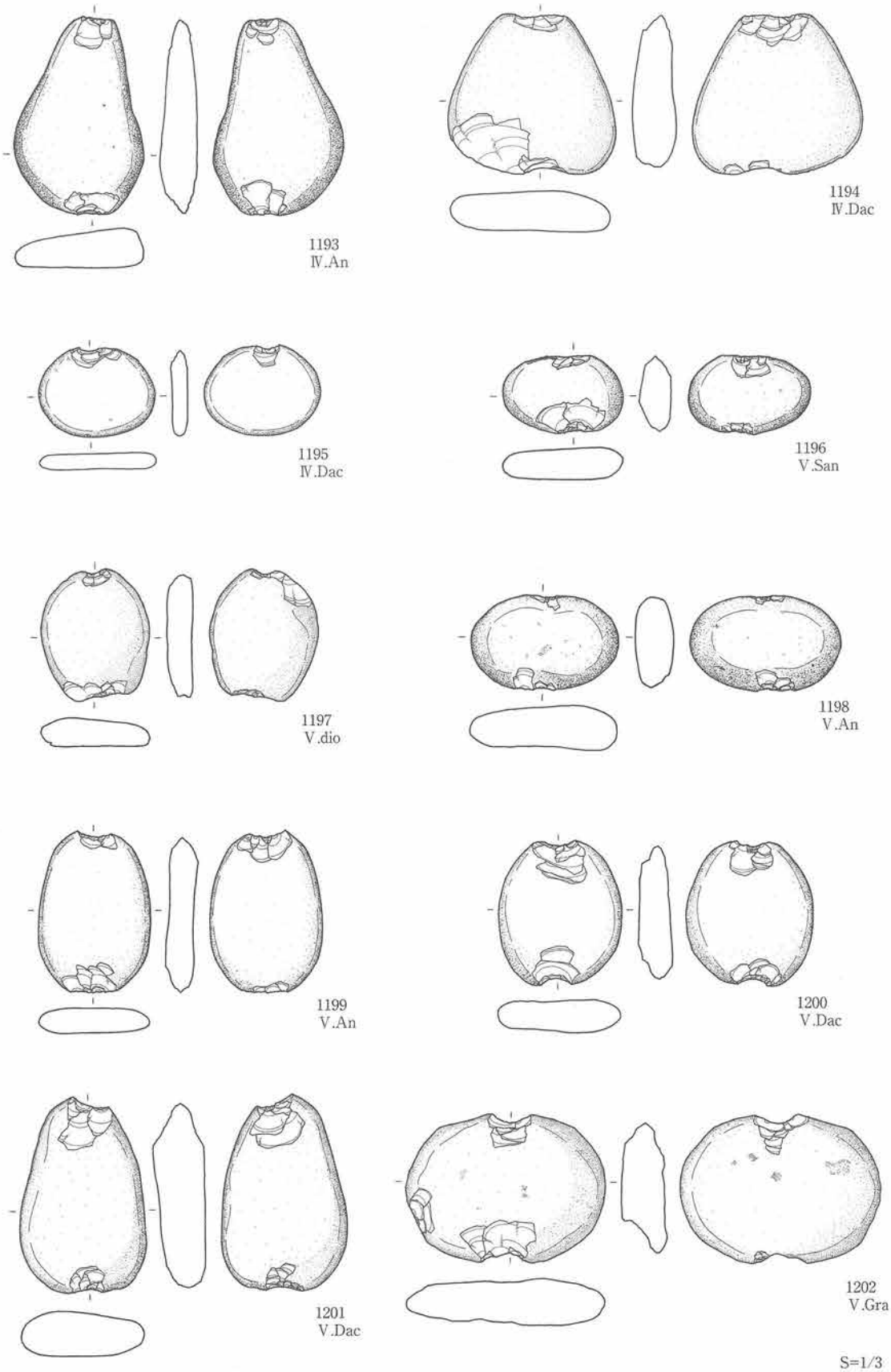
第170図　石錘（2）


1173
Ⅲ.An
1174
Ⅲ.An
1175
Ⅲ.Dac
1176
Ⅲ.Dac
1177
Ⅲ.Dac
1178
Ⅲ.Dac
1179
Ⅲ.Dac
1180
Ⅲ.An
1181
Ⅲ.Dac
1182
Ⅲ.Gre
S=1/3

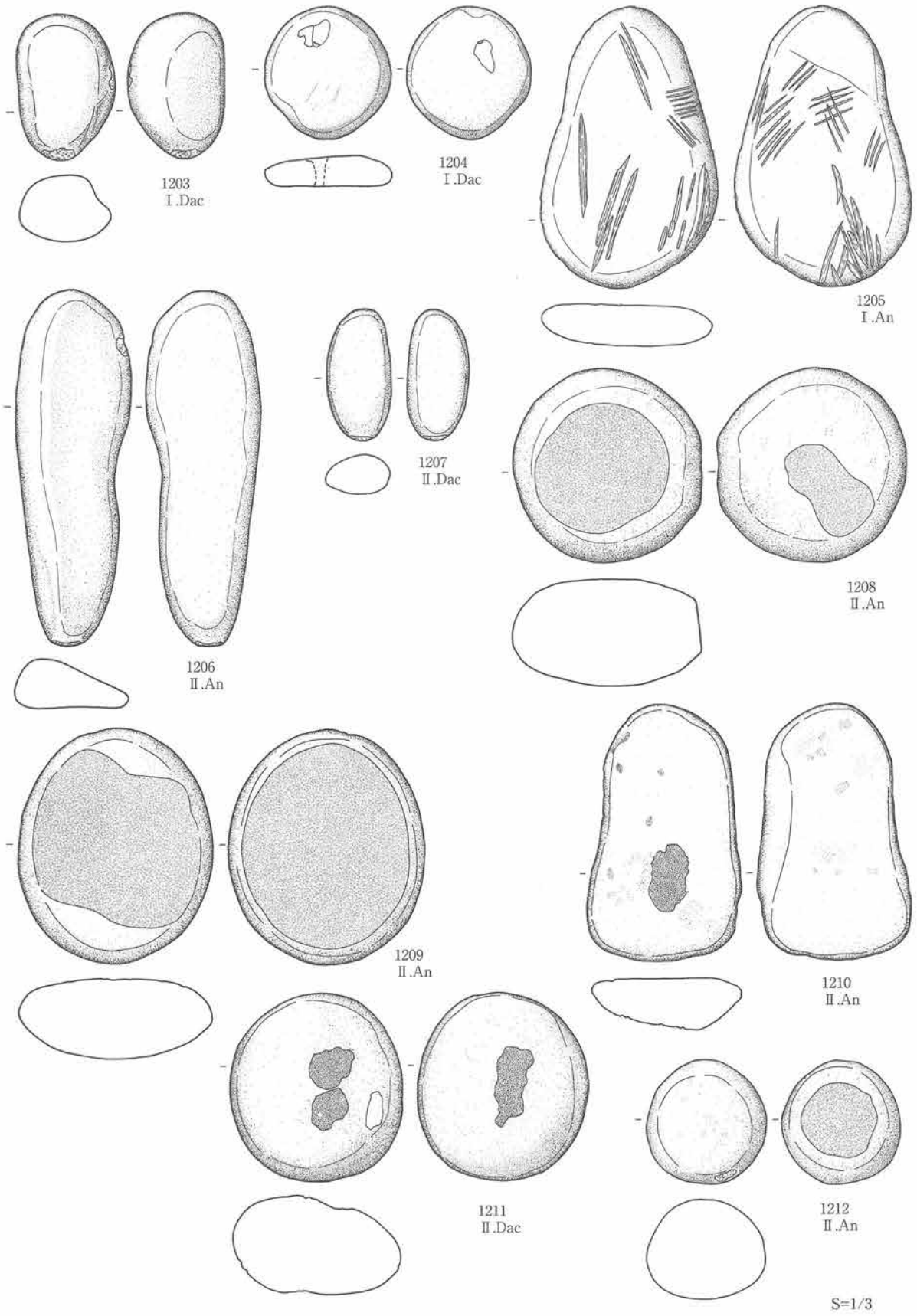
第171図　石錘（3）


1183
Ⅲ.An
1184
Ⅲ.Dac
1185
Ⅲ.Sh
1186
Ⅲ.Gra
1187
Ⅲ.Dac
1188
Ⅲ.San
1189
Ⅲ.Dac
1190
Ⅲ.Dac
1191
Ⅳ.An
1192
Ⅳ.Dac
S=1/3

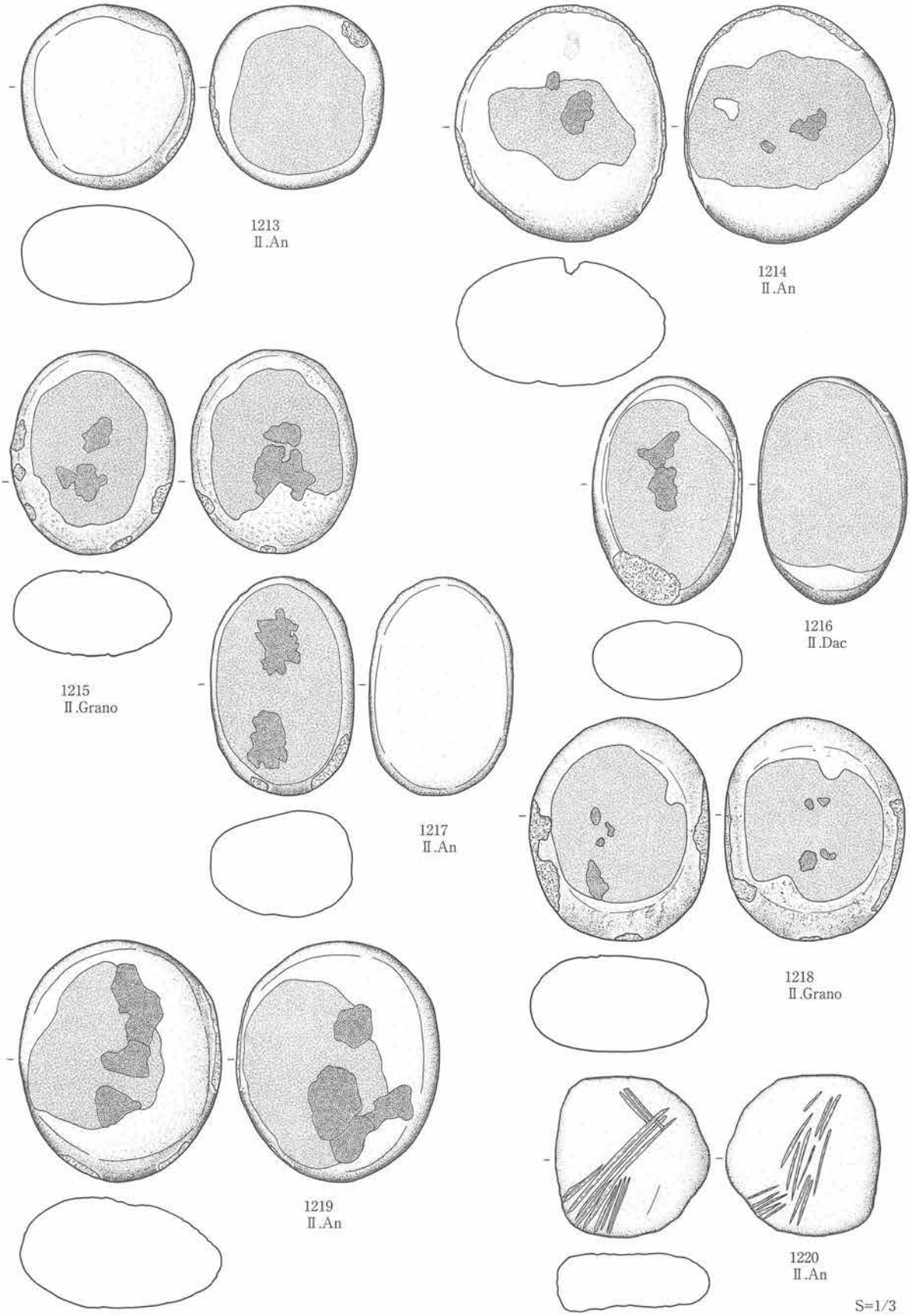
第172図　石錘（4）


1193
Ⅳ.An
1194
Ⅳ.Dac
1195
Ⅳ.Dac
1196
Ⅴ.San
1197
Ⅴ.dio
1198
Ⅴ.An
1199
Ⅴ.An
1200
Ⅴ.Dac
1201
Ⅴ.Dac
1202
Ⅴ.Gra
S=1/3

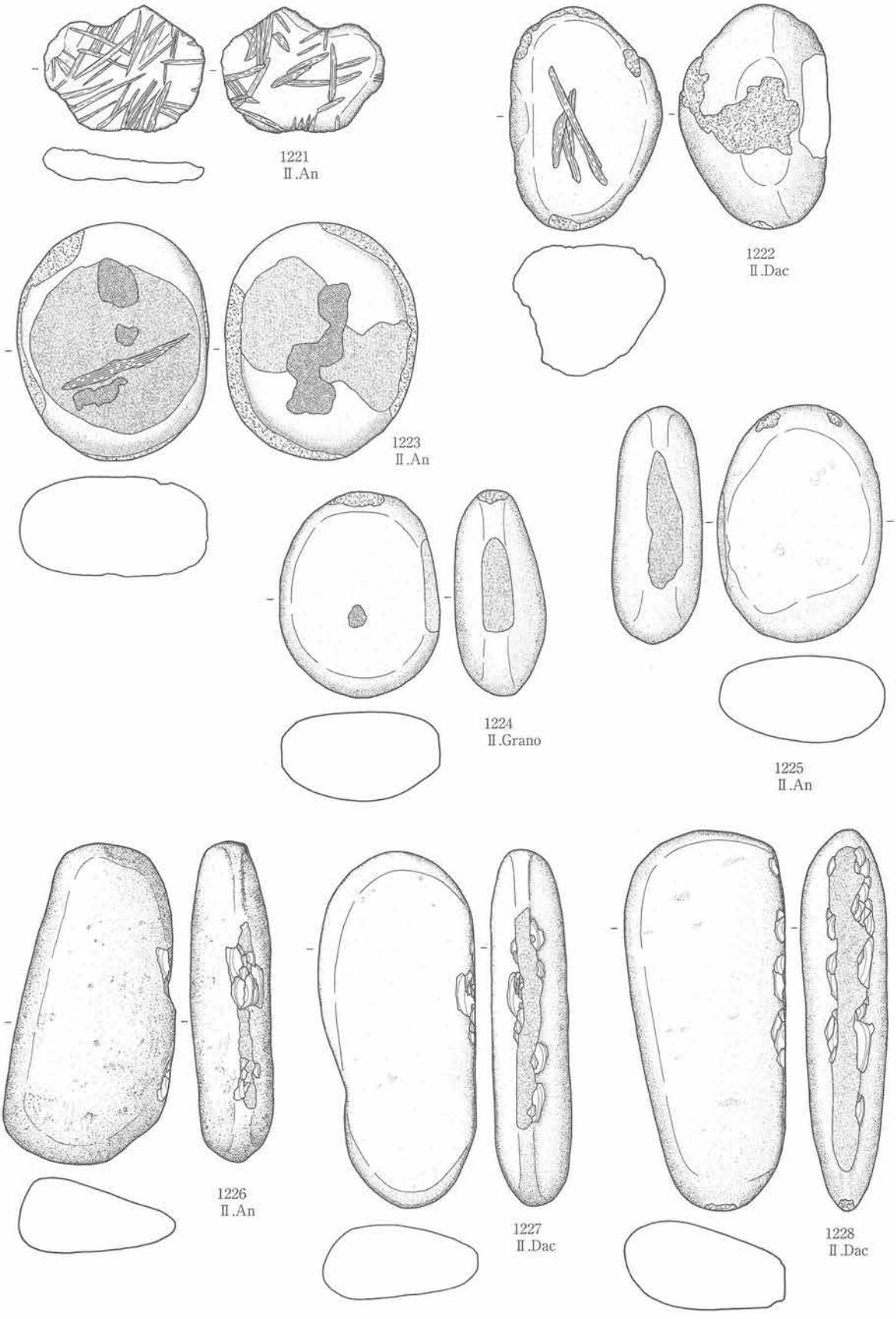
第173図　石錘（5）


1203
Ⅰ.Dac
1204
Ⅰ.Dac
1205
Ⅰ.An
1206
Ⅱ.An
1207
Ⅱ.Dac
1208
Ⅱ.An
1209
Ⅱ.An
1210
Ⅱ.An
1211
Ⅱ.Dac
1212
Ⅱ.An
S=1/3

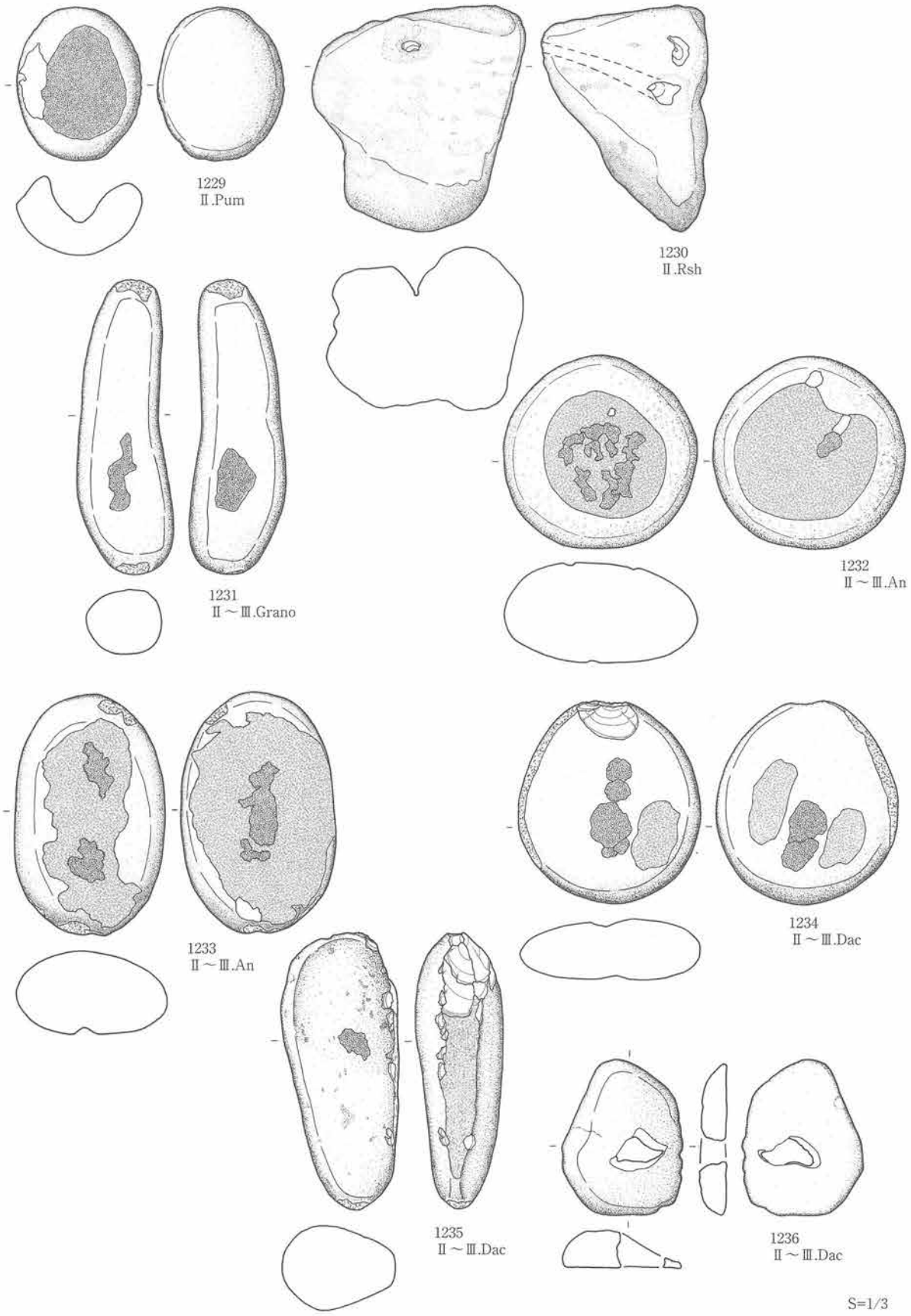
第174図　礫石器（1）


1213
Ⅱ.An
1214
Ⅱ.An
1215
Ⅱ.Grano
1216
Ⅱ.Dac
1217
Ⅱ.An
1218
Ⅱ.Grano
1219
Ⅱ.An
1220
Ⅱ.An
S=1/3

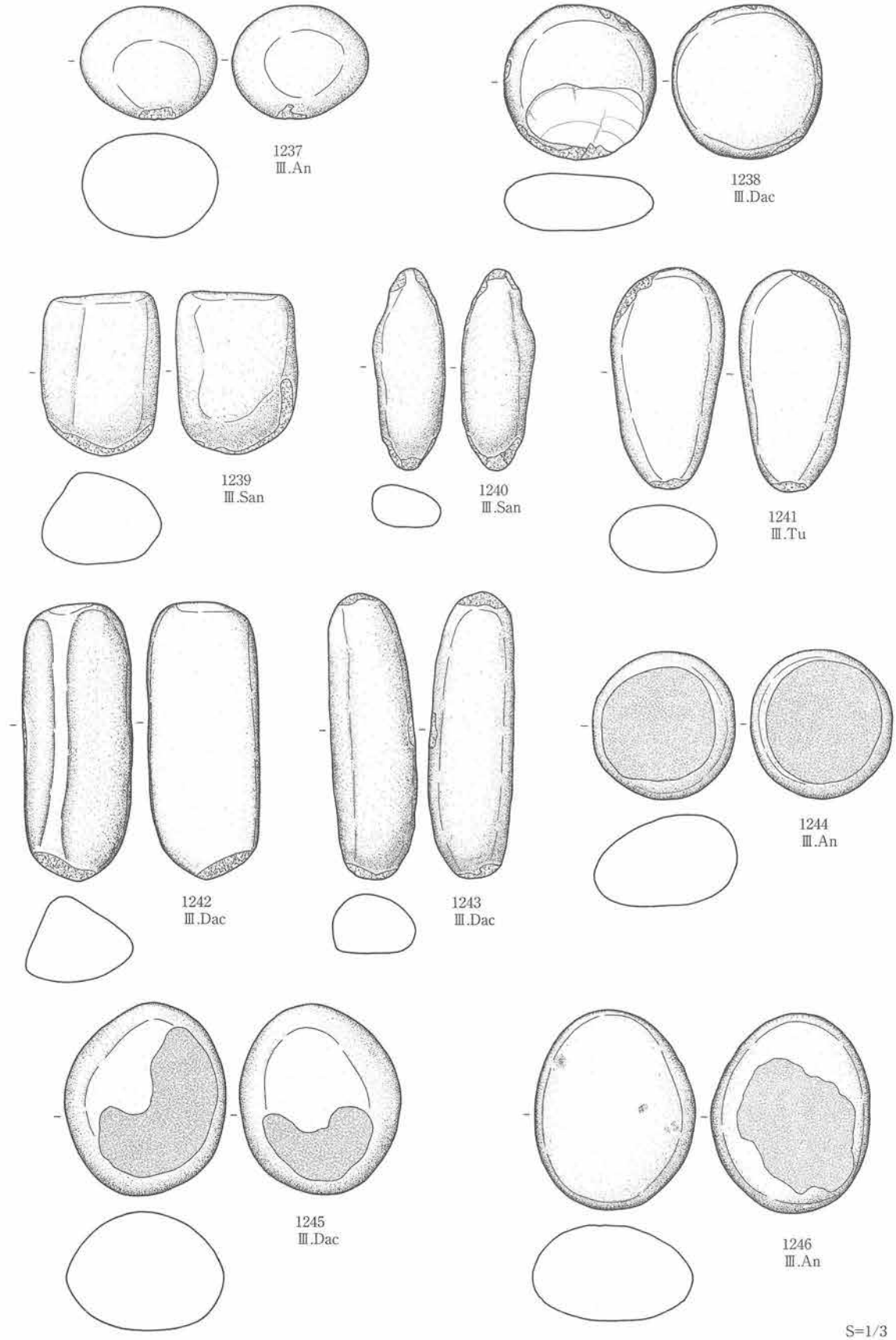
第175図　礫石器（2）


1221
Ⅱ.An
1222
Ⅱ.Dac
1223
Ⅱ.An
1224
Ⅱ.Grano
1225
Ⅱ.An
1226
Ⅱ.An
1227
Ⅱ.Dac
1228
Ⅱ.Dac
S=1/3

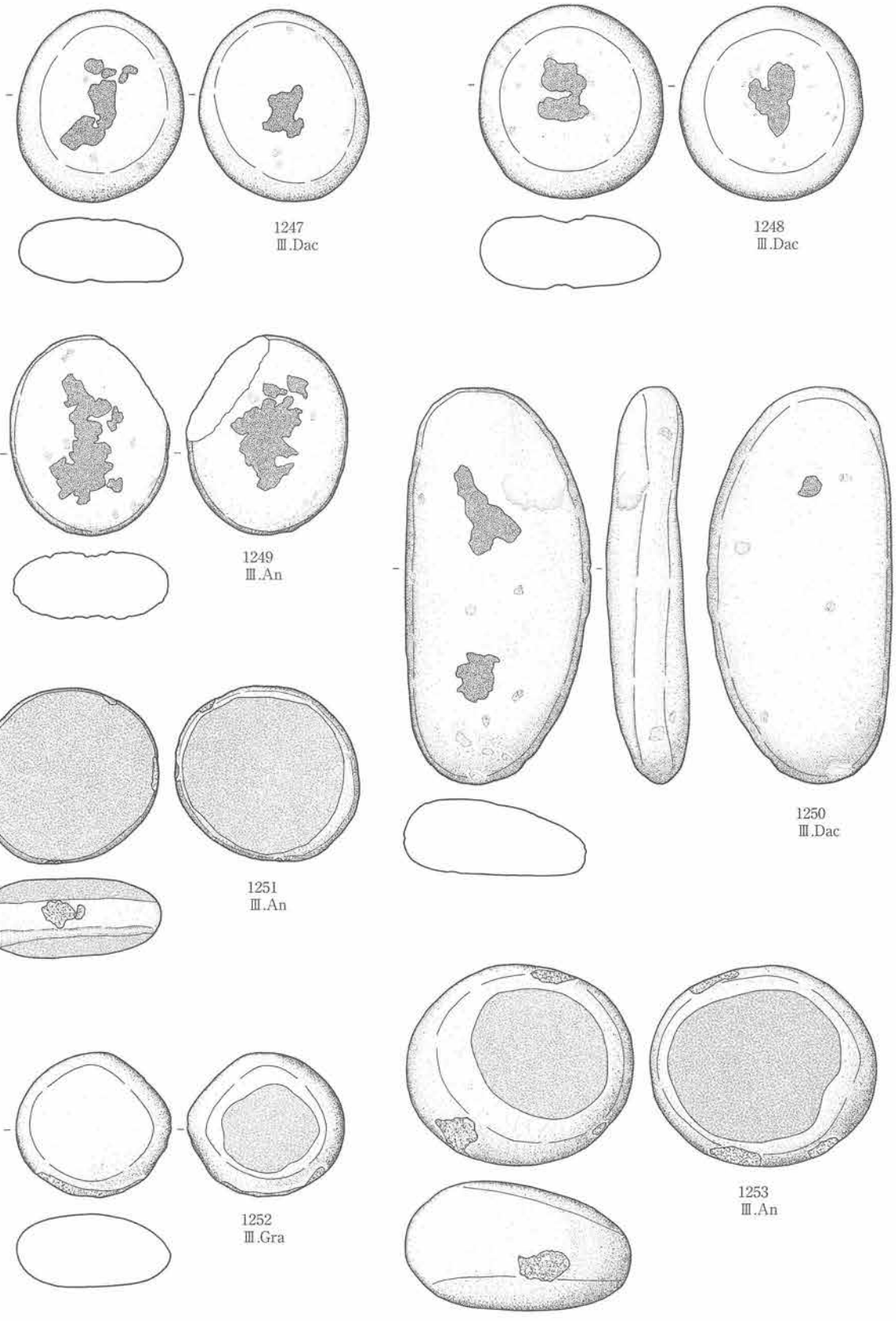
第176図　礫石器（3）


1229
Ⅱ.Pum
1230
Ⅱ.Rsh
1231
Ⅱ～Ⅲ.Grano
1232
Ⅱ～Ⅲ.An
1233
Ⅱ～Ⅲ.An
1234
Ⅱ～Ⅲ.Dac
1235
Ⅱ～Ⅲ.Dac
1236
Ⅱ～Ⅲ.Dac
S=1/3

第177図　礫石器（4）

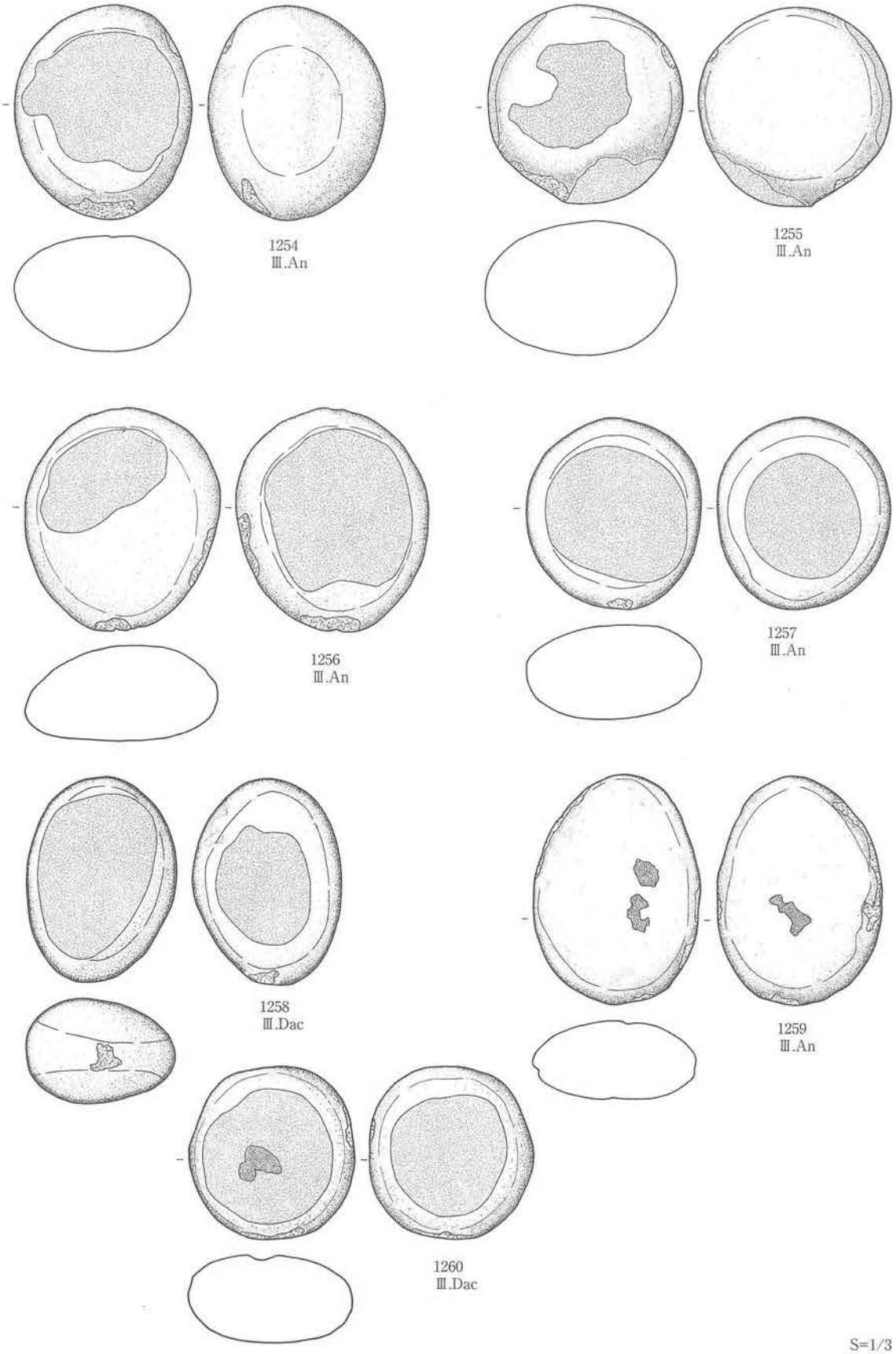

1237
Ⅲ.An
1238
Ⅲ.Dac
1239
Ⅲ.San
1240
Ⅲ.San
1241
Ⅲ.Tu
1242
Ⅲ.Dac
1243
Ⅲ.Dac
1244
Ⅲ.An
1245
Ⅲ.Dac
1246
Ⅲ.An
S=1/3

第178図　礫石器（5）



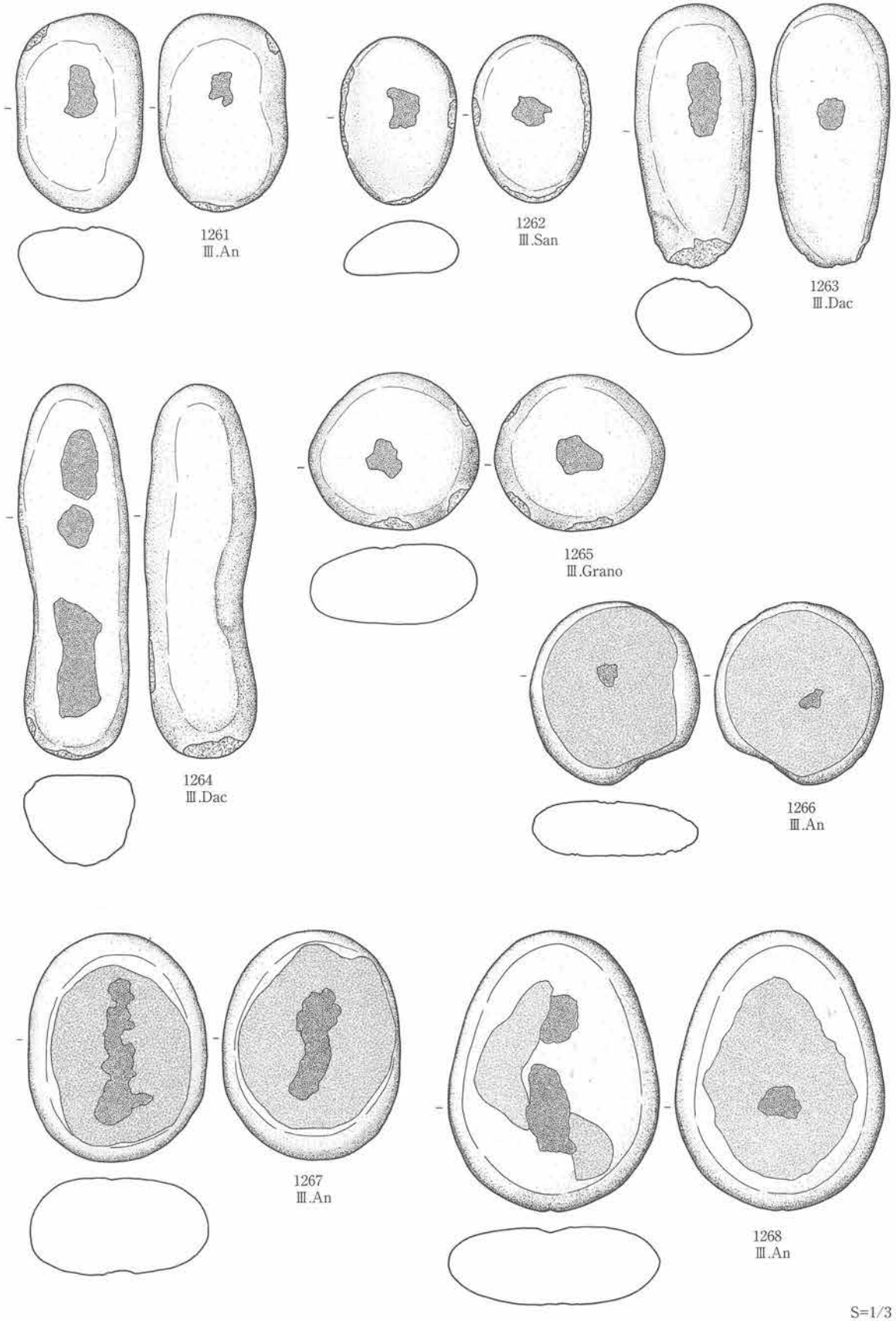
S=1/3

第179図　礫石器（6）

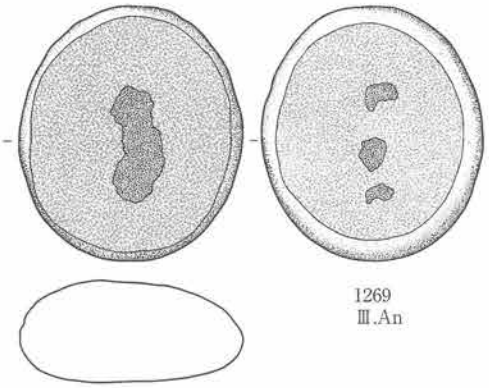


S=1/3

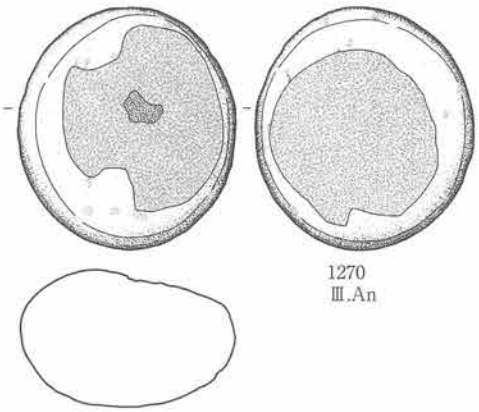
第180図　礫石器（7）


1261
Ⅲ.An
1262
Ⅲ.San
1263
Ⅲ.Dac
1264
Ⅲ.Dac
1265
Ⅲ.Grano
1266
Ⅲ.An
1267
Ⅲ.An
1268
Ⅲ.An
S=1/3

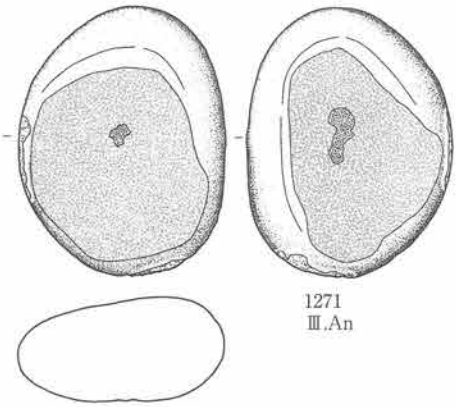
第181図　礫石器（8）



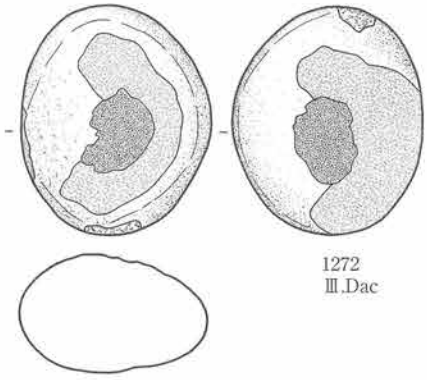
1269
Ⅲ.An



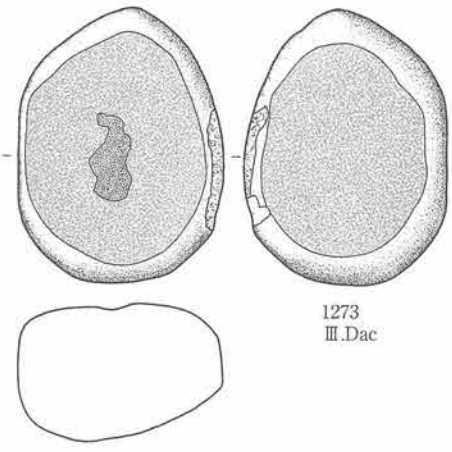
1270
Ⅲ.An



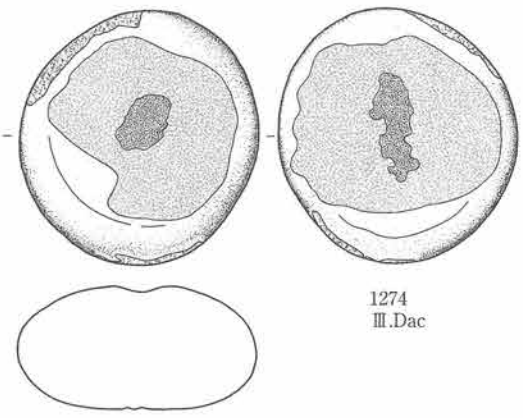
1271
Ⅲ.An



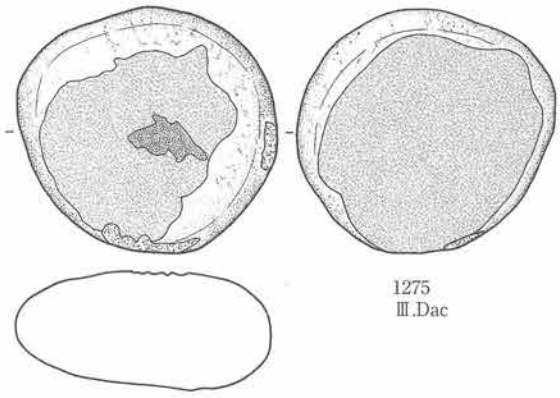
1272
Ⅲ.Dac



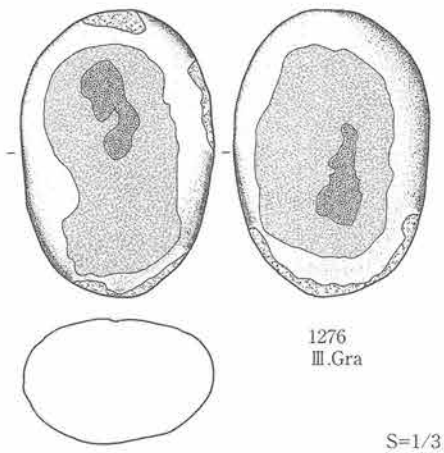
1273
Ⅲ.Dac



1274
Ⅲ.Dac



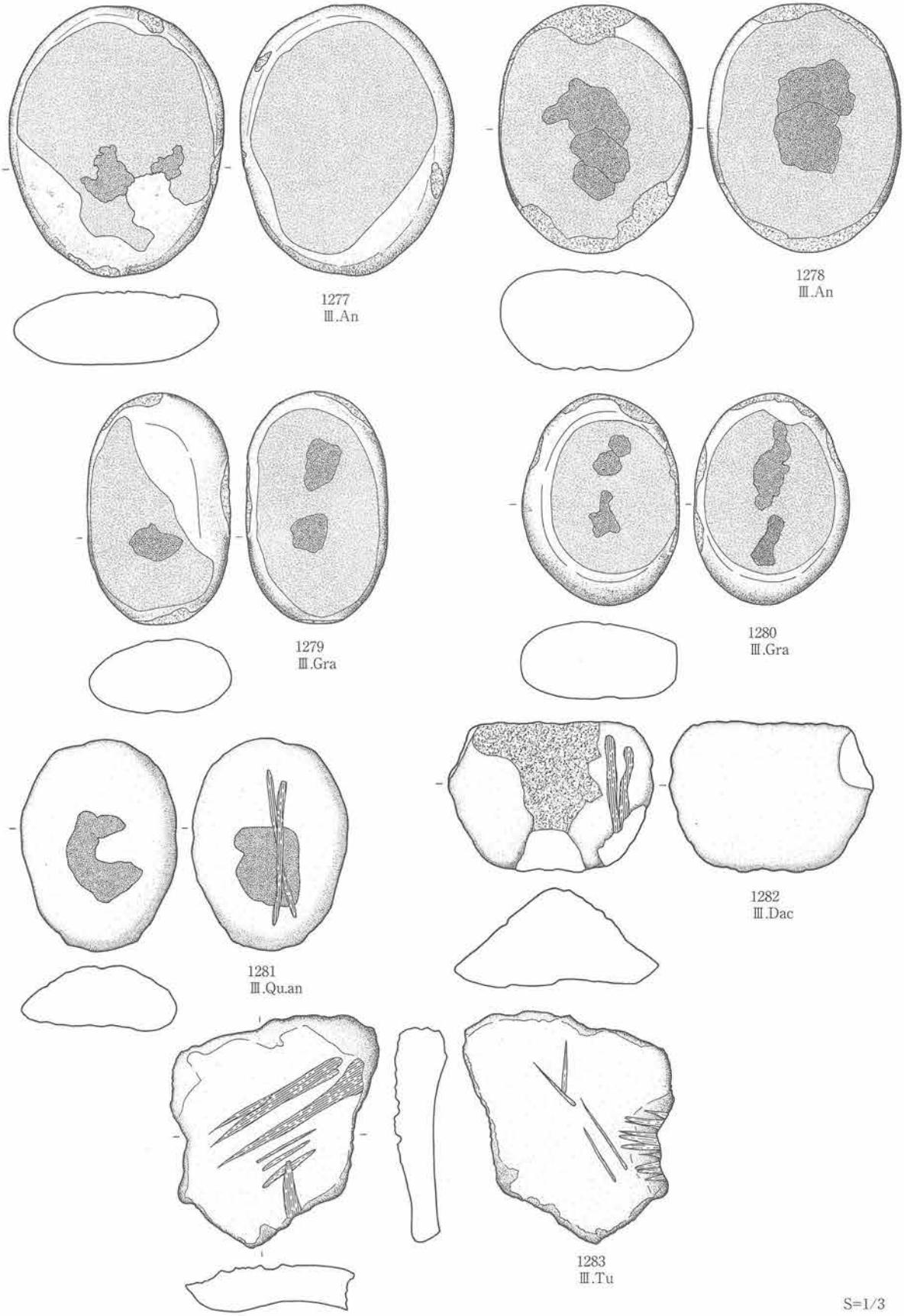
1275
Ⅲ.Dac



1276
Ⅲ.Gra

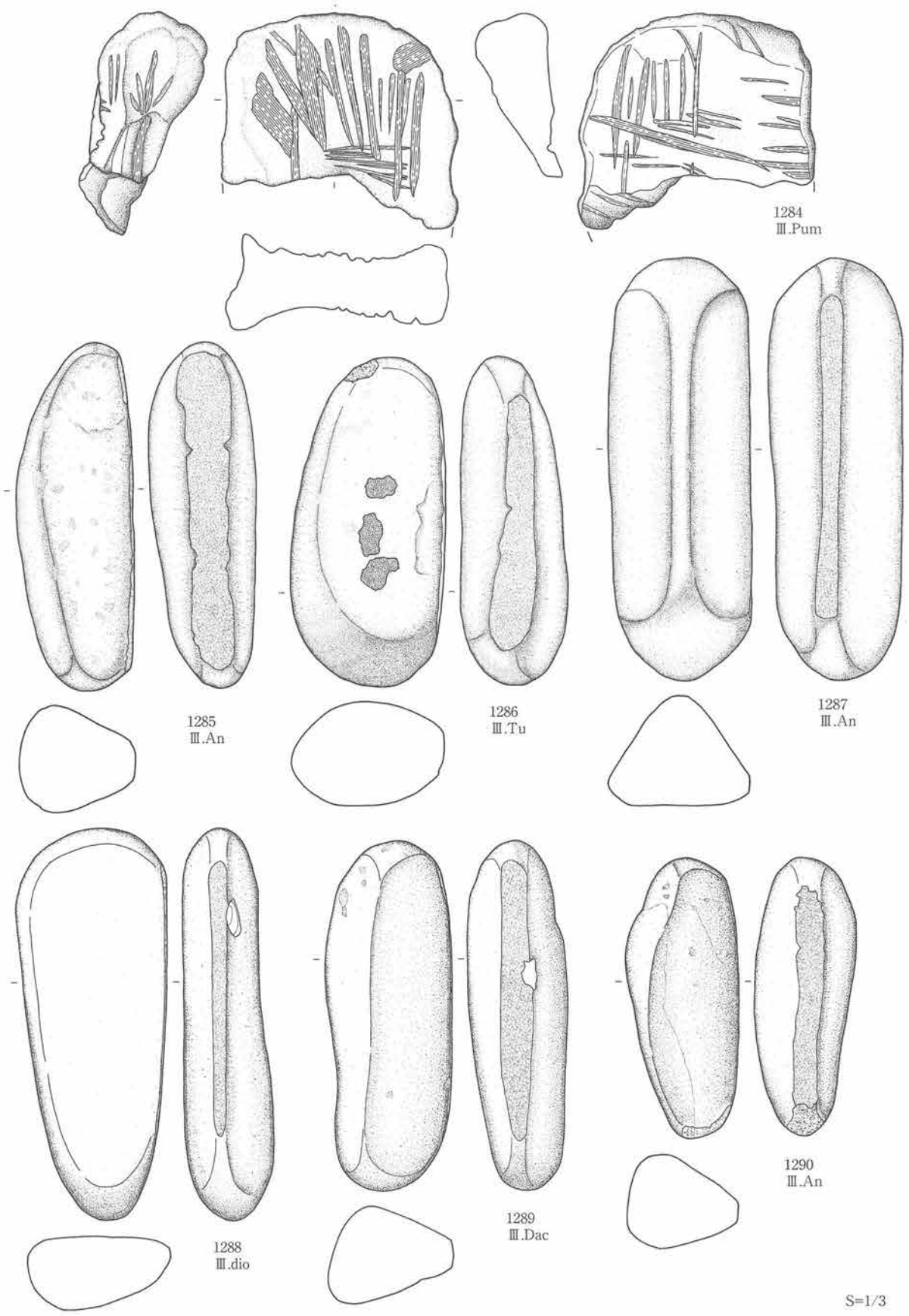
S=1/3

第182図　礫石器（9）

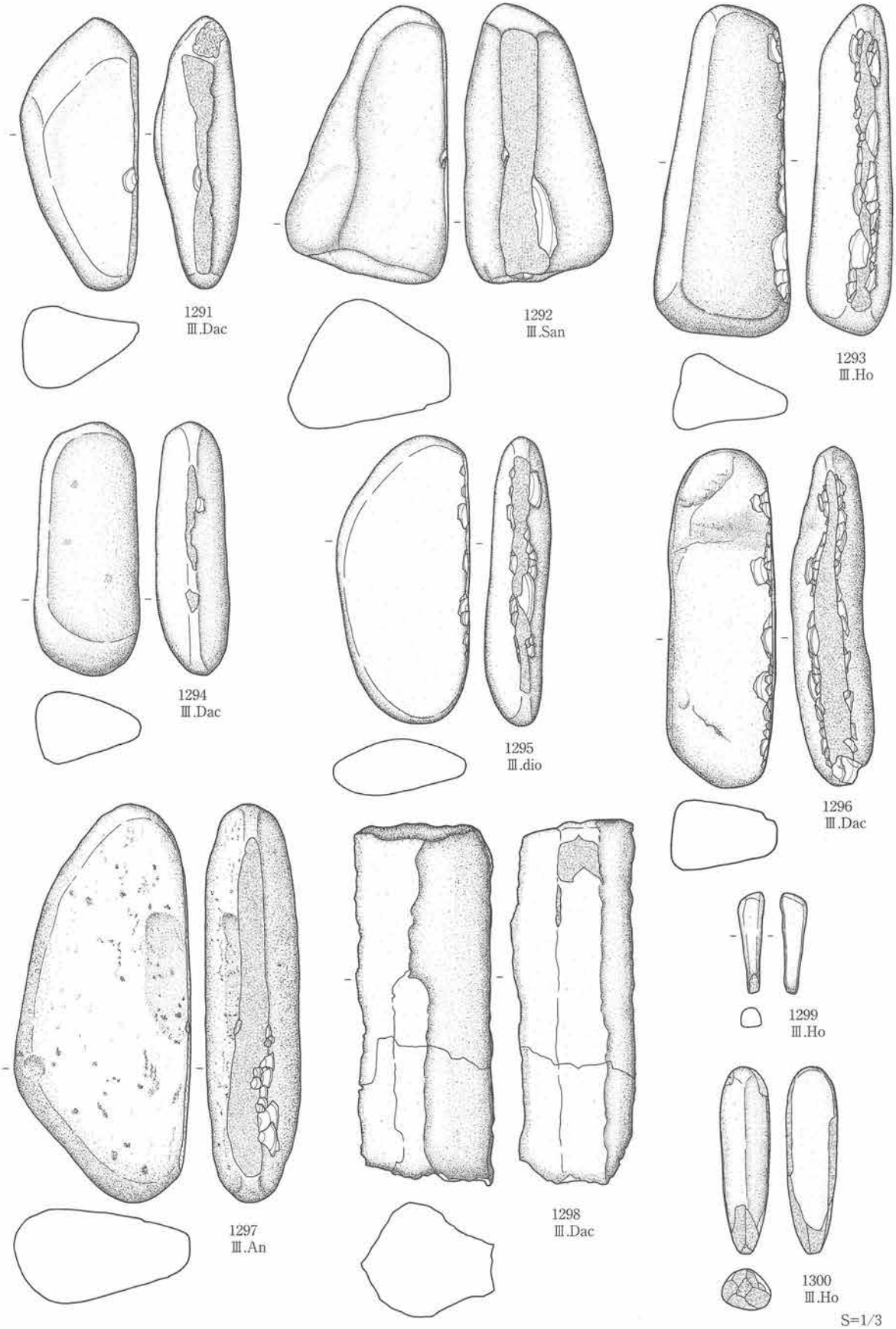


S=1/3

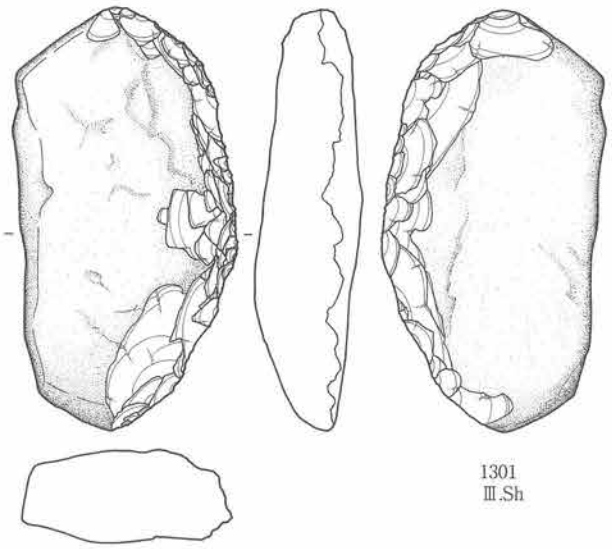
第183図　礫石器（10）


1284
Ⅲ.Pum
1285
Ⅲ.An
1286
Ⅲ.Tu
1287
Ⅲ.An
1288
Ⅲ.dio
1289
Ⅲ.Dac
1290
Ⅲ.An
S=1/3

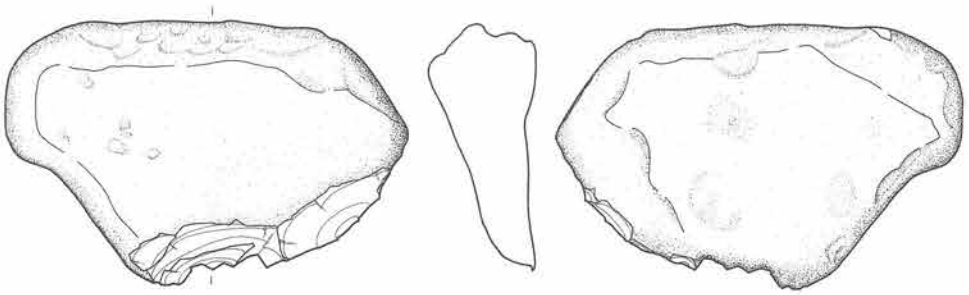
第184図　礫石器（11）


1291
Ⅲ.Dac
1292
Ⅲ.San
1293
Ⅲ.Ho
1294
Ⅲ.Dac
1295
Ⅲ.dio
1296
Ⅲ.Dac
1297
Ⅲ.An
1298
Ⅲ.Dac
1299
Ⅲ.Ho
1300
Ⅲ.Ho
S=1/3

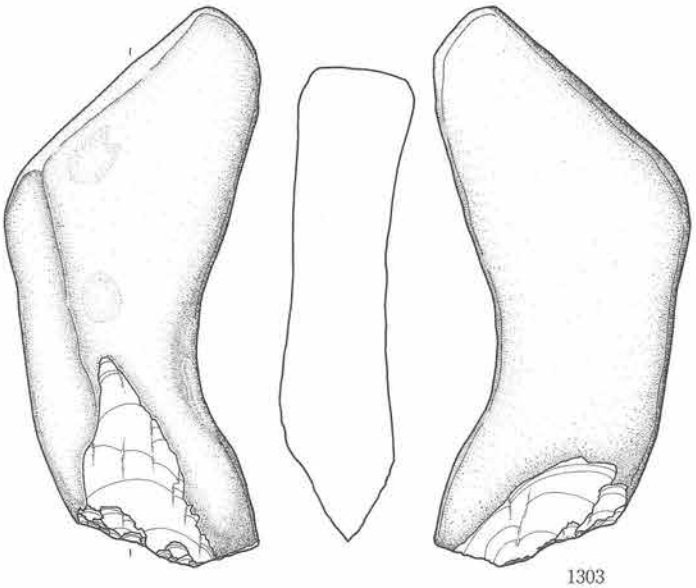
第185図　礫石器（12）



1301
Ⅲ.Sh



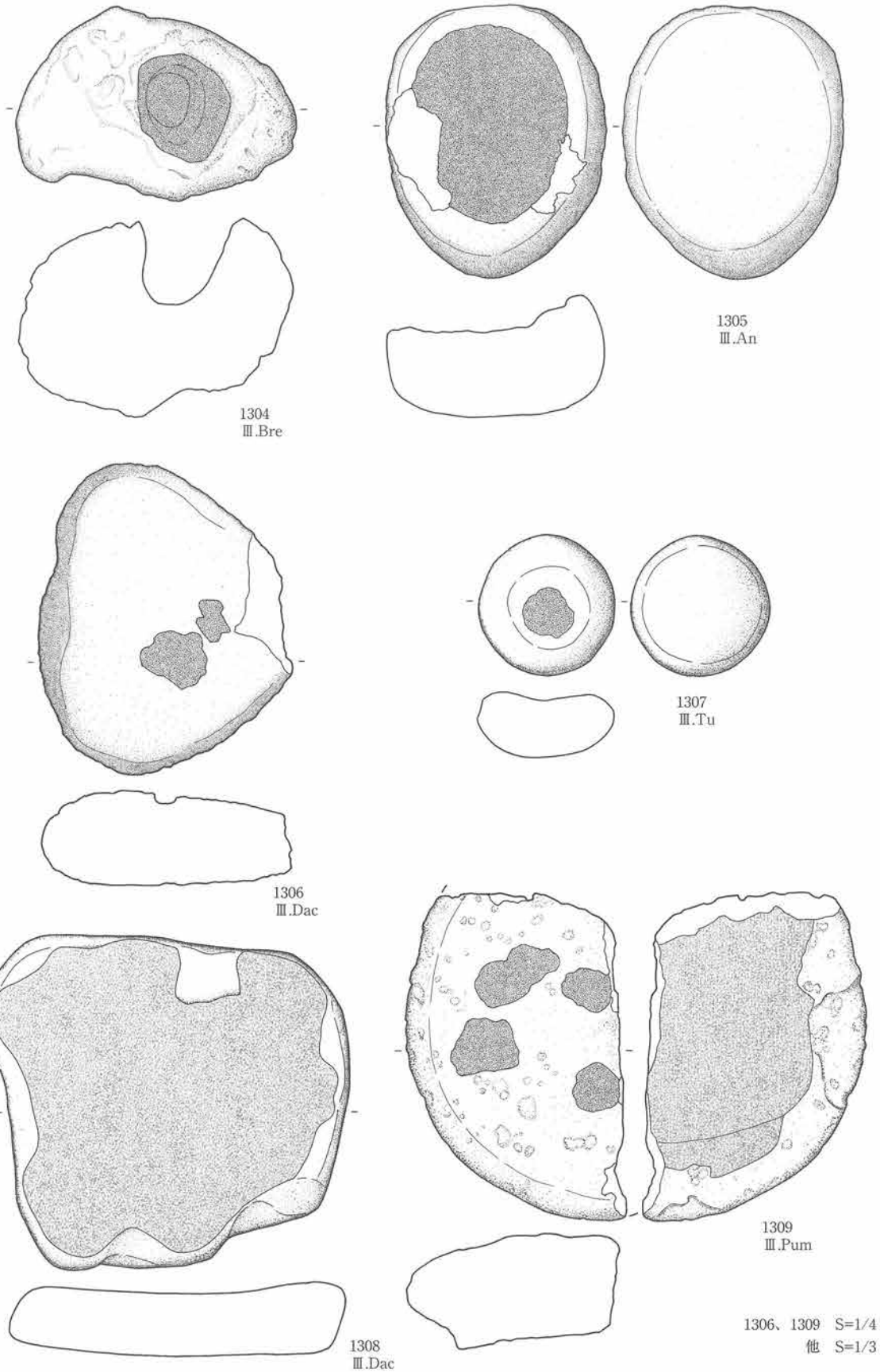
1302
Ⅲ.San



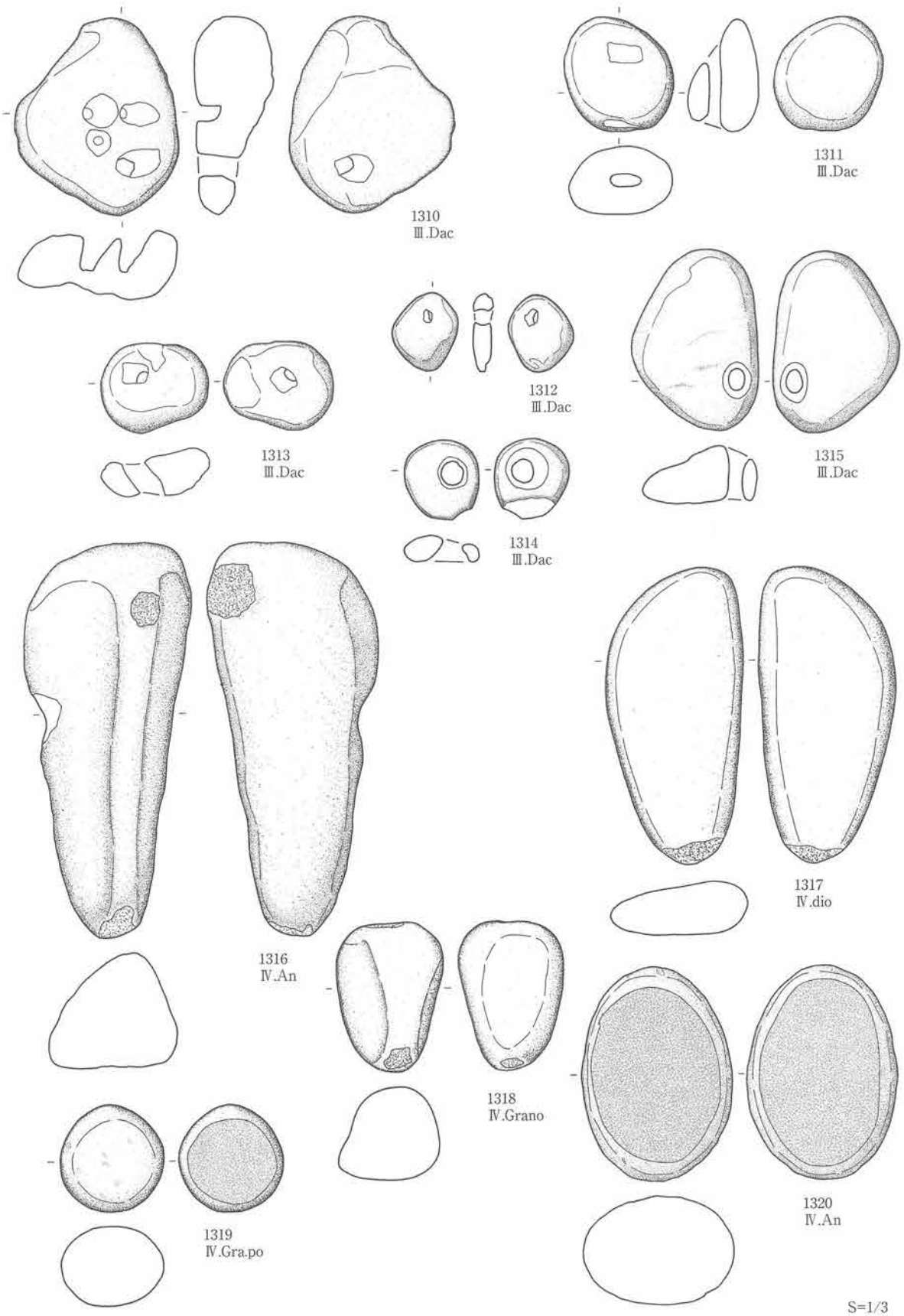
1303
Ⅲ.Qu.sn

S=1/3

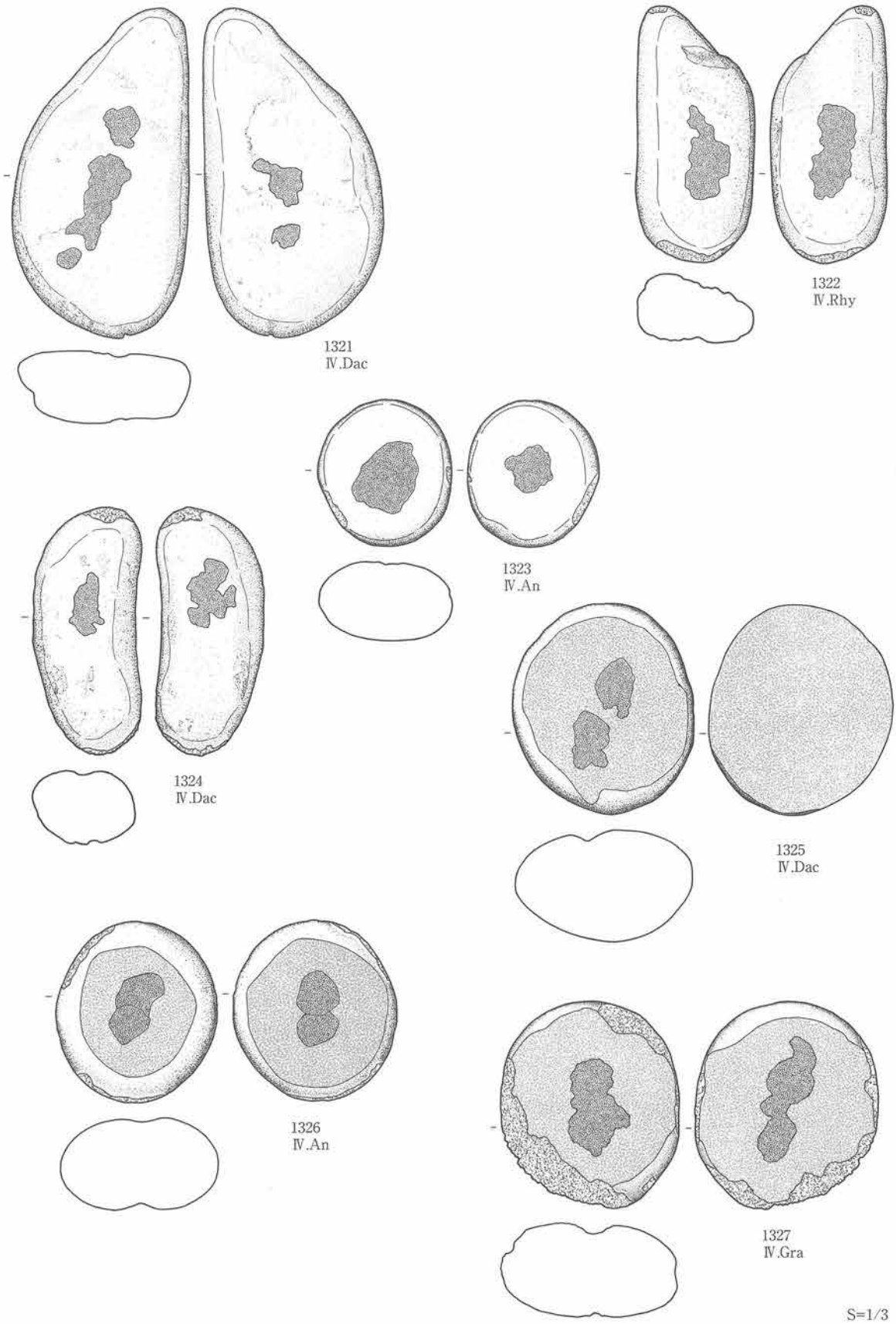
第186図　礫石器（13）


1304
Ⅲ.Bre
1305
Ⅲ.An
1306
Ⅲ.Dac
1307
Ⅲ.Tu
1308
Ⅲ.Dac
1309
Ⅲ.Pum
1306、1309 S=1/4
他 S=1/3

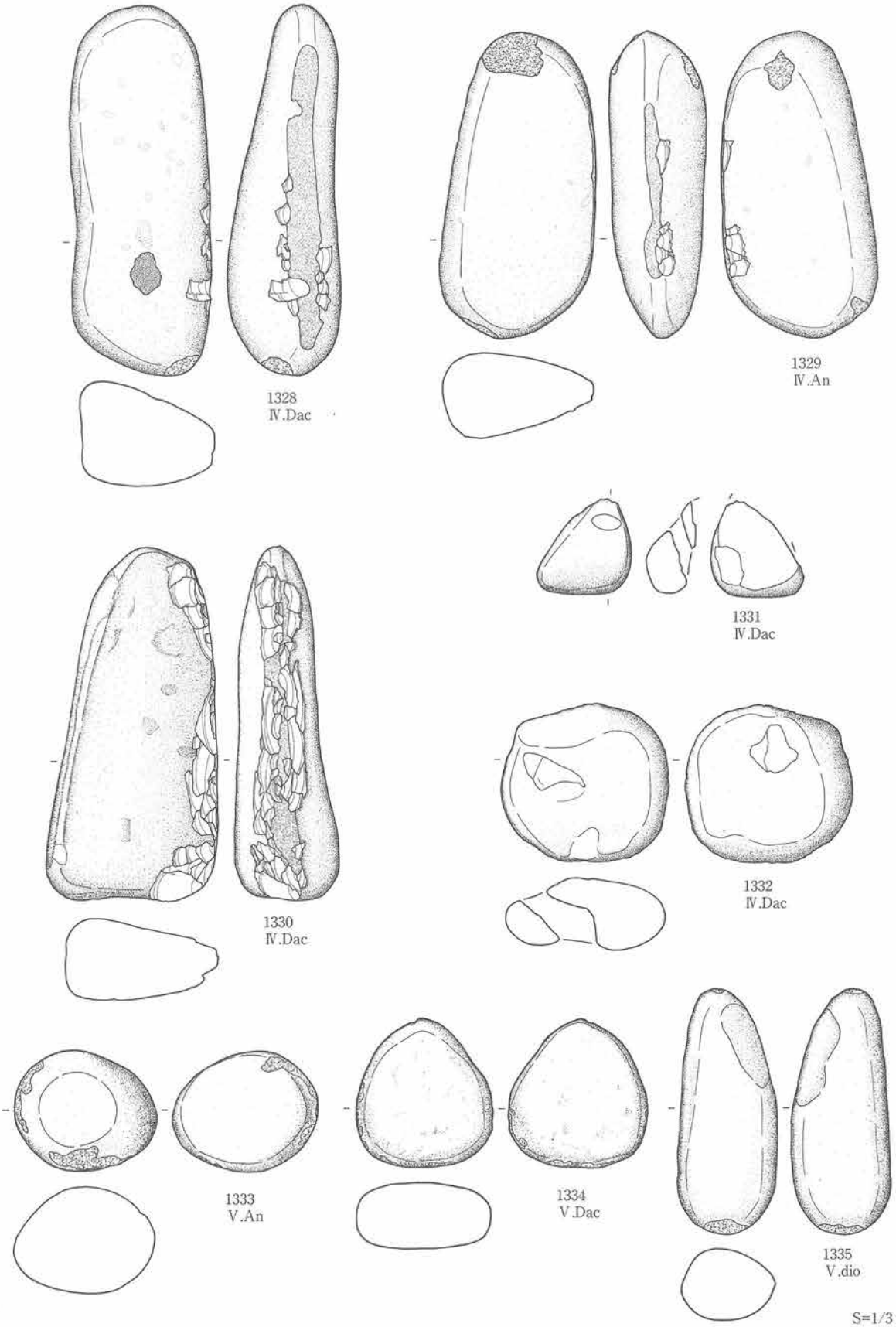
第187図　礫石器（14）


1310
Ⅲ.Dac
1311
Ⅲ.Dac
1312
Ⅲ.Dac
1313
Ⅲ.Dac
1314
Ⅲ.Dac
1315
Ⅲ.Dac
1316
Ⅳ.An
1317
Ⅳ.dio
1318
Ⅳ.Grano
1319
Ⅳ.Gra.po
1320
Ⅳ.An
S=1/3

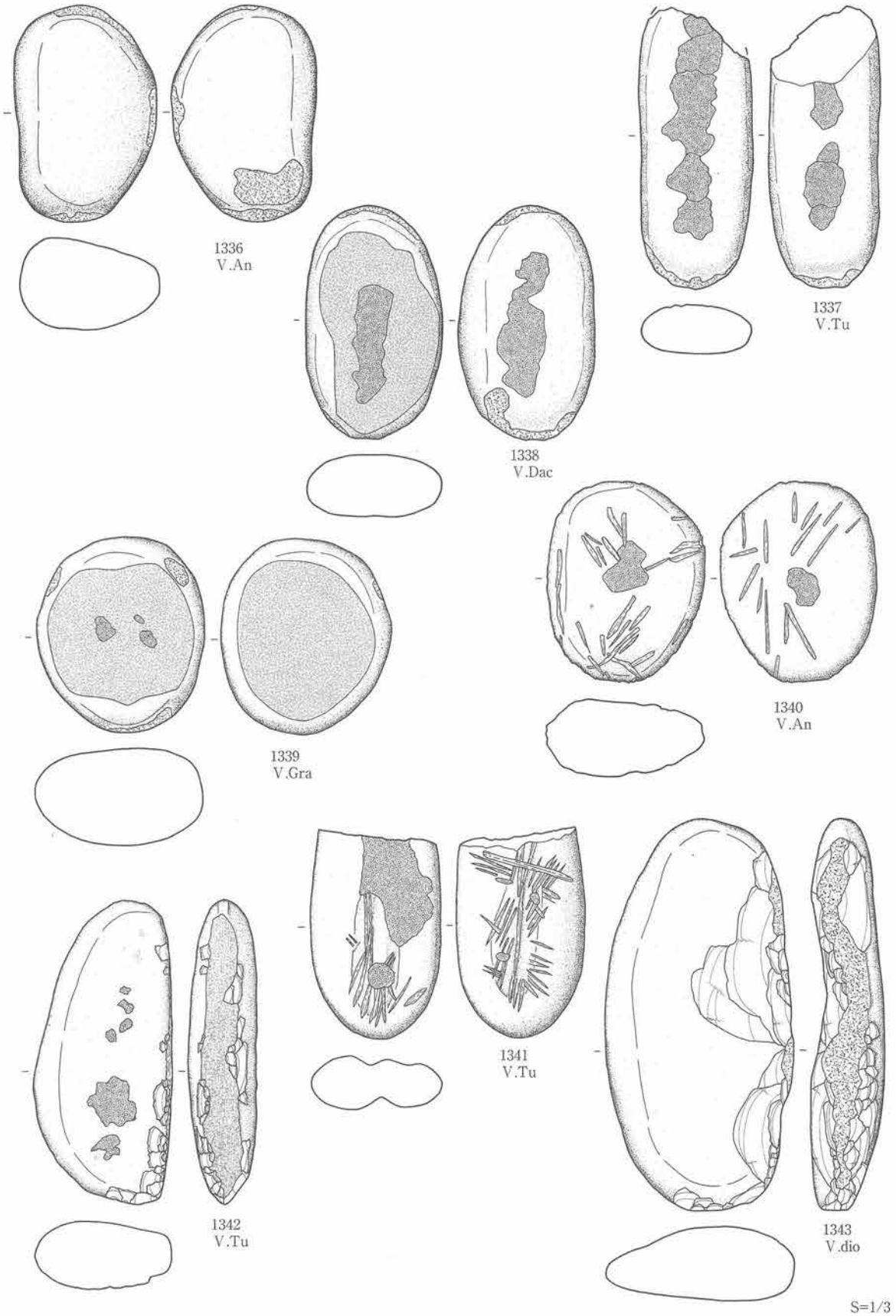
第188図　礫石器（15）


1321
Ⅳ.Dac
1322
Ⅳ.Rhy
1323
Ⅳ.An
1324
Ⅳ.Dac
1325
Ⅳ.Dac
1326
Ⅳ.An
1327
Ⅳ.Gra
S=1/3

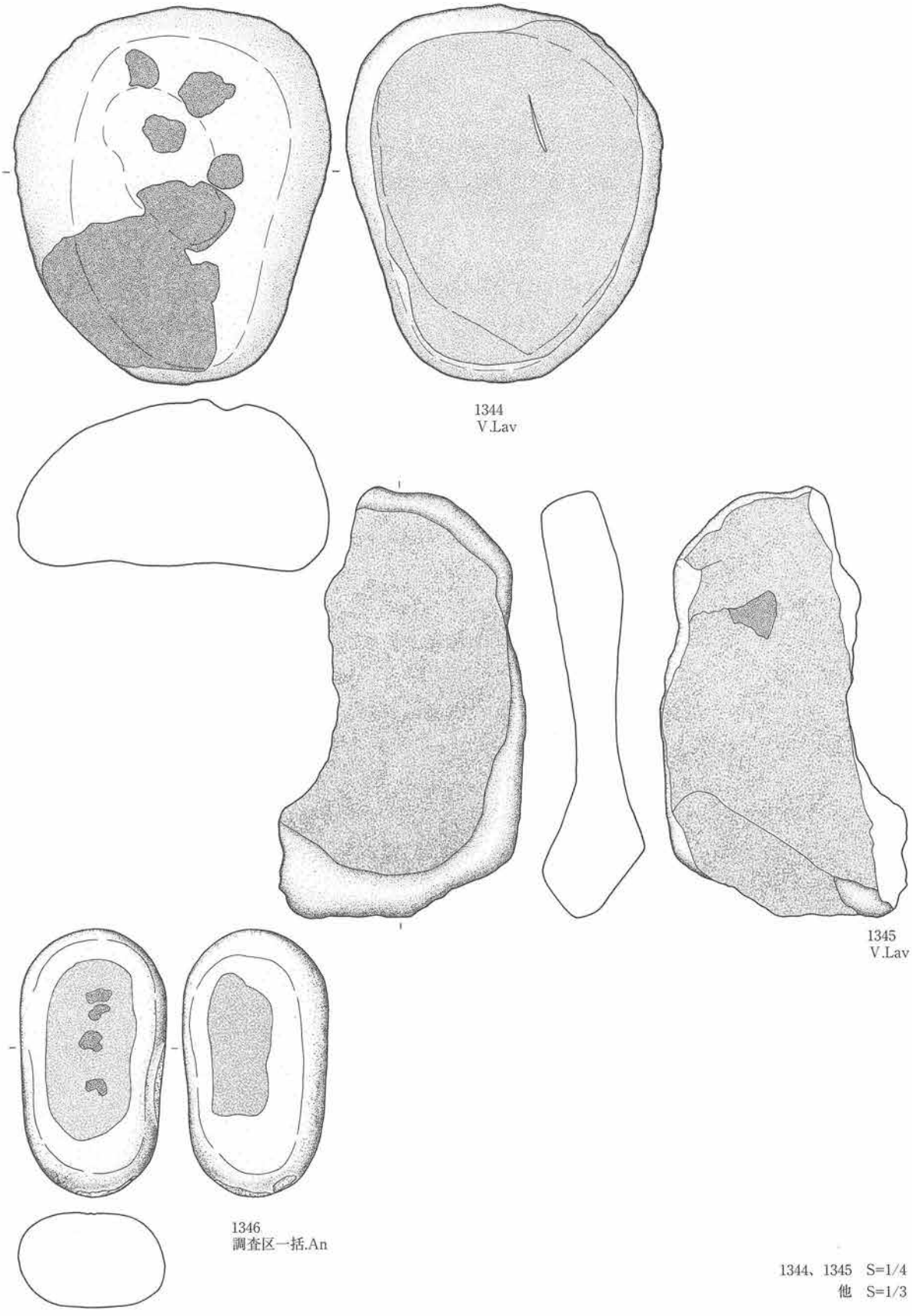
第189図　礫石器（16）


1328
Ⅳ.Dac
1329
Ⅳ.An
1330
Ⅳ.Dac
1331
Ⅳ.Dac
1332
Ⅳ.Dac
1333
V.An
1334
V.Dac
1335
V.dio
S=1/3

第190図　礫石器（17）


1336
V.An
1337
V.Tu
1338
V.Dac
1339
V.Gra
1340
V.An
1341
V.Tu
1342
V.Tu
1343
V.dio
S=1/3

第191図　礫石器（18）



1344、1345　S=1/4
他　S=1/3

第192図　礫石器（19）

4）石製品（第193図）

玦状耳飾・有孔石製品・板状石製品など8点が、Ⅱ層からⅤ層にかけて出土している。また、琥珀が破砕されている状態で出土している。

玦状耳飾

1347と1352は、滑石製の玦状耳飾で欠損品でⅡ層とⅤ層から出土している。残存部位から1347は孔の貫通が見られないことから製作時に、1352は全体及び孔にまで細かな整形されていることから完成後に欠損していると考えられる。

有孔石製品

有孔石製品の中には短冊形有孔石製品、棒状有孔石製品、板状石製品、垂飾が見られ、Ⅲ層からⅤ層にかけて出土している。短冊形と棒状に分類したものは先端部が欠損しているため、明確な区分は困難であったが形状等から判断をしている。

短冊形有孔石製品（1348）はⅡ～Ⅲ層から1点出土している。先端が欠損しているため全体形状は不明であるが、一端に穿孔があり側面に磨痕を有し形成された稜線が直線的で、末端にかけて幅が広がりをみせることから短冊形と判断している。石材は頁岩である。

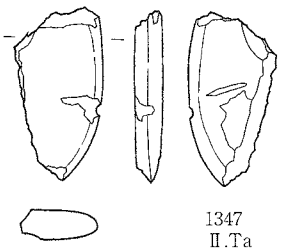
棒状有孔石製品（1354）はⅤ層から1点出土している。欠損しているため全体形状は不明であるが、一端に穿孔があり表裏面のみ磨痕を有し側面にかけて磨痕が確認されず、自然形状をそのまま残していることから棒状と判断している。石材は頁岩である。

板状石製品（1349・1350）はⅢ層から2点出土している。欠損しているため全体形状が不明であるが、全面に磨痕が施されていることから判断している。1350は垂飾の欠損品の可能性もある。両者とも石材は凝灰岩である。

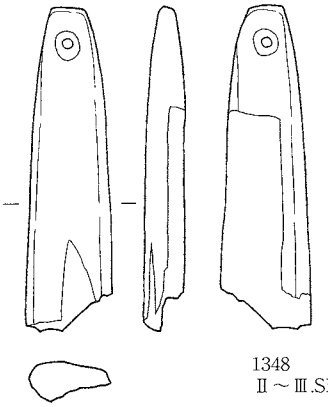
垂飾（1351・1353）はⅢ層とⅤ層から2点出土している。1351は凝灰岩製で欠損品である。1353は頁岩製で全面に研磨が施されてる。

琥珀

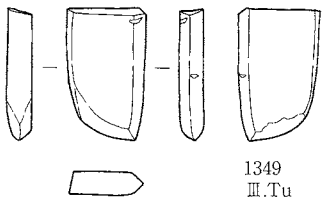
ＧＫ80グリッドⅤ層から出土しており、すべて砕片で総重量は0.6ｇである。自然科学分析を行った結果、原産地は岩手県久慈産もしくは福島県いわき産である（324頁参照）。



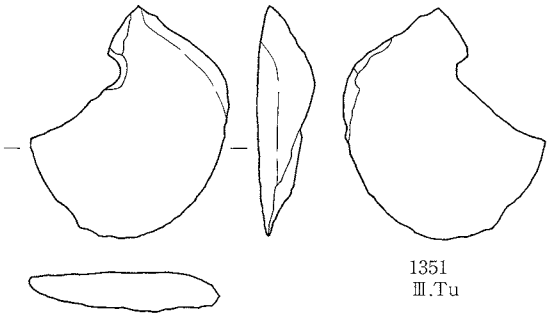
1347
Ⅱ.Ta



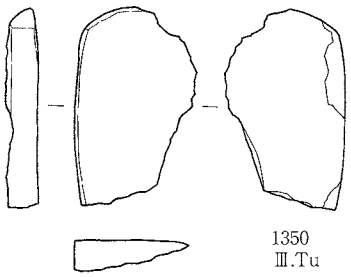
1348
Ⅱ～Ⅲ.Sh



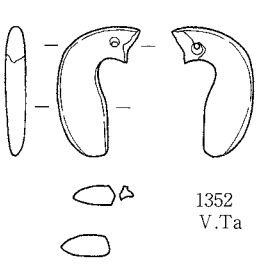
1349
Ⅲ.Tu



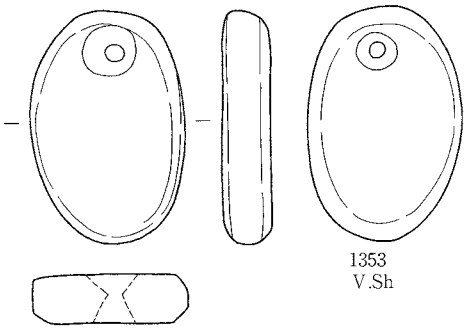
1351
Ⅲ.Tu



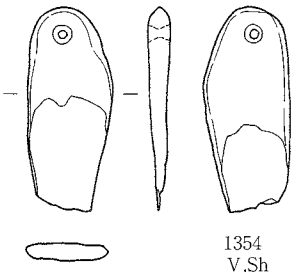
1350
Ⅲ.Tu



1352
V.Ta



1353
V.Sh



1354
V.Sh

S=2/3

第193図　石製品

新番号	配置	平面形	規模	標高	旧番号	備考
1	GH79	円	43×42	78.707	204	
2	GH79	円	25×24	77.590	203	
3	GI79	円	26×25	77.740	205	
4	GI80	楕円	25×19	76.660	8	
5	GI80	円	25×21	76.645	1	
6	GI79	円	35×26	76.665	2	
7	GI79	隅丸	61×48	76.650	7	
8	GI80	隅丸	26×25	76.725	6	
9	GI80	円	26×23	77.610	202	
10	GI80	円	22×21	77.635	201	
11	GI80	円	27×24	76.570	4	
12	GI80	円	23×21	76.630	5	
13	GJ80	不整方形	48×39	76.325	3	
14	GJ80	楕円	39×19	76.320	40	
15	GJ80	円	27×26	77.210	197	
16	GJ80	円	27×25	77.550	200	
17	GJ80	円	28×25	77.480	198	
18	GJ81	円	35×32	76.435	9	
19	GK78	円	25×25	77.510	191	
20	GK78	円	22×21	77.550	82	
21	GK78	不整円形	28×14	77.490	74	
22	GK78	円	20×18	77.470	81	
23	GK78	楕円	20×16	77.550	99	
24	GK78	円	19×16	77.575	83	
25	GK78	不整円形	27×26	77.525	84	
26	GK78	円	31×29	77.240	190	
27	GK78	円	37×37	77.180	75	
28	GK79	楕円	33×23	76.935	139	
29	GK79	隅丸	19×16	−	42	
30	GK79	楕円	13×10	−	41	
31	GK79	楕円	21×15	76.545	30	
32	GK79	円	22×20	77.055	138	
33	GK79	円	21×19	76.580	31	
34	GJ80	不整円形	33×22	76.525	33	
35	GK79	不整円形	24×21	76.375	32	
36	GK79	楕円	23×19	76.535	34	
37	GK79	円	29×26	76.480	35	
38	GK79・GL79	不整円形	36×18	76.375	36	
39	GK79	不整方形	75×45	76.173	20	SI03P13
40	GK80	楕円	21×17	76.545	38	
41	GK80	楕円	24×18	76.455	37	
42	GK80	不整方形	40×23	−	39	
43	GK80	楕円	30×25	77.425	136	
44	GK81	円	19×16	77.220	209	
45	GK80・GK81	楕円	24×18	77.120	208	
46	GK80	円	27×25	76.980	122	
47	GK80・GK81	円	52×48	76.600	123	
48	GL78	円	16×13	77.400	78	
49	GL78	隅丸	18×18	77.320	188	
50	GL78	円	47×43	77.270	100	
51	GK78・GL78	円	22×21	77.120	132	
52	GL78	楕円	29×24	76.960	76	
53	GL78	円	27×25	77.300	77	
54	GL78	円	45×43	77.200	79	

第42表　柱穴観察表（1）

新番号	配置	平面形	規模	標高	旧番号	備考
55	GL78	楕円	44×34	77.080	80	
56	GL78	円	29×27	77.270	189	
57	GL78	円	37×35	77.260	101	
58	GL78	円	25×23	77.010	130	
59	GL79	円	31×28	77.240	43	
60	GL79	楕円	49×28	77.385	85	
61	GL79	円	32×27	76.305	11	ＳＩ03Ｐ2
62	GL79	楕円	25×19	－	10	ＳＩ03Ｐ1
63	GK79・GL79	隅丸	40×40	76.785	103	
64	GL79	隅丸	41×39	77.070	86	
65	GL79	円	22×22	76.790	176	
66	GL80	円	25×23	77.050	206	
67	GL79・GL80	円	21×21	77.110	127	
68	GL79	不整円形	38×30	77.050	97	
69	GL79	円	22×21	76.900	98	
70	GL80	円	17×16	76.995	134	
71	GL80	楕円	30×18	76.960	131	
72	GL80	円	30×28	76.945	104	
73	GL80	楕円	50×35	76.715	105	
74	GL80	隅丸	41×39	76.855	95	
75	GL80	円	23×19	76.960	96	
76	GL80	円	34×32	77.145	106	
77	GL80	円	14×13	77.010	128	
78	GL80	円	20×18	76.870	192	
79	GL80	不整円形	20×15	76.710	207	
80	GL80・GL81	隅丸	71×55	76.535	120	
81	GL81	円	20×18	76.810	194	
82	GL81	円	20×17	77.000	193	
83	GL81	隅丸	40×40	76.630	124	
84	GL81	楕円	25×20	76.740	141	
85	GL81	円	36×34	76.690	164	
86	GL80・GL81	楕円	26×22	77.145	153	
87	GL81	不整円形	25×23	76.550	165	
88	GL81	楕円	34×23	76.760	119	
89	GL81	円	27×26	77.100	118	
90	GM81	楕円	45×27	77.065	117	
91	GM81	円	31×28	76.980	163	
92	GL81	円	17×16	76.900	125	
93	GL81	円	22×19	77.160	145	
94	GL81	楕円	30×22	76.815	146	
95	GL81	楕円	28×20	76.790	140	
96	GK82	楕円	26×20	76.975	126	
97	GL78	円	22×21	77.240	44	
98	GL78	円	30×27	77.070	45	
99	GL78	楕円	50×23	76.334	15	ＳＩ03Ｐ3
100	GL78	円	32×28	76.920	46	
101	GM78	楕円	34×28	77.140	49	
102	GL78	楕円	26×22	77.200	181	
103	GM78	円	37×36	76.850	47	
104	GL78	円	30×28	77.040	48	
105	GM78	円	16×16	77.190	180	
106	GL79	円	46×45	76.940	89	
107	GM79	円	11×10	77.030	173	
108	GM79	円	19×17	76.920	174	

第43表　柱穴観察表（2）

新番号	配置	平面形	規模	標高	旧番号	備考
109	GL79	楕円	33×22	77.130	87	
110	GL79	円	23×23	77.230	88	
111	GL79	円	22×22	77.090	175	
112	GL79	楕円	44×28	76.740	133	
113	GM79	楕円	27×18	76.960	102	
114	−	−	−	−	−	
115	GM79	円	17×15	76.920	172	
116	GM79	円	17×15	77.115	171	
117	GM79	円	15×12	77.080	170	
118	GM79	円	22×20	77.100	169	
119	GM79	円	25×20	76.224	12	SI03P9
120	GM79	隅丸	45×37	76.740	91	
121	GM79	円	16×13	76.291	13	SI03P11
122	GM79	楕円	63×43	76.049	22	SI03P8
123	GL79・GM79	楕円	37×17	76.292	21	SI03P12
124	GL79	円	11×11	77.130	184	
125	GM79・GM80	円	23×22	77.040	57	
126	GM80	円	17×15	77.020	183	
127	GM79・GM80	円	13×11	77.170	185	
128	GM79・GM80	円	15×14	77.040	186	
129	GM80	円	37×35	76.760	187	
130	GM80	円	31×30	76.965	182	
131	GL80	楕円	17×13	76.945	56	
132	GM80	円	25×24	76.930	107	
133	GM80	楕円	42×35	76.840	108	
134	GM80	楕円	41×31	76.680	111	
135	GM80	円	17×16	77.135	154	
136	GM80	円	18×16	77.080	110	
137	GM81	円	22×22	77.050	113	
138	GM81	円	29×29	77.090	112	
139	GM81	円	25×22	76.950	160	
140	GM81	円	26×22	77.020	114	
141	GM81	円	35×29	76.990	161	
142	GM81	円	17×16	77.160	115	
143	GM81	楕円	42×26	77.000	159	
144	GM81	円	17×16	77.070	178	
145	GM81	円	15×13	76.955	156	
146	GM81	円	15×13	76.880	157	
147	GM81	円	22×21	76.965	116	
148	GM81	円	27×27	76.895	155	
149	GM78	円	14×13	77.145	52	
150	GM78	円	26×23	76.770	53	
151	GM78	不整円形	45×33	77.070	50	
152	GM78	不整円形	49×39	76.660	51	
153	GM78	円	34×25	76.128	19	SI04P4
154	GM78	隅丸	38×38	76.970	54	
155	GM78	円	32×31	77.070	55	
156	GM78	円	17×16	77.030	177	
157	GM78	隅丸	44×38	76.860	168	
158	GN79	楕円	45×34	77.080	167	
159	GN78	楕円	37×21	76.322	18	SI03P5
160	GN79	楕円	17×11	−	17	SI03P6
161	GN79	円	25×23	76.170	16	SI03P7
162	GN79	楕円	26×19	76.960	73	

第44表　柱穴観察表（3）

新番号	配置	平面形	規模	標高	旧番号	備考
163	GN79	円	32×32	76.820	92	
164	GN79	楕円	42×29	76.120	14	SI03P10
165	GM79・GN79	楕円	52×33	76.520	93	
166	GN79	楕円	61×51	76.930	94	
167	GN79	円	33×32	76.860	179	
168	GN80	円	28×25	77.000	150	
169	GN80	円	25×25	76.900	109	
170	GN80	円	21×21	76.890	151	
171	GN80	円	32×31	76.750	152	
172	GN79	円	17×17	76.960	58	
173	GN78	円	20×20	76.965	59	
174	GN78	円	16×15	76.980	148	
175	GN78	円	13×13	77.100	147	
176	GN79	円	27×27	76.945	149	
177	GN79	円	37×35	76.715	60	
178	GN79	円	25×25	76.990	61	
179	GN78	楕円	14×12	76.930	196	
180	GN79・GO79	円	20×19	76.965	195	
181	GN78	不整円形	35×26	76.870	62	
182	GN78・GO78	不整円形	45×37	76.790	129	
183	GO78	不整円形	50×42	76.720	63	
184	GO78	不整円形	22×21	76.640	67	
185	GO79	円	19×19	76.990	64	
186	GO78・GO79	円	33×32	76.970	68	
187	GO78・GO79	円	29×28	76.790	70	
188	GO79	円	26×25	76.750	69	
189	GO79	円	23×20	76.830	71	
190	GO78・GO79	円	31×30	76.600	72	
191	GO79	円	15×14	76.860	142	
192	GO79	円	11×11	76.915	65	
193	GO79	円	12×10	76.980	144	
194	GO79	円	15×13	76.990	143	
195	GO79	円	16×15	77.140	66	
196	GO79	円	29×28	76.870	166	
197	GO79	楕円	31×28	76.740	121	
198	GO79	円	17×16	76.850	135	
199	GO79	楕円	25×21	76.710	137	
200	−	−	−	−	−	
201	EM76	円	40×34	79.140	1	
202	EM75	円	34×26	79.200	2	
203	EM75	円	40×38	79.220	3	
204	EN75	楕円	28×20	79.200	4	
205	EN75	円	46×41	79.170	5	
206	FH78	円	24×22	79.020	6	
207	FI79	円	20×20	79.020	7	
208	FI79	円	19×18	79.000	8	
209	FI79	円	28×16	79.050	9	
210	FJ78	楕円	38×23	78.860	10	
211	FK79	円	22×17	78.970	11	
212	FK78	楕円	29×22	78.920	12	
213	FI79	円	18×15	79.050	13	
214	FH79	円	20×19	78.960	14	

第45表　柱穴観察表（4）

第46表　土器観察表（1）

遺物No	図版No	写図No	登録No	分類	部　位	出土地点	出土層位	口径	最大径	器高	底径	器厚	色　調	文　様　・　特　徴	施文原体	備　考
1	15	17	14	Ⅰ	口縁	ＳＩ01	埋土	－	－	5.4	－	－	灰黄褐	口縁：単頭突起・やや肥厚．波頂部直下に円形凹孔．棒状工具・半截竹管による沈線．	－	
2	15	17	15	Ⅰ	口縁	ＳＩ01	埋土	－	－	4.4	－	－	にぶい黄褐	口縁：ドーナツ状貼付．	ＬＲ	
3	15	17	16	Ⅰ	口縁	ＳＩ01	埋土	－	－	5.4	－	－	にぶい黄橙	口縁：波状縁．肥厚．棒状工具による沈線．隆帯（半截竹管による沈線）．	ＬＲ	
4	15	17	17	Ⅰ	口縁	ＳＩ01	埋土	－	－	4.3	－	－	褐	口縁：単頭突起．波頂部に縦位隆帯．棒状工具による沈線．やや肥厚．	－	
5	15	17	18	Ⅰ	口縁	ＳＩ01	埋土	－	－	3.9	－	－	黒褐	口縁：平縁．口唇部棒状工具による刻み．棒状工具による沈線．横位隆帯（半截竹管による刺突）．	－	
6	15	17	19	Ⅰ	口縁	ＳＩ01	埋土	－	－	5.6	－	－	暗褐	口縁：波状縁．棒状工具・半截竹管による沈線．ボタン状貼付文．	－	
7	15	17	20	Ⅰ	口縁	ＳＩ01	埋土	－	－	5.4	－	－	灰黄褐	口縁：単頭突起．やや肥厚．波頂部直下に円形凹孔．棒状工具・半截竹管による沈線．	－	
8	15	17	21	Ⅰ	口縁	ＳＩ01	埋土	－	－	5.7	－	－	黒褐	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．	ＬＲ	
9	15	17	22	ＩＣ	口縁	ＳＩ01	埋土	－	－	10.2	－	－	暗褐	口縁：平縁．半截竹管による沈線．	－	
10	15	17	23	Ⅰ	口縁	ＳＩ01	埋土	－	－	4.4	－	－	にぶい褐	口縁：波状縁．やや肥厚．斜位・横位隆帯．	ＬＲ	
11	15	17	24	Ⅰ	口縁	ＳＩ01	埋土	－	－	5.9	－	－	にぶい黄褐	口縁：波状縁．肥厚．波頂部直下に円形刺突．棒状工具による沈線．	－	
125	33	28	49	Ⅰ	口縁～胴部	ＳＩ02	埋土	－	－	6.9	－	－	暗褐	口縁：平縁．横位隆帯（半截竹管による沈線）．	ＬＲ	
126	33	28	54	Ⅰ	口縁～胴部	ＳＩ02	埋土	－	－	12.8	－	－	灰黄褐	ボタン状貼付文．半截竹管による沈線．隆帯（棒状工具による沈線）．粘土粒貼付．	ＬＲ	
138	36	29	25	Ⅰ	口縁	ＳＩ03	埋土	－	－	7.4	－	－	にぶい黄橙	口縁：波状縁．やや肥厚．波頂部に円形凹孔．斜位・横位隆帯．半截竹管による沈線．	－	
139	36	29	26	Ⅰ	口縁	ＳＩ03	埋土	－	－	8.7	－	－	暗褐	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．	－	
148	38	29	8	ＩＤ	口縁～胴部	ＳＩ04	埋土	(14.7)	14.8	19.9	－	0.8	褐	口縁：平縁．	ＬＲ	
149	38	29	27	Ⅰ	口縁	ＳＩ04	埋土	－	－	4.7	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．横位隆帯（棒状工具による刺突）．半截竹管による沈線．	－	
150	38	29	28	Ⅰ	口縁	ＳＩ04	埋土	－	－	6.8	－	－	黒褐	口縁：平縁．	撚糸Ｌ	
151	38	29	29	Ⅰ	口縁	ＳＩ04	埋土	－	－	3.8	－	－	褐	口縁：平縁．やや肥厚．半截竹管・棒状工具による沈線．	－	
152	38	29	30	Ⅰ	口縁	ＳＩ04	埋土	－	－	5.4	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．やや肥厚．半截竹管による沈線．		
153	38	29	32	Ⅰ	口縁	ＳＩ04	埋土下位	－	－	7.3	－	－	灰褐	口縁：平縁．縦・横位隆帯（細い）．棒状工具による沈線．	－	
154	38	29	31	Ⅰ	胴部	ＳＩ04	埋土	－	－	2.1	－	－	灰黄褐	半截竹管による斜位と横位沈線．	ＲＬ	
155	38	29	33	Ⅲ	口縁～底部	ＳＩ04	埋土下位	3.8	－	1.5	0.6	0.5	黒褐	口縁：平縁．底部：丸底に近い．	－	
175	42	31	12	ＩＡ１	口縁～底部	ＳＩ05	埋土下位	25.4	28.9	33.5	(17.7)	1.1	明黄褐	口縁：双頭突起（４単位）・波底部に縦位貼付．波頂部直下に円形凹孔・やや肥厚．	ＬＲ	

第47表　土器観察表（2）

遺物No	図版No	写図No	登録No	分類	部　位	出土地点	出土層位	口径	最大径	器高	底径	器厚	色　調	文　様　・　特　徴	施文原体	備　考
176	29	31	7	ＩＤ	口縁～底部	ＳＩ05	埋土	(14.9)	15.0	19.2	(8.5)	1.0	にぶい橙	口縁：平縁.	ＲＬ	
177	42	31	11	Ｉ	口縁～胴部	ＳＩ05	埋土	(30.4)	(30.5)	14.5	－	1.2	にぶい黄橙	口縁：小波状縁・肥厚．４単位．波頂部直下に円形刺突．半截竹管による刺突列.	ＲＬ	
178	42	31	42	Ｉ	胴～底部	ＳＩ05	埋土	－	(19.8)	7.9	(14.0)	1.1	にぶい黄橙	－	－	
179	42	31	43	Ｉ	口縁～胴部	ＳＩ05	埋土	－	－	7.5	－	－	褐	口縁：双頭突起（単位は不明）.	ＬＲ端部結節	
180	43	31	35	Ｉ	口縁	ＳＩ05	埋土	－	－	5.8	－	－	赤褐	口縁：平縁．半截竹管による沈線．縦位隆帯（半截竹管による沈線）.	－	
181	43	31	36	Ｉ	口縁	ＳＩ05	埋土	－	－	5.1	－	－	にぶい黄褐	口縁：指頭状工具による波状縁．やや肥厚．半截竹管による沈線.	－	
182	43	31	38	Ｉ	口縁	ＳＩ05	埋土	－	－	3.3	－	－	黒褐	口縁：平縁．半截竹管による縦位沈線.	－	
183	43	31	39	Ｉ	口縁	ＳＩ05	埋土	－	－	4.9	－	－	灰黄褐	口縁：平縁.	Ｌ側面圧痕	
184	43	31	40	Ｉ	口縁	ＳＩ05	埋土	－	－	7.9	－	－	灰黄褐	口縁：単頭突起．肥厚．棒状工具・半截竹管による沈線.	－	
185	43	31	45	Ｉ	口縁～胴部	ＳＩ05	埋土	－	－	7.1	－	－	褐	口縁：平縁．やや肥厚.	ＲＬ	
186	43	31	47	Ｉ	口縁～胴部	ＳＩ05	埋土	－	－	8.8	－	－	にぶい黄橙	口縁：単頭突起．波頂部直下ボタン状貼付文．隆帯（半截竹管による刺突列）．半截竹管による沈線.	ＲＬ	
187	43	32	48	Ｉ	口縁～胴部	ＳＩ05	埋土	－	－	9.3	－	－	褐	口縁：波状．横位隆帯.	－	
188	43	32	46	Ｉ	口縁～胴部	ＳＩ05	埋土	－	－	6.3	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．肥厚．縦・斜位隆帯.	－	
189	43	32	41	Ｉ	胴部	ＳＩ05	埋土	－	－	9.4	－	－	灰黄褐	－	Ｌ結節	
190	43	32	44	Ｉ	口縁～胴部	ＳＩ05	埋土	－	－	8.2	－	－	灰黄褐	半截竹管による沈線．隆帯（半截竹管による沈線）.	－	
191	43	32	34	Ｉ	胴部	ＳＩ05	埋土	－	－	9.1	－	－	にぶい黄褐	半截竹管による沈線．ボタン状貼付文.	ＬＲ	
192	43	32	37	Ｉ	胴部～底部	ＳＩ05	埋土	－	－	4.4	－	－	橙	－	ＲＬ	
229	49	34	58	Ｉ	口縁～胴部	ＳＸ01	埋土	－	－	5.1	－	－	灰黄褐	口縁：波状縁.	ＬＲ	
231	51	34	1	ＩＤ	口縁～底部	ＳＲ01	－	(24.7)	－	34.4	12.5	0.9	にぶい黄橙	口縁：平縁・やや肥厚.	ＲＬ	
232	51	34	2	ＩＣ	口縁～底部	ＳＲ01	－	16.7	16.8	16.7	(8.5)	0.7	橙	口縁：平縁・やや肥厚.	ＬＲ	SR01入れ子
237	52	35	13	Ｉ	胴～底部	ＳＲ02	－	－	(25.7)	11.4	18.7	0.8	明黄褐		ＬＲ両端結節	
238	52	35	3	ＩＢ１	口縁～底部	ＳＲ03	－	(13.0)	－	19.5	6.6	0.7	橙	口縁：平縁・やや肥厚．縦位沈線列.	ＬＲ端部結節	
244	53	35	4	ＩＦ	胴～底部	ＳＲ04	－	－	－	10.2	13.5	0.8	明赤褐		ＬＲ・ＲＬ結束第１種・両端部結節	
245	53	36	5	ＩＢ１	口縁～底部	ＳＲ05	－	14.5	－	18.2	8.5	0.6	にぶい褐	口縁：平縁．棒状工具による沈線後、円形竹管による刺突列．円形貼付（５単位円形竹管による指突列）．隆帯（縦位刺突列）.	ＬＲ端部結節	

第48表　土器観察表（3）

遺物No	図版No	写図No	登録No	分類	部　位	出土地点	出土層位	口径	最大径	器高	底径	器厚	色　調	文　様　・　特　徴	施文原体	備　考
246	53	36	6	ＩＤ	口縁～胴部	ＳＲ06	－	17.3	－		20.3	0.8	にぶい褐	口縁：平縁．	ＬＲ	
253	56	37	56	Ⅰ	口縁～胴部	ＳＱ03	埋土	－	－	7.3	－	－	にぶい黄褐	口縁：波状．やや肥厚．棒状工具による沈線．	－	
254	56	37	57	Ⅰ	口縁～胴部	ＳＱ03	埋土	－	－	8.4	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．やや肥厚．半截竹管による沈線．	－	
271	59	38	10	Ⅰ	口縁～胴部	ＳＱ06	埋土上層	(18.1)	(19.3)	10.6	－	0.9	黒褐	口縁：波状縁（６単位）．やや肥厚．波頂部直下に円形凹孔．棒状工具や半截竹管による沈線．体部：ボタン状貼付６単位．	ＬＲ	
272	59	38	50	Ⅰ	口縁～胴部	ＳＱ06	埋土上層	－	－	5.2	－	－	暗褐	口縁：波状縁．やや肥厚．波頂部直下円形貼付文（中央凹孔）．横位隆帯（半截竹管による沈線）．棒状工具・半截竹管による沈線．	－	
281	64	40	9	ＩＥ	口縁～胴部	ＳＫ04	埋土	18.3	19.3	26.0	12.5	1.0	にぶい黄橙	口縁：平縁．縦位隆帯（４単位？）．	ＬＲ両端結節	内面煤付着
282	64	40	51	Ⅰ	口縁～胴部	ＳＫ04	埋土	－	－	8.2	－	－	暗褐	口縁：平縁．円形刺突．指頭状工具による沈線．半截竹管による刺突列．	－	283・284と同一個体
283	64	40	52	Ⅰ	口縁～胴部	ＳＫ04	埋土	－	－	6.8	－	－	暗褐	同上．	－	282・284と同一個体
284	64	40	53	Ⅰ	口縁～胴部	ＳＫ04	埋土	－	－	9.2	－	－	灰黄褐	指頭状工具による沈線．半截竹管による沈線・刺突列．	ＬＲ	282・283と同一個体
334	73	44	55	Ⅱ	口縁～胴部	ＳＤ01	Ⅱ	－	－	6.5	－	－	暗褐	口縁：平縁．	－	
345	75	45	174	Ⅰ	口縁～胴部	ＧＬ81	Ⅰ	－	－	4.9	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．「し」の字状隆帯．棒状工具による沈線．	ＬＲ	
346	75	45	175	Ⅰ	口縁	ＧＫ81	Ⅰ	－	－	4.6	－	－	灰黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．半截竹管による沈線．	－	
347	75	45	176	Ⅰ	口縁	ＧＩ81	Ⅰ	－	－	4.4	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．	ＬＲ	
348	75	45	177	Ⅰ	口縁～胴部	ＧＪ78	Ⅰ	－	－	6.2	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．	ＬＲ	
349	75	45	60	ＩＤ	口縁～胴部	ＧＮ78	Ⅱ	(23.4)	－	8.1	－	0.8	にぶい褐	口縁：平縁．隆帯（指頭状工具による押圧列）．	ＲＬ端部結節	
350	75	45	62	ＩＦ	口縁～胴部	ＧＫ81	Ⅱ	(17.4)	－	8.3	－	0.6	にぶい黄橙	口縁：平縁・横位隆帯．	－	
351	75	45	61	ⅠＡ・ＩＣ	口縁～胴部	ＧＫ81	Ⅱ	(14.2)	15.6	10.4	－	0.9	橙	口縁：平縁．口唇部に２対１単位の隆帯貼付（単位不明）．円形竹管による刺突列．	－	
352	75	45	667	ＩＣ	口縁～胴部	ＧＫ81	Ⅱ	(22.4)	24.1	13.6	－	0.8	にぶい黄橙	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具・半截竹管による沈線．ボタン状貼付．	撚糸Ｒ	内面煤付着
353	75	45	63	Ⅰ	胴～底部	ＧＬ81	Ⅱ	－	(24.3)	15.4	(15.4)	0.9	にぶい黄橙	底部：網代痕．	－	外面煤付着
354	75	45	64	Ⅰ	胴～底部	ＧＪ81	Ⅱ	－	(18.3)	5.6	(15.3)	1.3	赤褐	底部：網代痕→ナデ．	－	
355	76	45	65	ⅡＢ	胴～底部	ＧＮ81	Ⅱ	－	16.9	4.2	12.4	0.8	灰黄褐	底部：網代痕．	－	
356	76	45	178	Ⅰ	口縁～胴部	ＧＮ78	Ⅱ	－	－	7.6	－	－	にぶい赤褐	口縁：平縁．棒状工具工具による沈線．斜位・横位隆帯．	ＲＬＲ	
357	76	45	185	Ⅰ	口縁～胴部	ＧＫ81	Ⅱ	－	－	7.7	－	－	にぶい褐	口縁：平縁．やや肥厚．	ＬＲ	
358	76	45	180	Ⅰ	口縁～胴部	ＧＮ80	Ⅱ	－	－	12.5	－	－	にぶい褐	口縁：平縁．棒状工具による沈線．横位隆帯（棒状工具による押圧）．		

第49表　土器観察表（4）

遺物No	図版No	写図No	登録No	分類	部　位	出土地点	出土層位	口径	最大径	器高	底径	器厚	色　調	文　様　・　特　徴	施文原体	備　考
359	76	45	181	Ⅰ	口縁～胴部	GM80	Ⅱ	－	－	6.3	－	－	灰黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．	－	
360	76	45	183	Ⅰ	口縁	GL78	Ⅱ	－	－	6.4	－	－	にぶい黄橙	口縁：波状縁（単頭突起？）．半截竹管による沈線．	－	
361	76	46	188	Ⅰ	口縁～胴部	GL79	Ⅱ	－	－	5.2	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．	－	
362	76	46	184	Ⅰ	口縁	GI81	Ⅱ	－	－	6.2	－	－	灰黄褐	口縁：波状縁（単頭突起？）．肥厚．口唇部に棒状工具による刻みあり．波頂部直下に円形凹孔．棒状工具により沈線・刺突．指頭状工具による沈線．	－	
363	76	46	186	Ⅰ	口縁	GK78	Ⅱ	－	－	4.9	－	－	にぶい黄褐	口縁：波状縁．半截竹管による沈線．	－	
364	76	46	189	Ⅰ	口縁～胴部	GM80	Ⅱ	－	－	8.8	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．ボタン状貼付文．	LR	
365	76	46	191	Ⅰ	口縁～胴部	GH80	Ⅱ	－	－	6.5	－	－	褐灰	口縁：平縁．	L端部結節	
366	76	46	192	Ⅰ	口縁	GL81	Ⅱ	－	－	6.2	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．横位隆帯．	－	
367	76	46	187	Ⅰ	口縁～胴部	GM78	Ⅱ	－	－	9.1	－	－	黒褐	口縁：単頭突起．肥厚．波頂部（外）：縦位隆帯．波頂部（内）：渦文．口唇部：縦位隆帯．胴部：横・縦位隆帯．棒状工具による沈線．	LR	
368	76	46	193	Ⅰ	口縁	GL82	Ⅱ	－	－	5.9	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．棒状工具による沈線．	－	
369	76	46	190	ⅡB？	口縁～胴部	GM81	Ⅱ	－	－	5.0	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．	LR	
370	77	46	194	Ⅰ	口縁	GL80	Ⅱ	－	－	5.3	－	－	黒褐	口縁：平縁．縦位隆帯（半截竹管による沈線）．半截竹管による沈線．	－	
371	77	46	195	Ⅰ	口縁	GL81	Ⅱ	－	－	6.1	－	－	灰黄褐	口縁：波状縁．棒状工具による沈線．横位隆帯（指頭状工具による押圧）．	－	
372	77	46	196	Ⅰ	口縁	GH78	Ⅱ	－	－	8.0	－	－	黒褐	口縁：波状縁．S字状隆線．棒状工具による沈線．	LR	
373	77	46	197	Ⅰ	口縁	GK78	Ⅱ	－	－	5.6	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．２列縦位隆帯．半截竹管による沈線．	－	
374	77	46	199	Ⅰ	口縁	GL80	Ⅱ	－	－	6.1	－	－	灰黄褐	口縁：波状縁．波頂部直下に縦位隆帯（棒状工具による沈線）．棒状工具による沈線．横位隆帯（指頭状工具による押圧）．	－	
375	77	46	209	Ⅰ	口縁～胴部	GL80	Ⅱ	－	－	5.4	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．	LR	
376	77	46	200	Ⅰ	口縁	GN80	Ⅱ	－	－	6.7	－	－	にぶい褐	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．	LR	
377	77	46	201	Ⅰ	口縁～胴部	GI81	Ⅱ	－	－	8.7	－	－	褐	口縁：平縁．「ノ」字状・横位隆帯（指頭状工具による押圧）．棒状工具による沈線．		
378	77	46	202	Ⅰ	口縁	GK80	Ⅱ	－	－	7.7	－	－	にぶい黄橙	口縁：波状縁．やや肥厚．指頭状工具・半截竹管による沈線．	－	
379	77	46	203	Ⅰ	口縁	GJ79	Ⅱ	－	－	5.7	－	－	褐灰	口縁：平縁．肥厚．	撚糸ｒ	
380	77	46	204	Ⅰ	口縁～胴部	GK80	Ⅱ	－	－	5.0	－	－	明褐	口縁：平縁．半截竹管による沈線．	撚糸L	
381	77	46	208	Ⅰ	口縁～胴部	GN79	Ⅱ	－	－	4.5	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．やや肥厚．	L	
382	77	46	205	Ⅰ	口縁	GN81	Ⅱ	－	－	2.7	－	－	灰黄褐	口：縁平縁．肥厚．棒状工具による沈線．	－	

第50表　土器観察表（5）

遺物No	図版No	写図No	登録No	分類	部　位	出土地点	出土層位	口径	最大径	器高	底径	器厚	色　調	文　様　・　特　徴	施文原体	備　考
383	77	46	207	I	口縁	G H80	II	−	−	6.3	−	−	にぶい黄褐	口縁：双頭突起（単位不明？），やや肥厚．口唇部に棒状工具による沈線．横・斜位隆帯（指頭状押圧）．棒状工具による沈線・穿孔あり．	L R	
384	77	46	198	I	口縁～胴部	G M78	II	−	−	7.1	−	−	褐	口縁：平縁．棒状工具による沈線．	L R	
385	77	46	210	I	口縁	G K81	II	−	−	4.2	−	−	褐灰	口縁：双頭突起（単位不明？）．肥厚．鋸歯状．横位・縦位隆帯．	R L	
386	77	46	211	I	口縁～胴部	G L80	II	−	−	5.1	−	−	にぶい黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．ボタン状貼付文．	L R	
387	77	46	214	I	口縁	G L80	II	−	−	5.3	−	−	にぶい黄橙	口縁：平縁．半截竹管による沈線．横位隆帯（半截竹管による刺突列）．	R L	
388	77	46	215	I	頸～胴部	G M78	II	−	−	6.5	−	−	にぶい褐	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．	口:L R側面圧痕	
389	77	46	216	I	口縁	G J78	II	−	−	5.3	−	−	灰黄褐	口縁：波状縁．肥厚．半截竹管による沈線．	口:L R側面圧痕	
390	77	46	218	I	口縁	G L79	II	−	−	4.1	−	−	灰黄褐	口縁：平縁．やや押厚．指頭状工具による沈線．	−	
391	77	46	219	I	口縁	G N80	II	−	−	3.7	−	−	にぶい黄橙	口縁：平縁．やや肥厚．横・斜位隆線．押引文．	−	
392	77	46	220	I	口縁	G M80	II	−	−	5.0	−	−	明黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．	−	
393	77	46	221	I	口縁	G L80	II	−	−	4.9	−	−	にぶい黄褐	口縁：平縁．縦・横位隆帯．	L R	
394	77	46	222	I	口縁	G M81	II	−	−	6.5	−	−	にぶい赤褐	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．半截竹管による刺突列．	−	
395	77	46	223	I	口縁	G L81	II	−	−	4.8	−	−	灰黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．	−	
396	77	46	224	I	口縁	G L80	II	−	−	4.0	−	−	褐灰	口縁：平縁．やや肥厚．半截竹管による沈線．	−	
397	78	46	225	I	口縁	G L80	II	−	−	5.1	−	−	灰黄褐	口縁：平縁．やや押厚．棒状工具・半截竹管による沈線．	−	
398	78	47	226	I	口縁	G M81	II	−	−	4.9	−	−	明赤褐	口縁：平縁．縦・斜位細い隆帯．	L R	
399	78	47	228	I	口縁	G L80	II	−	−	4.5	−	−	にぶい黄褐	口縁：平縁．肥厚．棒状工具による沈線．	−	
400	78	47	229	I	口縁	G L80	II	−	−	4.2	−	−	灰黄褐	口縁：平縁．肥厚．円形竹管による刺突列．棒状工具による沈線．	−	
401	78	47	230	I	口縁	G L78	II	−	−	3.8	−	−	灰黄褐	口縁：平縁．棒状工具による沈線．	L R	
402	78	47	231	I	口縁	G I81	II	−	−	4.5	−	−	褐灰	口縁：波状縁．縦・斜位・横位隆帯（指頭状工具による押圧）．棒状工具による沈線．	L R	
403	78	47	232	I	口縁～胴部	G M78	II	−	−	4.7	−	−	明褐	口縁：平縁．	網目状撚糸L	
404	78	47	233	I	口縁～胴部	G M81	II	−	−	5.3	−	−	黒褐	口縁：平縁．棒状工具による刺突列．	L R	
405	78	47	234	I	口縁	G I79	II	−	−	5.0	−	−	にぶい黄褐	口縁：波状縁．やや肥厚．横位隆帯．	L R	
406	78	47	235	I	口縁	G M81	II	−	−	4.4	−	−	灰黄褐	口縁：波状縁．やや肥厚．棒状工具・半截竹管による沈線．	−	

第51表　土器観察表（6）

遺物No	図版No	写図No	登録No	分類	部　位	出土地点	出土層位	口径	最大径	器高	底径	器厚	色　調	文　様　・　特　徴	施文原体	備　考
407	78	47	236	Ⅰ	口縁	GK81	Ⅱ	－	－	3.4	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．口唇部に棒状工具による刻みあり．棒状工具による沈線．半截竹管による刺突列．	－	
408	78	47	237	Ⅰ	口縁	GL81	Ⅱ	－	－	6.1	－	－	暗褐	口縁：平縁．やや肥厚．ボタン状貼付．棒状工具による沈線．半截竹管による沈線．横位隆帯（半截竹管による沈線）．	－	
409	78	47	238	Ⅰ	口縁	GL81	Ⅱ	－	－	4.7	－	－	灰褐	口縁：波状縁．口唇部に半截竹管による刻みあり．棒状工具による刺突．半截竹管による沈線・刺突列．	－	
410	78	47	239	Ⅰ	口縁	GM81	Ⅱ	－	－	5.0	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．やや肥厚．横位・渦巻状隆帯（横位のみ半截竹管による刺突）．	LR側面圧痕．RL	
411	78	47	240	Ⅰ	口縁	GM79	Ⅱ	－	－	5.0	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．横位隆帯（半截竹管による刺突）．	LR側面圧痕．	
412	78	47	241	Ⅰ	口縁	GL81	Ⅱ	－	－	3.9	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．縦位隆帯２列．横位鋸歯状隆帯．	LR	
413	78	47	242	Ⅰ	口縁	GL78	Ⅱ	－	－	3.0	－	－	黒褐	口縁：平縁．棒状工具による沈線．半截竹管による刺突列．	－	
414	78	47	243	Ⅰ	口縁	GI80	Ⅱ	－	－	4.6	－	－	灰黄褐	口縁：平縁．口唇部粘土粒貼付．半截竹管による沈線・刺突列．	結節L	
415	78	47	247	Ⅰ	口縁	GN78	Ⅱ	－	－	3.6	－	－	黒褐	口縁：平縁．肥厚．縦・横位隆帯．	－	
416	78	47	245	Ⅰ	口縁	GL80	Ⅱ	－	－	3.5	－	－	褐灰	口縁：平縁．口唇部粘土粒貼付．ボタン状貼付文．	LR端部結節	
417	78	47	248	Ⅰ	口縁＋装飾	GM80	Ⅱ	－	－	3.8	－	－	灰黄褐	装飾：口唇部（半截竹管による沈線）．半截竹管による沈線．	－	
418	78	47	246	Ⅰ	口縁	GM78	Ⅱ	－	－	4.5	－	－	暗赤褐	口縁：平縁．棒状工具・半截竹管による沈線．半截竹管による刺突．	－	
419	78	47	244	Ⅰ	口縁	GJ78	Ⅱ	－	－	5.7	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．半截竹管による沈線．	－	
420	78	47	249	Ⅰ	口縁	GK78	Ⅱ	－	－	3.2	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．口唇に半截竹管による刻みあり．半截竹管による沈線．	－	
421	78	47	250	Ⅰ	口縁	GN80	Ⅱ	－	－	3.9	－	－	灰黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．	LR側面圧痕．	
422	78	47	251	Ⅰ	口縁～胴部	GN78	Ⅱ	－	－	4.7	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．横位鋸歯状隆帯．	LR	
423	78	47	257	Ⅰ	口縁	GL80	Ⅱ	－	－	4.4	－	－	暗褐	口縁：波状．縦・横位隆帯（半截竹管による沈線）．半截竹管・棒状工具による沈線．	LR	
424	78	47	252	Ⅰ	口縁	GN79	Ⅱ	－	－	5.1	－	－	にぶい褐	口縁：波状縁．棒状工具による沈線．円形隆帯．	－	
425	79	47	254	Ⅰ	口縁	GM80	Ⅱ	－	－	3.8	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．やや肥厚．横位隆帯（指頭状工具による押圧）．	LR側面圧痕・LR	
426	79	47	255	Ⅰ	口縁	GM80	Ⅱ	－	－	2.6	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．「し」の字状隆帯（半截竹管による沈線）．棒状工具による刺突列・沈線．	－	428と同一個体
427	79	47	253	Ⅰ	口縁	GM78	Ⅱ	－	－	2.3	－	－	にぶい黄橙	口縁：波状縁．棒状工具による沈線．	LR	
428	79	47	256	Ⅱ	口縁	GM81	Ⅱ	－	－	3.2	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．「し」の字状隆帯（半截竹管による沈線）．棒状工具による刺突列・沈線．	LR	426と同一個体
429	79	47	258	Ⅰ	口縁	GN81	Ⅱ	－	－	4.1	－	－	黒褐	口縁：波状縁．縦鋸歯状・横位隆帯．半截竹管による沈線．	LR	
430	79	47	179	Ⅰ	胴部	GK78	Ⅱ	－	－	9.8	－	－	灰褐	－	撚糸L	内外面煤付着

第52表　土器観察表（7）

遺物No	図版No	写図No	登録No	分類	部　位	出土地点	出土層位	口径	最大径	器高	底径	器厚	色　調	文　様　・　特　徴	施文原体	備　考
431	79	47	182	Ⅰ	胴部	GM78	Ⅱ	－	－	10.6	－	－	にぶい黄褐	鋸歯状横位隆帯（指頭状工具による押圧）.	ＬＲ・ＲＬ結束第１種	
432	79	47	206	Ⅰ	胴部	GM81	Ⅱ	－	－	8.6	－	－	暗褐	縦位隆帯（棒状工具による押圧）.	ＬＲ	
433	79	47	259	Ⅰ	胴部	GN78	Ⅱ	－	－	15.3	－	－	灰黄褐		ＬＲ・ＲＬ結束第２種	
434	79	47	212	Ⅰ	頸～胴部	GL81	Ⅱ	－	－	4.3	－	－	赤褐	横位隆帯．棒状工具による沈線.	ＲＬ端部結節	
435	79	47	213	Ⅰ	頸～胴部	GL81	Ⅱ	－	－	6.3	－	－	赤褐	棒状工具による沈線．円形竹管による刺突．三角印刻.	ＬＲ・ＲＬ結束第１種両端結節	
437	79	47	662	Ⅰ	突起	GL80	Ⅲ層	－	－	25.96	－	－	にぶい黄橙			
436	79	47	663	Ⅰ	突起	GI80	Ⅰ層	－	－	45.44	－	－	にぶい黄橙			
438	80	68	66	ⅠＢ１	口縁～底部	GK81	Ⅱ～Ⅲ	(20.8)	－	28.5	10.5	0.8	にぶい黄橙	口縁：平縁.	ＬＲ	外面煤付着
439	80	69	67	ⅠＢ１	口縁～胴部	GL80	Ⅱ～Ⅲ	(22.3)	－	22.1	－	0.9	黒褐	口縁：平縁・やや肥厚．指頭状工具による沈線.	ＬＲ	
440	80	48	263	Ⅰ	口縁	GN79	Ⅱ・Ⅲ	－	－	6.1	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線.	ＬＲ	
441	80	48	267	Ⅰ	口縁	GM81	Ⅱ・Ⅲ	－	－	3.4	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．横位隆帯（指頭状工具による押圧）.	ＲＬ	
442	80	48	265	Ⅰ	口縁～胴部	GN79	Ⅱ・Ⅲ	－	－	5.8	－	－	褐灰	口縁：平縁．棒状工具による沈線.	ＬＲ側面圧痕．ＬＲ	
443	80	48	264	Ⅰ	口縁	GL79	Ⅱ・Ⅲ	－	－	4.9	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．口唇部に指頭状工具により刻みあり．縦位鋸歯状・横位隆帯.	－	
444	80	48	266	Ⅰ	口縁～胴部	GN79	Ⅱ・Ⅲ	－	－	7.1	－	－	黒褐	口縁：波状縁．波頂部口唇に縦位隆帯２列．縦位・横位隆帯.	ＬＲ	
445	80	48	260	Ⅰ	口縁～胴部	GL81・82	Ⅱ・Ⅲ	－	－	14.5	－	－	褐	口縁：波状縁．やや肥厚．縦・横位鋸歯状隆帯.	ＲＬ端部結節	
446	80	48	262	Ⅰ	胴部	GL81	Ⅱ・Ⅲ	－	－	5.3	－	－	褐	横位隆帯（指頭状工具による押圧）.	ＬＲ・ＲＬ結節第２種両端結節	
447	80	48	261	Ⅰ	胴部～底部	GL82	Ⅱ・Ⅲ	－	－	5.6	－	－	にぶい黄橙		？	
448	81	49	68	ⅠＢ２	口縁～底部	GL80	Ⅲ	38.5	－	59.4	18.4	1.2	にぶい黄橙	口縁：単頭突起（４単位）．波頂部直下にボタン状貼付と円形貼付がある（刺突列）．棒状工具による沈線．爪形文による刺突列．頸部：隆帯２列（刺突列）	ＬＲ端部結節	
449	81	49	95	ⅠＢ１	口縁～底部	GM81	Ⅲ	(18.3)	－	14.1	8.8	0.7	にぶい黄橙	口縁：単頭突起（４単位）．波頂部直下縦位隆帯・ボタン状貼付・渦文貼付（内外面）．底部：網代痕.	ＬＲ	外面煤付着
450	81	49	79	ⅡＡ	口縁～底部	GM80	Ⅲ	(19.6)	－	10.6	11.1	0.9	にぶい橙	口縁：平縁．（双頭突起１つ有り）．ボタン状貼付．やや肥厚．内面渦文貼付．底部：網代痕.	ＬＲ	
451	82	49	82	ⅠＦ	口縁～底部	GL81	Ⅲ	20.2	－	23.9	11.6	0.8	にぶい褐	口縁：双頭突起？（４単位）．波底部に２列縦位隆帯．波頂部直下円形凹孔．棒状工具・半截竹管による沈線．ボタン状貼付と粘土塊貼付を交互に貼付.	ＬＲ・ＲＬ結束第１種	
452	82	49	90	ⅠＦ	口縁～底部	GL81	Ⅲ	(18.5)	－	17.3	9.7	0.6	明黄褐	口縁：波状縁．肥厚．内外面に横位隆帯．棒状工具による沈線.	ＬＲ両端結節	
453	82	50	74	ⅠＡ１	口縁～底部	GL81	Ⅲ	(22.2)	(23.3)	29.3	(12.7)	1.1	にぶい黄橙	口縁：平縁．半截竹管による沈線.	ＬＲ	胴部上半部煤付着
454	82	50	72	ⅠＤ	口縁～底部	GL81	Ⅲ	18.6	19.0	34.5	10.9	0.8	にぶい黄褐	口縁：平縁	口：ＬＲ側面圧痕．胴：ＬＲ・ＬＲ結束第１種	

第53表　土器観察表（8）

遺物No	図版No	写図No	登録No	分類	部　位	出土地点	出土層位	口径	最大径	器高	底径	器厚	色　調	文　様　・　特　徴	施文原体	備　考
455	83	51	93	IB1・D	口縁～底部	GK81	Ⅲ	(14.1)	－	17.0	8.7	0.7	にぶい赤褐	口縁：平縁．底部：網代痕	LRL	内外面煤付着
456	83	51	75	ＩB	口縁～胴部	GK81	Ⅲ	(28.1)	－	19.4	－	1.1	にぶい黄褐	口縁：双頭突起（4単位）．波頂部直下円形凹孔と指頭状工具による沈線．やや肥厚．半截竹管による沈線．	LR	
457	83	58	107	ＩF	口縁～胴部	GL80	Ⅲ	(29.0)	(30.0)	6.4	－	0.9	にぶい黄褐	口縁：平縁．口唇部：棒状工具による刻み．胴部：棒状工具による沈線及び刻み．半截竹管による刺突．	－	
458	83	50	73	ＩB1	口縁～胴部	GL80	Ⅲ	(26.6)	－	35.2	－	1.2	暗褐	口縁：三頭突起（4単位）波頂部直下に円形凹孔．指頭状工具による沈線及び粘土塊貼付．肥厚．半截竹管による沈線．	RL	
459	83	51	83	ＩA2	口縁～底部	GL81	Ⅲ	(17.2)	(18.2)	23.7	－	0.8	暗褐	口縁：平縁．肥厚．3列縦位隆帯（4単位？）．指頭状工具による沈線．	LR	
460	84	52	87	ＩC	口縁～胴部	GM79	Ⅲ	(23.3)	23.4	16.2	－	0.7	にぶい橙	口縁：単頭突起（4単位）．波頂部直下粘土塊貼付．棒状工具による沈線・半截竹管による刺突と沈線．	－	
461	84	51	89	ＩB1	口縁～胴部	GL81	Ⅲ	(15.2)	－	15.9	－	0.6	にぶい黄橙	口縁：単頭突起（4単位）．1カ所の波頂部に指頭圧痕による刻み有り）．縦位・横位隆帯．	口：LR側面圧痕．胴：結節L	外面煤付着
462	84	52	84	ＩF	口縁～底部	GJ79	Ⅲ	(19.3)	－	19.8	－	1.0	にぶい黄褐	口縁：平縁．粘土紐貼付（半截竹管による刺突）．棒状工具による沈線．	－	
463	84	50	92	IA1・2	口縁～胴部	GL81	Ⅲ	(20.1)	－	16.0	－	0.9	黒褐	口縁：平縁．やや肥厚．縦・横位隆帯・円形凹孔．半截竹管による沈線．ボタン状貼付．	LR	内面煤付着
464	84	58	106	Ⅰ	口縁～胴部	GL81	Ⅲ	(24.6)	－	6.9	－	0.8	暗褐	口縁：双頭突起？（4単位？）．やや肥厚．波底部に2列縦位隆帯ボタン状貼付文．円形竹管による刺突．半截竹管による沈線．	LR	
465	84	51	91	ＩD	口縁～胴部	GL81	Ⅲ	(16.1)	－	18.8	－	0.7	にぶい黄褐	口縁：単頭突起（3or6単位？）．	LR・RL結束第1種	外面煤付着
466	84	58	102	ＩD	口縁～胴部	GL81	Ⅲ	(23.5)	－	16.0	－	1.0	にぶい黄褐	口縁：単頭突起？（単位不明）．波頂部直下に円形刺突と棒状工具による沈線．やや肥厚．	LR	
467	85	58	110	Ⅰ	口縁～胴部	GL80	Ⅲ	(15.3)	－	5.3	－	0.9	にぶい黄橙	口縁：平縁．	－	
468	85	58	109	Ⅰ	口縁～胴部	GL78	Ⅲ	(13.2)	－	6.6	－	0.7	にぶい褐	口縁：単頭突起（単位不明）．口唇部に半截竹管による刻み．	－	繊維混入
469	85	53	81	ＩB2	口縁～胴部	GL80	Ⅲ	(25.9)	－	21.3	－	1.1	褐	口縁：波状縁（単位不明）．波頂部直下円形凹孔．棒状工具による沈線．やや肥厚．頸部：棒状工具による刺突．	LR・RL結束第1種	外面煤付着
470	85	53	76	Ⅰ	口縁～胴部	GL79	Ⅲ	(33.3)	－	9.8	－	0.8	浅黄橙	口縁：単頭突起（単位不明）．波頂部直下円形凹孔．棒状工具による刺突．やや肥厚．	LR	
471	85	53	70	ＩA1	口縁～胴部	GL81	Ⅲ	(29.8)	－	31.8	－	1.0	にぶい橙	口縁：平縁．半截竹管による沈線．	LR端部結節	外面剥落多い
472	86	52	100	ＩA2	口縁～胴部	GK81	Ⅲ	(19.6)	－	18.6	－	1.0	暗褐	口縁：単頭突起（単位不明）．波頂部直下内外面に円形凹孔．半截竹管による沈線．	LR	内面煤付着
473	86	52	77	ＩD	口縁～胴部	GL78	Ⅲ	(33.8)	－	20.5	－	0.8	にぶい赤褐	口縁：単頭突起（単位不明）．やや肥厚．半截竹管・棒状工具による沈線・刺突．頸部に横位・渦巻状隆帯（棒状工具により刺突）	LR・RL結束第1種両端部結節	
474	86	52	78	ＩD	口縁～胴部	GL78	Ⅲ	(33.8)	－	20.5	－	0.8	にぶい赤褐	口縁：単頭突起（単位不明）．やや肥厚．半截竹管・棒状工具による沈線・刺突．頸部に横位・渦巻状隆帯（棒状工具により刺突）	LR・RL結束第1種両端部結節	
475	87	58	85	ＩD	口縁～胴部	GK78	Ⅲ	(34.0)	－	9.6	－	1.3	にぶい黄橙	口縁：平縁．肥厚．円形凹孔・指頭状工具による沈線．半截竹管による沈線．粘土塊貼付．	－	
476	87	54	98	ＩB1	口縁～胴部	GM80	Ⅲ	(36.2)	－	22.6	－	1.1	にぶい黄橙	口縁：平縁．棒状工具による沈線．縦位隆帯・粘土塊貼付（共に棒状工具による沈線）．粘土塊貼付（棒状工具による沈線）．	LR・RL結束第2種両端結節	477と同一個体
477	87	54	97	ＩB1	口縁～胴部	GM80	Ⅲ	(36.2)	－	28	－	1.0	にぶい黄橙	口縁：平縁．棒状工具による沈線．縦位隆帯・粘土塊貼付（共に棒状工具による沈線）．粘土塊貼付（棒状工具による沈線）．	LR・RL結束第2種両端結節	476と同一個体
478	88	54	86	ＩD	口縁～胴部	GM80	Ⅲ	(23.6)	－	30.3	－	0.6	にぶい褐	口縁：平縁．やや肥厚．粘土塊貼付・縦横位隆帯（それぞれ棒状工具による刺突あり）．棒状工具による沈線。	LR・RL結束第1種両端部結節	内面煤付着

第54表　土器観察表（9）

遺物No	図版No	写図No	登録No	分類	部　位	出土地点	出土層位	口径	最大径	器高	底径	器厚	色　調	文　様　・　特　徴	施文原体	備　考
479	88	54	88	ＩＤ	口縁～胴部	ＧＬ81	Ⅲ	(17.9)	－	20.4	－	0.9	褐	口縁：平縁．指頭押圧により２対１単位の刻み有り（４単位？）．	網目状撚糸Ｌ	内外面煤付着
480	88	58	108	ＩＧ１	口縁～胴部	ＧＪ･Ｎ80	Ⅲ	(11.9)	－	7.7	－	0.6	暗褐	口縁：平縁．粘土塊貼付（棒状工具による刺突）．	口：Ｌ側面圧痕． 胴：ＬＲ	
481	88	55	126	ＩＧ１	口縁～胴部	ＧＬ81	Ⅲ	16.6	－	15.9	－	1.0	にぶい黄橙	口縁：平縁．やや肥厚．	ＬＲ	外面煤付着
482	88	55	69	ＩＤ	口縁～胴部	ＧＬ81	Ⅲ	31.7	－	49.3	－	0.8	褐	口縁：平縁．	口：ＲＬｒ面圧痕． 胴：ＲＬｒ中間部結節	
483	89	55	99	ＩＧ２	口縁～胴部	ＧＪ81	Ⅲ	(23.4)	－	21.3	－	0.7	にぶい黄褐	口縁：平縁．口唇部に半截竹管による刻みあり．	網目状撚糸Ｌ	
484	89	55	104	ＩＧ１	口縁～胴部	ＧＭ80	Ⅲ	(17.5)	－	11.1	－	0.7	橙	口縁：平縁．口唇部にＲＬ側面圧痕により刻みあり．隆帯上に指頭状工具による押圧．	ＲＬ端部結節	
485	89	55	94	ＩＤ	口縁～胴部	ＧＬ81	Ⅲ	(16.2)	－	18.4	－	0.8	黒褐	口縁：平縁．半截竹管による沈線．	－	内外面煤付着
486	89	58	105	ＩＦ	口縁～胴部	ＧＭ81	Ⅲ	(15.6)	－	16.2	－	0.7	暗褐	口縁：平縁．やや肥厚．	－	小石を多量混入
487	89	56	111	Ｉ	胴部	ＧＫ79	Ⅲ	－	(23.5)	19.8	－	0.9	にぶい赤褐	－	木目状撚糸Ｌ	
488	89	56	112	Ｉ	胴部	ＧＬ79	Ⅲ	－	(21.2)	25.7	－	0.8	にぶい赤褐	－	Ｌ	内面煤付着
489	90	56	101	Ｉ	胴部	ＧＭ80	Ⅲ	－	(16.3)	16.0	－	0.8	明赤褐	－	ＬＲ両端結節	
490	90	57	113	Ｉ	胴部	ＧＭ80	Ⅲ	－	(28.5)	20.3	－	0.8	にぶい橙	－	ＬＲ・ＲＬ結束第１種両端結節	
491	90	56	121	ＩＣ？	胴～底部	ＧＭ82	Ⅲ	－	(6.1)	3.3	5.8	0.6	橙	－	－	
492	90	57	117	Ｉ	胴～底部	ＧＬ80	Ⅲ	－	14.1	4.3	10.4	0.8	にぶい黄橙	底部：網代痕→ナデ．	木目状撚糸Ｌ・Ｒ	
493	90	57	96	Ｉ	胴～底部	ＧＬ79	Ⅲ	－	12.8	10.0	9.5	0.9	にぶい橙	－	ＬＲ	
494	90	57	116	Ｉ	胴～底部	ＧＮ78	Ⅲ	－	(18.0)	9.2	13.2	0.9	にぶい赤褐	－	ＬＲ	
495	90	56	71	Ｉ	胴～底部	ＧＬ80	Ⅲ	－	－	52.0	(24.0)	1.5	にぶい黄橙	胴部：半截竹管による沈線．ボタン状貼付．	ＬＲ	
496	91	57	80	Ｉ	胴～底部	ＧＫ81	Ⅲ	－	－	17.5	14.3	0.8	にぶい褐		ＬＲ	内外面煤付着
497	91	56	119	Ｉ	胴～底部	ＧＮ80	Ⅲ	－	－	5.2	7.1	0.6	灰黄褐	底部：ナデ．	ＲＬ	
498	91	58	124	ＩＣ？	胴～底部	ＧＬ80	Ⅲ	－	－	4.7	(4.0)	0.6	にぶい黄褐	－	－	
499	91	57	120	Ｉ	胴～底部	ＧＫ78	Ⅲ	－	－	3.0	6.2	0.7	橙	－	ＬＲ圧痕	内面煤付着
500	91	58	122	Ｉ	胴～底部	ＧＮ79	Ⅲ	－	－	4.8	(18.1)	0.8	にぶい褐	底部：網代痕→ナデ．	－	
501	91	58	125	ＩＣ？	胴～底部	ＧＭ79	Ⅲ	－	－	4.2	(9.8)	0.7	にぶい橙	－	－	
502	91	57	123	Ｉ	胴～底部	ＧＬ81	Ⅲ	－	－	4.2	(11.0)	0.8	明赤褐	－	－	

第55表　土器観察表（10）

遺物No	図版No	写図No	登録No	分類	部　位	出土地点	出土層位	口径	最大径	器高	底径	器厚	色　調	文　様　・　特　徴	施文原体	備　考
503	91	56	118	Ⅰ	胴～底部	GM81	Ⅲ	－	－	4.3	10.0	0.8	灰黄褐	底部：網代痕→ナデ.	－	
504	91	57	115	ⅡB	胴～底部	GM81	Ⅲ	－	－	12.1	(20.2)	1.2	にぶい黄褐	底部：網代痕.	－	
505	91	58	268	Ⅰ	口縁～胴部	GH80	Ⅲ	－	－	6.4	－	－	褐灰	口縁：波状縁．横位隆帯（指頭状工具による押圧）．棒状工具による沈線.	LR	
506	91	58	269	Ⅰ	口縁	GO78	Ⅲ	－	－	5.9	－	－	橙	口縁：平縁．棒状・指頭状工具による沈線.	－	
507	91	58	103	ⅠD	口縁～胴部	GL81	Ⅲ	(16.1)	(16.1)	18.8	－	0.7	にぶい黄褐	口縁：単頭突起（3 or 6 単位？）.	LR・RL結束第1種	外面煤付着
508	92	58	270	Ⅰ	口縁	GL79	Ⅲ	－	－	5.1	－	－	灰黄褐	口縁：平縁．半截竹管による沈線.	－	
509	92	58	271	Ⅰ	口縁	GL79	Ⅲ	－	－	4.2	－	－	灰黄褐	口縁：波状縁．やや肥厚．棒状工具・半截竹管による沈線.	－	
510	92	58	272	Ⅰ	口縁～胴部	GM81	Ⅲ	－	－	4.6	－	－	暗褐	口縁：平縁．やや肥厚.	－	
511	92	58	273	Ⅰ	口縁～胴部	GJ81	Ⅲ	－	－	5.4	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．やや肥厚.	LR	
512	92	58	274	Ⅰ	口縁～胴部	GL79	Ⅲ	－	－	7.0	－	－	にぶい褐	口縁：平縁.	網目条撚糸L	
513	92	58	276	Ⅰ	口縁～胴部	GM81	Ⅲ	－	－	4.5	－	－	黒褐	口縁：平縁．棒状工具による沈線.	RL	
514	92	58	277	Ⅰ	口縁～胴部	GN80	Ⅲ	－	－	6.3	－	－	明黄褐	口縁：平縁．棒状工具による沈線.	LR	
515	92	59	278	Ⅰ	口縁	GK82	Ⅲ	－	－	5.7	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．肥厚．縦位隆帯2列．半截竹管による沈線.	－	
516	92	59	289	Ⅰ	口縁	GI79	Ⅲ	－	－	4.8	－	－	にぶい黄褐	口縁：単頭突起．肥厚．波頂部直下に円形凹孔．棒状工具・半截竹管による沈線.	－	
517	92	59	280	Ⅰ	口縁～胴部	GN80	Ⅲ	－	－	7.5	－	－	黒褐	口縁：平縁やや肥厚.	LR	
518	92	59	282	Ⅰ	口縁	GL79	Ⅲ	－	－	5.8	－	－	にぶい黄橙	口縁：波状縁．肥厚．指頭状工具による刺突・沈線.	－	
519	92	59	283	Ⅰ	口縁	GL79	Ⅲ	－	－	3.3	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具・半截竹管による沈線.	－	
520	92	59	284	Ⅰ	口縁	GN78	Ⅲ	－	－	5.4	－	－	にぶい褐	口縁：波状縁．肥厚．棒状工具による沈線．半截竹管による刺突列.	－	
521	92	59	285	Ⅰ	口縁	GN80	Ⅲ	－	－	5.8	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．やや肥厚．半截竹管による刺突列．棒状工具による沈線．横位隆帯（指頭状工具による押圧）.	－	
522	92	59	286	Ⅰ	口縁	GM79	Ⅲ	－	－	5.2	－	－	黒褐	口縁：波状縁．肥厚．横位隆帯．棒状工具による沈線．半截竹管による刺突列.	－	
523	92	59	287	Ⅰ	口縁	GN79	Ⅲ	－	－	4.7	－	－	にぶい橙	口縁：平縁．半截竹管による沈線.	－	
524	92	59	288	Ⅰ	口縁	GN79	Ⅲ	－	－	5.9	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．やや肥厚．指頭状工具による沈線.	－	
525	92	59	279	Ⅰ	口縁	GM80	Ⅲ	－	－	5.6	－	－	にぶい褐	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．横位隆帯（指頭状工具による押圧）.	－	
526	92	59	290	Ⅰ	口縁	GM81	Ⅲ	－	－	3.6	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．肥厚．円形竹管による沈線・刺突列.	－	

第56表　土器観察表（11）

遺物No	図版No	写図No	登録No	分類	部　位	出土地点	出土層位	口径	最大径	器高	底径	器厚	色　調	文　様　・　特　徴	施文原体	備　考
527	92	59	291	I	口縁	GN78	Ⅲ	－	－	4.8	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．	LR側面圧痕	
528	92	59	292	I	口縁	GN80	Ⅲ	－	－	5.5	－	－	黒褐	口縁：単頭突起．波頂部直下に粘土塊貼付（棒状工具による円形刺突）．棒状工具による沈線．	－	
529	92	59	293	I	口縁	GK79	Ⅲ	－	－	7.2	－	－	にぶい褐	口縁：単頭突起．肥厚．波頂部直下円形隆帯．棒状工具による沈線．	－	
530	92	59	294	I	口縁～胴部	GM79	Ⅲ	－	－	5.8	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．やや肥厚．横位隆帯（指頭状工具による押圧）．	0段多条	
531	92	59	295	I	口縁～胴部	GM82	Ⅲ	－	－	6.7	－	－	褐灰	口縁：波状縁．波頂部粘土塊貼付．波頂部直下内面に円形凹孔．	LR	
532	92	59	296	I	口縁	GM80	Ⅲ	－	－	3.9	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．棒状工具・半截竹管による沈線．	－	
533	92	59	297	I	口縁	GO79	Ⅲ	－	－	4.9	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．横位隆帯（半截竹管による刺突列）	－	
534	92	59	298	I	口縁～胴部	GM82	Ⅲ	－	－	5.6	－	－	褐灰	口縁：平縁．	RR	
535	93	59	300	I	口縁	GN80	Ⅲ	－	－	6.4	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．棒状工具による沈線．	－	
536	93	59	301	I	口縁	GM81	Ⅲ	－	－	4.5	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具・半截竹管による沈線．	－	
537	93	59	302	I	口縁	GM78	Ⅲ	－	－	5.2	－	－	にぶい黄橙	口縁：波状縁．縦・横位隆帯．円形凹孔．半截竹管による沈線．	－	
538	93	59	303	I	口縁	GM80	Ⅲ	－	－	5.6	－	－	灰黄褐	口縁：波状縁．粘土塊貼付．半截竹管による沈線．	－	
539	93	59	304	I	口縁	GL80	Ⅲ	－	－	4.7	－	－	黒褐	口縁：平縁．棒状工具による刺突列．	－	
540	93	59	305	I	口縁	GN81	Ⅲ	－	－	3.2	－	－	橙	口縁：平縁．棒状工具による沈線．半截竹管による刺突列．	－	
541	93	59	306	I	口縁	GL80	Ⅲ	－	－	5.7	－	－	黒褐	口縁：棒状工具による沈線．	－	
542	93	59	307	I	口縁	GN80	Ⅲ	－	－	6.4	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．横位鋸歯状隆帯．	LR・LR結束第1種	内面煤付着
543	93	59	308	I	口縁	GN81	Ⅲ	－	－	5.1	－	－	黒褐	口縁：棒状工具による沈線．	－	
544	93	59	309	I	口縁	GM82	Ⅲ	－	－	4.6	－	－	灰黄褐	口縁：平縁．横位隆帯．	LR	
545	93	59	310	I	口縁	GL81	Ⅲ	－	－	5.5	－	－	黒褐	口縁：波状縁．波頂部縦位隆帯．棒状工具による沈線・刺突．	－	
546	93	59	311	I	口縁	GL80	Ⅲ	－	－	4.2	－	－	黒褐	口縁：平縁．縦・横位隆帯（半截竹管による沈線・刺突）．棒状工具による沈線．	－	
547	93	59	312	I	口縁	GO78	Ⅲ	－	－	5.7	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．粘土塊貼付．	LR側面圧痕・LR	
548	93	59	313	I	口縁	GM81	Ⅲ	－	－	3.7	－	－	にぶい黄橙	口縁：波状縁（突起不明）．肥厚．半截竹管による沈線．	LR	
549	93	59	314	I	口縁	GM81	Ⅲ	－	－	4.7	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．半截竹管による刺突・沈線．	－	
550	93	59	315	I	口縁	GH80	Ⅲ	－	－	5.4	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．	L端部結節	

第57表　土器観察表（12）

遺物No	図版No	写図No	登録No	分類	部　位	出土地点	出土層位	口径	最大径	器高	底径	器厚	色　調	文　様　・　特　徴	施文原体	備　考
551	93	59	316	I	口縁	G J 79	Ⅲ	−	−	4.6	−	−	黒褐	口縁：平縁．肥厚．半截竹管による沈線．	L R側面圧痕	
552	93	60	317	I	口縁～胴部	G J 81	Ⅲ	−	−	5.0	−	−	にぶい黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．斜位隆帯．	L R・R L結束第１種	
553	93	60	318	I	口縁	G K 78	Ⅲ	−	−	3.4	−	−	黒褐	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．	−	外面煤付着
554	93	60	320	I	口縁～胴部	G N 80	Ⅲ	−	−	4.6	−	−	にぶい黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．円形凹孔・棒状工具による刺突．	L R	
555	93	60	321	I	口縁	G L 79	Ⅲ	−	−	4.3	−	−	灰黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．	L R側面圧痕	
556	93	60	322	I	口縁	G K 79	Ⅲ	−	−	4.2	−	−	黒褐	口縁：平縁．やや肥厚．半截竹管による沈線．	L R	
557	93	60	323	I	口縁	G M 82	Ⅲ	−	−	5.7	−	−	にぶい黄褐	口縁：波状縁．やや肥厚．渦巻状・斜位隆帯．棒状工具による沈線．	L R側面圧痕	
558	93	60	324	I	口縁	G M 80	Ⅲ	−	−	5.3	−	−	明黄褐	口縁：平縁．	L R・R L結束第１種	
559	93	60	325	I	口縁	G L 80	Ⅲ	−	−	3.1	−	−	にぶい黄褐	口縁部突起：棒状工具による刺突・沈線．半截竹管による沈線．	−	
560	93	60	326	I	口縁	G M 82	Ⅲ	−	−	5.2	−	−	にぶい褐	口縁：波状縁．やや肥厚．円形粘土塊貼付（中央部凹）．半截竹管による刺突．棒状工具による沈線．	−	
561	93	60	327	I	口縁	G N 78	Ⅲ	−	−	6.6	−	−	にぶい黄橙	口縁：平縁．	L	
562	94	60	328	I	口縁	G M 80	Ⅲ	−	−	3.2	−	−	褐灰	口縁：平縁．棒状工具による沈線．	−	
563	94	60	329	I	口縁	G L 80	Ⅲ	−	−	4.1	−	−	黒褐	口縁：平縁．渦巻状・横位隆帯．半截竹管による刺突．棒状工具による沈線．	−	
564	94	60	330	I	口縁	G N 78	Ⅲ	−	−	4.7	−	−	にぶい褐	口縁：平縁．半截竹管による沈線．横位隆帯（指頭状工具による押圧列）．	−	
565	94	60	331	I	口縁～胴部	G M 80	Ⅲ	−	−	6.0	−	−	灰黄褐	口縁：平縁．口唇部に棒状工具による刻みあり．半截竹管による沈線．	L R	
566	94	60	332	I	口縁	G L 80	Ⅲ	−	−	4.8	−	−	灰黄褐	口縁：波状縁．やや肥厚．波頂部直下円形凹孔．指頭状工具・棒状工具による沈線．	−	
567	94	60	333	I	口縁	G M 81	Ⅲ	−	−	6.2	−	−	黒褐	口縁：波状縁．やや肥厚．渦巻状隆帯？（棒状工具による沈線）．棒状工具による沈線．	−	
568	94	60	334	I	口縁	G K 82	Ⅲ	−	−	5.0	−	−	にぶい黄橙	口縁：平縁．やや肥厚．	L R側面圧痕	
569	94	60	335	I	口縁～胴部	G M 80	Ⅲ	−	−	5.5	−	−	にぶい黄橙	口縁：平縁．やや肥厚．	−	
570	94	60	336	I	口縁～胴部	G L 80	Ⅲ	−	−	5.6	−	−	暗褐	口縁：平縁．横位隆帯（指頭状工具による押圧）．	L R	
571	94	60	337	I	口縁	G M 80	Ⅲ	−	−	5.8	−	−	にぶい褐	口縁：平縁．肥厚．棒状工具・半截竹管による沈線．半截竹管による刺突列．	−	
572	94	60	339	I	口縁	G K 80	Ⅲ	−	−	5.4	−	−	にぶい褐	口縁：単頭突起．やや肥厚．波頂部の口唇部に棒状工具による刻みあり．半截竹管による沈線．	−	
573	94	60	340	I	口縁	G L 80	Ⅲ	−	−	8.3	−	−	黒褐	口縁：平縁．やや肥厚．口唇部指頭状工具による刻みあり．指頭状工具・半截竹管による沈線．半截竹管による刺突列．	−	
574	94	60	341	I	口縁	G M 81	Ⅲ	−	−	3.0	−	−	にぶい黄橙	口縁：平縁．肥厚．棒状工具による沈線．円形竹管による刺突列．	−	

第58表　土器観察表（13）

遺物No	図版No	写図No	登録No	分類	部　位	出土地点	出土層位	口径	最大径	器高	底径	器厚	色　調	文　様　・　特　徴	施文原体	備　考
575	94	60	342	I	口縁	G L79	Ⅲ	−	−	4.3	−	−	にぶい黄橙	口縁：平縁.	L R側面圧痕・L R	
576	94	60	343	I	口縁	G M81	Ⅲ	−	−	4.5	−	−	にぶい黄橙	口縁：平縁.	L R	
577	94	60	344	I	口縁	G M82	Ⅲ	−	−	4.1	−	−	灰黄褐	口縁：波状縁. 肥厚. 縦位隆帯（棒状工具による沈線）.	−	
578	94	60	345	I	口縁～胴部	G L79	Ⅲ	−	−	3.8	−	−	にぶい黄橙	口縁：平縁. 口唇部に縦位隆帯と粘土塊貼付. 棒状工具による刺突列.	−	
579	94	60	346	I	口縁	G L80	Ⅲ	−	−	5.0	−	−	黒褐	口縁：平縁. 棒状工具による沈線.	−	
580	94	60	347	I	口縁	G M81	Ⅲ	−	−	5.8	−	−	灰黄褐	口縁：平縁. ボタン状貼付文（中央凹）. 半截竹管による沈線.	R L	
581	94	60	348	I	口縁	G L81	Ⅲ	−	−	6.4	−	−	褐灰	口縁：波状縁. 肥厚. 指頭状工具による沈線・円形凹孔.	−	
582	94	60	349	I	口縁	G M81	Ⅲ	−	−	5.1	−	−	にぶい黄橙	口縁：平縁.	L R端部結節	
583	94	60	350	I	口縁	G L80	Ⅲ	−	−	3.8	−	−	黒褐	口縁：平縁. 半截竹管による沈線	−	
584	94	60	351	I	口縁	G L80	Ⅲ	−	−	5.7	−	−	にぶい黄橙	口縁：波状縁. 肥厚.	L（l）	
585	94	60	352	I	口縁	G J78	Ⅲ	−	−	5.3	−	−	橙	口縁：平縁. 棒状工具・半截竹管による沈線.	L R	
586	94	60	353	I	口縁	G M80	Ⅲ	−	−	7.3	−	−	黒褐	口縁：波状縁. 棒状工具による沈線. 横位隆帯（棒状工具による沈線）.	−	
587	94	60	354	I	口縁	G M81	Ⅲ	−	−	4.3	−	−	にぶい黄橙	口縁：単頭突起. やや肥厚. 波頂部直下縦位隆帯（半截竹管による刺突）. 半截竹管・棒状工具による沈線.	−	
588	94	60	355	I	口縁	G M80	Ⅲ	−	−	8.5	−	−	にぶい黄褐	口縁：波状縁. 縦位隆帯（半截竹管による押引文）. 半截竹管による沈線.	−	
589	94	60	358	I	口縁	G M78	Ⅲ	−	−	8.4	−	−	にぶい褐	口縁：平縁. やや肥厚. 棒状工具による沈線. 半截竹管による押引文.	磨滅し不明だがL Rと思われる.	
590	95	61	356	I	口縁	G M81	Ⅲ	−	−	3.8	−	−	灰黄褐	口縁：単頭突起. やや肥厚. 波頂部の口唇部に円形刺突. 棒状工具による沈線.	−	
591	95	61	357	I	口縁	G N80	Ⅲ	−	−	5.9	−	−	褐灰	口縁：波状縁. 口唇部と内面共に渦文貼付.	−	外面剥落
592	95	61	359	I	口縁	G L81	Ⅲ	−	−	6.3	−	−	明赤褐	口縁：平縁.棒状工具による沈線.円形・半截竹管による刺突列.横位隆帯（棒状工具による沈線）.	L R・R L結束第2種端部結節	
593	95	61	360	I	口縁	G N78	Ⅲ	−	−	9.7	−	−	にぶい黄褐	口縁：単頭突起. 肥厚. 波頂部直下に横位隆帯と円形粘土貼付. 棒状工具による沈線.	−	
594	95	61	362	I	口縁	G L81	Ⅲ	−	−	7.8	−	−	にぶい褐	口縁：平縁. やや肥厚. 半截竹管による沈線・刺突列. 縦位隆帯（半截竹管による刺突列）.	−	
595	95	61	364	I	口縁～胴部	G L79	Ⅲ	−	−	12.3	−	−	にぶい黄褐	口縁：平縁. やや肥厚. 円形刺突. 半截竹管による刺突列・沈線. 粘土粒貼付.	L R	
596	95	61	370	I	口縁～胴部	G M80	Ⅲ	−	−	6.7	−	−	にぶい黄橙	口縁：単頭突起. 半截竹管による沈線.	−	
597	95	61	365	I	口縁	G K78	Ⅲ	−	−	7.3	−	−	灰黄褐	口縁：波状縁. 肥厚. 波頂部直下穿孔有り. 半截竹管による沈線.	−	
598	95	61	366	I	口縁～頸部	G L78・80	Ⅲ	−	−	7.3	−	−	にぶい黄橙	口縁：平縁. やや肥厚. 半截竹管による沈線.	−	

第59表　土器観察表（14）

遺物No	図版No	写図No	登録No	分類	部　位	出土地点	出土層位	口径	最大径	器高	底径	器厚	色　調	文　様　・　特　徴	施文原体	備　考
599	95	61	367	ⅡB	口縁～胴部	GL80	Ⅲ	－	－	14.1	－	－	にぶい褐	口縁：平縁．やや肥厚．	－	
600	95	61	368	Ⅰ	口縁～胴部	GM80	Ⅲ	－	－	6.8	－	－	明褐	口縁：平縁．棒状工具による沈線．半截竹管による刺突．横位隆帯（棒状工具による沈線）．	ＬＲ・ＲＬ結束第１種両端結節	
601	95	61	372	Ⅰ	口縁	GN78	Ⅲ	－	－	6.5	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．	－	
602	95	61	369	Ⅰ	口縁～頸部	GL81	Ⅲ	－	－	8.3	－	－	褐灰	口縁：三頭突起．やや肥厚．波頂部直下円形凹孔．棒状工具・指頭状工具・半截竹管による沈線．横位隆帯（棒状工具による沈線）．	－	
603	96	61	373	Ⅰ	口縁	GK80	Ⅲ	－	－	6.6	－	－	にぶい褐	口縁：単頭突起．波頂部口唇に棒状工具による刻みあり．半截竹管による沈線．	－	
604	96	61	374	Ⅰ	口縁	GI78	Ⅲ	－	－	7.8	－	－	にぶい黄褐	口縁：波状縁．斜位隆帯．ボタン状貼付文．	ＬＲ	
605	96	61	376	Ⅰ	口縁	GL81	Ⅲ	－	－	8.5	－	－	褐	口縁：波状縁．縦位隆帯．棒状工具による沈線．半截竹管による刺突．	－	
606	96	61	381	Ⅰ	口縁	GO79	Ⅲ	－	－	7.0	－	－	にぶい黄橙	口縁：波状縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．	－	
607	96	61	375	Ⅰ	口縁～頸部	GM80	Ⅲ	－	－	7.7	－	－	暗褐	口縁：平縁．棒状工具による沈線・刺突列．横位隆帯（指頭状工具による押圧）．	－	
608	96	61	377	Ⅰ	口縁～胴部	GK79	Ⅲ	－	－	2.8	－	－	褐	口縁：波状縁．波頂部直下に円形凹孔．半截竹管による沈線．	－	
609	96	61	382	Ⅰ	口縁～胴部	GL79	Ⅲ	－	－	7.8	－	－	赤褐	口縁：波状縁．やや肥厚．半截竹管による沈線．	ＬＲ	
610	96	61	379	Ⅰ	口縁	GL79	Ⅲ	－	－	6.4	－	－	褐	口縁：平縁．	－	
611	96	61	380	Ⅰ	口縁	GM82	Ⅲ	－	－	6.4	－	－	灰黄褐	口縁：平縁．口唇部半截竹管による刻み有り．半截竹管による沈線．	－	
612	96	62	383	Ⅰ	口縁～胴部	GK78	Ⅲ	－	－	8.7	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．やや肥厚．円形凹孔．半截竹管による沈線．	ＬＲ	
613	96	62	384	Ⅰ	口縁	GN81	Ⅲ	－	－	6.4	－	－	にぶい黄褐	口縁：波状縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．半截竹管による刺突列．	－	
614	96	62	385	Ⅰ	口縁	GM81	Ⅲ	－	－	5.2	－	－	黒褐	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．横位隆帯（指頭状工具による押圧）	－	
615	96	62	387	Ⅰ	口縁～胴部	GL79	Ⅲ	－	－	6.0	－	－	灰黄褐	口縁：平縁．	口：Ｌ側面圧痕．胴：Ｌ	
616	96	62	389	Ⅰ	口縁	GL80	Ⅲ	－	－	4.7	－	－	にぶい褐	口縁：波状縁．やや肥厚．波頂部直下に円形凹孔．棒状工具による沈線．	－	
617	96	62	386	Ⅰ	口縁～胴部	GL80	Ⅲ	－	－	12.1	－	－	褐灰	口縁：平縁．	口：LR・RL結束の側面圧痕 胴：LR・RL結束第1種両端結節	
618	96	62	390	Ⅰ	口縁	GL79	Ⅲ	－	－	4.3	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．肥厚．棒状工具による沈線．半截竹管による刺突列．	－	
619	96	62	392	Ⅰ	口縁	GJ78	Ⅲ	－	－	4.1	－	－	灰黄褐	口縁：平縁．口唇部に指頭状工具による刻みあり．爪状工具による刺突列．	－	
620	96	62	391	Ⅰ	口縁	GL80	Ⅲ	－	－	6.0	－	－	にぶい橙	口縁：平縁．半截竹管による沈線．	－	
621	96	62	395	Ⅰ	口縁～胴部	GL79	Ⅲ	－	－	4.0	－	－	明褐	口縁：平縁．やや肥厚．	ＬＲ側面圧痕	
622	97	62	393	Ⅰ	口縁～胴部	GM79	Ⅲ	－	－	6.8	－	－	灰黄褐	口縁：平縁．棒状工具による沈線．横位隆帯（側面圧痕＋粘土塊貼付）．	ＬＲ・ＲＬ結束第２種	

第60表　土器観察表（15）

遺物No	図版No	写図No	登録No	分類	部　位	出土地点	出土層位	口径	最大径	器高	底径	器厚	色　調	文　様　・　特　徴	施文原体	備　考
623	97	62	394	I	口縁～胴部	GK79	Ⅲ	－	－	10.4	－	－	褐	口縁：平縁．半截竹管による沈線．	－	
624	97	62	396	I	口縁～胴部	GM78	Ⅲ	－	－	9.9	－	－	灰黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．	L	
625	97	62	401	I	口縁	GN80	Ⅲ	－	－	8.1	－	－	にぶい黄褐	口縁：単頭突起．やや肥厚．波頂部直下に横位弧状隆帯・円形粘土板貼付．棒状工具による沈線．	－	
626	97	62	397	I	口縁	GM81	Ⅲ	－	－	5.9	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．棒状工具による沈線．横位隆帯．	－	
627	97	62	398	I	口縁	GJ81	Ⅲ	－	－	4.4	－	－	灰黄褐	口縁：平縁．肥厚．円形凹孔．棒状工具による沈線．	－	
628	97	62	399	I	口縁～胴部	GM78	Ⅲ	－	－	7.0	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．	LR	
629	97	62	400	I	口縁	GK81	Ⅲ	－	－	4.4	－	－	灰黄褐	口縁：平縁．棒状工具・半截竹管による沈線．	LR	
630	97	62	402	I	口縁	GJ79	Ⅲ	－	－	7.1	－	－	にぶい黄橙	口縁：双頭突起？．やや肥厚．波頂部直下に円形刺突．縦位隆帯．半截竹管による沈線．	－	
631	97	62	403	I	口縁～胴部	GM82	Ⅲ	－	－	10.3	－	－	暗褐	口縁：平縁．やや肥厚．	－	
632	97	62	409	I	口縁～胴部	GM81	Ⅲ	－	－	6.6	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．やや肥厚．円形凹孔．指頭状工具・半截竹管による沈線．ボタン状貼付．	LR	
633	97	62	405	I	口縁～胴部	GN81	Ⅲ	－	－	6.8	－	－	灰黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．	LR	
634	97	62	406	I	口縁～胴部	GN81	Ⅲ	－	－	9.8	－	－	黒褐	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．横位隆帯（棒状工具による沈線）．	LR端部結節	
635	97	62	407	I	口縁	GM80	Ⅲ	－	－	4.7	－	－	明赤褐	口縁：平縁．肥厚．棒状工具による沈線．円形凹孔．	－	
636	97	62	404	ⅡA	口縁～胴部	GL82	Ⅲ	－	－	5.0	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．口唇部に沈線．半截竹管による沈線．	－	
637	97	62	408	I	口縁～胴部	GN80	Ⅲ	－	－	4.6	－	－	灰黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．	－	
638	97	62	410	I	口縁	GL80	Ⅲ	－	－	6.0	－	－	黒褐	口縁：平縁．肥厚．口唇部に指頭状工具による刻みあり．指頭状工具による沈線．	－	
639	97	62	411	Ⅱ	口縁～胴部	GM81	Ⅲ	－	－	7.0	－	－	灰黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．	－	
640	97	62	412	I	口縁～頸部	GL80	Ⅲ	－	－	6.8	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線	－	
641	97	62	413	I	口縁～頸部	GM80	Ⅲ	－	－	4.5	－	－	黒褐	口縁：平縁．やや肥厚．縦位隆帯．棒状工具による沈線．	－	
642	97	62	414	I	口縁	GN80	Ⅲ	－	－	6.1	－	－	浅黄橙	口縁：平縁．棒状工具による沈線．半截竹管による刺突．	－	
643	98	62	415	I	口縁	GL81	Ⅲ	－	－	6.8	－	－	灰黄褐	口縁：単頭突起．波頂部直下縦位隆帯（棒状工具による沈線）．棒状工具による沈線．	－	
644	98	63	416	I	口縁～頸部	GM80	Ⅲ	－	－	9.4	－	－	にぶい褐	口縁：波状縁．口唇部に棒状工具による刻みあり．波頂部直下円形凹孔．半截竹管による沈線．	－	
645	98	62	417	I	口縁	GN79	Ⅲ	－	－	4.7	－	－	灰黄褐	口縁：単頭突起．頂頭部直下１列縦位隆帯．横位隆帯（半截竹管による刺突）．半截竹管による沈線．	－	
646	98	62	418	I	口縁	GN80	Ⅲ	－	－	3.5	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．棒状工具による沈線．粘土塊貼付．	－	

第61表　土器観察表（16）

遺物No	図版No	写図No	登録No	分類	部　位	出土地点	出土層位	口径	最大径	器高	底径	器厚	色　調	文　様　・　特　徴	施文原体	備　考
647	98	62	419	I	口縁	G N79	Ⅲ	−	−	5.2	−	−	にぶい黄橙	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．	L R	
648	98	62	420	I	口縁～胴部	G L80	Ⅲ	−	−	5.6	−	−	にぶい黄褐	口縁：平縁．肥厚．	−	
649	98	63	421	I	口縁	G M80	Ⅲ	−	−	5.3	−	−	にぶい黄橙	口縁：平縁．棒状工具による沈線．半截竹管による刺突．粘土塊貼付．	−	口唇部貼付剥落
650	98	63	423	I	口縁	G L81	Ⅲ	−	−	5.4	−	−	にぶい黄褐	口縁：波状縁．棒状工具による沈線．渦巻状隆帯（棒状工具による沈線）．	−	
651	98	63	422	I	口縁	G L81	Ⅲ	−	−	4.6	−	−	にぶい黄褐	口縁：平縁．口唇部に突起あり．半截竹管による刺突列．横・斜位隆帯（半截竹管による沈線あり）．棒状工具・半截竹管による沈線．	−	突起部分は剥落
652	98	63	424	I	口縁	G N80	Ⅲ	−	−	3.9	−	−	褐灰	口縁：平縁．やや肥厚．指頭状工具・半截竹管による沈線．	−	
653	98	63	425	I	口縁～胴部	G J79	Ⅲ	−	−	5.0	−	−	灰黄褐	口縁：波状縁．肥厚．指頭状工具による沈線．	L R	
654	98	63	427	I	口縁～胴部	G M79	Ⅲ	−	−	4.6	−	−	にぶい赤褐	口縁：平縁．口唇部に円形竹管による刺突あり．	L R	
655	98	63	429	I	口縁	G L81	Ⅲ	−	−	7.6	−	−	にぶい黄褐	口縁：波状縁．やや肥厚．渦巻状隆帯（棒状工具による沈線）．	−	
656	98	63	430	I	口縁	G M81	Ⅲ	−	−	5.4	−	−	褐灰	口縁：平縁．やや肥厚．渦状隆帯（棒状工具による沈線）．棒状工具による沈線．	−	
657	98	63	431	I	口縁	G J78	Ⅲ	−	−	4.1	−	−	黒褐	口縁：双頭突起．やや肥厚．波底部間縦位隆帯２列．横・斜位隆帯．指頭状工具・半截竹管による沈線．	−	
658	98	63	432	I	口縁～胴部	G J78	Ⅲ	−	−	4.0	−	−	にぶい黄橙	口縁：平縁．棒状工具による沈線．	口：L R側面圧痕．胴：L R	
659	98	63	433	I	口縁	G K80	Ⅲ	−	−	3.6	−	−	にぶい黄橙	口縁：平縁．棒状工具による沈線．半截竹管による刺突．	−	
660	98	63	434	I	口縁～頸部	G N80	Ⅲ	−	−	5.4	−	−	にぶい黄橙	口縁：平縁．やや肥厚．	口：側面圧痕．胴：磨滅しているため不明．	
661	98	63	435	I	口縁～胴部	G L79	Ⅲ	−	−	5.6	−	−	暗褐	口縁：平縁．やや肥厚．円形凹孔．棒状工具による沈線．	L R	
662	98	63	438	I	口縁	G N79	Ⅲ	−	−	5.2	−	−	黒褐	口縁：平縁．２列縦位隆帯．	−	
663	98	63	436	I	口縁～胴部	G N80	Ⅲ	−	−	9.7	−	−	にぶい黄褐	口縁：単頭突起．やや肥厚．波頂部直下円形凹孔．半截竹管による沈線．ボタン状貼付文．	−	
664	98	63	437	I	口縁	G L80	Ⅲ	−	−	3.2	−	−	黒褐	口縁：波状縁？．やや肥厚．口唇部に棒状工具による沈線・刺突あり．縦位隆帯（爪形文）．棒状工具による沈線．爪形文．	−	
665	98	63	439	I	口縁～頸部	G K80	Ⅲ	−	−	3.9	−	−	にぶい黄橙	口縁：平縁．棒状工具による沈線．横位隆帯（指頭状工具による押圧）．	−	
666	98	63	440	I	口縁～胴部	G N80	Ⅲ	−	−	5.6	−	−	灰黄褐	口縁：平縁．	L R	
667	99	63	441	I	口縁	G K79	Ⅲ	−	−	4.3	−	−	にぶい黄橙	口縁：平縁．棒状工具による沈線．	−	
668	99	63	442	I	口縁～頸部	G N79	Ⅲ	−	−	6.3	−	−	にぶい黄褐	口縁：平縁．肥厚．棒状工具・半截竹管による沈線．	−	
669	99	63	443	I	口縁	G M78	Ⅲ	−	−	4.8	−	−	褐灰	口縁：波状縁．やや肥厚．三角印刻．指頭状工具による沈線．半截竹管による刺突．	−	
670	99	63	444	I	口縁	G L81	Ⅲ	−	−	3.8	−	−	にぶい黄褐	口縁：波状縁．波頂部直下縦位隆帯（棒状工具による沈線）．棒状工具による沈線・刺突列．	−	

第62表　土器観察表（17）

遺物No	図版No	写図No	登録No	分類	部　位	出土地点	出土層位	口径	最大径	器高	底径	器厚	色　調	文　様　・　特　徴	施文原体	備　考
671	99	63	I	445	口縁	GK79	Ⅲ	－	－	5.6	－	－	にぶい橙	口縁：平縁．半截竹管による沈線．	－	
672	99	63	I	446	口縁	GL82	Ⅲ	－	－	3.9	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．	－	
673	99	63	I	447	口縁	GO78	Ⅲ	－	－	3.4	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．棒状工具による沈線．	－	
674	99	63	I	448	口縁	GL79	Ⅲ	－	－	4.3	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．口唇部ボタン状貼付文．棒状工具による沈線．	－	
675	99	63	I	450	口縁	GK80	Ⅲ	－	－	3.2	－	－	にぶい黄褐	口縁：波状縁．口唇部に棒状工具による刻みあり．棒状工具による刺突列．	－	
676	99	63	I	451	口縁	GN80	Ⅲ	－	－	4.3	－	－	暗褐	口縁：平縁．やや肥厚．縦位隆帯．棒状工具による沈線．横位隆帯（棒状工具による沈線）．	－	
677	99	63	I	452	口縁	GL80	Ⅲ	－	－	3.4	－	－	黒褐	口縁：平縁．肥厚．棒状工具による沈線．円形竹管による刺突列．	－	
678	99	63	I	453	口縁	GL80	Ⅲ	－	－	4.6	－	－	暗褐	口縁：波状縁．波頂部口唇部に棒状工具による刻みあり．波頂部直下円形凹孔．棒状工具・半截竹管による沈線．	－	
679	99	63	I	454	口縁～胴部	GK81	Ⅲ	－	－	5.0	－	－	褐	口縁：波状縁．やや肥厚．口唇部に指頭状工具による刻みあり．波頂部直下円形凹孔．	LR	
680	99	63	I	455	口縁	GN79	Ⅲ	－	－	6.2	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．円形粘土板貼付．指頭状・棒状工具による沈線．	－	
681	99	63	I	456	口縁～胴部	GM81	Ⅲ	－	－	6.2	－	－	灰黄褐	口縁：単頭突起．	L端部結節	
682	99	63	I	457	口縁	GL80	Ⅲ	－	－	7.1	－	－	灰黄褐	口縁：平縁．半截竹管による沈線．	－	
683	99	63	I	458	口縁	GN78	Ⅲ	－	－	5.7	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．肥厚．円形粘土塊貼付．縦位隆帯（半截竹管による刺突）．押引文．	－	
684	99	64	I	459	口縁～胴部	GN81	Ⅲ	－	－	7.5	－	－	灰黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．ボタン状貼付文．隆帯．	LR	
685	99	64	I	460	口縁	GO78	Ⅲ	－	－	8.7	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．L字状隆帯（棒状工具による沈線）．棒状工具による沈線．	－	
686	99	64	I	461	口縁	GM81	Ⅲ	－	－	3.9	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．棒状工具による沈線．	－	
687	99	64	I	462	口縁	GK81	Ⅲ	－	－	4.9	－	－	黒褐	口縁：平縁．やや肥厚．横位隆帯（半截竹管による沈線）．半截竹管による沈線．	－	
688	99	64	I	465	口縁～胴部	GL81	Ⅲ	－	－	6.5	－	－	褐	口縁：平縁．棒状工具による沈線．円形竹管による刺突列．横位隆帯（棒状工具による刺突列）．	LR・RL結束第2種両端結節	
689	99	64	I	467	口縁～頸部	GL79	Ⅲ	－	－	6.2	－	－	明黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．	－	
690	100	64	I	468	口縁～頸部	GM81	Ⅲ	－	－	5.2	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．肥厚．棒状工具による沈線・円形凹孔．半截竹管による沈線．	－	
691	100	64	I	469	口縁	GL80	Ⅲ	－	－	4.6	－	－	黒褐	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．	－	
692	100	64	I	472	口縁	GI80	Ⅲ	－	－	5.5	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．半截竹管による沈線・刺突列．	結節L	
693	100	64	I	475	口縁	GM78	Ⅲ	－	－	4.6	－	－	灰黄褐	口縁：平縁．棒状工具による沈線．粘土塊貼付（LR側面圧痕）．	RL側面圧痕．LR	
694	100	64	I	471	口縁	GL81	Ⅲ	－	－	5.6	－	－	にぶい黄褐	口縁：単頭突起．横位隆帯（棒状工具による刺突列）．内面に縦・横位隆帯．	－	

第63表　土器観察表（18）

遺物No	図版No	写図No	登録No	分類	部　位	出土地点	出土層位	口径	最大径	器高	底径	器厚	色　調	文　様　・　特　徴	施文原体	備　考
695	100	64	I	473	口縁	GL79	Ⅲ	−	−	5.1	−	−	黒褐	口縁：波状縁．肥厚．半截竹管による沈線．	−	
696	100	64	I	474	口縁～胴部	GL80	Ⅲ	−	−	10.8	−	−	にぶい黄橙	口縁：波状縁．横位隆帯（円形竹管による刺突列）．	口：RL側面圧痕． 胴：木目状撚糸文L・R	
697	100	64	I	476	口縁	GL80	Ⅲ	−	−	7.0	−	−	灰黄褐	口縁：平縁．肥厚．棒状工具による沈線．	LR	
698	100	64	I	477	口縁～胴部	GI80	Ⅲ	−	−	4.6	−	−	暗褐	口縁：平縁．棒状工具による沈線．	LR端部結節	
699	100	64	I	481	口縁	GM81	Ⅲ	−	−	4.1	−	−	にぶい黄褐	口縁：波状縁．肥厚．半截竹管による刺突列．押引文．	−	
700	100	64	I	478	口縁	GN81	Ⅲ	−	−	4.1	−	−	にぶい黄褐	口縁：波状縁．波頂部穿孔あり．内外面に円形粘土貼付．縦位隆帯．半截竹管による沈線．	−	
701	100	64	I	479	口縁	GL80	Ⅲ	−	−	4.1	−	−	灰黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．円形竹管による刺突．棒状工具による沈線．	−	
702	100	64	I	480	口縁	GL79	Ⅲ	−	−	4.7	−	−	褐	口縁：平縁．やや肥厚．口唇部棒状工具による刻みあり．棒状工具・半截竹管による沈線．	−	
703	100	64	I	483	口縁	GN80	Ⅲ	−	−	4.0	−	−	黒褐	口縁：波状縁．波頂部直下穿孔あり．縦位隆帯．	LR	
704	100	64	I	482	口縁	GL81	Ⅲ	−	−	10.2	−	−	橙	口縁：平縁．	−	
705	100	64	I	484	口縁	GM82	Ⅲ	−	−	4.7	−	−	明黄褐	口縁：波状縁．突起剥落し不明．	LR	
706	100	64	I	486	口縁～胴部	GM80	Ⅲ	−	−	4.1	−	−	褐灰	口縁：平縁．	LR・RL結束第2種端部結節	
707	100	64	I	487	口縁	GM80	Ⅲ	−	−	5.3	−	−	褐灰	口縁：平縁．棒状工具による沈線．	LR側面圧痕	
708	100	64	I	489	口縁	GL81	Ⅲ	−	−	5.0	−	−	にぶい黄褐	口縁：単頭突起．波頂部円形竹管による刺突．細い隆帯貼付．	−	
709	100	64	I	490	口縁	GM81	Ⅲ	−	−	5.0	−	−	にぶい黄橙	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．	−	
710	100	64	I	491	口縁～胴部	GL81	Ⅲ	−	−	5.5	−	−	橙	口縁：平縁．	−	
711	100	64	I	493	口縁	GL80	Ⅲ	−	−	6.9	−	−	明褐	口縁：平縁．	LR	
712	101	64	I	492	口縁～胴部	GN78・79	Ⅲ	−	−	4.7	−	−	にぶい黄橙	口縁：平縁．横位隆帯．	LR側面圧痕	外面煤付着
713	101	64	I	494	口縁～胴部	GM80	Ⅲ	−	−	4.5	−	−	灰黄褐	口縁：平縁．	LR・RL結束第1種	
714	101	64	I	495	口縁	GM79	Ⅲ	−	−	4.1	−	−	黒褐	口縁：波状縁．肥厚．半截竹管による刺突・沈線．	−	
715	101	64	I	497	口縁	GL80	Ⅲ	−	−	5.3	−	−	黒褐	口縁：双頭突起．肥厚．波底部縦位隆帯．	−	
716	101	64	I	498	口縁～胴部	GJ79	Ⅲ	−	−	6.1	−	−	にぶい黄褐	口縁：平縁．棒状工具による沈線．円形凹孔．半截竹管による沈線．	LR	
717	101	64	I	499	口縁～頸部	GM81	Ⅲ	−	−	4.4	−	−	褐	口縁：平縁．横位隆帯（棒状工具による沈線）．	−	
718	101	64	I	500	口縁	GN80	Ⅲ	−	−	4.4	−	−	にぶい黄橙	口縁：単頭突起．やや肥厚．波頂部内外面に粘土塊貼付．横位隆帯．	−	

第64表　土器観察表（19）

遺物No	図版No	写図No	登録No	分類	部　位	出土地点	出土層位	口径	最大径	器高	底径	器厚	色　調	文　様　・　特　徴	施文原体	備　考
719	101	64	I	501	口縁	GN80	Ⅲ	－	－	3.7	－	－	灰黄褐	口縁：小波状縁．口唇部に指頭状工具により刻みあり．	－	
720	101	64	I	502	口縁	GN78	Ⅲ	－	－	3.0	－	－	灰黄褐	口縁：平縁．棒状工具による沈線．円形竹管による刺突．	－	
721	101	64	I	503	口縁	GL81	Ⅲ	－	－	4.3	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．斜・横位隆帯貼付．棒状工具による沈線．	LR	
722	101	64	I	504	口縁～胴部	GL82	Ⅲ	－	－	3.7	－	－	にぶい黄橙	口縁：単頭突起．半截竹管による沈線．	LR	
723	101	64	I	508	口縁	GJ81	Ⅲ	－	－	3.2	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．円形竹管による刺突．半截竹管・棒状工具による沈線．	－	
724	101	64	I	505	口縁	GJ78	Ⅲ	－	－	6.2	－	－	黒褐	口縁：単頭突起．肥厚．半截竹管による沈線．	LR側面圧痕	
725	101	65	I	506	口縁～胴部	GN80	Ⅲ	－	－	4.9	－	－	黒褐	口縁：平縁．半截竹管による沈線．	－	
726	101	65	I	507	口縁～胴部	GK81	Ⅲ	－	－	5.7	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．穿孔列．横位隆帯．半截竹管による沈線．	－	
727	101	65	I	509	口縁	GK81	Ⅲ	－	－	4.8	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．やや肥厚．横位隆帯（円形凹孔）．	－	
728	101	65	I	510	口縁～胴部	GH80	Ⅲ	－	－	4.5	－	－	にぶい黄褐	口縁：単頭突起．半截竹管による沈線．	－	
729	101	65	I	511	口縁	GL82	Ⅲ	－	－	6.1	－	－	黒褐	口縁：平縁．やや肥厚．半截竹管による沈線．縦位隆帯（半截竹管による沈線）．	－	
730	101	65	I	512	口縁～胴部	GM79	Ⅲ	－	－	5.7	－	－	にぶい黄橙	口縁：波状縁．横位隆帯（指頭状工具による押圧）．	網目状撚糸R	
731	101	65	I	514	口縁～胴部	GL80	Ⅲ	－	－	7.1	－	－	暗赤褐	口縁：波状縁．縦・横位隆帯．横位隆帯（半截竹管による沈線）．円形凹孔．棒状工具・半截竹管による沈線．	LR	
732	101	65	I	513	口縁	GO79	Ⅲ	－	－	2.7	－	－	灰黄褐	口縁：波状縁．縦・横位隆帯．横位隆帯（半截竹管による沈線）．円形凹孔．棒状工具・半截竹管による沈線．	－	
733	101	65	I	516	口縁	GK82	Ⅲ	－	－	3.7	－	－	黒褐	口縁：平縁．半截竹管による沈線．	－	
734	101	65	I	519	口縁	GLグリッド一括	Ⅲ	－	－	3.8	－	－	橙	口縁：平縁．棒状工具による沈線．半截竹管による刺突列．	－	
735	101	65	I	520	口縁～胴部	GM81	Ⅲ	－	－	7.0	－	－	黒褐	口縁：平縁．半截竹管による沈線．横位隆帯（半截竹管による沈線）．	LR・RL結束第2種両端結節	
736	101	65	I	515	口縁	GM79	Ⅲ	－	－	4.6	－	－	褐灰	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具・半截竹管による沈線．	－	
737	101	65	I	517	口縁	GK81	Ⅲ	－	－	2.8	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．肥厚．渦巻状隆帯？（隆線4列貼付）．横位・山形隆帯（半截竹管による刺突列）．	－	
738	101	65	I	521	口縁～胴部	GM78	Ⅲ	－	－	3.6	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．棒状工具による沈線．	LR	
739	102	65	I	522	口縁	GM80	Ⅲ	－	－	4.0	－	－	灰黄褐	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．	－	
740	102	65	I	523	口縁	GL81	Ⅲ	－	－	3.1	－	－	褐灰	口縁：平縁．隆帯．	LR	
741	102	65	I	281	頸～胴部	GK82	Ⅲ	－	－	6.8	－	－	にぶい褐	棒状工具による沈線．縦・横位隆帯剥落．	LR・RL結節第1種端部結節	
742	102	65	I	114	胴部	GL79	Ⅲ	－	－		－		橙	棒状工具・半截竹管による沈線．	LR	

第65表　土器観察表（20）

遺物No	図版No	写図No	登録No	分類	部　位	出土地点	出土層位	口径	最大径	器高	底径	器厚	色　調	文　様　・　特　徴	施文原体	備　考
743	102	65	Ⅰ	275	胴部	GM81	Ⅲ	－	－	6.2	－	－	にぶい黄褐	棒状工具による沈線．ボタン状貼付文．	－	
744	102	65	Ⅰ	299	胴部	GN80	Ⅲ	－	－	6.1	－	－	灰褐	棒状工具による沈線．	RL	
745	102	65	Ⅰ	319	頸部	GK82	Ⅲ	－	－	4.4	－	－	明褐	棒状工具による沈線．	－	
746	102	65	Ⅰ	338	頸部～胴部	GM82	Ⅲ	－	－	4.9	－	－	にぶい黄橙	横位・縦位（鋸歯状）隆帯．	LR	
747	102	65	Ⅰ	361	頸部	GO79	Ⅲ	－	－	7.2	－	－	にぶい褐	棒状工具による沈線．	磨滅し不明	
748	102	65	Ⅰ	363	頸～胴部	GL81	Ⅲ	－	－	6.8	－	－	灰黄褐	半截竹管による沈線・押引文．	LR	
749	102	65	Ⅰ	388	胴部	GM79	Ⅲ	－	－	11.1	－	－	暗褐	－	単軸絡条体L	
750	102	65	Ⅰ	464	頸部	GI81	Ⅲ	－	－	6.5	－	－	浅黄橙	渦巻状隆帯（半截竹管による沈線）．横位隆帯（半截竹管による沈線）．棒状工具による沈線．	－	
751	102	65	Ⅰ	463	胴部	GN80	Ⅲ	－	－	4.6	－	－	灰黄褐	半截竹管による沈線．	LR	
752	102	65	Ⅰ	426	頸部	GL79	Ⅲ	－	－	5.0	－	－	橙	半截竹管による沈線．	－	
753	102	65	Ⅰ	428	頸部	GL81	Ⅲ	－	－	5.5	－	－	にぶい黄褐	渦巻状隆帯（棒状工具による沈線）．横位隆帯（指頭状工具による押圧）．粘土塊貼付（棒状工具による刺突）．棒状工具による沈線．	LR端部結節	
754	102	65	Ⅰ	371	胴部	GM79	Ⅲ	－	－	12.4	－	－	にぶい黄褐	－	LR端部結節	
755	102	65	Ⅰ	449	頸部～胴部	GM80	Ⅲ	－	－	11.3	－	－	にぶい黄橙	半截竹管による沈線．円形竹管による刺突列．	LR	
756	102	65	Ⅰ	466	胴部	GL81	Ⅲ	－	－	12.3	－	－	灰黄褐	－	撚糸L	
757	103	65	Ⅰ	470	胴部	GL79	Ⅲ	－	－	7.7	－	－	にぶい黄褐	口縁：半截竹管による沈線・刺突列．棒状工具による沈線．	LR	
758	103	65	Ⅰ	485	頸部～胴部	GM80	Ⅲ	－	－	6.0	－	－	にぶい黄褐	縦・横位隆帯（半截竹管による沈線）．半截竹管による沈線．	－	
759	103	65	Ⅰ	496	胴部	GM78	Ⅲ	－	－	4.3	－	－	にぶい黄褐	棒状工具による沈線．	撚糸L	
760	103	65	Ⅰ	518	頸部～胴部	GN80	Ⅲ	－	－	5.0	－	－	明黄褐	半截竹管による沈線．	－	
761	103	66	ⅠC	131	口縁～底部	GN79	Ⅳ	13.3	－	12.6	7.6	0.7	にぶい橙	口縁：平縁．隆線貼付・粘土塊貼付（隆線貼付）	LR・RL結束第1種端部結節	内面煤付着
762	103	66	IG2	133	口縁～底部	GO79	Ⅳ	(11.8)	－	17.0	(8.4)	0.7	にぶい褐	口縁：平縁．	－	外面煤付着
763	103	67	IB1	132	口縁～胴部	GM79	Ⅳ	(14.2)	－	17.3	－	0.6	暗褐	口縁：平縁．縦位隆帯．	口：LR側面圧痕．胴：LR端部結節	
764	103	66	Ⅰ	134	口縁～胴部	GM81	Ⅳ	(28.8)	－	11.6	－	0.8	にぶい黄褐	口縁：単頭突起，肥厚．波頂部直下に粘土塊・円形隆帯．棒状工具による沈線．半截竹管による刺突と沈線．指頭押圧．胴部に粘土塊貼付．	LR	
765	103	66	Ⅰ	135	口縁～胴部	GN80	Ⅳ	(27.5)	－	15.7	－	1.1	明黄褐	口縁：波状縁．やや肥厚．円形凹孔．棒状・篦状工具・半截竹管による沈線．横位隆帯（棒状工具による押圧）．ボタン状貼付．	L・R束第1種	
766	103	66	ID	130	口縁～胴部	GM80	Ⅳ	(16.6)	－	25.6	－	0.7	にぶい黄褐	口縁：波状縁．	口：LR・RL側面圧痕．胴：LR・RL結束第1種．	

第66表　土器観察表（21）

遺物No	図版No	写図No	登録No	分類	部　位	出土地点	出土層位	口径	最大径	器高	底径	器厚	色　調	文　様　・　特　徴	施文原体	備　考
767	104	67	ＩＢ１	139	胴～底部	ＧＮ80	Ⅳ	(28.0)	－	12.5	－	0.9	にぶい黄橙	口縁：双頭突起（４単位）．やや肥厚．波底部３列縦位隆帯．半截竹管による沈線．	ＬＲ	768・769と同一個体
768	104	69	ＩＢ１	138	胴～底部	ＧＮ80	Ⅳ	－	(23.0)	21.3	－	0.9	にぶい黄橙	胴部：半截竹管による沈線．	ＬＲ	767・769と同一個体
769	104	67	ＩＢ１	137	胴～底部	ＧＮ80	Ⅳ	－	(22.0)	18.0	15.0	1.0	にぶい黄橙	胴部：半截竹管による沈線．底部：網代痕→ナデ．	ＬＲ	767・768と同一個体
770	104	67	IA1・2	136	口縁～胴部	ＧＮ79	Ⅳ	(26.4)	－	11.2	－	1.2	灰黄褐	口縁：平縁．口唇部に半截竹管による刻み．頸部・胴部：半截竹管による沈線及び刺突．	ＬＲ	
771	105	66	Ⅰ	129	胴～底部	ＧＭ79	Ⅳ	－	(25.7)	33.8	13.6	0.7	暗褐	頸部：縦・横位隆帯（棒状工具による刺突）．棒状工具による沈線．底部：網代痕．	ＬＲ・ＲＬ結束第１種　両端結節	
772	105	67	ＩＧ	140	胴～底部	ＧＮ79	Ⅳ	－	(15.7)	15.6	10.8	0.8	にぶい黄橙	底部：網代痕→ナデ	ＬＲ	内面煤付着
773	105	67	Ⅰ	141	胴～底部	ＧＭ79	Ⅳ	－	(12.7)	6.2	10.0	1.1	明赤褐	底部：網代痕．	ＬＲ・ＲＬ結束第１種	
774	105	67	Ⅰ	142	胴～底部	ＧＮ79	Ⅳ	－	(12.2)	7.9	(9.8)	0.9	暗赤褐	－	ＬＲ	
775	105	67	Ⅰ	143	胴～底部	ＧＭ79	Ⅳ	－	－	2.6	7.7	0.6	にぶい黄橙	－	ＲＬ両端部結節	
776	105	67	Ⅲ	144	口縁～底部	ＧＭ79	Ⅳ	(4.4)	－	2.0	0.5	1.6	にぶい黄橙	－	－	
777	105	68	Ⅰ	525	口縁	ＧＯ79	Ⅳ	－	－	4.0	－	－	にぶい赤褐	口縁：平縁．	網目状撚糸Ｌ	
778	105	68	Ⅰ	526	口縁	ＧＯ79	Ⅳ	－	－	4.2	－	－	灰黄褐	口縁：単頭突起．肥厚．口唇部に棒状工具による刻みあり．棒状工具による刺突列．	－	
779	105	68	Ⅰ	528	口縁	ＧＬ81	Ⅳ	－	－	4.3	－	－	にぶい褐	口縁：平縁．口唇部に指頭状工具による押圧あり．半截竹管による沈線．	－	
780	106	68	Ⅰ	524	口縁～頸部	ＧＬ81	Ⅳ	－	－	9.2	－	－	暗褐	口縁：平縁．やや肥厚．半截竹管による沈線．	－	
781	106	68	Ⅰ	529	口縁～胴部	ＧＭ81	Ⅳ	－	－	9.5	－	－	黒褐	口縁：平縁．棒状工具による沈線．	－	
782	106	68	Ⅰ	531	口縁	ＧＮ81	Ⅳ	－	－	4.3	－	－	黒褐	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．横位隆帯（棒状工具による沈線）．		
783	106	68	Ⅰ	532	口縁	ＧＯ79	Ⅳ	－	－	3.2	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．縦位隆帯（棒状工具による沈線）．棒状工具による沈線．	－	
784	106	68	Ⅰ	530	口縁	ＧＯ79	Ⅳ	－	－	3.1	－	－	褐灰	口縁：平縁．	ＬＲ	
785	106	68	Ⅰ	527	口縁～頸部	ＧＯ79	Ⅳ	－	－	4.4	－	－	黒褐	口縁：波状縁．やや肥厚．横位隆帯（棒状工具による沈線）．半截竹管による沈線．	－	
786	106	68	Ⅰ	533	口縁	ＧＮ79	Ⅳ	－	－	3.5	－	－	暗褐	口縁：単頭突起．やや肥厚．波頂部口唇部に棒状工具による刻みあり．	－	
787	106	68	Ⅰ	534	口縁～胴部	ＧＯ79	Ⅳ	－	－	5.2	－	－	にぶい褐	口縁：平縁．	ＬＲ	
788	106	68	Ⅰ	537	口縁	ＧＯ79	Ⅳ	－	－	4.6	－	－	黒褐	口縁：平縁．	ＬＲ	
789	106	68	Ⅰ	536	口縁	ＧＮ81	Ⅳ	－	－	4.8	－	－	褐	口縁：平縁．押引文．縦・横位隆帯．	ＬＲ	
790	106	68	Ⅰ	538	口縁	ＧＭ80	Ⅳ	－	－	4.4	－	－	にぶい褐	口縁：平縁．肥厚．棒状工具による沈線．	－	

第67表　土器観察表（22）

遺物No	図版No	写図No	登録No	分類	部　位	出土地点	出土層位	口径	最大径	器高	底径	器厚	色　調	文　様　・　特　徴	施文原体	備　考
791	106	68	I	540	口縁	G N79	Ⅳ	−	−	4.0	−	−	褐灰	口縁：平縁．やや肥厚．	−	
792	106	68	I	541	口縁	G O79	Ⅳ	−	−	4.1	−	−	灰黄褐	口縁：平縁．半截竹管による沈線．	−	
793	106	68	I	543	口縁	G M80	Ⅳ	−	−	5.4	−	−	にぶい黄橙	口縁：単頭突起．やや肥厚．波頂部直下円形凹孔．棒状工具・半截竹管による沈線．	L R	
794	106	68	I	535	口縁	G N81	Ⅳ	−	−	5.2	−	−	黒褐	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．	−	
795	106	68	I	542	口縁	G N79	Ⅳ	−	−	4.0	−	−	にぶい黄褐	口縁：波状縁．半截竹管による沈線．	−	
796	106	68	I	539	口縁	G M81	Ⅳ	−	−	5.4	−	−	灰黄褐	口縁：単頭突起．波頂部から縦位隆帯（半截竹管による沈線）．棒状工具・半截竹管による沈線．	−	
797	106	68	I	544	口縁	G M78	Ⅳ	−	−	5.3	−	−	にぶい黄橙	口縁：平縁．肥厚．棒状工具による凹孔．半截竹管による沈線．	−	
798	106	68	I	548	口縁	G N79	Ⅳ	−	−	4.7	−	−	黒褐	口縁：小波状縁．口唇部に棒状工具による刻み．半截竹管による刺突列・沈線．内面棒状工具による刺突あり．	L R	
799	106	68	I	550	口縁～胴部	G M79	Ⅳ	−	−	11.7	−	−	明褐	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．横位隆帯（指頭状工具による押圧）．	L R・R L結束第1種端部結節	
800	106	68	I	551	口縁～胴部	G L・M81	Ⅳ	−	−	23.6	−	−	暗褐	口縁：波状縁．やや肥厚．縦・横・斜位鋸歯状隆帯．	L R	
801	107	68	I	545	突起	G N79	Ⅳ	−	−	4.8	−	−	にぶい黄褐	ドーナツ状突起（中央円形凹孔．周辺は棒状工具による刺突列）．	−	
802	107	68	I	546	口縁	G O79	Ⅳ	−	−	3.9	−	−	褐灰	口縁：平縁．半截竹管による沈線．	−	
803	107	68	I	547	口縁	G N79	Ⅳ	−	−	3.2	−	−	灰黄褐	口縁：波状縁．波頂部直下に円形凹孔．半截竹管による沈線．		
804	107	68	I	552	口縁～胴部	G L80	Ⅳ	−	−	8.0	−	−	黒褐	口縁：平縁．	−	
805	107	68	I	549	口縁	G N79	Ⅳ	−	−	6.3	−	−	明褐	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具による沈線．	−	
807	107	68	I	553	口縁～胴部	G N80	Ⅳ	−	−	7.5	−	−	褐灰	口縁：平縁．横位隆帯（指頭状工具による押圧列）．渦巻状隆帯（剥落）．	L R側面圧痕．L R．	
806	107	68	I	554	口縁～胴部	G L80	Ⅳ	−	−	5.8	−	−	にぶい褐	口縁：平縁．やや肥厚．	0段3条	
808	107	68	I	555	口縁～胴部	G O79	Ⅳ	−	−	7.7	−	−	黒褐	口縁：平縁．棒状工具による沈線．「ノ」字状隆帯．横位隆帯（爪形文列）．	L R	
809	107	68	I	556	頸部～胴部	G N80	Ⅳ	−	−	15.7	−	−	灰黄褐	口縁：平縁．肥厚．	L R	
810	107	69	I	557	口縁～胴部	G O79	Ⅳ	−	−	8.4	−	−	暗褐	口縁：平縁．口唇部：指頭状工具による押圧あり．	口：L・R結節側面圧痕．胴：L・R結節第1種端部結節	
811	107	69	I	558	口縁～胴部	G O78	Ⅳ	−	−	9.2	−	−	黒褐	口縁：平縁．	網目状撚糸L	
812	107	69	I	559	口縁～胴部	G O79	Ⅳ	−	−	5.5	−	−	黒褐	口縁：平縁．やや肥厚．縦位隆帯（棒状工具による沈線）．横位隆帯．棒状工具による沈線．	L R端部結節	
813	107	69	I	560	口縁～胴部	G O79	Ⅳ	−	−	8.6	−	−	褐灰	口縁：平縁．半截竹管による沈線．	L R	
814	107	69	I	562	胴部	G M79	Ⅳ	−	−	4.1	−	−	にぶい黄褐	口縁：平縁．棒状工具による沈線．	R L	

第68表　土器観察表（23）

遺物No	図版No	写図No	登録No	分類	部　位	出土地点	出土層位	口径	最大径	器高	底径	器厚	色　調	文　様　・　特　徴	施文原体	備　考
815	107	69	I	563	口縁	GL80	Ⅳ	－	－	7.1	－	－	褐	口縁：波状縁.	LR	
816	107	69	I	565	口縁～胴部	GO78	Ⅳ	－	－	6.4	－	－	橙	口縁：平縁. 棒状工具による沈線.	単軸絡条体r	
817	107	69	I	564	口縁～胴部	GM79	Ⅳ	－	－	5.5	－	－	褐灰	口縁：波状縁. 半截竹管による刺突・沈線.	－	
818	107	69	I	566	口縁	GN80	Ⅳ	－	－	5.6	－	－	黒褐	口縁：平縁. 半截竹管による沈線・刺突列.	－	
819	107	69	I	570	口縁～胴部	GM79	Ⅳ	－	－	4.4	－	－	灰黄褐	口縁：平縁.	網目状撚糸L	
820	107	69	I	569	口縁～胴部	GN79	Ⅳ	－	－	3.7	－	－	灰黄褐	口縁：平縁. 口唇部に一部指頭による押圧あり.	LR	
821	107	69	I	571	口縁～胴部	GN79	Ⅳ	－	－	5.2	－	－	暗褐	口縁：平縁.	?	
822	107	69	I	572	口縁～頸部	GM81	Ⅳ	－	－	6.9	－	－	褐	口縁：波状縁. 口唇部に指頭による押圧あり. 指頭状・棒状工具による沈線あり.	－	
823	107	69	I	573	口縁	GM81	Ⅳ	－	－	4.9	－	－	にぶい黄橙	口縁：波状縁. 波底部直下円形凹孔. 棒状工具・半截竹管による沈線.	－	
824	108	69	I	574	口縁～胴部	GO79	Ⅳ	－	－	4.9	－	－	にぶい褐	口縁：平縁.	RL端部結節	
825	108	69	I	575	口縁	GN80	Ⅳ	－	－	4.6	－	－	黒褐	口縁：平縁. 粘土塊貼付. 棒状工具による沈線.	－	
826	108	69	I	576	口縁	GN79	Ⅳ	－	－	4.6	－	－	黒褐	口縁：平縁.	L	
827	108	69	I	577	口縁	GN79	Ⅳ	－	－	3.8	－	－	黒褐	口縁：平縁.	R側面圧痕	
828	108	69	I	578	口縁	GO80	Ⅳ	－	－	4.8	－	－	灰黄褐	口縁：波状縁. 肥厚. 指頭状工具による沈線.	RL	
829	108	69	I	579	口縁	GN80	Ⅳ	－	－	3.7	－	－	黒褐	口縁：平縁. 棒状工具・半截竹管による沈線.	－	
830	108	69	I	581	口縁	GO79	Ⅳ	－	－	3.8	－	－	暗赤褐	口縁：平縁.	LR側面圧痕. LR	
831	108	69	I	582	口縁	GN80	Ⅳ	－	－	4.8	－	－	灰黄褐	口縁：平縁. 棒状工具による沈線.	－	
832	108	69	I	583	口縁	GN80	Ⅳ	－	－	3.7	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁. ［∩］隆帯. 棒状工具による沈線.	－	
833	108	69	I	584	口縁	GN80	Ⅳ	－	－	4.0	－	－	褐灰	口縁：波状縁. 波頂部直下に円形刺突. 波頂部間に縦位隆帯. 指頭状工具・棒状工具による沈線.	－	
834	108	69	I	585	口縁	GO80	Ⅳ	－	－	2.2	－	－	灰黄褐	口縁：平縁.	圧痕と思われるが不明	
835	108	69	I	586	口縁	GN79	Ⅳ	－	－	3.3	－	－	黒褐	口縁：平縁. やや肥厚. 円形竹管による刺突.	LR側面圧痕・LR	
836	108	69	I	588	口縁～胴部	GO78	Ⅳ	－	－	3.9	－	－	灰黄褐	口縁：平縁. やや肥厚. 粘土塊貼付. 半截竹管による刺突.	RL	
837	108	69	I	589	口縁	GM78	Ⅳ	－	－	3.8	－	－	灰褐	口縁：小波状縁. 口唇部に棒状工具による刻みあり.	L端部結節	
838	108	69	I	590	口縁	GO79	Ⅳ	－	－	3.1	－	－	黒褐	口縁：単頭突起. 山形隆帯.	－	

第69表　土器観察表（24）

遺物No	図版No	写図No	登録No	分類	部　位	出土地点	出土層位	口径	最大径	器高	底径	器厚	色　調	文　様　・　特　徴	施文原体	備　考
839	108	69	I	561	胴部	GM79	Ⅳ	−	−	6.7	−	−	にぶい黄褐	−	網目状撚糸L	
840	108	69	I	567	頸部～胴部	GM79	Ⅳ	−	−	4.6	−	−	明褐	円形竹管による刺突．半截竹管による沈線．	−	
841	108	69	I	568	頸部	GN80	Ⅳ	−	−	4.3	−	−	黄褐	棒状工具による沈線．	−	
842	108	69	I	580	口縁	GN80	Ⅳ	−	−	3.7	−	−	灰黄褐	円形状隆帯（半截竹管による刺突）．棒状工具による沈線．	−	
843	108	69	I	587	口縁	GN80	Ⅳ	−	−	3.5	−	−	にぶい黄橙	半截竹管による沈線．	−	
844	108	69	IC	638	口縁～底部	GJ80	Ⅳ～Ⅴ	(15.7)	(17.4)	17.6	8.5	1.0	暗褐	口縁：単頭突起（単位不明）．波頂部直下にボタン状貼付文．	LR	
845	109	70	IB1	146	口縁～底部	GK80	Ⅴ	(28.0)	−	45.0	13.0	1.0	にぶい黄橙	口縁：単頭突起（単位不明）．半截竹管・ヘラ状工具による沈線．横位隆帯．	LR	外面煤付着
846	109	70	IB1	158	口縁～底部	GK80	Ⅴ	17.2	−	24.4	9.5	0.8	暗褐	口縁：双頭突起（6単位）．波底部直下に円形凹孔．棒状工具による沈線・円形竹管による刺突列．	LR端部結節	
847	109	70	ID	159	口縁～底部	GK80	Ⅴ	(18.3)	−	24.0	8.7	0.9	褐	口縁：平縁．	LR	外面煤付着
848	110	70	ID	148	口縁～底部	GK81	Ⅴ	(16.1)	−	23.8	9.5	1.0	にぶい褐	口縁：平縁．	LR	外面煤付着．剥落多し
849	110	71	IG2	150	口縁～底部	GK80	Ⅴ	(17.0)	−	27.3	12.6	0.8	褐	口縁：平縁．	LR	
850	110	71	ID	168	口縁～底部	GK80	Ⅴ	36.5	−	56.5	15.9	1.3	橙	頸部：横位隆帯（指頭状工具による押圧）．	単軸絡条体L	
851	110	71	ID	157	口縁～底部	GL80	Ⅴ	(14.8)	(15.5)	24.3	(11.3)	1.0	にぶい黄橙	口縁：平縁．	L	
852	111	71	IG1	145	口縁～底部	GO79	Ⅴ	(28.6)	−	29.0	(15.1)	1.2	黒褐	口縁：平縁（指頭状工具による押圧）．	LR	
853	111	71	IG1	163	口縁～底部	GK81	Ⅴ	(9.1)	−	12.0	6.1	0.6	灰黄褐	口縁：平縁．爪形文刺突．	LR	
854	111	71	IG1	147	口縁～底部	GL80	Ⅴ	(16.6)	−	26.2	10.5	0.7	暗褐	口縁：平縁．	LR	
855	111	71	IG1	152	口縁～底部	GK80	Ⅴ	15.2	−	26.0	10.0	0.6	暗褐	口縁：平縁．棒状工具による沈線．	−	
856	112	71	IB1	149	口縁～胴部	GK81	Ⅴ	23.5	−	27.7	−	1.0	にぶい黄褐	口縁：平縁．	L端部結節	
857	112	73	IG2	155	口縁～胴部	GK81	Ⅴ	(13.6)	−	16.9	−	0.6	暗褐	口縁：平縁．	LR端部結節	
858	112	73	IB1	151	口縁～胴部	GO78	Ⅴ	13.7	−	18.4	−	0.6	黒褐	口縁：平縁．半截竹管（刷毛目状工具）による沈線．	口：LR側面圧痕	
859	112	73	ID	153	口縁～底部	GK81	Ⅴ	18.6	−	23.9	−	0.9	暗褐	口縁：平縁．	木目状撚糸L	
860	112	73	IG1	156	口縁～胴部	GM78	Ⅴ	(19.4)	−	21.4	−	0.7	明褐	口縁：平縁．横位隆帯．	口：LR・RL結束第1種側面圧痕 胴：LR・RL結束第1種	
861	113	74	I	162	口縁～底部	GK80	Ⅴ	(25.1)	−	9.7	−	1.0	にぶい黄褐	口縁：平縁．肥厚．（指頭圧痕により3対1単位か？）． 頸部：横位隆帯（指頭状工具による押圧）	LR端部結節	
862	113	74	IG2	166	口縁～胴部	GK81	Ⅴ	(14.8)	−	12.8	−	0.7	灰褐	口縁：平縁（指頭圧痕）．	−	内面煤付着

第70表　土器観察表（25）

遺物No	図版No	写図No	登録No	分類	部　位	出土地点	出土層位	口径	最大径	器高	底径	器厚	色　調	文　様　・　特　徴	施文原体	備　考
863	113	74	ＩＧ１	128	口縁～胴部	ＧＮ78	Ⅲ＋Ⅴ	(21.7)	－	14.8	－	0.7	暗褐	口縁：平縁．横位隆帯．	口：ＬＲ側面圧痕． 胴：ＬＲ・ＲＬ結束第１種	
864	113	74	ＩＧ１	127	口縁～胴部	ＧＬ79	Ⅲ＋Ⅴ	(16.3)	－	13.8	－	0.7	灰褐	口縁：平縁．隆線貼付．	ＬＲ	隆帯貼付前に沈線による下書き確認．外面煤付着．
865	113	74	ＩＤ	160	口縁～胴部	ＧＭ81	Ⅴ	(19.8)	－	24.5	－	0.9	赤褐	口縁：平縁．やや肥厚．縦位隆帯（半截竹管による刺突）．棒状工具による沈線．	ＬＲ・ＲＬ結束第１種端部結節	外面煤付着
866	113	75	Ｉ	668	胴部～底部	ＧＫ81	Ⅴ		11.8	7.1	10.2	0.9	にぶい橙	－	ＬＲ	
867	113	73	Ｉ	165	胴部～底部	ＧＫ81	Ⅴ	－	(14.4)	5.9	11.6	1.1	にぶい黄橙	底部：網代痕→ナデ．	－	内面煤付着
868	113	74	Ｉ	161	胴～底部	ＧＫ81	Ⅴ	－	24.8	20.5	12.6	0.8	赤褐	－	ＬＲ	
869	114	73	ＩＣ	167	胴部～底部	ＧＬ79	Ⅴ	－	－	3.5	6.5	0.6	灰黄褐	－	ＲＬ	内面煤付着
870	114	73	Ｉ	164	胴部～底部	ＧＩ81	Ⅴ	－	(14.7)	5.9	11.8	0.9	にぶい黄橙	底部：網代痕→ナデ．	－	
871	114	75	Ｉ	154	口縁～胴部	ＧＫ81	Ⅴ	－	(19.0)	25.1	12.8	1.1	にぶい黄橙	半裁竹管による沈線．底部：網代痕→ナデ．	－	
872	114	75	Ｉ	592	口縁～胴部	ＧＫ81	Ⅴ	－	－	13.8	－	－	褐	口縁：平縁．	ＬＲＬ？	
873	114	75	Ｉ	599	口縁～胴部	ＧＬ78	Ⅴ	－	－	7.2	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．肥厚．指頭状工具・半截竹管による沈線．	－	
874	114	75	Ｉ	610	口縁	ＧＭ81	Ⅴ	－	－	3.2	－	－	灰黄褐	口縁：平縁．肥厚．指頭状工具による沈線．	－	
875	114	75	Ｉ	603	口縁～胴部	ＧＬ80	Ⅴ	－	－	11.7	－	－	明赤褐	口縁：平縁．棒状工具による沈線．	単軸絡条体ｒ	
876	114	75	Ｉ	600	口縁～頸部	ＧＫ81	Ⅴ	－	－	7.3	－	－	褐	口縁：波状縁．肥厚．指頭状工具・半截竹管による沈線．半截竹管による刺突．	－	
877	114	75	Ｉ	605	口縁	ＧＫ81	Ⅴ	－	－	7.7	－	－	灰黄褐	口縁：波状縁．肥厚．指頭状工具・半截竹管による沈線．	－	
878	114	75	Ｉ	597	口縁	ＧＭ78	Ⅴ	－	－	5.2	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．肥厚．半截竹管による刺突列・沈線．	－	
879	115	75	Ｉ	593	口縁～胴部	ＧＭ78	Ⅴ	－	－	9.3	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．やや肥厚．縦位隆帯．棒状工具による沈線．	ＬＲ	
880	115	75	Ｉ	604	口縁～胴部	ＧＫ81	Ⅴ	－	－	6.8	－	－	黒褐	口縁：平縁．	ＬＲ	
881	115	75	Ｉ	602	口縁	ＧＬ79	Ⅴ	－	－	4.5	－	－	暗褐	口縁：平縁．口唇部に指頭状工具による押圧あり．	－	
882	115	75	Ｉ	611	口縁	ＧＭ81	Ⅴ	－	－	3.5	－	－	暗褐	口縁：波状縁．縦位隆帯（棒状工具による沈線）．棒状工具による沈線．	－	
883	115	75	Ｉ	608	口縁～胴部	ＧＭ81	Ⅴ	－	－	5.8	－	－	黒褐	口縁：平縁．	多軸撚糸ＲＬＲ	
884	115	75	Ｉ	613	口縁～胴部	ＧＫ81	Ⅴ	－	－	5.4	－	－	灰黄褐	口縁：平縁．	ＬＲ	
885	115	75	Ｉ	609	口縁～胴部	ＧＩ81	Ⅴ	－	－	13.9	－	－	にぶい黄褐	口縁：単頭突起．波頂部口唇部に渦巻状隆帯．	ＬＲ	
886	115	75	Ｉ	614	口縁～胴部	ＧＬ80	Ⅴ	－	－	6.2	－	－	にぶい黄褐	口縁：平縁．	撚糸Ｌ	

第71表　土器観察表（26）

遺物No	図版No	写図No	登録No	分類	部　位	出土地点	出土層位	口径	最大径	器高	底径	器厚	色　調	文　様　・　特　徴	施文原体	備　考
887	115	75	I	607	口縁～胴部	GK79	V	－	－	9.3	－	－	褐	口縁：平縁.	LR	
888	115	75	I	606	口縁～胴部	GK81	V	－	－	8.5	－	－	明赤褐	口縁：平縁.	単軸絡条体r	
889	115	75	I	594	口縁～胴部	GK81	V	－	－	16.8	－	－	灰黄褐	口縁：平縁.	木目状撚糸L	
890	115	75	I	601	口縁	GL80	V	－	－	6.3	－	－	灰黄褐	口縁：平縁. 半截竹管による沈線.	－	
891	115	75	I	217	口縁	GM81	V	－	－	6.6	－	－	灰黄褐	口縁：波状縁. 縦・横位隆帯（半截竹管による沈線）. 半截竹管による沈線.	－	
892	115	75	I	598	口縁～胴部	GK80	V	－	－	4.8	－	－	暗褐	口縁：平縁. やや肥厚.	LR	
893	115	75	I	615	口縁～胴部	GM78	V	－	－	4.2	－	－	黒褐	口縁：平縁. 肥厚. 棒状工具による沈線.	LR	
894	115	75	I	227	口縁	GL79	V	－	－	4.5	－	－	明赤褐	口縁：平縁. やや肥厚. 棒状工具による沈線.	－	
895	115	75	I	591	口縁～胴部	GM81	V	－	－	11.0	－	－	にぶい赤褐	口縁：平縁. 棒状工具による沈線. 半截竹管による刺突.	LR	
896	115	75	I	596	口縁	GK80	V	－	－	5.1	－	－	黒褐	口縁：平縁. 口唇部指頭状工具により刻みあり. 横位隆帯（指頭状工具による押圧列）.	－	
897	115	75	I	612	口縁	GM81	V	－	－	4.6	－	－	にぶい黄褐	口縁：波状縁. 棒状工具による沈線. 半截竹管による刺突.	－	
898	115	75	I	616	口縁	GL80	V	－	－	4.4	－	－	暗褐	口縁：波状縁. やや肥厚. 縦位隆帯（棒状工具による沈線）. 棒状工具による沈線.	－	
899	115	76	I	595	口縁～胴部	GL79	V	－	－	4.2	－	－	灰黄褐	口縁：平縁.	LR	
900	116	76	I	620	胴部	GK80	V	－	－	13.3	－	－	にぶい褐	－	LR端部結節	
901	116	76	I	617	胴部	GK79	V	－	－	4.9	－	－	褐	半截竹管による沈線.	－	
902	116	76	I	618	胴部	GK80	V	－	－	6.9	－	－	暗褐	半截竹管による沈線. ボタン状貼付文.	LR	
903	116	76	I	619	胴部	GK81	V	－	－	10.6	－	－	暗褐	－	RLR	
904	116	76	IB1	169	口縁～胴部	調査区	一括	(15.8)	－	20.1	－	0.6	灰黄褐	口縁：平縁. 半截竹管による沈線.	L端部結節	
905	116	76	I	173	口縁～胴部	調査区	一括	(27.5)	－	10.0	－	1.1	暗褐	口縁：単頭突起（4単位？）. やや肥厚. 波頂部直下に縦位隆帯（半截竹管による沈線＋粘土塊貼付）. 棒状工具による沈線と刺突・半截竹管による沈線. 頸部：横位隆帯（棒状工具による刺突）.	LR	
906	116	76	IC	639	口縁～胴部	GL80	一括	(23.9)	－	16.4	－	0.9	赤褐	口縁：平縁. やや肥厚.	LR端部結節	
907	116	76	I	170	胴部～底部	調査区	一括	－	(18.5)	11.3	14.1	1.1	にぶい褐	胴：半截竹管による沈線. 底部：網代痕→ナデ.	LR	
908	116	76	I	172	胴部～底部	調査区	一括	－	(16.6)	4.6	13.6	1.2	明褐	－	－	
909	116	76	I	171	胴部～底部	調査区	一括	－	(23.5)	5.0	19.7	1.0	にぶい黄橙	－	－	
910	117	77	I	624	口縁	調査区	一括	－	－	5.1	－	－	灰黄褐	口縁：平縁. 半截竹管による沈線.	－	

第72表　土器観察表（27）

遺物No	図版No	写図No	登録No	分類	部　位	出土地点	出土層位	口径	最大径	器高	底径	器厚	色　調	文　様　・　特　徴	施文原体	備　考
911	117	77	I	625	口縁	調査区	一括	－	－	6.1	－	－	赤褐	口縁：平縁．棒状工具・半截竹管による沈線と刺突．	－	
912	117	77	I	626	口縁	調査区	一括	－	－	4.9	－	－	にぶい褐	口縁：波状縁．波頂部直下に横位隆帯（円形凹孔）．口唇部に棒状工具による沈線．半截竹管による沈線．	－	
913	117	77	I	627	口縁	調査区	一括	－	－	4.0	－	－	にぶい黄橙	口縁：小波状縁．波頂部内外面に渦文貼付．	－	
914	117	77	I	628	口縁	調査区	一括	－	－	3.6	－	－	黒褐	口縁：平縁．口唇部に半截竹管による沈線．棒状工具・半截竹管による沈線・刺突．	－	
915	117	77	I	629	口縁	調査区	一括	－	－	7.4	－	－	にぶい黄褐	口縁：双頭突起．肥厚．波頂部直下に円形刺突．波底部縦位隆帯．半截竹管による沈線．	－	
916	117	77	I	623	口縁	調査区	一括	－	－	5.4	－	－	褐	口縁：単頭突起．やや肥厚．波頂部直下円形凹孔．半截竹管による沈線．	－	
917	117	77	I	637	口縁～胴部	調査区	一括	－	－	4.4	－	－	にぶい黄橙	口縁：平縁．やや肥厚．棒状工具・半裁竹管による沈線．	－	
918	117	77	I	633	口縁～胴部	調査区	一括	－	－	5.3	－	－	灰黄褐	口縁：平縁．	ＬＲ	
919	117	77	I	631	口縁	調査区	一括	－	－	6.3	－	－	褐灰	口縁：単頭突起．波頂部直下縦位隆帯（棒状工具による沈線）．棒状工具による沈線・刺突．	－	
920	117	77	I	635	口縁～頸部	調査区	一括	－	－	7.4	－	－	暗褐	口縁：平縁．棒状工具による沈線．横位隆帯（棒状工具による沈線）．	－	
921	117	77	I	636	口縁～胴部	調査区	一括	－	－	7.5	－	－	暗褐	口縁：平縁．	ＬＲ	
922	117	77	I	621	口縁～胴部	調査区	一括	－	－	16.7	－	－	灰黄褐	口縁：平縁．	ＬＲＬ	
923	117	77	I	622	口縁～胴部	調査区	一括	－	－	10.8	－	－	黒褐	口縁：平縁．縦位鋸歯状隆帯（棒状工具による刺突）．	ＲＬ	
924	117	77	I	632	口縁～頸部	調査区	一括	－	－	7.5	－	－	にぶい黄褐	口縁：波状縁．やや肥厚．棒状工具・半截竹管による沈線．	－	
925	117	77	I	634	胴部	調査区	一括	－	－	7.3	－	－	明褐	棒状工具による沈線．	木目状撚糸Ｌ	
926	117	77	I	630	胴部	調査区	一括	－	－	4.0	－	－	褐灰	半截竹管による沈線．	ＬＲ	

第73表　土製品観察表

遺物No	図版No	写図No	登録No	器種	残存部位	出土位置	出土層位	長さ	幅	厚さ	重量
156	38	77	651	板状土偶	頭部	ＳＩ04	埋土下位	1.5	2.2	5.0	2.03
157	38	77	656	土製品		ＳＩ02	床面	1.9	1.8	0.9	3.6
279	63	77	653	耳栓		ＳＫ07	埋土	3.2	2.6	2.4	18.84
927	118	77	660	土塊		ＧＬ78	Ⅰ層	3.7	2.4	1.6	14.69
928	118	77	644	板状土偶	頭部～胴体	ＧＭ80	Ⅱ層	4.0	3.6	1.0	12.91
929	118	77	642	板状土偶	胴体	ＧＪ79	Ⅱ層	10.5	8.3	3.3	172.96
930	118	77	646	板状土偶	肩部	ＧＮ78	Ⅱ層	4.6	3.1	1.7	18.75
931	118	77	650	板状土偶	肩部	ＧＬ81	Ⅱ層	4.5	4.0	1.3	17.22
932	118	77	659	土製品		ＧＭ81	Ⅱ層	7.1	4.9	2.7	22.58
933	118	77	649	板状土偶	胴体～脚部	ＧＬ79	Ⅱ～Ⅲ層	3.6	3.6	1.2	11.56
934	119	77	640	板状土偶	頭部～胴体	ＧＮ79	Ⅲ層	11.4	12.3	2.1	218.03
935	119	77	647	板状土偶	頭部	ＧＬ80	Ⅲ層	2.7	3.0	0.8	7.24
936	119	77	648	板状土偶	胴体～脚部	ＧＬ80	Ⅲ層	4.6	4.6	1.2	18.54
937	119	77	645	板状土偶	胴体	ＧＬ79	Ⅲ層	3.7	3.4	1.2	8.51
938	119	77	643	板状土偶	胴体	ＧＭ81	Ⅲ層	6.1	5.4	1.0	34.5
939	119	77	641	板状土偶	脚部	ＧＬ81	Ⅲ層	8.2	6.3	2.5	112.39
940	120	77	654	耳栓		ＧＫ79	Ⅲ層	4.1	3.1	3.2	25.0
941	120	77	657	土製品		ＧＭ82	Ⅲ層	4.2	2.2	0.7	5.5
942	120	77	661	土錘		ＧＬ78	Ⅲ層	2.9	2.1	1.2	7.21
944	120	77	658	土製品		ＧＬ78	Ⅲ層	6.4	3.8	1.7	24.68
945	120	77	655	耳栓		ＧＮ80	Ⅳ層	2.0	1.9	1.9	4.8
946	120	77	652	耳栓		ＧＬ79	Ⅴ層	3.2	2.7	2.2	12.32

第74表　石鏃観察表（1）

遺物No	図版No	写真No	登録No	分　類	出土位置	出土層位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	石　材	産　地	備　考
12	15	15	1	Ⅲ－1	ＳＩ01	埋土	26.1	22.1	5.6	2.18	頁岩	奥羽山脈	
13	15	15	66	Ⅲ－1	ＳＩ01	埋土	31.3	22.7	6.6	4.84	頁岩	奥羽山脈	Ⅴ類の可能性あり
14	15	15	32	Ⅲ－1	ＳＩ01	埋土	25.5	(19.2)	6.0	3.07	頁岩	奥羽山脈	
15	15	15	2	Ⅳ－1・4	ＳＩ01	埋土	(29.8)	22.6	4.6	2.08	頁岩	奥羽山脈	先端部欠損しているためどちらかに帰属
16	15	15	90	Ⅳ－1	ＳＩ01	埋土	23.3	13.1	3.5	1.20	頁岩	奥羽山脈	
17	15	15	11	Ⅳ－3	ＳＩ01	床面直上	37.3	20.6	5.3	2.45	頁岩	奥羽山脈	
18	15	15	16	Ⅱ	ＳＩ01	埋土	41.1	15.2	9.1	5.05	頁岩	奥羽山脈	
140	36	27	70	Ⅳ－6	ＳＩ03	埋土	(26.6)	(19.2)	5.7	2.07	頁岩	奥羽山脈	
141	36	27	129	Ⅳ－4	ＳＩ03	埋土	24.4	18.6	4.9	1.46	頁岩	奥羽山脈	
142	36	27	8047	Ⅳ	ＳＩ03	埋土	27.2	(16.2)	3.3	1.4	頁岩	奥羽山脈	右脚部破損
193	43	30	102	Ⅳ－5	ＳＩ05	埋土	(24.3)	17.2	5.2	1.80	頁岩	奥羽山脈	
194	43	30	8161	Ⅳ－1	ＳＩ05	埋土下位	41.6	16.3	5.4	2.81	頁岩	奥羽山脈	
247	53	34	124	Ⅳ－1	ＳＲ06	埋土	32.8	17.6	4.3	1.73	頁岩	奥羽山脈	
264	58	36	29	Ⅳ－6	ＳＱ05	埋土	24.1	15.1	6.3	1.89	頁岩	奥羽山脈	
299	66	39	22	Ⅵ	ＧＬ79	Ⅲ	(22.6)	(9.8)	(3.8)	0.19	頁岩	奥羽山脈	
309	68	40	76	Ⅱ	Ｐ87	埋土	38.6	16.9	7.8	4.35	頁岩	奥羽山脈	
325	70	41	8056	Ⅳ－3	Ｐ181	埋土	43.6	20.7	5.0	3.44	頁岩	奥羽山脈	
335	73	42	47	Ⅳ－3	ＳＤ01	1層	49.8	22.9	6.0	4.38	頁岩	奥羽山脈	
947	121	76	63	Ⅳ－1	ＧＫ79	Ⅰ	39.5	(16.7)	5.8	2.59	頁岩	奥羽山脈	
948	121	76	39	Ⅳ－4	ＧＫ81	Ⅰ	(28.7)	22.3	5.0	2.07	頁岩	奥羽山脈	
949	121	76	119	Ⅳ－2	ＧＫ80	Ⅰ	30.8	16.4	3.8	1.78	頁岩	奥羽山脈	
950	121	76	758	Ⅱ	ＧＩ80	Ⅰ	(36.2)	14.3	4.6	2.20	頁岩	奥羽山脈	
951	121	76	94	Ⅲ－1	ＧＫ80	Ⅰ	32.9	26.8	9.7	7.02	頁岩	奥羽山脈	
952	121	76	4	Ⅲ－1	ＧＭ78	Ⅰ	38.7	23.7	5.7	6.16	頁岩	奥羽山脈	
953	121	76	14	Ⅲ－1	ＧＩ81	Ⅰ	35.1	24.2	6.7	5.56	頁岩	奥羽山脈	
954	121	76	34	Ⅳ－4	ＧＩ80	Ⅱ	21.6	17.0	4.9	1.16	頁岩	奥羽山脈	
955	121	76	68	Ⅳ－4	ＧＬ79	Ⅱ	29.1	19.5	5.5	2.01	頁岩	奥羽山脈	
956	121	76	40	Ⅳ－4	ＧＭ79	Ⅱ	23.6	18.9	4.8	1.15	頁岩	奥羽山脈	
957	121	76	33	Ⅳ－5	ＧＩ80	Ⅱ	25.8	14.7	5.9	1.84	頁岩	奥羽山脈	
958	121	76	54	Ⅳ－5	ＧＬ79	Ⅱ	18.9	16.2	4.2	0.87	頁岩	奥羽山脈	
959	121	76	57	Ⅲ－1	ＧＩ78	Ⅱ	40.5	16.2	4.4	2.39	頁岩	奥羽山脈	
960	122	76	105	Ⅵ	ＧＮ80	Ⅱ	42.1	36.3	8.9	12.52	頁岩	奥羽山脈	
961	122	76	103	Ⅵ	ＧＭ78	Ⅱ	49.8	40.8	9.4	13.38	頁岩	奥羽山脈	
962	122	76	58	Ⅳ－1	ＧＮ79	Ⅱ～Ⅲ	29.6	13.2	4.5	1.24	頁岩	奥羽山脈	
963	122	76	23	Ⅱ	調査区	Ⅱ～Ⅲ層一括	45.6	14.4	6.3	4.08	頁岩	奥羽山脈	
964	122	76	112	Ⅳ－6	ＧＬ79	Ⅲ	17.9	(13.5)	4.0	0.75	黒曜石	湯ノ倉	
965	122	76	67	Ⅳ－6	ＧＩ79	Ⅲ	11.3	11.6	3.2	0.26	頁岩	奥羽山脈	
966	122	76	51	Ⅳ－4	ＧＬ81	Ⅲ	28.9	19.4	4.5	1.79	頁岩	奥羽山脈	
967	122	76	101	Ⅳ－4	ＧＩ79	Ⅲ	24.7	20.9	3.9	1.15	頁岩	奥羽山脈	
968	122	76	56	Ⅳ－4	ＧＭ80	Ⅲ	25.3	14.1	5.0	1.17	頁岩	奥羽山脈	
969	122	76	73	Ⅳ－4	ＧＬ79	Ⅲ	28.4	20.3	5.3	1.79	頁岩	奥羽山脈	
970	122	76	78	Ⅳ－2	ＧＪ78	Ⅲ	(32.1)	17.6	4.6	1.82	頁岩	奥羽山脈	
971	122	76	5	Ⅳ－3	ＧＯ79	Ⅲ	42.5	22.9	7.3	3.90	頁岩	奥羽山脈	
972	122	76	71	Ⅳ－3	ＧＯ79	Ⅲ	37.6	17.7	7.2	3.55	頁岩	奥羽山脈	

第75表　石鏃観察表（2）

遺物No	図版No	写真No	登録No	分　類	出土位置	出土層位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	石　材	産　地	備　考
973	122	76	60	Ⅳ－6	GN80	Ⅲ	37.2	22.6	8.1	4.30	頁岩	奥羽山脈	
974	122	76	110	Ⅳ－6	GJ79	Ⅲ	36.5	22.3	6.1	2.98	頁岩	奥羽山脈	
975	123	76	98	Ⅳ－6	GM80	Ⅲ	34.6	25.7	7.0	4.09	頁岩	奥羽山脈	
976	123	77	12	Ⅴ	GM79	Ⅲ	37.1	20.1	6.9	4.3	頁岩	奥羽山脈	
977	123	77	61	Ⅲ－1	GK82	Ⅲ	38.3	18.1	6.5	4.41	頁岩	奥羽山脈	
978	123	77	99	Ⅲ－2	GK80	Ⅲ	42.6	26.7	5.8	7.57	頁岩	奥羽山脈	
979	123	77	10	Ⅲ－1	GM79	Ⅲ	(44.1)	25.1	10.0	10.17	頁岩	奥羽山脈	
980	123	77	117	Ⅳ－4	GO80	Ⅳ	25.8	17.9	3.9	1.15	頁岩	奥羽山脈	
981	123	77	17	Ⅳ－1	GM79	Ⅳ	35.7	17.2	3.2	1.58	頁岩	奥羽山脈	
982	123	77	88	Ⅳ－5	GF79	Ⅳ	35.2	22.6	7.6	3.79	頁岩	奥羽山脈	
983	123	77	82	Ⅲ－1	GM78	Ⅳ	36.8	19.5	6.1	3.32	頁岩	奥羽山脈	
984	123	77	49	Ⅳ－3	GM81	Ⅳ	36.6	16.5	7.1	3.85	頁岩	奥羽山脈	
985	123	77	59	Ⅳ－1	GN80	Ⅳ	41.2	19.5	6.2	3.70	頁岩	奥羽山脈	
986	123	77	85	Ⅴ	GN80	Ⅳ	29.5	20.0	3.9	2.30	頁岩	奥羽山脈	
987	123	77	19	Ⅳ－1	GK80	Ⅴ	39.4	19.1	5.2	2.82	頁岩	奥羽山脈	
988	123	77	86	Ⅳ－1	GM・N80・81	Ⅴ	31.5	17.1	4.8	1.80	頁岩	奥羽山脈	
989	124	77	81	Ⅳ－1	GL79	Ⅴ	39.8	16.6	7.0	2.97	頁岩	奥羽山脈	
990	124	77	130	Ⅵ	GL79	Ⅴ	51.2	37.6	11.9	19.49	頁岩	奥羽山脈	
991	124	77	114	Ⅳ－5	GL80	Ⅴ	24.1	17.0	3.5	0.88	凝灰岩	奥羽山脈	
992	124	77	24	Ⅳ－4	SQ02	埋土	30.7	18.0	5.4	2.17	頁岩	奥羽山脈	左脚部末端部欠損
993	124	77	27	Ⅰ－2	GK78	－	(18.1)	8.9	3.2	0.39	頁岩	奥羽山脈	

第76表　尖頭器

遺物No	図版No	写真No	登録No	出土位置	出土層位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	石　材	産　地	備　考
994	124	77	133	GL82	Ⅲ	57.8	13.4	6.4	4.91	頁岩	奥羽山脈	
995	124	77	138	GM80	Ⅲ	(34.1)	(33.7)	10.8	11.35	頁岩	奥羽山脈	
996	124	77	135	GF79	Ⅳ	(41.4)	(46.7)	13.4	20.46	頁岩	奥羽山脈	

第77表　石箆観察表

遺物No	図版No	写真No	登録No	分　類	出土位置	出土層位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	刃　角	光沢	石　材	産　地	備　考
302	67	39	162	Ⅳ－1	P47	埋土	(67.2)	26.1	13.1	26.55	38～48		頁岩	奥羽山脈	基部側破損
314	68	40	178	Ⅲ－1	P95	埋土	59.7	27.8	13.4	22.91	36～46		頁岩	奥羽山脈	
997	125	79	156	Ⅲ・Ⅳ	GL81	Ⅰ	(46.8)	27.9	8.1	12.57	35～44		頁岩	奥羽山脈	
998	125	80	202	Ⅲ－1	GN80	Ⅱ	84.1	39.5	14.6	53.56	32～39	○	頁岩	奥羽山脈	
999	125	77	152	Ⅰ－2	GM80	Ⅰ	－	－	－	－	－		－	奥羽山脈	
999	125	77	197	Ⅰ－1	GL79	Ⅲ	63.7	23.1	13.3	24.78	32～49	○	珪質頁岩	奥羽山脈	
1000	125	78	168	Ⅳ－1	GL78	Ⅱ	69.6	26.1	19.1	29.08	35～39	○	頁岩	奥羽山脈	
1001	125	78	137	Ⅲ－1	GI79	Ⅱ	102.5	39.7	18.5	71.58	50～56	○	頁岩	奥羽山脈	
1002	126	78	209	Ⅴ	GL79	Ⅱ	110.7	39.9	23.6	102.1	－		頁岩	奥羽山脈	
1003	126	78	198	Ⅰ－2	GM80	Ⅱ	94.8	43.4	21.6	74.12	－		頁岩	奥羽山脈	
1004	126	78	158	Ⅳ－1	GM79	Ⅲ	66.1	19.7	12.2	14.16	39～45		頁岩	奥羽山脈	
1005	126	78	179	Ⅰ－1	GL80	Ⅲ	55.8	23.7	9.9	17.18	36～42	○	頁岩	奥羽山脈	
1006	128	78	203	Ⅰ－1	GL80	Ⅲ	－	－	－	－	－		頁岩	奥羽山脈	
1006	127	78	211	Ⅰ－1	GM81	Ⅲ	78.8	38.4	15.4	52.73	37～52	○	頁岩	奥羽山脈	
1007	127	78	147	Ⅲ－2	GM79	Ⅲ	56.8	27.5	13.4	22.84	45～48		頁岩	奥羽山脈	
1008	127	78	194	Ⅳ－1	GK80	Ⅲ	(62.7)	20.2	13.9	19.40	58	○	頁岩	奥羽山脈	
1009	127	78	134	Ⅳ－2	GL80	Ⅲ	85.3	26.3	22.0	43.8	55～60	○	頁岩	奥羽山脈	
1010	127	79	172	Ⅰ－2	GO78	Ⅲ	(68.4)	35.5	10.3	29.70	29～33		頁岩	奥羽山脈	
1011	127	79	171	Ⅲ－1	GL79	Ⅲ	67.0	28.3	10.9	23.86	49～56	○	頁岩	奥羽山脈	
1012	128	79	187	Ⅰ－1	GN79	Ⅳ	65.1	23.4	14.9	22.70	39～43	○	頁岩	奥羽山脈	
1013	128	79	188	Ⅳ－1	GN80	Ⅳ	70.4	23.6	14.2	26.58	49～56		頁岩	奥羽山脈	
1014	128	79	196	Ⅳ－1	GM81	Ⅴ	52.4	18.4	11.2	12.11	41～52	○	頁岩	奥羽山脈	
1015	128	79	141	Ⅲ－2	GL79	Ⅴ	60.1	28.9	15.7	27.09	35～44		頁岩	奥羽山脈	
1016	128	79	180	Ⅰ－1	GL81	Ⅴ	76.8	30.5	13.7	32.77	40～44	○	頁岩	奥羽山脈	
1017	129	79	212	Ⅴ	GK81	Ⅴ	(109.3)	45.4	35.9	196.54	－		頁岩	奥羽山脈	

第78表　トランシュ様石器観察表

遺物No	図版No	写真No	登録No	出土位置	出土層位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	石　材	産　地	備　考
1018	129	79	195	GL81	Ⅲ	78.0	39.6	14.1	32.37	頁岩	奥羽山脈	
1019	129	79	159	GN80	Ⅲ	50.5	29.8	15.6	25.38	頁岩	奥羽山脈	

第79表　石匙観察表（1）

遺物No	図版No	写真No	登録No	分　類	出土位置	出土層位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	刃　角	光沢	石　材	産　地	備　考
19	15	15	136	Ⅰ－1	SI01	埋土	110.8	32.4	10.4	31.43	25～36	○	頁岩	奥羽山脈	
20	16	15	242	Ⅳ	SI01	床面	(27.3)	(37.4)	6.9	5.46	－		頁岩	奥羽山脈	
21	16	15	249	Ⅰ－3	SI01	埋土	(55.7)	31.7	8.1	10.07	26～34		頁岩	奥羽山脈	
22	16	16	266	Ⅱ－2	SI01	埋土	61.8	78.4	7.2	29.84	36～43		頁岩	奥羽山脈	
23	16	16	238	Ⅱ－2	SI01	埋土	43.9	57.9	8.6	18.32	38～58		頁岩	奥羽山脈	
24	16	16	264	Ⅱ	SI01	埋土	64.6	(69.5)	11.0	43.21	41～56		頁岩	奥羽山脈	
25	17	16	231	Ⅲ－2	SI01	埋土	64.1	56.5	11.5	33.76	38～51		頁岩	奥羽山脈	
26	17	16	8116	Ⅲ－2	SI01	埋土	75.5	65.4	18.6	62.11			頁岩	奥羽山脈	
143	36	27	244	Ⅱ－2	SI03	埋土	33.6	72.4	8.8	15.31	39～52	○	頁岩	奥羽山脈	
195	43	30	241	Ⅰ－5	SI05	埋土	65.2	47.8	11.4	33.9	58～68		頁岩	奥羽山脈	
196	44	30	263	Ⅰ－5	SI05	埋土	(55.5)	38.1	5.5	11.06	33～38		頁岩	奥羽山脈	
197	44	30	252	Ⅲ－1	SI05	埋土	36.2	64.1	8.1	14.17	41～46	○	頁岩	奥羽山脈	
198	44	30	228	Ⅲ－2	SI05	埋土	45.4	(49.3)	10.1	15.98	34～38	○	頁岩	奥羽山脈	
255	56	35	257	Ⅰ－4	SQ03	埋土	66.9	25.8	8.1	11.4	35～42	○	頁岩	奥羽山脈	
266	58	36	267	Ⅲ－1	SQ05	埋土	91.4	32.9	8.6	23.34	42～46		頁岩	奥羽山脈	
289	65	38	250	Ⅲ－1	SK05	埋土	26.1	39.5	7.0	4.96	35～49		頁岩	奥羽山脈	

第80表　石匙観察表（2）

遺物No	図版No	写真No	登録No	分　類	出土位置	出土層位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	刃　角	光沢	石　材	産　地	備　考
290	65	38	227	Ⅱ－2	ＳＫ05	埋土	37.5	54.8	7.6	10.94	33～46		頁岩	奥羽山脈	
337	73	42	261	Ⅱ－2	ＳＤ01	3層	56.8	72.4	13.7	40.25	30～39		頁岩	奥羽山脈	
1020	130	80	207	Ⅰ－4	ＧＪ79	Ⅰ	40.0	(20.6)	5.0	3.94	33～38		頁岩	奥羽山脈	
1021	130	80	208	Ⅰ－5	ＧＭ80	Ⅰ	52.8	37.8	9.6	17.36	38～45		頁岩	奥羽山脈	
1022	130	80	258	Ⅲ－2	ＧＪ80	Ⅰ	18.6	34.6	5.2	2.73	36～40	○	頁岩	奥羽山脈	
1023	130	80	256	Ⅰ－4	ＧＮ80	Ⅱ	77.2	22.6	6.9	12.97	27～46	○	頁岩	奥羽山脈	
1024	130	80	226	Ⅱ－1	ＧＮ80	Ⅱ	31.1	52.1	7.2	10.12	42～49		頁岩	奥羽山脈	
1025	130	80	484	Ⅲ－1	ＧＨ79	Ⅱ	35.2	81.1	10.8	20.39	32～43		頁岩	奥羽山脈	
1026	131	80	243	Ⅰ－2	ＧＭ78	Ⅲ	84.6	16.4	9.1	14.7	54～73	○	玉髄	奥羽山脈	
1027	131	80	218	Ⅰ－3	ＧＫ79	Ⅲ	46.7	23.6	13.6	12.22	53～58		赤色頁岩	奥羽山脈	
1028	131	80	260	Ⅰ－5	ＧＬ78	Ⅲ	(46.2)	34.2	4.8	6.07	28～33		頁岩	奥羽山脈	
1029	131	80	221	Ⅰ－4	ＧＯ79	Ⅲ	47.7	21.1	6.7	5.39	26～35		頁岩	奥羽山脈	
1030	131	80	215	Ⅱ－1	ＧＨ79	Ⅲ	32.3	46.8	8.1	10.5	29～41		赤色頁岩	奥羽山脈	
1031	131	80	237	Ⅱ－1	ＧＭ78	Ⅲ	48.6	78.8	17.3	54.01	51～59		頁岩	奥羽山脈	
1032	132	80	223	Ⅲ－2	ＧＫ81	Ⅲ	35.1	28.2	4.9	2.66	43～50		頁岩	奥羽山脈	
1033	132	81	268	Ⅲ－2	ＧＮ80	Ⅲ	50.9	91.5	8.0	33.44	38～44	○	頁岩	奥羽山脈	
1034	132	80	247	Ⅲ－2	ＧＫ81	Ⅲ	15.7	25.6	4.6	1.25	37～56		黒曜石	小赤沢	
1035	132	81	246	Ⅰ－4	ＧＯ79	Ⅳ	60.2	20.4	9.7	9.26	32～50		頁岩	奥羽山脈	
1036	132	81	235	Ⅰ－3	ＳＩ01	Ⅳ	70.9	23.7	12.4	14.81	39～45		頁岩	奥羽山脈	
1037	132	81	248	Ⅲ－2	ＧＭ78	Ⅳ	34.9	51.8	8.6	14.39	47～60		赤色頁岩	奥羽山脈	
1038	132	81	259	Ⅲ－2	ＧＮ79	Ⅳ	27.2	34.1	6.1	3.22	39～51		赤色頁岩	奥羽山脈	
1039	133	81	219	Ⅲ－1	ＧＭ79	Ⅳ	77.6	31.2	9.8	22.78	33～40		頁岩	奥羽山脈	
1040	133	81	220	Ⅰ－2	ＧＬ80	Ⅴ	(64.1)	13.2	8.2	5.32	58～66		頁岩	奥羽山脈	
1041	133	81	262	Ⅲ－1	ＧＭ・Ｎ80・81	Ⅴ	80.5	39.4	13.2	31.88	42～71	○	頁岩	奥羽山脈	
1042	133	81	229	Ⅲ－1	ＧＯ78	Ⅵ層上面	90.6	36.8	15.5	42.61	59～73		瑪瑙	奥羽山脈	

第81表　石錐観察表

遺物No	図版No	写真No	分　類	出土位置	出土層位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	石　材	産　地	備　考
27	17	16	Ⅲ	ＳＩ01	埋土	48.7	15.2	6.3	3.9	頁岩	奥羽山脈	
336	73	42	Ⅰ	ＳＤ01	1層	60.6	17.7	10.3	10.33	頁岩	奥羽山脈	
1043	134	83	Ⅰ	ＧＬ80	Ⅰ	42.3	22.8	10.3	7.12	頁岩	奥羽山脈	
1044	134	83	Ⅱ	ＧＬ79	Ⅲ	(52.6)	(9.6)	8.4	4.24	珪質頁岩	奥羽山脈	
1045	134	83	Ⅲ	ＧＬ78	Ⅲ	(45.5)	(14.9)	3.6	1.57	頁岩	奥羽山脈	
1046	134	83	Ⅰ	ＧＪ81	Ⅴ	(41.9)	18.9	9.8	6.42	頁岩	奥羽山脈	

第82表　異形石器観察表

遺物No	図版No	写真No	分　類	出土位置	出土層位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	石　材	産　地	備　考
1047	134	82	213	ＧＬ79	Ⅲ	96.1	54.6	21.7	70.88	頁岩	奥羽山脈	
1048	134	82	760	ＧＬ81	Ⅲ	27.7	28.3	4.9	2.35	頁岩	奥羽山脈	
1049	134	82	493	ＧＭ78	Ⅲ	(52.1)	28.8	8.3	7.80	頁岩	奥羽山脈	

第83表　スクレイパー観察表（1）

遺物No	図版No	写真No	登録No	分　類	出土位置	出土層位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	刃　角	光沢	石　材	産　地	備　考
28	17	16	530	Ⅰ－1	ＳＩ01	埋土	67.1	56.3	15.5	50.3	59～73		頁岩	奥羽山脈	
29	18	16	145	Ⅰ	ＳＩ01	埋土	45.8	17.0	12.5	10.70	73～82	○	頁岩	奥羽山脈	楔形石器からの転用
30	18	17	814	Ⅰ－3	ＳＩ01	埋土	34.2	48.3	27.4	45.39	83～89	○	頁岩	奥羽山脈	
31	18	17	625	Ⅰ－3	ＳＩ01	埋土	52.4	(50.3)	15.8	37.06	48～56		頁岩	奥羽山脈	
32	18	17	744	Ⅰ－2	ＳＩ01	埋土	69.9	52.1	14.1	46.4	48～65		頁岩	奥羽山脈	
33	18	17	516	Ⅱ－2	ＳＩ01	埋土	50.2	43.5	10.4	20.04	53～66		頁岩	奥羽山脈	
34	18	17	315	Ⅲ－2	ＳＩ01	埋土	53.4	32.4	13.1	17.66	46～66	○	珪質頁岩	奥羽山脈	
35	19	17	8004	Ⅱ－1	ＳＩ01	埋土	74.6	51.7	11.2	38.46	30～51		頁岩	奥羽山脈	
36	19	17	706	Ⅱ－4	ＳＩ01	埋土	91.7	73.7	17.1	87.88	50～72		頁岩	奥羽山脈	
37	19	17	387	Ⅱ－3	ＳＩ01	埋土	82.4	39.7	18.6	41.79	59～72		頁岩	奥羽山脈	
38	19	18	8123	Ⅱ－4	ＳＩ01	埋土	59.6	46.9	16.5	36.5	48～66		頁岩	奥羽山脈	
39	20	18	703	Ⅲ－2	ＳＩ01	埋土	63.1	93.7	35.5	147.5	48～60		頁岩	奥羽山脈	
40	20	18	470	Ⅲ－2	ＳＩ01	埋土	48.0	(55.9)	13.6	19.35	42～49		頁岩	奥羽山脈	
41	20	18	529	Ⅵ－3	ＳＩ01	埋土	75.1	33.9	15.2	32.82	48～63		頁岩	奥羽山脈	
42	20	18	748	Ⅵ－2	ＳＩ01	埋土	(39.7)	32.8	5.9	7.83	44～54		頁岩	奥羽山脈	
43	20	18	708	Ⅴ－1	ＳＩ01	埋土	75.8	61.9	15.6	69.68	44～68	○	頁岩	奥羽山脈	
44	20	18	655	Ⅳ	ＳＩ01	埋土	(43.8)	17.6	4.8	2.67	61～87	○	頁岩	奥羽山脈	
45	21	18	440	Ⅵ－3	ＳＩ01	埋土	71.7	30.3	9.7	18.59	58～68	○	頁岩	奥羽山脈	
46	21	19	750	Ⅶ－1	ＳＩ01	埋土	(67.2)	(56.2)	10.9	41.01	39～50	○	頁岩	奥羽山脈	
47	21	19	705	Ⅶ－1	ＳＩ01	埋土	(64.1)	57.6	17.4	52.83	48～74		デイサイト	奥羽山脈	
48	21	19	434	Ⅶ－1	ＳＩ01	埋土	(63.6)	47.1	20.5	54.64	67～80		凝灰岩	奥羽山脈	
49	22	19	398	Ⅶ－2	ＳＩ01	埋土	58.7	36.1	16.3	27.99	65～81		頁岩	奥羽山脈	
144	36	27	83	Ⅶ－1	ＳＩ03	埋土	35.0	24.4	7.0	5.16	54		頁岩	奥羽山脈	
201	44	30	8021	Ⅸ	ＳＩ05	埋土	44.8	(53.1)	13.0	31.23	50～59		頁岩	奥羽山脈	
233	51	32	555	Ⅰ－1	ＳＲ01	埋土	83.6	58.6	13.1	70.13	43～51		頁岩	奥羽山脈	
265	58	36	282	Ⅱ－4	ＳＱ05	埋土	(21.7)	(20.0)	(86.6)	3.17	50～61		頁岩	奥羽山脈	
275	62	37	8033	Ⅰ－1	ＳＫ01	埋土	43.6	46.9	12.9	24.37	38～45		頁岩	奥羽山脈	
285	64	38	364	Ⅲ－3	ＳＫ04	埋土	(21.5)	40.9	6.1	5.15	38～42		頁岩	奥羽山脈	
291	65	38	737	Ⅰ－1	ＳＫ05	埋土	(64.6)	42.2	8.8	23.99	39～42		頁岩	奥羽山脈	
301	67	39	380	Ⅵ－1	Ｐ27	埋土	(38.6)	(36.3)	(8.4)	14.16	58～64		頁岩	奥羽山脈	
307	67	40	508	Ⅱ－4	Ｐ73	埋土	(37.7)	(27.7)	7.4	10.04	55～88		頁岩	奥羽山脈	
310	68	40	497	Ⅶ－1	Ｐ87	埋土	65.4	38.6	10.9	26.19	51～63		頁岩	奥羽山脈	
328	70	41	611	Ⅲ－1	Ｐ197	埋土	53.8	41.4	9.4	19.38	62～70		頁岩	奥羽山脈	
339	74	42	681	Ⅵ－1	ＳＤ01	3層	64.2	40.0	7.5	18.67	37～55		頁岩	奥羽山脈	
340	74	42	510	Ⅲ－1	ＳＤ01	2層	80.8	46.1	9.4	30.51	49～64	○	頁岩	奥羽山脈	
1050	135	82	7489	Ⅰ－2	ＧＩ78	Ⅱ	96.0	58.3	25.3	101.19	63～74		頁岩	奥羽山脈	
1051	135	82	499	Ⅱ－3	ＧＬ78	Ⅱ	(67.4)	43.8	15.1	40.1	51～72		頁岩	奥羽山脈	
1052	135	82	539	Ⅴ－2	ＧＫ79	Ⅱ	73.9	84.8	22.8	131.99	72～88		頁岩	奥羽山脈	
1053	135	82	6863	Ⅳ	ＧＫ81	Ⅱ	48.4	23.6	5.9	5.41	58～60		頁岩	奥羽山脈	
1054	136	82	528	Ⅴ－1	ＧＪ79	Ⅱ	(50.9)	58.1	18.6	69.08	61～77	○	頁岩	奥羽山脈	
1055	136	83	95	Ⅴ－3	ＧＭ81	Ⅱ～Ⅲ	50.1	48.9	1.14	24.65	45～57	○	頁岩	奥羽山脈	
1056	136	83	642	Ⅰ－3	調査区	Ⅱ～Ⅲ層一括	61.7	38.9	16.8	32.62	63～71		頁岩	奥羽山脈	
1057	136	83	410	Ⅵ－1	ＧＫ80	Ⅱ～Ⅲ層一括	64.4	17.4	6.6	6.84	52～62		頁岩	奥羽山脈	
1058	136	83	368	Ⅴ－3	調査区	Ⅱ～Ⅲ層一括	40.3	37.9	9.7	12.18	44～66		頁岩	奥羽山脈	
1059	136	83	65	Ⅶ－4	調査区	Ⅱ～Ⅲ層一括	39.9	22.4	8.0	6.92	38～50		赤色頁岩	奥羽山脈	

第84表　スクレイパー観察表（2）

遺物No	図版No	写真No	登録No	分　類	出土位置	出土層位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	刃　角	光沢	石　材	産　地	備　考
1060	137	84	719	Ⅰ	GL80	Ⅲ	77.9	28.6	24.1	84.52	82～85		頁岩	奥羽山脈	
1061	137	84	518	Ⅰ－1	GL78	Ⅲ	82.8	62.0	13.9	69.49	50～62		頁岩	奥羽山脈	
1062	137	84	568	Ⅰ－1	GK79	Ⅲ	99.6	49.8	23.5	110.14	52～68	○	頁岩	奥羽山脈	
1063	137	83	573	Ⅰ－2	GN81	Ⅲ	69.8	87.6	18.8	111.32	56～76		頁岩	奥羽山脈	
1064	138	84	558	Ⅰ－1	GL80	Ⅲ	(106.5)	36.9	23.2	71.77	53～62		頁岩	奥羽山脈	
1065	138	83	427	Ⅱ－2	GL79	Ⅲ	64.8	40.5	11.7	27.71	53～58		頁岩	奥羽山脈	
1066	138	83	331	Ⅰ－1	GI78	Ⅲ	(41.3)	25.5	10.5	10.52	48～53	○	頁岩	奥羽山脈	
1067	138	83	448	Ⅰ－1	GM79	Ⅲ	(40.1)	81.3	14.9	33.88	59～64		頁岩	奥羽山脈	
1068	138	83	485	Ⅰ－2	GM81	Ⅲ	65.2	63.9	12.8	60.48	48～59		頁岩	奥羽山脈	
1069	139	84	462	Ⅱ－1	GN79	Ⅲ	(76.5)	35.3	13.5	32.55	55～58		頁岩	奥羽山脈	末端部・左側縁破損
1070	139	84	338	Ⅱ－4	GI78	Ⅲ	36.6	36.6	8.1	13.67	40～61		流紋岩	奥羽山脈	
1071	139	84	695	Ⅲ－2	GJ78	Ⅲ	63.8	77.8	17.0	67.48	46～57		頁岩	奥羽山脈	
1072	139	85	694	Ⅲ－1	GN78	Ⅲ	61.5	73.6	14.2	62.25	53		頁岩	奥羽山脈	
1073	140	84	674	Ⅲ－4	GN80	Ⅲ	45.8	44.9	7.8	21.47	65～80		頁岩	奥羽山脈	
1074	140	85	8111	Ⅲ－2	GM79	Ⅲ	50.9	(42.9)	15.8	50.08	65		頁岩	奥羽山脈	
1075	140	85	412	Ⅲ－1	GM80	Ⅲ	56.3	21.2	8.0	10.54	43～54	○	頁岩	奥羽山脈	
1076	140	85	413	Ⅲ－1	GK82	Ⅲ	60.9	38.6	8.6	30.3	66～78		頁岩	奥羽山脈	
1077	140	85	696	Ⅳ	GL81	Ⅲ	94.2	56.8	14.8	61.2	64～69		頁岩	奥羽山脈	
1078	141	85	526	Ⅴ－1	GJ78	Ⅲ	63.7	42.9	15.6	43.24	49～66	○	頁岩	奥羽山脈	
1079	141	85	343	Ⅴ－1	GL79	Ⅲ	34.7	26.4	8.4	9.37	51～63		珪質頁岩	奥羽山脈	
1080	141	85	456	Ⅴ－1	GK78	Ⅲ	54.8	42.3	10.8	21.54	41～66		頁岩	奥羽山脈	
1081	141	86	280	Ⅵ－1	GI79	Ⅲ	52.2	29.8	7.4	10.4	27～37		頁岩	奥羽山脈	
1082	141	85	418	Ⅴ－1	GN79	Ⅲ	51.6	46.4	15.3	36.41	62～79		頁岩	奥羽山脈	
1083	141	86	437	Ⅵ－3	GM80	Ⅲ	50.4	29.3	9.3	13.04	49～60		頁岩	奥羽山脈	
1084	142	86	442	Ⅵ－2	GL80	Ⅲ	(44.8)	(29.5)	(16.3)	21.14	49～58	○	頁岩	奥羽山脈	
1085	142	86	453	Ⅵ－4	GK80	Ⅲ	68.6	32.3	13.1	28.07	61～70		頁岩	奥羽山脈	
1086	142	86	465	Ⅵ－3	GJ78	Ⅲ	73.9	51.4	12.1	45.7	53～78	○	頁岩	奥羽山脈	
1087	142	86	563	Ⅵ－2	GK81	Ⅲ	75.2	114.2	22.8	140.93	53～64		頁岩	奥羽山脈	
1088	143	86	527	Ⅶ－1	GI78	Ⅲ	78.9	33.3	12.8	24.45	35～50	○	頁岩	奥羽山脈	
1089	143	87	6493	Ⅶ－1	GK79	Ⅲ	53.7	38.7	13.0	20.6	35～47		頁岩	奥羽山脈	
1090	143	85	393	Ⅶ－2	GK81	Ⅲ	(25.8)	(27.8)	7.9	6.54	37～52		頁岩	奥羽山脈	
1091	143	87	541	Ⅶ－1	GM78	Ⅲ	68.0	71.6	18.4	53.24	47～64		頁岩	奥羽山脈	
1092	142	87	467	Ⅶ－3	GK78	Ⅲ	43.6	(73.6)	11.2	31.84	54～71		頁岩	奥羽山脈	
1093	144	86	492	Ⅶ－2	GL81	Ⅲ	(87.5)	(42.1)	15.2	53.37	43～65		頁岩	奥羽山脈	
1094	144	86	523	Ⅶ－1	GN80	Ⅲ	62.2	36.1	20.6	34.65	60～69	○	頁岩	奥羽山脈	
1095	144	87	556	Ⅶ－1	GJ79	Ⅲ	136.4	76.6	16.1	205.43	44～63		デイサイト	奥羽山脈	
1096	145	87	609	Ⅱ－3	GL80	Ⅳ	(45.6)	(44.4)	(18.9)	38.06	76～78		頁岩	奥羽山脈	
1097	145	88	542	Ⅶ－4	GO78	Ⅳ	94.2	49.3	18.6	70.89	64～72		頁岩	奥羽山脈	
1098	145	88	577	Ⅵ－1	GF79	Ⅳ	87.9	37.2	19.6	39.85	35～58	○	頁岩	奥羽山脈	
1099	145	87	476	Ⅴ－1	GN80	Ⅳ	40.2	34.4	11.8	17.57	50～67		頁岩	奥羽山脈	
1100	145	88	753	Ⅲ－3	GK80	Ⅴ	(24.9)	(85.1)	11.8	25.3	64～80		頁岩	奥羽山脈	
1101	146	88	455	Ⅴ－1	GN79	Ⅴ	47.1	44.6	17.5	29	58～76	○	頁岩	奥羽山脈	
1102	146	88	569	Ⅵ－1	GK80	Ⅴ	(100.7)	(27.0)	10.3	25.73	43～62		頁岩	奥羽山脈	
1103	146	88	498	Ⅵ－1	GK80	Ⅴ	51.1	56.9	15.6	44.39	44～62	○	頁岩	奥羽山脈	
1104	146	88	572	Ⅶ－4	GK81	Ⅴ	59.7	62.4	22.9	64.37	53～72		頁岩	奥羽山脈	
1105	147	88	408	Ⅷ－1	GK80	Ⅴ	57.8	29.8	7.1	8.07	36～58	○	頁岩	奥羽山脈	

第85表　不定形石器観察表（1）

遺物No	図版No	写真No	登録No	分　類	出土位置	出土層位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	石　材	産　地	備　考
50	22	19	743	Ⅰ－1	ＳＩ01	埋土	56.9	43.5	13.9	26.34	頁岩	奥羽山脈	
51	22	19	417	Ⅰ－1	ＳＩ01	埋土	(48.3)	(53.1)	12.2	14.11	頁岩	奥羽山脈	
52	22	19	431	Ⅰ－1	ＳＩ01	2層	(52.3)	43.8	11.0	21.84	頁岩	奥羽山脈	
53	22	19	749	Ⅰ－1	ＳＩ01	埋土	(53.9)	(74.1)	15.9	51.17	頁岩	奥羽山脈	
54	23	19	503	Ⅰ－1	ＳＩ01	埋土	(11.2)	(28.3)	5.4	1.25	デイサイト	奥羽山脈	
55	23	20	414	Ⅰ－1	ＳＩ01	埋土	53.1	60.7	17.4	44.22	頁岩	奥羽山脈	
56	23	20	707	Ⅱ	ＳＩ01	埋土	(72.6)	51.9	11.2	38.55	頁岩	奥羽山脈基盤？	
57	23	20	439	Ⅰ－1	ＳＩ01	埋土	62.4	61.4	21.0	62.53	頁岩	奥羽山脈	
58	24	20	500	Ⅴ－1	ＳＩ01	埋土	53.1	54.2	13.1	42.36	頁岩	奥羽山脈	
59	24	20	390	Ⅰ－1	ＳＩ01	埋土	54.1	69.8	15.9	67.96	頁岩	奥羽山脈	
60	24	21	567	Ⅵ	ＳＩ01	埋土	117.6	68.9	28.8	141.9	頁岩	奥羽山脈	
61	25	20	640	Ⅱ	ＳＩ01	埋土	47.4	(28.1)	(7.6)	8.88	頁岩	奥羽山脈	
62	25	20	2401	Ⅰ－1	ＳＩ01	床面	(37.8)	36.2	12.2	15.21	頁岩	奥羽山脈	
63	25	20	275	Ⅲ	ＳＩ01	埋土	(41.5)	(44.7)	15.9	19.68	頁岩	奥羽山脈	
127	33	26	742	Ⅱ	ＳＩ02	床面直上	(47.4)	21.9	(4.8)	5.61	頁岩	奥羽山脈	
128	33	26	472	Ⅰ－1	ＳＩ02	床面	(31.8)	(39.2)	(11.8)	10.86	頁岩	奥羽山脈	
145	36	27	471	Ⅰ－1	ＳＩ03	埋土	65.4	(39.3)	9.6	21.6	凝灰岩	奥羽山脈	
199	44	30	2548	Ⅰ－1	ＳＩ05	埋土	(22.7)	(9.4)	(4.29)	0.65	頁岩	奥羽山脈	
200	44	30	8020	Ⅰ－1	ＳＩ05	埋土	(24.1)	(26.0)	8.2	4.46	頁岩	奥羽山脈	
202	44	30	423	Ⅱ	ＳＩ05	埋土	(23.0)	(22.0)	(3.6)	1.45	頁岩	奥羽山脈	
203	44	30	670	Ⅰ－1	ＳＩ05	埋土	(33.4)	32.1	8.8	10.62	頁岩	奥羽山脈	
204	44	30	746	Ⅰ－1	ＳＩ05	埋土下位	(57.4)	51.2	8.8	21.23	頁岩	奥羽山脈	
205	45	30	8019	Ⅰ－2	ＳＩ05	埋土下位	53.2	47.1	18.8	38.51	頁岩	奥羽山脈	
206	45	31	8018	Ⅰ－1	ＳＩ05	埋土	(40.7)	42.0	12.4	21.26	頁岩	奥羽山脈	
267	58	36	515	Ⅰ	ＳＱ05	埋土	64.4	29.3	11.8	26.1	頁岩	奥羽山脈	
280	63	37	745	Ⅰ－1	ＳＫ02	埋土	44.6	47.0	8.1	18.93	頁岩	奥羽山脈	
292	65	39	8035	Ⅴ－2	ＳＫ05	埋土	39.2	43.9	10.1	16.45	頁岩	奥羽山脈	
316	69	40	618	Ⅵ	Ｐ103	埋土	(84.8)	(47.3)	12.2	32.88	頁岩	奥羽山脈	
338	73	42	391	Ⅴ－2	ＳＤ01	3層	73.4	54.6	15.6	64.46	頁岩	奥羽山脈	
1106	147	89	199	Ⅴ－1	ＧＮ78	Ⅰ	61.7	33.2	19.5	26.63	頁岩	奥羽山脈	
1107	147	89	411	Ⅳ	ＧＮ79	Ⅱ	92.5	38.9	12.8	58.06	頁岩	奥羽山脈	
1108	147	89	4001	Ⅰ－2	ＧＭ78	Ⅱ	(41.2)	(42.5)	(14.5)	16.61	頁岩	奥羽山脈	
1109	147	89	524	Ⅴ－1	ＧＨ79	Ⅱ	67.5	78.9	20.0	94.13	頁岩	奥羽山脈	
1110	148	89	693	Ⅰ－1	ＧＪ80	Ⅱ	96.5	50.0	21.2	72.93	頁岩	奥羽山脈	
1111	148	89	800	Ⅴ－1	ＧＭ78	Ⅱ	58.1	37.3	22.1	43.05	頁岩	奥羽山脈	
1112	148	89	715	Ⅰ－1	ＧＬ80	Ⅱ	96.4	65.8	22.2	123.93	流紋岩	奥羽山脈	
1113	149	89	191	Ⅴ－2	調査区	Ⅱ～Ⅲ層一括	60.2	40.5	18.5	38.16	頁岩	奥羽山脈	
1114	149	90	201	Ⅴ－1	ＧＬ80	Ⅲ	66.6	36.9	19.2	44.73	頁岩	奥羽山脈	
1115	149	91	309	Ⅱ	ＧＭ79	Ⅲ	22.2	67.4	13.4	17.31	頁岩	奥羽山脈	
1116	149	90	397	Ⅵ	ＧＪ79	Ⅲ	56.0	58.1	10.8	29.15	頁岩	奥羽山脈	
1117	150	90	520	Ⅵ	ＧＬ80	Ⅲ	61.4	28.6	12.4	15.44	頁岩	奥羽山脈	
1118	150	90	660	Ⅰ－1	ＧＯ78	Ⅲ	(87.5)	33.8	12.8	32.09	頁岩	奥羽山脈	
1119	150	90	419	Ⅴ－2	ＧＫ79	Ⅲ	52.8	49.7	16.2	31.33	頁岩	奥羽山脈	

第86表　不定形石器観察表（2）

遺物No	図版No	写真No	登録No	分　類	出土位置	出土層位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	石　材	産　地	備　考
1120	150	90	449	Ⅱ	ＧＫ79	Ⅲ	55.1	53.3	18.1	39.64	頁岩	奥羽山脈	
1121	151	90	576	Ⅰ－1	ＧＬ79	Ⅲ	74.6	75.4	24.3	129	頁岩	奥羽山脈	
1122	151	91	716	Ⅰ－1	ＧＮ80	Ⅲ	83.1	102.8	20.5	150.55	頁岩	奥羽山脈	
1123	151	91	701	Ⅲ	ＧＪ78	Ⅲ	51.7	62.5	18.9	50.04	頁岩	奥羽山脈	
1124	152	91	571	Ⅱ	ＧＫ80	Ⅲ	76.0	66.8	13.0	63.3	頁岩	奥羽山脈	
1125	152	91	711	Ⅴ－2	ＧＪ78	Ⅲ	76.8	53.9	18.1	71.69	頁岩	奥羽山脈	
1126	152	92	700	Ⅰ－1	ＧＪ78	Ⅲ	(54.8)	(63.5)	12.4	40.26	頁岩	奥羽山脈	
1127	153	92	570	Ⅰ－1	ＧＯ82	Ⅳ	(70.1)	74.3	22.4	106.91	頁岩	奥羽山脈	
1128	153	92	714	Ⅰ－1	ＧＫ81	Ⅴ	116.8	52.4	21.0	75.31	頁岩	奥羽山脈	
1129	153	92	447	Ⅲ	ＧＫ80	Ⅴ	72.4	40.8	8.1	22.37	頁岩	奥羽山脈	
1130	154	92	754	Ⅰ－2	ＧＫ80	Ⅴ	46.8	63.8	16.0	36.77	頁岩	奥羽山脈	

第87表　楔形石器観察表

遺物No	図版No	写真No	登録No	分　類	出土位置	出土層位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	石　材	産　地	備　考
64	25	21	181	Ⅱ	ＳＩ01	埋土	39.9	36.7	15.3	25.12	頁岩	奥羽山脈	
1131	154	93	8136	Ⅰ	ＧＬ79	Ⅰ	20.7	19.2	9.1	2.83	頁岩	奥羽山脈	
1132	154	93	772	Ⅰ	ＧＭ80	Ⅱ	30.0	26.8	14.5	12.24	赤色頁岩	奥羽山脈	
1133	154	93	4730	Ⅱ	ＧＭ81	Ⅱ	21.9	15.8	6.5	2.45	頁岩	奥羽山脈	
1134	154	93	773	Ⅰ	ＧＬ80	Ⅲ	29.1	15.4	8.6	4.33	頁岩	奥羽山脈	
1135	154	93	761	Ⅱ	ＧＬ80	Ⅲ	31.1	32.5	10.8	11.2	頁岩	奥羽山脈	
1136	154	93	8118	Ⅱ	ＧＬ81	Ⅲ	(35.2)	29.0	11.1	13.32	頁岩	奥羽山脈	
1137	154	93	658	Ⅱ	ＧＮ80	Ⅳ	(27.4)	(25.1)	12.4	7.78	流紋岩	奥羽山脈	

第88表　石核観察表

遺物No	図版No	写真No	登録No	分　類	出土位置	出土層位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	石　材	産　地	備　考
65	25	21	815	Ⅰ	ＳＩ01	埋土	33.6	49.1	36.0	60.44	頁岩	奥羽山脈基盤	
66	25	21	8104	Ⅰ	ＳＩ01	埋土	82.5	33.8	33.2	100.75	頁岩	奥羽山脈基盤	
129	33	26	8114	Ⅳ	ＳＩ02	埋土下位	41.3	45.7	22.4	39.66	頁岩	奥羽山脈基盤	
207	45	31	817	Ⅰ	ＳＩ05	埋土	34.6	31.5	26.1	32.11	安山岩	奥羽山脈基盤	
208	45	31	8016	Ⅰ	ＳＩ05	埋土	26.1	32.3	25.5	15.42	頁岩	奥羽山脈基盤	
209	45	31	548	Ⅰ	ＳＩ05	埋土	41.8	50.5	30.7	78.54	瑪瑙	奥羽山脈基盤	
276	62	37	816	Ⅳ	ＳＩ01	埋土	72.1	70.3	44.1	212.67	赤色頁岩	奥羽山脈基盤	
317	69	40	8135	Ⅰ	Ｐ103	埋土	(20.8)	31.8	17.8	13.67	頁岩	奥羽山脈基盤	
1138	155	93	8117	Ⅱ	ＧＭ80	Ⅰ	45.8	58.9	22.4	75.62	頁岩	奥羽山脈基盤	
1139	155	93	783	Ⅰ	ＧＪ80	Ⅱ	27.9	32.8	41.3	49.41	赤色頁岩	奥羽山脈基盤	
1140	155	93	787	Ⅰ	ＧＫ81	Ⅱ	58.6	97.0	53.5	325.00	頁岩	奥羽山脈基盤	
1141	156	93	806	Ⅱ	ＧＭ82	Ⅲ	46.7	46.1	31.2	101.36	瑪瑙	奥羽山脈基盤	
1142	156	94	788	Ⅰ	ＧＫ80	Ⅲ	107.0	178.0	145.0	3245	頁岩	奥羽山脈基盤	
1143	157	93	779	Ⅲ	ＧＪ78	Ⅲ	41.8	30.8	31.8	48.42	瑪瑙	奥羽山脈基盤	
1144	157	93	789	Ⅰ	ＧＬ78	Ⅲ	132.4	122.4	66.2	899.45	頁岩	奥羽山脈基盤	

第89表　打製石器観察表

遺物No	図版No	写真No	登録No	分　類	出土位置	出土層位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	石　材	産　地	備　考
1145	158	94	821	Ⅱ	ＧＫ78	Ⅲ層	154.3	92.5	33.7	434.62	デイサイト	奥羽山脈	
1146	158	94	5777	Ⅲ	ＧＬ80	Ⅲ層	(53.7)	57.5	25.9	120.24	ホルンフェルス	奥羽山脈	
1147	158	94	826	Ⅰ	ＥＰ75	Ⅳ層	176.0	72.6	23.6	512.33	頁岩	奥羽山脈	
1148	158	94	827	Ⅱ	ＥＰ75	Ⅳ層	150.6	60.8	30.5	312.78	デイサイト	奥羽山脈	
－	－	－	792	Ⅱ	ＧＬ80	Ⅱ層	43.8	41.9	20.6	42.11	頁岩	奥羽山脈	

第90表　磨製石斧観察表

遺物No	図版No	写真No	登録No	分　類	出土位置	出土層位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	石　材	産　地	備　考
210	46	31	1222	Ⅰ	ＳＩ05	埋土	(68.6)	(37.1)	(9.1)	31.17	頁岩	奥羽山脈	
286	64	36	836	Ⅰ	ＳＫ04	埋土	(48.7)	12.6	9.5	11.94	粘板岩	北上山地/奥羽山脈基盤	
1149	158	95	830	Ⅰ	ＧＫ80	Ⅰ	(61.7)	(19.3)	(21.3)	19.26	頁岩	北上山地/奥羽山脈基盤	
1150	158	95	829	Ⅰ	ＧＪ81	Ⅱ	(29.7)	(16.4)	(6.9)	3.92	頁岩	北上山地/奥羽山脈基盤	
1151	158	95	835	Ⅰ	調査区	Ⅱ・Ⅲ	(18.7)	(36.8)	11.9	8.35	頁岩	奥羽山脈	
1152	158	95	834	Ⅱ	ＧＮ80	Ⅱ	186.0	60.3	38.9	732.42	細粒閃緑岩	奥羽山脈基盤	
1153	159	95	1165	Ⅱ	ＧＬ80	Ⅲ	128.4	48.4	26.7	294.21	細粒閃緑岩	奥羽山脈基盤	
1154	159	95	1829	Ⅱ	ＧＭ79	Ⅲ	(141.3)	(69.3)	(38.3)	687.74	細粒閃緑岩	奥羽山脈基盤	
1155	159	95	833	Ⅲ	ＧＭ79	Ⅳ	89.2	30.9	17.4	67.8	粘板岩	北上山地/奥羽山脈基盤	

第91表　石錘観察表（1）

遺物No	図版No	写真No	登録No	分　類	出土位置	出土層位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	石　材	産　地	備　　考
67	26	21	1078	Ⅱa	ＳＩ01	埋土	58.9	53.1	23.4	93.08	デイサイト	奥羽山脈	
68	26	21	966	Ⅱa	ＳＩ01	埋土	63.1	51.2	17.6	78.27	デイサイト	奥羽山脈	
69	26	21	1073	Ⅱa	ＳＩ01	埋土	67.1	60.1	18.6	90.93	デイサイト	奥羽山脈	
70	26	21	902	Ⅱa	ＳＩ01	床面	61.7	55.5	17.1	93.52	デイサイト	奥羽山脈	
71	26	21	8008	Ⅱa	ＳＩ01	埋土	75.1	72.6	19.2	142.28	デイサイト	奥羽山脈	
72	26	21	899	Ⅱa	ＳＩ01	埋土	64.3	61.8	16.5	81.76	凝灰岩	奥羽山脈	
73	26	22	1001	Ⅱa	ＳＩ01	床面	85.3	78.9	26.9	266.6	安山岩	奥羽山脈	
74	26	22	967	Ⅱb	ＳＩ01	埋土	58.3	60.8	17.6	82.59	礫岩	奥羽山脈	
75	26	22	920	Ⅱb	ＳＩ01	床面	56.3	74.9	17.3	96.03	デイサイト	奥羽山脈	
76	26	22	1063	Ⅱa	ＳＩ01	埋土	102.3	76.1	26.5	286.81	デイサイト	奥羽山脈	
77	26	22	923	Ⅱb	ＳＩ01	1層	72.1	81.3	19.1	123.82	デイサイト	奥羽山脈	
78	27	21	965	Ⅱb	ＳＩ01	埋土	47.4	71.6	19.1	87.1	デイサイト	奥羽山脈	
79	27	21	1074	Ⅱb	ＳＩ01	埋土	36.0	61.6	11.4	32.99	砂岩	奥羽山脈	
80	27	21	1029	Ⅱb	ＳＩ01	埋土	61.4	66.6	17.8	111.27	安山岩	奥羽山脈	
81	27	22	1096	Ⅱb	ＳＩ01	埋土	(50.2)	(62.7)	(17.7)	68.19	デイサイト	奥羽山脈	
82	27	22	1095	Ⅱb	ＳＩ01	埋土	59.4	67.1	20.4	98.96	安山岩	奥羽山脈	
83	27	22	1093	Ⅱb	ＳＩ01	埋土	48.6	67.9	18.7	81.02	砂岩	奥羽山脈	
84	27	22	1028	Ⅳa	ＳＩ01	埋土	(64.1)	53.4	20.2	87	デイサイト	奥羽山脈	
85	27	22	922	Ⅳa	ＳＩ01	床面	103.7	80.2	27.4	342.54	デイサイト	奥羽山脈	凹痕・磨面形成後転用
86	27	22	1076	Ⅴ	ＳＩ01	埋土	(52.1)	(53.0)	(12.4)	41.43	安山岩	奥羽山脈	
130	33	26	924	Ⅰb	ＳＩ02	床面	72.1	88.4	20.5	162.31	デイサイト	奥羽山脈	
131	33	26	888	Ⅱa	ＳＩ02	床直	85.4	75.2	21.8	159.91	デイサイト	奥羽山脈	
146	36	27	1119	Ⅱ	ＳＩ03	埋土	(52.6)	55.2	16.8	59.86	デイサイト	奥羽山脈	
158	38	27	1087	Ⅱb	ＳＩ04	埋土下位	(74.2)	90	28.4	208.18	礫岩	奥羽山脈	
159	38	27	1079	Ⅱa	ＳＩ04	埋土下位	84.2	71.9	20.0	119.12	デイサイト	奥羽山脈	
160	38	28	1086	Ⅱb	ＳＩ04	埋土下位	(48.7)	56.2	15.4	56.08	デイサイト	奥羽山脈	
161	38	28	1088	Ⅱa	ＳＩ04	埋土下位	61.2	57.8	21.8	111.89	デイサイト	奥羽山脈	
162	38	28	1085	Ⅱa	ＳＩ04	埋土下位	55.2	54.1	17.7	70.14	デイサイト	奥羽山脈	
211	46	31	900	Ⅱa	ＳＩ05	埋土	(73.8)	(66.4)	19.1	115.25	安山岩	奥羽山脈	
234	51	32	939	Ⅱb	ＳＲ01	入れ子外	61.4	75.1	22.1	137.61	デイサイト	奥羽山脈	
239	52	33	8146	Ⅱb	ＳＲ03	埋納	54.2	107.6	17.9	156.91	細粒閃緑岩	奥羽山脈基盤	
240	52	33	8144	Ⅱb	ＳＲ03	埋納	61.5	85.8	24.8	177.07	デイサイト	奥羽山脈	
241	52	33	8148	Ⅱb	ＳＲ03	埋納	51.2	90.6	15.5	104.25	デイサイト	奥羽山脈	
242	52	33	8147	Ⅱb	ＳＲ03	埋納	65.8	75.5	16.5	112.49	細粒閃緑岩	奥羽山脈基盤	
243	52	33	8145	Ⅱb	ＳＲ03	埋納	66.2	94.8	19.8	185.52	デイサイト	奥羽山脈	
293	65	39	1075	Ⅰb	ＳＫ05	埋土	54.3	81.2	17.5	96.58	安山岩	奥羽山脈	
298	66	39	949	Ⅱa	Ｐ16	埋土	89.7	89.4	30.8	390.54	安山岩	奥羽山脈	
305	67	39	896	Ⅱa	Ｐ64	埋土	75.1	68.7	19.7	153.13	細粒閃緑岩	奥羽山脈基盤	
306	67	39	914	Ⅱa	Ｐ64	埋土	73.6	60.9	16.4	116.32	細粒閃緑岩	奥羽山脈基盤	
320	69	40	979	Ⅱb	Ｐ137	埋土	64.8	67.2	22.5	127.87	安山岩	奥羽山脈	
326	70	41	932	Ⅱb	Ｐ190	埋土	70.0	74.1	22.9	124.2	デイサイト	奥羽山脈	
331	71	41	906	Ⅱb	Ｐ199	埋土	52.0	63.3	15.4	71.21	デイサイト	奥羽山脈	
1156	159	95	950	Ⅱa	ＧＬ81	Ⅰ	91.2	76.8	14.3	138.44	デイサイト	奥羽山脈	
1157	159	95	1097	Ⅱa	ＧＮ80	Ⅱ	51.8	35.1	17.4	46.86	デイサイト	奥羽山脈	
1158	159	95	913	Ⅱb	ＧＩ80	Ⅱ	42.8	78.9	23.2	103.39	デイサイト	奥羽山脈	
1159	159	95	919	Ⅰb	ＧＭ80	Ⅱ	57.7	78.6	27.3	138.15	頁岩	奥羽山脈	

第92表　石錘観察表（2）

遺物No	図版No	写真No	登録No	分　類	出土位置	出土層位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	石　材	産　地	備　　考
1160	159	95	943	Ⅲb	GO79	Ⅱ	46.3	79.5	14.1	70.77	砂岩	奥羽山脈	
1161	159	96	887	Ⅱb	GN78	Ⅱ	67.5	89.6	21.2	239.8	デイサイト	奥羽山脈	
1162	160	96	1070	Ⅱb	GO79	Ⅱ	60.6	87.4	19.6	138.81	頁岩	奥羽山脈	
1163	160	96	1039	Ⅰb	GJ78	Ⅱ	78.8	84.8	23.5	180.15	頁岩	奥羽山脈	
1164	160	96	1038	Ⅰb	GJ78	Ⅱ	61.8	76	17.6	112.18	デイサイト	奥羽山脈	
1165	160	96	803	Ⅱb	GM79	Ⅲ	72.2	92.2	29.6	230.59	頁岩	奥羽山脈	
1166	160	96	1007	Ⅰb	GO79	Ⅲ	52.8	72.9	20.8	114.54	安山岩	奥羽山脈	
1167	160	96	1025	Ⅲa	GL78	Ⅲ	77.8	48.8	18.3	113.23	細粒閃緑岩	奥羽山脈基盤	
1168	160	96	881	Ⅱb	GJ79	Ⅲ	55.2	88.4	14.8	124.37	細粒閃緑岩	奥羽山脈基盤	
1169	160	96	1006	Ⅱa	GI79	Ⅲ	60.9	55.4	17.5	86.47	デイサイト	奥羽山脈	
1170	160	96	944	Ⅱa	GO79	Ⅲ	78.4	68.9	19.8	140.45	デイサイト	奥羽山脈	
1171	160	96	969	Ⅱb	GM81	Ⅲ	53.6	70.1	22.2	89.67	砂岩	奥羽山脈	両面に凹痕形成
1172	160	96	985	Ⅰb	GJ78	Ⅲ	78.6	96.9	21.7	213.92	デイサイト	奥羽山脈	
1173	161	96	1072	Ⅱa	GI79	Ⅲ	94.5	84.9	20.6	280.22	安山岩	奥羽山脈	
1174	161	96	1051	Ⅱa	GL81	Ⅲ	82.6	81.7	23.2	226.09	安山岩	奥羽山脈	
1175	161	96	1071	Ⅱb	GI79	Ⅲ	46.7	66.2	19.2	82.8	デイサイト	奥羽山脈	
1176	161	96	1104	Ⅱb	GL80	Ⅲ	70.7	96.5	19.3	179.33	デイサイト	奥羽山脈	
1177	161	97	1066	Ⅱa	GN79	Ⅲ	91.4	77.7	16.6	183.25	デイサイト	奥羽山脈	
1178	161	97	1013	Ⅰb	GL79	Ⅲ	73.3	73.6	15.9	125.4	デイサイト	奥羽山脈	
1179	161	96	1102	Ⅲb	GM79	Ⅲ	75.3	89.8	23.9	225.01	デイサイト	奥羽山脈	
1180	161	96	937	Ⅱb	GN81	Ⅲ	58.7	62.2	19.4	105.6	安山岩	奥羽山脈	
1181	161	97	1116	Ⅲa	GL79	Ⅲ	(80.3)	81.0	24.0	177.97	デイサイト	奥羽山脈	
1182	161	97	1115	Ⅱa	GL80	Ⅲ	82.7	74.3	21.2	148.02	礫岩	奥羽山脈	
1183	162	97	1064	Ⅱa	GN80	Ⅲ	94.2	77.1	21.6	220.92	安山岩	奥羽山脈	
1184	162	97	1000	Ⅱb	GO79	Ⅲ	87.9	102.2	24.1	275.68	デイサイト	奥羽山脈	
1185	162	97	1023	Ⅱa	GM80	Ⅲ	88.2	80.1	17.3	158.54	頁岩	奥羽山脈	
1186	162	97	1128	Ⅳb	GM81	Ⅲ	64.3	85.2	27.4	161.38	礫岩	奥羽山脈	両面凹痕
1187	162	97	992	Ⅱb	GI79	Ⅲ	40.2	82.2	18.2	69.22	デイサイト	奥羽山脈	
1188	162	97	977	Ⅳb	GL81	Ⅲ	67.6	(61.7)	19.0	112.74	砂岩	奥羽山脈	両面に凹痕形成
1189	162	96	1101	Ⅱb	GM78	Ⅲ	65.7	95.1	20.3	190.88	デイサイト	奥羽山脈	
1190	162	97	1032	Ⅱa	GL80	Ⅲ	97.4	51.3	14.7	107.98	デイサイト	奥羽山脈	
1191	162	97	921	Ⅲa	GL80	Ⅳ	83.6	70.1	21.2	192.81	安山岩	奥羽山脈	
1191	163	97	1091	Ⅱa	GN79	Ⅳ	96.2	62.4	19.6	148.33	安山岩	奥羽山脈	
1192	162	97	1080	Ⅱb	EQ76	Ⅳ上面	62.6	83.2	21.6	171.03	デイサイト	奥羽山脈	
1194	163	97	1035	Ⅱb	GL80	Ⅳ	80.0	82.6	22.1	198.02	デイサイト	奥羽山脈	
1195	163	97	961	Ⅰb	EP76	Ⅳ上面	44.5	56.9	8.4	28.67	デイサイト	奥羽山脈	
1196	163	97	915	Ⅱb	GM81	Ⅴ	37.6	59.4	15.3	50.99	砂岩	奥羽山脈	
1197	163	98	1054	Ⅱa	GK80	Ⅴ	64.1	52.7	14.2	68.45	細粒閃緑岩	奥羽山脈基盤	
1198	163	98	1092	Ⅱb	GN79	Ⅳ	46.9	72.6	19.8	98.84	安山岩	奥羽山脈	
1199	163	98	891	Ⅱa	GK80	Ⅴ	79.9	54.8	14.0	84.45	安山岩	奥羽山脈	
1200	163	98	975	Ⅱa	GJ81	Ⅴ	69.5	60.5	16.9	91.3	デイサイト	奥羽山脈	
1201	163	98	1108	Ⅱa	GK80	Ⅴ	96.1	61.2	23.7	181.59	デイサイト	奥羽山脈	
1202	163	98	952	Ⅱb	GM81	Ⅴ	72.5	97.3	25.7	215.43	礫岩	奥羽山脈	

第93表　礫石器観察表（1）

遺物No	図版No	写真No	登録No	分類（新）	出土位置	出土層位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	石　材	産　地	備　考
87	27	22	1639	Ⅰ	ＳＩ01	埋土	143.8	58.2	31.7	376.28	デイサイト	奥羽山脈	
88	27	22	1526	Ⅰ	ＳＩ01	埋土	106.2	54.8	44.4	320.57	デイサイト	奥羽山脈	
89	27	22	1630	Ⅰ	ＳＩ01	埋土	119.1	45.0	40.5	269.45	デイサイト	奥羽山脈	
90	28	22	1601	Ⅰ	ＳＩ01	埋土	150.7	54.1	43.3	490.76	デイサイト	奥羽山脈	
91	28	23	8006	Ⅰ	ＳＩ01	埋土	123.1	46.1	43.6	317.09	安山岩	奥羽山脈	
92	28	23	1653	Ⅰ	ＳＩ01	埋土	92.8	66.9	53.6	475.46	安山岩	奥羽山脈	
93	28	23	1647	Ⅰ	ＳＩ01	埋土	169.0	31.2	28.6	263.7	デイサイト	奥羽山脈	
94	28	23	1624	Ⅰ	ＳＩ01	床面直上	178.0	42.2	18.9	202.46	珪化木	奥羽山脈	
95	28	23	2224	Ⅰ	ＳＩ01	埋土	194.0	113.8	77.5	1360.56	安山岩	奥羽山脈	
96	28	23	2089	Ⅱ	ＳＩ01	埋土	(90.7)	(85.0)	(49.0)	473.37	花崗岩	奥羽山脈基盤	
97	28	23	1926	Ⅱ	ＳＩ01	埋土	91.3	82.4	57.9	599.96	花崗岩	奥羽山脈基盤	
98	29	23	2071	Ⅱ	ＳＩ01	埋土	105.3	86.5	67.9	873.82	花崗岩	奥羽山脈基盤	
99	29	23	1936	Ⅱ	ＳＩ01	床面	107.9	99.8	55.4	890.77	安山岩	奥羽山脈	
100	29	23	1993	Ⅲ	ＳＩ01	埋土	95.5	83.6	21.8	253.42	凝灰岩	奥羽山脈	
101	29	23	2096	Ⅲ	ＳＩ01	埋土	101.9	77.1	51.3	249.18	熔岩（安山岩質）	奥羽山脈	
102	29	24	1992	Ⅳ	ＳＩ01	埋土	108.5	83.8	68.3	867.55	安山岩	奥羽山脈	
103	29	24	1320	Ⅳ	ＳＩ01	埋土	102.8	89.8	46.0	607.82	安山岩	奥羽山脈	
104	29	24	1608	Ⅴ	ＳＩ01	埋土	(66.0)	(38.6)	(26.2)	103.75	砂岩	奥羽山脈	
105	29	24	1549	Ⅴ	ＳＩ01	埋土	167.5	45.2	42.6	341.02	砂岩	奥羽山脈	
106	29	24	1949	Ⅵ	ＳＩ01	床面	94.6	86.5	44.7	523.87	安山岩	奥羽山脈	
107	30	24	2196	Ⅶ	ＳＩ01	埋土	(96.9)	(53.7)	43.3	299.41	花崗閃緑岩	奥羽山脈基盤	
108	30	24	1998	Ⅶ	ＳＩ01	埋土	95.2	75.9	49.6	494.61	砂岩	奥羽山脈	
109	30	24	2027	Ⅶ	ＳＩ01	埋土	165.0	81.8	57.3	1077.29	デイサイト	奥羽山脈	
110	38	28	1501	Ⅶ	ＳＩ01	埋土	135.5	84.7	45.5	753.04	花崗閃緑岩	奥羽山脈基盤	
111	30	24	1141	ⅩⅢ－２ａ	ＳＩ01	埋土	163.5	59.8	42.0	487.52	安山岩	奥羽山脈	
112	30	24	1596	ⅩⅢ－１ａ	ＳＩ01	埋土	163.0	81.1	44.2	777.87	デイサイト	奥羽山脈	
113	30	24	1325	ⅩⅢ－１ａ	ＳＩ01	埋土	144.5	60.6	49.1	461.27	デイサイト	奥羽山脈	
114	30	25	1621	ⅩⅢ－２ｂ	ＳＩ01	埋土	(153.0)	74.4	80.8	1226.85	安山岩	奥羽山脈	
115	31	25	1593	ⅩⅢ－２ａ	ＳＩ01	埋土	152.2	75.1	58.4	952.61	安山岩	奥羽山脈	
116	31	25	1659	ⅩⅢ－２ａ	ＳＩ01	埋土	(101.5)	50.6	43.6	258.12	デイサイト	奥羽山脈	
117	31	25	1238	ⅩⅢ－２ｂ	ＳＩ01	埋土	(113.0)	(75.6)	(53.8)	423.53	安山岩	奥羽山脈	
118	31	25	2203	ⅩⅥ	ＳＩ01	埋土	(97.4)	(83.5)	(32.3)	318.44	凝灰岩	奥羽山脈	
119	31	25	1634	ⅩⅤ－２	ＳＩ01	埋土	126.6	(50.4)	(31.9)	240.70	凝灰岩	奥羽山脈	
120	31	25	1594	ⅩⅤ－２	ＳＩ01	埋土	105.3	58.2	18.6	140.02	石英安山岩	奥羽山脈	
121	31	25	2182	ⅩⅦ	ＳＩ01	埋土	(138.9)	(135.1)	50.5	897.95	熔岩（安山岩質）	奥羽山脈	
122	31	25	871	ⅩⅧ－１	ＳＩ01	床面	35.5	25.1	11.7	11.44	デイサイト	奥羽山脈	
123	31	25	869	ⅩⅧ－１	ＳＩ01	埋土	26.3	24.4	11.5	9.29	デイサイト	奥羽山脈	
124	31	25	870	ⅩⅧ－１	ＳＩ01	埋土	49.0	45.1	35.0	68.49	デイサイト	奥羽山脈	

第94表　礫石器観察表（2）

遺物No	図版No	写真No	登録No	分類（新）	出土位置	出土層位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	石　材	産　地	備　考
132	34	26	1052	Ⅰ	ＳＩ02	床面	83.9	61.4	32.6	206.91	礫岩	奥羽山脈	
133	34	26	1974	Ⅵ	ＳＩ02	床面	84.2	75.5	31.7	304.11	安山岩	奥羽山脈	
134	34	26	1279	Ⅳ	ＳＩ02	床面	(73.6)	(52.5)	(62.2)	323.11	安山岩	奥羽山脈	
135	34	26	1628	Ⅶ	ＳＩ02	床面	124.6	79.2	41.1	626.87	花崗岩	奥羽山脈基盤	
136	34	26	1472	Ⅻ－２ａ	ＳＩ02	床面	182.5	68.5	49.9	844.47	デイサイト	奥羽山脈	
137	34	26	1147	Ⅻ－３	ＳＩ02	埋土	116.6	67.6	50.0	569.11	デイサイト	奥羽山脈	
147	36	27	1456	Ⅰ	ＳＩ03	柱穴	73.0	29.6	22.0	69.67	安山岩	奥羽山脈	
163	39	28	1158	Ⅰ	ＳＩ04	床直	135.1	61.8	42.5	466.76	安山岩	奥羽山脈	
164	39	28	1439	Ⅰ	ＳＩ04	埋土下位	145.2	56.2	41.0	494.97	デイサイト	奥羽山脈	
165	39	28	1496	Ⅰ	ＳＩ04	埋土下位	(145.6)	40.0	(19.5)	157.89	頁岩	奥羽山脈基盤・北上山地	
166	39	28	1184	Ⅰ	ＳＩ04	床直	99.7	42.3	25.6	129.27	デイサイト	奥羽山脈	
167	39	28	1510	Ⅰ	ＳＩ04	埋土	117.8	41.9	22.4	144.20	凝灰岩	奥羽山脈	
168	39	28	1168	Ⅲ	ＳＩ04	床直	160.5	49.5	31.5	375.58	花崗岩	奥羽山脈基盤	
169	39	28	1138	Ⅻ－２ａ	ＳＩ04	埋土	194.0	78.6	50.5	1115.72	デイサイト	奥羽山脈	
170	39	28	1933	Ⅳ	ＳＩ04	床面	97.4	85.6	56.2	601.51	安山岩	奥羽山脈	
171	39	28	1923	Ⅳ	ＳＩ04	床面	126.5	102.8	55.5	969.31	安山岩	奥羽山脈	
172	40	28	1581	Ⅻ－１ａ	ＳＩ04	埋土	170.0	71.7	42.9	799.17	細粒閃緑岩	奥羽山脈	
173	40	28	1169	Ⅻ－１ａ	ＳＩ04	床直	(126.1)	72.9	(32.7)	378.51	安山岩	奥羽山脈	
174	40	28	1559	Ⅻ－３	ＳＩ04	埋土	159.5	57.2	54.3	560.33	デイサイト	奥羽山脈	
212	46	31	1569	Ⅰ	ＳＩ05	埋土	(50.9)	(45.2)	19.7	72.95	砂岩	奥羽山脈	
213	46	31	1574	Ⅰ	ＳＩ05	埋土	(68.9)	(50.5)	(20.9)	75.70	凝灰岩	奥羽山脈	
214	46	31	1342	Ⅰ	ＳＩ05	埋土	99.9	52.0	31.2	253.16	デイサイト	奥羽山脈	
215	46	31	2044	Ⅰ	ＳＩ05	埋土	92.2	59.8	57.2	393.93	安山岩	奥羽山脈	
216	46	31	2212	Ⅲ	ＳＩ05	埋土	109.1	88.1	45.5	477.99	デイサイト	奥羽山脈	
217	46	31	1558	Ⅴ	ＳＩ05	埋土	(87.0)	78.4	70.1	692.78	デイサイト	奥羽山脈	
218	46	31	1633	Ⅴ	ＳＩ05	埋土	151.4	87.5	22.2	383.35	デイサイト	奥羽山脈	
219	46	31	2194	Ⅵ	ＳＩ05	埋土	105.0	(70.2)	45.8	366.35	花崗閃緑岩	奥羽山脈基盤	
220	47	31	2204	Ⅷ	ＳＩ05	埋土	(71.0)	(34.1)	(16.0)	57.56	礫岩	奥羽山脈	
221	47	31	1599	ⅪⅠ	ＳＩ05	埋土	76.4	49.0	31.7	144.05	デイサイト	奥羽山脈	
222	47	31	2205	Ⅸ	ＳＩ05	埋土	(86.5)	(69.1)	42.2	237.55	砂岩	奥羽山脈	
223	47	31	1561	Ⅻ－１ａ	ＳＩ05	埋土	(83.1)	67.8	38.9	307.76	安山岩	奥羽山脈	
223	47	31	1577	Ⅻ－３	ＳＩ05	埋土	(72.2)	(58.6)	(36.0)	172.45	安山岩	奥羽山脈	
224	47	31	1552	Ⅻ－２ａ	ＳＩ05	埋土	136.7	58.6	36.6	368.58	デイサイト	奥羽山脈	
225	47	32	1334	Ⅻ－３	ＳＩ05	埋土	(119.0)	75.9	49.2	547.29	安山岩	奥羽山脈	
226	47	32	2210	Ⅻ－３	ＳＩ05	埋土	(79.8)	(64.8)	(48.8)	311.74	花崗閃緑岩	奥羽山脈基盤	
227	47	32	1631	Ⅻ－２ａ	ＳＩ05	埋土	(78.1)	(61.4)	(50.4)	294.79	安山岩	奥羽山脈	
230	49	32	8041	Ⅰ	ＳＸ03	埋土	(115.2)	(47.2)	(32.1)	172.94	礫岩	奥羽山脈	
235	51	32	1640	Ⅻ－２ａ	ＳＲ01	埋土	134.6	71.2	40.1	569.16	デイサイト	奥羽山脈	
236	51	33	2365	Ⅻ－２ａ	ＳＲ01	埋土	177.5	96.4	31.8	804.9	安山岩	奥羽山脈	

第95表　礫石器観察表（3）

遺物No	図版No	写真No	登録No	分類（新）	出土位置	出土層位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	石　材	産　地	備　考
248	56	34	1632	Ⅰ	ＳＱ01	埋土	153.4	100.5	35.9	850.11	安山岩	奥羽山脈	
249	56	34	2215	Ⅱ	ＳＱ01	－	142.8	99.6	63.0	1268.96	花崗岩	奥羽山脈基盤	
250	56	34	2222	ⅩⅢ－２ａ	ＳＱ01	－	122.3	108.1	37.0	716.11	デイサイト	奥羽山脈	
251	56	34	1652	Ⅰ	ＳＱ02	埋土	(85.5)	(67.2)	(17.7)	127.56	デイサイト	奥羽山脈	
252	56	35	2225	Ⅶ	ＳＱ02	－	134.5	101.9	54.5	1105.21	安山岩	奥羽山脈	
256	57	35	1645	Ⅰ	ＳＱ03	埋土	160.5	48.8	38.6	320.92	安山岩	奥羽山脈	
257	57	35	1578	Ⅰ	ＳＱ03	埋土	128.2	70.7	48.3	584.14	石英斑岩	奥羽山脈基盤	
258	57	35	1643	Ⅰ	ＳＱ03	埋土	(90.7)	59.1	44.5	327.92	花崗岩	奥羽山脈基盤	
259	57	35	1660	Ⅴ	ＳＱ03	埋土	(149.2)	59.0	36.2	481.62	凝灰岩	奥羽山脈	
260	57	35	1651	Ⅴ	ＳＱ03	埋土	112.8	57.4	46.7	500.45	石英斑岩	奥羽山脈	
261	57	35	1649	ⅩⅢ－１ａ	ＳＱ03	埋土	174.0	71.9	44.5	950.36	細粒閃緑岩	奥羽山脈基盤	
262	57	35	1551	ⅩⅢ－３	ＳＱ03	埋土	204.0	64.0	45.3	664.11	デイサイト	奥羽山脈	
263	57	35	1637	ⅩⅢ－１ａ	ＳＱ03	埋土	(186.0)	66.6	54.6	874.32	デイサイト	奥羽山脈	
268	58	36	1627	Ⅰ	ＳＱ05	埋土	163.0	87.6	38.7	896.39	安山岩	奥羽山脈	
269	58	36	2209	Ⅱ	ＳＱ05	埋土	120.1	94.9	59.9	1053.17	花崗閃緑岩	奥羽山脈基盤	
270	58	36	1638	ⅩⅢ－１ａ	ＳＱ05	埋土	(121.2)	(68.3)	34.8	404.54	安山岩	奥羽山脈	
273	59	37	1327	Ⅰ	ＳＱ06	埋土	132.9	66.5	40.7	416.65	安山岩	奥羽山脈	
274	59	37	8157	ⅩⅦ	ＳＱ06	埋土	372.0	211.0	144.0	9200	デイサイト	奥羽山脈	
277	62	37	1614	Ⅰ	ＳＫ01	埋土	98.5	51.5	29.0	208.91	安山岩	奥羽山脈	
278	62	37	2229	Ⅶ	ＳＫ01	埋土	123.7	94.3	58.4	977.38	安山岩	奥羽山脈	
287	64	38	1405	ⅩⅢ－２ａ	ＳＫ04	埋土	176.5	73.6	42.8	835.5	安山岩	奥羽山脈	
288	64	38	1353	ⅩⅢ－２ａ	ＳＫ04	埋土	(74.1)	(58.4)	(45.9)	241.29	花崗閃緑岩	奥羽山脈基盤	
294	65	39	1322	Ⅴ	ＳＫ05	埋土	134.8	52.8	29.8	319.19	安山岩	奥羽山脈	
295	65	39	1313	Ⅴ	ＳＫ05	埋土	134.3	72.9	48.5	692.82	花崗斑岩	奥羽山脈	
297	66	39	1509	ⅩⅢ－２ａ	Ｐ09	埋土	164.0	72.1	33.8	508.83	デイサイト	奥羽山脈	
300	67	39	1394	Ⅰ	Ｐ26	埋土	135.1	73.4	70.6	967.09	安山岩	奥羽山脈	
303	67	39	1636	Ⅰ	Ｐ52	埋土	154.3	43.9	47.1	346.45	安山岩	奥羽山脈	
304	67	39	1137	ⅩⅢ－２ａ	Ｐ57	埋土	166.0	76.2	55.7	1014.22	花崗岩	奥羽山脈基盤	
308	68	40	1140	Ⅰ	Ｐ73	埋土	195.0	65.5	49.5	866.36	安山岩	奥羽山脈	
311	68	40	1235	Ⅵ	Ｐ88	埋土	121.1	71.2	49.6	600.58	砂岩	奥羽山脈	
312	68	40	1941	Ⅰ	Ｐ88	埋土	93.1	79.2	48.8	464.28	安山岩	奥羽山脈	
313	68	40	1239	ⅩⅢ－２ａ	Ｐ90	埋土	148.0	53.4	36.4	431.16	安山岩	奥羽山脈	
315	69	40	1368	Ⅰ	Ｐ96	埋土	(48.8)	(61.6)	(40.4)	154.47	安山岩	奥羽山脈	
318	69	40	1956	Ⅲ	Ｐ103	埋土	95.6	78.4	46.2	484.38	花崗岩	奥羽山脈基盤	
319	69	40	1613	Ⅰ	Ｐ120	埋土	164.0	67.4	32.1	435.86	デイサイト	奥羽山脈	
321	69	41	2024	Ⅰ	Ｐ149	埋土	114.5	82.8	59.8	804.1	花崗閃緑岩	奥羽山脈基盤	
322	70	41	2202	Ⅲ	Ｐ151	埋土	116.2	76.8	47.9	576.28	デイサイト	奥羽山脈	
323	70	41	2179	Ⅰ	Ｐ165	埋土	126.2	89.1	50.0	780.05	デイサイト	奥羽山脈	
324	70	41	1205	Ⅰ	Ｐ187	埋土	(66.4)	34.0	15.6	53.46	頁岩	奥羽山脈基盤	

第96表　礫石器観察表（4）

遺物No	図版No	写真No	登録No	分類（新）	出土位置	出土層位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	石　材	産　地	備　考
327	70	41	2221	VI	P190	埋土	111.2	93.1	39.7	616.16	安山岩	奥羽山脈	
329	71	41	1513	I	P198	埋土	164.5	97.5	49.8	1040.64	安山岩	奥羽山脈	
330	71	41	1521	XIII－3	P198	埋土	115.3	77.3	46.7	625.59	安山岩	奥羽山脈	
332	71	41	1468	I	P199	埋土	(57.9)	(40.0)	(30.8)	92.11	デイサイト	奥羽山脈	
333	71	41	2178	VII	P199	埋土	109.1	87.8	63.1	824.88	花崗閃緑岩	奥羽山脈基盤	
341	74	42	2219	II	SD01	3層	123.1	102.6	54.3	946.97	安山岩	奥羽山脈	
342	74	42	2232	VII	SD01	3層	95.2	78.1	43.5	452.37	花崗閃緑岩	奥羽山脈基盤	
343	74	42	2226	VII	SD01	II	125.6	86.2	43.6	711.46	安山岩	奥羽山脈	
344	74	42	1661	XIII－1b	SD01	2層	162.0	85.4	24.2	507.7	デイサイト	奥羽山脈	
1203	164	98	1732	I	GI81	I	74.4	48.8	34.3	182.99	デイサイト	奥羽山脈	
1204	164	98	856	XVIII－1	GI81	I	68.2	63.6	16.8	83.9	デイサイト	奥羽山脈	
1205	164	98	1570	VIII	GM81	I	145.0	88.6	27.9	437.24	安山岩	奥羽山脈	
1206	164	98	1348	I	GI78	II	183.5	58.5	26.1	362.12	安山岩	奥羽山脈	
1207	164	98	1215	I	GJ81	II	67.0	32.2	19.7	67.36	デイサイト	奥羽山脈	
1208	164	98	2145	II	GN80	II	96.5	100.3	56.8	804.53	安山岩	奥羽山脈	
1209	164	98	2054	II	GL81	II	121.2	100.0	40.2	725.01	安山岩	奥羽山脈	
1210	164	98	1771	III	GK81	II	132.3	78.4	27.0	399.54	安山岩	奥羽山脈	
1211	164	98	2325	III	GL79	II	96.6	88.0	51.2	618.32	デイサイト	奥羽山脈	
1212	164	98	2003	IV	GN78	II	60.6	61.2	52.4	269.78	安山岩	奥羽山脈	
1213	165	98	1961	IV	GL80	II	96.0	88.2	52.2	650.76	安山岩	奥羽山脈	
1214	165	99	2009	VII	GM80	II	122.9	107.2	64.9	1183.58	安山岩	奥羽山脈	
1215	165	99	2256	VII	GL80	II	104.8	84.4	45.0	567.59	花崗閃緑岩	奥羽山脈基盤	
1216	165	99	2010	VII	GM80	II	(118.2)	75.4	40.8	527.26	デイサイト	奥羽山脈	
1217	165	99	1830	VII	GN81	II	113.3	71.9	54.8	566.64	安山岩	奥羽山脈	
1218	165	99	2308	VII	GM79	II	115.1	91.7	48.7	785.11	花崗閃緑岩	奥羽山脈基盤	
1219	165	99	2142	VII	GN80	II	124.3	127.0	56.6	941.39	安山岩	奥羽山脈	
1220	165	99	2094	VIII	GL81	II	83.4	78.1	30.5	297.11	安山岩	奥羽山脈	
1221	166	99	1042	VIII	GO79	II	81.2	67.5	20.1	96.55	安山岩	奥羽山脈	
1222	166	99	1833	IX	GJ80	II	114.5	75.2	68.7	711.64	デイサイト	奥羽山脈	
1223	166	99	2151	XII	GN80	II	112.2	97.5	51.5	884.07	安山岩	奥羽山脈	
1224	166	99	2356	XIII－3	GM79	II	105.1	81.0	46.3	561.21	花崗閃緑岩	奥羽山脈基盤	
1225	166	99	1964	XIII－3	GM79	II	121.4	83.8	44.8	687.00	安山岩	奥羽山脈	
1226	166	100	1449	XIII－1a	GL81	II	167.5	82.7	39.7	836	安山岩	奥羽山脈	
1227	166	100	1800	XIII－1a	GN80	II	190.4	80.1	38.3	848.24	デイサイト	奥羽山脈	
1228	166	100	1827	XIII－3	GN80	II	193.5	80.5	44.3	941.57	デイサイト	奥羽山脈	
1229	167	100	845	XVI	GN80	II	80.1	63.7	40.7	110.42	軽石	奥羽山脈	
1230	167	100	2180	XVIII－1	GO80	II	113.2	101.9	84.6	1167.13	赤色頁岩	奥羽山脈	
1231	167	100	1242	V	GL78	II～III	151.7	45.8	35.5	355.46	花崗閃緑岩	奥羽山脈基盤	
1232	167	100	2053	VI	GL81	II～III	100.0	99.8	50.6	727.1	安山岩	奥羽山脈	

第97表　礫石器観察表（5）

遺物No	図版No	写真No	登録No	分類（新）	出土位置	出土層位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	石　材	産　地	備　考
1233	167	100	2011	VII	G N79	Ⅱ～Ⅲ	123.4	77.9	41.8	560.17	デイサイト	奥羽山脈	
1234	167	100	880	VII	G N79	Ⅱ～Ⅲ	103.1	92.3	29.3	364.41	デイサイト	奥羽山脈	
1235	167	100	1335	XⅢ－3	G M81	Ⅱ～Ⅲ	142.8	59.2	44.3	466.02	デイサイト	奥羽山脈	
1236	167	100	861	XVIII－1	G K79	Ⅱ～Ⅲ	79.8	60.4	19.5	106.21	デイサイト	奥羽山脈	
1237	168	100	2108	I	G L79	Ⅲ	66.8	60.7	51.2	284.22	安山岩	奥羽山脈	
1238	168	100	1741	I	G L80	Ⅲ	77.1	74.6	(28.8)	208.87	デイサイト	奥羽山脈	
1239	168	100	1562	I	G N81	Ⅲ	83.1	55.9	47.7	369.94	砂岩	奥羽山脈	
1240	168	101	1921	I	G M80	Ⅲ	101.7	35.4	20.7	106.39	砂岩	奥羽山脈	
1241	168	101	1873	I	G M81	Ⅲ	112.1	56.4	33.2	306.54	凝灰岩	奥羽山脈	
1242	168	101	1796	I	G L81	Ⅲ	140.0	53.4	45.4	440.48	デイサイト	奥羽山脈	
1243	168	101	1772	I	G L78	Ⅲ	145.0	42.0	30.3	290.19	デイサイト	奥羽山脈	
1244	168	101	2159	Ⅱ	G M79	Ⅲ	74.0	70.0	45.4	313.45	安山岩	奥羽山脈	
1245	168	101	2347	Ⅱ	G M81	Ⅲ	98.2	80.1	61.1	659.86	デイサイト	奥羽山脈	
1246	168	101	2326	Ⅱ	G M79	Ⅲ	100.8	78.9	48.7	548.82	安山岩	奥羽山脈	
1247	169	101	1943	Ⅲ	G I 79	Ⅲ	95.2	80.8	34.2	348.18	デイサイト	奥羽山脈	
1248	169	101	2337	Ⅲ	G M80	Ⅲ	95.8	91.6	38.1	403.97	デイサイト	奥羽山脈	
1249	169	101	1977	Ⅲ	G L80	Ⅲ	99.8	78.5	33.6	335.75	安山岩	奥羽山脈	
1250	169	101	1804	Ⅲ	G H79	Ⅲ	198.0	92.2	37.1	986.25	デイサイト	奥羽山脈	
1251	169	101	2195	Ⅳ	G J 78	Ⅲ	93.8	86.3	39	456.43	安山岩	奥羽山脈	
1252	169	102	1880	Ⅳ	G N80	Ⅲ	72.4	71.9	36.6	283.35	花崗岩	奥羽山脈基盤	
1253	169	101	1939	Ⅳ	G L79	Ⅲ	111.6	99.7	63.6	967.16	安山岩	奥羽山脈	
1254	170	102	2183	Ⅳ	G M78	Ⅲ	107.6	86.8	57.6	745.89	安山岩	奥羽山脈	
1255	170	102	2321	Ⅳ	G M79	Ⅲ	96.2	97.8	67.1	895.31	安山岩	奥羽山脈	
1256	170	102	2116	Ⅳ	G L79	Ⅲ	113.1	94.5	49.7	761.81	安山岩	奥羽山脈	
1257	170	102	2187	Ⅳ	G J 79	Ⅲ	97.5	86.6	46.9	576.28	安山岩	奥羽山脈	
1258	170	102	2120	Ⅳ	G L79	Ⅲ	103.7	74.5	52.2	591.92	デイサイト	奥羽山脈	
1259	170	102	2107	V	G L78	Ⅲ	105.9	81.2	39.7	531.24	安山岩	奥羽山脈	
1260	170	102	1973	V	G J 78	Ⅲ	86.3	81.6	44.2	440.37	デイサイト	奥羽山脈	
1261	171	102	1989	V	G M81	Ⅲ	101.8	64.1	42.2	424.66	安山岩	奥羽山脈	
1262	171	102	2137	V	G L81	Ⅲ	85.1	58.9	27.2	183.55	砂岩	奥羽山脈	
1263	171	102	1317	V	G J 79	Ⅲ	134.7	61.2	41.2	491.15	デイサイト	奥羽山脈	
1264	171	102	1810	V	G L81	Ⅲ	190.0	55.0	47.5	736.12	デイサイト	奥羽山脈	
1265	171	102	2063	V	G L81	Ⅲ	84.8	80.1	42.1	418.46	花崗閃緑岩	奥羽山脈基盤	
1266	171	103	1963	VI	G M78	Ⅲ	93.6	85.3	27.9	329.85	安山岩	奥羽山脈	
1267	171	103	2140	VI	G M79	Ⅲ	118.1	90.3	50.2	817.06	安山岩	奥羽山脈	
1268	171	103	2050	VI	G K78	Ⅲ	142.6	105.2	41.5	882.07	安山岩	奥羽山脈	
1269	172	103	2332	VI	G M81	Ⅲ	99.9	84.7	41.8	480.85	安山岩	奥羽山脈	
1270	172	103	2161	VI	G K81	Ⅲ	94.6	84.6	53.5	603.77	安山岩	奥羽山脈	
1271	172	103	2115	VII	G L81	Ⅲ	106.6	79.4	41.9	513.48	安山岩	奥羽山脈	

第98表　礫石器観察表（6）

遺物No	図版No	写真No	登録No	分類（新）	出土位置	出土層位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	石　材	産　地	備　考
1272	172	103	2098	VII	G I 80	Ⅲ	90.2	73.1	46.7	388.27	デイサイト	奥羽山脈	
1273	172	103	2191	VII	G N81	Ⅲ	108.6	80.1	52.9	650.22	デイサイト	奥羽山脈	
1274	172	103	2255	VII	G L 80	Ⅲ	101.4	91.5	49.2	621.18	デイサイト	奥羽山脈	
1275	172	103	2278	VII	G L 78	Ⅲ	103.5	97.0	46.5	591.37	デイサイト	奥羽山脈	
1276	172	103	1733	VII	G K 79	Ⅲ	114.3	75.6	51.0	632.83	花崗岩	奥羽山脈基盤	
1277	173	104	2006	VII	G L 81	Ⅲ	140.1	109.6	37.4	895.14	安山岩	奥羽山脈	
1278	173	104	1950	VII	G M81	Ⅲ	129.0	97.8	52.0	1002.48	安山岩	奥羽山脈	
1279	173	104	2034	VII	G N80	Ⅲ	119.5	72.7	39.7	528.16	花崗岩	奥羽山脈	
1280	173	104	2264	VII	G K 78	Ⅲ	108.6	78.8	40.7	522.59	花崗岩	奥羽山脈基盤	
1281	173	104	1882	X	G N80	Ⅲ	110.5	79.1	32.0	330.28	石英安山岩	奥羽山脈	
1282	173	104	1340	IX	G L 80	Ⅲ	103.1	78.8	48.0	492.17	デイサイト	奥羽山脈	
1284	174	104	842	VIII	G M81	Ⅲ	112.0	121.5	50.0	249.40	軽石（石英安山岩質）	奥羽山脈	
1285	174	104	1875	XⅢ－2 a	G M79	Ⅲ	181.0	60.2	53.1	802.78	安山岩	奥羽山脈	
1286	174	105	2057	XⅢ－3	G L 78	Ⅲ	172.5	80.8	53.7	957.25	凝灰岩	奥羽山脈	
1287	174	105	1543	XⅢ－2 b	G M78	Ⅲ	218.0	72.2	61.6	1524.65	安山岩	奥羽山脈	
1288	174	104	1236	XⅢ－2 a	G L 82	Ⅲ	203.0	76.5	48.4	1087.81	細粒閃緑岩	奥羽山脈基盤	
1290	174	104	1249	XⅢ－3	G L 82	Ⅲ	144.9	58.6	49.8	556.1	安山岩	奥羽山脈	
1291	175	104	1142	XⅢ－3	G N78	Ⅲ	142.5	60.2	43.6	433.39	デイサイト	奥羽山脈	
1292	175	105	1812	XⅢ－2 b	G I 79	Ⅲ	137.8	73.1	78.3	988.68	砂岩	奥羽山脈	
1293	175	105	1691	XⅢ－1 a	G K 80	Ⅲ	169.5	68.6	43.9	612.04	ホルンフェルス	奥羽山脈基盤	
1294	175	105	1899	XⅢ－2 a	G N79	Ⅲ	129.6	52.2	37.2	376.81	デイサイト	奥羽山脈	
1295	175	105	1781	XⅢ－1 a	G L 78	Ⅲ	149.9	65.1	28.4	458.21	細粒閃緑岩	奥羽山脈	
1296	175	105	1572	XⅢ－1 a	G N80	Ⅲ	175.0	55.3	37.3	539.26	デイサイト	奥羽山脈	
1297	175	105	1153	XⅢ－1 a	G L 80	Ⅲ	205.0	90.2	48.0	1286.33	安山岩	奥羽山脈	
1298	175	105	1887	XⅢ	G M80	Ⅲ	197.5	61.6	66.3	1118.73	デイサイト	奥羽山脈	
1300	175	105	1912	XⅣ	G N80	Ⅲ	96.9	25.7	20.5	70.51	ホルンフェルス	奥羽山脈基盤	
1301	176	106	824	XV－1	G M80	Ⅲ	82.3	166.0	37.5	799.19	頁岩	北上山地/奥羽山脈基盤	
1302	176	105	782	XV－1	G J 79	Ⅲ	105.8	157.5	41.3	709.79	砂岩	奥羽山脈	
1303	176	106	1308	XV－2	G L 80	Ⅲ	219.5	98.0	51.7	1088.48	石英安山岩	奥羽山脈	
1304	177	106	2320	XVI	G M79	Ⅲ	138.2	118.3	72.9	1234.24	角礫岩	奥羽山脈	
1305	177	106	844	XVI	G L 80	Ⅲ	136.0	107.8	55.9	981.7	安山岩	奥羽山脈	
1306	177	106	2157	XVI	G K 82	Ⅲ	200.3	165.0	70.4	3240	デイサイト	奥羽山脈	
1307	177	106	843	XVI	G L 82	Ⅲ	69.3	66.1	34.1	120.09	凝灰岩	奥羽山脈	
1308	177	106	2176	XVII	G J 78	Ⅲ	179.0	164.0	35.1	1761.18	デイサイト	奥羽山脈	
1309	177	106	8160	XVII	G L 79	Ⅲ	205.0	141.0	84.0	2300	軽石	奥羽山脈	
1310	178	107	863	XVIII－2	G L 78	Ⅲ	81.5	103.1	41.2	336.17	デイサイト	奥羽山脈	
1311	178	107	857	XVIII－1	G J 79	Ⅲ	56.8	55.0	36.6	115.2	デイサイト	奥羽山脈	
1312	178	107	862	XVIII－1	G L 79	Ⅲ	40.7	33.4	11.0	18.03	デイサイト	奥羽山脈	
1312	178	107	2284	Ⅲ	G L 81	Ⅳ	165.5	88.6	36.2	701.15	デイサイト	奥羽山脈	

第99表　礫石器観察表（7）

遺物No	図版No	写真No	登録No	分類（新）	出土位置	出土層位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	石　材	産　地	備　考
1313	178	107	865	XVIII－1	GL80	Ⅲ	55.6	45.9	23.2	66.71	デイサイト	奥羽山脈	
1314	178	107	860	XVIII－1	GK79	Ⅲ	(41.6)	38.4	13.5	20.81	デイサイト	奥羽山脈	
1315	178	107	864	XVIII－1	GJ79	Ⅲ	94.3	64.2	42.7	261.44	デイサイト	奥羽山脈	
1316	178	107	1511	I	GO79	Ⅳ	202.0	84.0	70.9	1196.78	安山岩	奥羽山脈	
1317	178	107	1749	I	GO79	Ⅳ	152.0	69.4	26.7	453.33	細粒閃緑岩	奥羽山脈基盤	
1318	178	107	2173	I	GO79	Ⅳ	78.1	52.7	48.6	287.55	花崗閃緑岩	奥羽山脈基盤	
1319	178	107	2280	Ⅱ	GL81	Ⅳ	52.7	0.5	41.7	159.33	花崗斑岩	奥羽山脈	
1320	178	107	2301	Ⅱ	GL81	Ⅳ	109.8	74.9	53.9	645.31	安山岩	奥羽山脈	
1322	179	107	1260	V	GM81	Ⅳ	133.3	58.5	33.9	358.63	流紋岩	奥羽山脈	
1323	179	107	2100	V	GM79	Ⅳ	73.8	66.6	42.0	297.6	安山岩	奥羽山脈	
1324	179	107	1267	V	GO79	Ⅳ	125.0	57.0	43.2	339.64	デイサイト	奥羽山脈	
1325	179	108	2231	VI	GL80	Ⅳ	109.4	91.7	58.7	678.79	デイサイト	奥羽山脈	
1326	179	108	2304	VII	GL81	Ⅳ	92.8	81.7	48.4	529.96	安山岩	奥羽山脈	
1327	179	108	2052	VII	GL80	Ⅳ	(107.8)	91.8	48.2	676.54	花崗岩	奥羽山脈	
1328	180	108	1819	XⅢ－3	GN81	Ⅳ	187.0	73.9	50.8	1006.88	デイサイト	奥羽山脈	
1329	180	108	1885	XⅢ－3	GO78	Ⅳ	153.0	73.9	48.4	785.8	安山岩	奥羽山脈	
1330	180	108	1698	XⅢ－1a	GL80	Ⅳ	178.5	84.7	53.8	973.54	デイサイト	奥羽山脈	
1332	180	108	868	XVIII－1	GN80	Ⅳ	82.9	80.8	40.3	274.42	デイサイト	奥羽山脈	
1333	180	108	1847	I	GM82	V	73.6	61.1	54.7	307.4	安山岩	奥羽山脈	
1334	180	108	1411	I	GM81	V	69.3	75.3	35.0	195.77	デイサイト	奥羽山脈	
1335	180	108	1479	I	GK81	V	124.4	49.3	37.1	331.51	細粒閃緑岩	奥羽山脈基盤	
1336	181	108	1484	I	GK80	V	110.9	73.1	46.3	572.43	安山岩	奥羽山脈	
1337	181	108	1695	V	GK80	V	(146.5)	57.9	26.6	286.04	凝灰岩	奥羽山脈	
1338	181	109	1930	VII	GL79	V	120.9	70.0	33.2	406.2	デイサイト	奥羽山脈	
1339	181	108	2008	VII	GH80	V	100.5	85.4	51.4	649.99	花崗岩	奥羽山脈基盤	
1340	181	109	1945	X	GK81	V	93.8	80.0	40.1	409.35	安山岩	奥羽山脈	
1341	181	109	2230	X	GL80	V	(108.2)	66.1	27.6	257.68	凝灰岩	奥羽山脈	
1342	181	109	1901	XⅢ－3	GM79	V	157.0	68.9	32.8	514.13	凝灰岩	奥羽山脈	
1343	181	109	1668	XⅢ－3	GL80	V	203.5	95.0	34.4	994.91	細粒閃緑岩	奥羽山脈基盤	
1344	182	109	8159	XVII	GO78	V	265.0	211.0	135.0	5000	熔岩（安山岩質）	奥羽山脈	
1345	182	109	2072	XVII	GL79	V	303.0	171.0	92.0	2523.53	熔岩（安山岩質）	奥羽山脈	
1346	182	109	2223	VII	調査区	一括	137.8	75.6	48.8	762.68	安山岩	奥羽山脈	

第100表　石製品観察表

遺物No	図版No	写真No	登録No	器　種	出土位置	出土層位	長　さ	幅	厚　さ	重　さ	石　材	産　地	備　考
228	47	32	855	垂飾石製品	SI05	埋土	41.4	26.2	8.6	14.12	頁岩	奥羽山脈	
296	66	39	854	玦状耳飾	P04	埋土	54.8	(16.5)	4.1	5.53	頁岩	北上山地/奥羽山脈基盤	
1347	183	112	3282	玦状耳飾	GN78	Ⅱ層	(32.9)	(16.1)	(5.8)	5.08	滑石	北上山地	
1348	183	112	847	短冊形有孔石製品	GK80	Ⅱ・Ⅲ層一括	(65.6)	(16.8)	(8.5)	11.89	頁岩	北上山地/奥羽山脈基盤	
1349	183	112	850	板状石製品	GL80	Ⅲ	(26.2)	15.6	5.0	2.94	凝灰岩	奥羽山脈	
1350	183	112	848	板状石製品	GK81	Ⅲ	(39.3)	(24.3)	(6.3)	5.44	凝灰岩	奥羽山脈	
1351	183	111	852	垂飾石製品	GL81	Ⅲ	(46.3)	37.3	(11.9)	11.75	凝灰岩	奥羽山脈	
1352	183	111	849	玦状耳飾	GK81	V	25.6	(17.8)	4.3	1.92	滑石	北上山地	
1353	183	111	851	垂飾石製品	GL81	V	46.9	31.3	9.6	24.5	頁岩	奥羽山脈	
1354	183	111	853	棒状有孔石製品	GM78	V	(42.6)	17.6	4.0	3.52	頁岩	北上山地/奥羽山脈基盤	

第Ⅵ章　自然科学分析

1．北上市滝の沢地区遺跡黒曜石産地同定

（株）第四紀地質研究所

はじめに

黒曜石は地質学においてはガラス質火山岩と呼ばれ、本質は非晶質の自然ガラスであり、一般的な工業用ガラスと物性は異ならない。

古代人にとっての黒曜石やサヌカイト（ガラス質安山岩）は人工的に精練さて制作された鋭利な鉄器や青銅器のない時代の鋭利な刃物を容易に制作できる材質として位置づけられ、尖頭器、ナイフ型石器、石鏃、掻器、剥器、細石刃など異なる多種の使用目的に利用される石材である。

考古学分野における黒曜石研究では、黒曜石の原産地調査、肉眼的な岩相分類、石材としての適性などを対象として原産地黒曜石を研究してきた。この原産地黒曜石の研究と平行して遺跡出土の黒曜石遺物の研究がおこなわれ、原産地の黒曜石との肉眼による岩相的対比により原産地を特定し、遺跡に至る黒曜石のルートの解明や、流通機構などについての研究が行われてきた。黒曜石はガラスであり、均質であり、肉眼的な岩相区分にとっては個々の原石に際立った特徴がないという限界がある。(岩相とは岩石学的な面でとらえた特徴）言い換えれば、原産地の黒曜石の岩相区分による分類では遺跡出土遺物がどの原産地の黒曜石であるのか判別ができないものが出てくることになる。

このような岩相区分の難しさから、肉眼観察の限界に対する危機意識から、物理的に数値化された機器分析による分析への要望が分析分野に対してなされた。

分析分野といっても化学分野の分析と地質学分野の分析は各々その対象とするものに対する考え方が異なることから、元素を中心とする化学分野での分析と酸化物濃度による岩石学的な分類をする地質学分野とでは基本的な考え方に違いがある。この分析対象への考え方の違いは考古学者の間では初期の段階では余りよく理解されていなかった。

本論文では、地質学分野の岩石学的な分析法と分類法で黒曜石とガラス質安山岩を分類し、本手法が安山岩から流紋岩に至るSiO_2量の広い領域でも、流紋岩領域のうち黒曜石が対象となるSiO_2量の狭い領域でも適応できることを示し、各原石の酸化物濃度での標準化を行い、組成領域を確定した。この標準化により、遺跡出土黒曜石遺物の原産地黒曜石の同定が容易となり、考古学分野の研究者に共有できるデータとして寄与できることを示した。

1　分析試料

黒曜石の原産地はフォッサマグナより東側の東北日本に多くあり、フォッサマグナより西側の西南日本では、フォッサマグナから本州西端までの地域では黒曜石の産地はなく、だだ１つ隠岐島の黒曜石が有名である。九州地方では熊本県の阿蘇地方の黒曜石が有名であるが、その他に佐賀県の腰岳、大分県の姫島、鹿児島県北部のシラス台地の中の竜ヶ水、上牛鼻などの原産地が知られている(岡村、2000)。

東北日本の黒曜石を研究対象としたのは黒曜石の原産地が多く分布しており、黒曜石の石器が遺跡から多数出土し、黒曜石の使用頻度が高く、多種にわたる石器を制作しており、原産地同定をおこなうことで、これらの流通経路を解明することは意味があると考えた。フォッサマグナより西側の地域では黒曜石の使用頻

度はフォッサマグナを離れるにしたがって低くなっていき、大阪府の二上山に代表されるサヌカイトと呼ばれるガラス質安山岩の使用頻度が高くなる（藁科他、1977）。黒曜石の持つ重要性は東北日本の方が高く、研究フィールドを東北日本全体とした。

原産地の黒曜石の採取に際しては黒曜石の岩体では、中心部分の最もよい部分を試料とし採取することを心掛けた。大きな岩体では中心部分から岩体の外側に向かって、岩体の大きさにより数mごとに試料を採取し、岩体における元素の偏析があるかも検討した。小さな岩体では、中心部分とその周辺部分を５カ所を目的として採取した。採取にあたってはガスの抜けた跡や、微細なクラックなどの少ない、黒曜石として石器制作に適するような部分を採取した。黒曜石の岩体として確認されないが礫層中の礫として、あるいは海岸に打ち上げられた礫として存在する黒曜石は大きな礫を最低10個を目的として採取した。新島や佐渡島などの細粒の黒曜石で、石器としての使用が難しいものについては採取して分析しても、本論分では対象外とした。

２　分析試料の調整と実験条件

２－１　分析試料の調整

分析試料は黒曜石の岩体では岩体のなかで５個所程度選択し、１個所で５～10試料を採取した。分析結果は岩体の中で選択した各個所について１分析値で代表させた。例えば、西餅屋の岩体では孔道内の４個所を４分析値で表示した。岩体が貧弱である場合には１岩体の中で10個以上を採取し、試料数分の分析結果を表示した。岩体が消滅しているものや、明確な岩体としての露頭が認められないものや河床の中の転石あるいは斜面に露出する堆積した黒曜石は１０個以上採取し、試料数分の分析結果を表示した。

分析にあたっては、露頭より採取した黒曜石を打ちかき、比較的平滑な面を分析面とする未整形試料を作成した。

ガラス質安山岩は表面が風化しており、表面には鉄分が付着して、岩石本来の分析値を反映することが出来ないので、ダイヤモンドカッターで切断し、剥片を作成し、分析した。分析した結果は黒曜石と同様に酸化物濃度で表示した。

２－２　実験条件

分析はエネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置（日本電子製ＪＳＸ－３２００）で行なった。この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法（ＦＰ法）による自動定量計算システムが採用されており、$_{6}$Ｃ～$_{92}$Ｕまでの元素分析ができ、ハイパワーＸ線源(最大30ｋＶ、4ｍＡ）の採用で微量試料～最大290㎜φ×80㎜Ｈまでの大型試料の測定が可能である。小形試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルクＦＰ法でおこなった。ＦＰ法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、Ｘ線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

分析にあたっては、露頭より採取した黒曜石を打ちかき、比較的平滑な面を分析面とする未整形試料をＸ線照射範囲が約15mmφの試料台に直接のせ分析した。実験条件はバルクＦＰ法（スタンダードレス方式)、分析雰囲気＝真空、Ｘ線管ターゲット素材＝Ｒｈ、加速電圧＝30ｋＶ、管電流＝自動制御、分析時間＝200秒（有効分析時間）である。また、分析にあたっては標準サンプルを分析し、キャリブレーションを行い、装置の正常さを保って行った。

この分析装置で分析した標準試料の分析値と標準試料の公開された分析値との間には表－２に示すようにほぼ等しい分析値が認められた。分析対象元素はSi,Ti,Al,Fe,Mn,Mg,Ca,Na,K,P,Rb,Sr,Y,Zrの１４元素、分析値は黒曜石の含水量＝０と仮定し、酸化物の重量％を100％にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量％は小数点以下２桁で表示することになっているが、微量元素のRb,Sr,Y,Zrは重量％では小数点以下３～４桁の微量となり、小数点以下２桁では０と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下４桁を用いて東北日本全体の原産地黒曜石と関東地方のガラス質安山岩の化学分析結果を表－３に表示した。

岩石の化学組成を構成する主要元素と微量元素の中から、岩石の骨格となるSiとAl、有色鉱物の主要元素であるFe,Ca,無色鉱物の主要元素であるNaとKの関連からK、副成分鉱物のイルメナイトからFeとTi、微量元素ではRbとSrの各元素組み合わせにより黒曜石を分類する図を作製した（周藤他、2002)。基本的には主要元素の各元素が重複しない組み合わせとしたが、Fe,Mn,Tiは鉄質関連として相関性の高い元素であり、TiはFeとMnの２元素との対比となっている。主要元素と微量元素の酸化物濃度（重量％）でSiO_2-Al_2O_3,Fe_2O_3-TiO_2,K_2O-CaO,TiO_2-MnO,　Rb_2O-SrOの５組の組み合わせで図を作成した。

３　東北日本全体の黒曜石

３－１　SiO_2-Al_2O_3対比

図－１に示すように黒曜石全体はSiO_2は73.50～79.00％の領域にあり、SiO_2が低い領域から高い領域に向かって丸瀬布系、月山系、赤石山系・信州系・伊豆箱根系と３領域に地域ごとに分布する。赤井川と板山系は赤石山系に近い領域に分布するがSiO_2とAl_2O_3がともに小さく、領域を異にする。深浦はAl_2O_3が12％以下で、他の黒曜石とは異なる領域にある。湯ノ倉は丸瀬布系に近いがAl_2O_3が1％ほど小さく、異なる領域に分布する。

３－２　Fe_2O_3-TiO_2対比

図－２に示すようにFe_2O_3が低い領域から高い領域に向かって原産地ごとに分布する。Fe_2O_3が1.50％以下で、TiO_2が0.00～2.50％の領域ではTiO_2が低い領域から高い領域に向かって和田峠系－１、板山系、月山系和田峠系－２、神津島、蓼科系が連続して領域ごとに分布している。またこの領域で系列の異なる北海道の黒曜石はFe_2O_3が１.00％より高い領域で赤石山、十三の沢、赤井川、所山、置戸山と連続して領域ごとに分布している。新潟県の上三光と上石川は北海道系列上に分布し、異質である。Fe_2O_3が1.50％より高い領域には伊豆箱根系とマルセップ系、湯ノ倉、深浦、小赤沢の黒曜石が各々の領域に集中して分布する。

３－３　K_2O-CaO対比

黒曜石は図－３に示すようにCaOが１.00％以上の領域にあって、K_2Oが1.00～4.00％の領域にはK_2Oが低い領域から高い領域に向かって、伊豆箱根系の畑宿、鍛冶屋、上多賀、柏峠、栃木県の高原山、丸瀬布系が各々異なる領域に分布する。宮城県の湯ノ倉はこれらの中ではCaOがいくぶん高い。CaOが0.50～1.50％、K_2Oが3.00～4.00％の領域にはCaOが低い領域に出来島・神津島、高い領域に置戸山・小赤沢が共存して同じ領域に分布する。K_2Oが3.50～6.00％の領域にはCaOが低い領域から高い領域に向かって、深浦、赤石山・和田峠系－１・星ヶ塔、月山系が各々異なる領域に分布し、CaOが高い領域には板山系、赤井川、置戸山、所山、丸瀬布系が狭い領域で各々異なる領域に分布する。

3－4　TiO_2-MnO対比

図－4に示すように、TiO_2が0.00～0.20%、MnOが0.00～0.80%の領域にはTiO_2が低い領域から高い領域に向かって、赤石山Ⅰ・、赤石山Ⅱ・十三の沢、赤井川、丸瀬布系・置戸山・所山が分布する。TiO_2が0.15%以上の領域には、蓼科系、湯ノ倉、丸瀬布系の丸瀬布、鍛冶屋、柏峠、畑宿が各々異なる領域に分布する。

MnOが0.50%以上の領域で、MnOが低い領域から高い領域に向かって、和田峠系－2・神津島、板山系、和田峠系－1、月山系、出来島、男鹿系が各々異なる領域に分布する。

3－5　Rb_2O-SrO対比

図－5に示すように、Rb_2Oが0.000～0.008%、SrOが0.010～0.025%の領域には伊豆箱根系と湯ノ倉、Rb_2Oが0.003～0.009%、SrOが0.006～0.012%の領域には神津島、Rb_2Oが0.007～0.018%、SrOが0.007～0.020%の領域には蓼科系・高原山・丸瀬布系・出来島が混在する。、Rb_2Oが0.012～0.023%、SrOが0.002～0.100%の領域には赤井川・所山・十三の沢が混在する。Rb_2Oが0.130～0.022%、SrOが0.000～0.005%の領域には赤石山系、Rb_2Oが0.013～0.027%、SrOが0.002～0.08%の領域には和田峠系－2・板山系、Rb_2Oが0.028～0.036%、SrOが0.000～0.0052%の領域には和田峠系－1が集中し、領域によって原産地の地域がおおむね分類できる。Rb_2Oが0.015～0.027%、SrOが0.008～0.018%の領域には男鹿系と上石川が混在する。

4　滝の沢遺跡他出土黒曜石遺物の化学の分析結果

滝の沢遺跡他出土黒曜石遺物は第1表化学分析表に示す通りである。第2表原産地対比表には遺物と原産地を対比し、同定した結果が示してある。

分析した遺物20個のうち17個が小赤沢であり、滝の沢－1と2の石鏃と滝の沢－13の剥片は宮城県湯ノ倉産の黒曜石である。

引用文献

阿倍朝衛（1997）新潟県北部地域における縄文時代の石材使用とその背景、帝京史学、第12号、4-5

一色直記（1972）神津島地域の地質（地域地質研究報告）地質調査所、1-75。

生出慶司・中川久夫・蟹沢聡史（1998）共立出版株式会社、日本の地質、東北地方、160-170

池島柳一・青木謙一郎（1962）高原火山の岩石学的研究、岩鉱、48、97-107

井上　巌（1986）中砂遺跡出土石器石質分析、中砂遺跡、（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第60集、199-201

井上　巌（2000）東北・北陸北部における原産地黒曜石の蛍光X線分析（ＸＲＦ）北越考古学、第11号、23-38

井上　巌（2001）テフラ中の火山ガラスの同定に関する一提言、軽石学雑誌、第7号　23-51

上野修一・二宮修二・網干　守・大沢真澄（1986）石器時代の本県域における黒曜石の利用について、栃木県立博物館紀要、第3号、91-115

大村　平（1992）多変量解析のはなし、日科技連、162-186

岡村道雄（2000）講談社、縄文の生活史、95

勝井義雄・佐藤博明（2000）平凡社地学辞典、地学団体研究会、p493

河内晋平（1974）蓼科山地域の地質（地域地質研究報告）地質調査所、1-99。

河内晋平（1998）八ケ岳およびその周辺の火山岩と軽井沢町八風山溶岩のＫ－Ａｒ年代、信州大学紀要、9　3、149-160。

久野　久（1952）７万５千分１地質図幅「熱海」および同説明書、1-141。
倉沢　一（1959）伊豆・天城火山の岩石学的および化学的性質、地球科学、４４、1-18。
輿水達司（2001）船橋市飛ノ台貝塚出土黒曜石の原産地、船橋市教育委員会、飛ノ台貝塚第１次・２次発掘調査報告書(科学分析編)、5-9
佐々木繁喜（1997）東北地方の黒曜石、岩手考古学、第９号、60-65
札幌市教育委員会（2000）Ｋ４３５遺跡第２次調査、札幌市教育委員会、4-28
周藤賢治・小山内康人（2002）共立出版、記載岩石学上、5-20
鈴木隆英（1983）岩手県岩手郡雫石町小赤沢産の黒曜石について、岩手県立埋蔵文化財センター　紀要Ⅲ・　45-78
Suzuki,M.(1973)Chronology of Prehistoric Human Activity in Kanto, Japan　Journal of the Facultyof Science, the University of Tokyo Sec. ・V　Vol.Ⅳ, Part 3, pp. 241-318,
諏訪間　伸、野内秀明（1991）伊豆・箱根系黒曜石原産地について、第４回長野県旧石器文化研究交流会発表要旨、39-50。
諏訪間　伸（1996）石材環境(黒曜石）石器文化研究、５、285-291
白滝団体研究会（1963）白滝遺跡の研究、白滝団体研究会、9-10
神保小虎（1886）黒曜石比較研究諸言、人類学会報告、第二号、24
高橋　豊、西田史郎（1986）伊豆半島の縄文遺跡出土黒曜石の原石産地、考古学と自然科学、１９、29-41。
手島秀一、河内晋平（1994）和田峠東方・鷹山火山岩　類の地質と岩石、信州大学志賀自然教育研究施設研究業績、３１、1-8。
堤　隆（1998）氷期の終末と細石刃文化の出現、科学、岩波書店、VOL68 NO.4　329-336
堤　隆（2002）旧石器時代をフィールドから見つめなおす、科学、岩波書店、VOL72 NO.6　600-606
東村武信、藁科哲男（1982）黒曜石製石器の産地推定ー蛍光Ｘ線による石器産地の推定、古文化財に関する保存科学と人文・自然科学、昭和５６年度特定研究、141-163
土橋由理子（1998）新潟県における縄文時代の黒曜石利用について、(財）新潟県埋蔵文化財調査事業団、研究紀要　第２号、43-55
新潟県（1977）新潟県地質図説明書、79-108
船橋市教育委員会（1978）飛ノ台貝塚、千葉県船橋市飛ノ台貝塚発掘調査概報　1-5
船橋市教育委員会（1999）飛ノ台貝塚　平成１０年度第４次発掘調査報告書、船橋市教育委員会　1-5
前野昌弘・三國彰（2000）統計解析、日本実業出版社
望月明彦、池谷信之、小林克次、武藤由里（1994）遺跡内における黒曜石製石器の原産地別分布について－　沼津市土手上遺跡ＢＢ・層の原産地推定から－静岡県考古学研究、２６、1-24。
山本　薫、柴田　徹、高松武次郎（1997）ガラス質黒色安山岩製石器の石材産地推定方法に関する研究ー蛍光Ｘ線分析法とプレパラート法による石材産地推定結果の比較と評価--縄文時代文化研究会、縄文時代、第８号、１～３０。
和田村教育委員会（1993）長野県黒曜石原産地遺跡分布調査報告書Ⅲ
渡辺　仁（1948）北海道の黒曜石、人類学雑誌、第６０巻、第１号
藁科哲男・東村武信・鈴木義昌（1973）螢光Ｘ線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定、考古学と自然科学、６、33-42。
藁科哲男、東村武信（1977）螢光Ｘ線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定(Ⅲ)、考古学と自然科学、第１０号、53-81

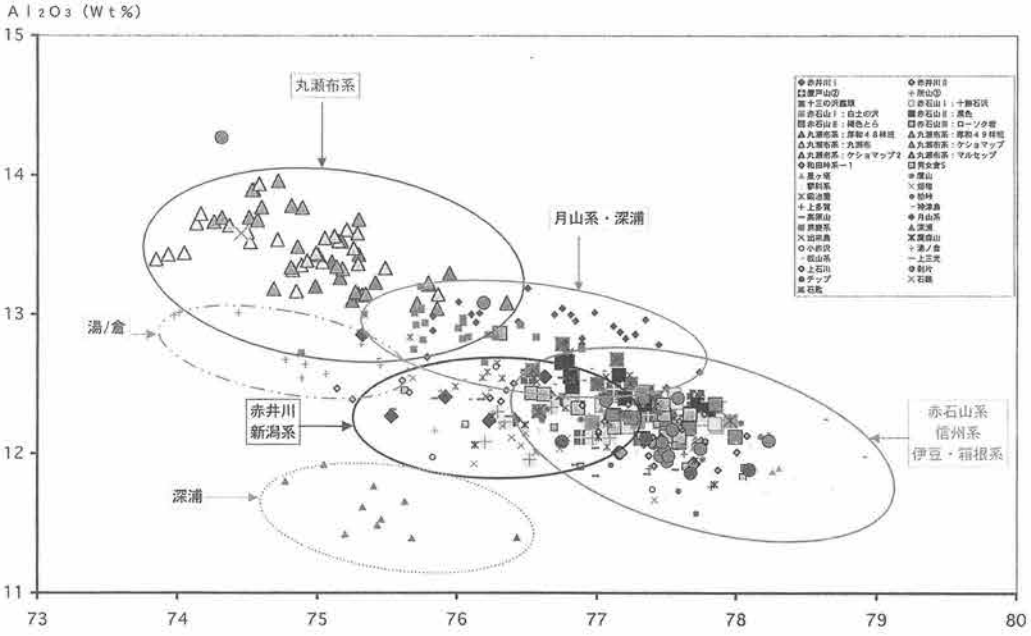
第１表化学分析表

試料名	Na_2O	MgO	Al_2O_3	SiO_2	P_2O_5	K_2O	CaO	TiO_2	MnO	Fe_2O_3	Rb_2O	SrO	Y_2O_3	ZrO_2	Total	Rb(I)	Sr(I)	原産地	遺物
滝の沢－１	4.7119	0.1655	13.7508	72.3825	0.0000	2.1121	2.4110	0.3208	0.1579	3.9112	0.0090	0.0296	0.0089	0.0289	100.0001	533	1709	湯/倉	石鏃
滝の沢－２	4.1931	0.1234	13.5833	74.4549	0.0000	1.7982	2.5345	0.3202	0.0898	2.8399	0.0040	0.0184	0.0094	0.0309	100.0000	261	1169	湯/倉	石鏃
滝の沢－３	3.9309	0.0247	12.2404	77.9589	0.0000	2.8094	1.1657	0.1927	0.0530	1.5778	0.0103	0.0108	0.0056	0.0200	100.0002	733	752	小赤沢	石匙
滝の沢－４	4.0844	0.1391	12.4047	77.5805	0.0000	2.8397	1.1546	0.1651	0.0674	1.5132	0.0082	0.0111	0.0064	0.0257	100.0001	626	821	小赤沢	剥片
滝の沢－５	4.3194	0.0000	11.9508	77.5012	0.0000	2.9765	1.2655	0.2118	0.0762	1.6601	0.0079	0.0101	0.0037	0.0169	100.0001	635	802	小赤沢	剥片
滝の沢－６	4.3373	0.0398	13.0846	76.1892	0.0000	3.0043	1.2922	0.2129	0.0773	1.7109	0.0106	0.0144	0.0027	0.0238	100.0000	784	1044	小赤沢	剥片
滝の沢－７	4.8411	0.0000	12.0888	76.7459	0.0000	3.0073	1.3155	0.2053	0.0727	1.6734	0.0107	0.0110	0.0050	0.0231	99.9998	831	832	小赤沢	チップ
滝の沢－８	4.4672	0.0000	12.3845	77.0613	0.0000	2.9995	1.2296	0.1781	0.0735	1.5592	0.0068	0.0121	0.0070	0.0212	100.0000	515	900	小赤沢	剥片
滝の沢－９	4.2915	0.0000	11.9896	77.4501	0.0000	2.9780	1.3012	0.2062	0.0748	1.6642	0.0082	0.0117	0.0022	0.0224	100.0001	660	924	小赤沢	剥片
滝の沢－１０	4.3154	0.0520	12.0288	77.4838	0.0000	2.9458	1.2416	0.2066	0.0681	1.6127	0.0101	0.0088	0.0078	0.0186	100.0001	808	688	小赤沢	剥片
滝の沢－１１	4.3910	0.0000	12.1127	77.3498	0.0000	2.9409	1.2742	0.1983	0.0707	1.6167	0.0092	0.0079	0.0074	0.0211	99.9999	716	607	小赤沢	チップ
滝の沢－１２	3.8635	0.0000	12.0962	78.2315	0.0000	2.8921	1.1507	0.1614	0.0648	1.4953	0.0079	0.0100	0.0070	0.0195	99.9999	623	770	小赤沢	剥片
滝の沢－１３	3.8508	0.0000	14.2726	74.3131	0.0000	1.8053	2.4644	0.2393	0.0947	2.8861	0.0073	0.0265	0.0091	0.0307	99.9999	492	1749	湯/倉	剥片
滝の沢－１４	4.1998	0.0000	12.0395	77.7435	0.0000	2.9065	1.2547	0.1841	0.0689	1.5675	0.0076	0.0097	0.0020	0.0161	99.9999	577	717	小赤沢	剥片
滝の沢－１５	4.3806	0.0000	11.8664	77.6720	0.0000	3.0282	1.1448	0.1846	0.0693	1.6051	0.0086	0.0104	0.0079	0.0220	99.9999	645	760	小赤沢	チップ
滝の沢－１６	4.2240	0.0000	12.1761	77.5404	0.0000	2.9874	1.1803	0.1869	0.0724	1.5849	0.0075	0.0113	0.0061	0.0227	100.0000	557	823	小赤沢	剥片
滝の沢－１７	4.4862	0.0000	11.9857	77.5127	0.0000	3.1003	1.1098	0.1468	0.0811	1.5255	0.0086	0.0101	0.0087	0.0245	100.0000	717	830	小赤沢	剥片
滝の沢－１８	4.2053	0.0000	11.8886	78.0939	0.0000	3.0083	1.0939	0.1595	0.0666	1.4477	0.0086	0.0143	0.0025	0.0108	100.0000	737	1195	小赤沢	チップ
滝の沢－１９	4.1380	0.0141	12.3998	77.3344	0.0000	2.8580	1.2969	0.1885	0.0757	1.6396	0.0146	0.0106	0.0066	0.0234	100.0002	1128	798	小赤沢	剥片
滝の沢－２０	4.5519	0.0132	12.0840	77.4639	0.0000	2.8951	1.1669	0.1715	0.0649	1.5436	0.0094	0.0110	0.0038	0.0207	99.9999	756	867	小赤沢	剥片

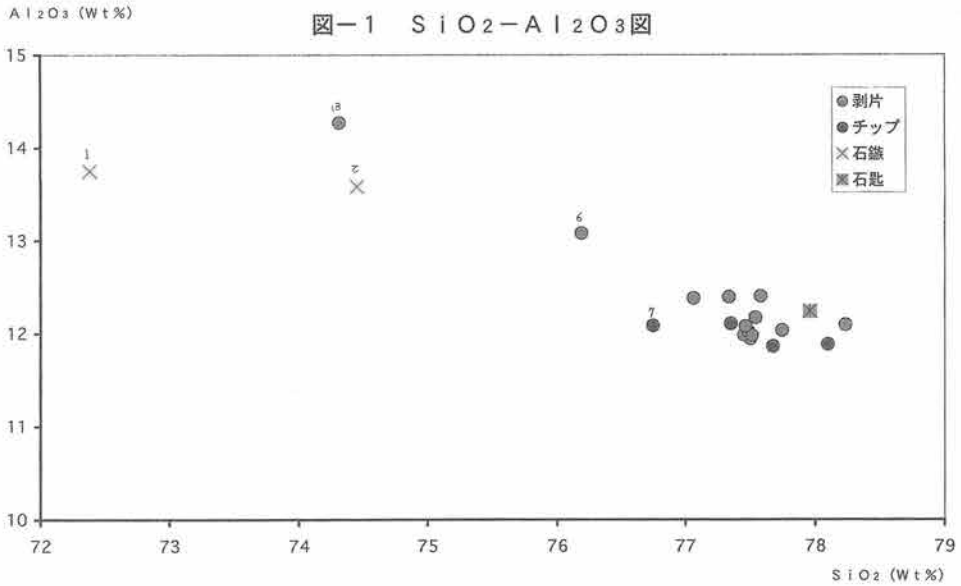
第２表原産地対比表

試料名	原産地	遺物
滝の沢－１	湯/倉	石鏃
滝の沢－２	湯/倉	石鏃
滝の沢－３	小赤沢	石匙
滝の沢－４	小赤沢	剥片
滝の沢－５	小赤沢	剥片
滝の沢－６	小赤沢	剥片
滝の沢－７	小赤沢	チップ
滝の沢－８	小赤沢	剥片
滝の沢－９	小赤沢	剥片
滝の沢－１０	小赤沢	剥片

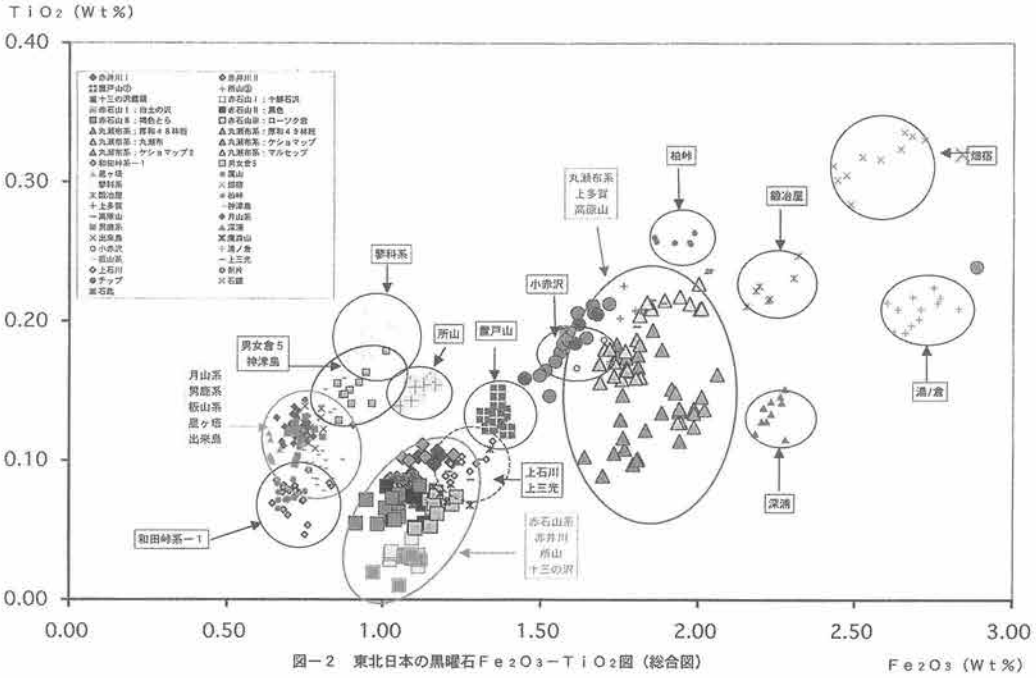
試料名	原産地	遺物
滝の沢－１１	小赤沢	チップ
滝の沢－１２	小赤沢	剥片
滝の沢－１３	湯/倉	剥片
滝の沢－１４	小赤沢	剥片
滝の沢－１５	小赤沢	チップ
滝の沢－１６	小赤沢	剥片
滝の沢－１７	小赤沢	剥片
滝の沢－１８	小赤沢	チップ
滝の沢－１９	小赤沢	剥片
滝の沢－２０	小赤沢	剥片



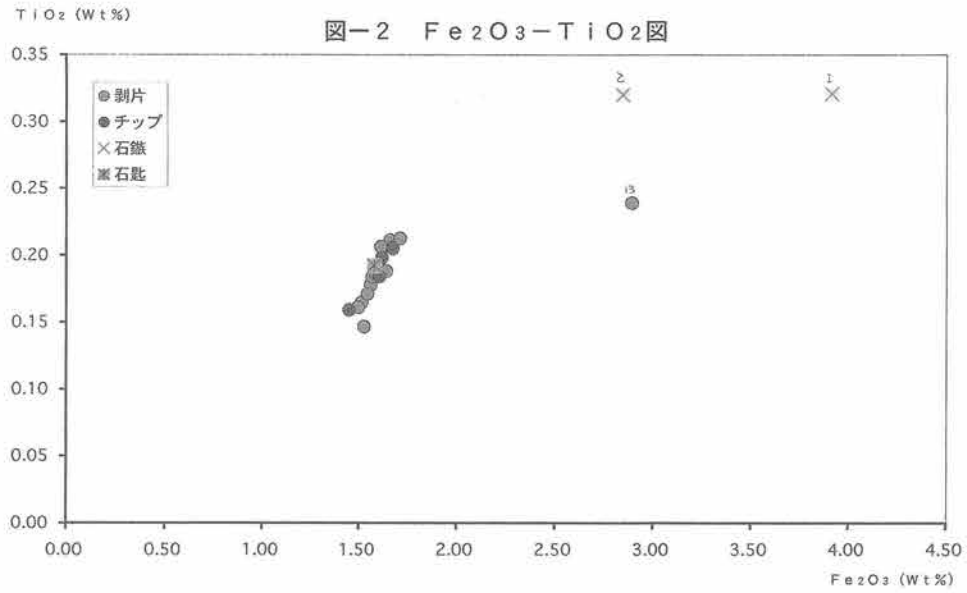
図－1　東北日本の黒曜石 $SiO_2-Al_2O_3$(総合図)



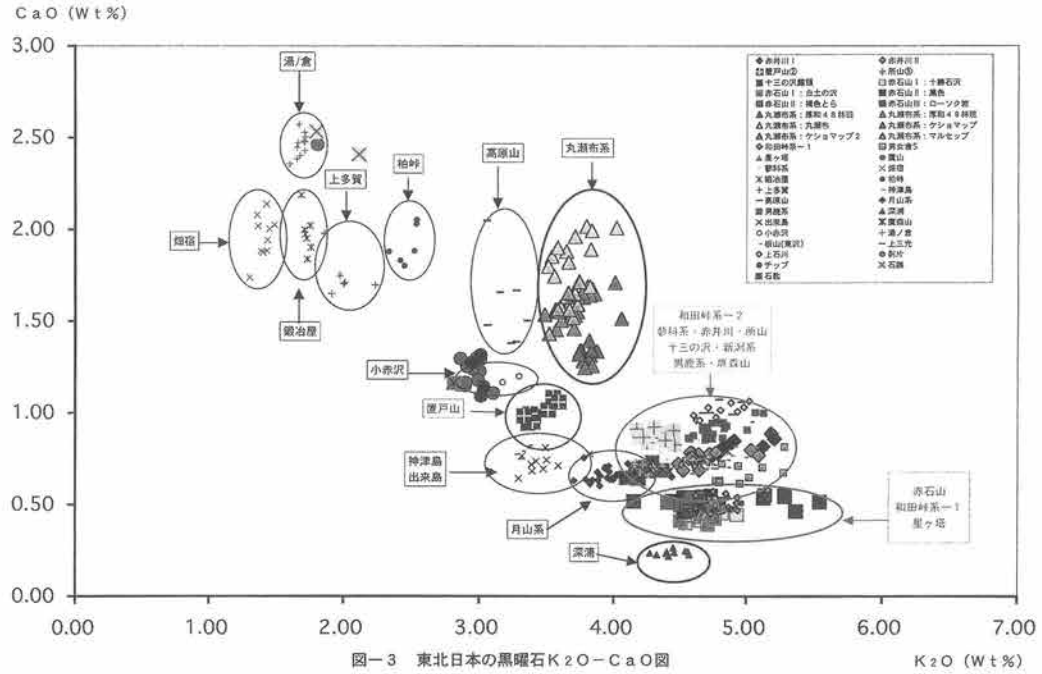
図－1　$SiO_2-Al_2O_3$図



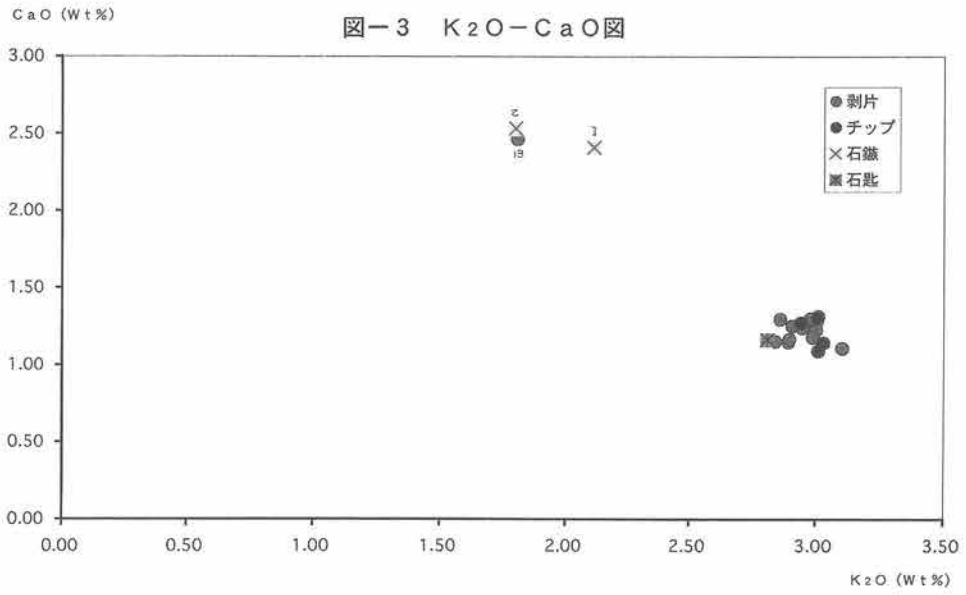
図－2　東北日本の黒曜石Fe2O3－TiO2図（総合図）

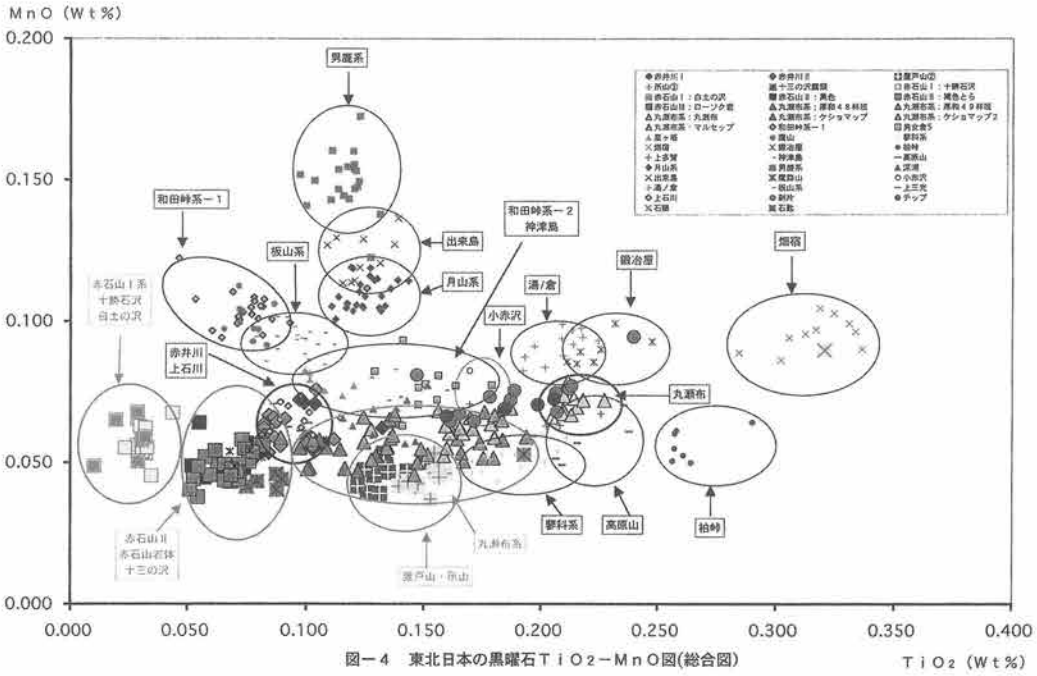


図－2　Fe2O3－TiO2図

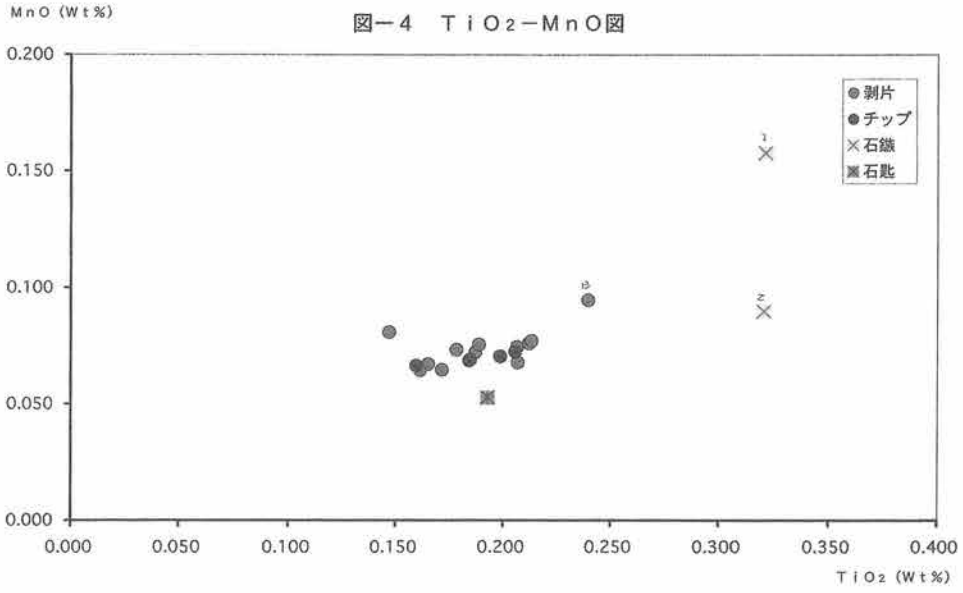


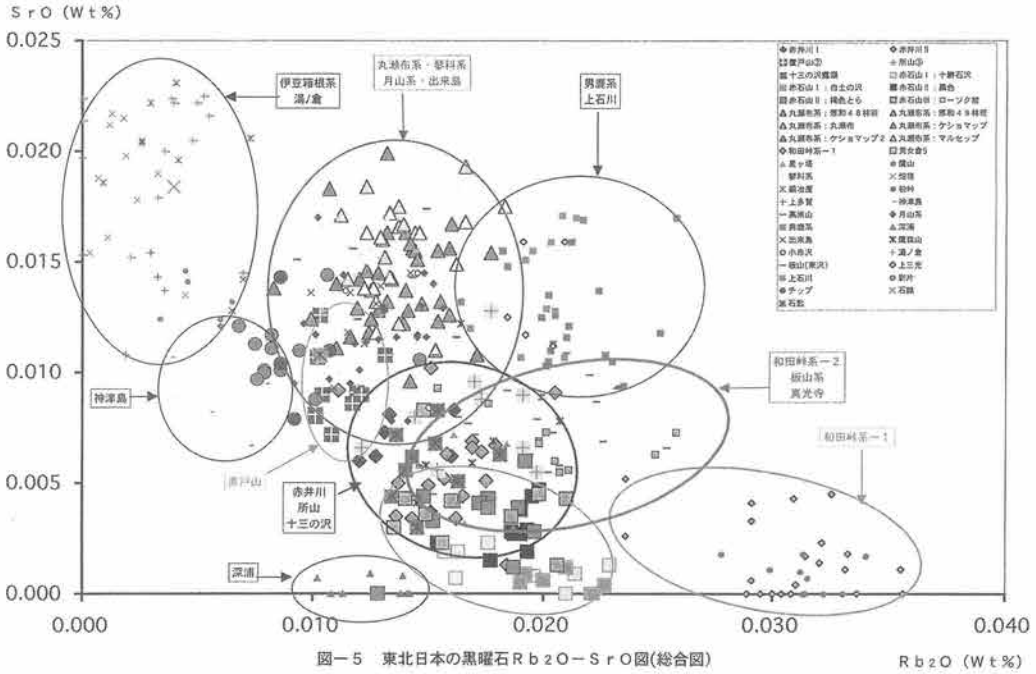
図－3　東北日本の黒曜石K2O－CaO図





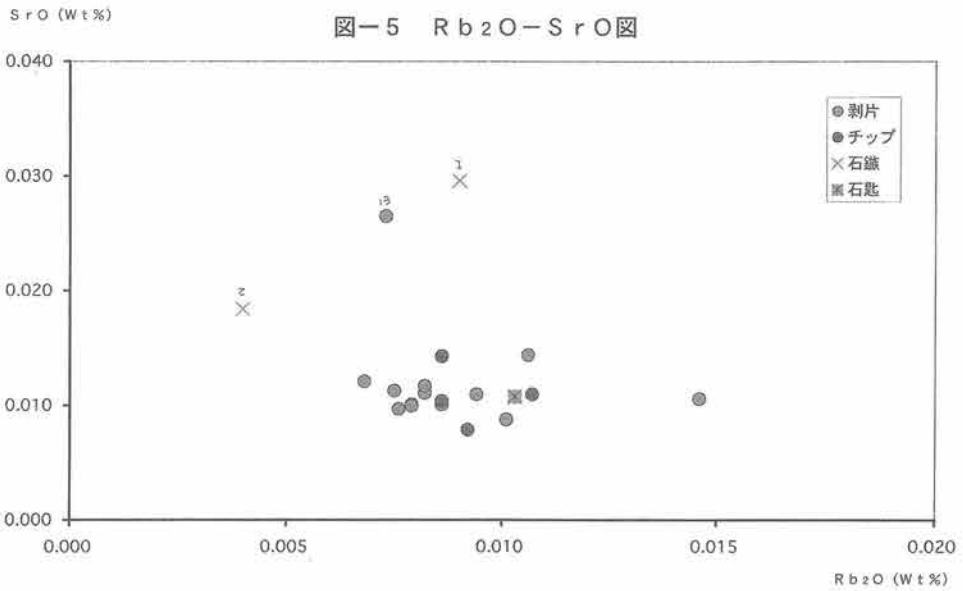
図－4　東北日本の黒曜石ＴｉＯ2－ＭｎＯ図(総合図)

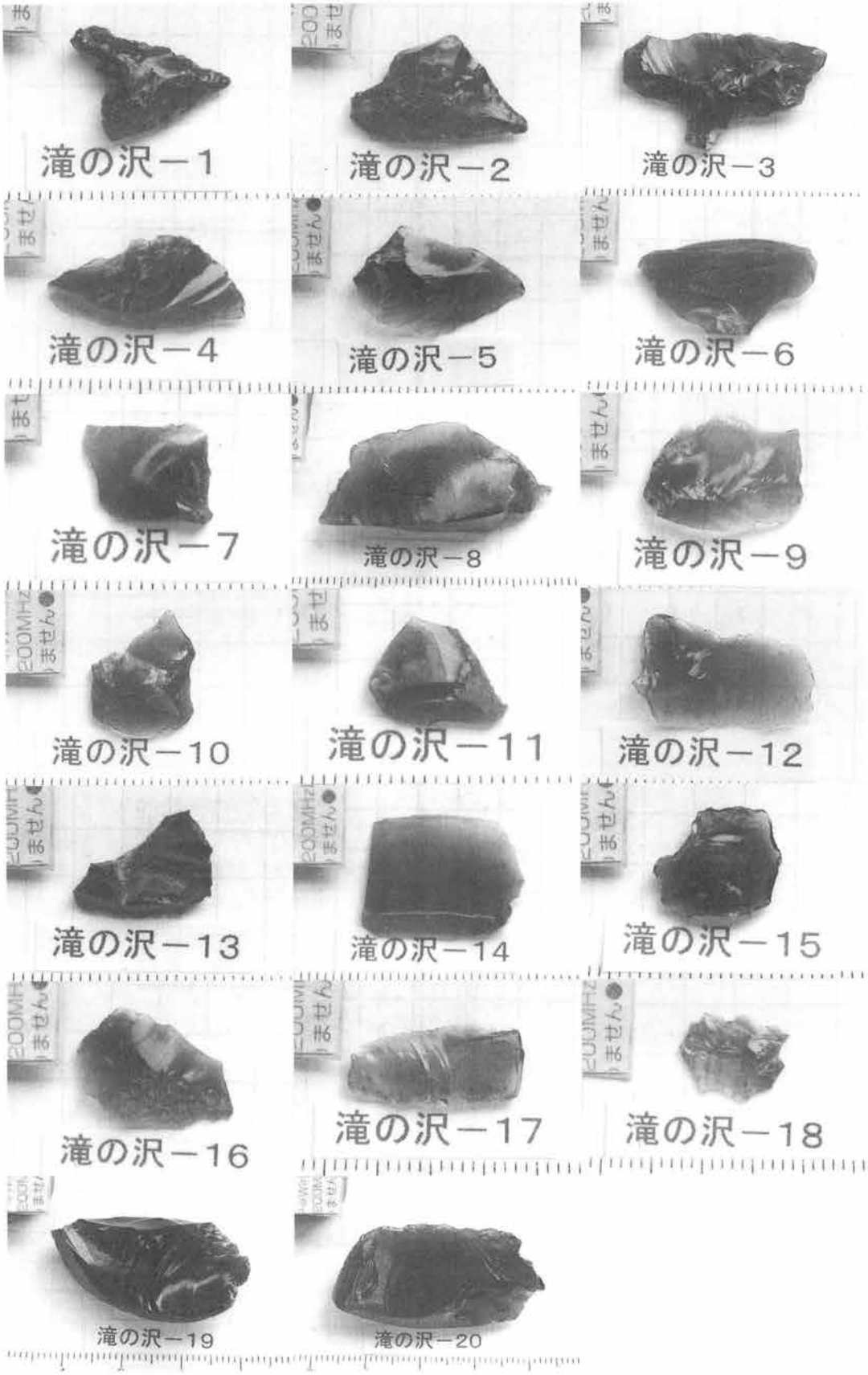




図－5　東北日本の黒曜石Ｒｂ２Ｏ－ＳｒＯ図(総合図)

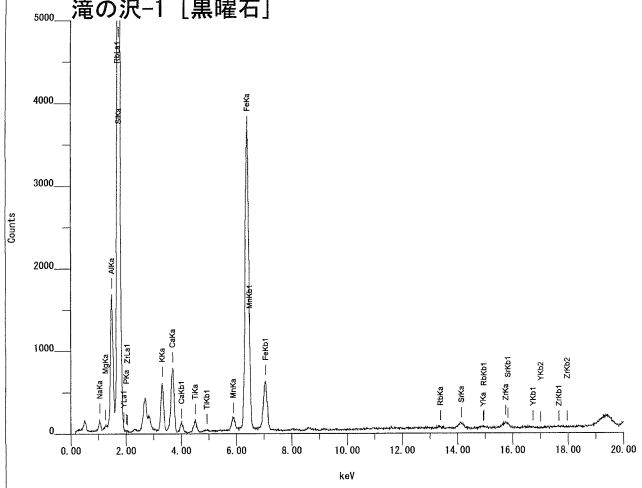
図－5　Ｒｂ２Ｏ－ＳｒＯ図




滝の沢－1
滝の沢－2
滝の沢－3
滝の沢－4
滝の沢－5
滝の沢－6
滝の沢－7
滝の沢－8
滝の沢－9
滝の沢－10
滝の沢－11
滝の沢－12
滝の沢－13
滝の沢－14
滝の沢－15
滝の沢－16
滝の沢－17
滝の沢－18
滝の沢－19
滝の沢－20

岩手県・滝の沢地区遺跡

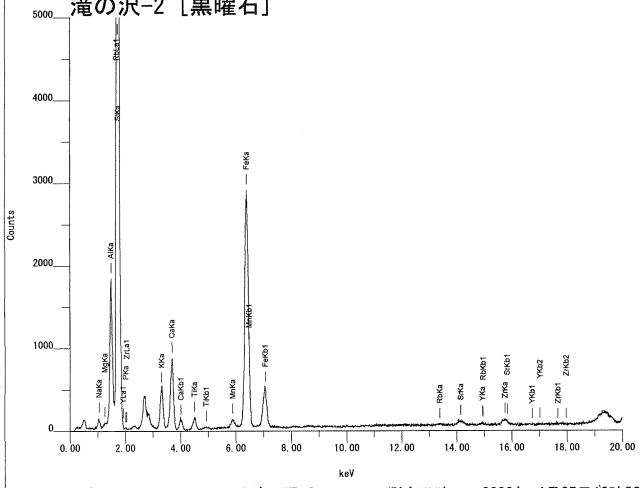
滝の沢-1 [黒曜石]



ファイル名： C:¥Jsx3200¥data¥滝の沢-1.spc　　測定日時： 2003年 4月25日10時31分27秒
試料名　　： 黒曜石
メモ　　： 石鏃
測定条件　： 電圧: 30.0kV　電流: 0.500mA　ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ: 200.00sec　パス：Vac
定量条件
　定量法： 標準
分析元素： Na,Mg,Al,Si,P,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Rb,Sr,Y,Zr

Num	元素/ 化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
* 1	11 Na2O	4.7119	5.0133	0.0505130	1031	0.3659
* 2	12 MgO	0.1655	0.2707	0.0006409	83	0.1782
* 3	13 Al2O3	13.7508	8.8934	0.0285312	15786	0.0807
* 4	14 SiO2	72.3825	79.4421	0.2169975	125928	0.0931
* 5	15 P2O5	nd				
* 6	19 K2O	2.1121	1.4785	0.0150877	7554	0.0325
* 7	20 CaO	2.4110	2.8351	0.0154380	11044	0.0280
* 8	22 TiO2	0.3208	0.2648	0.0015637	1992	0.0225
* 9	25 MnO	0.1579	0.1468	0.0013976	2495	0.0103
* 10	26 Fe2O3	3.9112	1.6151	0.0331983	65569	0.0102
* 11	37 Rb2O	0.0090	0.0032	0.0003259	533	0.0056
* 12	38 SrO	0.0296	0.0188	0.0010051	1709	0.0062
* 13	39 Y2O3	0.0089	0.0026	0.0002944	480	0.0072
* 14	40 ZrO2	0.0289	0.0155	0.0010220	1444	0.0083

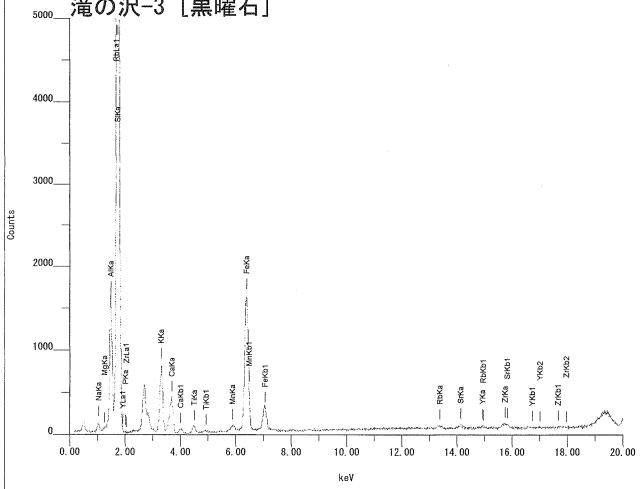
滝の沢-2 [黒曜石]



ファイル名： C:¥Jsx3200¥data¥滝の沢-2.spc　　測定日時： 2003年 4月25日10時36分15秒
試料名　　： 黒曜石
メモ　　： 石鏃
測定条件　： 電圧: 30.0kV　電流: 0.420mA　ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ: 200.00sec　パス：Vac
定量条件
　定量法： 標準
分析元素： Na,Mg,Al,Si,P,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Rb,Sr,Y,Zr

Num	元素/ 化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	11 Na2O	4.1931	4.4191	0.0564077	967	0.3519
2	12 MgO	0.1234	0.1999	0.0006033	66	0.1703
3	13 Al2O3	13.5833	8.7019	0.0355479	16521	0.0772
4	14 SiO2	74.4549	80.9420	0.2804402	136706	0.0894
5	15 P2O5	nd				
6	19 K2O	1.7982	1.2469	0.0158616	6671	0.0318
7	20 CaO	2.5345	2.9521	0.0201634	12117	0.0272
8	22 TiO2	0.3202	0.2618	0.0019342	2070	0.0219
9	25 MnO	0.0898	0.0827	0.0009956	1493	0.0099
10	26 Fe2O3	2.8399	1.1616	0.0303269	50314	0.0097
11	37 Rb2O	0.0040	0.0014	0.0001901	261	0.0052
12	38 SrO	0.0184	0.0116	0.0008184	1169	0.0057
13	39 Y2O3	0.0094	0.0027	0.0004115	563	0.0066
14	40 ZrO2	0.0309	0.0164	0.0014360	1704	0.0076

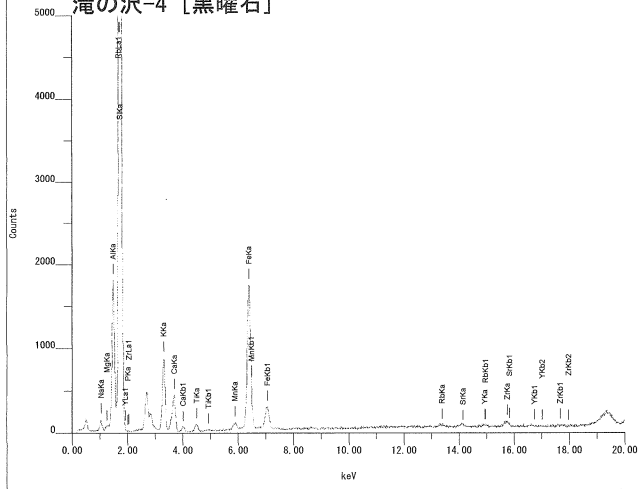
滝の沢-3 [黒曜石]



ファイル名： C:¥Jsx3200¥data¥滝の沢-3.spc　　測定日時： 2003年 4月25日10時41分 3秒
試料名　　： 黒曜石
メモ　　： 石匙
測定条件　： 電圧: 30.0kV　電流: 0.540mA　ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ: 200.00sec　パス：Vac
定量条件
　定量法： 標準
分析元素： Na, Mg, Al, Si, P, K, Ca, Ti, Mn, Fe, Rb, Sr, Y, Zr

Num	元素/ 化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	11 Na2O	3.9309	4.1035	0.0425457	938	0.4343
2	12 MgO	0.0247	0.0396	0.0000973	14	0.2097
3	13 Al2O3	12.2404	7.7673	0.0258243	15431	0.0951
4	14 SiO2	77.9589	83.9491	0.2382498	149323	0.1094
5	15 P2O5	nd				
6	19 K2O	2.8094	1.9295	0.0193805	10479	0.0404
7	20 CaO	1.1657	1.3449	0.0071436	5519	0.0351
8	22 TiO2	0.1927	0.1561	0.0009233	1270	0.0274
9	25 MnO	0.0530	0.0484	0.0004732	912	0.0122
10	26 Fe2O3	1.5778	0.6392	0.0136383	29091	0.0120
11	37 Rb2O	0.0103	0.0036	0.0004154	733	0.0060
12	38 SrO	0.0108	0.0067	0.0004095	752	0.0066
13	39 Y2O3	0.0056	0.0016	0.0002069	364	0.0077
14	40 ZrO2	0.0200	0.0105	0.0007917	1208	0.0089

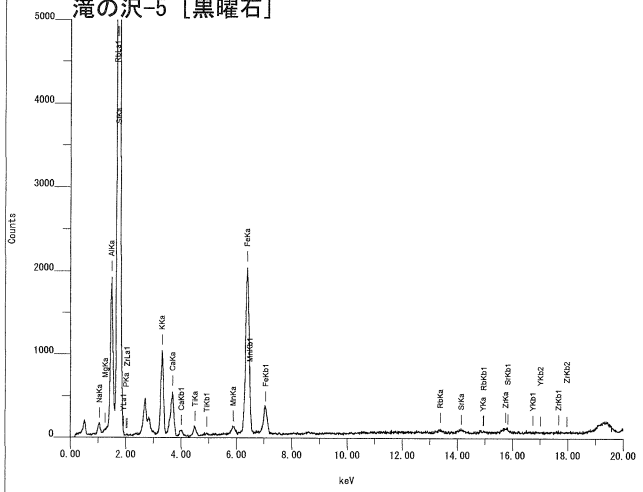
滝の沢-4 [黒曜石]



ファイル名： C:¥Jsx3200¥data¥滝の沢-4.spc　　測定日時： 2003年 4月25日10時45分52秒
試料名　　： 黒曜石
メモ　　： 剥片
測定条件　： 電圧: 30.0kV　電流: 0.760mA　ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ: 200.00sec　パス：Vac
定量条件
　定量法： 標準
分析元素： Na, Mg, Al, Si, P, K, Ca, Ti, Mn, Fe, Rb, Sr, Y, Zr

Num	元素/ 化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	11 Na2O	4.0844	4.2631	0.0333155	1034	0.3524
2	12 MgO	0.1391	0.2232	0.0004121	81	0.1706
3	13 Al2O3	12.4047	7.8703	0.0196440	16520	0.0774
4	14 SiO2	77.5805	83.5283	0.1778147	156848	0.0892
5	15 P2O5	nd				
6	19 K2O	2.8397	1.9501	0.0147440	11220	0.0328
7	20 CaO	1.1546	1.3319	0.0053223	5787	0.0285
8	22 TiO2	0.1651	0.1337	0.0005950	1152	0.0222
9	25 MnO	0.0674	0.0615	0.0004532	1230	0.0099
10	26 Fe2O3	1.5132	0.6130	0.0098556	29587	0.0097
11	37 Rb2O	0.0082	0.0029	0.0002519	626	0.0049
12	38 SrO	0.0111	0.0069	0.0003174	821	0.0054
13	39 Y2O3	0.0064	0.0018	0.0001791	443	0.0062
14	40 ZrO2	0.0257	0.0135	0.0007698	1653	0.0072

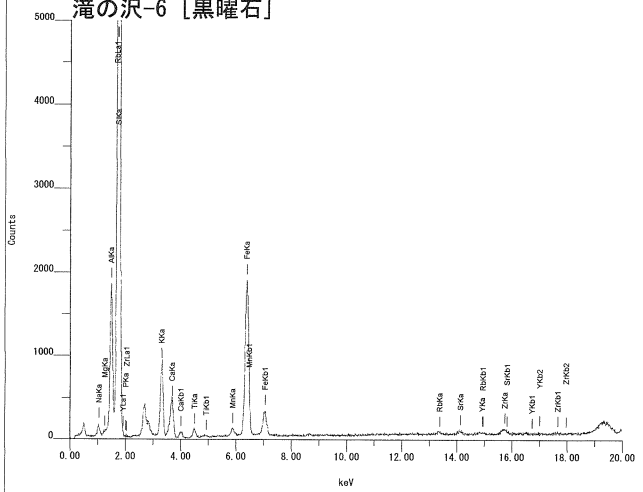
滝の沢-5 [黒曜石]



ファイル名： C:¥Jsx3200¥data¥滝の沢-5.spc　　測定日時： 2003年 4月25日10時50分51秒
試料名　　： 黒曜石
メモ　　： 剥片
測定条件　： 電圧: 30.0kV　電流: 0.560mA　ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ: 200.00sec　パス：Vac
定量条件
　定量法： 標準
分析元素： Na,Mg,Al,Si,P,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Rb,Sr,Y,Zr

Num	元素/ 化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	11 Na2O	4.3194	4.5097	0.0515287	1178	0.3481
2	12 MgO	nd				
3	13 Al2O3	11.9508	7.5846	0.0276732	17148	0.0760
4	14 SiO2	77.5012	83.4681	0.2611746	169753	0.0879
5	15 P2O5	nd				
6	19 K2O	2.9765	2.0446	0.0226850	12720	0.0324
7	20 CaO	1.2655	1.4603	0.0085339	6838	0.0283
8	22 TiO2	0.2118	0.1716	0.0011140	1589	0.0221
9	25 MnO	0.0762	0.0695	0.0007456	1491	0.0099
10	26 Fe2O3	1.6601	0.6727	0.0157229	34780	0.0097
11	37 Rb2O	0.0079	0.0027	0.0003471	635	0.0049
12	38 SrO	0.0101	0.0063	0.0004208	802	0.0054
13	39 Y2O3	0.0037	0.0010	0.0001485	271	0.0062
14	40 ZrO2	0.0169	0.0089	0.0007304	1156	0.0072

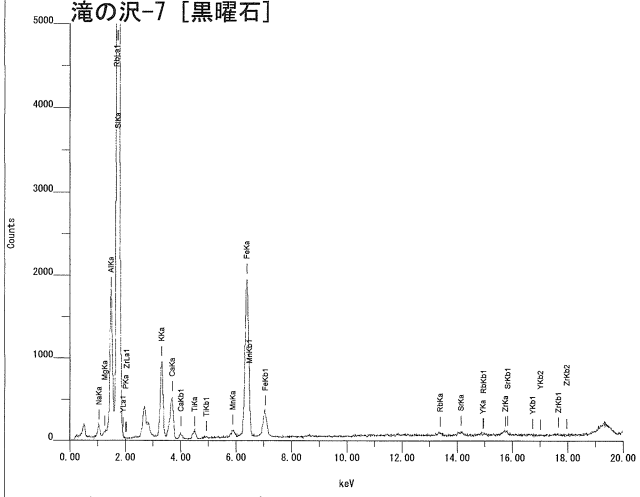
滝の沢-6 [黒曜石]



ファイル名： C:¥Jsx3200¥data¥滝の沢-6.spc　　測定日時： 2003年 4月25日10時55分38秒
試料名　　： 黒曜石
メモ　　： 剥片
測定条件　： 電圧: 30.0kV　電流: 0.480mA　ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ: 200.00sec　パス：Vac
定量条件
　定量法： 標準
分析元素： Na,Mg,Al,Si,P,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Rb,Sr,Y,Zr

Num	元素/ 化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	11 Na2O	4.3373	4.5526	0.0555571	1089	0.3455
2	12 MgO	0.0398	0.0642	0.0001845	23	0.1678
3	13 Al2O3	13.0846	8.3486	0.0324879	17256	0.0760
4	14 SiO2	76.1892	82.4935	0.2724596	151790	0.0880
5	15 P2O5	nd				
6	19 K2O	3.0043	2.0747	0.0246121	11829	0.0320
7	20 CaO	1.2922	1.4991	0.0093600	6428	0.0279
8	22 TiO2	0.2129	0.1733	0.0012019	1470	0.0219
9	25 MnO	0.0773	0.0708	0.0008108	1389	0.0098
10	26 Fe2O3	1.7109	0.6970	0.0173829	32959	0.0096
11	37 Rb2O	0.0106	0.0037	0.0004997	784	0.0049
12	38 SrO	0.0144	0.0090	0.0006395	1044	0.0053
13	39 Y2O3	0.0027	0.0008	0.0001187	186	0.0062
14	40 ZrO2	0.0238	0.0126	0.0011020	1495	0.0072

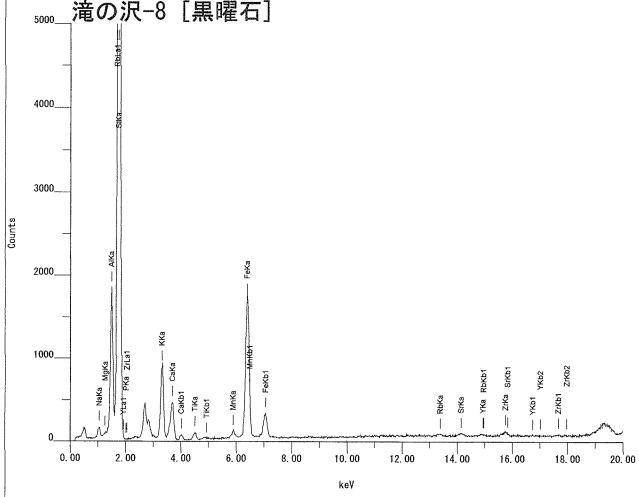
滝の沢-7 [黒曜石]



ファイル名： C:¥Jsx3200¥data¥滝の沢-7.spc　　測定日時： 2003年 4月25日11時 1分 5秒
試料名　　： 黒曜石
メモ　　： チップ
測定条件　： 電圧: 30.0kV　電流: 0.580mA　ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ: 200.00sec　パス：Vac
定量条件
　定量法： 標準
分析元素： Na, Mg, Al, Si, P, K, Ca, Ti, Mn, Fe, Rb, Sr, Y, Zr

Num	元素/ 化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	11 Na2O	4.8411	5.0595	0.0536336	1270	0.3334
2	12 MgO	nd				
3	13 Al2O3	12.0888	7.6799	0.0258109	16566	0.0733
4	14 SiO2	76.7459	82.7374	0.2385895	160612	0.0848
5	15 P2O5	nd				
6	19 K2O	3.0073	2.0679	0.0212819	12360	0.0310
7	20 CaO	1.3155	1.5195	0.0082297	6829	0.0271
8	22 TiO2	0.2053	0.1665	0.0010009	1479	0.0212
9	25 MnO	0.0727	0.0664	0.0006595	1365	0.0095
10	26 Fe2O3	1.6734	0.6788	0.0146878	33651	0.0093
11	37 Rb2O	0.0107	0.0037	0.0004382	831	0.0047
12	38 SrO	0.0110	0.0069	0.0004219	832	0.0052
13	39 Y2O3	0.0050	0.0014	0.0001886	356	0.0060
14	40 ZrO2	0.0231	0.0121	0.0009257	1517	0.0069

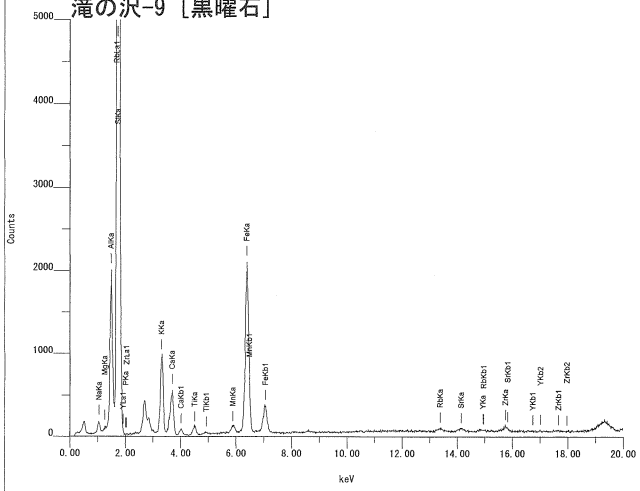
滝の沢-8 [黒曜石]



ファイル名： C:¥Jsx3200¥data¥滝の沢-8.spc　　測定日時： 2003年 4月25日11時 5分53秒
試料名　　： 黒曜石
メモ　　： 剥片
測定条件　： 電圧: 30.0kV　電流: 0.400mA　ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ: 200.00sec　パス：Vac
定量条件
　定量法： 標準
分析元素： Na, Mg, Al, Si, P, K, Ca, Ti, Mn, Fe, Rb, Sr, Y, Zr

Num	元素/ 化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	11 Na2O	4.4672	4.6704	0.0697988	1140	0.3608
2	12 MgO	nd				
3	13 Al2O3	12.3845	7.8706	0.0374610	16581	0.0790
4	14 SiO2	77.0613	83.1076	0.3378529	156851	0.0918
5	15 P2O5	nd				
6	19 K2O	2.9995	2.0632	0.0298727	11965	0.0337
7	20 CaO	1.2296	1.4208	0.0108318	6199	0.0294
8	22 TiO2	0.1781	0.1444	0.0012245	1248	0.0229
9	25 MnO	0.0735	0.0671	0.0009418	1345	0.0103
10	26 Fe2O3	1.5592	0.6327	0.0193516	30576	0.0100
11	37 Rb2O	0.0068	0.0023	0.0003936	515	0.0051
12	38 SrO	0.0121	0.0076	0.0006611	900	0.0056
13	39 Y2O3	0.0070	0.0020	0.0003724	485	0.0064
14	40 ZrO2	0.0212	0.0112	0.0012104	1368	0.0075

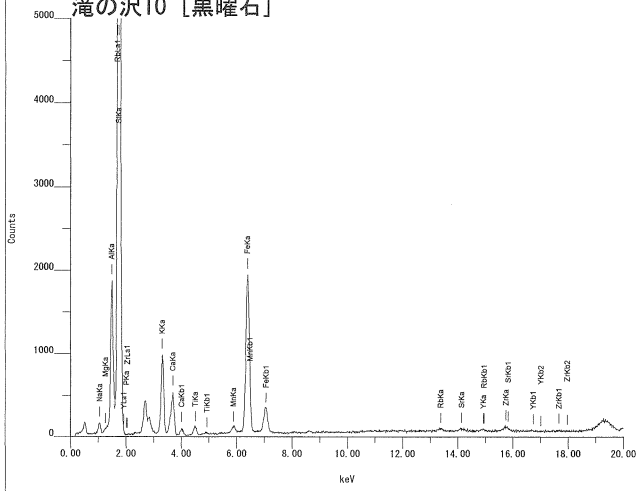
滝の沢-9［黒曜石］



ファイル名： C:¥Jsx3200¥data¥滝の沢-9.spc　　測定日時： 2003年 4月25日11時11分 1秒
試料名　　： 黒曜石
メモ　　： 剥片
測定条件　： 電圧: 30.0kV　電流: 0.560mA　ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ: 200.00sec　パス：Vac
定量条件
　定量法： 標準
分析元素： Na,Mg,Al,Si,P,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Rb,Sr,Y,Zr

Num	元素/ 化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	11 Na2O	4.2915	4.4814	0.0512479	1172	0.3284
2	12 MgO	nd				
3	13 Al2O3	11.9896	7.6106	0.0278023	17228	0.0717
4	14 SiO2	77.4501	83.4280	0.2612634	169811	0.0829
5	15 P2O5	nd				
6	19 K2O	2.9780	2.0460	0.0227238	12742	0.0306
7	20 CaO	1.3012	1.5018	0.0087840	7038	0.0266
8	22 TiO2	0.2062	0.1670	0.0010847	1548	0.0209
9	25 MnO	0.0748	0.0683	0.0007323	1464	0.0093
10	26 Fe2O3	1.6642	0.6745	0.0157676	34879	0.0091
11	37 Rb2O	0.0082	0.0028	0.0003604	660	0.0046
12	38 SrO	0.0117	0.0073	0.0004851	924	0.0051
13	39 Y2O3	0.0022	0.0006	0.0000878	160	0.0059
14	40 ZrO2	0.0224	0.0117	0.0009684	1533	0.0068

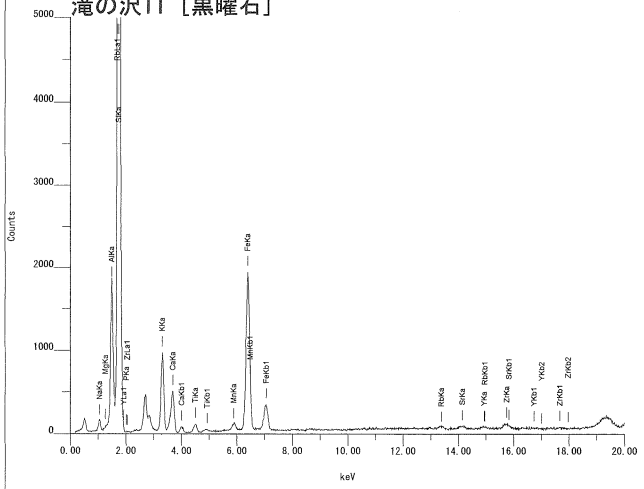
滝の沢10［黒曜石］



ファイル名： C:¥Jsx3200¥data¥滝の沢10.spc　　測定日時： 2003年 4月25日11時15分49秒
試料名　　： 黒曜石
メモ　　： 剥片
測定条件　： 電圧: 30.0kV　電流: 0.500mA　ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ: 200.00sec　パス：Vac
定量条件
　定量法： 標準
分析元素： Na,Mg,Al,Si,P,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Rb,Sr,Y,Zr

Num	元素/ 化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	11 Na2O	4.3154	4.5041	0.0569568	1163	0.3449
2	12 MgO	0.0520	0.0834	0.0002485	32	0.1675
3	13 Al2O3	12.0288	7.6316	0.0307872	17034	0.0759
4	14 SiO2	77.4838	83.4222	0.2883776	167352	0.0870
5	15 P2O5	nd				
6	19 K2O	2.9458	2.0229	0.0248102	12421	0.0320
7	20 CaO	1.2416	1.4322	0.0092590	6624	0.0279
8	22 TiO2	0.2066	0.1673	0.0012021	1531	0.0218
9	25 MnO	0.0681	0.0621	0.0007377	1317	0.0098
10	26 Fe2O3	1.6127	0.6533	0.0169166	33411	0.0095
11	37 Rb2O	0.0101	0.0035	0.0004944	808	0.0048
12	38 SrO	0.0088	0.0055	0.0004042	688	0.0053
13	39 Y2O3	0.0078	0.0022	0.0003514	573	0.0061
14	40 ZrO2	0.0186	0.0098	0.0008928	1261	0.0071

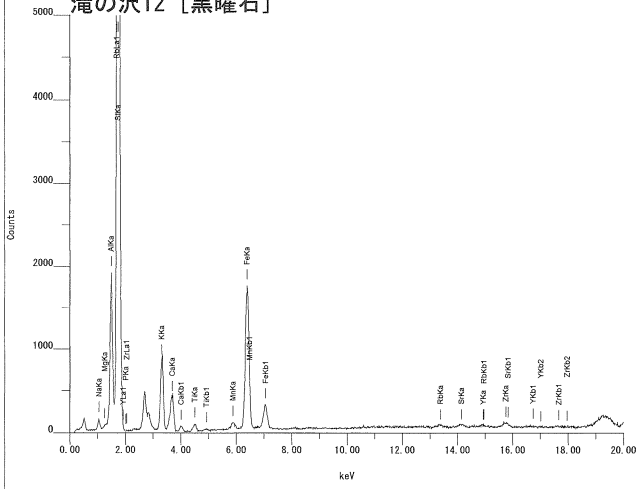
滝の沢11［黒曜石］



ファイル名： C:¥Jsx3200¥data¥滝の沢11.spc　　測定日時： 2003年 4月25日11時20分26秒
試料名　　： 黒曜石
メモ　　： チップ
測定条件　： 電圧: 30.0kV　電流: 0.500mA　ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ: 200.00sec　パス：Vac
定量条件
　定量法： 標準
分析元素： Na,Mg,Al,Si,P,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Rb,Sr,Y,Zr

Num	元素/ 化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	11 Na2O	4.3910	4.5859	0.0565632	1155	0.3491
2	12 MgO	nd				
3	13 Al2O3	12.1127	7.6897	0.0302481	16736	0.0763
4	14 SiO2	77.3498	83.3310	0.2806833	162887	0.0884
5	15 P2O5	nd				
6	19 K2O	2.9409	2.0208	0.0241782	12105	0.0325
7	20 CaO	1.2742	1.4707	0.0092754	6635	0.0283
8	22 TiO2	0.1983	0.1607	0.0011259	1434	0.0222
9	25 MnO	0.0707	0.0645	0.0007471	1334	0.0099
10	26 Fe2O3	1.6167	0.6553	0.0165442	32676	0.0097
11	37 Rb2O	0.0092	0.0032	0.0004380	716	0.0049
12	38 SrO	0.0079	0.0050	0.0003570	607	0.0054
13	39 Y2O3	0.0074	0.0021	0.0003262	531	0.0062
14	40 ZrO2	0.0211	0.0111	0.0009887	1397	0.0072

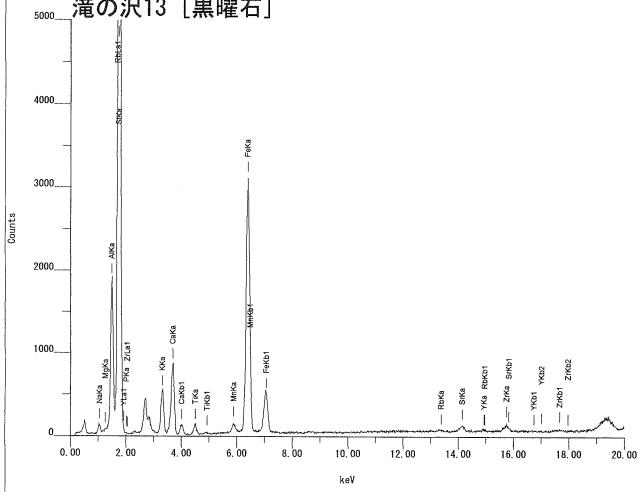
滝の沢12［黒曜石］



ファイル名： C:¥Jsx3200¥data¥滝の沢12.spc　　測定日時： 2003年 4月25日11時25分22秒
試料名　　： 黒曜石
メモ　　： 剥片
測定条件　： 電圧: 30.0kV　電流: 0.540mA　ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ: 200.00sec　パス：Vac
定量条件
　定量法： 標準
分析元素： Na,Mg,Al,Si,P,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Rb,Sr,Y,Zr

Num	元素/ 化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	11 Na2O	3.8635	4.0298	0.0460446	1015	0.3389
2	12 MgO	nd				
3	13 Al2O3	12.0962	7.6695	0.0281359	16812	0.0736
4	14 SiO2	78.2315	84.1732	0.2638173	165347	0.0855
5	15 P2O5	nd				
6	19 K2O	2.8921	1.9847	0.0219401	11863	0.0317
7	20 CaO	1.1507	1.3266	0.0077424	5982	0.0275
8	22 TiO2	0.1614	0.1306	0.0008494	1169	0.0215
9	25 MnO	0.0648	0.0590	0.0006358	1226	0.0096
10	26 Fe2O3	1.4953	0.6054	0.0142197	30331	0.0094
11	37 Rb2O	0.0079	0.0027	0.0003530	623	0.0047
12	38 SrO	0.0100	0.0062	0.0004194	770	0.0052
13	39 Y2O3	0.0070	0.0020	0.0002863	504	0.0060
14	40 ZrO2	0.0195	0.0103	0.0008561	1306	0.0069

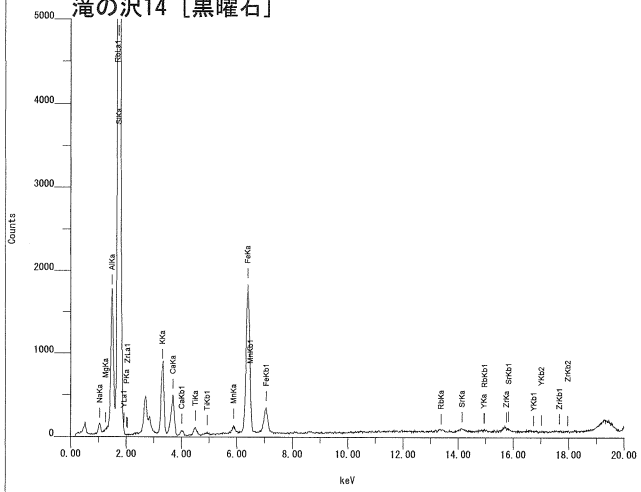
滝の沢13［黒曜石］



ファイル名： C:¥Jsx3200¥data¥滝の沢13.spc　　測定日時： 2003年 4月25日11時30分12秒
試料名　　： 黒曜石
メモ　　： 剥片
測定条件　： 電圧: 30.0kV　電流: 0.480mA　ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ: 200.00sec　パス：Vac
定量条件
　定量法： 標準
分析元素： Na,Mg,Al,Si,P,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Rb,Sr,Y,Zr

Num	元素/ 化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	11 Na2O	3.8508	4.0741	0.0470085	921	0.3678
2	12 MgO	nd				
3	13 Al2O3	14.2726	9.1789	0.0340927	18108	0.0797
4	14 SiO2	74.3131	81.1014	0.2534126	141178	0.0939
5	15 P2O5	nd				
6	19 K2O	1.8053	1.2567	0.0144499	6945	0.0334
7	20 CaO	2.4644	2.8816	0.0177942	12220	0.0285
8	22 TiO2	0.2393	0.1964	0.0013145	1608	0.0229
9	25 MnO	0.0947	0.0876	0.0009563	1639	0.0104
10	26 Fe2O3	2.8861	1.1851	0.0280558	53195	0.0102
11	37 Rb2O	0.0073	0.0026	0.0003135	492	0.0054
12	38 SrO	0.0265	0.0168	0.0010712	1749	0.0060
13	39 Y2O3	0.0091	0.0026	0.0003613	565	0.0069
14	40 ZrO2	0.0307	0.0163	0.0012940	1755	0.0080

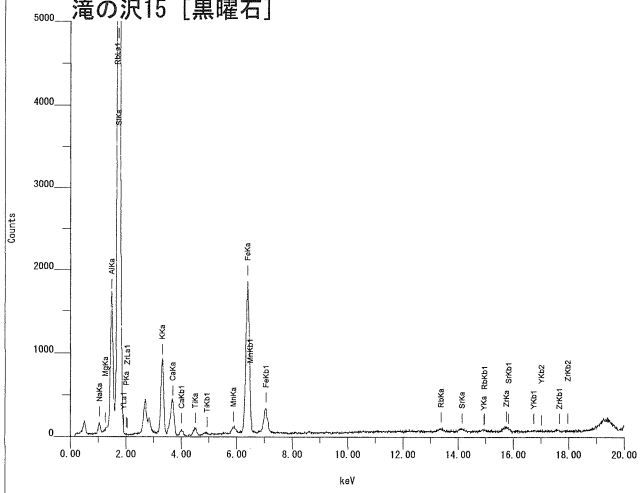
滝の沢14［黒曜石］



ファイル名： C:¥Jsx3200¥data¥滝の沢14.spc　　測定日時： 2003年 4月25日11時35分 8秒
試料名　　： 黒曜石
メモ　　： 剥片
測定条件　： 電圧: 30.0kV　電流: 0.420mA　ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ: 200.00sec　パス：Vac
定量条件
　定量法： 標準
分析元素： Na,Mg,Al,Si,P,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Rb,Sr,Y,Zr

Num	元素/ 化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	11 Na2O	4.1998	4.3821	0.0622595	1068	0.3500
2	12 MgO	nd				
3	13 Al2O3	12.0395	7.6360	0.0346862	16121	0.0763
4	14 SiO2	77.7435	83.6754	0.3254137	158630	0.0884
5	15 P2O5	nd				
6	19 K2O	2.9065	1.9953	0.0274770	11556	0.0326
7	20 CaO	1.2547	1.4469	0.0105111	6316	0.0284
8	22 TiO2	0.1841	0.1490	0.0012033	1288	0.0222
9	25 MnO	0.0689	0.0628	0.0008394	1259	0.0099
10	26 Fe2O3	1.5675	0.6348	0.0184874	30671	0.0097
11	37 Rb2O	0.0076	0.0026	0.0004205	577	0.0049
12	38 SrO	0.0097	0.0060	0.0005015	717	0.0054
13	39 Y2O3	0.0020	0.0006	0.0001031	141	0.0062
14	40 ZrO2	0.0161	0.0085	0.0008735	1037	0.0072

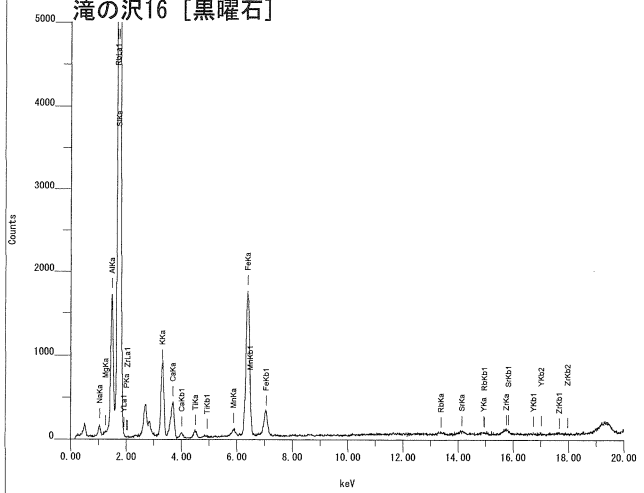
滝の沢15 [黒曜石]



ファイル名： C:¥JSX3200¥DATA¥滝の沢15.SPC　　測定日時： 2003年 4月25日11時40分 4秒
試料名　　： 黒曜石
メモ　　： チップ
測定条件　： 電圧: 30.0kV　電流: 0.460mA　ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ: 200.00sec　パス：Vac
定量条件
　定量法： 標準
分析元素： Na,Mg,Al,Si,P,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Rb,Sr,Y,Zr

	Num	元素/ 化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
*	1	11 Na20	4.3806	4.5716	0.0585448	1100	0.3499
*	2	12 MgO	nd				
*	3	13 Al203	11.8664	7.5277	0.0307483	15651	0.0765
*	4	14 SiO2	77.6720	83.6150	0.2930957	156483	0.0884
*	5	15 P205	nd				
*	6	19 K20	3.0282	2.0792	0.0258002	11884	0.0326
*	7	20 CaO	1.1448	1.3204	0.0086256	5677	0.0285
*	8	22 TiO2	0.1846	0.1494	0.0010873	1274	0.0222
*	9	25 MnO	0.0693	0.0632	0.0007602	1248	0.0099
*	10	26 Fe203	1.6051	0.6501	0.0170556	30991	0.0097
*	11	37 Rb20	0.0086	0.0030	0.0004288	645	0.0049
*	12	38 SrO	0.0104	0.0065	0.0004858	760	0.0054
*	13	39 Y203	0.0079	0.0023	0.0003612	541	0.0062
*	14	40 ZrO2	0.0220	0.0116	0.0010729	1395	0.0072

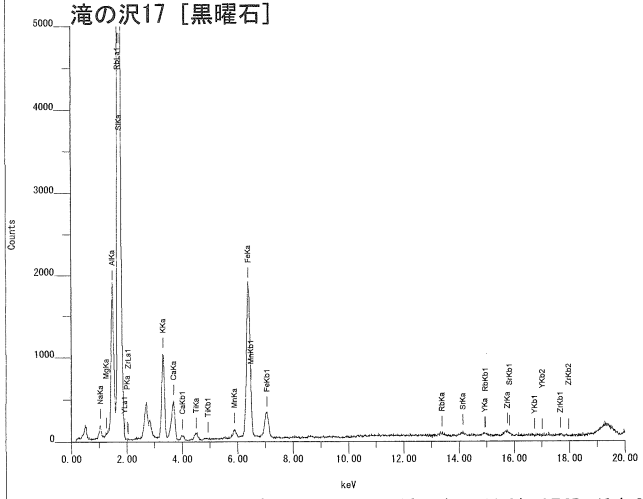
滝の沢16 [黒曜石]



ファイル名： C:¥JSX3200¥DATA¥滝の沢16.SPC　　測定日時： 2003年 4月25日11時44分48秒
試料名　　： 黒曜石
メモ　　： 剥片
測定条件　： 電圧: 30.0kV　電流: 0.480mA　ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ: 200.00sec　パス：Vac
定量条件
　定量法： 標準
分析元素： Na,Mg,Al,Si,P,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Rb,Sr,Y,Zr

Num	元素/ 化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	11 Na20	4.2240	4.4125	0.0538348	1055	0.3352
2	12 MgO	nd				
3	13 Al203	12.1761	7.7318	0.0301467	16012	0.0731
4	14 SiO2	77.5404	83.5562	0.2785957	155208	0.0849
5	15 P205	nd				
6	19 K20	2.9874	2.0533	0.0242774	11669	0.0313
7	20 CaO	1.1803	1.3627	0.0084882	5829	0.0273
8	22 TiO2	0.1869	0.1514	0.0010502	1284	0.0213
9	25 MnO	0.0724	0.0661	0.0007578	1299	0.0095
10	26 Fe203	1.5849	0.6426	0.0160656	30461	0.0093
11	37 Rb20	0.0075	0.0026	0.0003549	557	0.0047
12	38 SrO	0.0113	0.0071	0.0005038	823	0.0052
13	39 Y203	0.0061	0.0017	0.0002652	415	0.0060
14	40 ZrO2	0.0227	0.0119	0.0010551	1431	0.0069

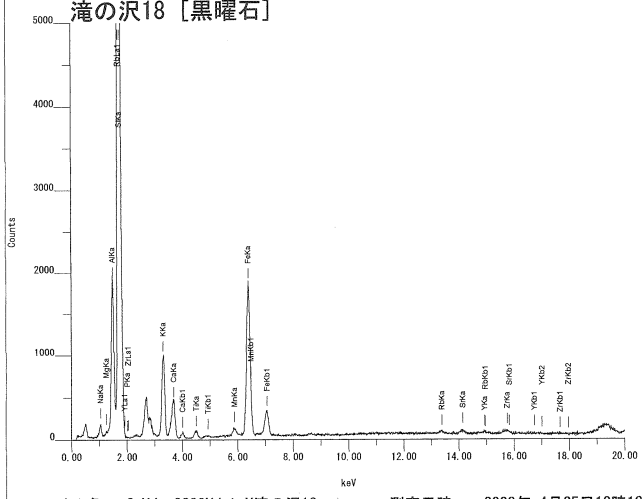
滝の沢17［黒曜石］



ファイル名： C:¥Jsx3200¥data¥滝の沢17.spc　　測定日時： 2003年 4月25日12時 8分30秒
試料名　　： 黒曜石
メモ　　： 剥片
測定条件　： 電圧: 30.0kV　電流: 0.540mA　ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ: 200.00sec　パス：Vac
定量条件
　定量法： 標準
分析元素： Na,Mg,Al,Si,P,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Rb,Sr,Y,Zr

	Num	元素/ 化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
*	1	11 Na20	4.4862	4.6830	0.0570774	1258	0.3109
*	2	12 MgO	nd				
*	3	13 Al203	11.9857	7.6055	0.0295160	17637	0.0681
*	4	14 Si02	77.5127	83.4662	0.2776872	174040	0.0788
*	5	15 P205	nd				
*	6	19 K20	3.1003	2.1293	0.0251050	13575	0.0290
*	7	20 CaO	1.1098	1.2804	0.0079369	6132	0.0254
*	8	22 TiO2	0.1468	0.1188	0.0008214	1130	0.0198
*	9	25 MnO	0.0811	0.0740	0.0008465	1632	0.0088
*	10	26 Fe203	1.5255	0.6181	0.0154268	32906	0.0086
*	11	37 Rb20	0.0086	0.0030	0.0004060	717	0.0044
*	12	38 SrO	0.0101	0.0063	0.0004516	830	0.0048
*	13	39 Y203	0.0087	0.0025	0.0003801	669	0.0055
*	14	40 ZrO2	0.0245	0.0129	0.0011389	1738	0.0064

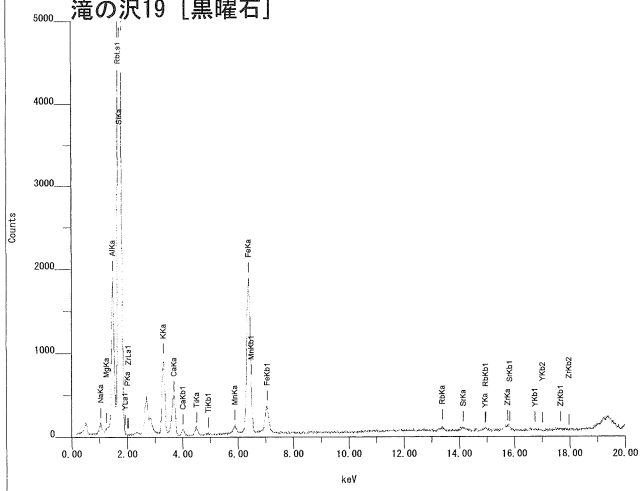
滝の沢18［黒曜石］



ファイル名： C:¥Jsx3200¥data¥滝の沢18.spc　　測定日時： 2003年 4月25日12時13分19秒
試料名　　： 黒曜石
メモ　　： チップ
測定条件　： 電圧: 30.0kV　電流: 0.640mA　ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ: 200.00sec　パス：Vac
定量条件
　定量法： 標準
分析元素： Na,Mg,Al,Si,P,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Rb,Sr,Y,Zr

Num	元素/ 化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	11 Na20	4.2053	4.3833	0.0459302	1200	0.3259
2	12 MgO	nd				
3	13 Al203	11.8886	7.5327	0.0252251	17864	0.0711
4	14 Si02	78.0939	83.9672	0.2409595	178988	0.0823
5	15 P205	nd				
6	19 K20	3.0083	2.0631	0.0208890	13387	0.0305
7	20 CaO	1.0939	1.2602	0.0067216	6155	0.0266
8	22 TiO2	0.1595	0.1290	0.0007674	1251	0.0207
9	25 MnO	0.0666	0.0607	0.0005982	1367	0.0092
10	26 Fe203	1.4477	0.5857	0.0125958	31843	0.0090
11	37 Rb20	0.0086	0.0030	0.0003524	737	0.0045
12	38 SrO	0.0143	0.0089	0.0005490	1195	0.0050
13	39 Y203	0.0025	0.0007	0.0000928	193	0.0058
14	40 ZrO2	0.0108	0.0057	0.0004343	785	0.0067

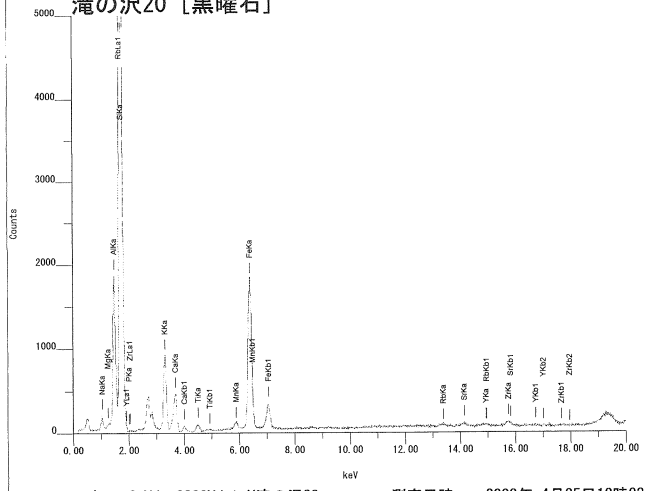
滝の沢19［黒曜石］



ファイル名： C:¥Jsx3200¥data¥滝の沢19.spc　　測定日時： 2003年 4月25日12時18分10秒
試料名　　： 黒曜石
メモ　　： 剥片
測定条件　： 電圧: 30.0kV　電流: 0.380mA　ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ: 200.00sec　パス：Vac
定量条件
　定量法： 標準
分析元素： Na,Mg,Al,Si,P,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Rb,Sr,Y,Zr

Num	元素/ 化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	11 Na2O	4.1380	4.3259	0.0694177	1077	0.3585
2	12 MgO	0.0141	0.0227	0.0000859	8	0.1736
3	13 Al2O3	12.3998	7.8796	0.0404492	17009	0.0787
4	14 SiO2	77.3344	83.3948	0.3652899	161109	0.0906
5	15 P2O5	nd				
6	19 K2O	2.8580	1.9657	0.0306171	11650	0.0333
7	20 CaO	1.2969	1.4984	0.0123219	6699	0.0289
8	22 TiO2	0.1885	0.1528	0.0013958	1351	0.0226
9	25 MnO	0.0757	0.0691	0.0010431	1415	0.0101
10	26 Fe2O3	1.6396	0.6652	0.0218873	32854	0.0099
11	37 Rb2O	0.0146	0.0051	0.0009081	1128	0.0050
12	38 SrO	0.0106	0.0066	0.0006175	798	0.0055
13	39 Y2O3	0.0066	0.0019	0.0003800	470	0.0064
14	40 ZrO2	0.0234	0.0123	0.0014257	1531	0.0074

滝の沢20［黒曜石］



ファイル名： C:¥Jsx3200¥data¥滝の沢20.spc　　測定日時： 2003年 4月25日12時23分 8秒
試料名　　： 黒曜石
メモ　　： 剥片
測定条件　： 電圧: 30.0kV　電流: 0.460mA　ﾗｲﾌﾞﾀｲﾑ: 200.00sec　パス：Vac
定量条件
　定量法： 標準
分析元素： Na,Mg,Al,Si,P,K,Ca,Ti,Mn,Fe,Rb,Sr,Y,Zr

Num	元素/ 化学式	wt(%)	at/mole(%)	測定強度比	積分強度	標準偏差
1	11 Na2O	4.5519	4.7500	0.0651299	1223	0.3550
2	12 MgO	0.0132	0.0213	0.0000684	8	0.1730
3	13 Al2O3	12.0840	7.6652	0.0334247	17014	0.0784
4	14 SiO2	77.4639	83.3848	0.3114620	166288	0.0899
5	15 P2O5	nd				
6	19 K2O	2.8951	1.9876	0.0263730	12148	0.0330
7	20 CaO	1.1669	1.3458	0.0094257	6204	0.0288
8	22 TiO2	0.1715	0.1388	0.0010831	1269	0.0224
9	25 MnO	0.0649	0.0592	0.0007637	1254	0.0100
10	26 Fe2O3	1.5436	0.6252	0.0176021	31984	0.0098
11	37 Rb2O	0.0094	0.0033	0.0005029	756	0.0049
12	38 SrO	0.0110	0.0069	0.0005542	867	0.0054
13	39 Y2O3	0.0038	0.0011	0.0001872	281	0.0063
14	40 ZrO2	0.0207	0.0109	0.0010848	1410	0.0073

2．滝の沢地区遺跡の埋設土器内充填土壌

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

滝の沢地区遺跡（岩手県北上市大堤地内に所在）は、和賀川によって形成された河岸段丘上（標高約78m前後）に位置する。これまでの発掘調査により、竪穴住居跡、土坑、埋設土器、焼土遺構、集石遺構などが確認されており、縄文時代前期末～中期初頭の集落の一部であると考えられている。

今回は、調査区内で検出された埋設土器の用途・内容物推定を行うために、土器内充填土壌について土壌理化学分析と微細遺物分析を行う。

1．試料

調査は、包含層中から検出された1・3～5号埋設土器である。1号埋設土器は、正立した土器内に反転した土器が合わさった状態で検出されている。3号埋設土器は、若干斜位の土器内に石錘5点埋納された状態で検出されている。4号埋設土器は、正立した土器で完形の状態で検出されている。5号埋設土器は、若干斜位の土器で完形の状態で検出されている。試料は、これら各埋設土器の内部に充填した土壌から採取された4点（試料番号1～4）である。これら4点全点について、土壌理化学分析と微細遺物分析を行う。なお、試料は暗褐～黒褐色を呈し、いずれも軽埴土（LiC）よりなる。

2．分析方法

（1）微細遺物分析

土壌試料各400ccを水に一晩液浸し、試料の泥化を促す。0.5mmの篩を通して水洗し残渣を集め、双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な植物遺体等を抽出する。植物遺体の形態的特徴から種類を同定する。分析後の植物遺体等は、種類毎にビンに入れ、50%エタノール溶液による液浸保存を行う。

（2）土壌理化学分析

今回測定する成分は、特に動物の体組織や骨に多く含まれるリン酸の含量測定を行う。リン酸は、骨に多量に含まれ、土壌中に固定されやすい性質がある。そのため、遺体が埋葬されると土壌中にリン酸の富化が認められることから、遺体あるいは遺骨の痕跡を推定することができる。また、リン酸の供給源としては植物体もあげられる。植物由来のリン酸成分が供給された場合、リン酸含量よりも腐植含量が高くなる。よって、植物体の影響を調べるために腐植含量も測定する。

リン酸は硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法、腐植はチューリン法で分析する（土壌養分測定法委員会，1981）。以下に各項目の具体的な操作工程を示す。

試料を風乾後、軽く粉砕して2.00mmの篩を通過させる（風乾細土試料）。風乾細土試料の水分を加熱減量法（105℃、5時間）により測定する。風乾細土試料の一部を粉砕し、0.5mmϕのふるいを全通させる（微粉砕試料）。

風乾細土試料2.00ｇをケルダール分解フラスコに秤量し、硝酸約5 mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P_2O_5）濃度を測定する。この測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（P_2O_5mg/g）を求める。

また、微粉砕試料0.100～0.500ｇを100ml三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Ｎクロム酸・硫酸混液10mlを正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に５分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2Ｎ硫酸第１鉄アンモニウム液で滴定する。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量（Org-C乾土%）を求める。これに1.724を乗じて腐植含量（%）を算出する。

３．結果

（１）微細遺物分析

結果を表１に示す。篩別後の各残渣からは、オニグルミが検出されたほか、炭化材が検出された。また、木材組織が確認されない、部位・種類共に不明である炭化物を不明炭化物とした。以下に、同定された種実遺体の形態的特徴を記す。

・オニグルミ（Juglans mandshurica Maxim. subsp. Sieboldiana (Maxim.) Kitamura）

クルミ科クルミ属

核の細片が検出された。完全に炭化しており、黒色。大きなもので10mm程度。完形ならば広卵形で先端部分がやや尖り、1本の明瞭な縦の縫合線がある。内部には子葉が入る2つの大きな窪みと隔壁がある。核皮は硬く、表面には縦方向に溝状の浅い彫紋が走りごつごつしている。試料は、表面に溝状の浅い彫紋がある点と、内部の隔壁の一部が残る点を同定根拠とした。

（２）土壌理化学分析

結果を表２に示す。測定の結果、腐植含量は、3.35～4.46%を示し、各試料ともほぼ類似した測定値を示す。リン酸含量は、3.49～6.90P_2O_5mg/gを示し、５号埋設土器で最も高い値を示す。

４．考察

微細遺物分析の結果、各試料からは、骨片や副葬品など遺体埋納を直接示唆する微細な遺物が検出されないが、オニグルミの核が検出される。オニグルミは、谷部など水湿のある場所に好んで生える落葉高木である。また、オニグルミは、堅果がアク抜きをせずに食べられ、長期保存が可能で収量も多いため、古くから里山で保護、採取されてきた種類である。本遺跡周辺で入手しやすい種実であったと考えられ、持ちこまれ利用されていた可能性が考えられる。オニグルミが完全に炭化し、破損した状態で土器内から検出されたことを考慮すると、利用後に何らかの理由により火熱を受けその後土器内に入ったなど、人為的行為により遺構にもたらされた可能性がある。

一方、今回分析試料とした土壌の理化学性をみると、腐植含量は3.35～4.46%と若干高い測定値を示す。微細遺物分析で炭化した植物遺体が検出されることから、今回測定した腐植含量に植物遺体の影響が表れているとみられる。このことから、土壌中に植物遺体起源の土壌腐植が多く含まれていると考えられる。ただし、測定値に著しい変化がないことから、土壌腐植による影響は各埋設土器ともほぼ類似していると仮定できる。リン酸含量は3.49～6.90P_2O_5mg/gを示しており、試料により変化がみられる。ところで、土壌中に普通に含まれるリン酸量、いわゆる天然賦存量については、川崎ほか（1991）、天野ほか（1991）、Bowen（1983）、Bolt & Bruggenwert（1980）などの報告例がある。これらの事例から推定される天然賦存量の上限は、約3.0P_2O_5mg/g程度である（なお、各調査例の記載単位が異なるため、ここでは全てP_2O_5mg/gで統一している）。今回のリン酸含量値は、４試料とも天然賦存量の上限を上回っている。よって、各埋設土器内に充填した土壌は、人為的影響などによる外的要因によってリン酸成分が富化されていると指摘できる。

以上のことから、各埋設土器とも骨など遺体埋納を直接示唆するものが検出されなかったが、土壌の理化学組成から何らかの動物遺体が埋納されていた可能性があることが指摘できた。特に5号埋設土器はリン酸含量が極めて高いことから、その可能性が高いと考えられる。可食植物が土器内から検出される点を考えると、内部に充填された土壌は少なくとも人為的な影響を受けたものと考えられる。ところで、人為的に遺体が埋納されると、土壌の理化学成分が偏在することが知られており（例えば、小山，1995：中根，1992：中根・馬場，1995：パリノ・サーヴェイ株式会社，1999など）、これが遺体埋納の決め手になると考えられる。さらに遺体が埋納されると、アラキジン酸（C20）・ベヘン酸（C22）・リグノセリン酸（C24）などの高級脂肪酸が検出され、コレステロールとコプロスタノールが多産することがある（例えば、小山，1995：中野，1993,1995）。このように複数の調査項目を3次元的に調査することで、より詳細な検討が可能になると思われる。なお、その際、埋設土器内土壌だけでなく、基本土層と比較することが最も重要である。今後同様の分析事例を対比試料を含めて実施し、今回の結果を改めて評価していきたい。

引用文献

天野洋司・太田　健・草場　敬・中井　信（1991）中部日本以北の土壌型別蓄積リンの形態別計量．農林水産省農林水産技術会議事務局編「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」，p.28-36.

Bowen,H.J.M.（1983）「環境無機化学 －元素の循環と生化学－」．浅見輝男・茅野充男訳，297p.，博友社［Bowen,H.J.M.（1979）Environmental Cemistry of Elements］.

Bolt,G.H. & Bruggenwert,M.G.M.（1980）「土壌の化学」．岩田進午・三輪睿太郎・井上隆弘・陽捷行訳，p.235-236，学会出版センター［Bolt,G.H. and Bruggenwert,M.G.M.(1976)SOIL CHEMISTRY］.

土壌養分測定法委員会編（1981）「土壌養分分析法」．440p.，養賢堂.

川崎　弘・吉田　澪・井上恒久（1991）九州地域の土壌型別蓄積リンの形態別計量．農林水産省農林水産技術会議事務局編「土壌蓄積リンの再生循環利用技術の開発」，p.23-27.

小山陽造（1995）東北地方の脂肪酸分析結果．考古学ジャーナル，386，p.17-21.

中根秀二（1992）1号方形周溝墓の自然科学的分析．「田園調布南2　都立田園調布高校内埋蔵文化財発掘調査報告書」，p.133-149，都立学校遺跡調査会.

中根秀二・馬場健司（1995）周溝内における埋葬位置について．北区埋蔵文化財調査報告第16集「豊島馬場遺跡（本文編）」，p.314-325，東京都北区教育委員会生涯学習推進課.

中野益男（1993）脂肪酸分析法．「第四紀試料研究法2　研究対象別分析法」，p.388-403，東京大学出版会.

中野益男（1995）脂肪酸分析の現状と課題．考古学ジャーナル，386，p.2-8.

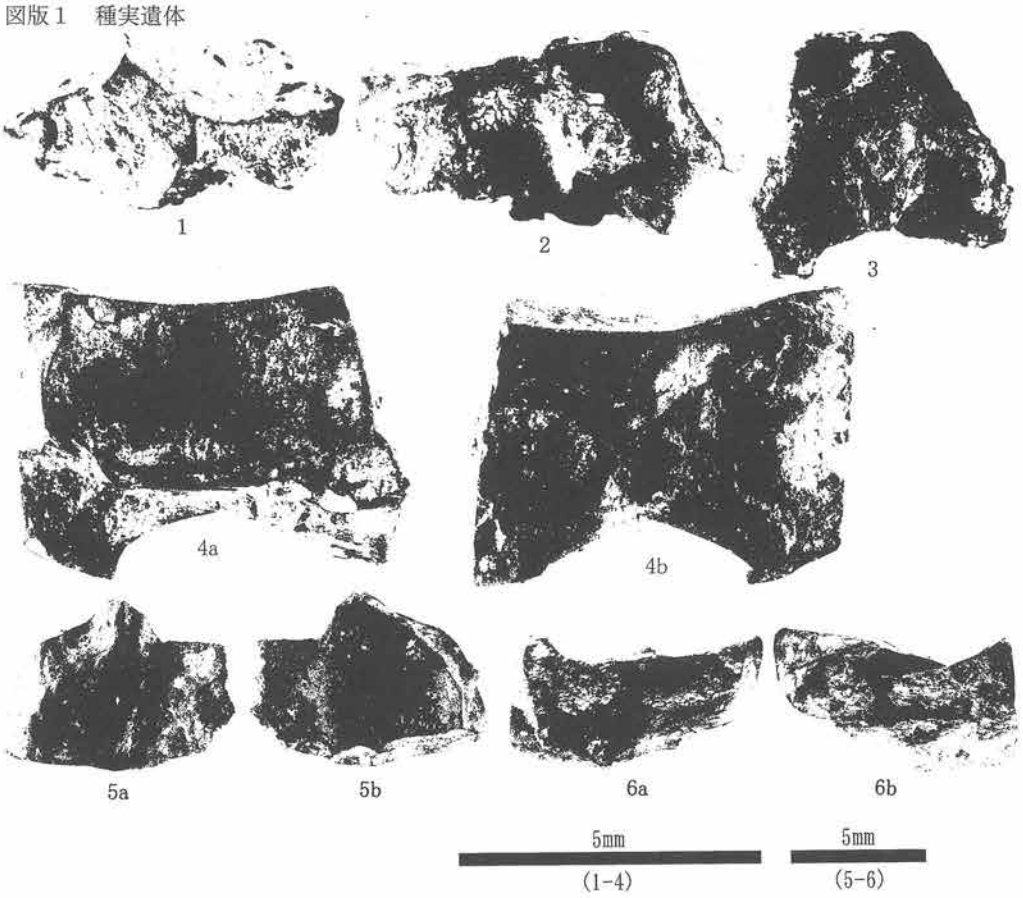
農林省農林水産技術会議事務局監修（1967）新版標準土色帖.

パリノ・サーヴェイ株式会社（1999）豊島馬場遺跡の自然科学分析．北区埋蔵文化財調査報告第25集「豊島馬場遺跡Ⅱ」，p.312-331，東京都北区教育委員会生涯学習推進課.

ペドロジスト懇談会編（1984）「土壌調査ハンドブック」．156p.，博友社.

吉崎昌一（1992）古代雑穀の検出．月刊考古学ジャーナル．No.355，p.2-14.

図版１　種実遺体



1．オニグルミ 核(試料番号1)
2．オニグルミ 核(試料番号1)
3．オニグルミ 核(試料番号1)
4．オニグルミ 核(試料番号3)
5．オニグルミ 核(試料番号4)
6．オニグルミ 核(試料番号4)

3．滝の沢地区遺跡出土琥珀の分析

（財）元興寺文化財研究所　植田直見

1．分析資料

資料は表1に示すように2点とも縄文時代のものである。なお、資料は破片になっており原型はつかめない。分析資料は番号（1、2）で示した。

表1．分析資料一覧

	仮番号	出土地点	時　代
滝の沢1	1	V層	縄文時代前期末から中期初頭
滝の沢2	2	V層	縄文時代前期末から中期初頭

2．分析目的

滝の沢地区遺跡群出土琥珀が、琥珀であるかどうかの確認と、産地同定を行う。

3．使用機器および原理

測定はフーリェ変換型赤外分析分光光度計（ＦＴ-ＩＲ）（日本電子（株）製JIR－6000）と熱分析装置（ＤＴＡ・ＴＧＡ）（(株）島津製作所ＤＴＧ-60）を使用した。ＦＴ-ＩＲによる分析では、資料に赤外線を照射することにより得られる分子の構造に応じた固有の周波数の呼吸を解析し、化合物の種類の同定することができる。また、ＤＴＡ・ＴＧＡは資料に熱を加え、得られる質量変化から蒸気・気化温度、また、酸化・熱分解などの化学変化を知ることができる熱重量測定（ＴＧＡ）と、試料の融解などの状態の変化や化学反応の温度を知ることができる示差熱分析（ＤＴＡ）があり、これらから試料の熱に対する挙動を調べることができる。熱分析は今回新たに導入した分析方法でＦＴ-ＩＲによる分析結果と併用することによりさらに精度の高い分析が行える。

4．分析方法および条件

ＦＴ-ＩＲ分析は試料を臭化カリウム（ＫＢｒ）と混合、圧縮し錠剤を作製して行うＫＢｒ錠剤法により測定を行った。測定条件は分解能2 cm^{-1}、検出器としてＴＧＳを用いた。

ＤＴＡ・ＴＧＡ分析は試料を粉状に粉砕したものを白金セルに入れ、毎分100mlで空気を流しながら毎分20℃で昇温させ、その時の重量変化と熱量変化を測定した。

5．結果および考察

ＦＴ-ＩＲ分析において、劣化していない部分の赤外吸収スペクトルが得られればその産地同定は可能である。しかし、劣化が激しいと、全体的に吸収はブロードになり特徴的な吸収が消失し、新たに異なった位置にピークが表れることがある。分析に使用した破片は、肉眼による観察では、比較的失透がなく、全体に劣化は少ないと思われた。その中で堅くてより健全な部分を選んでＦＴ-ＩＲによる分析を行った。

その結果、3500～2800、1710、1500～800cm^{-1}付近の吸収から琥珀であることが確認できた（図1-1）。次に、1800～800cm^{-1}付近の吸収位置及び強度より、産地の判明している標準となる琥珀から得られたスペクトルと比較し、産地同定を試みた（図2-1）。その結果、今回分析した試料は、1300～800cm^{-1}の吸収位置および強度が久慈市産およびいわき市産の琥珀と類似することがわかった。一方、銚子産の琥珀とは1200～1000cm^{-1}付近の吸収位置および強度が異なる結果が得られた（図2-1）。

次に熱分析の結果では、今回分析した２点はいずれも同一産地であり、標準琥珀の熱分析と比較すると銚子市産琥珀とはことなり久慈市およびいわき市産琥珀と比較的近い挙動を示すことがわかった（図2-2）。しかし、550℃付近のＤＴＡ曲線が久慈およびいわき産より急激な変化を示し、400℃付近のＤＴＡ曲線より高い値示していることにより今回比較した産地以外の可能性も考えられる。

以上により、現時点ではこの琥珀は久慈市産およびいわき市産の可能性が高いことがわかった。しかし、少量産地など標準試料についてはまだ全てのデータを収集しておらず断定出来なかった。

琥珀の産地は国内でも、少量産出地を含めると10カ所以上ある。また国外でも各地で産出する。そのなかで、主産地についてのＦＴ-ＩＲ分析はすでに報告されている。しかし、出土琥珀は劣化状態が様々でそれによって吸収位置や強度が変化する。そのため劣化が進行したものはそのスペクトルが変化し産地同定が不可能になる場合がある。そこで、今回新たに熱分析を実施し、両者の分析結果を検討することで産地を特定することの可能性がより高くなると考えた。今後は、少量産地の分析を行い、より多くの標準となる分析値を収集するとともに、複数の分析法を併用することで様々な状態の琥珀の産地同定が可能になると考える。

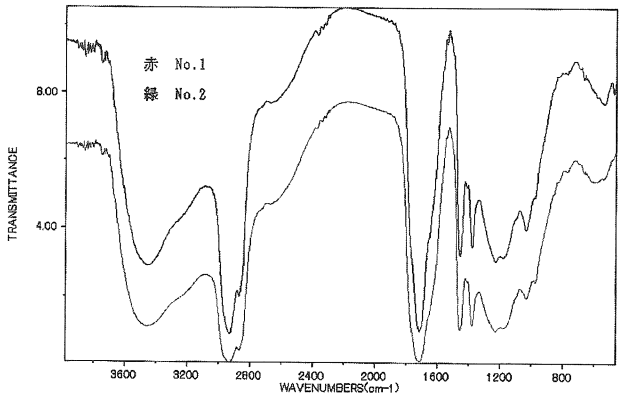


図 1-1. 滝の沢遺跡出土琥珀の赤外吸収スペクトル

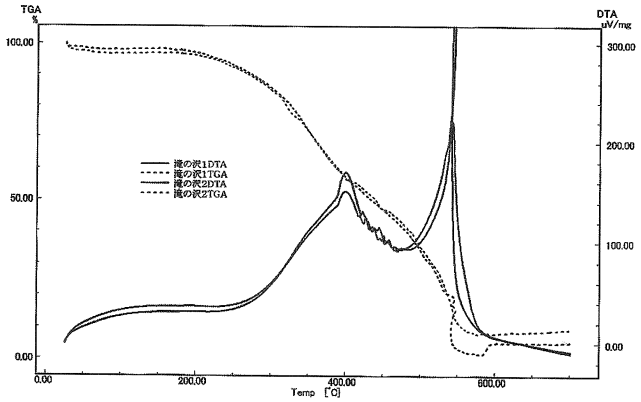


図 1-2. 滝の沢遺跡出土琥珀の熱分析

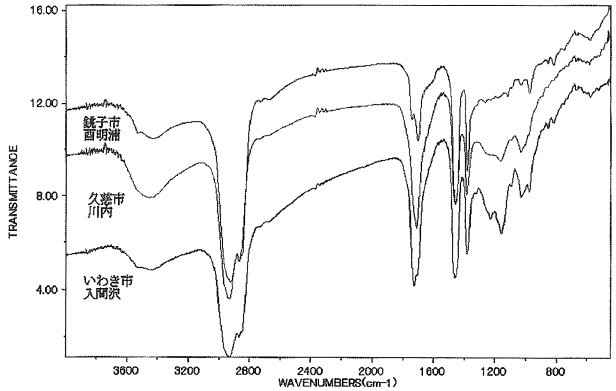


図 2-1. 標準琥珀の赤外吸収スペクトル

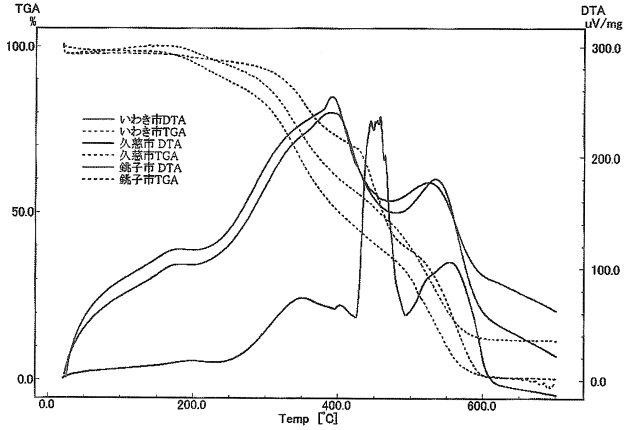


図 2-2. 標準琥珀の熱分析

第Ⅶ章　考察

1．遺構

今回の調査区1区からは縄文時代の竪穴住居跡5棟・配石遺構6基、埋設土器6基が得られた。それぞれ検出された遺構についてまとめ、調査区の様相を捉えてみたい。

竪穴住居跡（以下住居とする）は5棟検出された。全体的に出土遺物が少ないものの、出土遺物から3号住居以外は大木6式期を中心とした時期に比定される。また3号住居も床面の検出がⅢ層上面であり、本層が大木6式を中心とした出土層位であることから、大木6式かそれ以降の時期と捉えられ、5棟ともほぼ同時期の可能性がある。それらの平面形は楕円形ないし不整楕円形のプランを呈している。規模は約4～8mである。埋土と基本土層との区別ができず、壁の立ち上がりはやや不明瞭である。柱穴は竪穴住居の壁側に不規則に配され、その囲まれた中に地床炉を有する。地床炉は床面の中心より外れて配置されている。

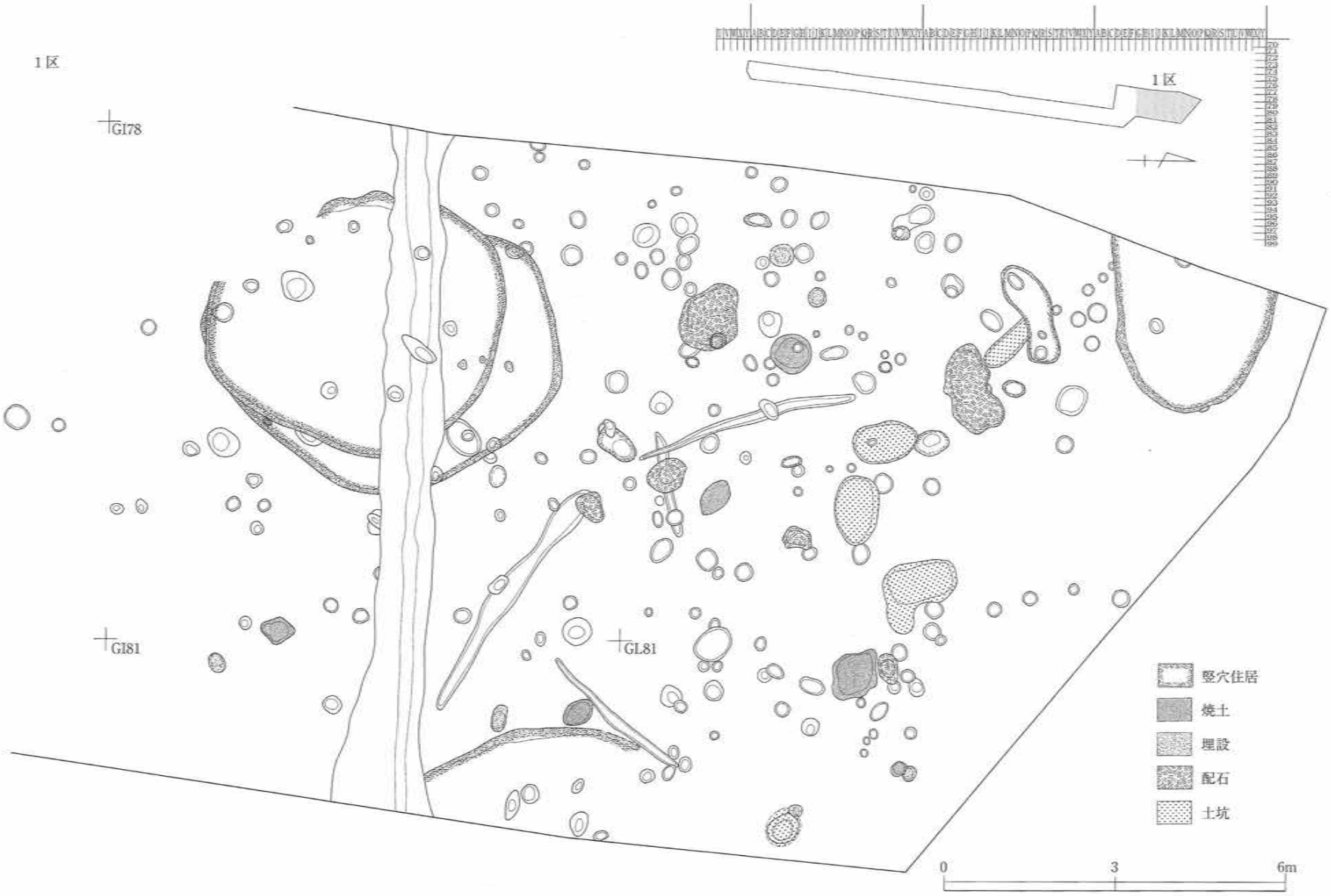
柱穴と焼土の配置及び柱穴のみの配置から住居5棟を想定している。7・8号住居は前者、それ以外は後者に相当する。それらの平面形は円形ないし楕円形を呈し、規模は約4～6mである。住居の軸線方向であるが、1～3・6号住居の長軸は斜面の傾斜方向と平行し、4・5・8号住居は直交している。

本調査区で検出できた竪穴住居の配置は、3号住居が西側、6号住居が南西側、10号住居が北側に延びていくことから、基本的には北・北西側、南・南西側に広がっていく傾向が見られる。東側に延びていく住居は5号住居のみで全体的に遺構密度は低く、それより東側に延びていく可能性は少ないものと思われる。このことから本調査区においては弧状を呈した集落形態が捉えられる。

埋設土器はⅡからⅣ層にかけて6基検出されている。本遺構に使用された土器は、1・5号は大木6式、3・4・6号は大木6～7a式に比定される。埋設土器の形態は、正立と斜位の2種類で、倒立したものは存在していない。基本的に埋設土器のみは4基、入れ子が確認できたのは1基、5点の石錘を埋納していたものが1基ある。自然科学分析結果からは動植物埋納していることが示唆された。以上のことから、基本的に大木6～7a式期と時間幅は認められないが、使用方法が共通していたと捉えられる。

配石遺構は6基検出され、所属時期を特定できる出土遺物はなく、検出層位から前期末から中期初頭に所属できる。配石の形態は3分類でき、一つないし複数礫を縦位に立石が3基、一つの礫を横位に配されているものが2基、複数の礫が散漫に配置されているものが1基である。検出層位から検討していくと、5・6号から1・2・3・4号へと移行し、一つの礫が立石する形態から複数礫の立石と一つの礫の横位の配石へと変化していくことが認められる。

調査区1区において上記の遺構を配置から検討してみると、住居が存在する空間と配石遺構や埋設土器などが形成され、土器も合わせて廃棄している空間があることを窺うことができる。この成果と北上市教育委員会により調査された周辺の成果と合わせて検討していくと、集落は大規模なものであると想定でき、集落南東部の様相の一部を明らかにできたものと思われる。

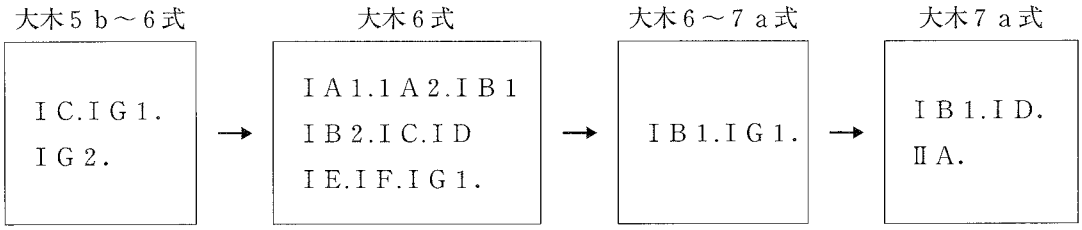


第194図　遺構配置図

2．土器

すべての遺構から3,096点、ＧＬ・M80グリッドを中心とした遺構外から42,687点、計45,783点出土している。遺構外の主な出土層位はⅢ層である。大木６式を中心として、大木２ｂ・５ｂ～７ｂ式及び円筒下層ｄ式が出土している。

器形が確認できた大木５ｂ～７ａ式にかけての資料と器種分類と合わせてまとめていく。



上記のように大木６式においては深鉢の器形にバラエティーがあるものの、７ａ式になると出土量との関係が存在していることを差し引いてもその差は見られなくなる。大木７ａ式においては比較的くびれが弱く口縁に向かってやや開くように立ち上がるものが増えるように思われる。しかし破片しかないため不明な点が多い。浅鉢は資料が少なく不明な点が多いが、器形は大木７ａ式以降に多様化していくと思われる。また、円筒下ｄ層式の資料が確認され、周辺の和光６区遺跡でも確認されている。これらの異系統土器の存在も稀有な事例として挙げられよう。

本遺跡では大木６式を中心として確認されたことから、それについてのみ言及していく。出土した大木６式の特徴は以下の通りである。

・口縁部は単頭・双頭突起の波状縁のものが多く、平口縁もがあるが外反気味に立ち上がる。その肥厚帯はどちらも幅が広い。

・口縁部には太い沈線と円形凹孔を組み合わせたものや凹孔列のみを有する。

・突起下に円形凹孔や円形粘土版、円形粘土塊を貼付。

・頸部の幅が広く、頸部文様帯に平行沈線による波状・鋸歯状沈線が複数列施文されている。

・体部には沈線文が施文され、ボタン状貼付文が施文されている。

最近の松田（2003）をはじめ、当該期の資料の細分研究が行われている。それらを参考にすると、本調査区の資料は古段階に相当する口唇部が鋸歯状を呈したり、三角印刻が施されている資料が少量であるが確認できるものの、上記に挙げたような特徴を示すような比較的中～新段階に相当する資料が主体である。今後は、滝ノ沢遺跡（北上市教育委員会）の成果及び周辺に存在する当該期の良好な成果が得られている遺跡と合わせて検討していくことで、本型式及びその前後の型式の様相がより明らかにされるものと思われる。

3．石器

1）石材環境

本遺跡においては、第12表に示したように各石器には複数の石材が使用されていることがわかった。本遺跡の石材環境を当該期の周辺遺跡を参考にしながらまとめていきたい。

剥片石器の石材は頁岩、珪質頁岩、赤色頁岩が主体で、凝灰岩や瑪瑙、黒曜石などの石材が量は多くはないものの存在している。礫石器の石材はデイサイト、安山岩等が主体を成す。頁岩類は原石が搬入され剥片が多く存在し、製品としても搬入していることから、遺跡周辺に頁岩産地が存在していたことが想定され、

剥片石器、礫石器の主要石材は石材獲得コストが低いと考えられる。また剥片石器の中での黒曜石は、出土頻度が極めて低い。産地同定により小赤沢と湯ノ倉産のものが存在することが明らかになった。小赤沢産のものは自然面を有する剥片が出土しており、黒曜石の中では本原産地が多く出土している。和賀町清水ヶ野遺跡においても同一産地のものが確認されている。湯ノ倉産は石鏃の製品としての搬入であり、剥片は1点のみである。このことからどちらも石材獲得のコストは高いものと思われるが、前者は本遺跡周辺には比較的容易に搬入されている状況が捉えられる。後者はデータそのものが少ないうえにほとんど存在していないことから、後者の獲得コストは前者と比べてより高いものと思われる。これと同様のことが久慈産の琥珀にも当てはまる。しかしながら、これらの石材が直接獲得か、間接的な獲得によるものかはここでは判断できない。

上述したように頁岩は、獲得コストが低いことは和賀川沿いに形成された周辺の遺跡において使用頻度が高いことから、この上流に頁岩の産地が存在していた可能性は高い。

参考までに周辺の遺跡の状況は下記の通りである。煤孫遺跡では、凝灰岩の使用頻度が高く泥岩（頁岩）の頻度は若干低い。礫器や石錘においても凝灰岩の使用頻度が高い。本遺跡周辺では凝灰岩も獲得しやすい状況にあることが窺える。鳩岡崎遺跡は剥片石器は本遺跡に似た傾向にあり泥岩（頁岩）の頻度が高くその他の石材頻度が低い。しかし礫器は煤孫遺跡と類似傾向にある。共通した石材同定がなされていないことから、正確なデータ提示でないことは否めないが、共通と相違の部分が存在していることが認められる。

上記のことをまとめてみると、以下の通りである。

・頁岩やデイサイト、安山岩などの剥片石器や礫石器の主要石材は獲得コストが低く容易に搬入できる状況にあること。

・湯ノ倉産黒曜石や久慈産琥珀など獲得コストの高いものが搬入されていること。ただし獲得方法についてはここでは判断できない。

今後は滝ノ沢遺跡とのデータを合わせて検討していくことと、周辺に当該期の遺跡が多数存在していることからそれらと比較していくことで、この地域一帯の石材環境を明らかにすることを課題としたい。

2）特殊磨石

特殊磨石（礫石器ⅩⅢ類）は本遺跡において遺構内から36点と遺構外から159点、計195点出土している。特殊磨石とは「やや細長くずんぐりした転石の側縁部の、断面でみると角ばった部分にのみ、集中して磨滅痕を残す。側縁部に角ばった部分がなければ磨いて作出する。」（八木1976）とある。本県においては、東北地方南半の大木型式の土器が出土する遺跡からは前期の始めからその存在を確認でき、中期中葉まで多く出土している。

本遺跡では磨面の状況及び敲打痕等の痕跡が認められたことから3分類している。1類は磨面の脇に剥離痕が確認されるもの、2類は磨り面のみで構成されているもの、3類は磨り面以外に敲打痕等の痕跡が認められるものである。磨面のみで形成されている2類が93点と最も出土量が多く、1類が46点、3類が56点である。各比で分布図を作成して検討したように本石器は敲石（Ⅰ類）の分布と一部重なる部分があるが、礫石器の分布範囲の中で基本的に本石器は他類とはほぼ異なる分布を示す。また敲石からの転用が多く存在することも先述している。

1類は磨面の両脇に剥離が確認され、先端に敲打痕が認められる3類と合わせて見ていくと、1・3類においては「敲く」という行為に対しての使用部位は異なるものの、その行為の後に「磨る」行為が行われている。これは単に磨るという行為の2類とは異なる作業工程によって生まれた結果と判断できる。また、前

者の中に稜を持ち僅かに磨面の形成が見られる石器が確認されている。このことは磨る以前に何らかの目的のために稜を形成するための剥離を行っていることを示唆するものである。この意図的に稜を形成するという行程から「切るないし敲く」行為が作業に含まれ、その後、「磨る」という行為が行われたと推測される。

先述したような八木氏（八木1976）の定義に従えば、本資料においては2類のみが相当する。ただし1・3類のように結果的に側縁部と先端部に敲打面ないし剥離面が形成され、最終的に磨面が形成されるという過程を捉えるならば、今後は特殊磨石の機能にバリエーションが存在することを含めて検討していく必要がある。これは同様の石材形状を使用し側縁部に剥離だけを形成するものや敲打のみを最終形態としているものが存在していないことからも、複数機能が連動した石器であると考えられる。

このことから1類からは「敲くないし切る」という行為と「磨る」という行為が一体となった石器であることが想定され、石材規模の選択及び稜が存在している形態のものを使用していることからも、特殊磨石は基本的には、表裏面に磨面が形成されている礫石器Ⅱ類とは異なる石器であると考えられる。ただし、本石器2類と側縁部のみに磨面が形成された磨石（礫石器Ⅱ類）や本石器1類と半円状打製石器とは、明確な区分が得られないものと現時点では思われる。

このように「特殊磨石」は、磨石（礫器Ⅱ類）の側面に形成された磨面と明確に区分できないものも存在しているが、磨石（礫石器Ⅱ類）と作業が異なる磨石であると考えたい。なぜなら「特殊磨石」には、定義されたような磨面だけ構成されたものでなく、それ以外に提示したような複数の作業工程が存在していることと、基本的に石材選択が行われていることなどから、他の礫石器とは明らかに区分できる要素を有しているからである。今後の課題としては、純粋に磨面が形成されている本石器2類と円礫の側面にのみ磨面が形成されている磨石と分離させていくことが挙げられる。また、半円状打製石器との関連性を考えていく必要もあろう。

本石器は東北地方において比較的時期を限定していることが窺えることから、何らかの生業等により生まれた磨石であると思われ、上述したことを踏まえ本石器の解釈を行っていくことを今後の課題としたい。

3）礫石器

本報告では礫石器を19分類した。それぞれにおいて、長幅比、長さと重量比、長幅指数と重量比の散布図を作成し各類の比較を行った結果、使用する礫に対して選択が行われている可能性があるのでまとめておく。なお、ⅩⅡ類については長幅指数と重量比しか提示できなかったことについては御容赦願いたい。（長幅指数＝長さ÷幅×100を使用している。）

①長幅比では、一部重なる部分があるがⅠ・Ⅱ・ⅩⅢ類の各類を中心として大きく3つのまとまりが確認できる。Ⅰ類の長さ100～150mm・幅40～60mm、Ⅱ類の長さ80～120mm・幅70～110mm、ⅩⅢ類の長さ130～200mm・幅50～90mmにそれぞれまとまりをみせる。これがすべてでないが僅かに互いのまとまりに分布するものもある。Ⅰ類と同じ傾向を示すのがⅤ類の一部とⅢ類の一部、Ⅱ類はⅢ類の一部とⅣ類とⅤ類の一部、Ⅶ類、Ⅷ類、ⅩⅢ類は一部Ⅰ類と重なるが他類とは重複することはない。

②長さと重量比では、それぞれ重なる範囲があるがⅠ・Ⅱ・ⅩⅢ類の各類を中心として3つのまとまりが確認できる。Ⅰ類は長さ50～160mm・重量100～600ｇ、長さ：重量は1：2～4である。Ⅱ類は長さ70～150mm・重量200～1300ｇ、長さ：重量は1：4～8.3である。ⅩⅢ類は長さ150～300mm・重量400～1000ｇ、長さ：重量は1：1.6～4である。Ⅰ類と同じ傾向を示すのがⅢ類の一部とⅤ類の一部とⅨ類、Ⅱ類はⅣ類とⅥ類とⅦ類とⅢ類の一部とⅤ類の一部及びⅠ類の一部、ⅩⅢ類はⅠ類の一部とⅢ類の一部が重なるが概ね他

類と重複することはない。

③長幅指数と重量比では、幾つか傾向が確認できる。Ⅰ類は長幅指数100～350・重さ500ｇ前後、指数：重量は１：1.2～1.3である。Ⅱ類は長幅指数100～150・重量200～1300ｇである。長幅指数はほぼ同じで重量だけが重くなっていく状態を示している。ⅩⅢ類は長幅指数150～300・重量400～1000ｇである。Ⅰ類と似た傾向を示すのはⅢ類の一部とⅤ類の一部である。Ⅱ類と同じような傾向を示しているのはⅠ類の一部とⅢ類の一部とⅣ類とⅦ類の一部Ⅴ類の一部、ⅩⅢ類は一部Ⅰ類と重さなるが他類とは重複することはなく、Ⅱ類とは長幅指数が異なるだけで平行している分布している。

上記のことから各散布図によりⅠ類、Ⅱ類、ⅩⅢ類を中心としたグループのまとまりが存在していることが言える。これら各類の使用する礫の規模の特徴を捉えられ、各作業に合わせて礫の形態が選択されていたことを意味するものと思われる。さらにこれらを踏まえて、石材の形態と使用痕跡から作業の連動性について考えていきたい。便宜的にそれぞれをＡ・Ｂ・Ｃ群としてまとめていく。

Ａ群は、Ⅰ類である。礫の形態は縦に細長い楕円形を呈し、ほぼ両端に小さな面を形成している。この類はⅠ類とⅢ類の一部とⅤ類を中心に使用されている。基本的にはこの石器に使用される礫は「敲く」という作業を主にした中で選択が行われている。

Ｂ群は、Ⅱ類である。礫の形態が表裏面において面的に平坦面を形成しており、基本的にはその平坦面において「磨る」という作業を主にした石材選択が行われていたと考えられる。その作業に「敲打痕」・「凹痕」・「溝痕」が形成されていることから、複数の作業行為が連動する。この群はⅡ類を中心としⅢ類一部、Ⅳ・Ⅶ・ⅩⅡ類に使用されており、これは「磨る」以外に「敲くや削る」という作業が行われる石器である。特に、「敲く」という行為にＡ群とは異なる「敲く」という行為が存在していたと思われる。このことはⅠ類とⅡ類では敲打痕が形成される面にも違いがあり、前者が小さい面や端部を中心で、後者はほぼ側面として面的な広がりが見られていることから、その行為に違いが存在していることを示唆できる。本類は最も幅広い作業行為に適したものと捉えることができる。

Ｃ群は、ⅩⅢ類である。礫の形態は縦に長く複数の側縁部を形成しており、その側縁部を作業面として使用し「磨る」という作業を意識した中で選択されている。本類は明らかに上述していた作業以外の行為を目的として礫が選択されていることを窺える。ただし敲打痕については特殊磨石の項で述べたが、それらは礫石器Ⅰ類の礫の分布と重複し、同じ規模の礫選択が行われているものが含まれていることからも、ある程度本群においても連動した礫選択の結果と裏付けられる。

また、Ａ・Ｂ群の両者に跨るⅢ類は、礫の平坦面に凹痕が形成されているので平坦面が存在すれば良いものと思われ、積極的な礫選択が行われていない。本類のみで構成されているものが存在していることは、作業行為として「面で敲く」という作業行為は確立している。両群に跨っていることから基本的に他との作業行為と連動しやすく、それに合わせて礫選択が行われていたと考えられる。

上記のように礫を選択した時点において連動した作業工程、また「敲く」や「磨る」という作業行為に異なる対象物が存在していたことが想定できる。ただしこのことは、「礫の形態＝作業工程」というように直結させることには問題があることも否定できないが、少なくとも上述したような作業行為を連動させるために礫選択が行われていたことは考えられる。今後は池谷氏（池谷2003）が行っている使用痕分析と今回行ったような分類と合わせて検討することで、より礫石器の属性を明らかにしていく必要があるものと思われる。

4）使用痕分析

本遺跡の資料において多くの光沢を有する石器を確認することができた。当初は分類最中に複数器種及びそれらの細分した中から認められ、それらの使用痕跡に違いが見られるかというところから始まっている。担当者自身が使用痕観察は始めてであったため、当センターの米田氏に指導・協力を得ながら行った。使用痕が確認できたものは30点であり、内訳は篦状石器12点、石錐１点、スクレイパー７点、石匙10点である。分析にあたっては、御堂島（1986）を使用しており、使用痕光沢面や線状痕のパターンの観察についてもそれに従って行うこととした。本来ならばそれらの記載を行わなければならないが、ここでは省略し、その結果及びそれらから得られたことのみをまとめておく。なお機能推定までには至らなかったため、表の一覧への記載は今回行わなかった。使用痕の観察には実体顕微鏡（ＯＬＹＭＰＵＳ　Ｃ－35Ａ）を用い、40倍で観察を行い写真撮影を行った。

観察結果

資料１　336。検討部位は石錐の刃部先端である。小～極小の微細剥離痕、線状痕が刃部方向に平行して見られるが、ポリッシュは検討されていない。

資料２　1005。検討部位は石篦刃部の裏面である。刃部には弱い光沢のポリッシュが見られる。中～極小の微細剥離痕、刃部に直交する線状痕が観察される。

資料３　1006。検討部位は石篦刃部の裏面である。部位にはＢタイプポリッシュが見られる。中～小の微細剥離痕、刃部に直交・平行する線状痕が確認される。

資料４　999。検討部位は石篦刃部の表面である。側縁部に近い部分にＢタイプポリッシュが見られる。中～極小の微細剥離痕、刃部に直交する線状痕が確認されている。

資料５　998。検討部位は石篦刃部の表面である。部位にはＤタイプポリッシュが見られ、それらは表面の高い所に分布している。中～極小の微細剥離痕、刃部に直交・斜行する線状痕が確認されている。

資料６　1001。検討部位は石篦基部の表面である。検討部位には弱い光沢のポリッシュが見られる。中～極小の微細剥離痕、刃部に直交する線状痕が確認されている。

資料７　1011。検討部位は石篦刃部の表裏面である。検討部位には弱い光沢のポリッシュが見られる。中～極小の微細剥離痕、刃部に直交する線状痕が確認されている。

資料８　314。検討部位は石篦刃部の表面である。検討部位には弱い光沢のポリッシュが見られる。中～極小の微細剥離痕、刃部に直交する線状痕が確認されている。

資料９　1013。検討部位は石篦刃部の裏面である。検討部位にはＢタイプポリッシュが見られる。中～小の微細剥離痕、刃部に直交・斜行する線状痕が確認されている。

資料10　1008。検討部位は石篦刃部の表面である。検討部位にはポリッシュは見られないものの、小～極小の微細剥離痕、刃部に直交する線状痕が確認されている。

資料11　1003。検討部位は石篦刃部の表面である。検討部位にはＢタイプ（？）ポリッシュが見られる。中～小の微細剥離痕、刃部に直交する線状痕が確認されている。

資料12　1004。検討部位は石篦刃部の裏面である。検討部位には縁辺に弱い光沢のポリッシュが見られる。小～極小の微細剥離痕、刃部に直交する線状痕が確認されている。

資料13　1014。検討部位は石篦刃部の裏面と左側縁部裏面である。それぞれ検討部位には弱い光沢のポリッシュが見られる。前者には中～小の微細剥離痕、刃部に直交する線状痕、後者には小～極小の微細剥離痕、刃部に平行する線状痕が見られる。

資料14　19。検討部位は石匙刃部の裏面である。検討部位には縁辺に弱い光沢のポリッシュが見られる。小～極小の微細剥離痕、刃部に平行する線状痕が確認されている。

資料15　1040。検討部位は石匙刃部の裏面である。検討部位には磨滅が激しい状況と縁辺に弱い光沢のポリッシュが見られる。中～極小の微細剥離痕、刃部に直交・斜行する線状痕が確認されている。

資料16　1026。検討部位は石匙刃部の裏面である。検討部位には縁辺に弱い光沢のポリッシュが見られる。中～極小の微細剥離痕、刃部に直交する線状痕が確認されている。

資料17　1023。検討部位は石匙刃部の裏面である。検討部位には弱い光沢のポリッシュが刃部に平行して見られる。小～極小の微細剥離痕、刃部に平行する線状痕が確認されている。

資料18　255。検討部位は石匙刃部の裏面である。検討部位には弱い光沢のポリッシュが見られる。小～極小の微細剥離痕、刃部に平行する線状痕が確認されている。

資料19　195。検討部位は石匙刃部の裏面である。検討部位の縁辺には弱い光沢のポリッシュが見られる。中～極小の微細剥離痕、刃部に斜行する線状痕が確認されている。

資料20　22。検討部位は石匙刃部の裏面である。検討部位の縁辺には弱い光沢のポリッシュが見られる。小～極小の微細剥離痕、刃部に平行・斜行する線状痕が確認されている。

資料21　1041。検討部位は石匙刃部の裏面である。検討部位には丸味帯びた光沢でＢタイプポリッシュと思われるものが見られる。中～小の微細剥離痕、刃部に平行・斜行する線状痕が確認されている。

資料22　1022。検討部位は石匙刃部の裏面である。検討部位の縁辺には弱い光沢のポリッシュが見られる。中～極小の微細剥離痕、刃部に平行する線状痕が確認されている。

資料23　1033。検討部位は石匙刃部の裏面である。検討部位の縁辺には弱い光沢のポリッシュが見られる。大～極小の微細剥離痕、刃部に平行する線状痕が確認されている。

資料24　29。検討部位はスクレイパーの表面である。検討部位には丸味帯びたＢタイプポリッシュが見られる。中～極小の微細剥離痕、刃部に直交・平行する線状痕が確認されている。

資料25　1067。検討部位はスクレイパーの裏面である。検討部位はＥタイプポリッシュが見られる。中～極小の微細剥離痕、刃部に平行・斜行する線状痕が確認されている。

資料26　1079。検討部位はスクレイパーの裏面である。検討部位にはにぶい光沢が見られる。中～小の微細剥離痕、刃部に直交・斜行する線状痕が確認されている。

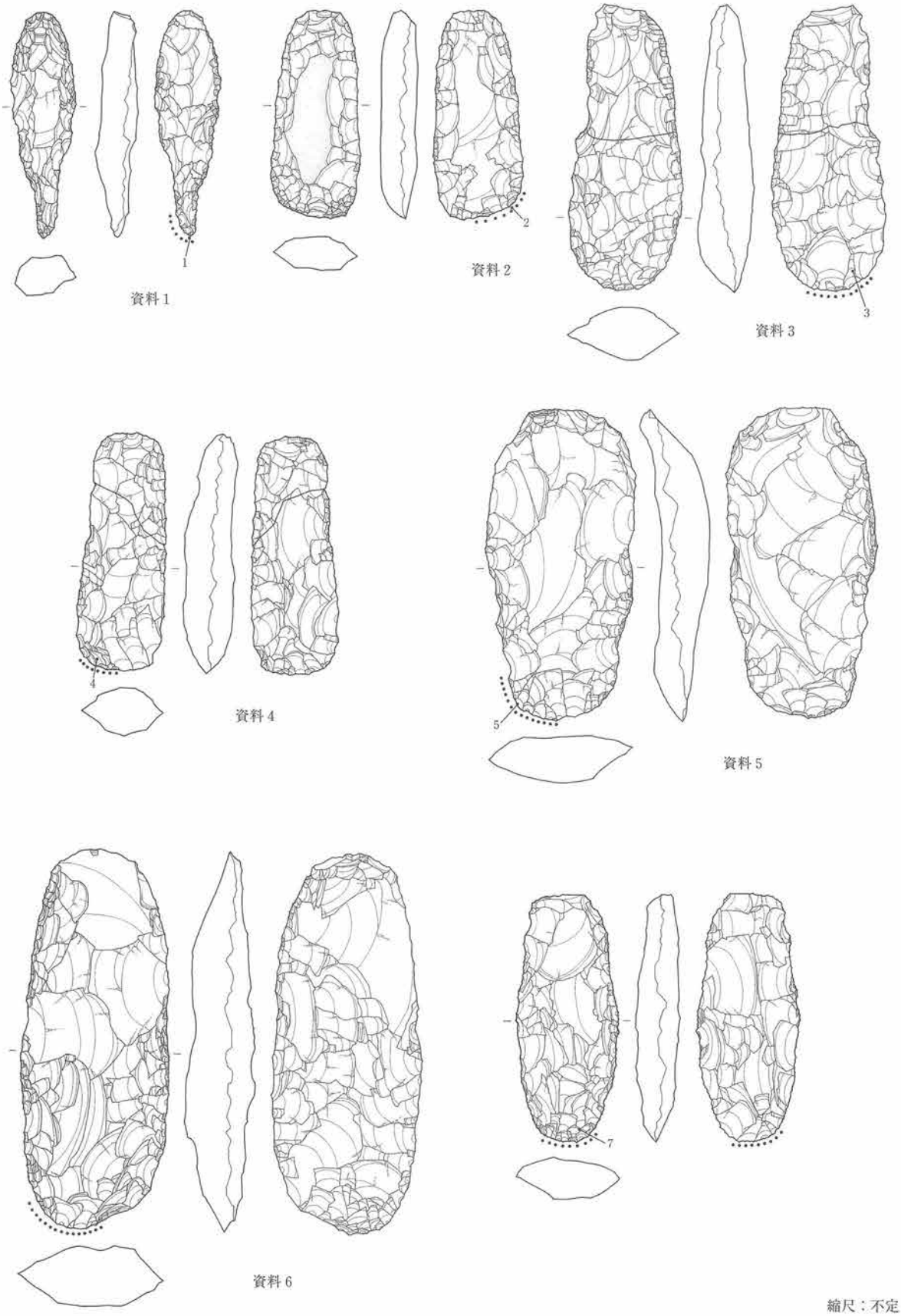
資料27　1099。検討部位はスクレイパーの裏面である。検討部位には弱い光沢が見られる。大～極小の微細剥離痕、刃部に直交・斜行する線状痕が確認されている。

資料28　1078。検討部位はスクレイパーの裏面である。検討部位には弱い光沢が見られる。大～小の微細剥離痕、刃部に直交・斜行する線状痕が確認されている。

資料29　1091。検討部位はスクレイパーの裏面である。検討部位には弱い光沢が見られる。大～小の微細剥離痕、刃部に平行する線状痕が確認されている。

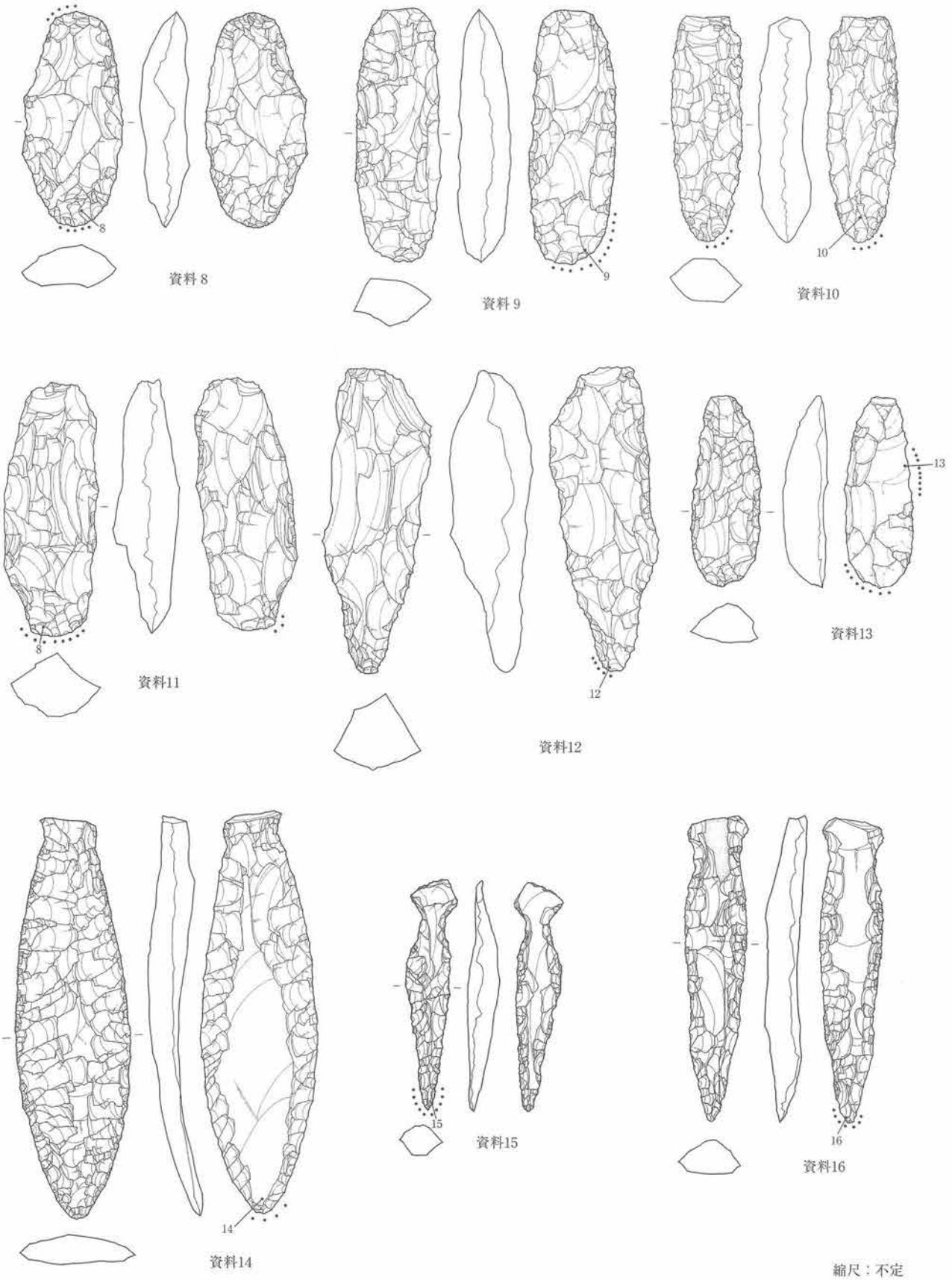
資料30　44。検討部位は不定形石器の裏面である。検討部位の縁辺には弱い光沢が見られる。中～小の微細剥離痕、刃部に直交する線状痕が確認されている。

掲載No	使用部位	微細剥離痕				線状痕		ポリッシュ	備考
		分布	大きさ	平面形	断面形	主方向	主タイプ		
資料1	裏面	B	小～極小	Sca.Rec.	Fea.Ste.	直行	a.b		
資料2	裏面	B	中～極小	Irr.Tri.Tra.	Hin.Ste.	直行	b		
資料3	裏面	C	中～小	Irr.Tra.Rec.	Hin.Ste.	直行・平行	a.b	B	
資料4	表面	C	中～極小	Irr.Tra.Rec.	Fea.Hin.Ste.	直行	b		
資料5	表面	C	中～極小	Irr.Rec.	Fea.Hin.Ste.	直行・斜行	b	D	
資料6	表面	C	中～極小	Irr.Tra.	Hin.Ste	直行	b		
資料7	表面	C	中～極小	Irr.Scr.Rec.	Hin.Ste	直行	b		
資料8	表面	C	中～極小	Irr.Scr.Tra.	Fea.Ste.	直行	a.b		
資料9	裏面	B	中～小	Irr.Tra.Rec.	Hin.Ste.	直行・斜行	b	B	
資料10	裏面	B	小～極小	Irr.Tra.Rec.	Hin.Ste.	直行	b		
資料11	表面	C	中～小	Irr.Tra	Hin.Ste.	直行	b	B？	
資料12	裏面	B	小～極小	Irr.Tri.	Hin.Ste.	直行	b		
資料13	裏面	B	小～極小	Scr.Rec.	Fea.Hin.	平行	b		
資料14	裏面	C	小～極小	Irr.Tri.Rec.	Fea.Hin.Ste.	平行	b		
資料15	表面	B	中～極小	Irr.Tra	Hin.Ste.	直行・斜行	b		
資料16	裏面	C	中～極小	Irr.Tra.Rec.	Hin.Ste.	直行	b		
資料17	裏面	C	小～極小	Scr.Rec.	Fea.Hin.Ste.	平行	b		
資料18	裏面	D	小～極小	Scr.Rec.	Fea.Hin.	平行	b		
資料19	裏面	C	中～極小	Irr.Scr.	Fea.Hin.	斜行	a.b		
資料20	裏面	D	小～極小	Irr.Tri.Scr.	Fea.Hin.	平行・斜行	b		
資料21	裏面	D	中～小	Scr.Tra.Rec.	Fea.Hin.	平行	a	B	
資料22	裏面	C	中～極小	Scr.Tra.Rec.	Fea.Hin.	平行	b		
資料23	裏面	C	大～極小	Irr.Sca.Tra.	Fea.Hin.	平行	a.b		
資料24	表面	C	中～極小	Irr.Tra.Rec.	Fea.Hin.Ste.	直行	b	B	
資料25	裏面	D	中～極小	Irr.Rec.	Fea.Hin.	平行・斜行	a.b	E	
資料26	裏面	C	中～小	Irr.Sca.Tra.	Fea.Hin.	直行・斜行	a.b		
資料27	裏面	C	大～極小	Irr.Tra	Fea.Hin.Ste.	直行・斜行	a.b		
資料28	裏面	D	大～小	Irr.Sca.	Fea.	直行・斜行	b		
資料29	裏面	C	大～小	Irr.	Fea.	平行	b		
資料30	裏面	B	中～小	Irr.Tra	Hin.Ste.	直行・斜行	b		



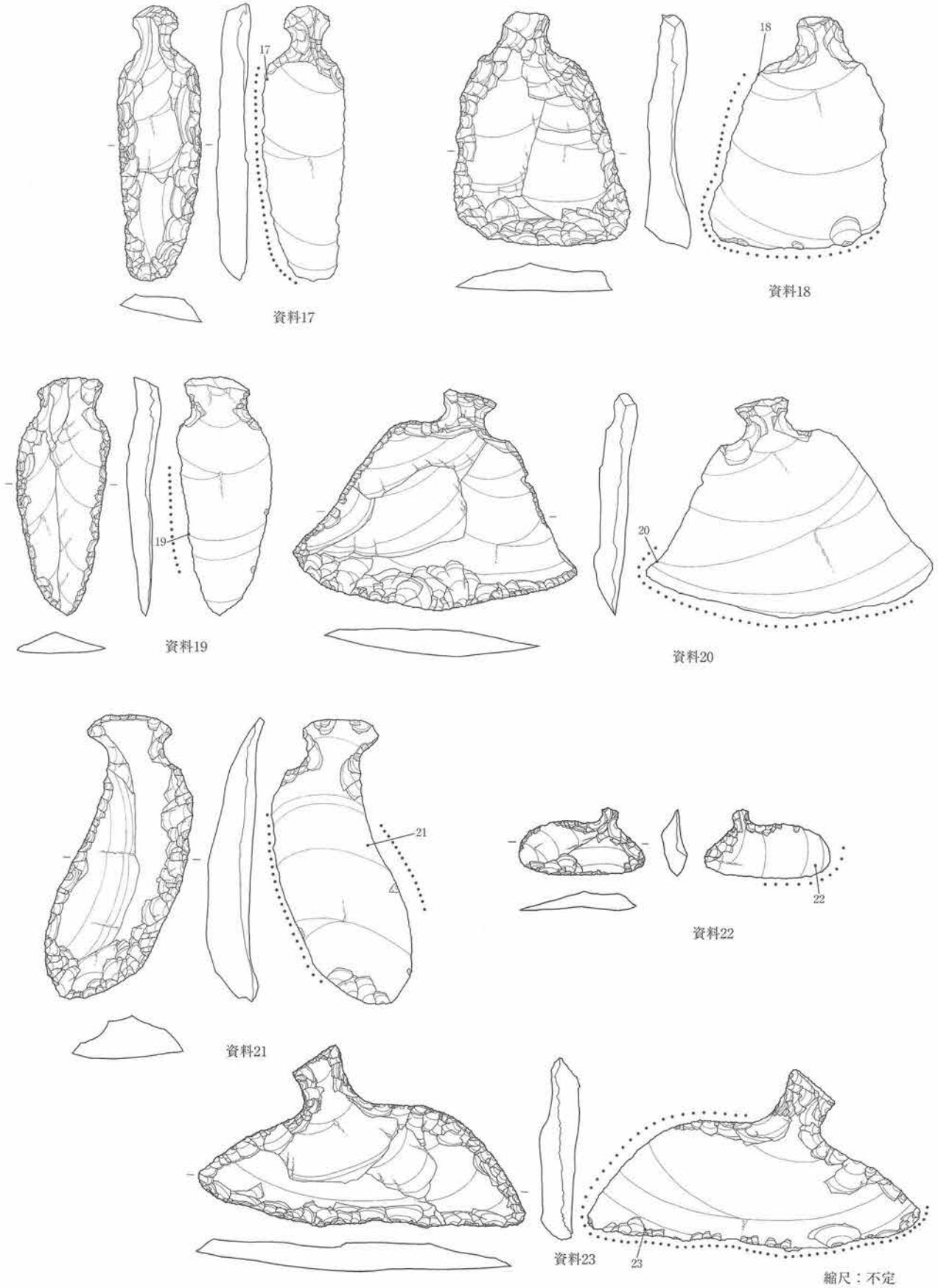
縮尺：不定

第195図　使用痕分析



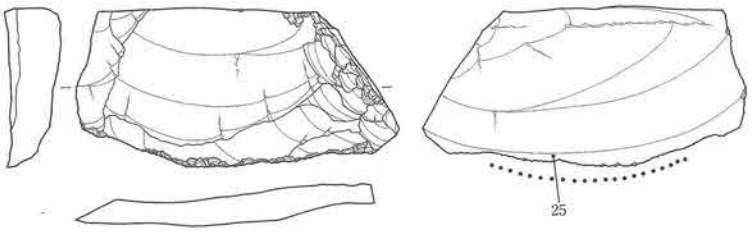
縮尺：不定

第196図　使用痕分析

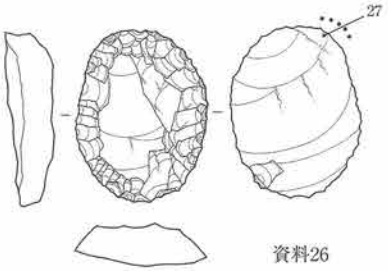


第197図　使用痕分析

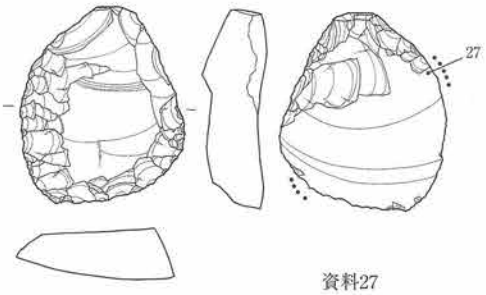
資料24



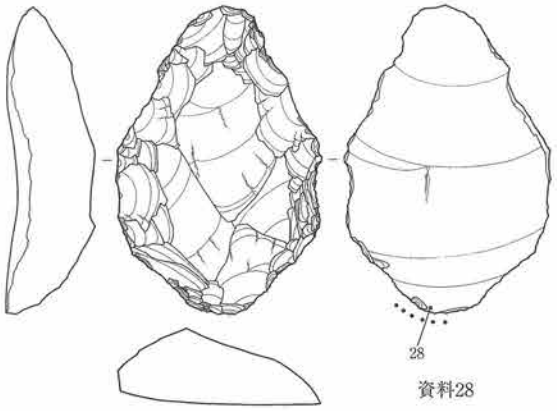
資料25



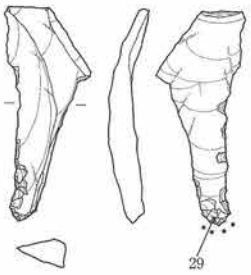
資料26



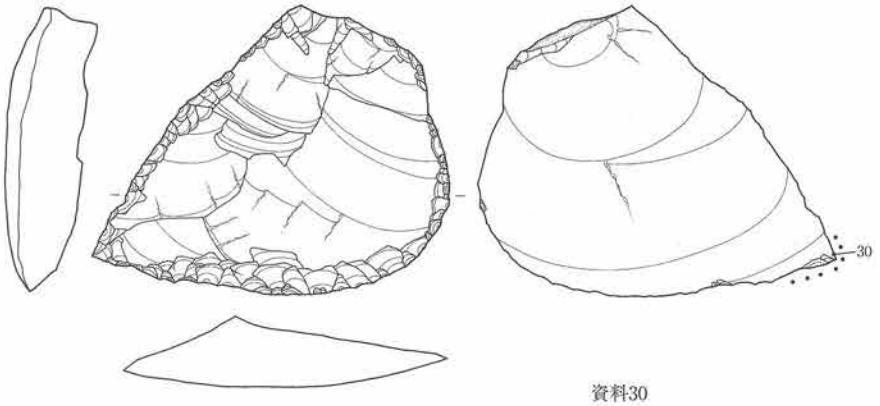
資料27



資料28



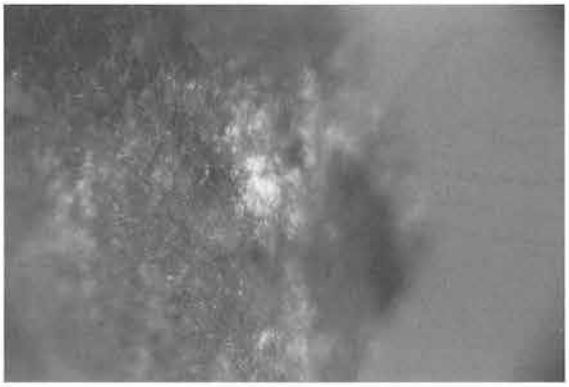
資料29



資料30

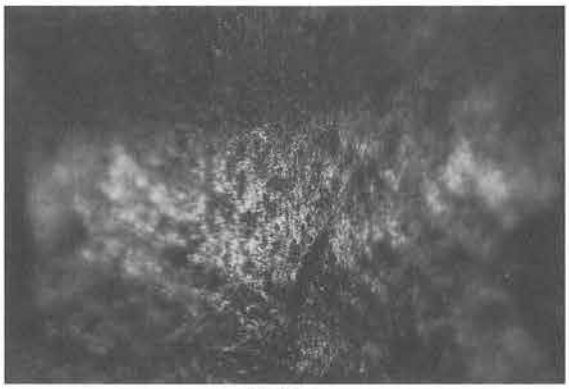
縮尺：不定

第198図　使用痕分析

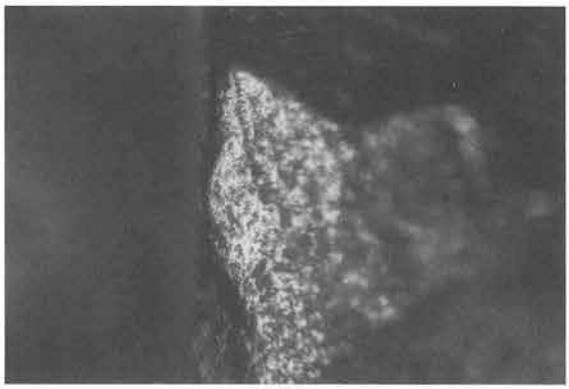


資料 1

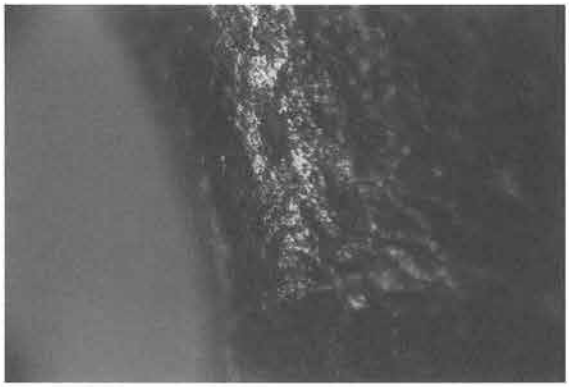
資料 2



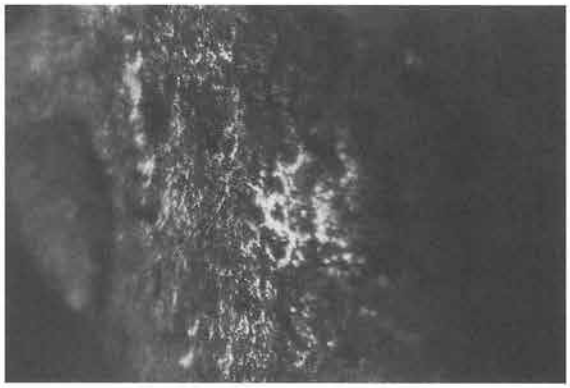
資料 3



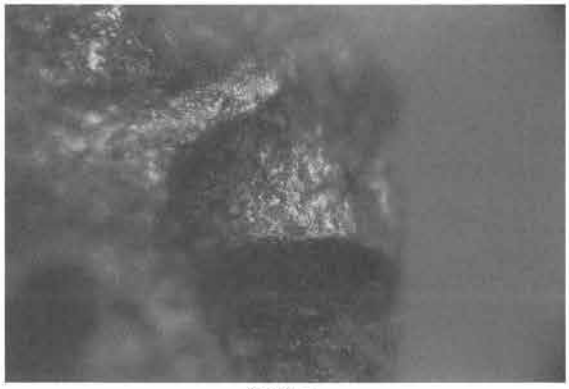
資料 4



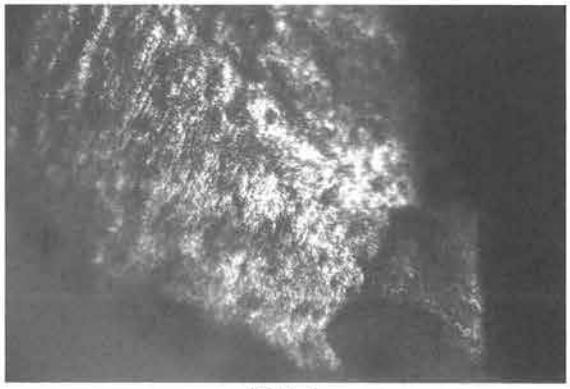
資料 5



資料 6



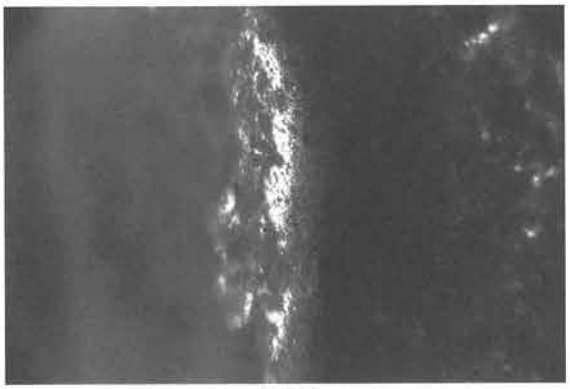
資料 7



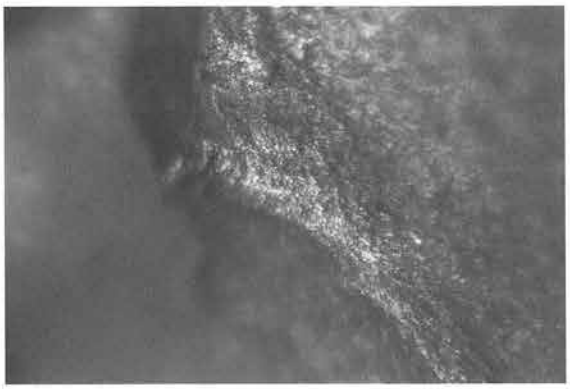
資料 8

0 1mm

写真図版 1

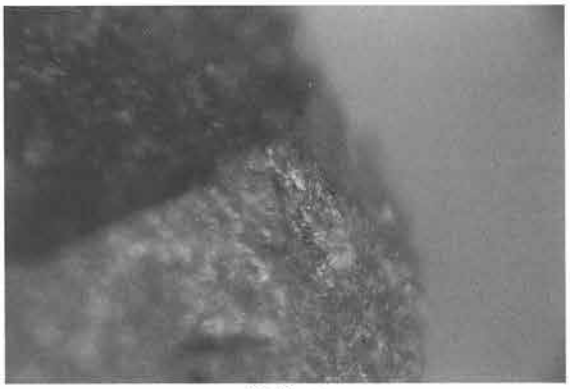


資料 9

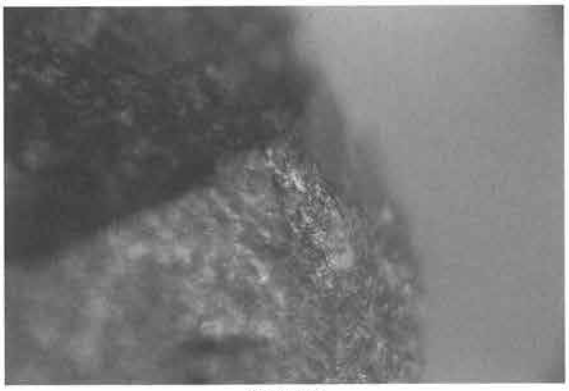


資料10

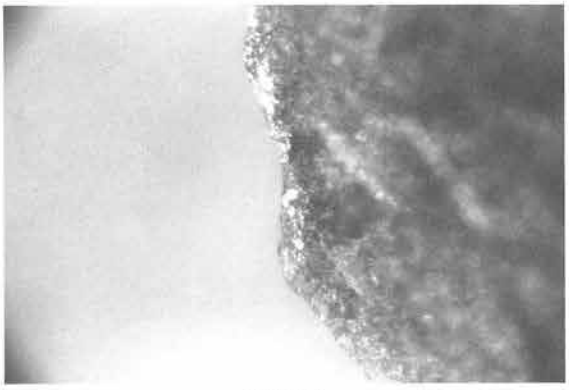
資料11



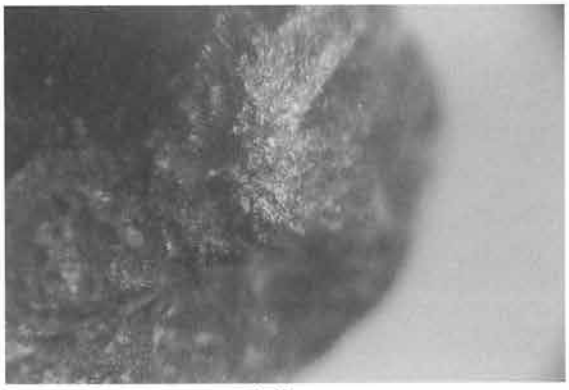
資料12



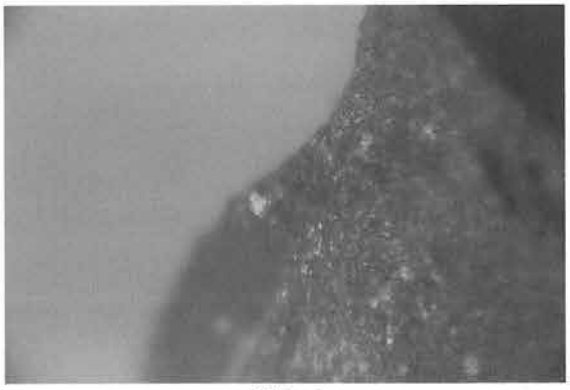
資料13



資料14



資料15

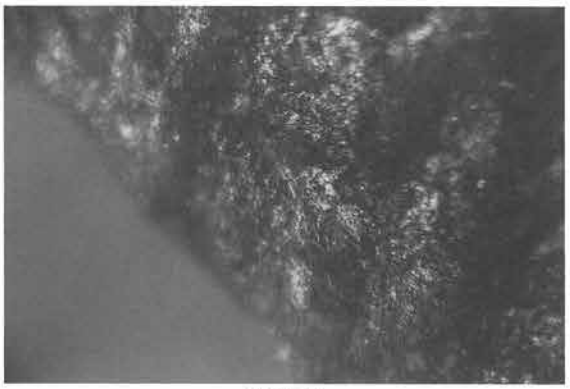


資料16

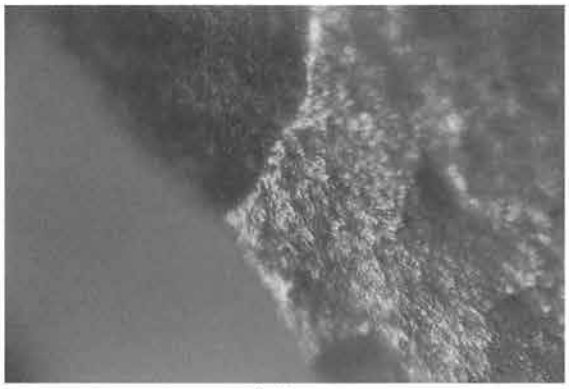
0 1mm

写真図版 2

資料17

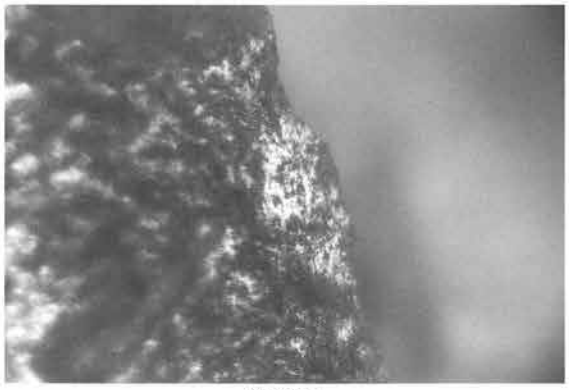


資料18



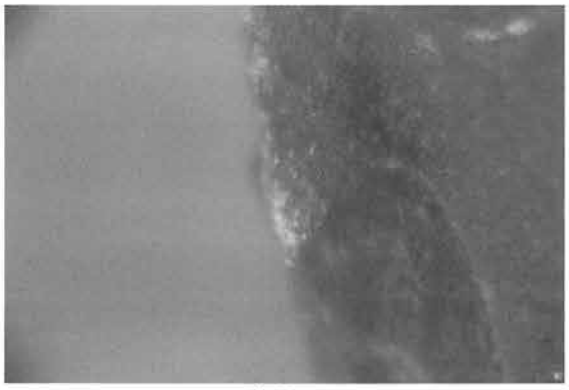
資料19

資料20

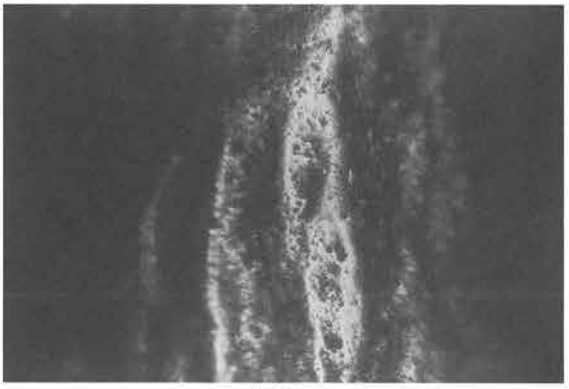


資料21

資料22



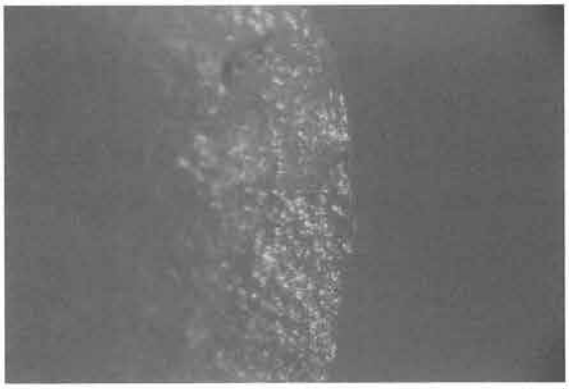
資料23



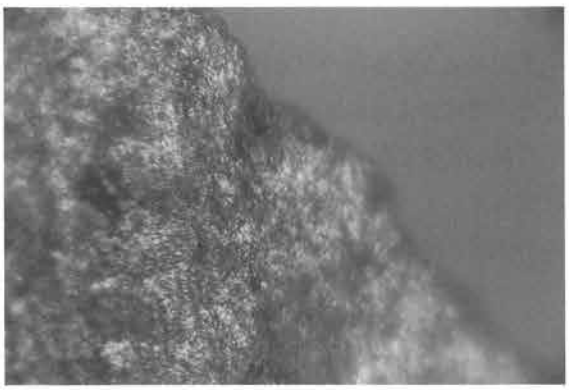
資料24

0 1mm

写真図版 3



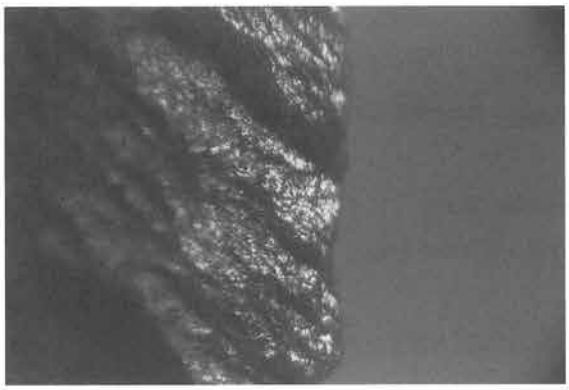
資料25



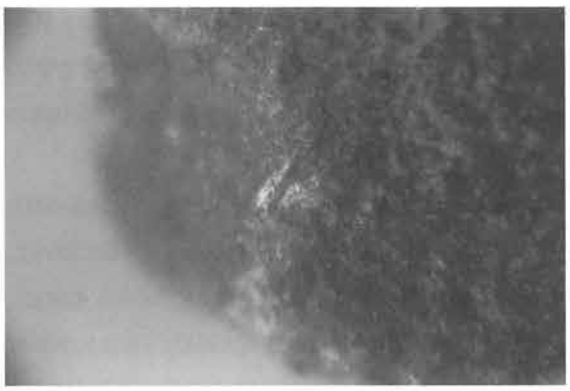
資料26

資料27

資料28



資料29



資料30

0 1mm

写真図版 4

まとめ

上記のように多数の使用痕を他器種にわたり確認することができたことから、本来の目的は各石器の細分した中で異なる使用痕を観察できるかという問題のもとに今回の観察を行った。しかし、前述したようなことに対して全く捉えられず、上記のような中途半端な提示に留まり、本来の目的に達することなくまとめるに至ってしまった。今後は金属顕微鏡を使用しこれらの観察を継続していくことで、各器種の細分した中での形態差と作業行為との関連性について検討していきたい。

参考文献

(ここでは財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターを岩文埋とする。)

阿子島香 1984「不定形石器分析の視点」第47巻第３・４号

阿子島香1989『石器の使用痕』ニューサイエンス社

阿部朝衛1985「縄文時代石器研究の視点と方法」『法政考古学』第10集

阿部朝衛1985「多面体を呈する敲石　再論」『帝京史学』第５号

後藤秀一「縄文時代石器研究の基礎作業」『考古学論叢』　芹沢長介先生還暦記念論文集刊行会編

鈴木道之助1990『石器入門事典　縄文』柏書房

梶原洋・阿子島香1981「頁岩製石器の実験使用痕研究」『考古学雑誌』67－１

梶原洋1982「石匙の使用痕分析ー仙台市三神峯遺跡出土資料を使ってー」『考古学雑誌』68－２

興野義一1984「大木式土器について」『宮城県の研究１考古学編』清文堂

興野義一1969「大木式土器理解のために（Ⅴ）」『考古学ジャーナル』32ニューサイエンス社

興野義一1979「大木式土器理解のために（Ⅵ）」『考古学ジャーナル』48ニューサイエンス社

小笠原好彦1968「東北南部における前期末から中期初頭の縄文式土器」『仙台湾周辺の考古学的研究』宮城県教育大学歴史研究会編

小笠原好彦1984「縄文時代前・中期の土偶」『宮城県の研究１考古学編』清文堂

稲野彰子1991「大木式土器に見られる球胴形深鉢について」『北上市立博物館研究報告』第８号

熊谷常正1997「岩手県の土偶」『土偶研究の地平』勉誠社

熊谷常正19947「岩手県内出土土偶の概要」『東北北海道の土偶、シンポジウム発表要旨』

加藤孝1956「宮城県登米郡新田村糠塚貝塚」『新田村史』

草間俊一他1974『水沢市史』

白鳥良一1989「前期大木式土器様式」『縄文土器大観』小学館

丹羽茂「大木式土器」『縄文文化の研究』２

松田光太郎2003「大木６式の変遷とその地域性」『神奈川考古』第39号

茅野嘉雄2000「南郷村畑内遺跡出土のすり石について」研究紀要第５号

堀江武1982「耳飾の分類と製作工具に関して」『國學院資料館紀要』第８輯

藤沼邦彦他1969『埋蔵文化財緊急発掘調査概報－長根貝塚』宮城県教育委員会

七飯町教育委員会1979『峠下聖山遺跡』

新潟県教育委員会1992『関越自動車道関係発掘調査報告書　五丁歩遺跡　十二木遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第57集

北上市教育委員会1987『滝ノ沢遺跡』
北上市教育委員会1990『滝ノ沢遺跡Ⅱ』
北上市教育委員会1991『滝ノ沢遺跡Ⅲ』
北上市教育委員会2000『滝ノ沢遺跡Ⅴ』
岩文埋1982『御所ダム建設関連遺跡発掘調査報告書　雫石町塩ヶ森Ⅰ・Ⅱ遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書31集
岩文埋1987『和光６区遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書114集
岩文埋1992『本郷遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書164集
岩文埋1996『鳩岡崎上の台遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書240集
岩文埋1994『煤孫遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書196集
岩文埋2001『清水ヶ野遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書351集
岩文埋2003『新田遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書405集
南北海道考古学情報交換会20周年記念シンポジウム実行委員会1999『北日本における縄文時代の墓制資料』
秋田県教育委員会1988『上の山Ｃ遺跡』秋田県文化財調査報告書第166集
岩手県教育委員会1982『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書（江釣子村鳩岡咲崎遺跡）』岩手県文化財調査報告書第70集
松本茂他1991『東北横断自動車道遺跡調査報告書11　法正尻遺跡』福島県文化財センター
相原淳一他1987『七ヶ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書Ⅲ　小梁川遺跡』宮城県教育委員会

写　真　図　版

調査区１区全景（南から）

１号竪穴住居完掘（北東から）

写真図版１　調査全景

1 号埋設土器

3 号埋設土器

5 号埋設土器

6 号埋設土器

土偶出土状況

写真図版 2　遺物出土状況

遺構内出土土器

遺構外出土土器

写真図版 3　出土土器

写真図版 4 出土土偶（上：表面、下：裏面）

調査前風景

トレンチ掘削状況

写真図版５　調査前風景

調査区南端完掘

調査区 4 区完掘

写真図版 6　調査区完掘状況

調査区３区完掘

調査区１区南端完掘

写真図版７　調査区完掘状況

調査区１区Ⅱ層遺物出土状況

調査区１区完掘

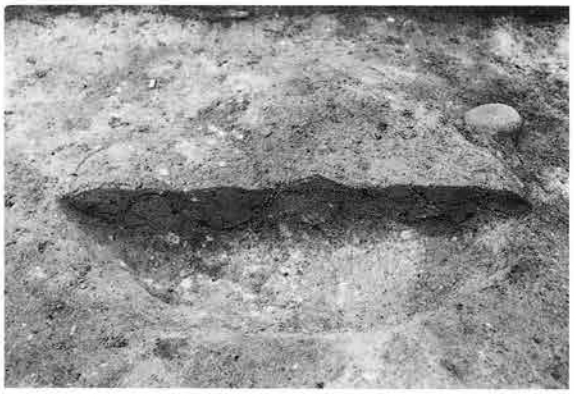
写真図版８　遺物出土状況・完掘状況

1号竪穴住居完掘

1号竪穴住居断面

1号竪穴住居平面

地床炉検出



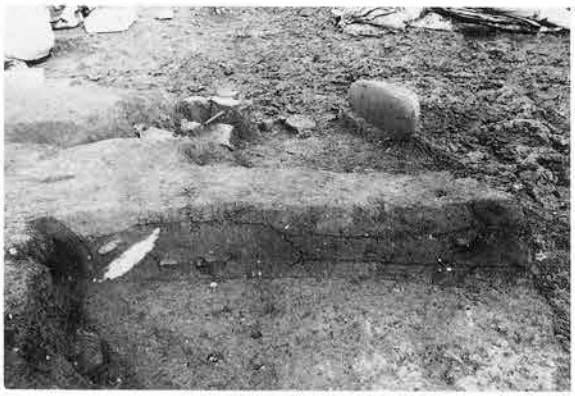
地床炉断面

写真図版9　1号竪穴住居

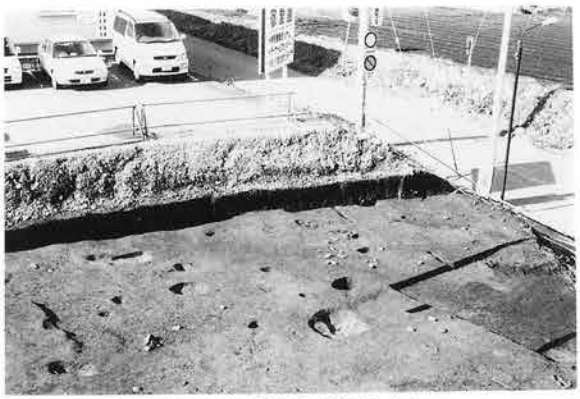
4 号竪穴住居完掘

4 号竪穴住居断面

5 号竪穴住居完掘



5 号竪穴住居断面



3 ・ 4 号竪穴住居完掘

1 号埋設土器検出

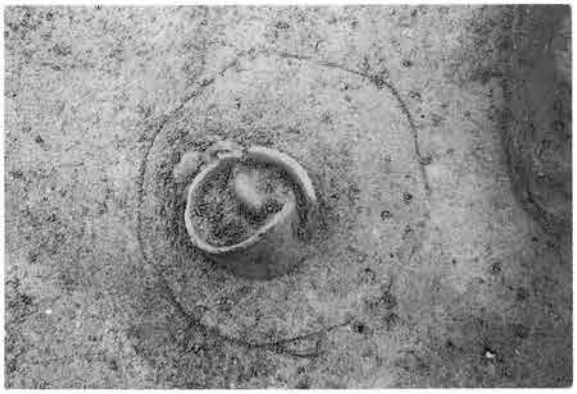
1 号埋設土器入れ子検出

1 号埋設土器断面

写真図版10　竪穴住居・1 号埋設土器

3 号埋設土器検出

3 号埋設土器断面



4 号埋設土器検出

4 号埋設土器断面

5 号埋設土器検出

5 号埋設土器断面

6 号埋設土器検出

6 号埋設土器断面

写真図版11　3 ～ 6 号埋設土器

1 号配石遺構検出

1 号配石遺構断面

2 号配石遺構検出

2 号配石遺構断面

3 号配石遺構検出

3 号配石遺構断面

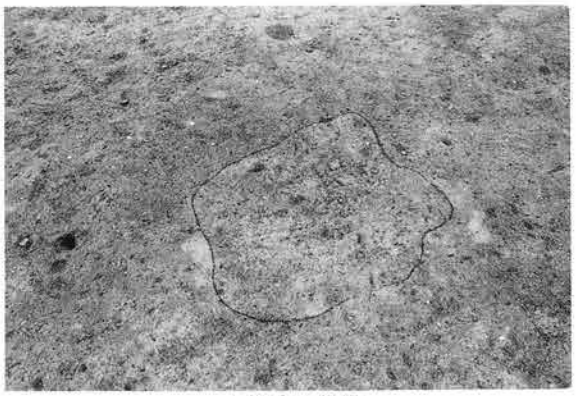
4 号配石遺構検出

4 号配石遺構断面

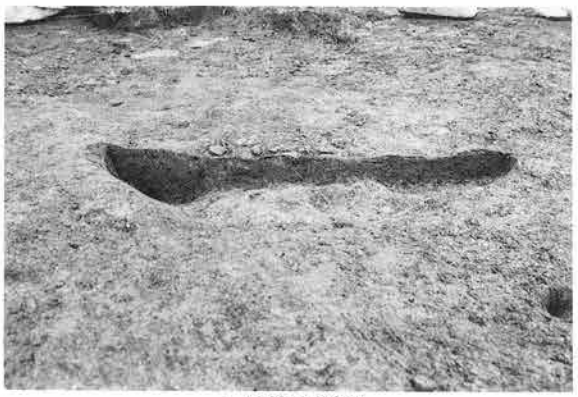
写真図版12　1 ～ 4 号配石遺構

4 号配石遺構完掘

5 号配石遺構断面



1 号焼土検出

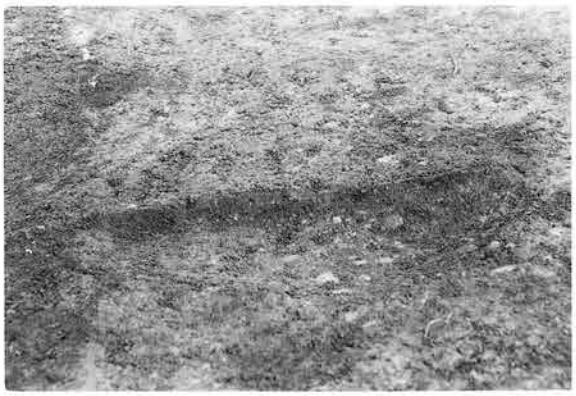


1 号焼土断面

2 号焼土検出

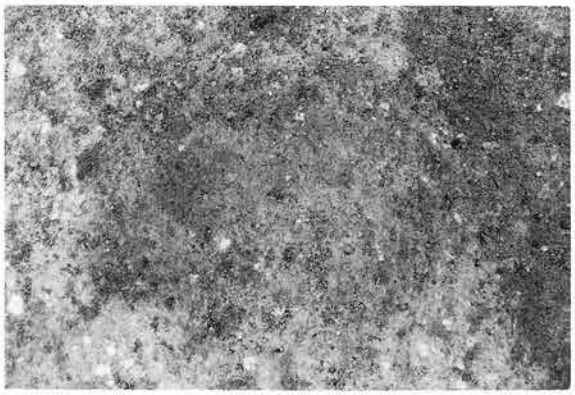
2 号焼土断面

4 号焼土検出

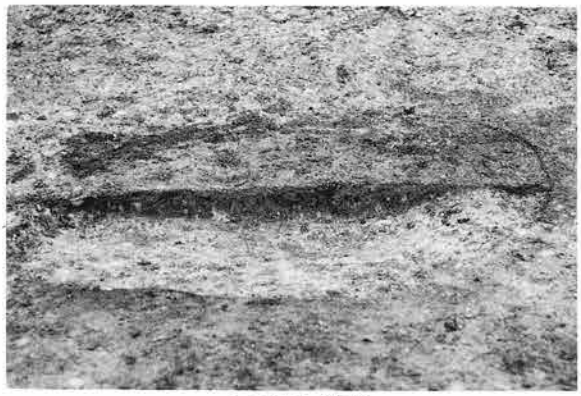


4 号焼土断面

写真図版13　4 号配石遺構・1～4 号焼土



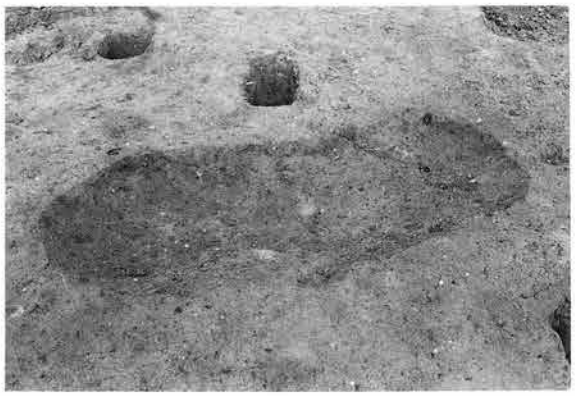
5 号焼土検出



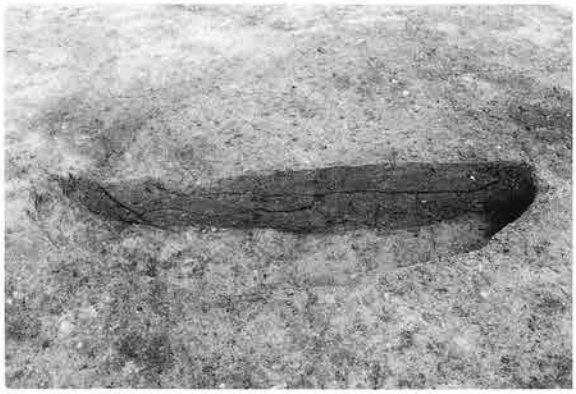
5 号焼土断面

1 号陥し穴検出

1 号土坑完掘

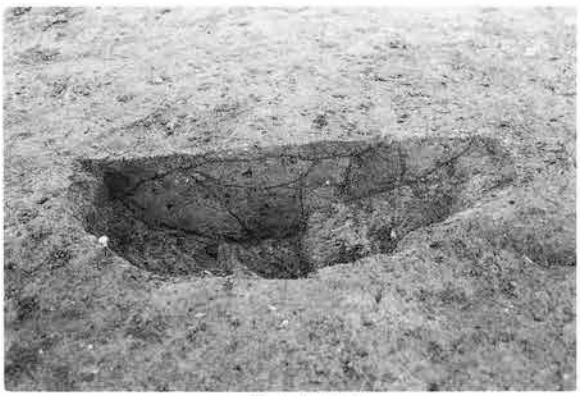


2 号土坑完掘



2 号土坑断面

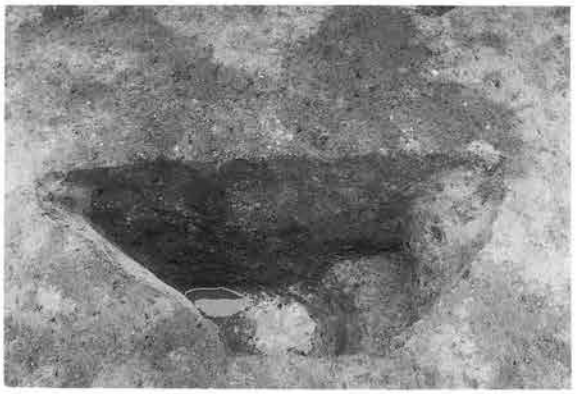
3 号土坑完掘



3 号土坑断面

写真図版14　焼土・陥し穴・土坑

4 号土坑完掘

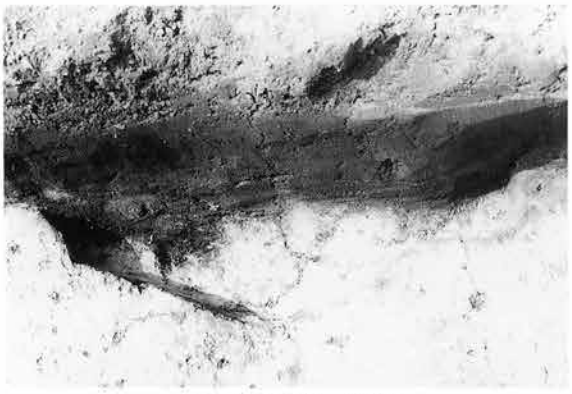


4 号土坑断面

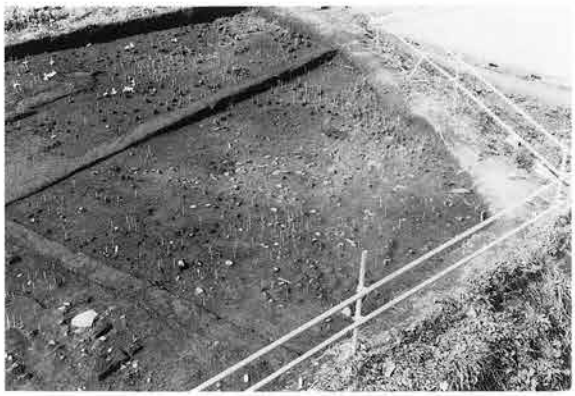
5 号土坑完掘

調査区 1 区柱穴群完掘

1 号溝断面



6 号土坑完掘・断面



Ⅱ層出土状況

Ⅱ層出土状況

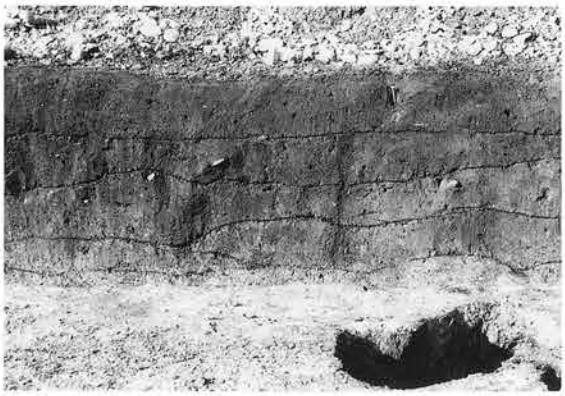
写真図版15　土坑・溝・遺物出土状況

遺構外土器出土状況

遺構外土器出土状況

遺構外土器出土状況

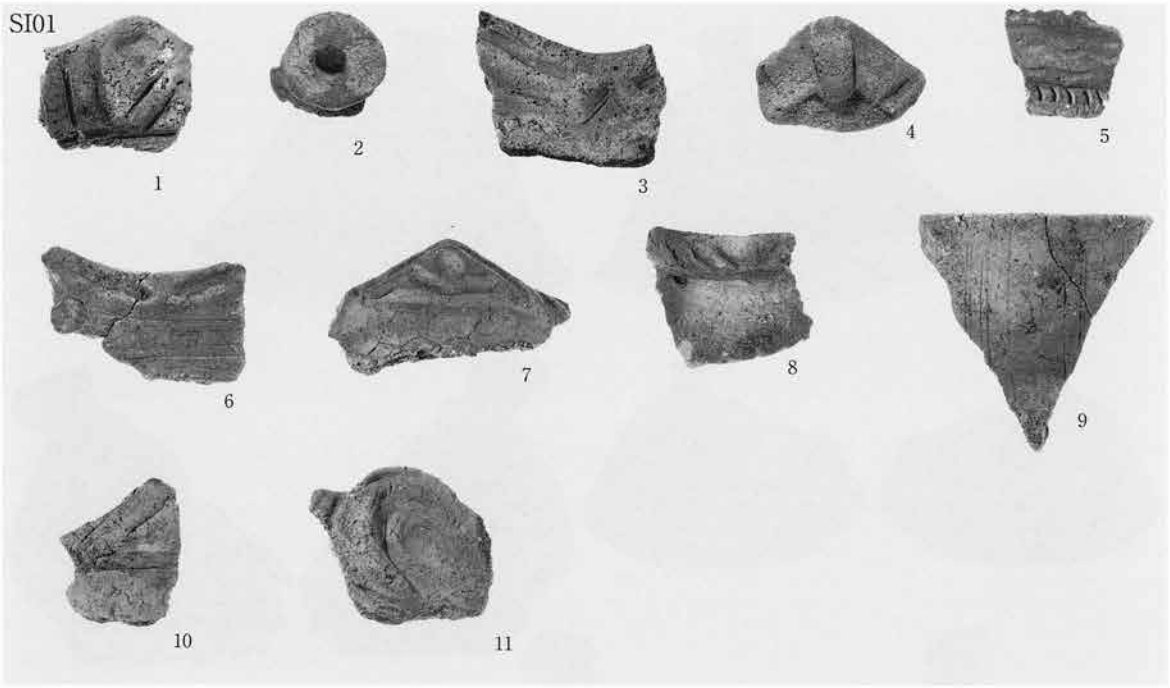
作業風景

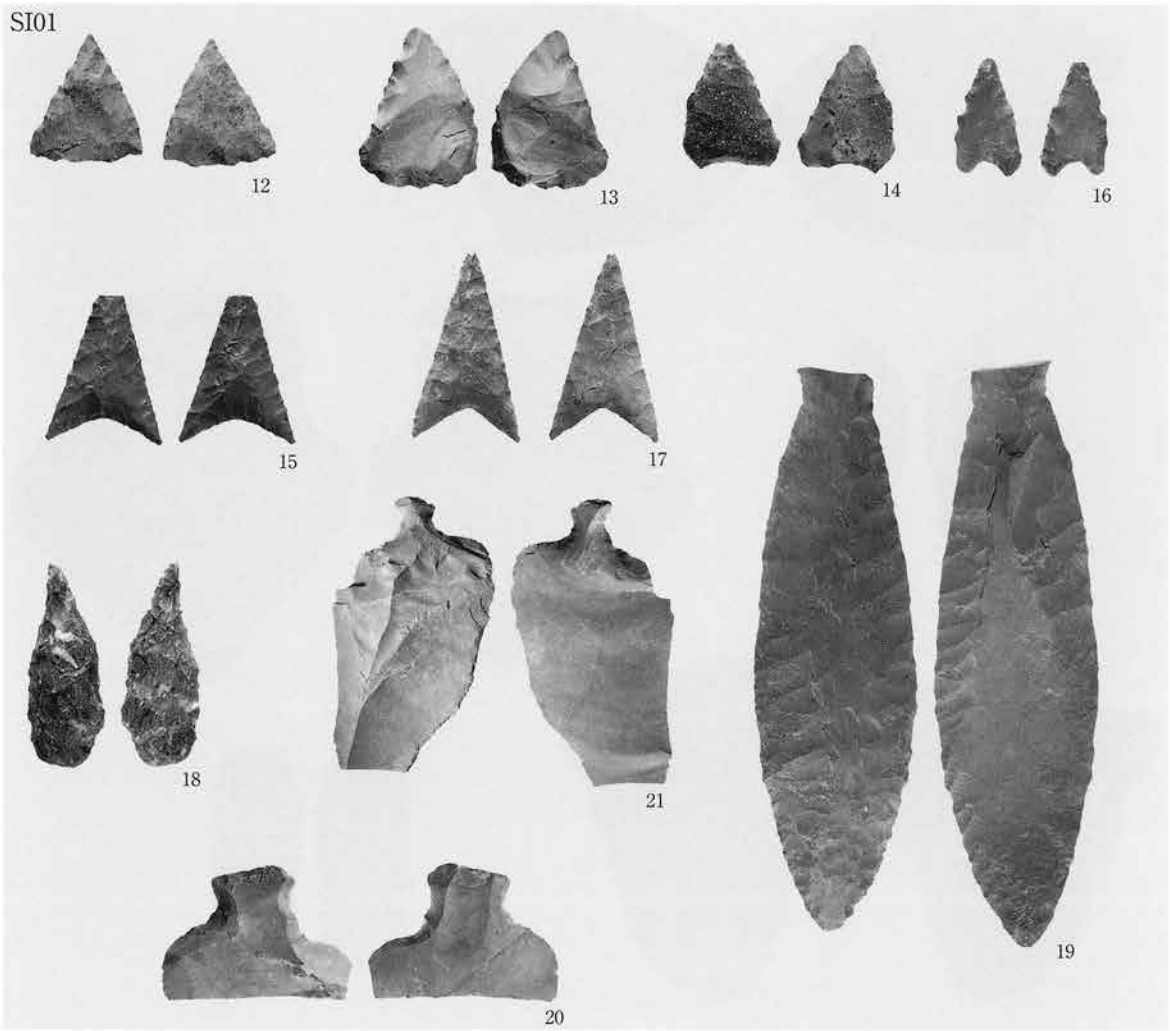


調査区 1 区土層断面

調査区 4 区土層断面

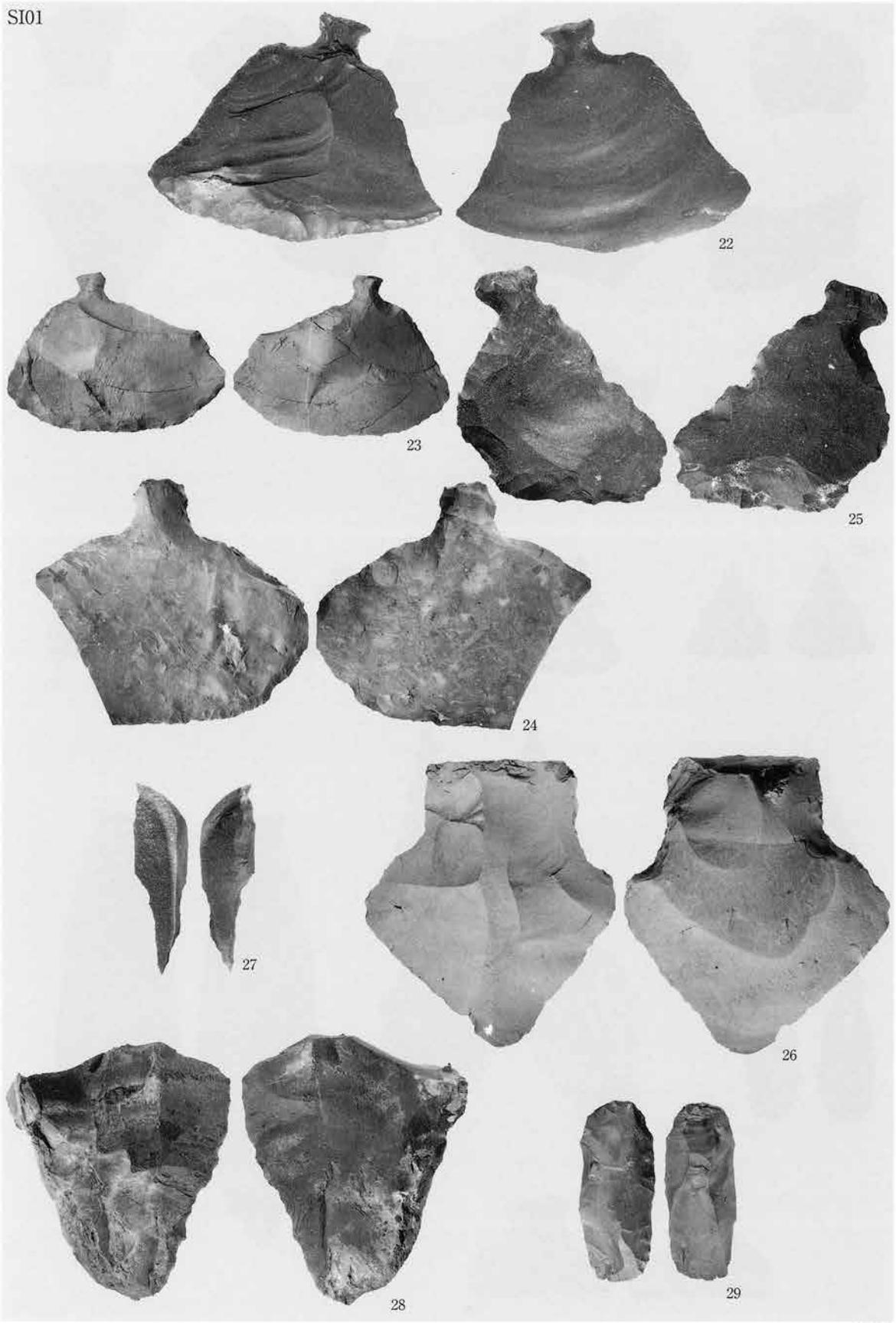
写真図版16　遺物出土状況・基本層序





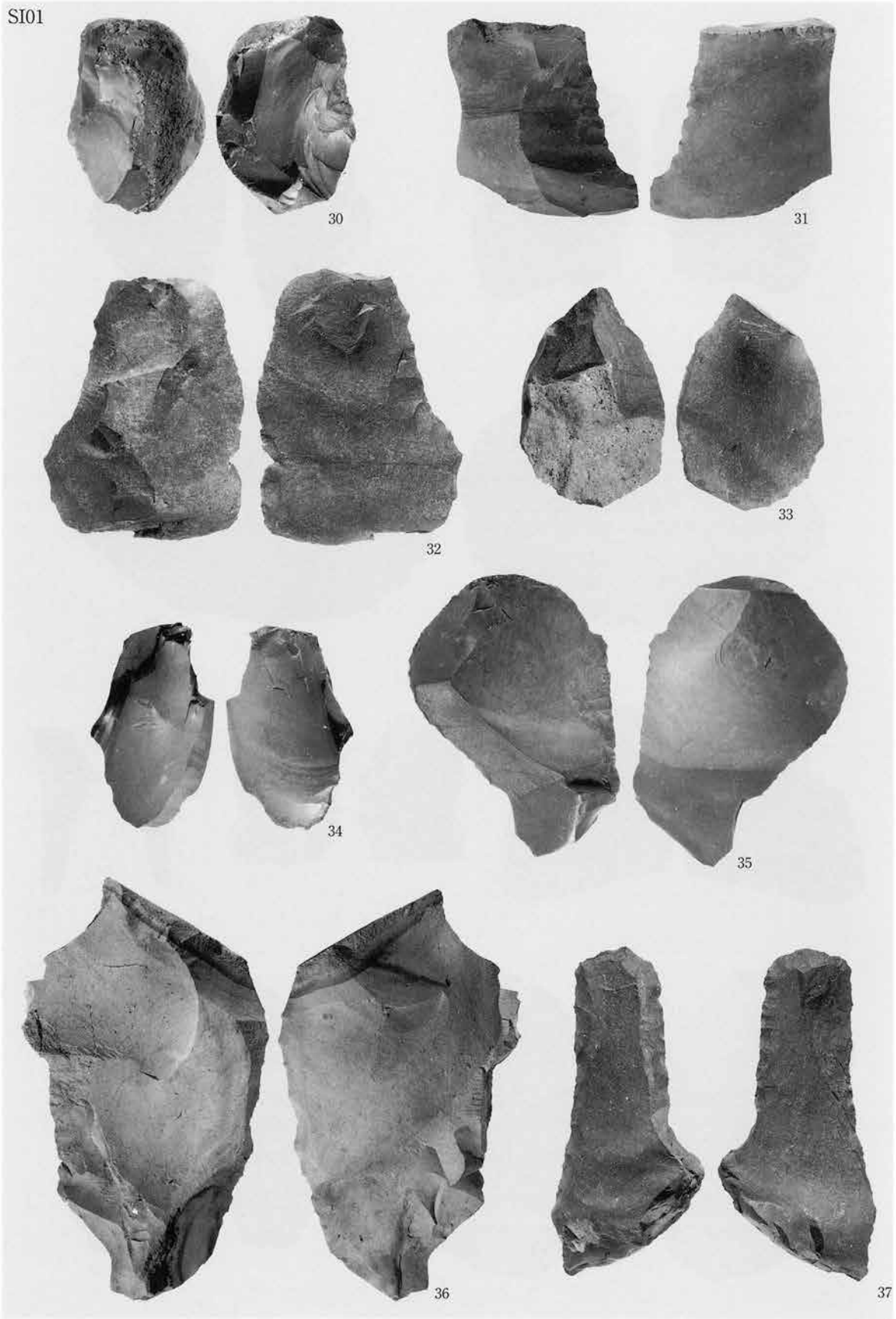
写真図版17　1号竪穴住居出土遺物（1）

1～11　S=1/3
12～20　S=2/3



S=2/3

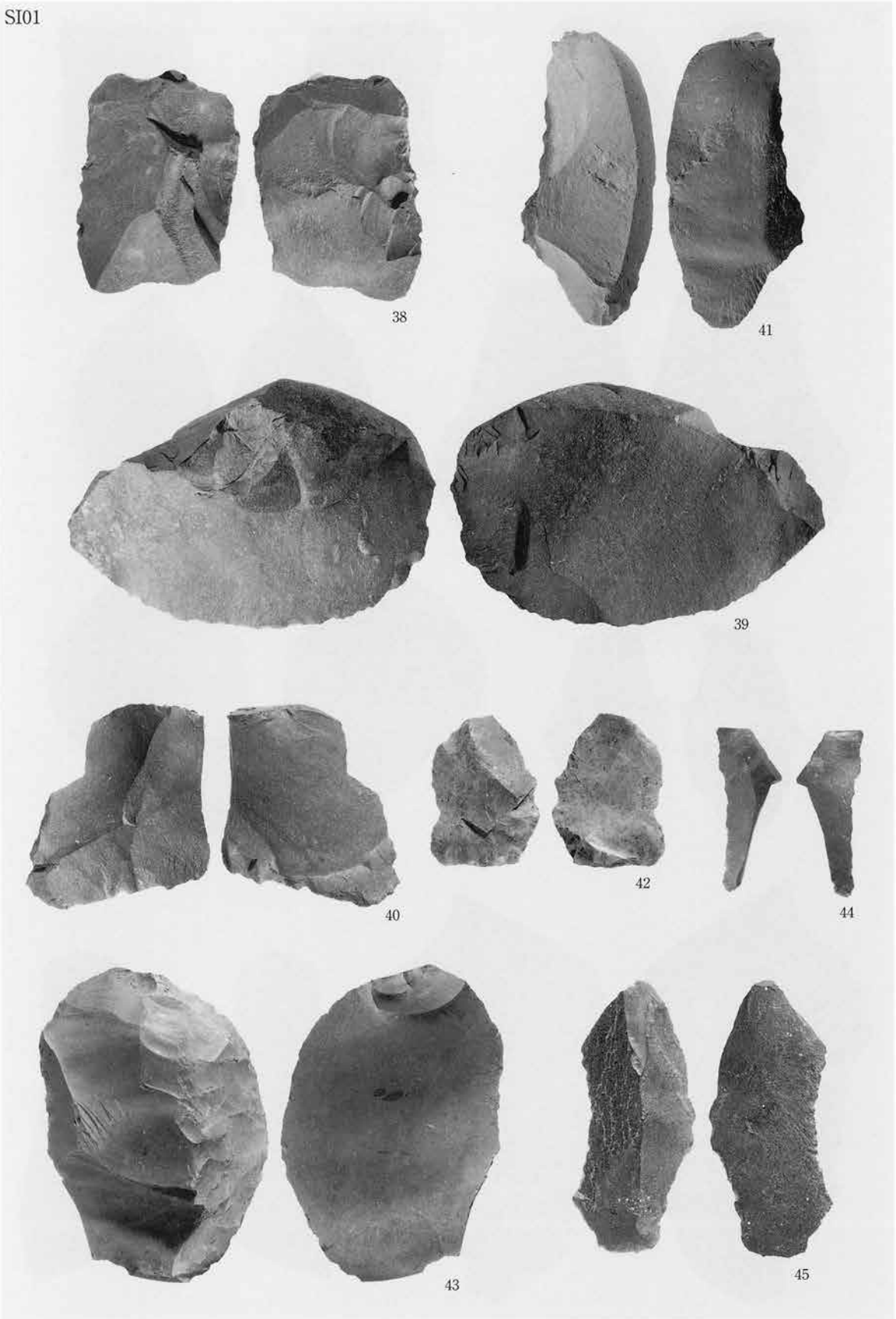
写真図版18　1号竪穴住居出土遺物（2）



S=2/3

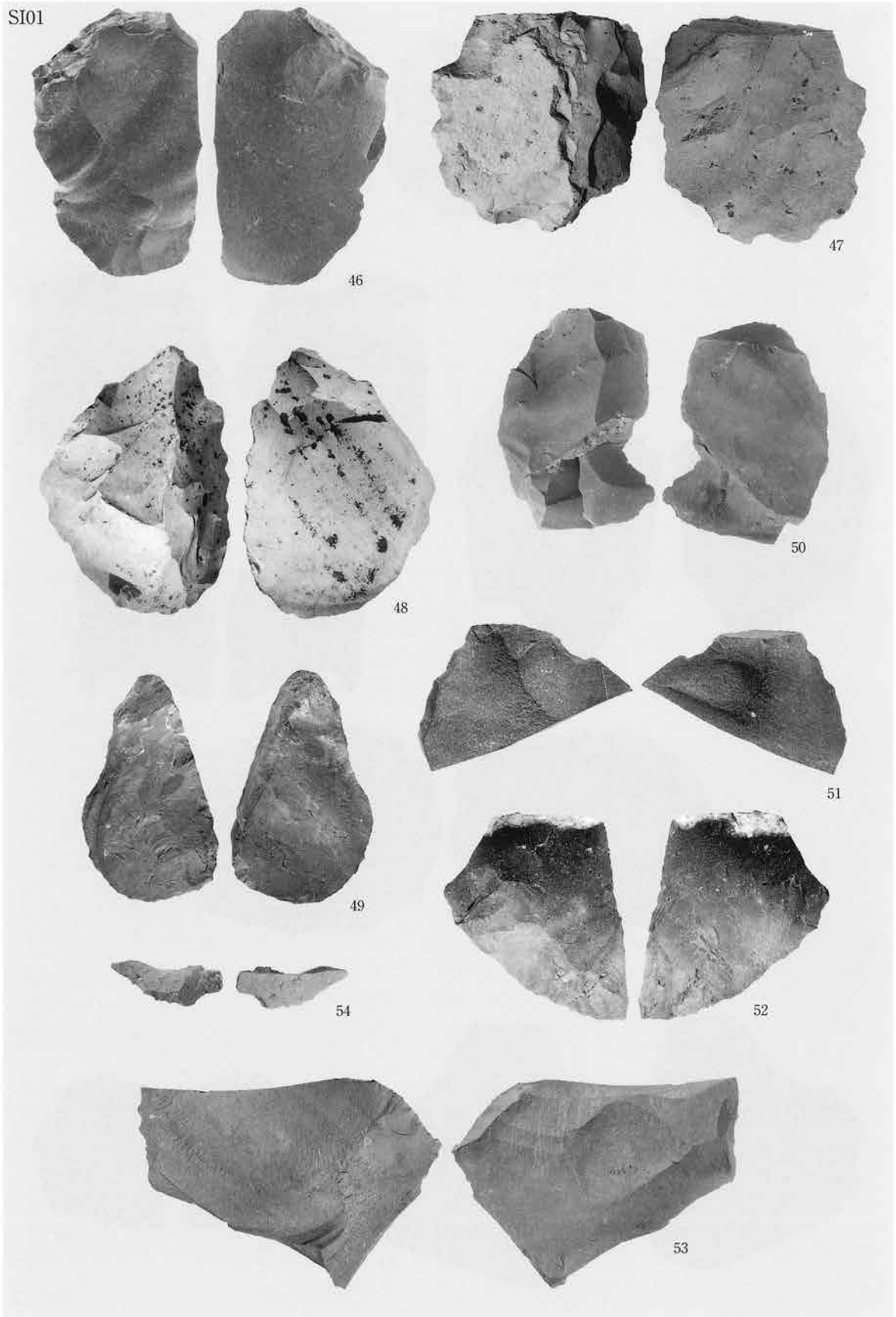
写真図版19　1号竪穴住居出土遺物（3）

SI01



S=2/3

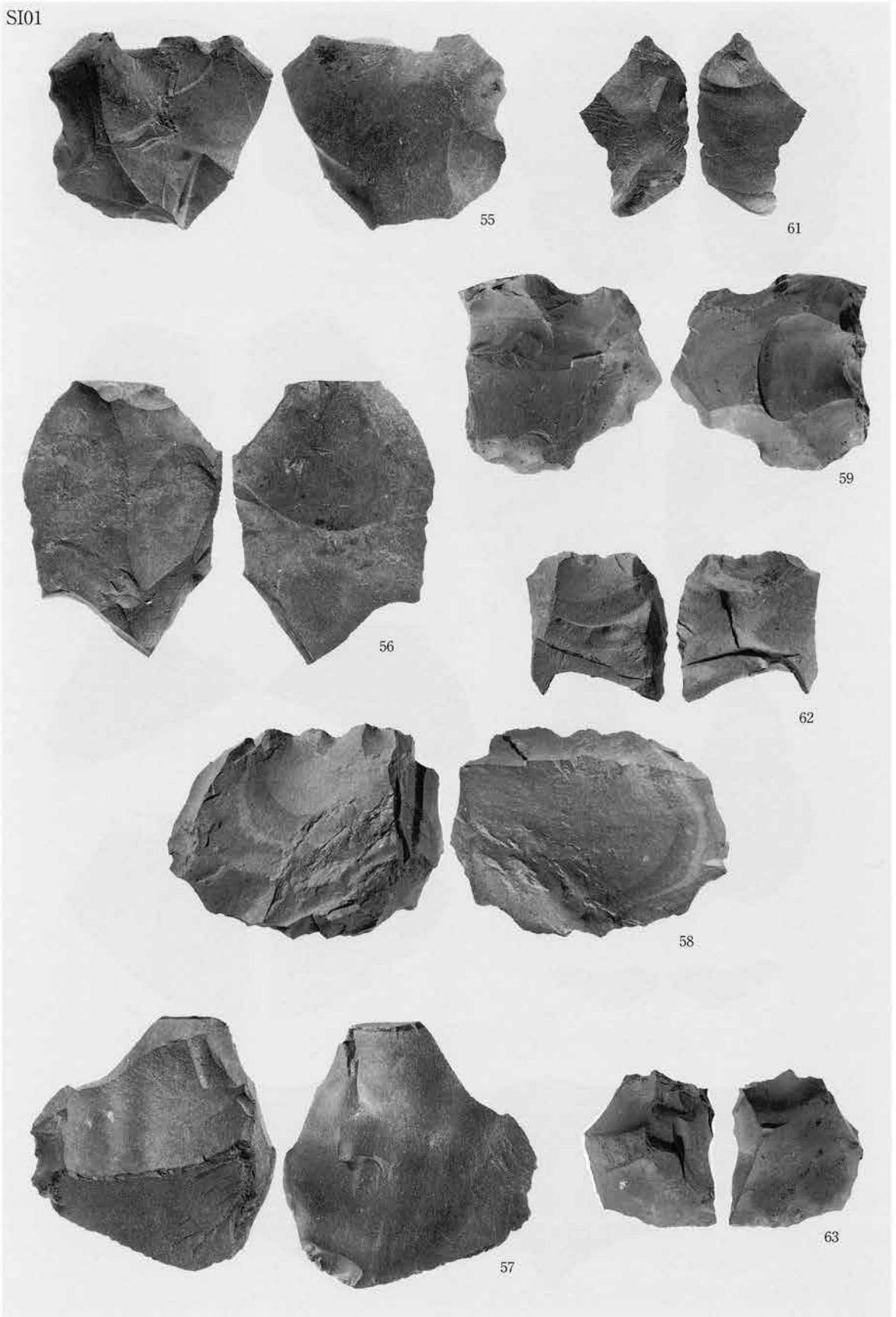
写真図版20　1号竪穴住居出土遺物（4）



S=2/3

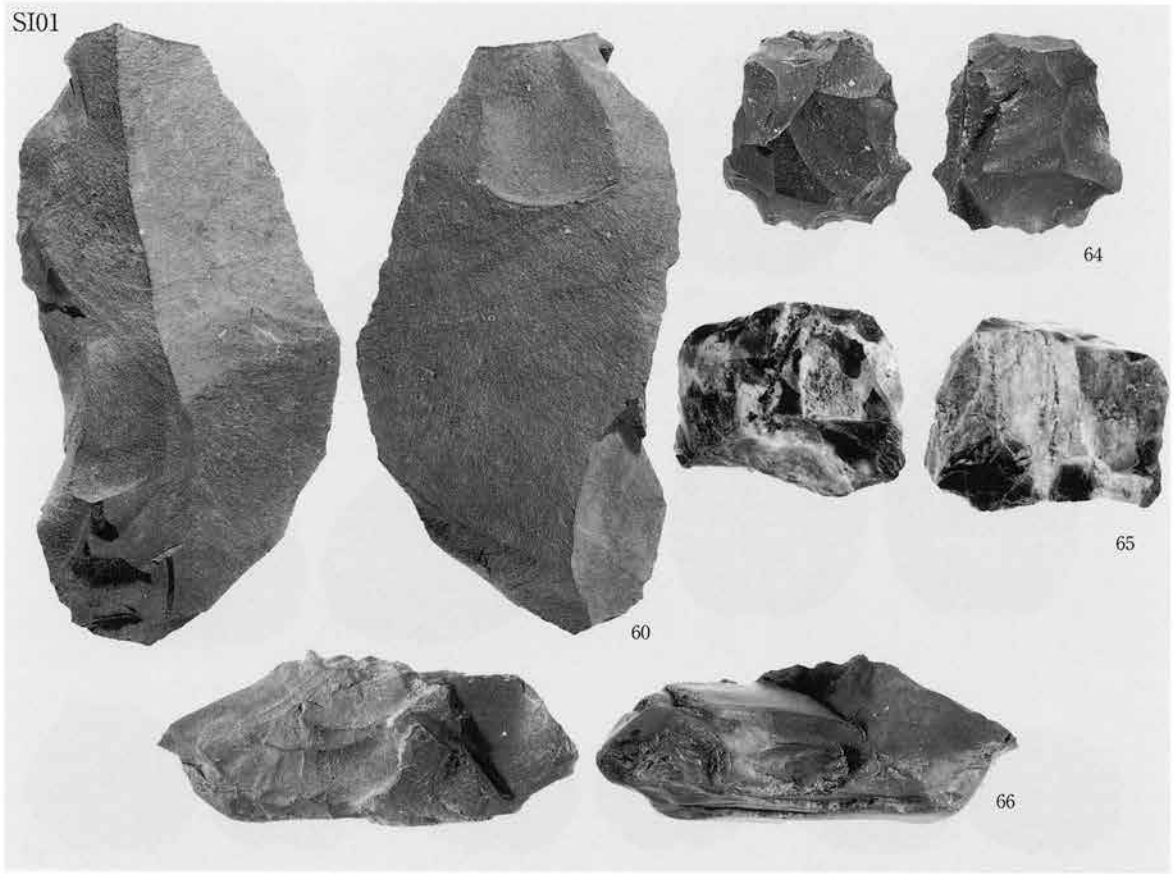
写真図版21　1号竪穴住居出土遺物（5）

SI01



S=2/3

写真図版22　1号竪穴住居出土遺物（6）



写真図版23　1号竪穴住居出土遺物（7）

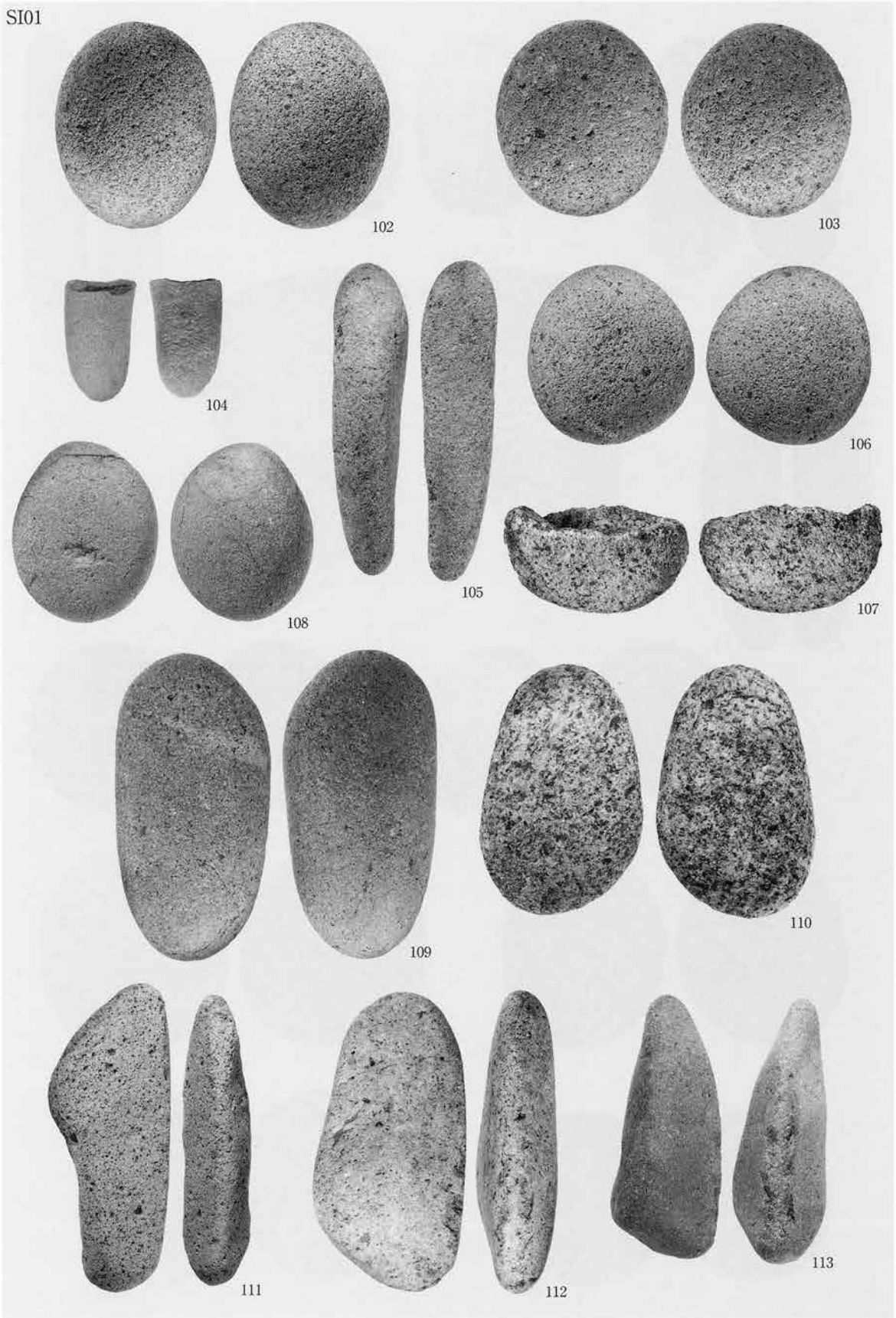
60、64～66　S=2/3
67～72、78～80　S=1/3

S=1/3

写真図版24　1号竪穴住居出土遺物（8）

S=1/3

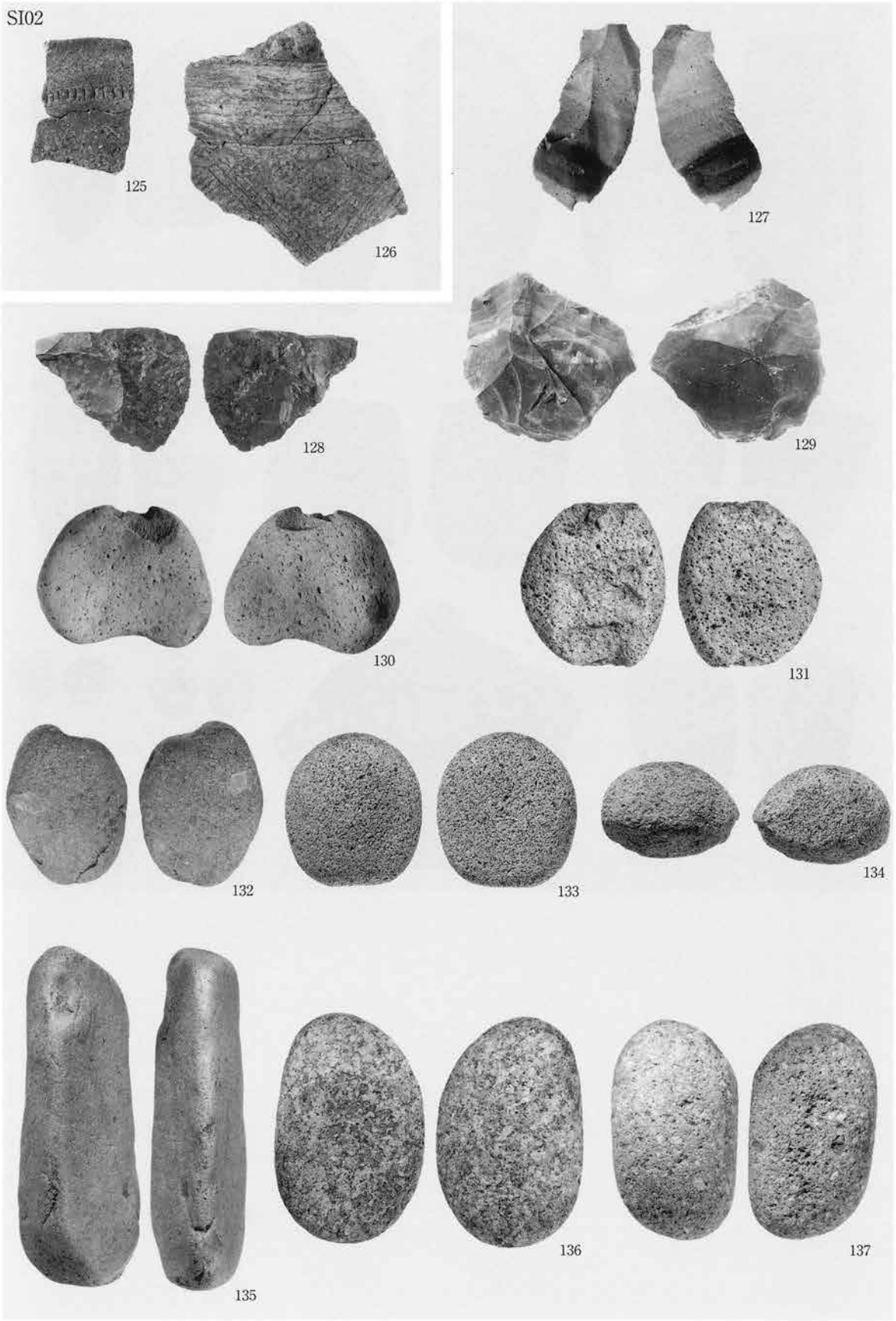
写真図版25　1号竪穴住居出土遺物（9）



S=1/3

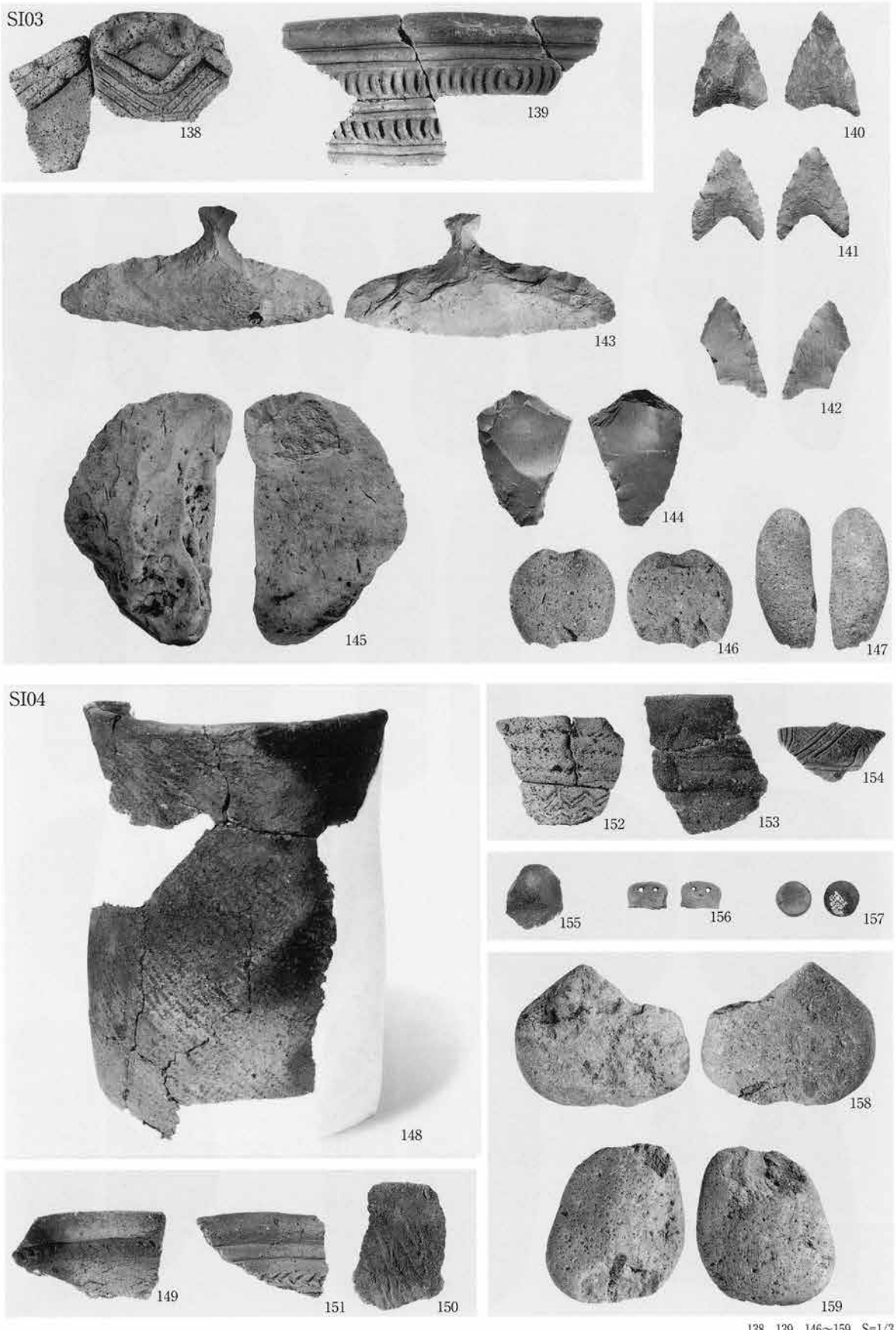
写真図版26　1号竪穴住居出土遺物（10）

写真図版27　1号竪穴住居出土遺物（11）



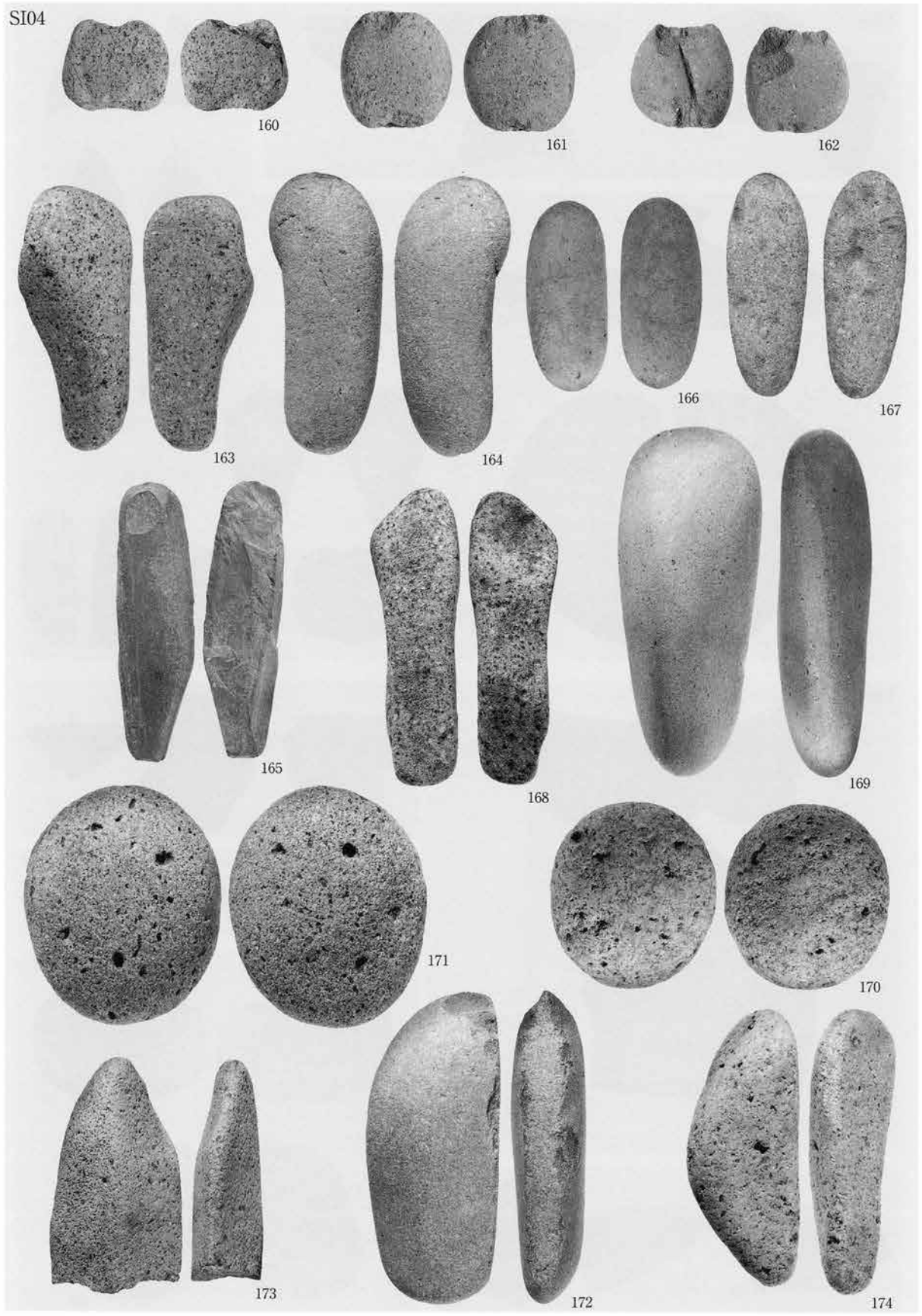
写真図版28　2号竪穴住居出土遺物

125、126、130～137　S=1/3
127～129　S=2/3



写真図版29　3号竪穴住居出土遺物、4号竪穴住居出土遺物（1）

138、139、146～159　S=1/3
140～145　S=2/3



S=1/3

写真図版30　4号竪穴住居出土遺物（2）

SI05

175

176

177

178

179

180

181

182

183

184

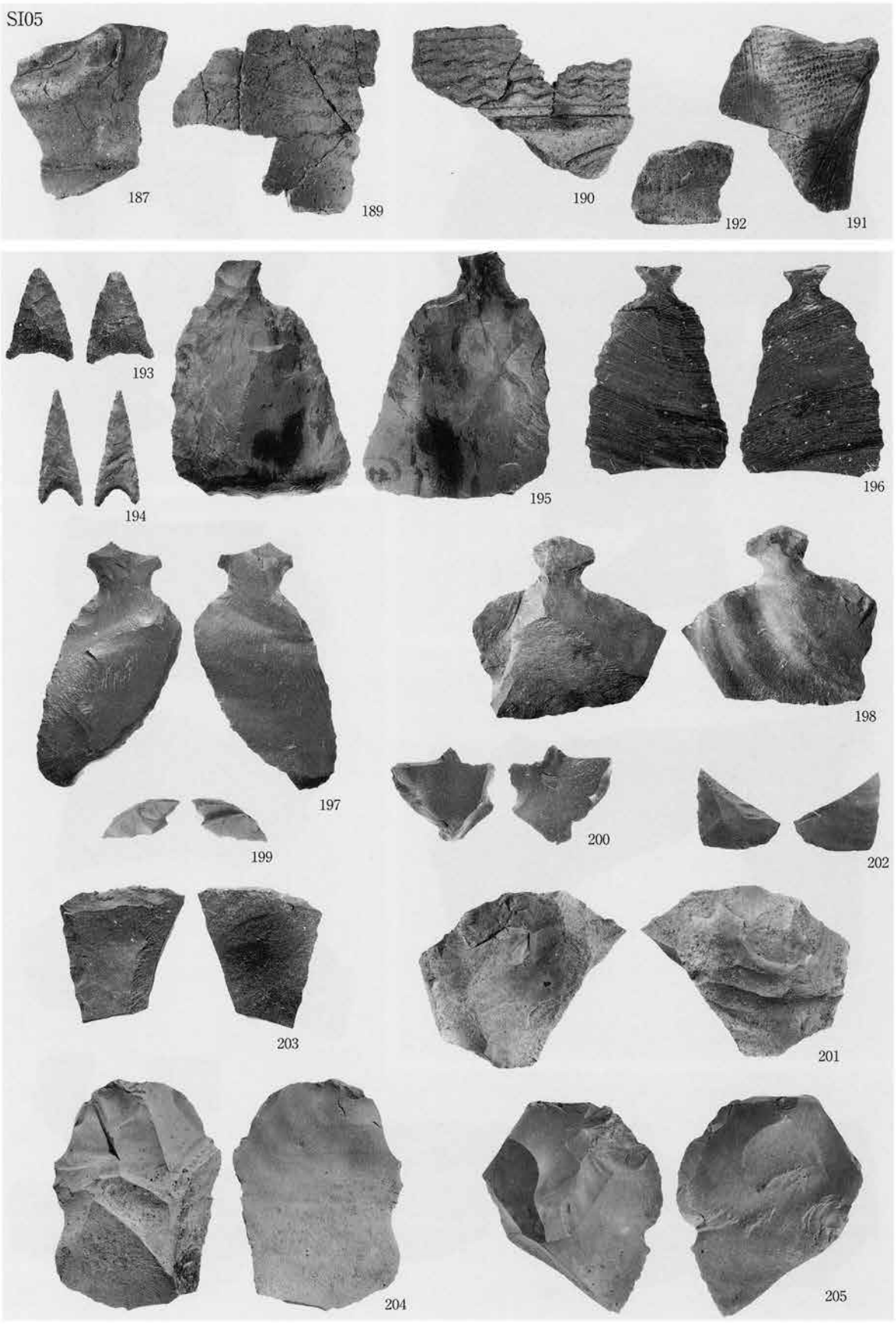
186

185

188

写真図版31　5号竪穴住居出土遺物（1）

176、186、188　S=1/3
他　S=1/4

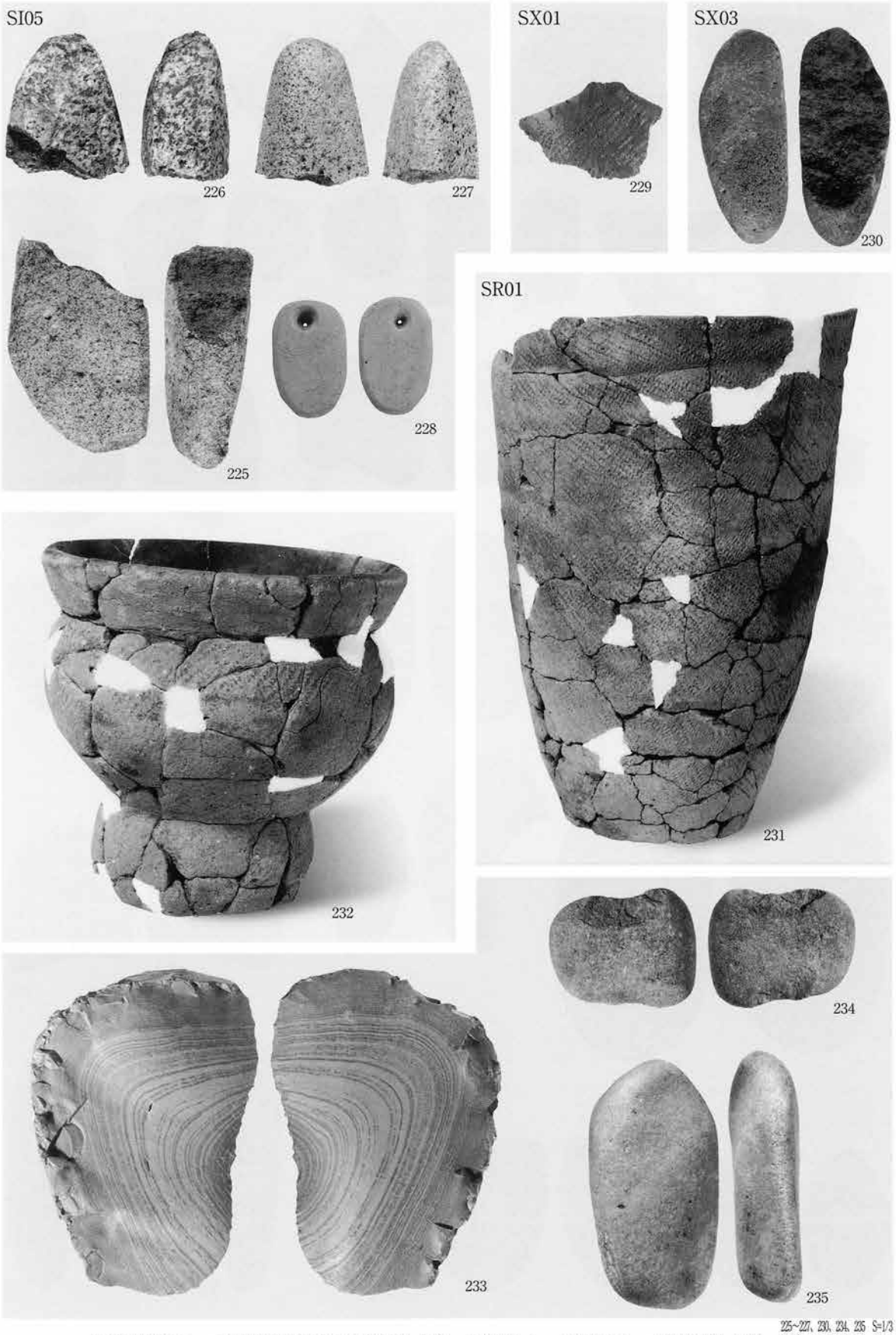


写真図版32　5号竪穴住居出土遺物（2）

187、189～192　S=1/3
193～205　S=2/3

写真図版33　5号竪穴住居出土遺物（3）

206～209　S=2/3
210～224　S=1/3



写真図版34　5号竪穴住居出土遺物（4）、1号焼土、3号焼土、1号埋設土器（1）

225~227、230、234、235　S=1/3
228　S=1/2、231　S=1/4
233　S=2/3、他　S=1/3

SR01

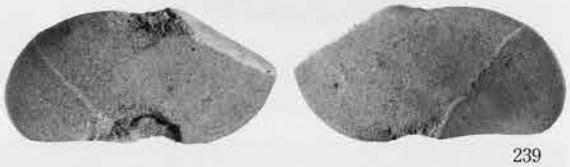
236

SR02

237

SR03

238



239

240

241

242

243

SR04

244

写真図版35　1号埋設土器（2）、2～4号埋設土器

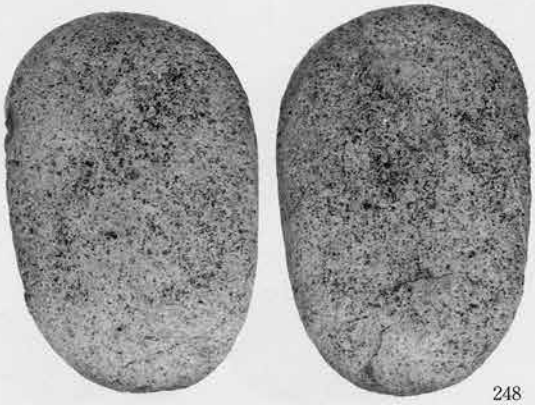
SR05

245

SR06

246

SQ01



248

249

247

250

SQ02

251

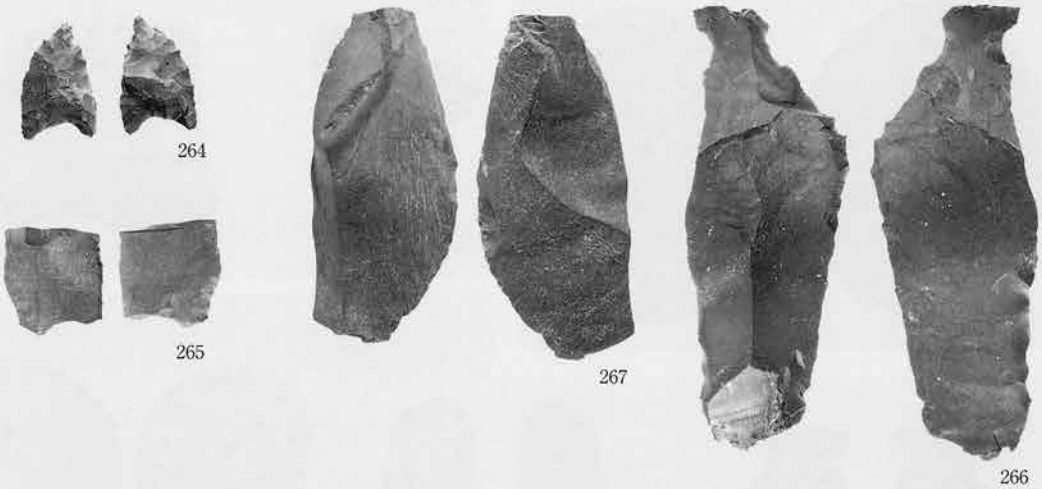
245、246、248～251　S=1/3
247　S=2/3

写真図版36　5、6号埋設土器、1号配石遺構、2号配石遺構（1）

写真図版37　2号配石遺構（2）、3号配石遺構出土遺物

252～254、256～263　S=1/3
他　S=2/3

SQ05

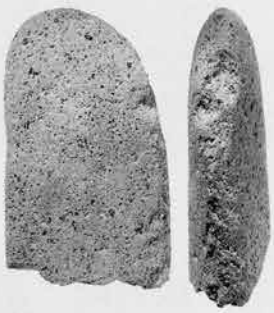


264

265

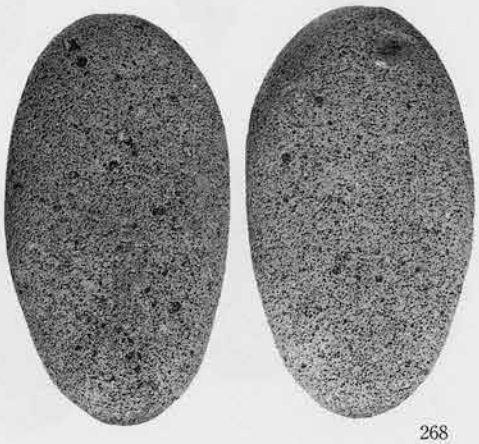
267

266



270

269



268

SQ06

271

272

写真図版38　5号配石遺構、6号配石遺構（1）出土遺物

264～267　S=2/3
268～272　S=2/3

SQ06

273

274

SK01

275

278

276

277

SK02

279

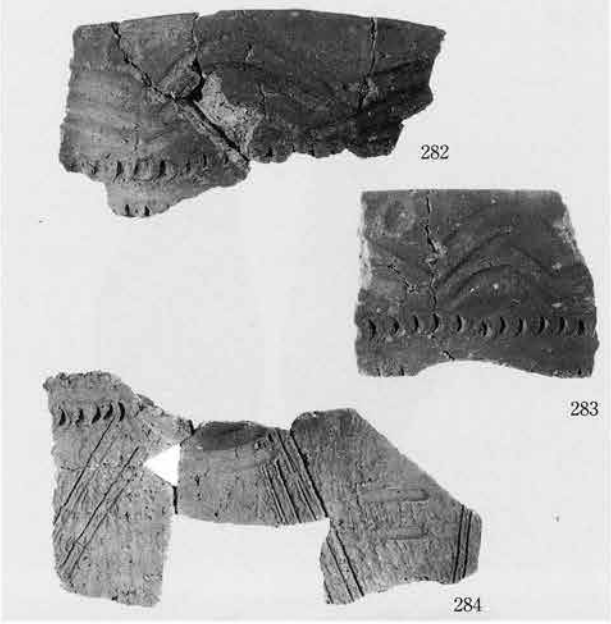
280

写真図版39　6号配石（2）、1、2号土抗

273、274、277～279　S=1/3
他　S=2/3

SK04

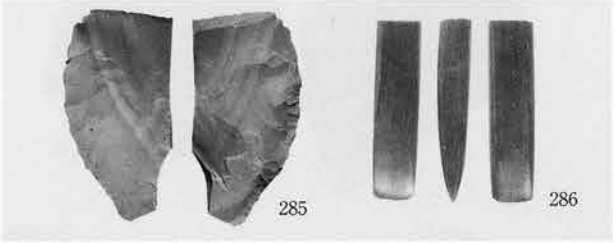
281



282

283

284



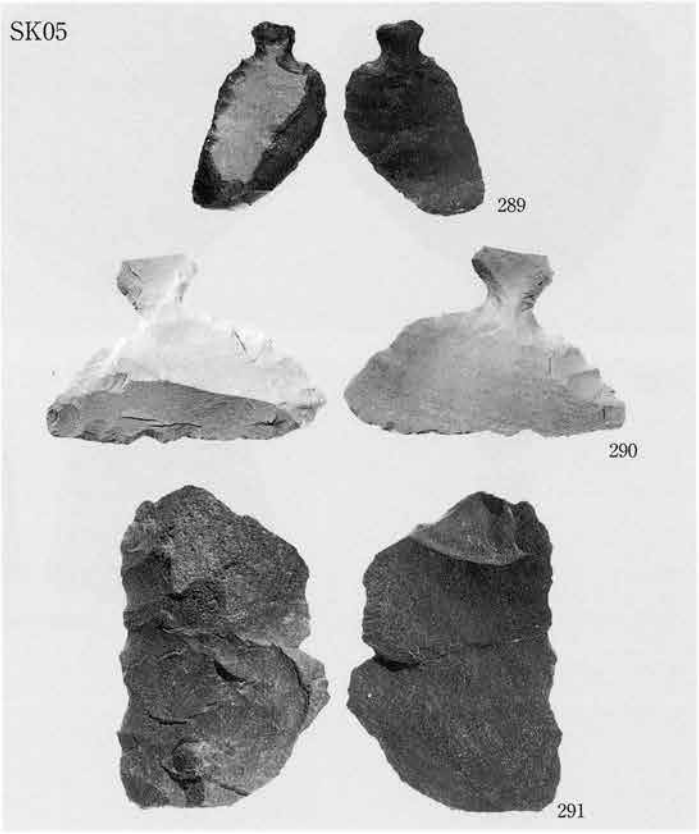
285

286

SK05

287

288



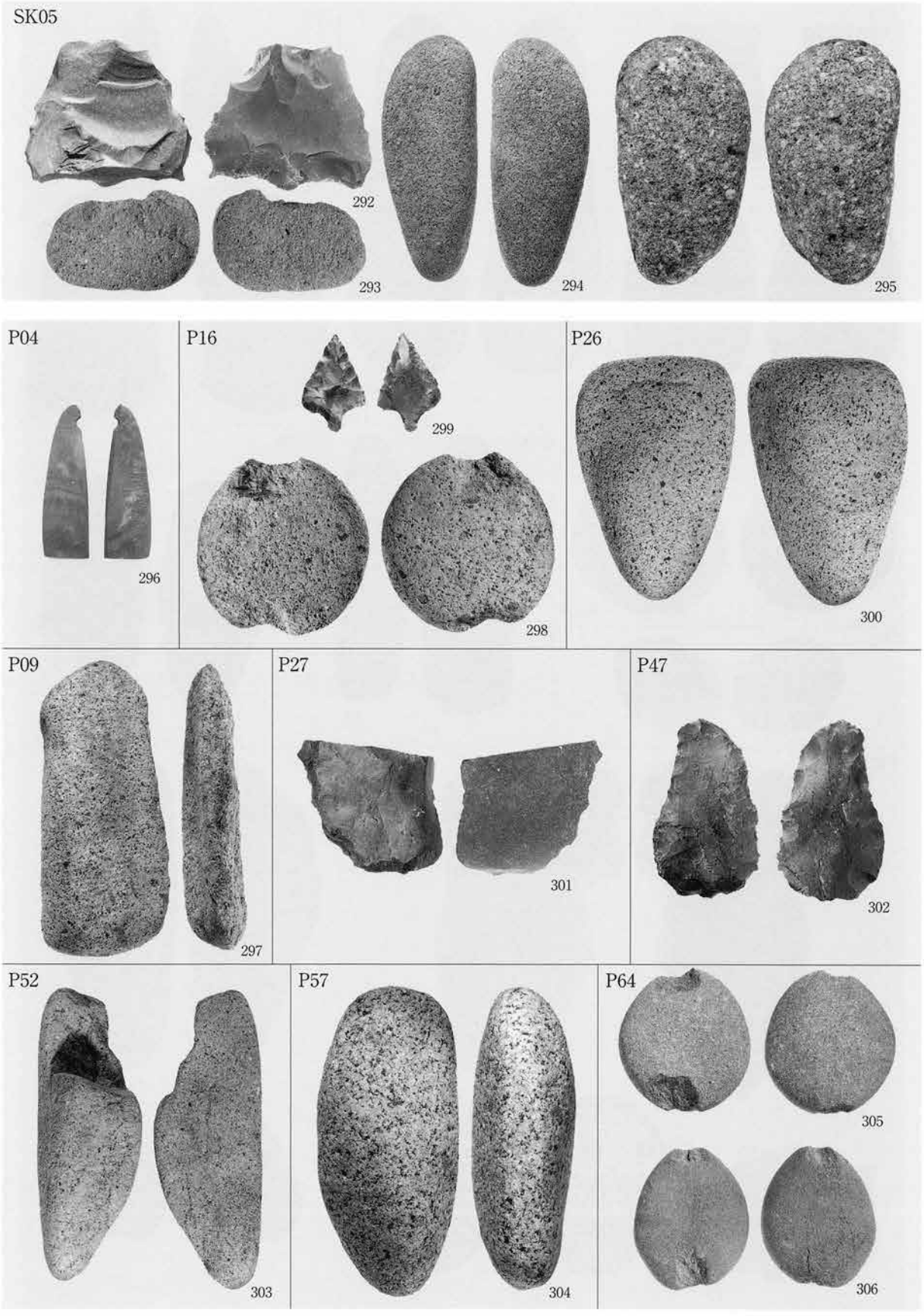
289

290

291

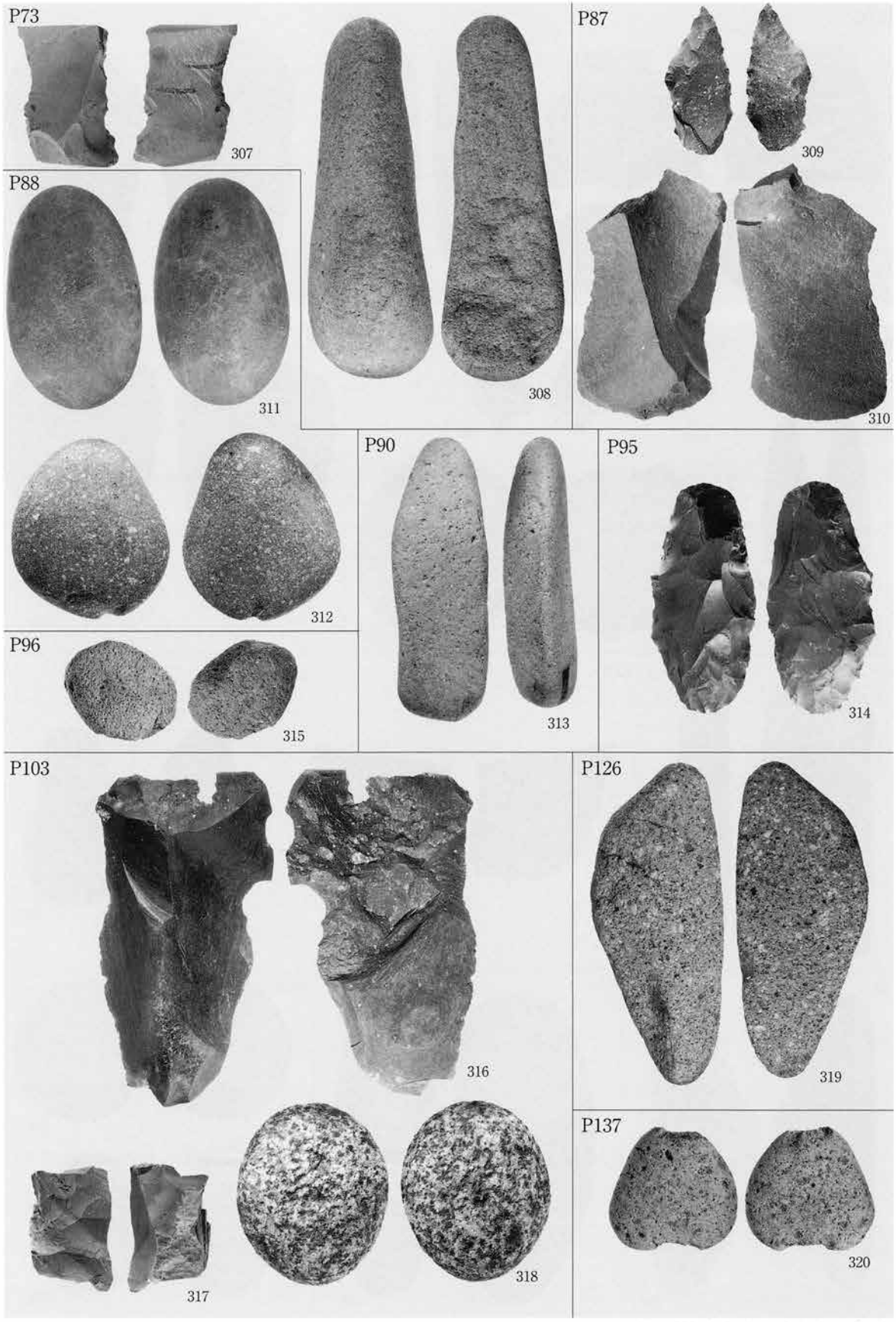
写真図版40　4号土抗、5号土抗（1）

281～281、287、288　S=1/3
他　S=2/3



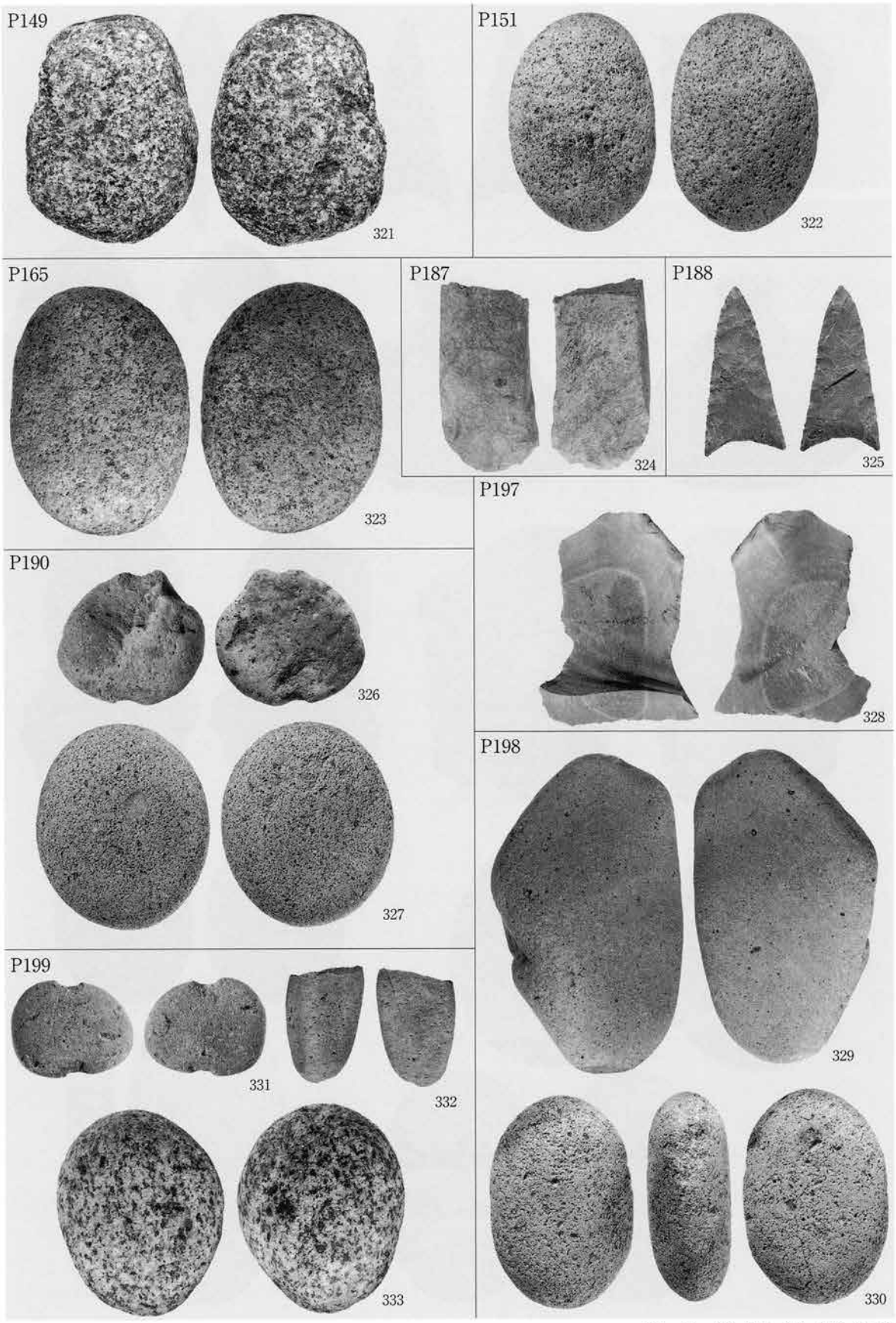
写真図版41　5号土抗（2）、柱穴（1）

293～295、297、298、300、303～306　S=1/3
他　S=2/3



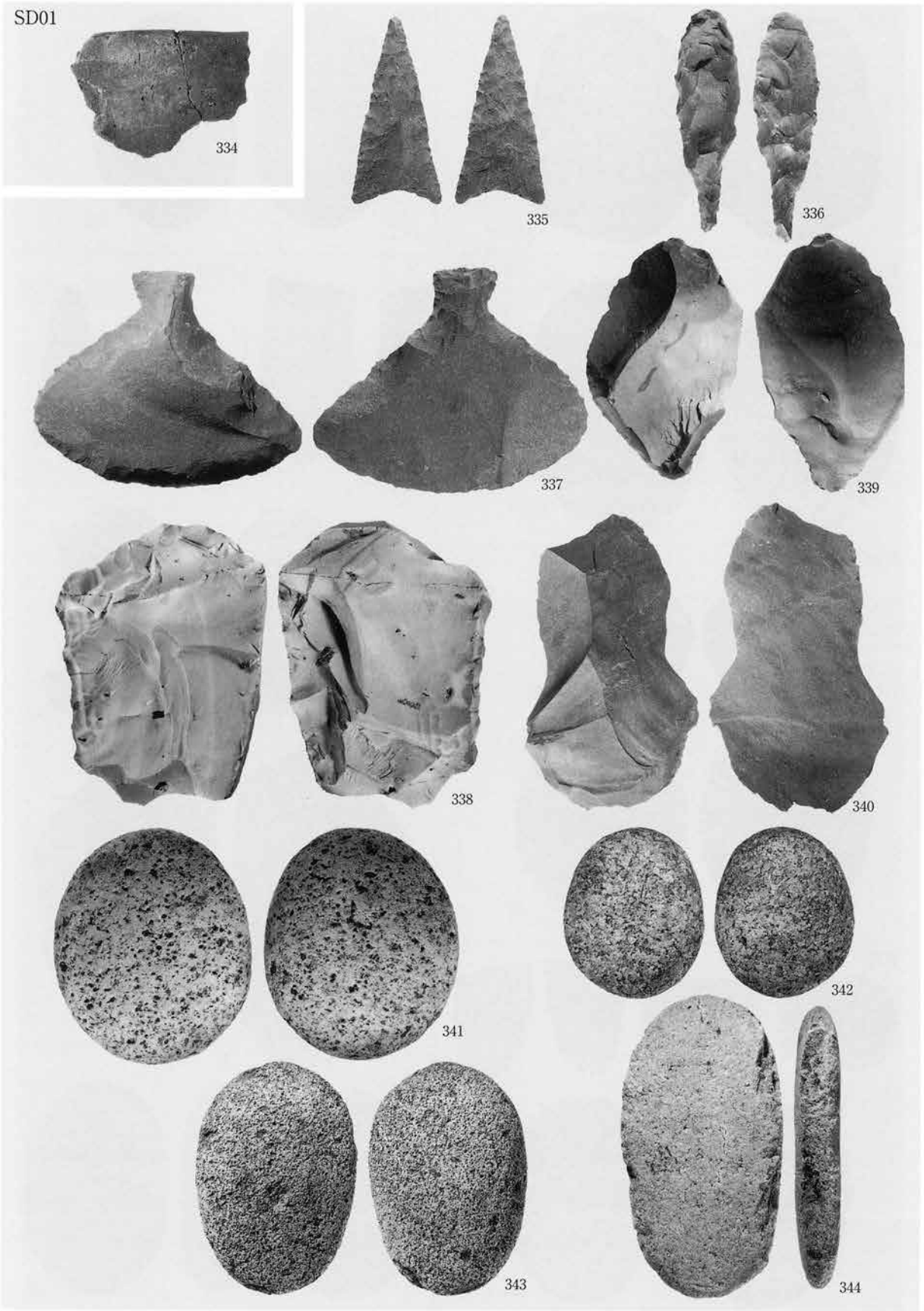
写真図版42　柱穴（2）

307、309、310、314、316、317　S=2/3
308、311～313、315、318～320　S=1/3



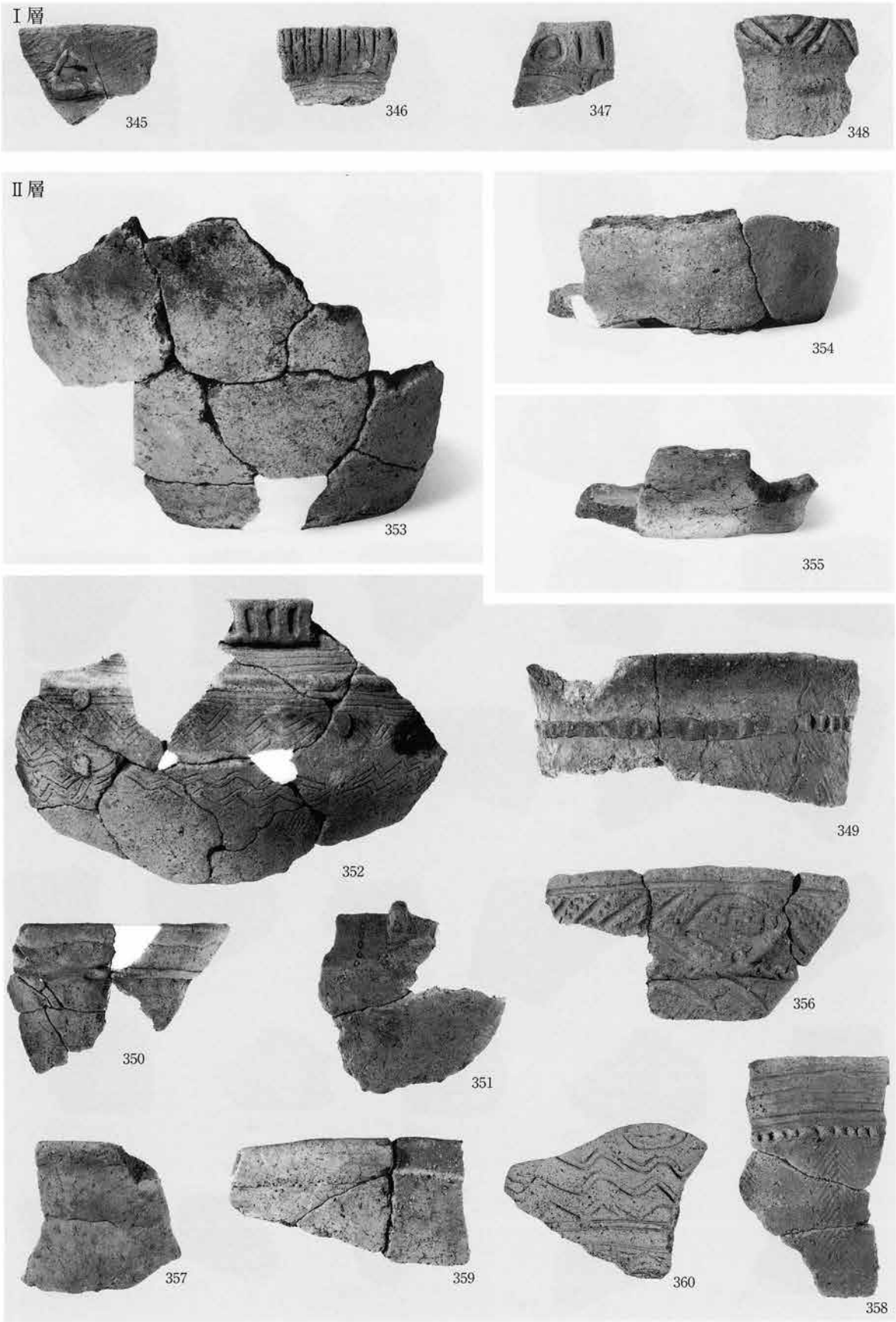
写真図版43　柱穴（3）

321～23、326、327、329～333　S=1/3
他　S=2/3

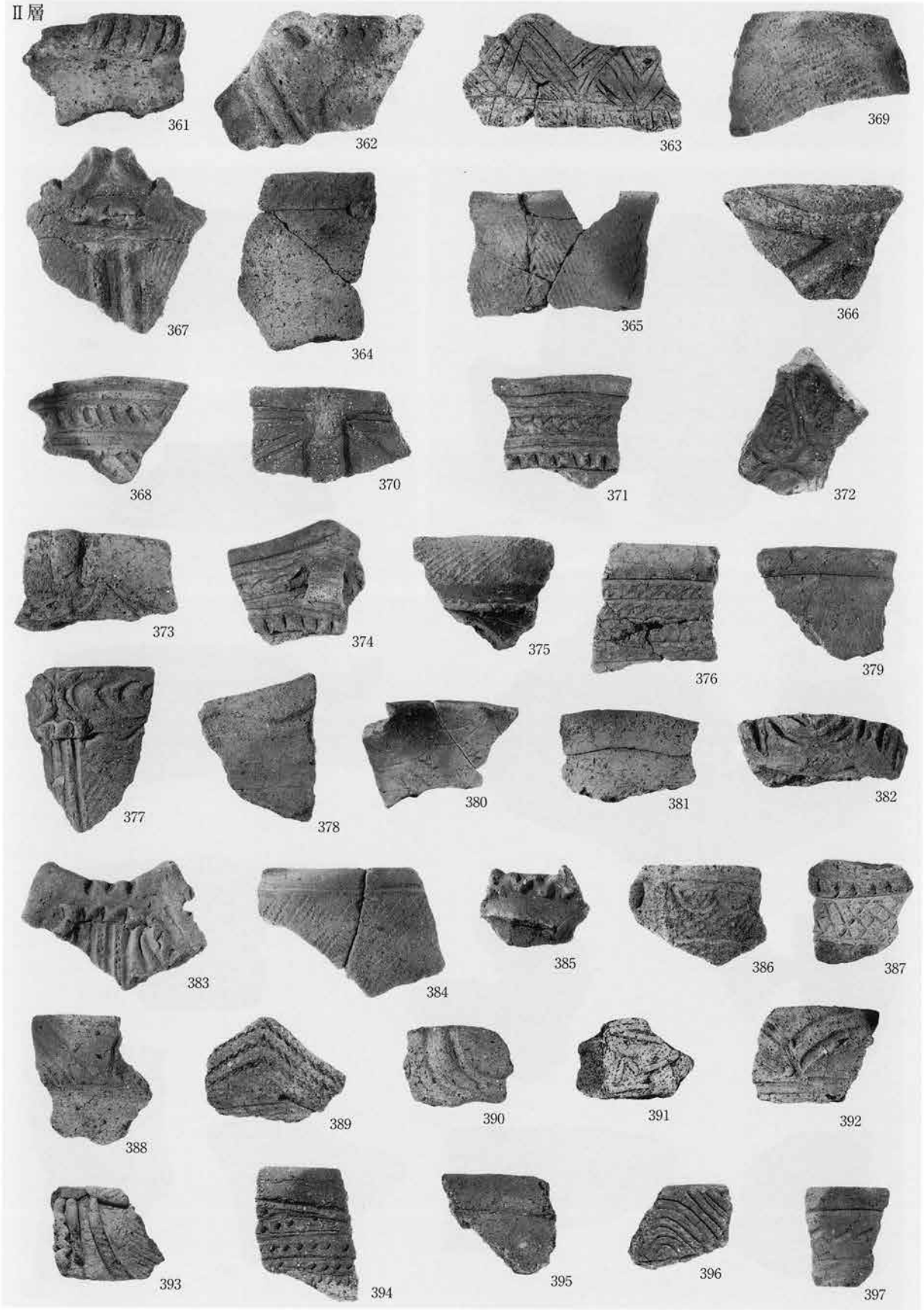


写真図版44　1号溝

334、341～344　S=1/3
335～340　S=2/3

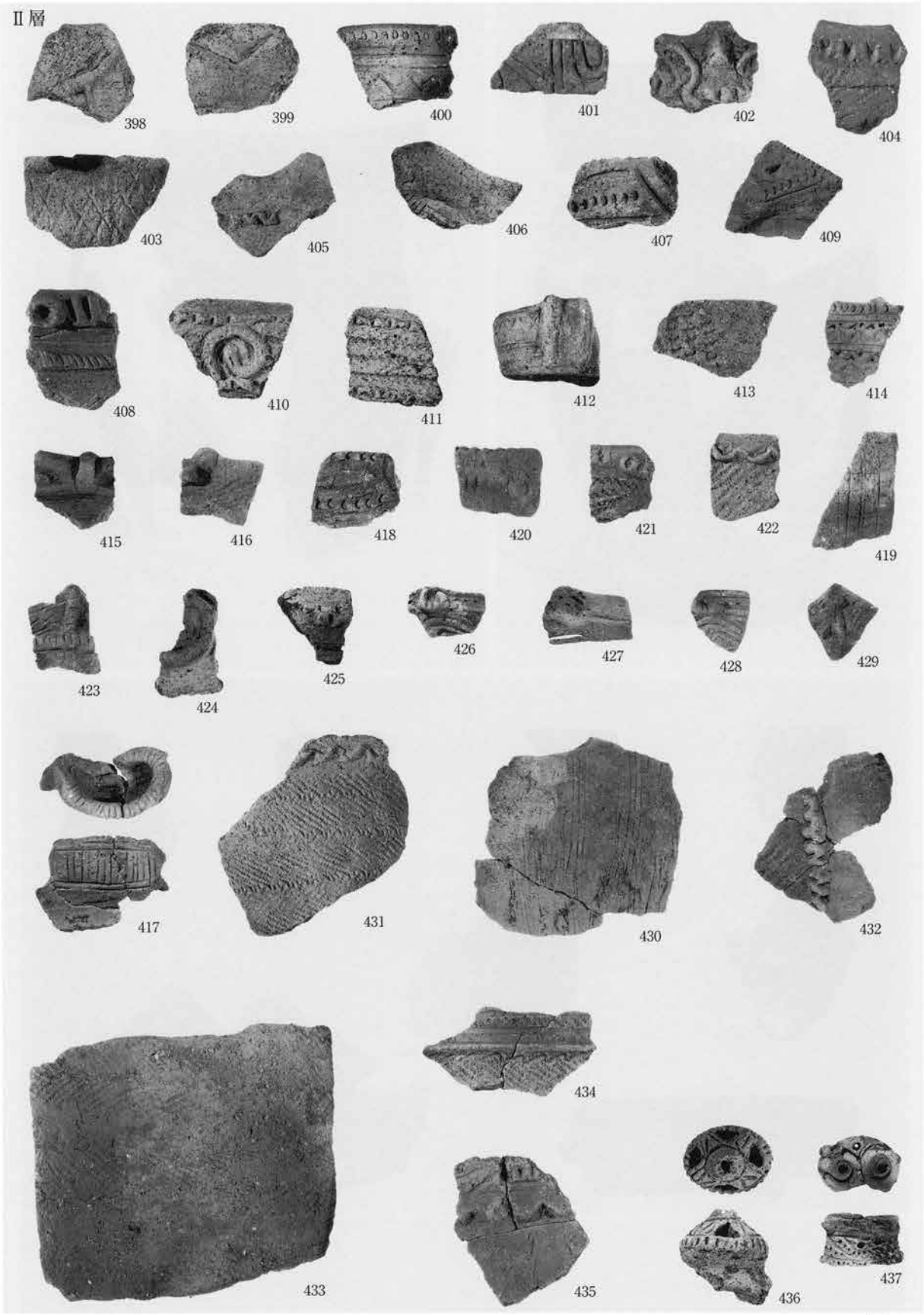


写真図版45　Ⅰ、Ⅱ層出土土器（1）



S=1/3

写真図版46　Ⅱ層出土土器（2）



S=1/3

写真図版47　Ⅱ層出土土器（3）

Ⅱ～Ⅲ層

438

439

440

441

443

442

444

447

446

445

S=1/3

写真図版48　Ⅱ～Ⅲ層出土土器

Ⅲ層

448

449

450

451

452

写真図版49　Ⅲ層出土土器（1）

448　S=2/3
449～452　S=1/3

Ⅲ層

453

454

458

463

写真図版50　Ⅲ層出土土器（2）

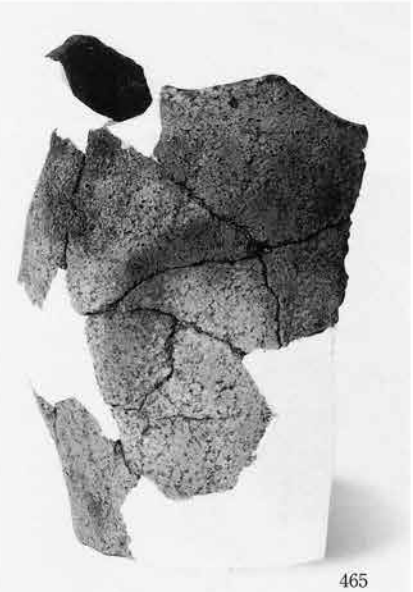
453、454、458　S=1/4
463　S=1/3

Ⅲ層

455

459

461



465

456

S=1/3

写真図版51　Ⅲ層出土土器（3）

Ⅲ層

462

472

460

474

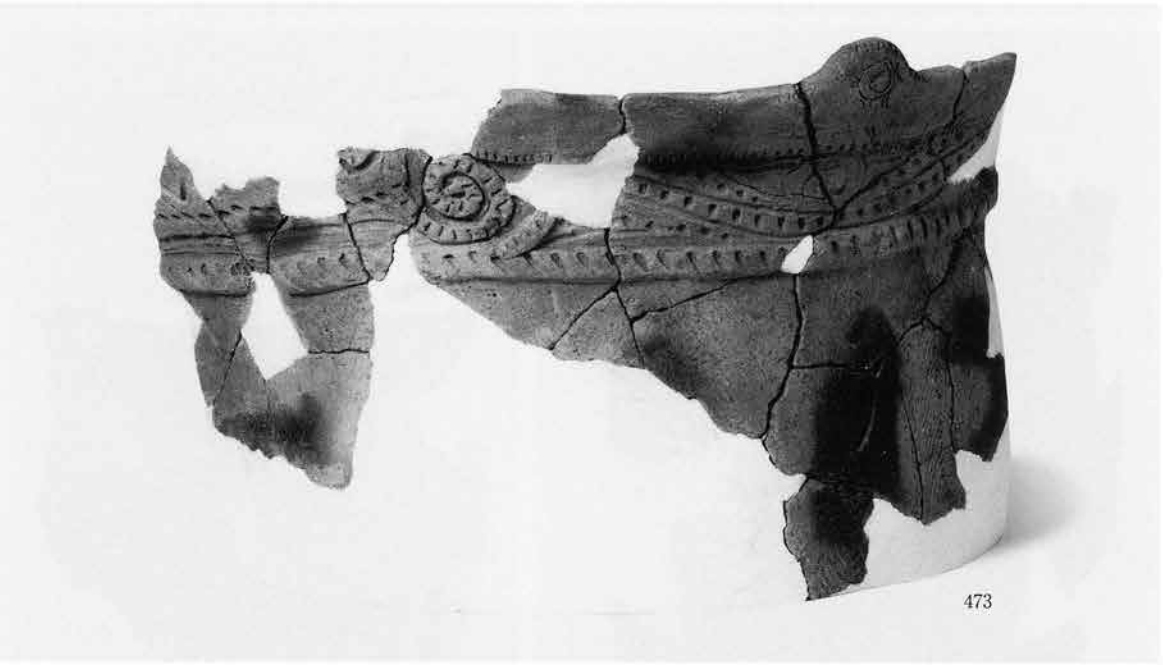
S=1/3

写真図版52　Ⅲ層出土土器（4）

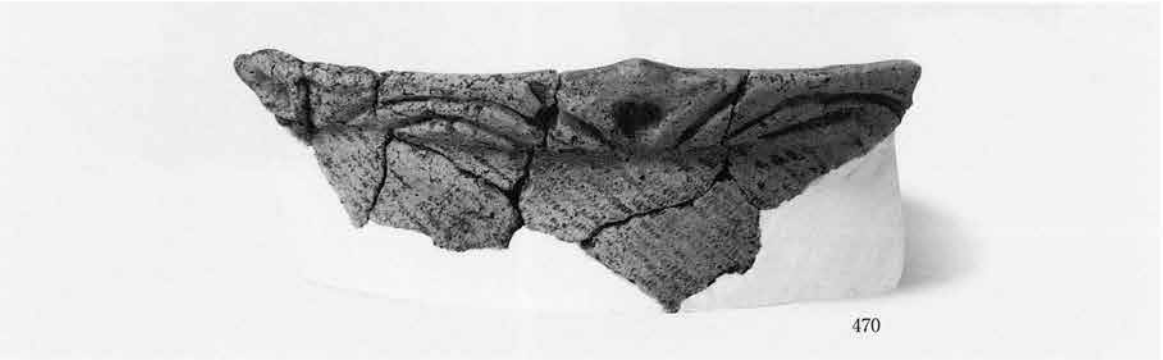
Ⅲ層

469

471



473



470

S=1/3

写真図版53　Ⅲ層出土土器（5）

Ⅲ層

476

477

478

479

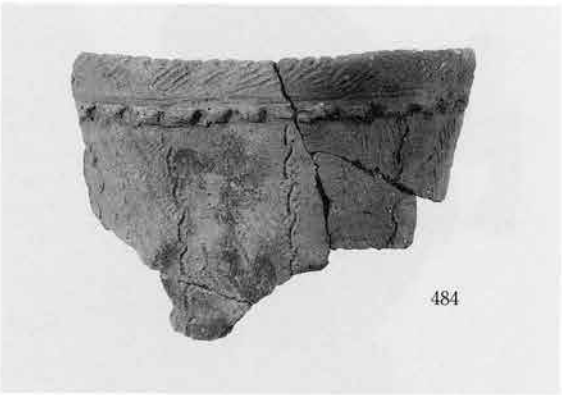
S=1/3

写真図版54　Ⅲ層出土土器（6）

Ⅲ層

482

483



484

481

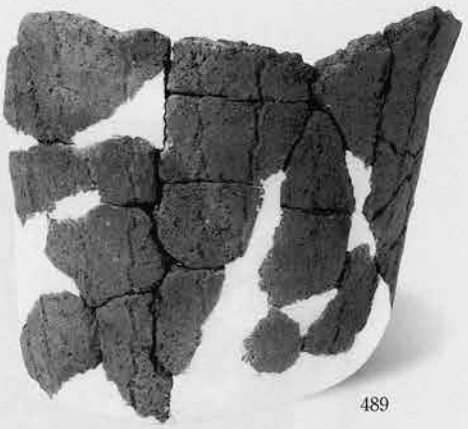
485

S=1/3

写真図版55　Ⅲ層出土土器（7）

Ⅲ層

487


489

488

495

497

503

491

写真図版56　Ⅲ層出土土器（8）

495　S=1/4
他　S=1/3

Ⅲ層

496

492

494

490

493

502

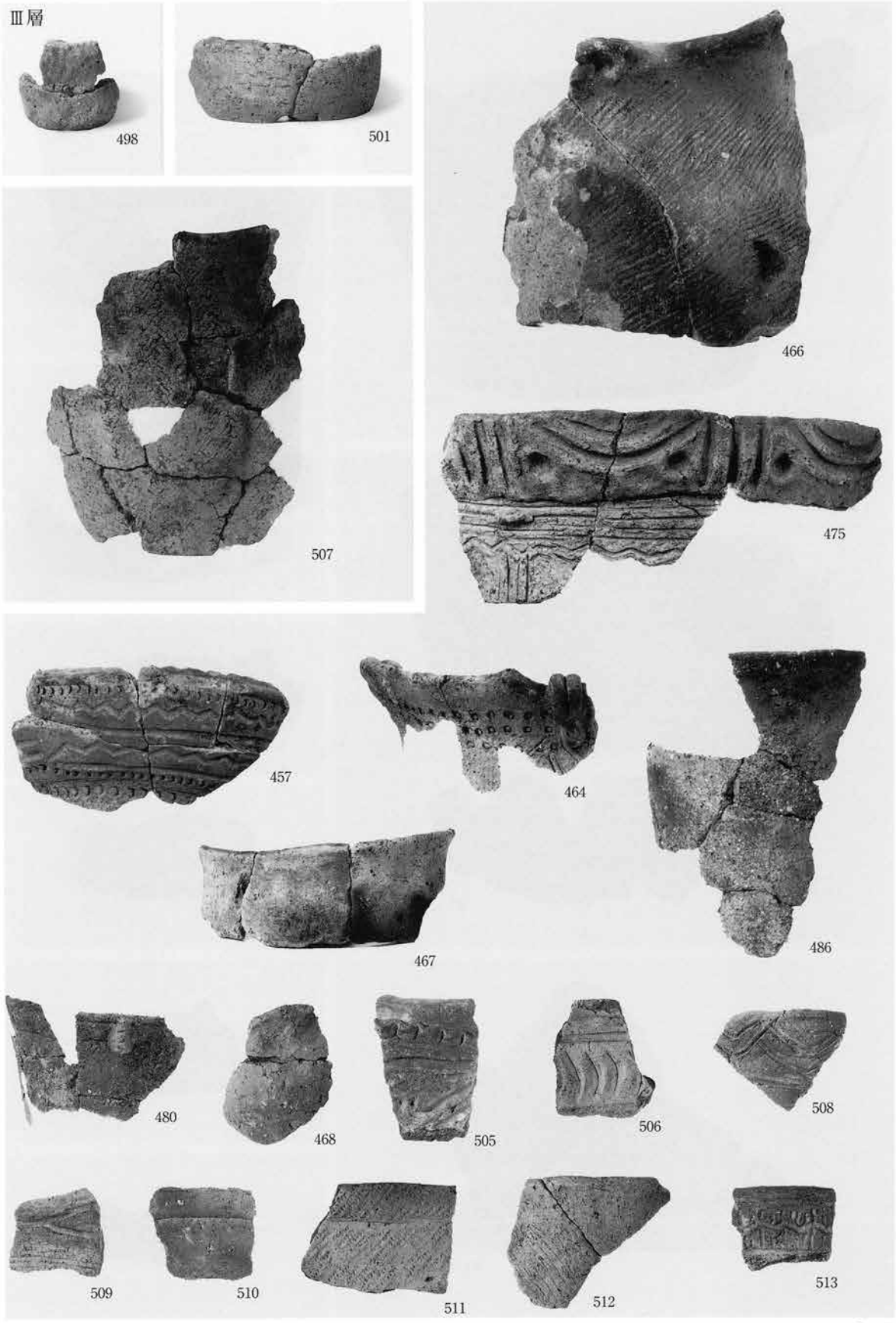
504

500

499

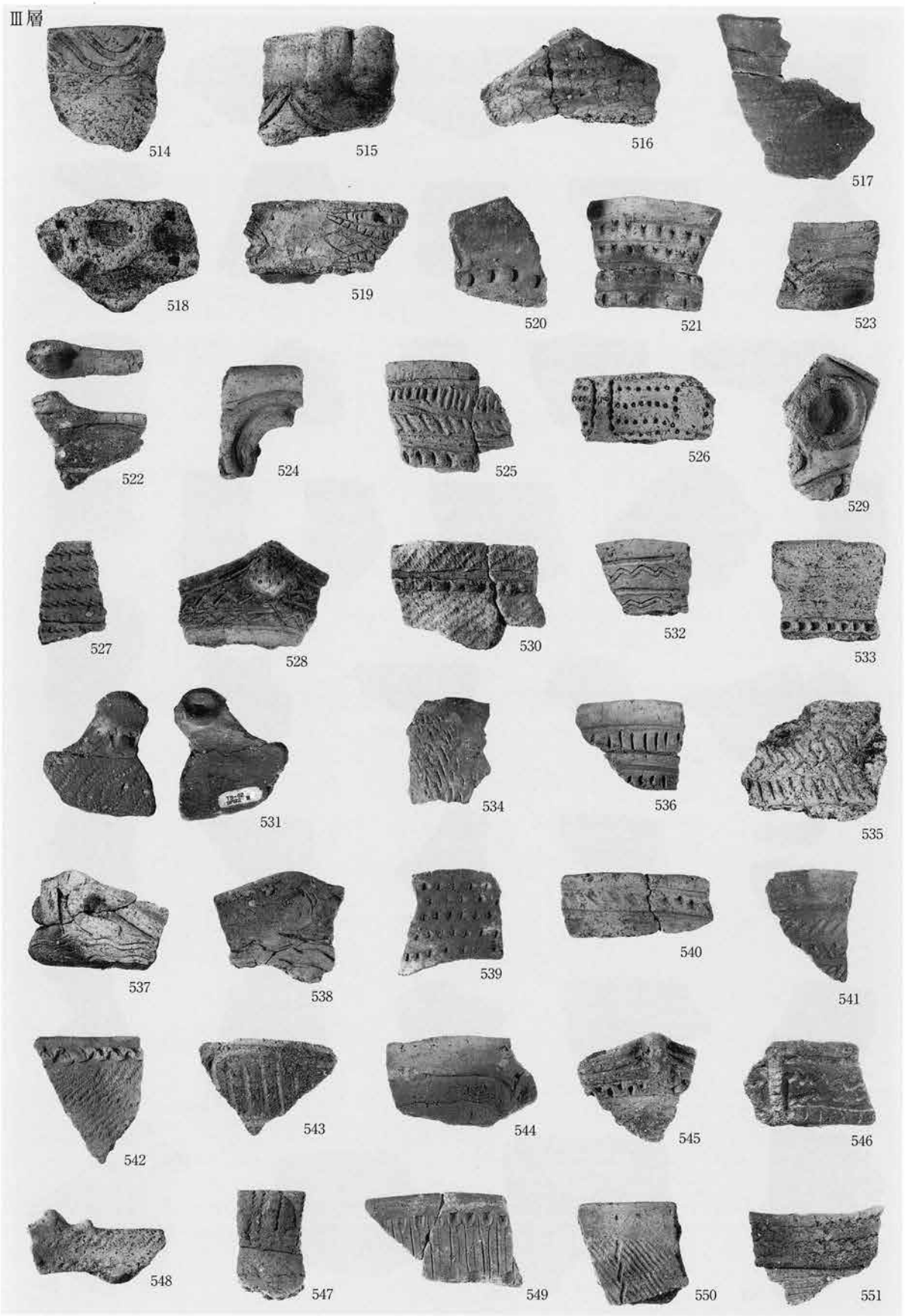
S=1/3

写真図版57　Ⅲ層出土土器（9）



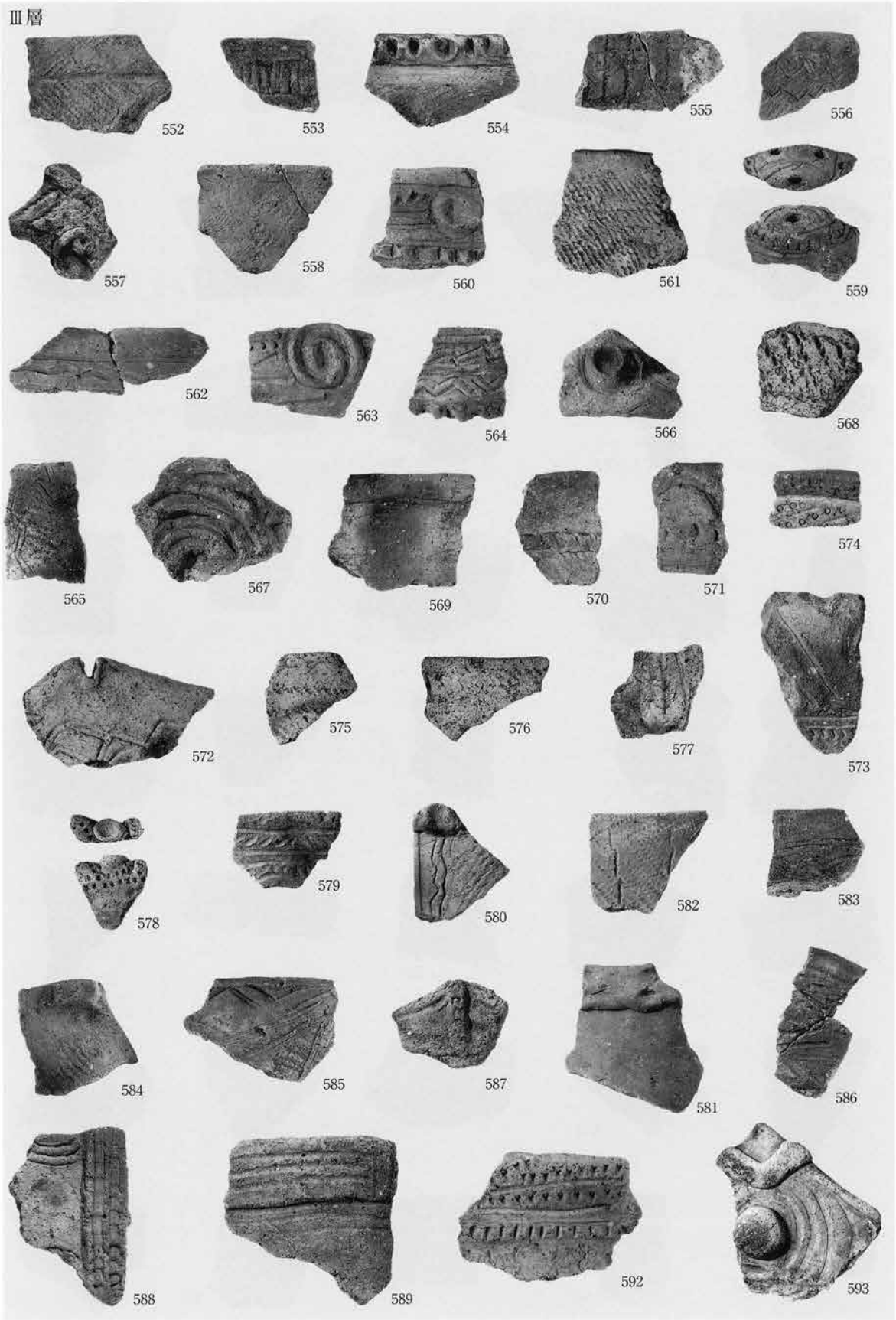
S=1/3

写真図版58　Ⅲ層出土土器（10）



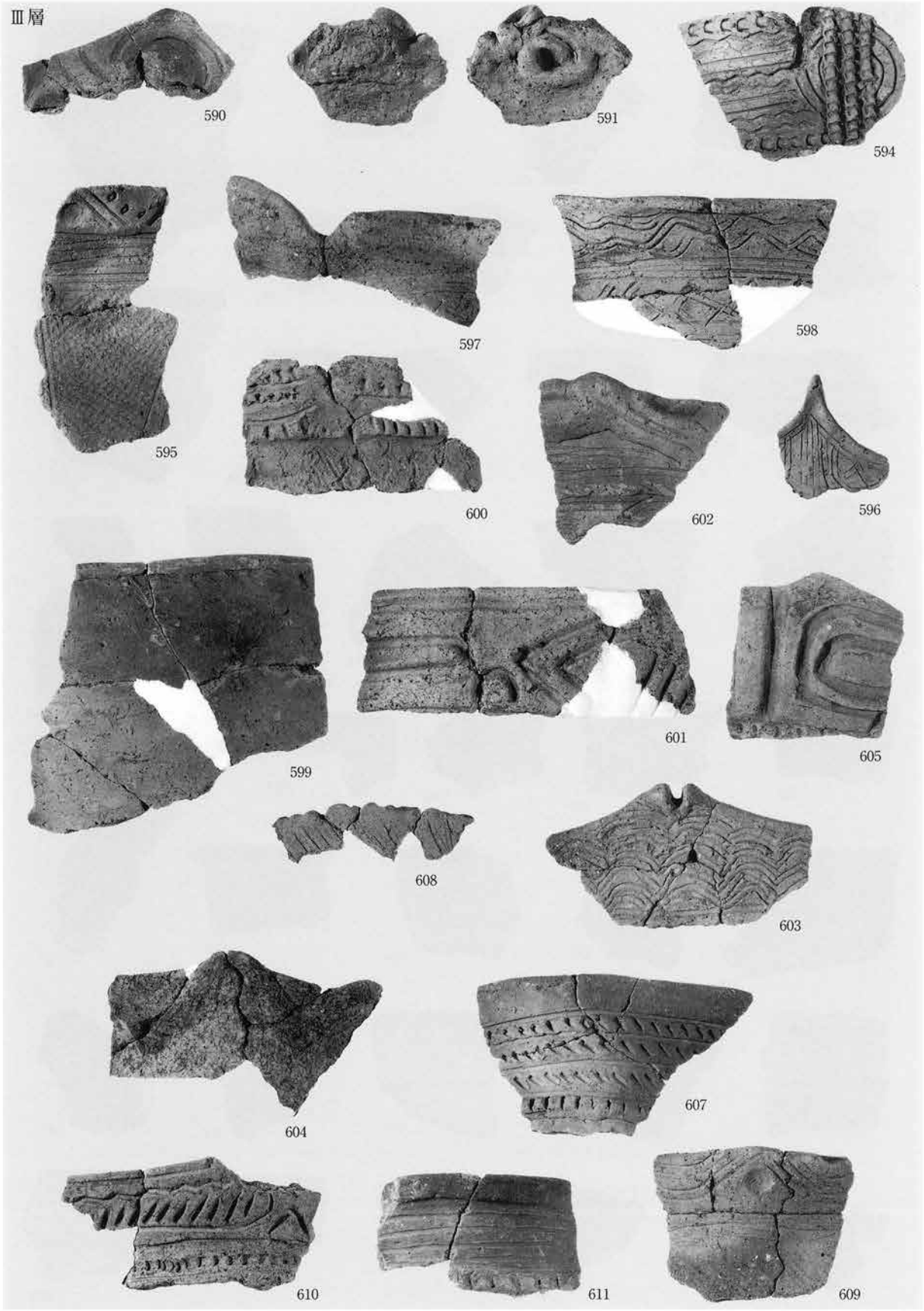
S=1/3

写真図版59　Ⅲ層出土土器（11）



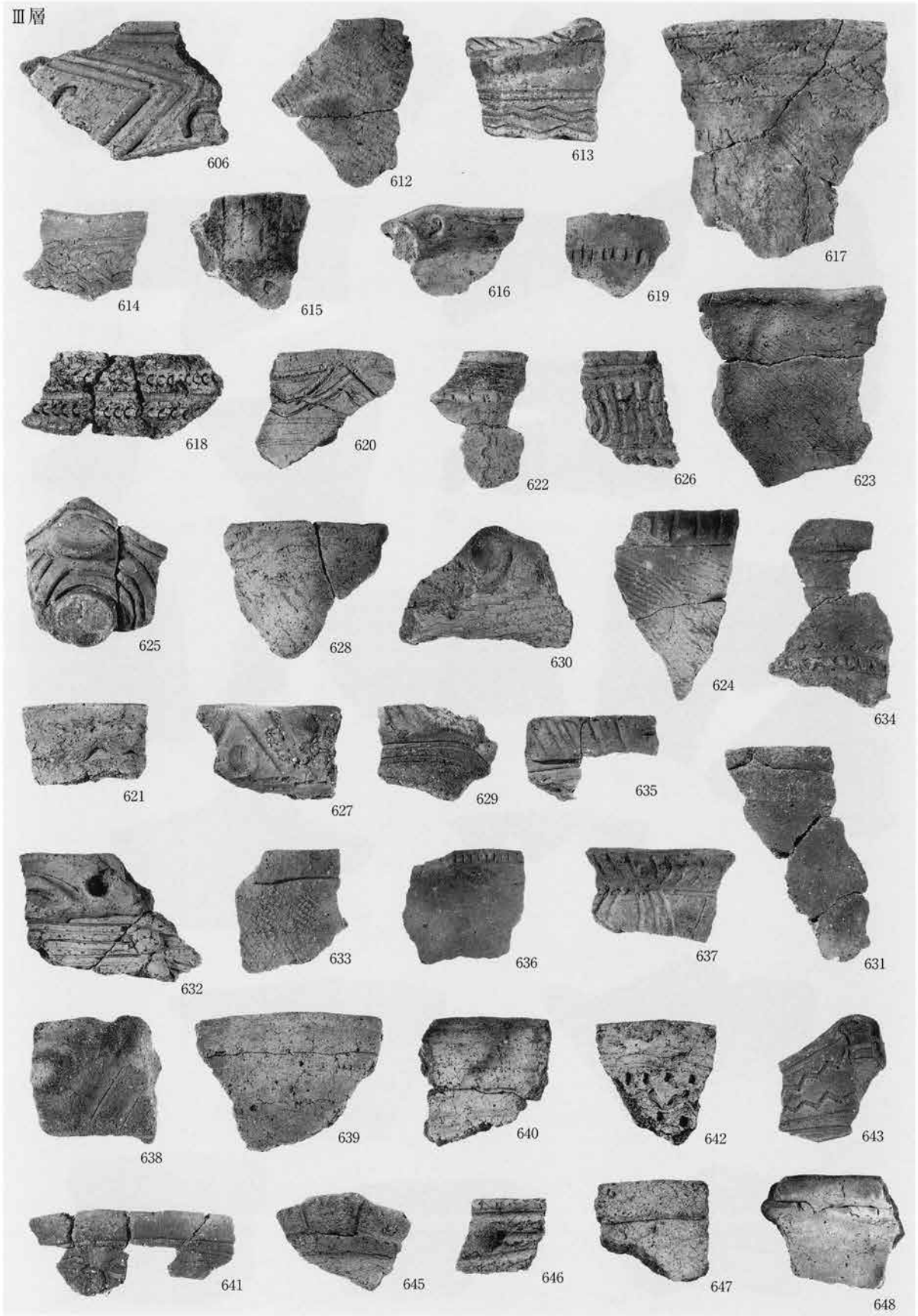
S=1/3

写真図版60　Ⅲ層出土土器（12）



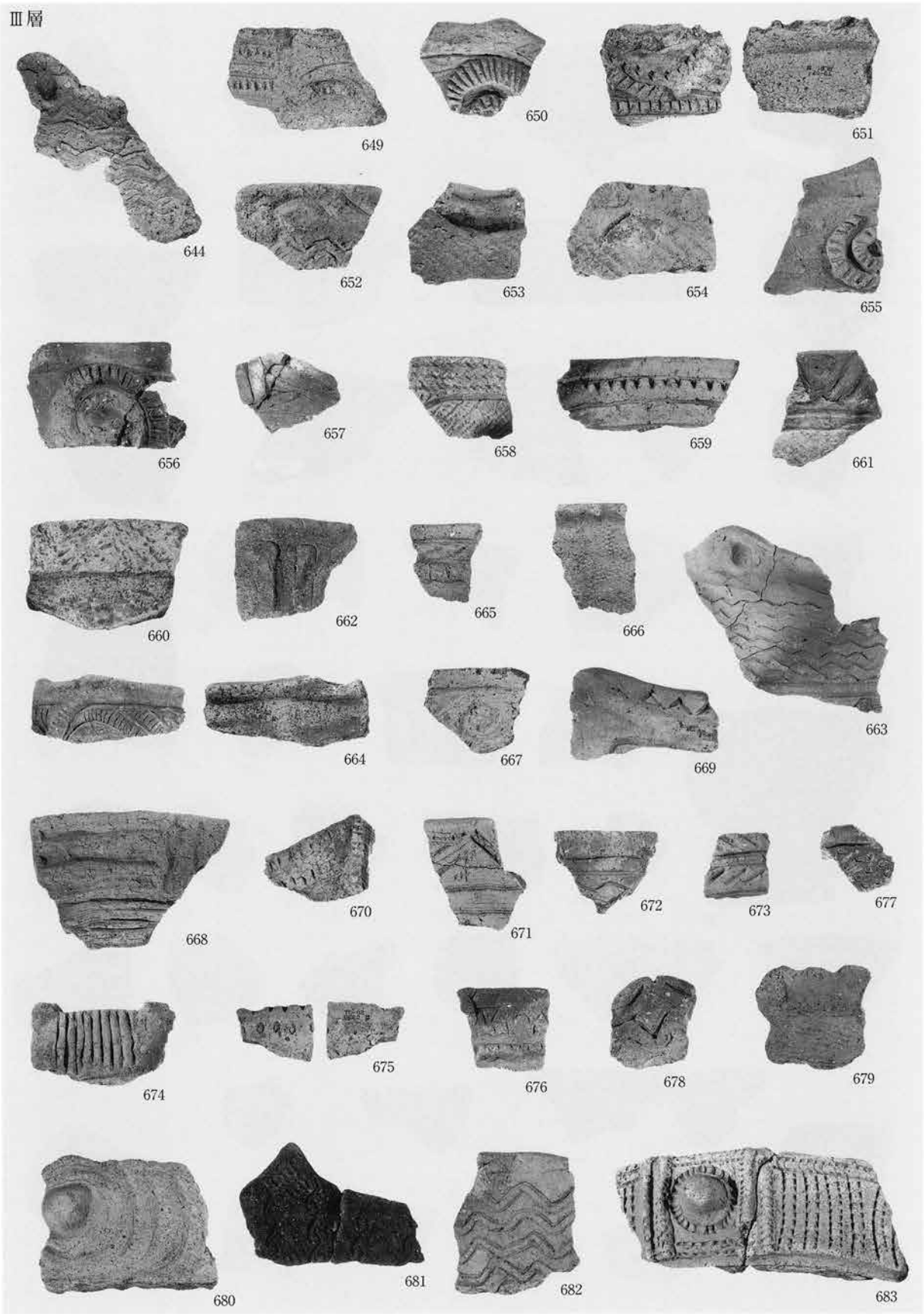
S=1/3

写真図版61　Ⅲ層出土土器（13）



S=1/3

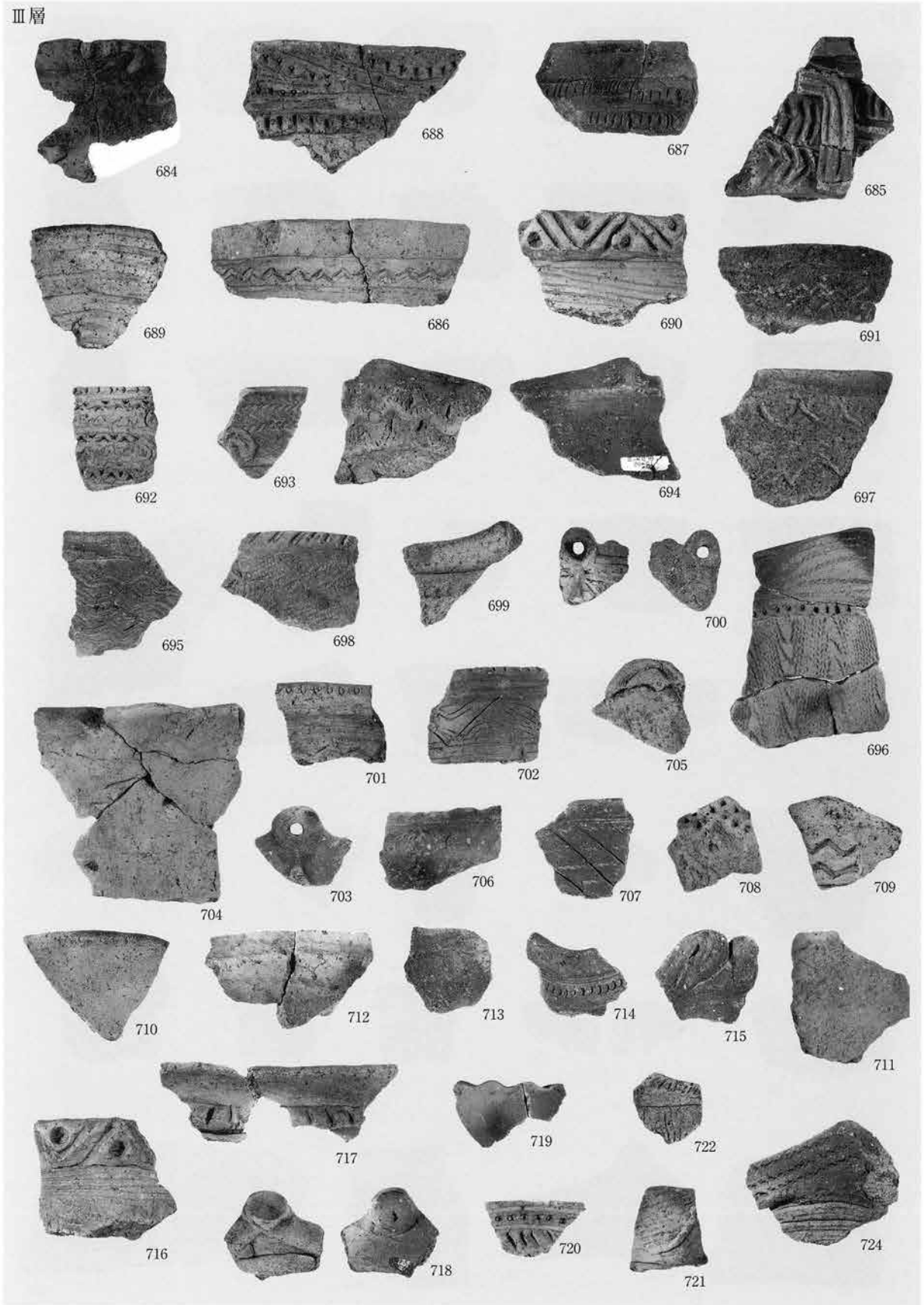
写真図版62　Ⅲ層出土土器（14）



S=1/3

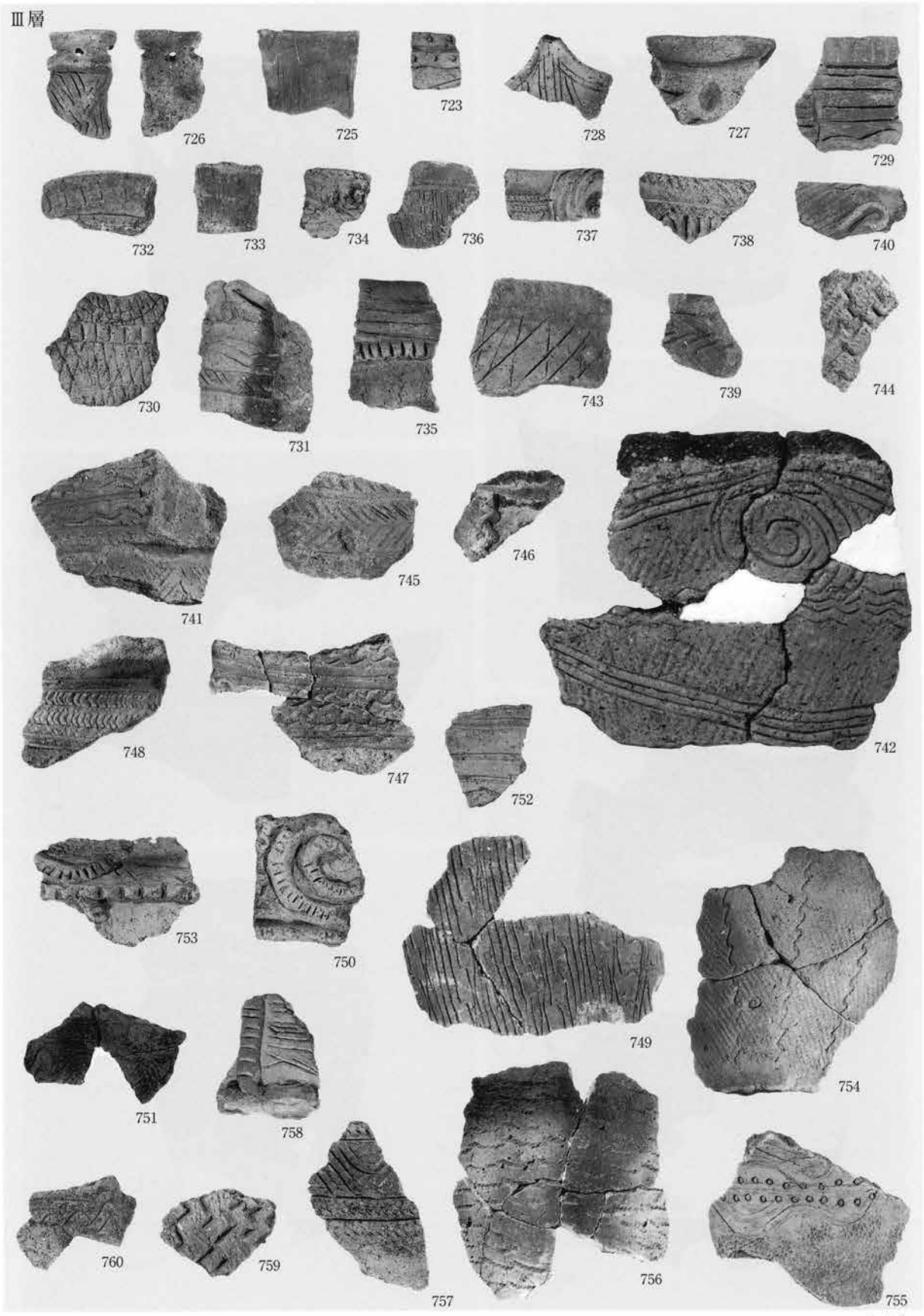
写真図版63　Ⅲ層出土土器（15）

Ⅲ層



S=1/3

写真図版64　Ⅲ層出土土器（16）



S=1/3

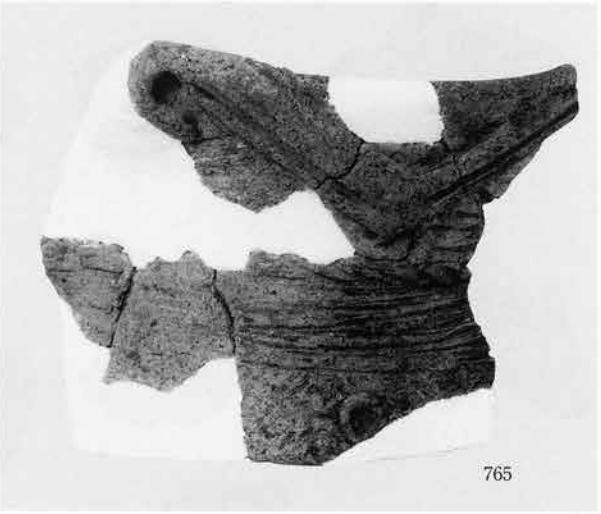
写真図版65　Ⅲ層出土土器（17）

Ⅳ層

761

762

764



765

771

766

写真図版66　Ⅳ層出土土器（1）

761、762、764、765　S=1/3
他　S=1/4

Ⅳ層

763

770

767

772

769

773

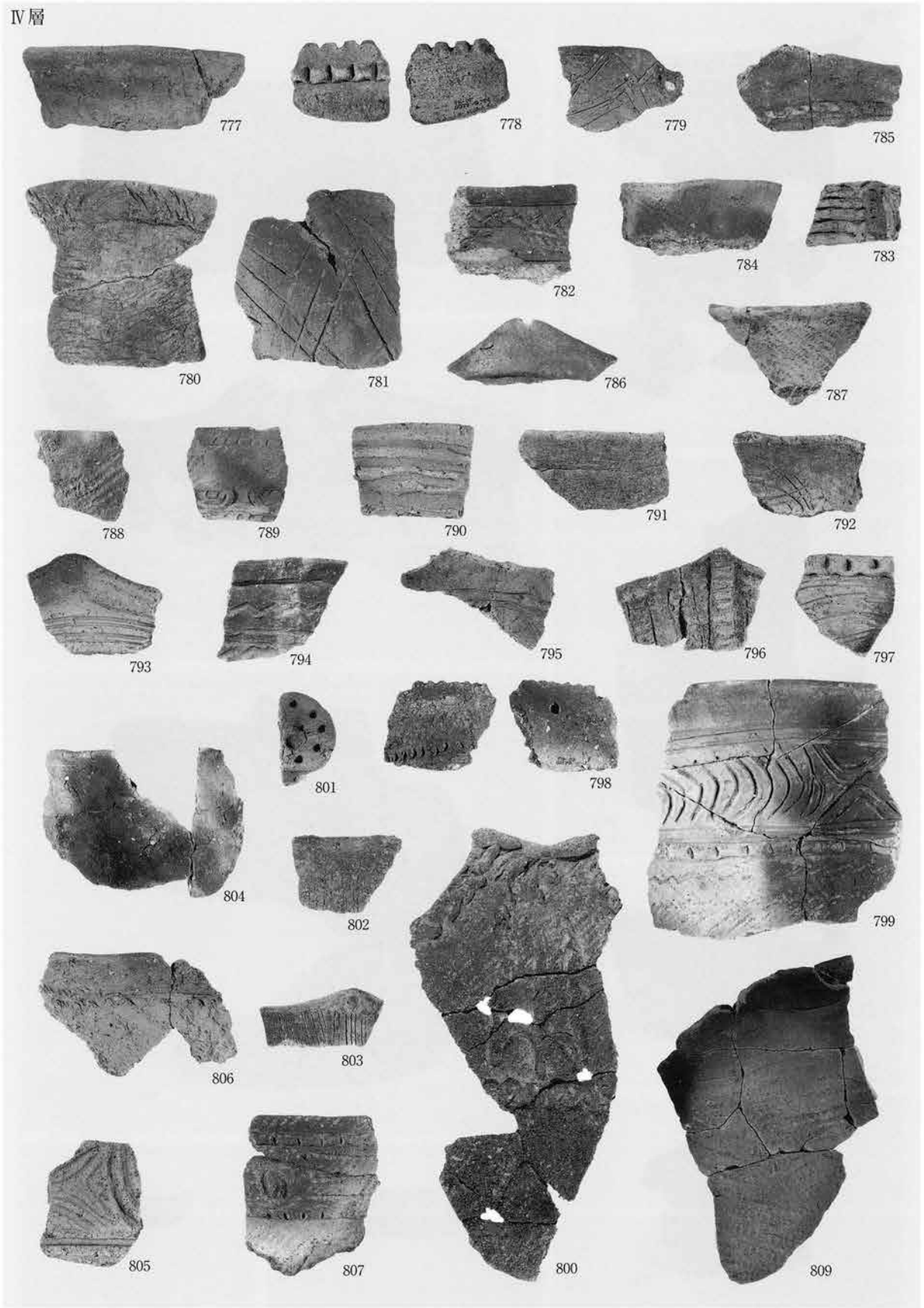
774

775

776

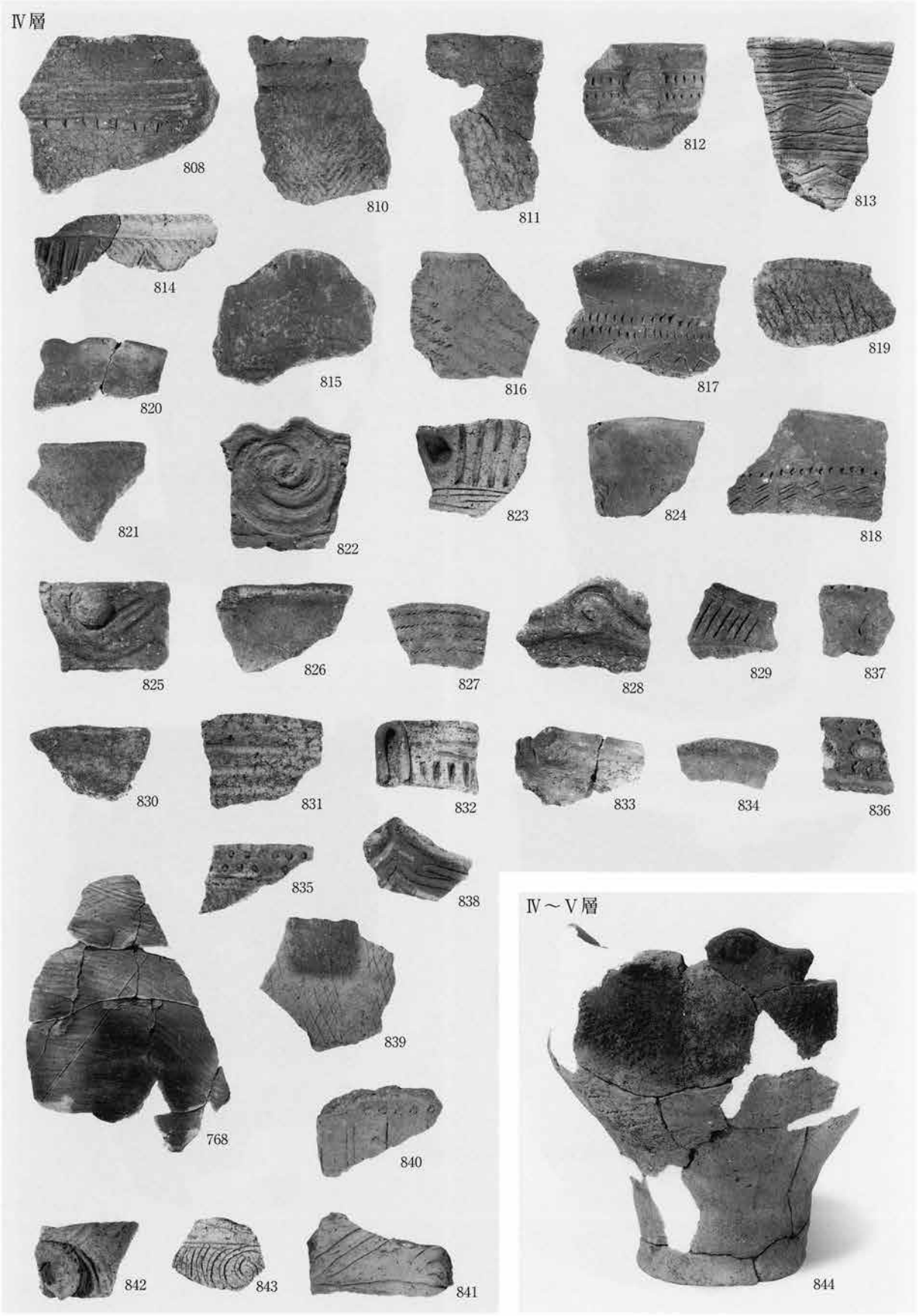
S=1/3

写真図版67　Ⅳ層出土土器（2）



S=1/3

写真図版68　Ⅳ層出土土器（3）



S=1/3

写真図版69　Ⅳ～Ⅴ層出土土器

V層

845

846

847

848

写真図版70　V層出土土器（1）

845　S=1/4
846～848　S=1/3

V層

849

850

851

852

写真図版71　V層出土土器（2）

849、851、852　S=1/3
850　S=1/6

V層

854

853

855

856

853～856　S=1/3

写真図版72　V層出土土器（3）

V層

857

858

859

860

869

870

867

S=1/3

写真図版73　V層出土土器（4）

V層

861

862

863

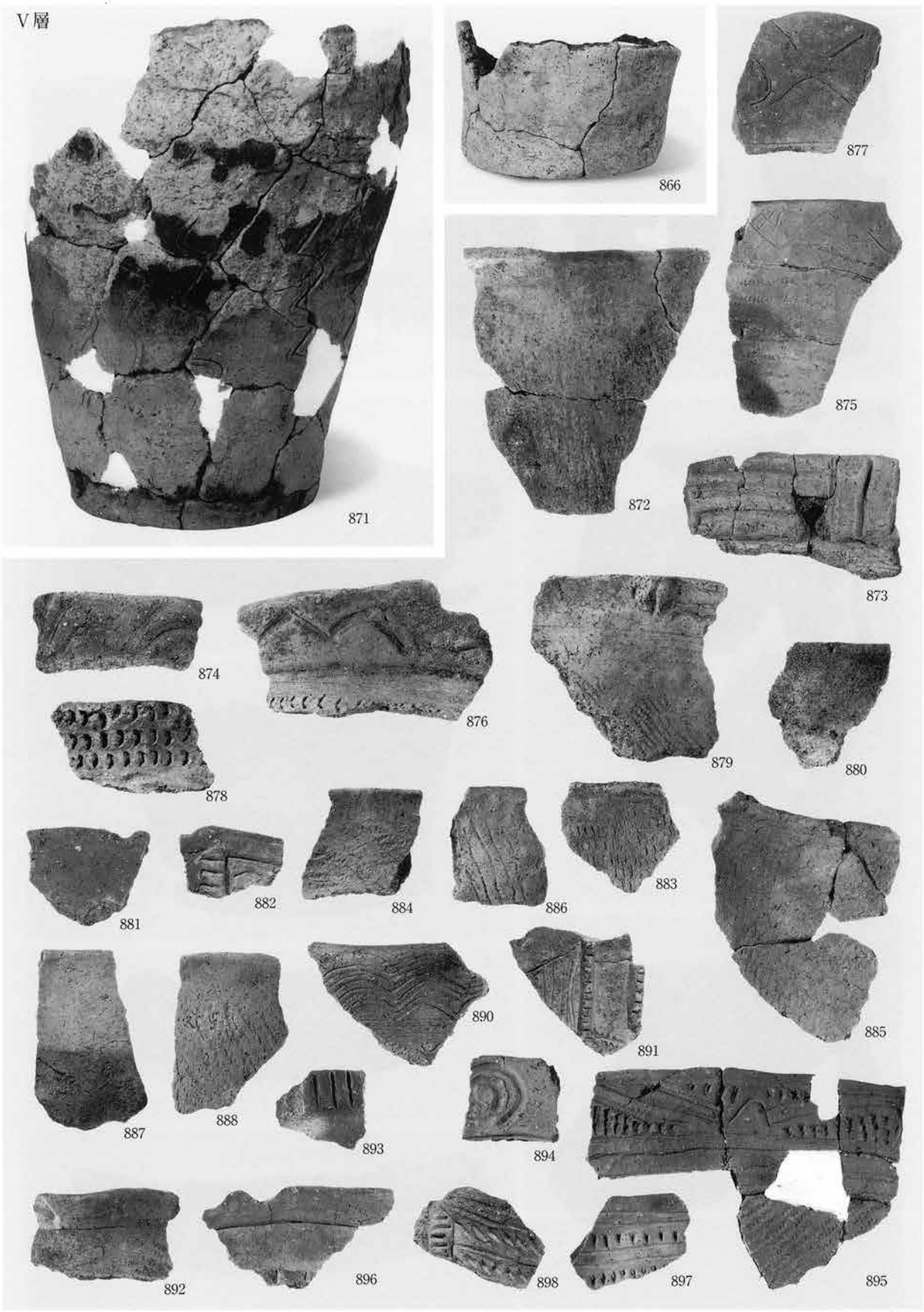
864

868

865

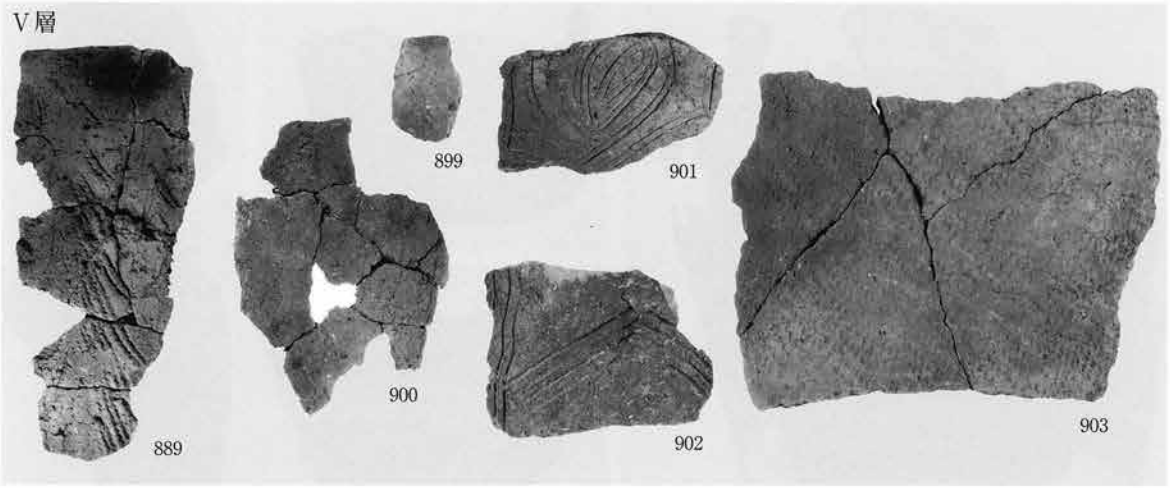
S=1/3

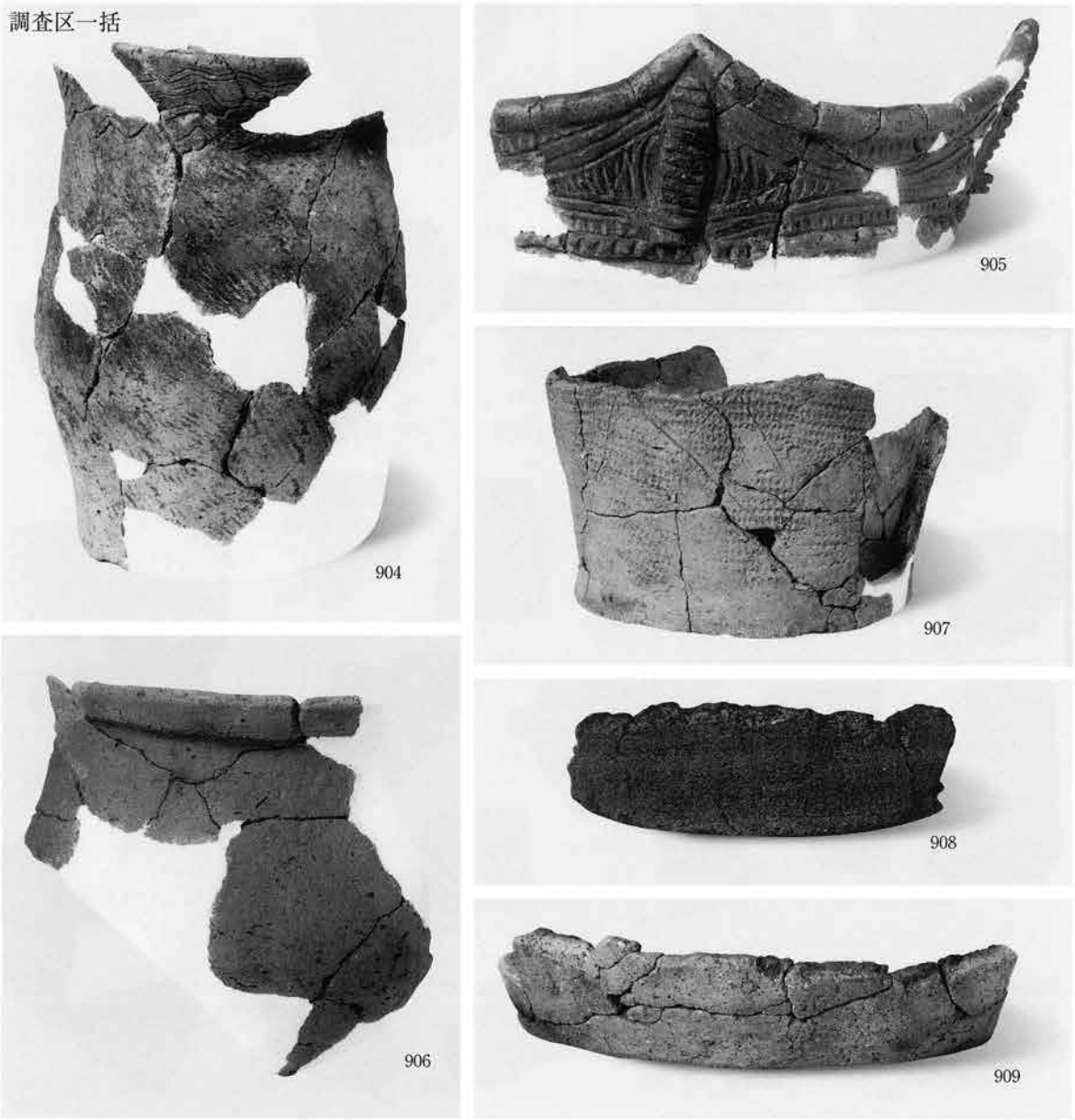
写真図版74　V層出土土器（5）



S=1/3

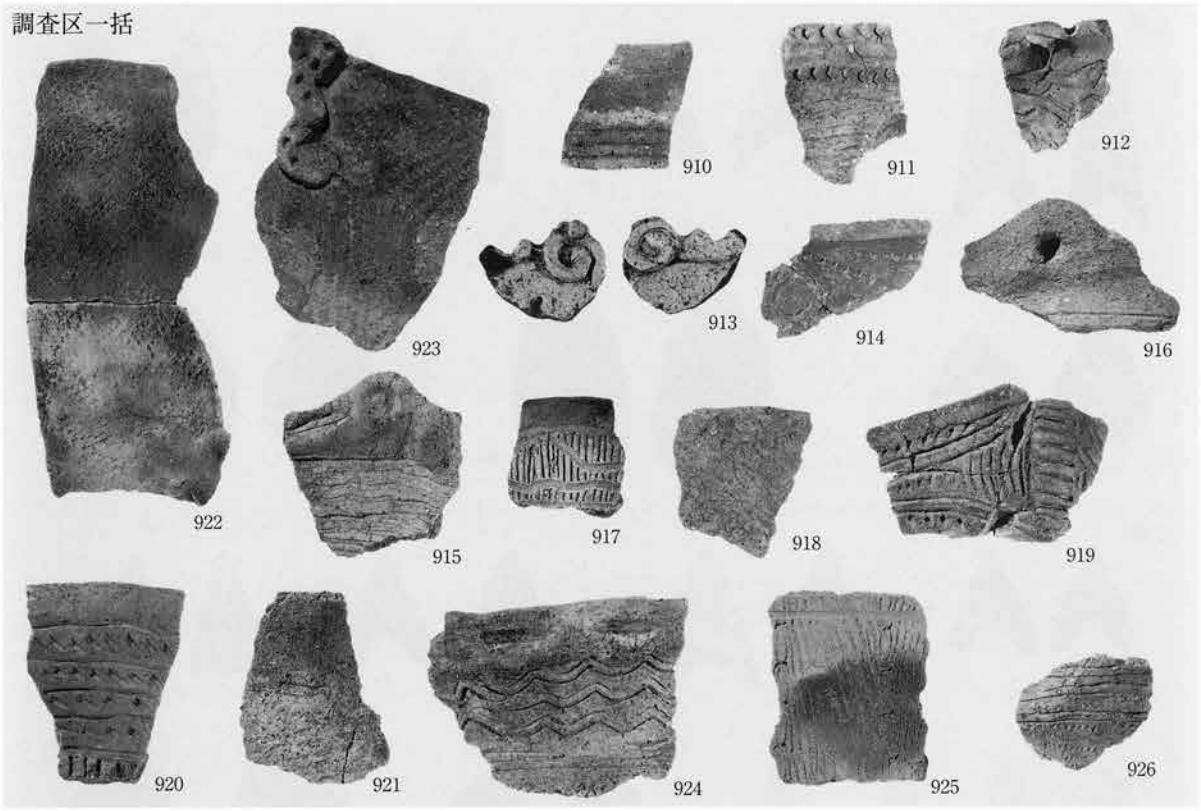
写真図版75　V層出土土器（6）

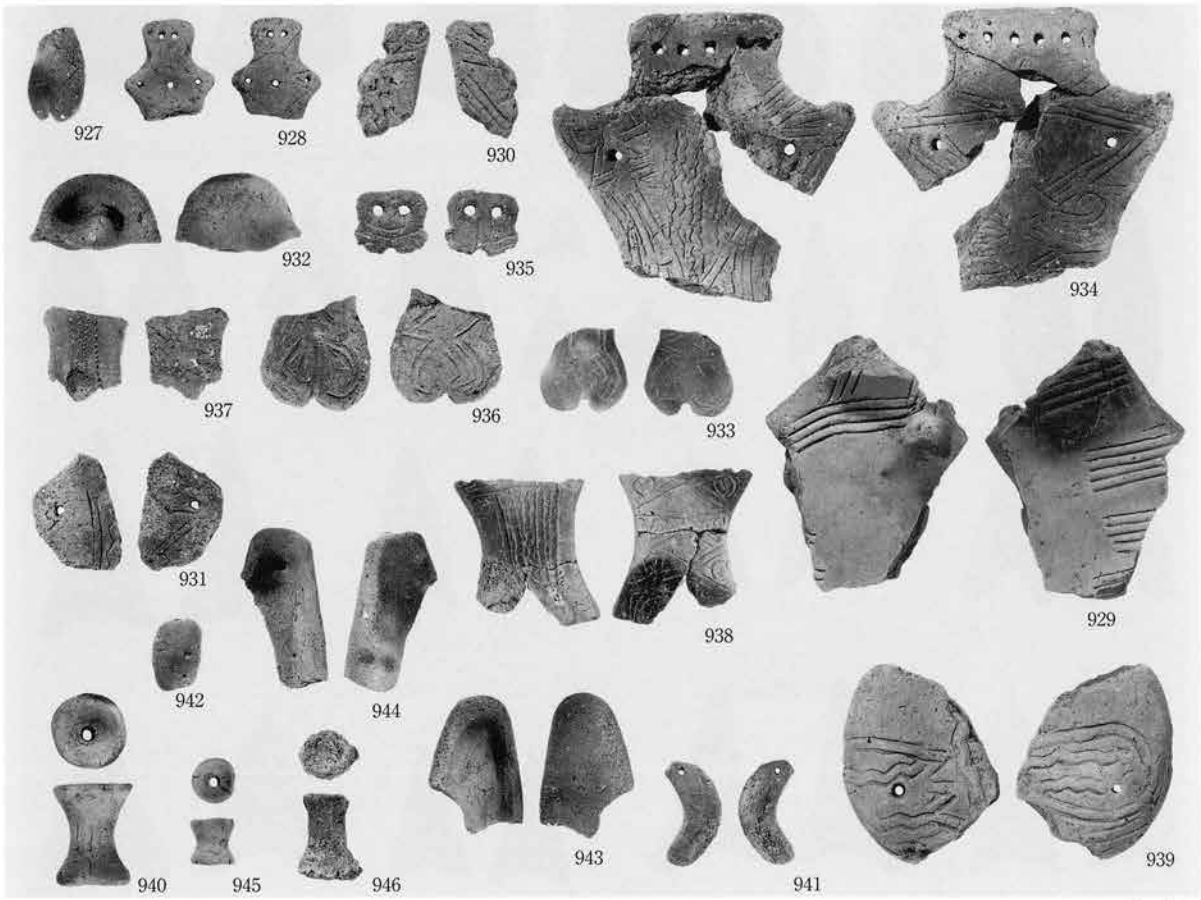




S=1/3

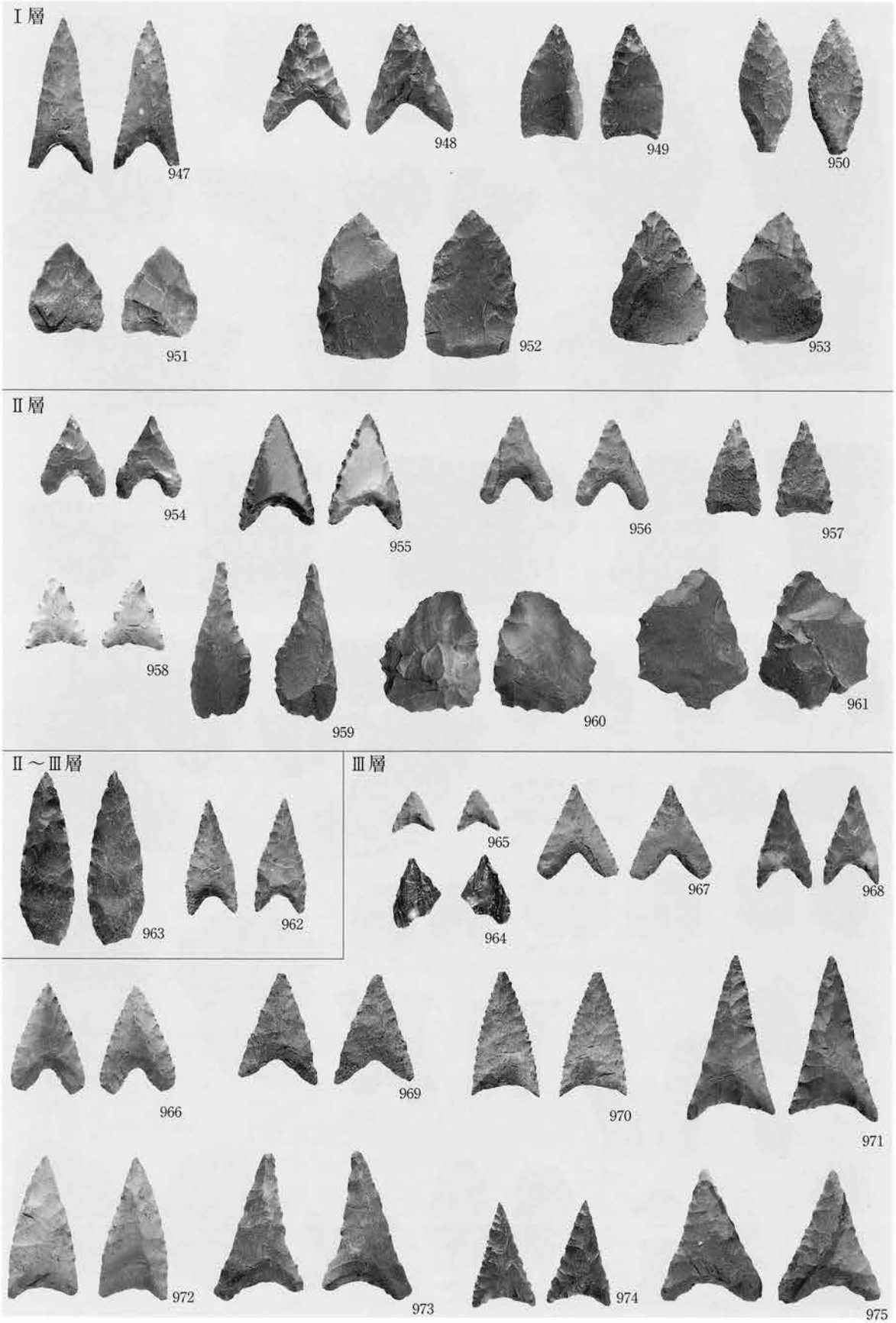
写真図版76　V層出土土器（7）、調査区一括（1）





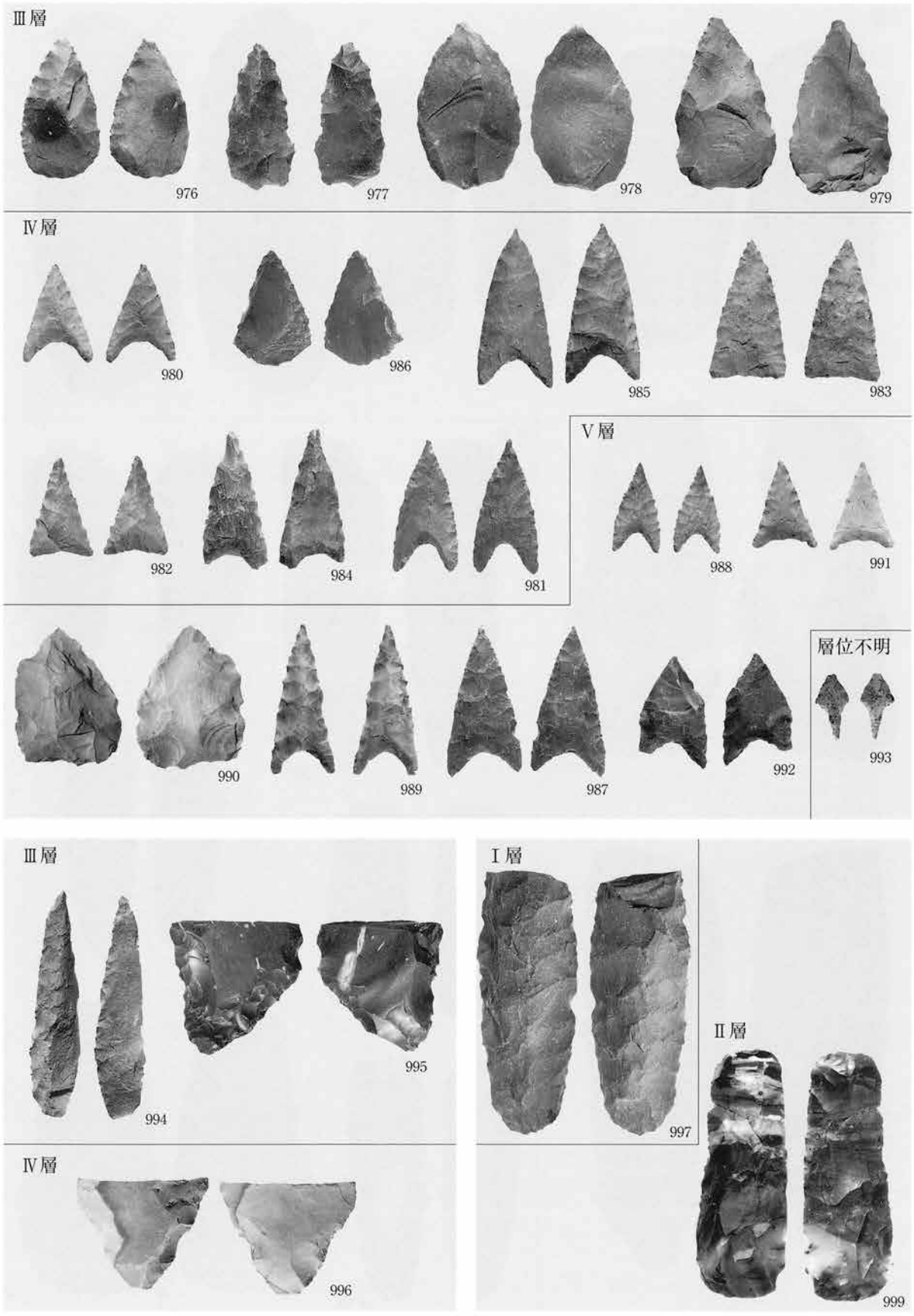
S=1/3

写真図版77　調査区一括（2）、土製品



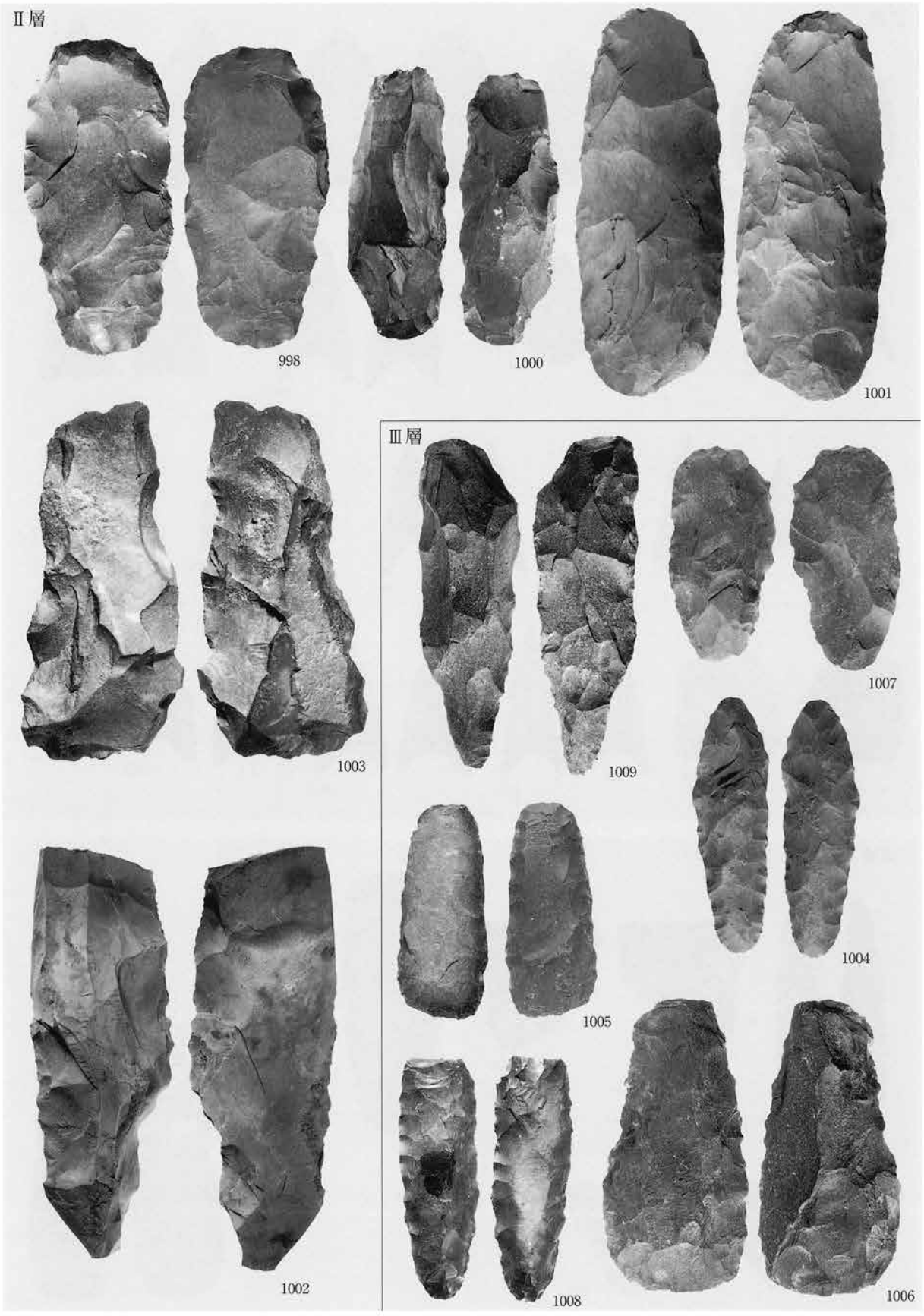
写真図版78　石鏃（1）

S=2/3



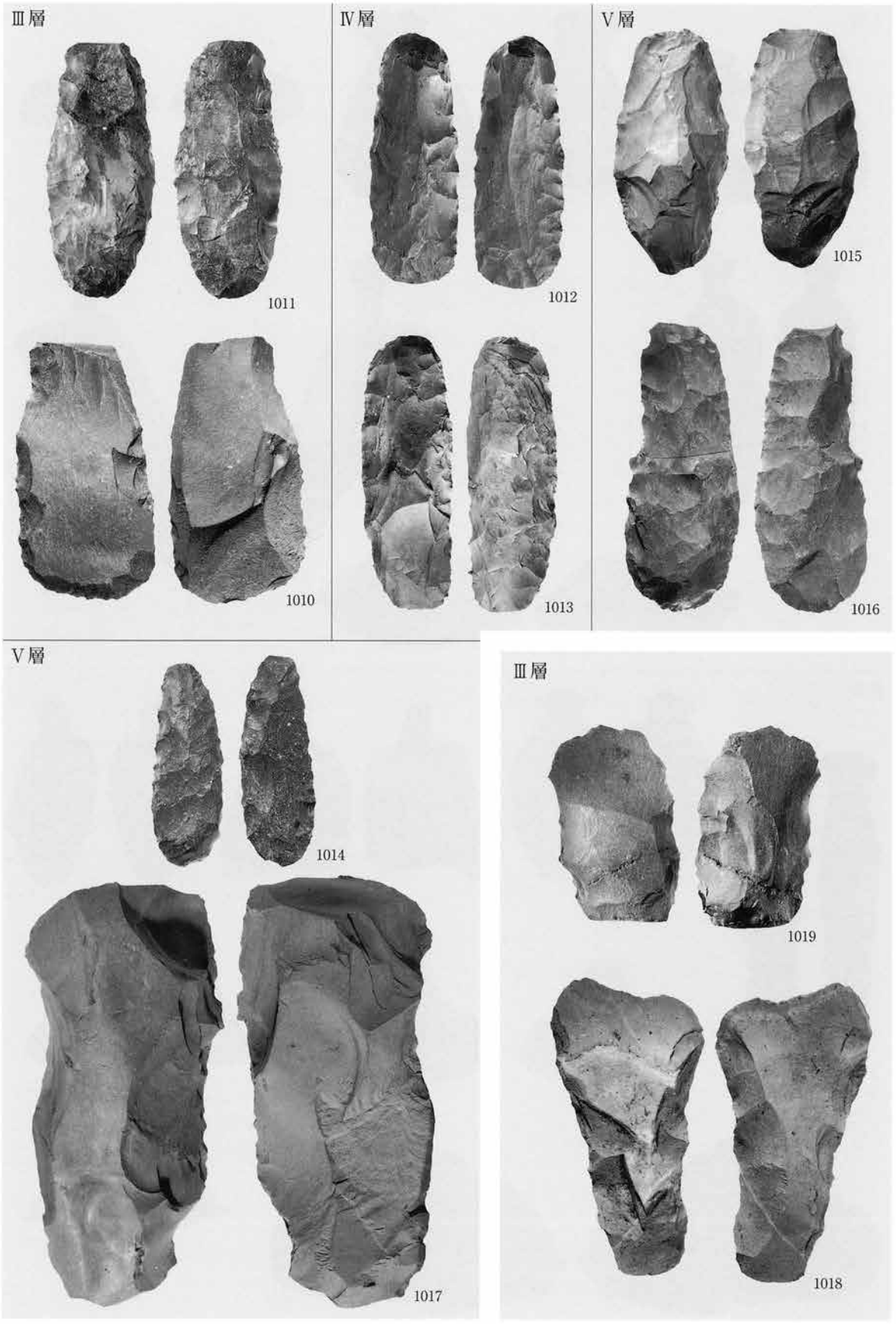
S=2/3

写真図版79　石鏃（2）、尖頭器、石篦（1）



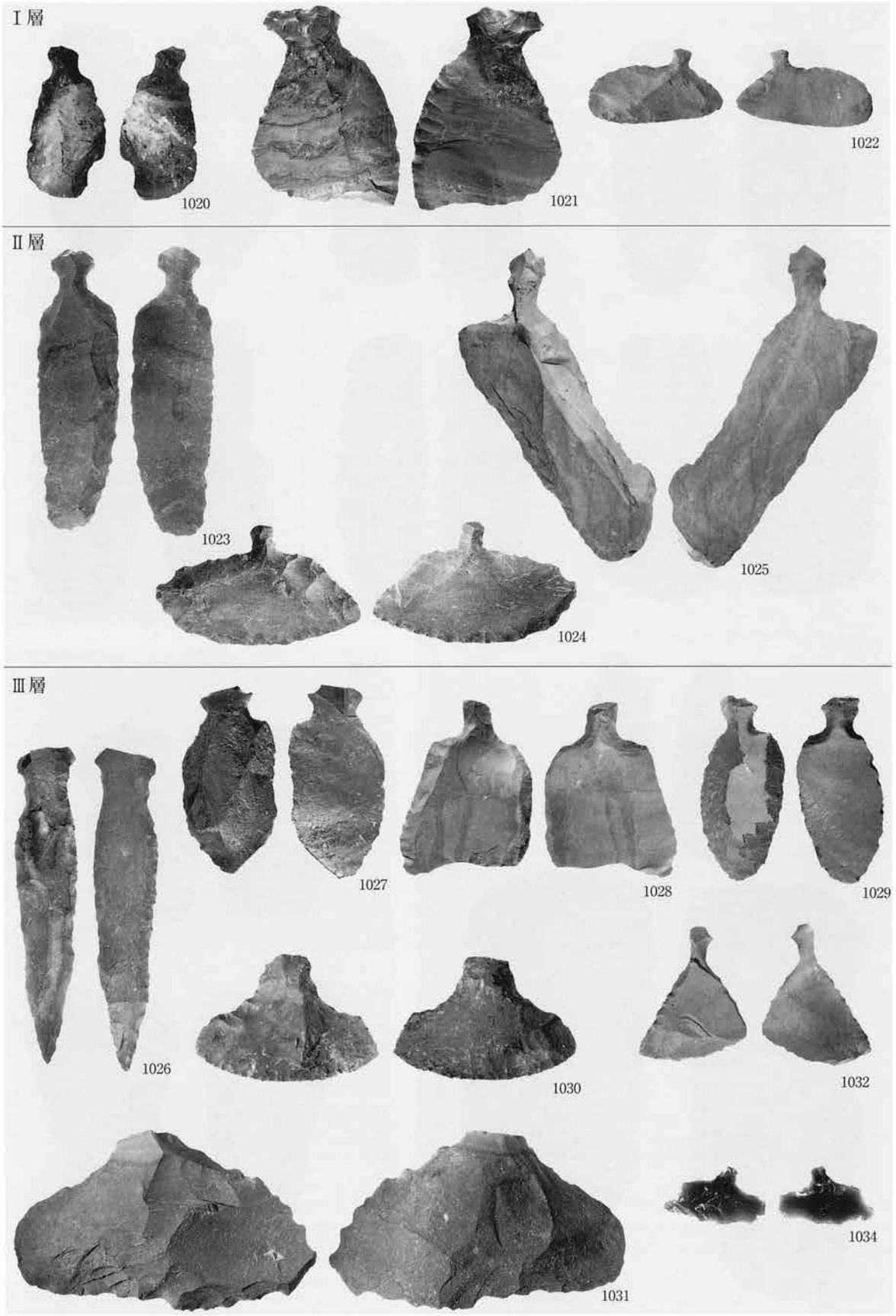
S=2/3

写真図版80　石鏃（2）



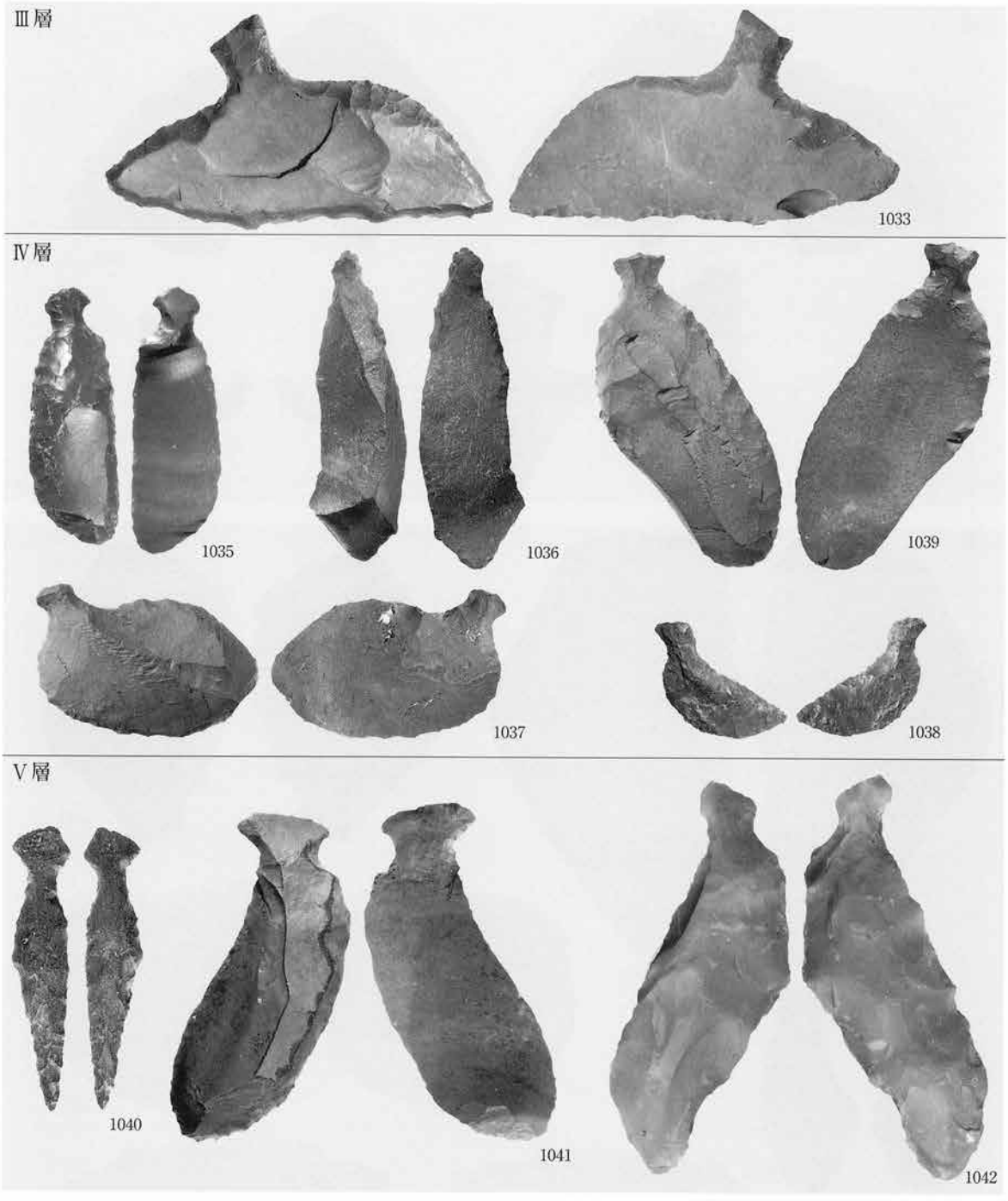
S=2/3

写真図版81　石箆（3）、トランシェ様石器



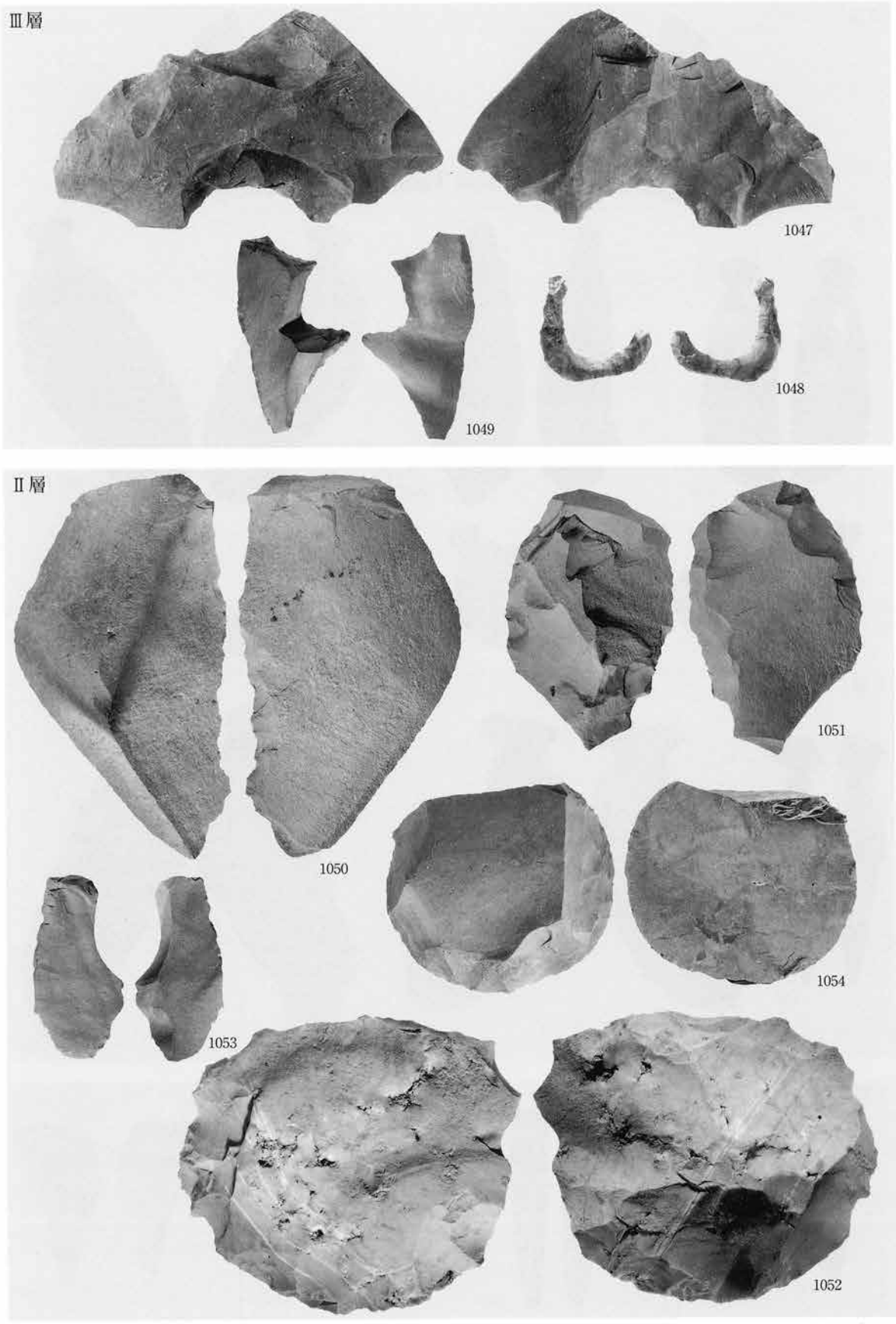
S=2/3

写真図版82　石匙（2）



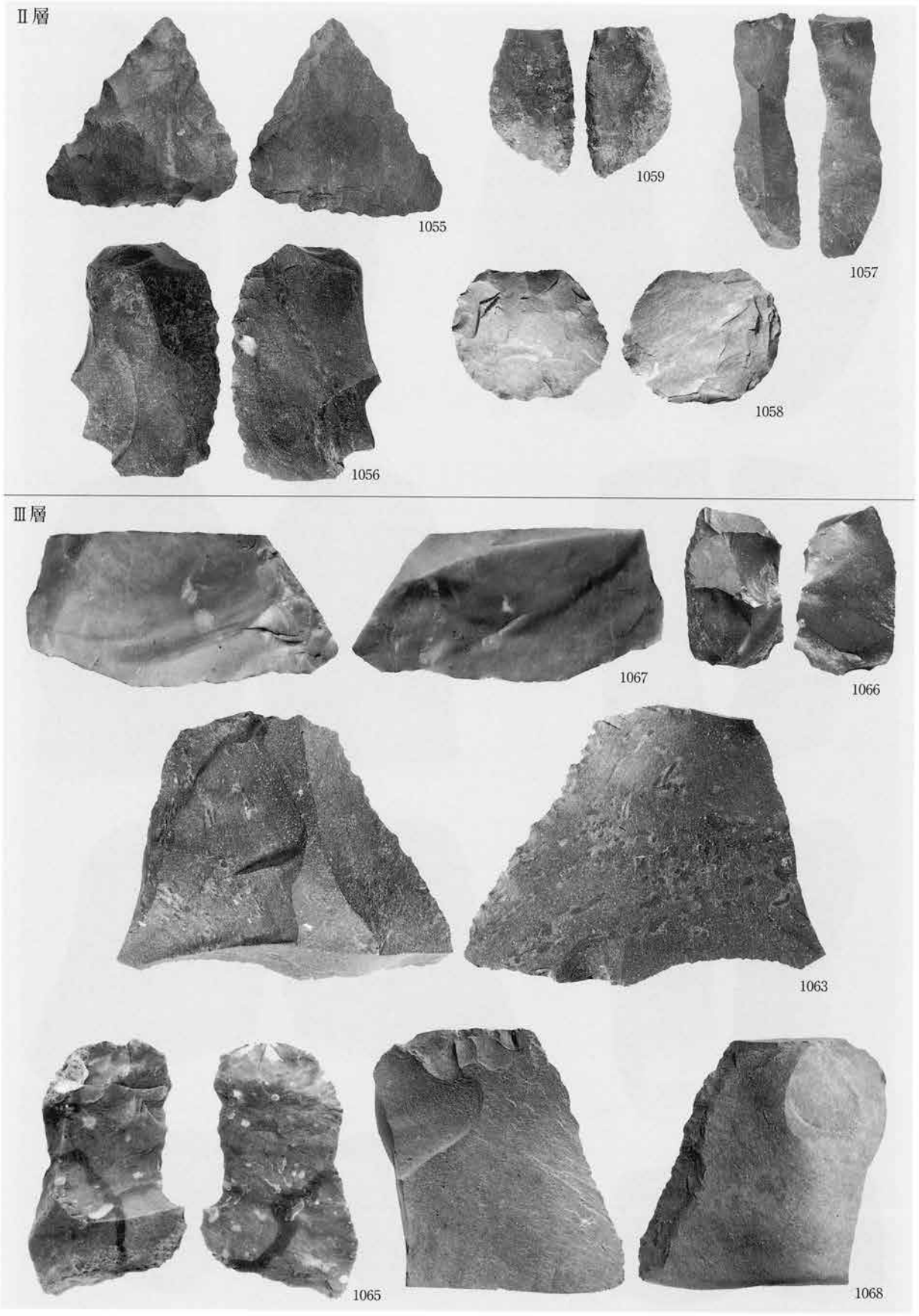
S=2/3

写真図版83　石匙（2）、石錐



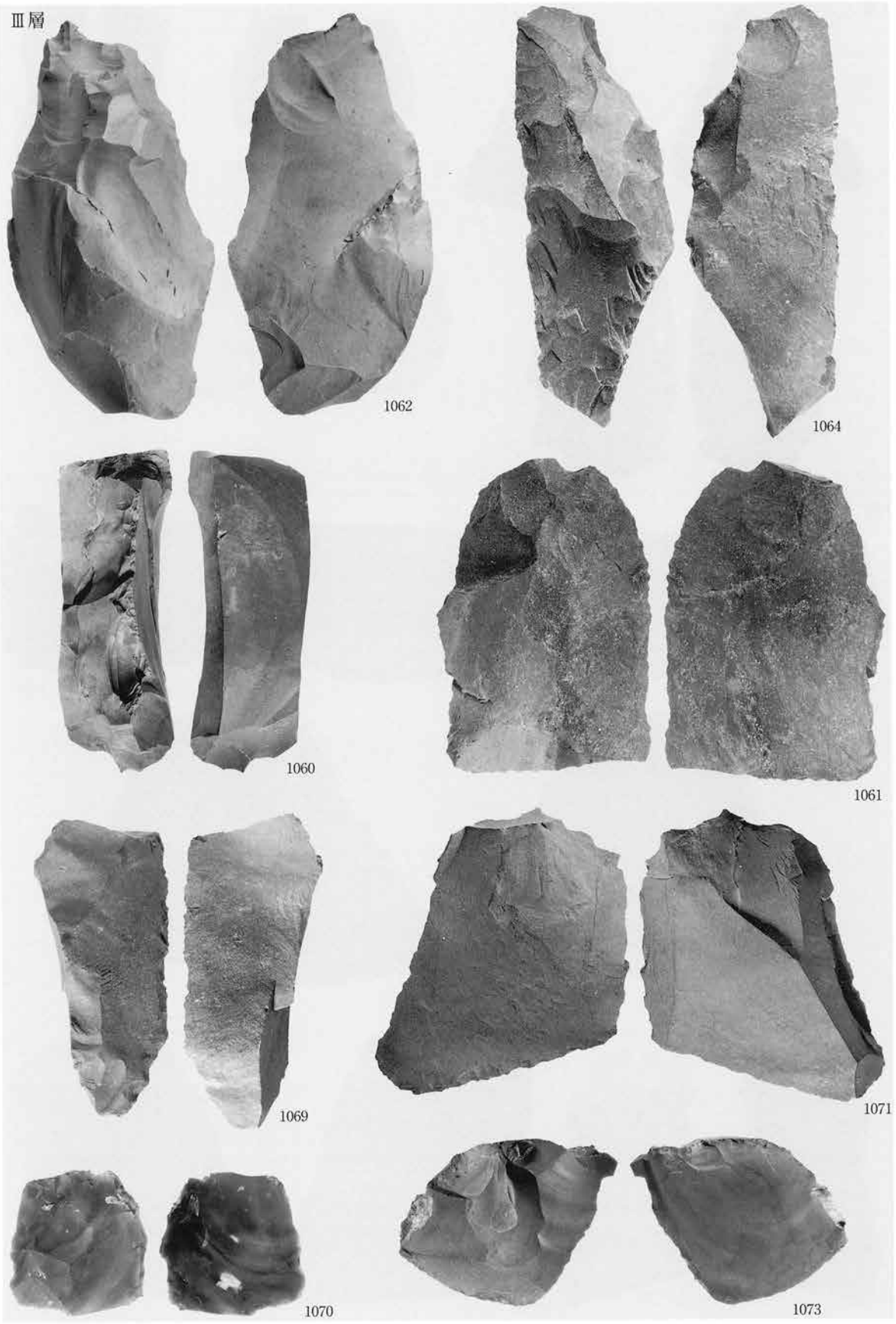
S=2/3

写真図版84　異形石器、スクレイパー（1）



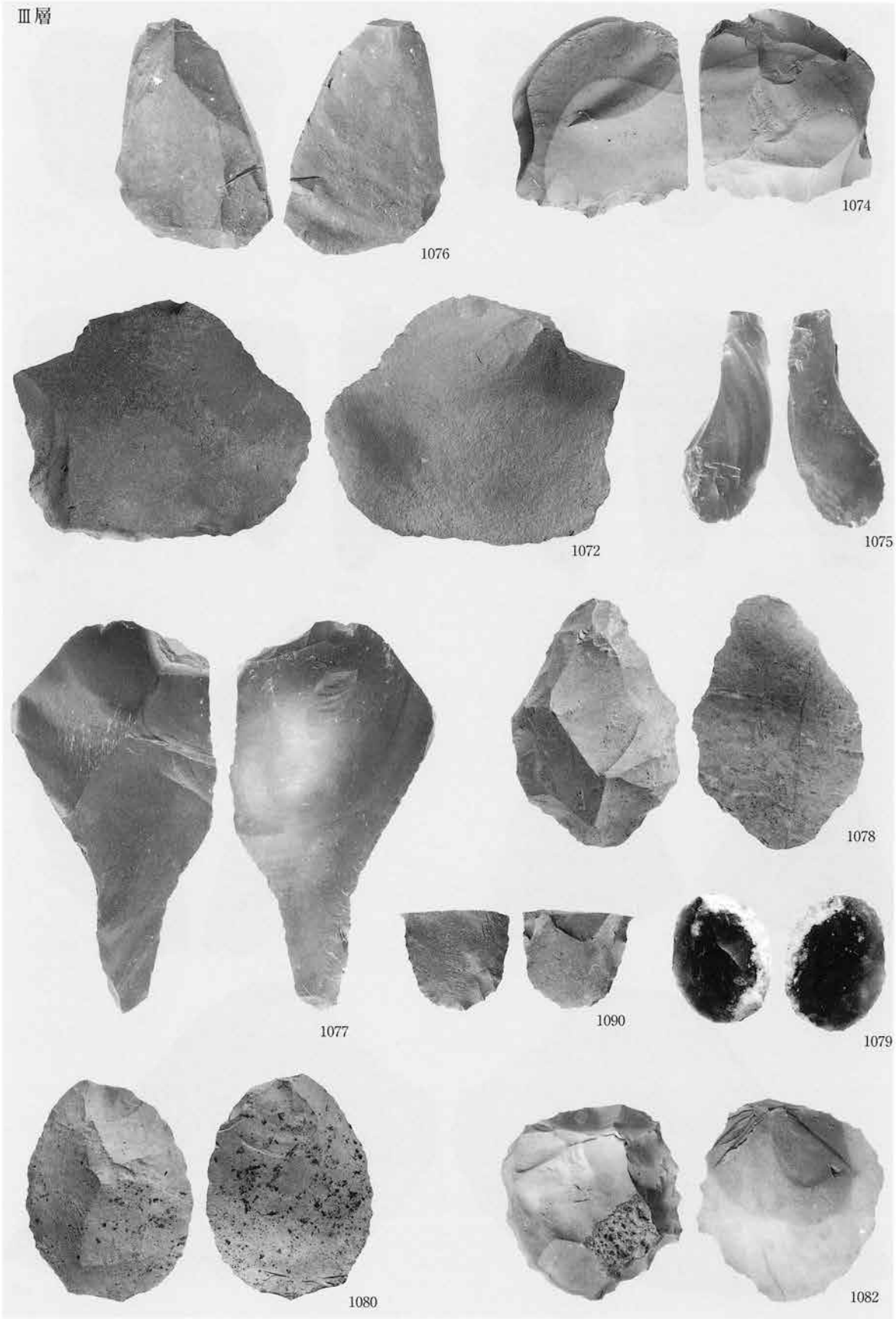
S=2/3

写真図版85　スクレイパー（2）



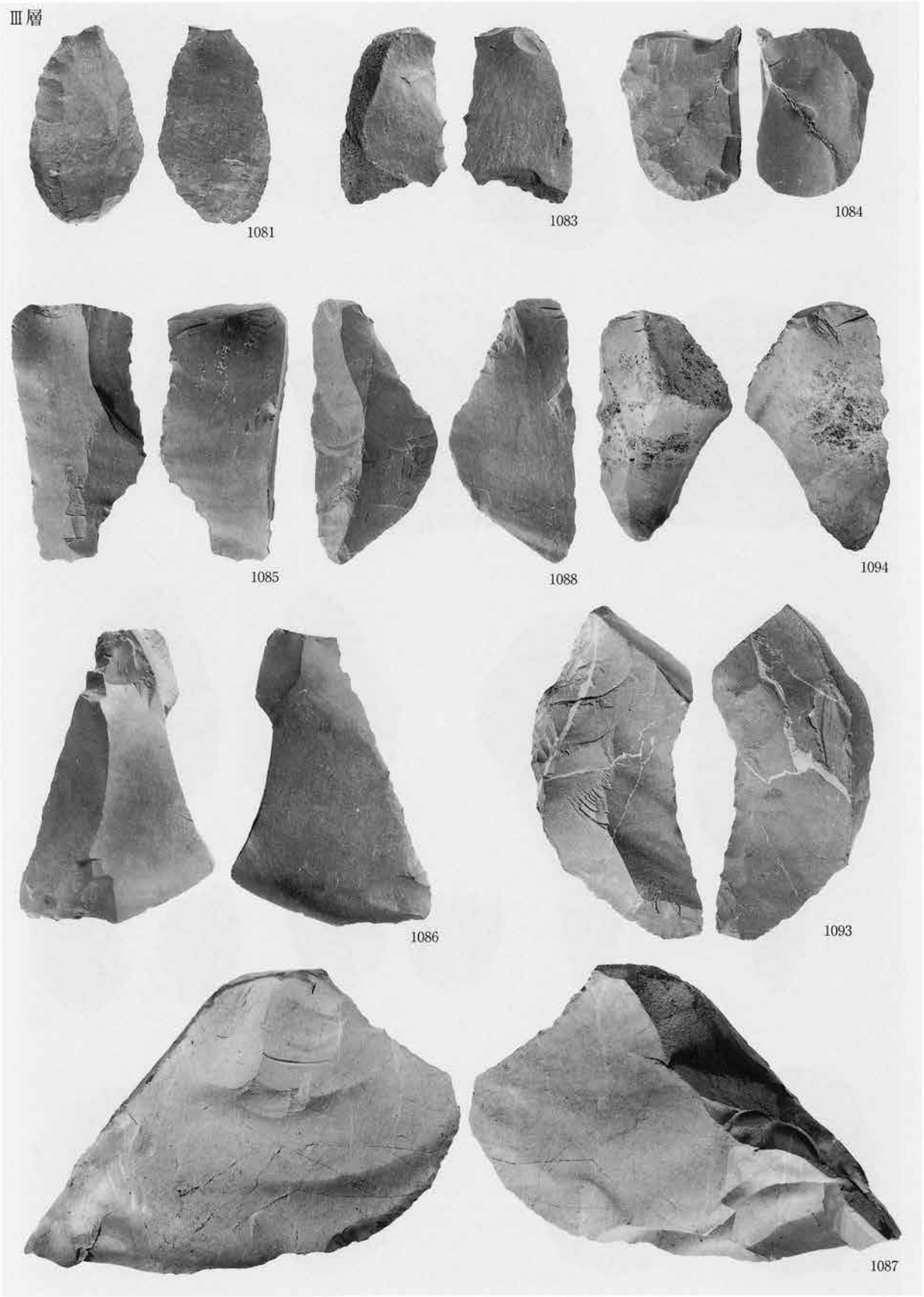
S=2/3

写真図版86　スクレイパー（3）



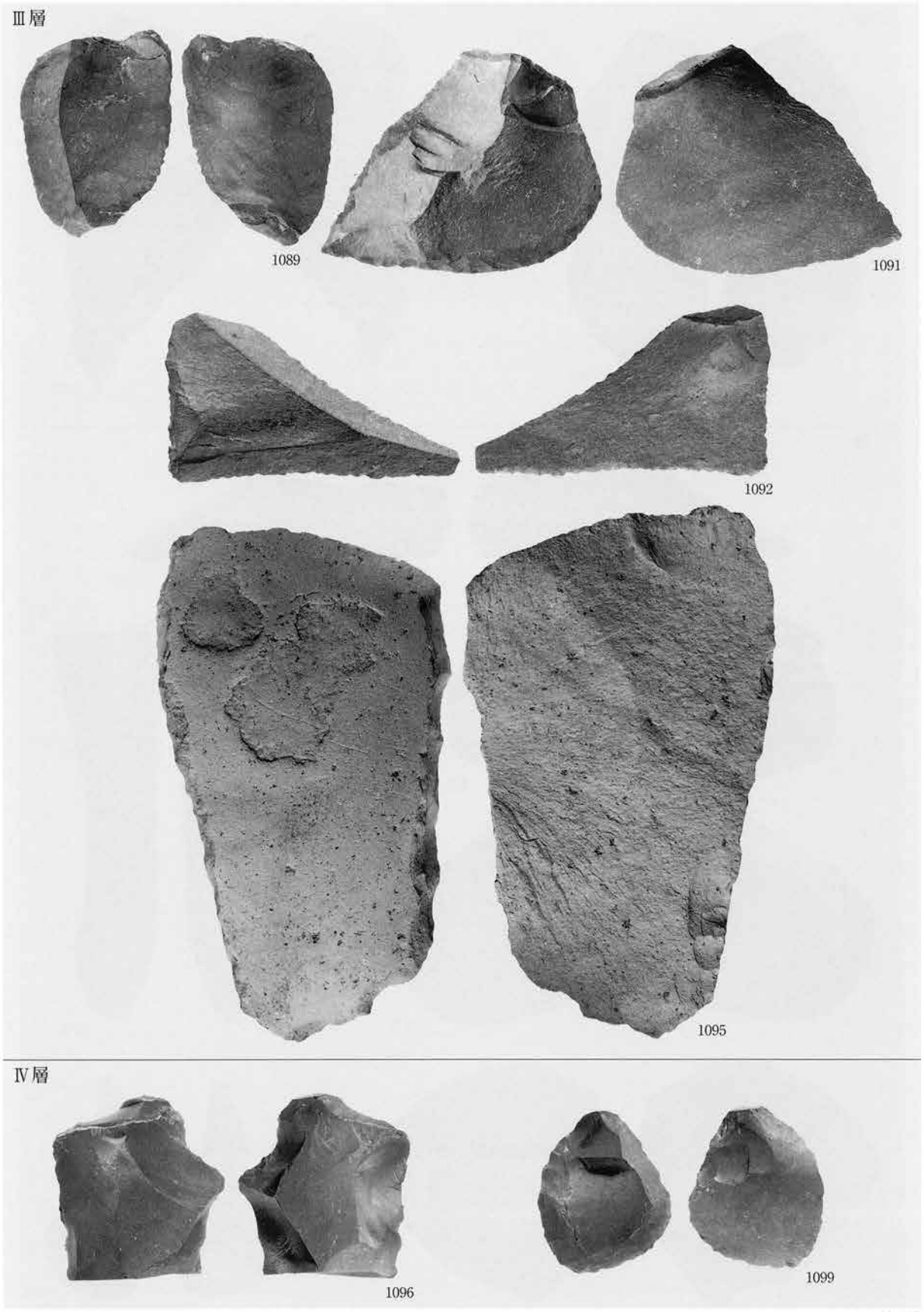
S=2/3

写真図版87　スクレイパー（4）



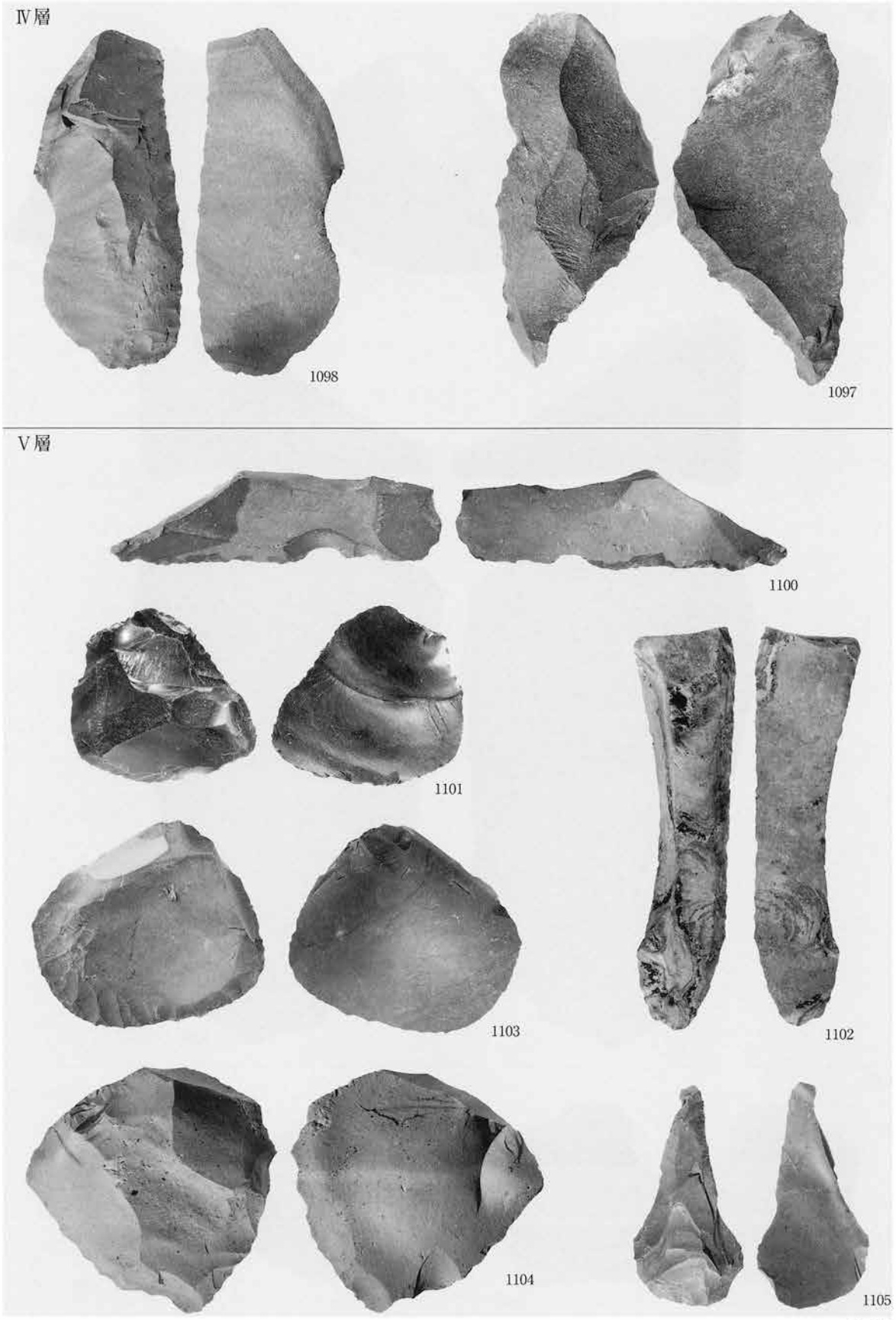
S=2/3

写真図版88　スクレイパー（5）



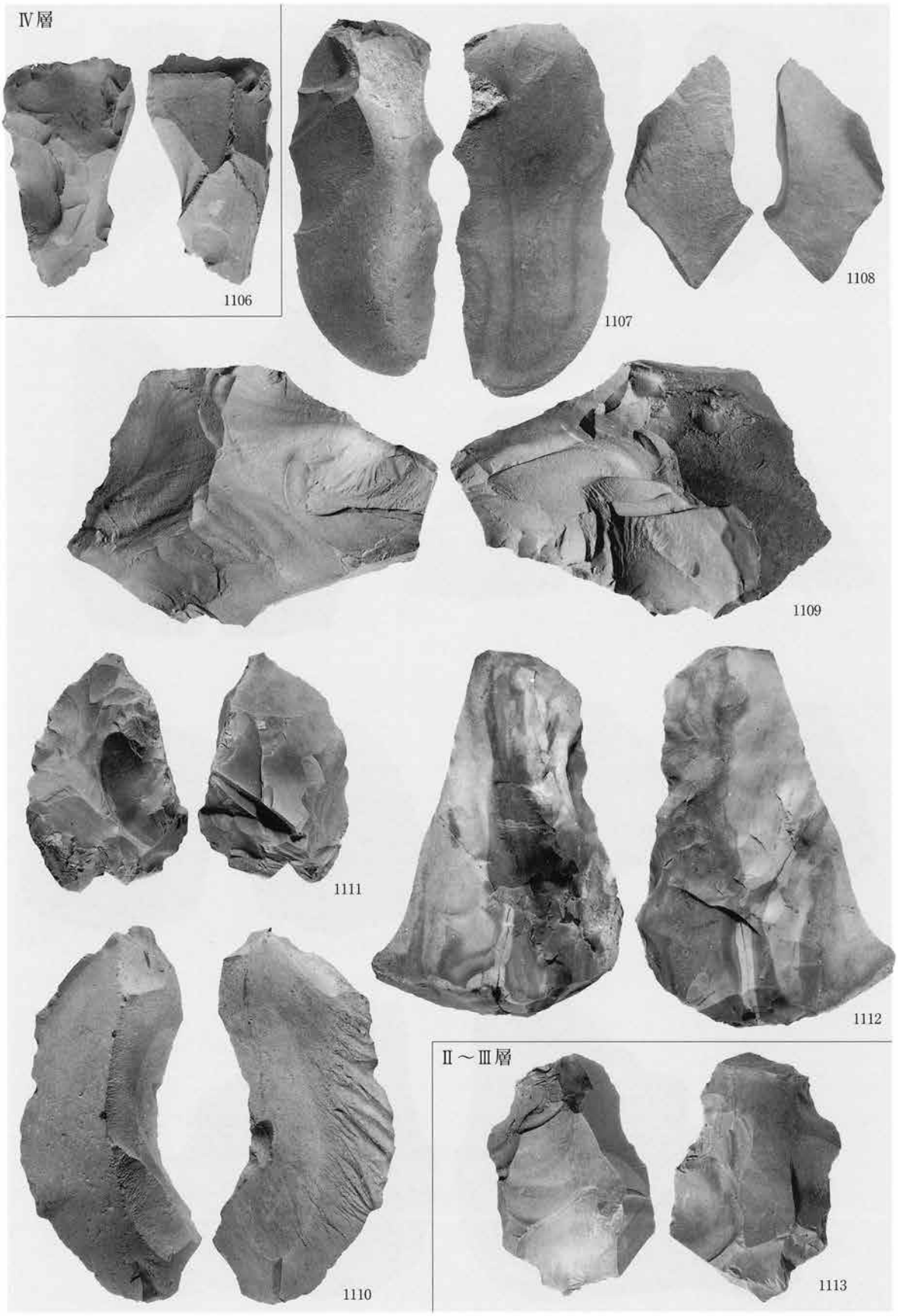
S=2/3

写真図版89　スクレイパー（6）



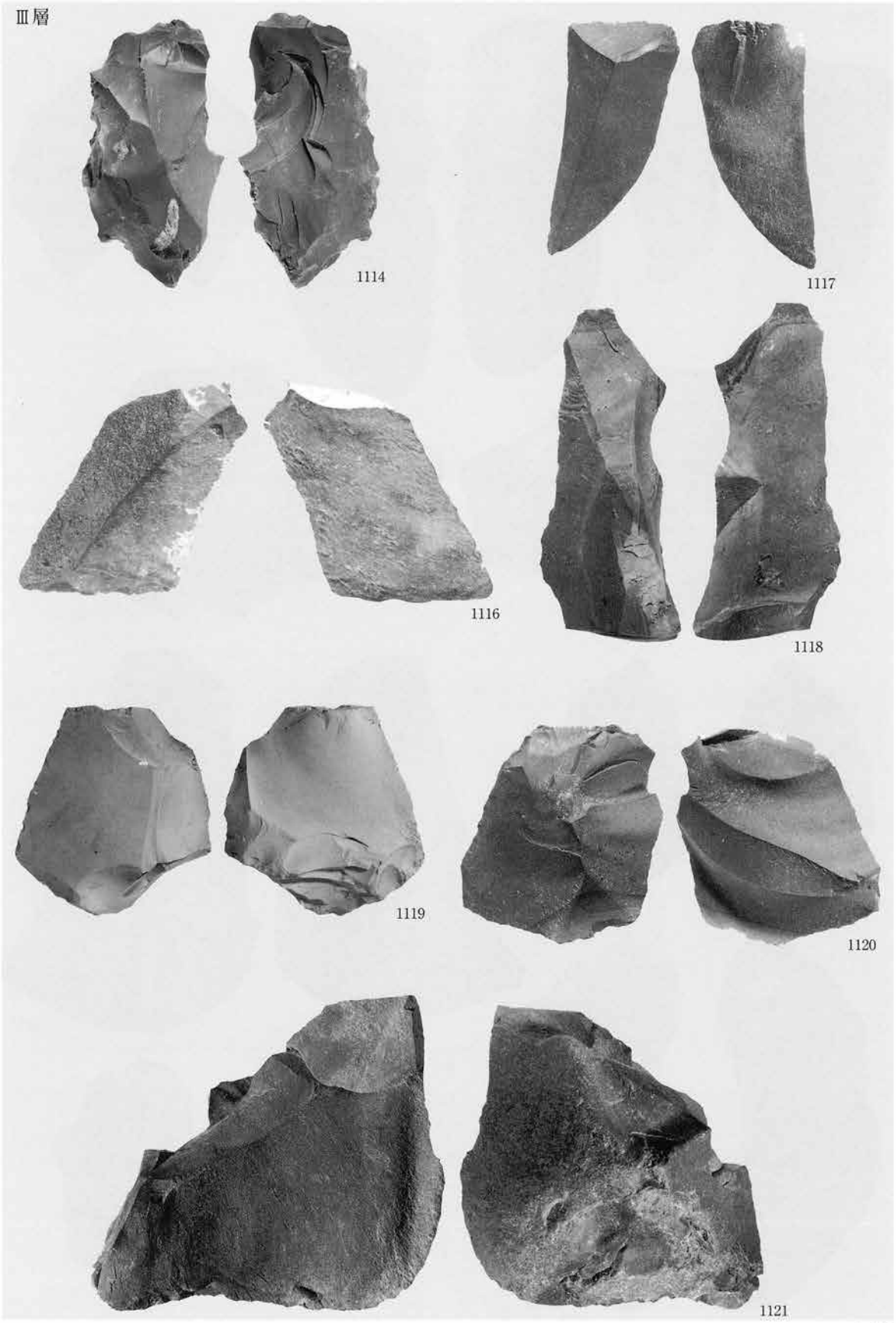
S=2/3

写真図版90　スクレイパー（7）



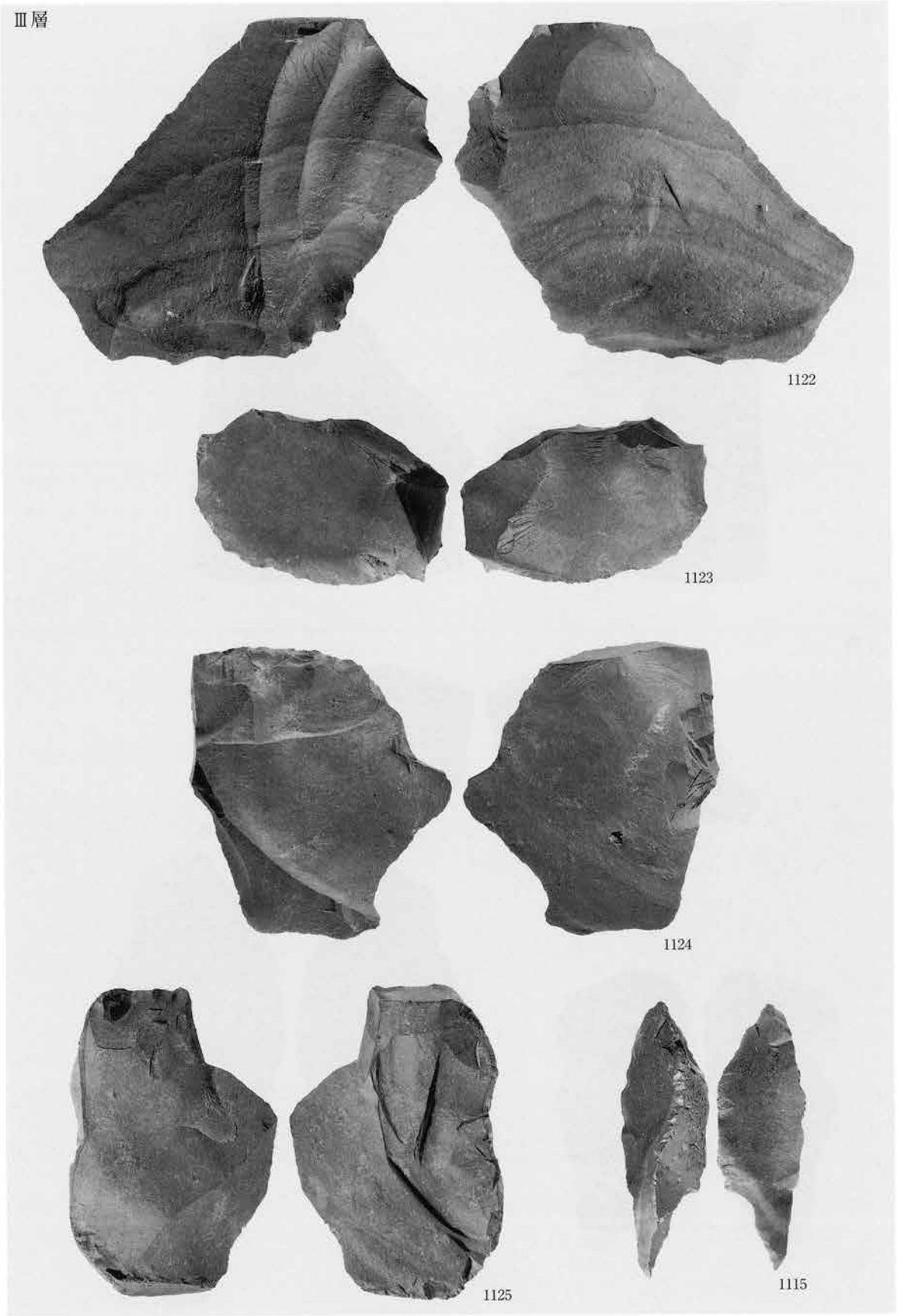
S=2/3

写真図版91　不定期石器（1）



S=2/3

写真図版92　不定形石器（2）



S=2/3

写真図版93　不定形石器（3）

Ⅲ層

1126

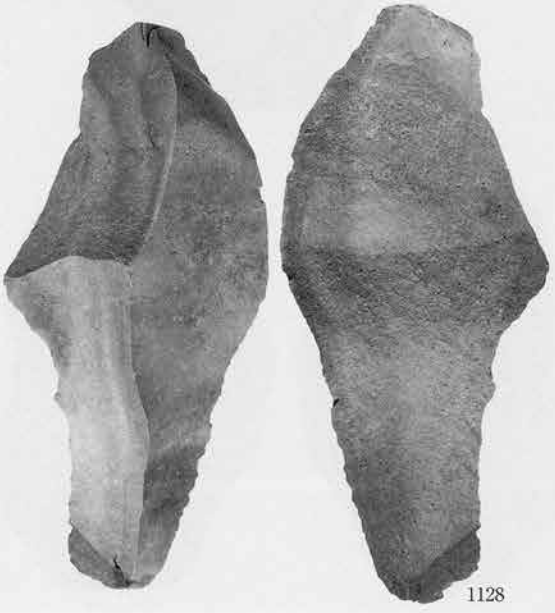
Ⅳ層

1127

Ⅴ層

1130

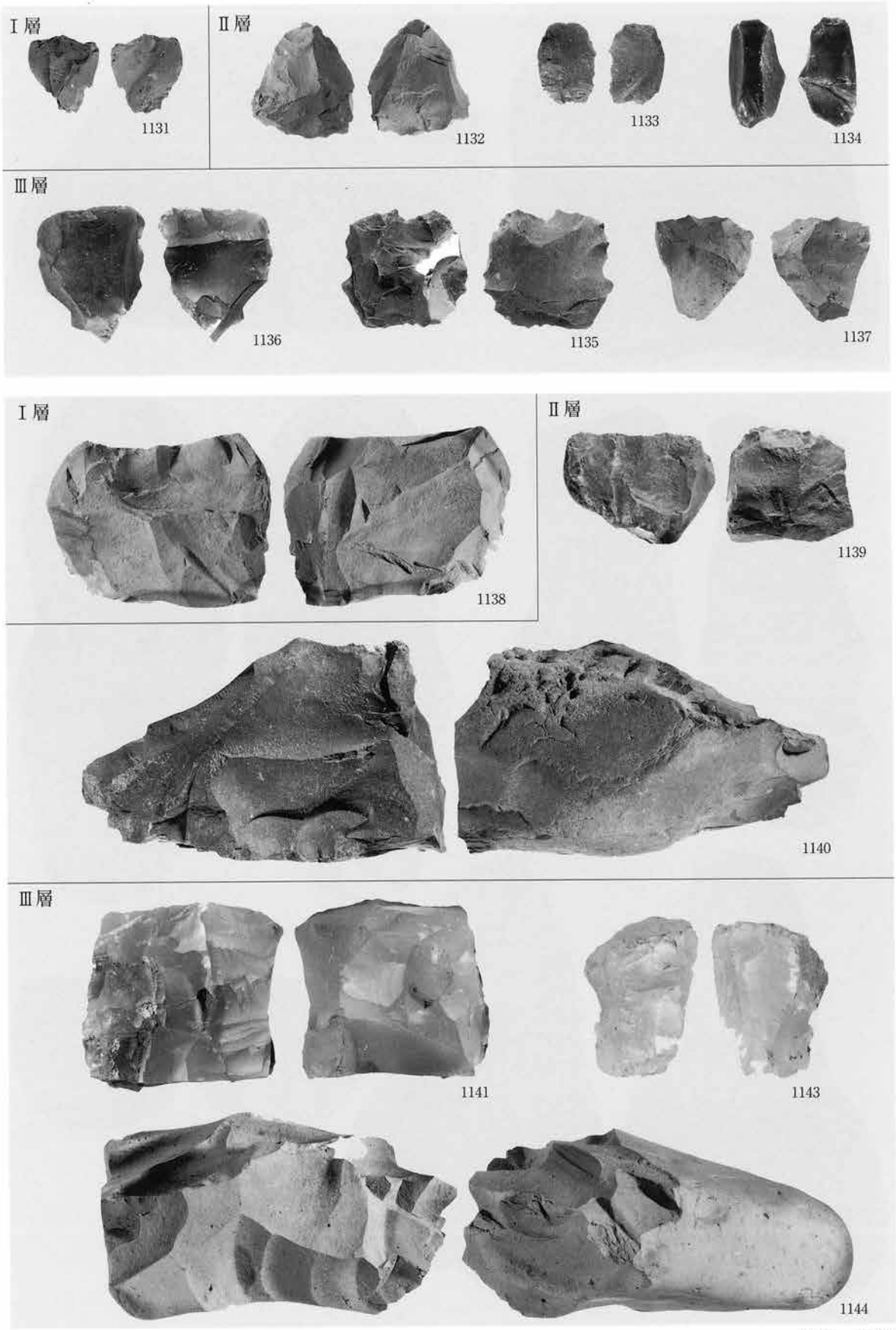
1129



1128

S=2/3

写真図版94　不定形石器（4）



1131～ S=2/3

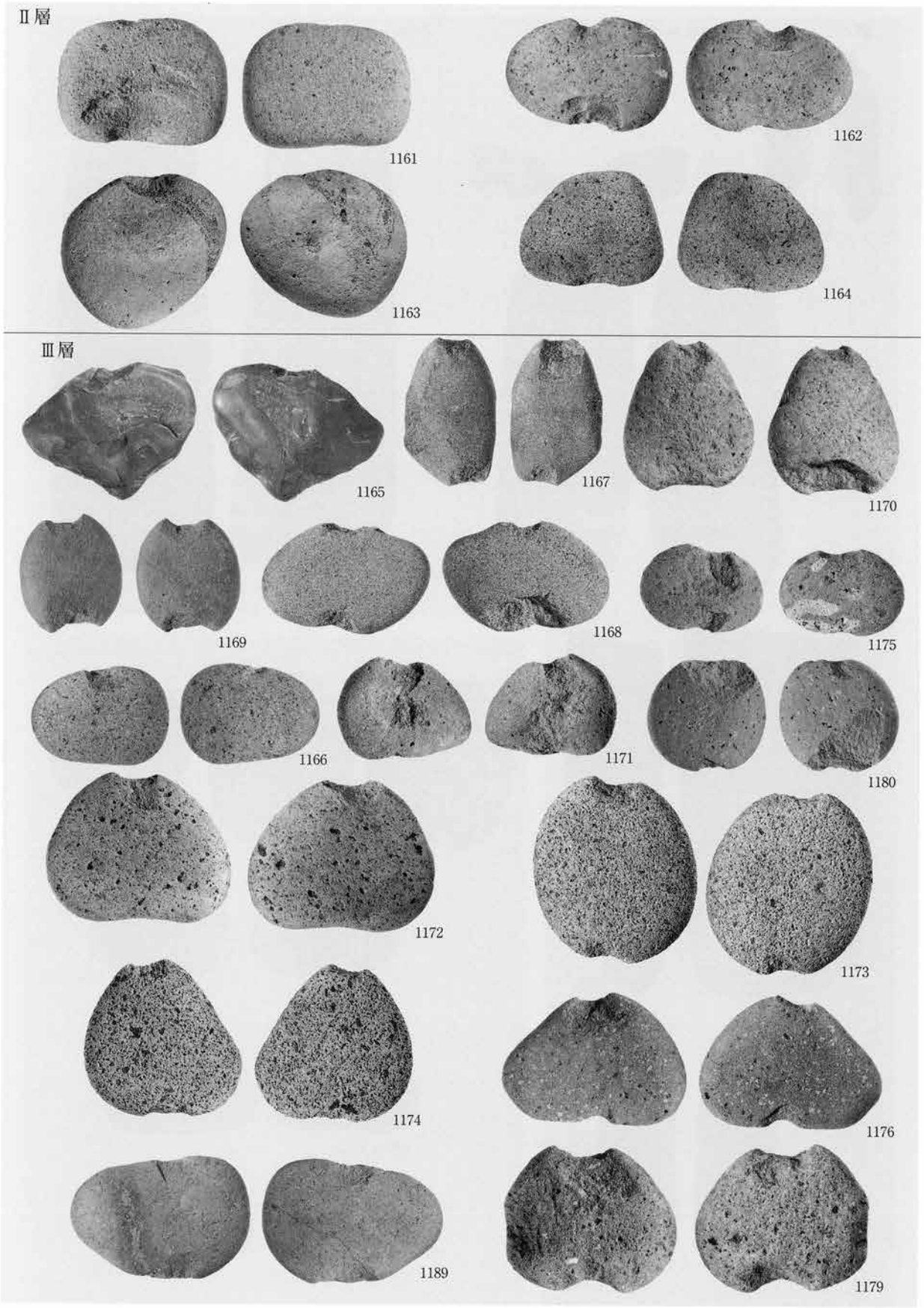
写真図版95　楔形石器、石核（1）

S=1/3

写真図版96　石核（2）・打製石斧

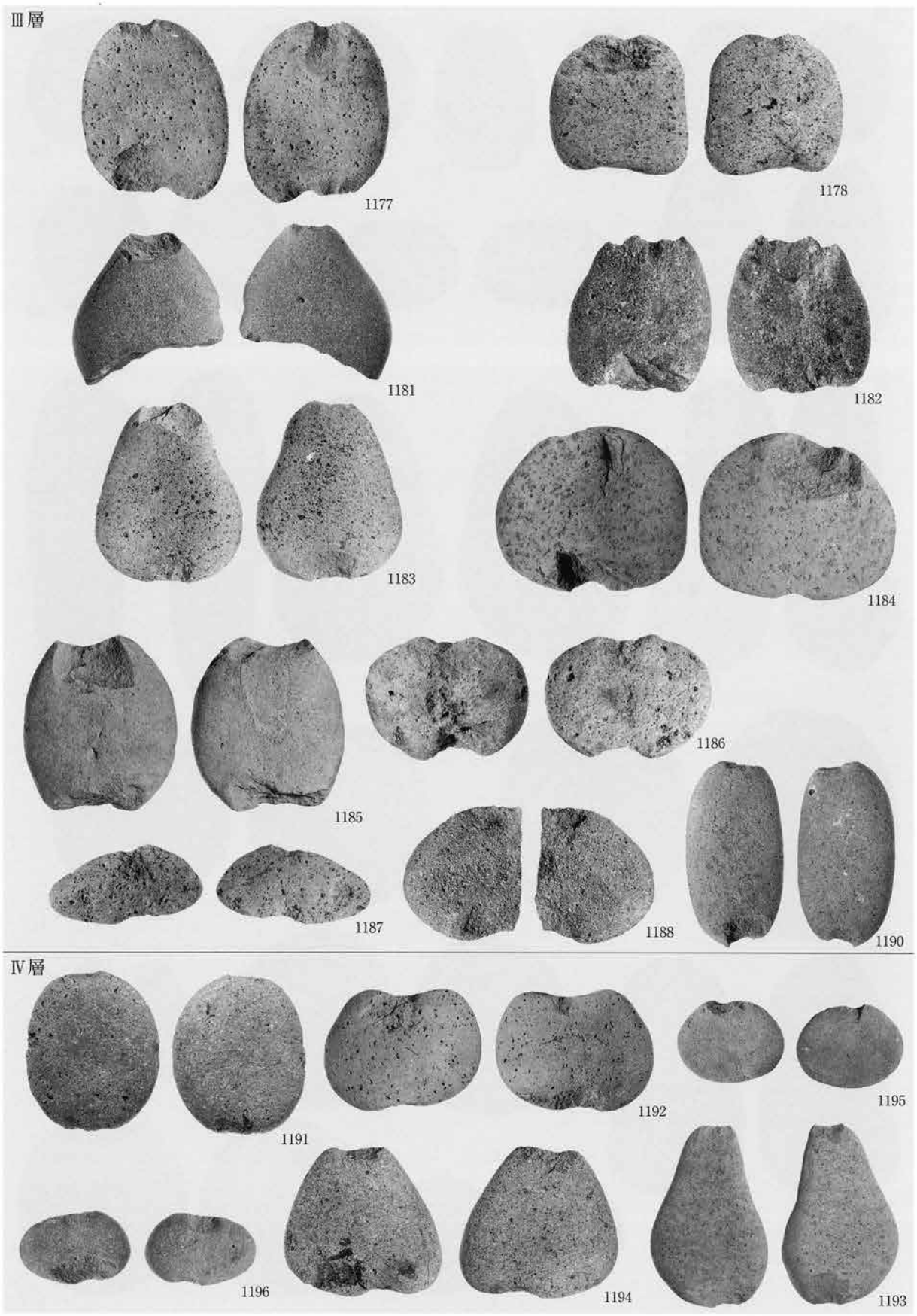
写真図版97　磨製石斧・石錘（1）

1149～1155　S=1/3
1156～1160　S=1/3



S=1/3

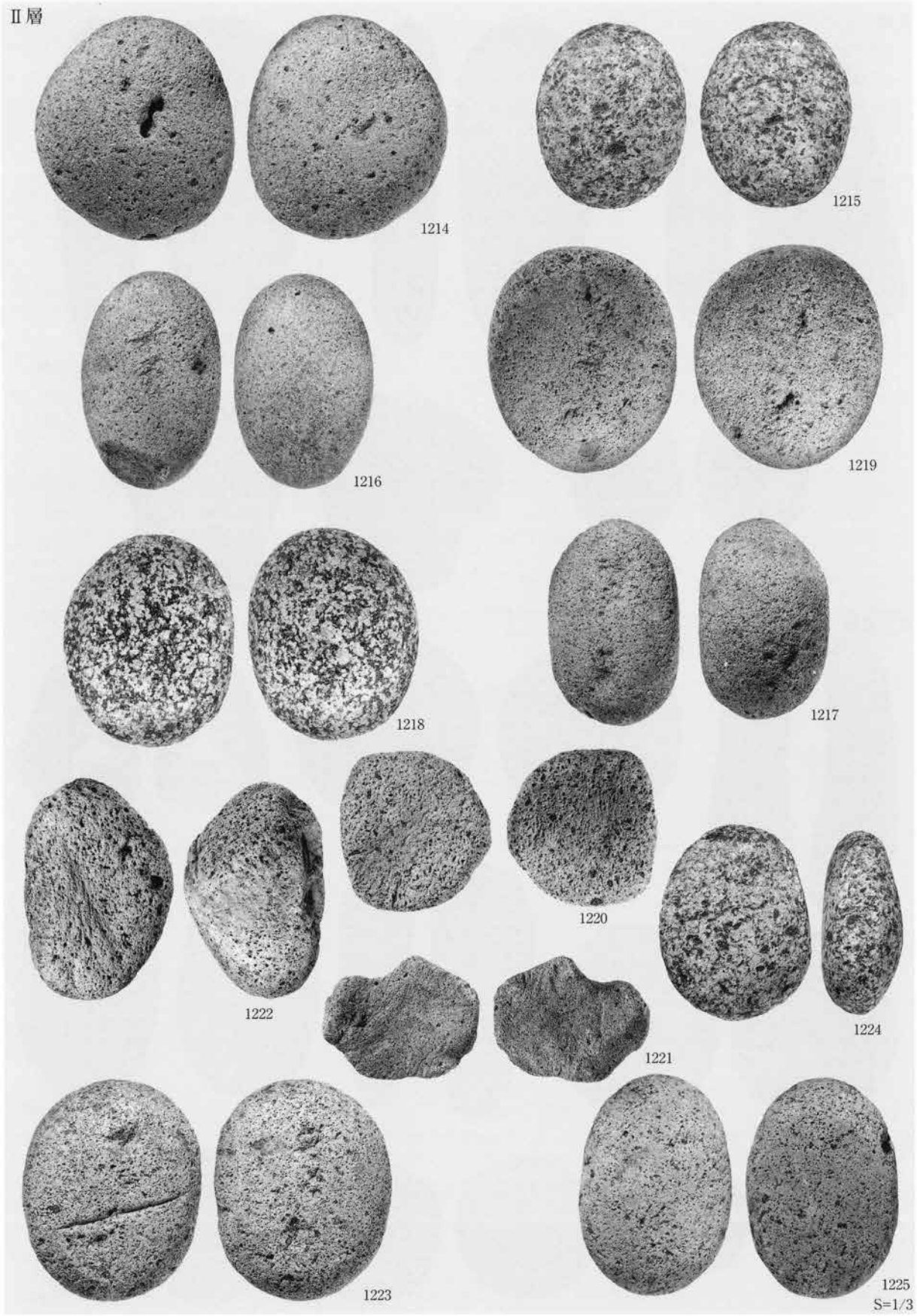
写真図版98　石錘（2）



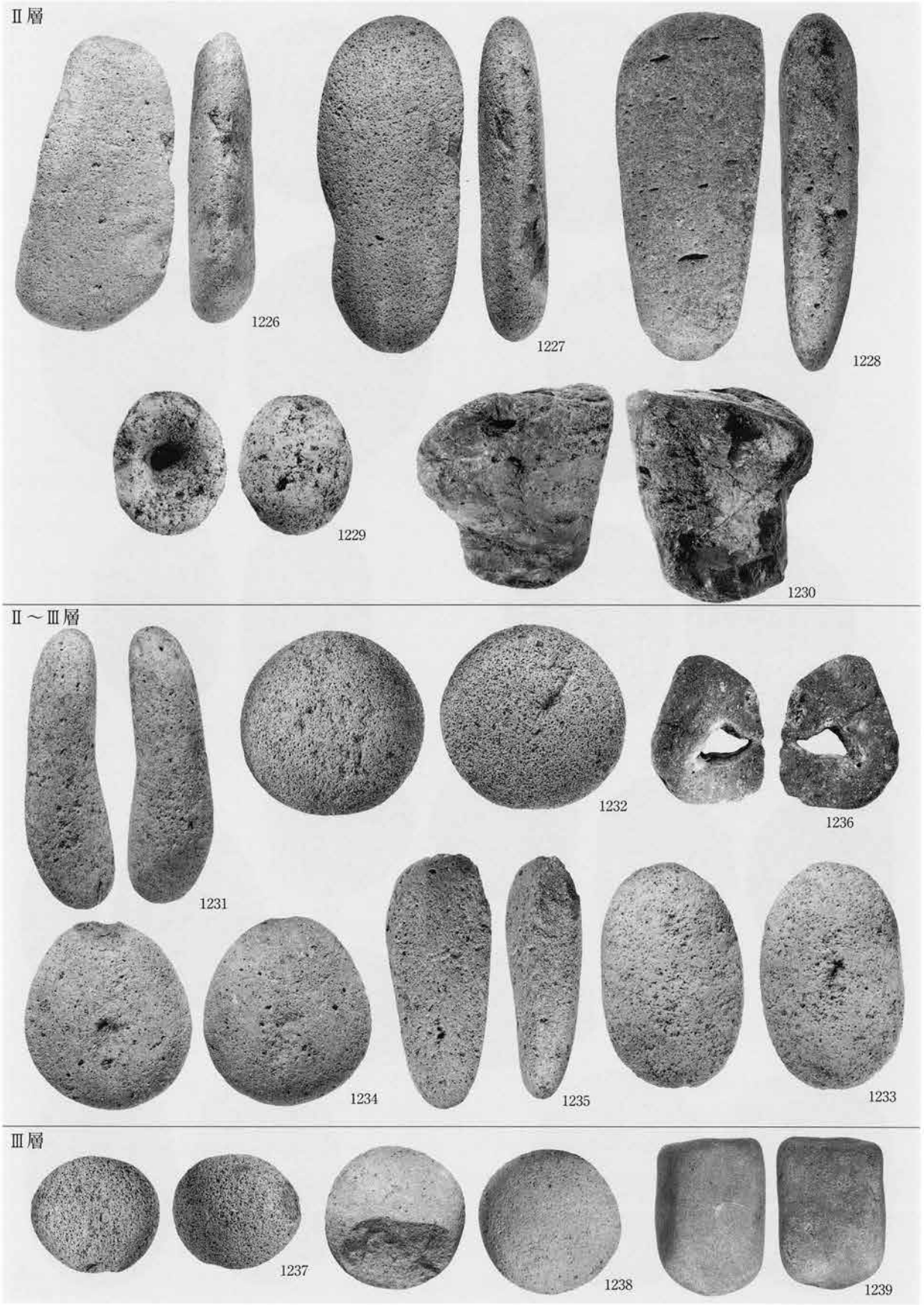
S=1/3

写真図版99　石錘（3）

写真図版100　石錘（4）、礫石器（1）

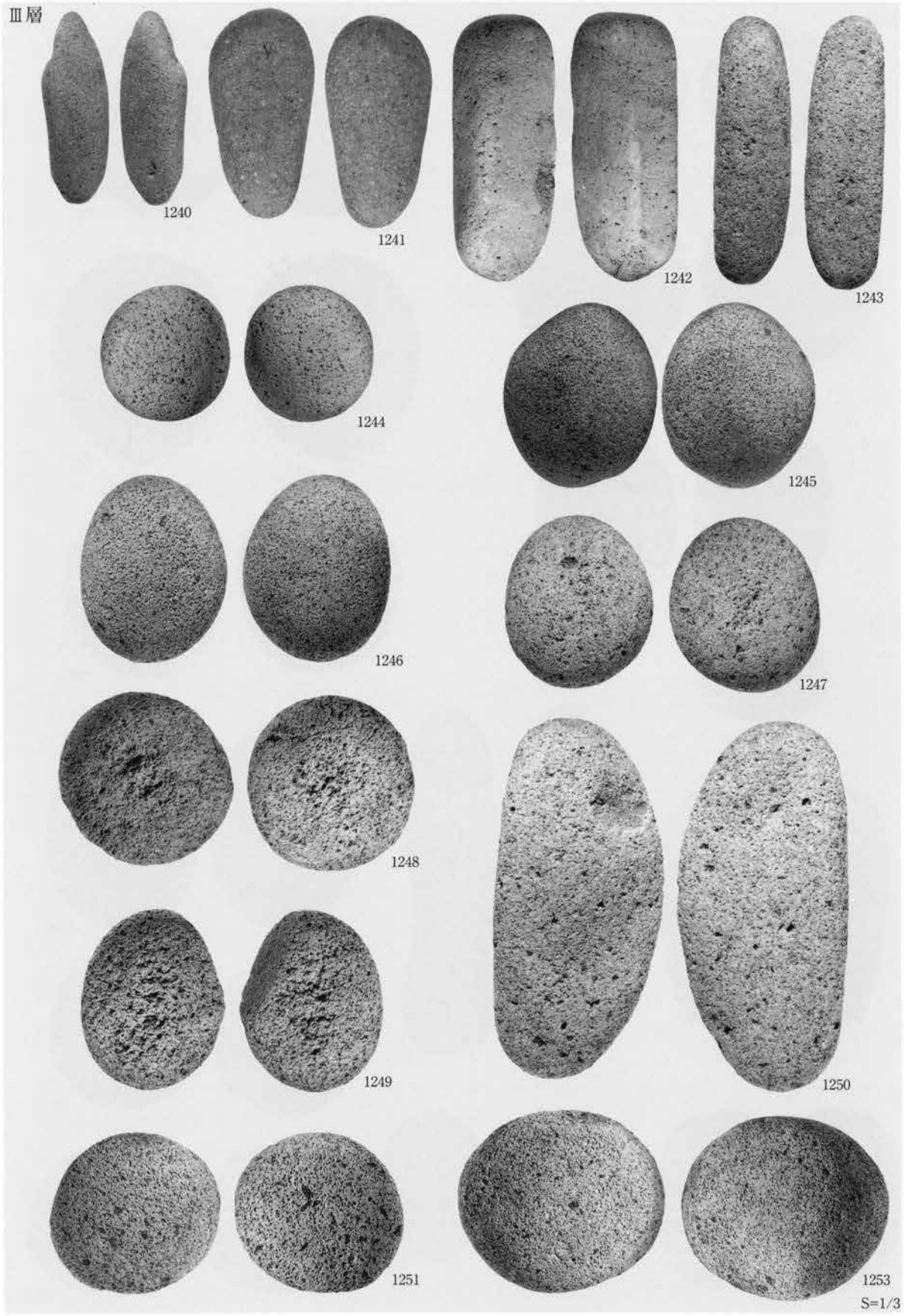


写真図版101　礫石器（2）

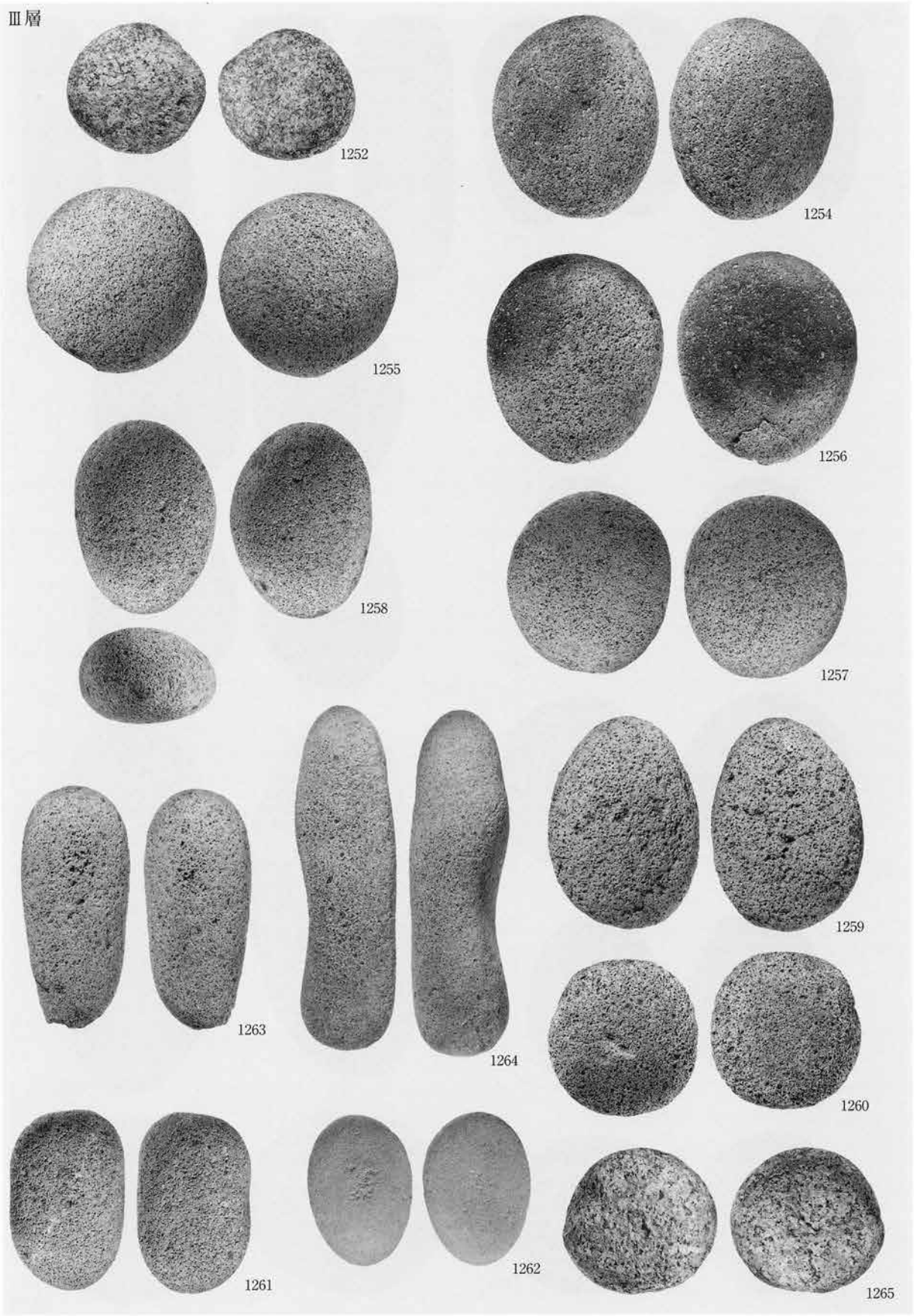


S=1/3

写真図版102　礫石器（3）

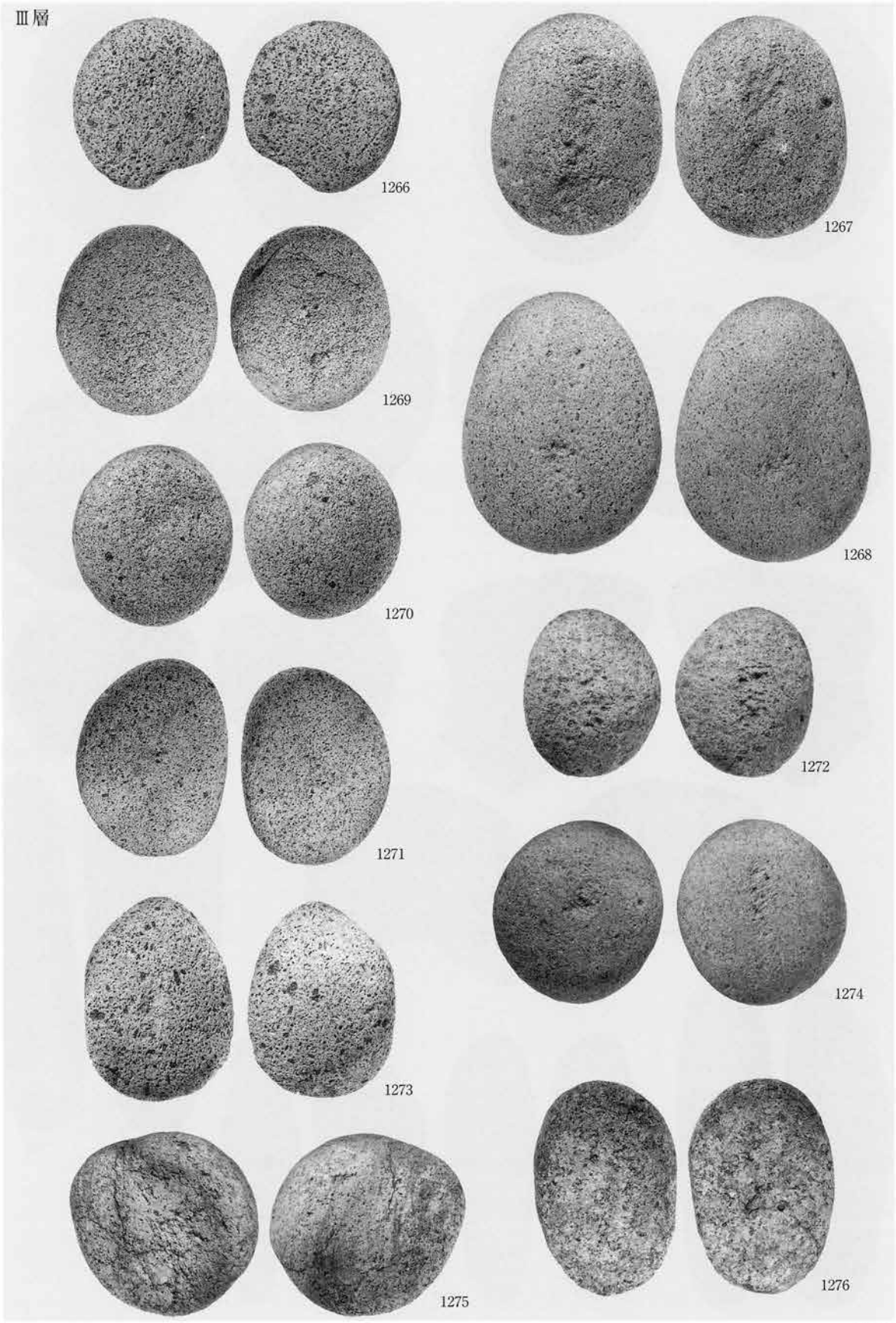


写真図版103　礫石器（4）



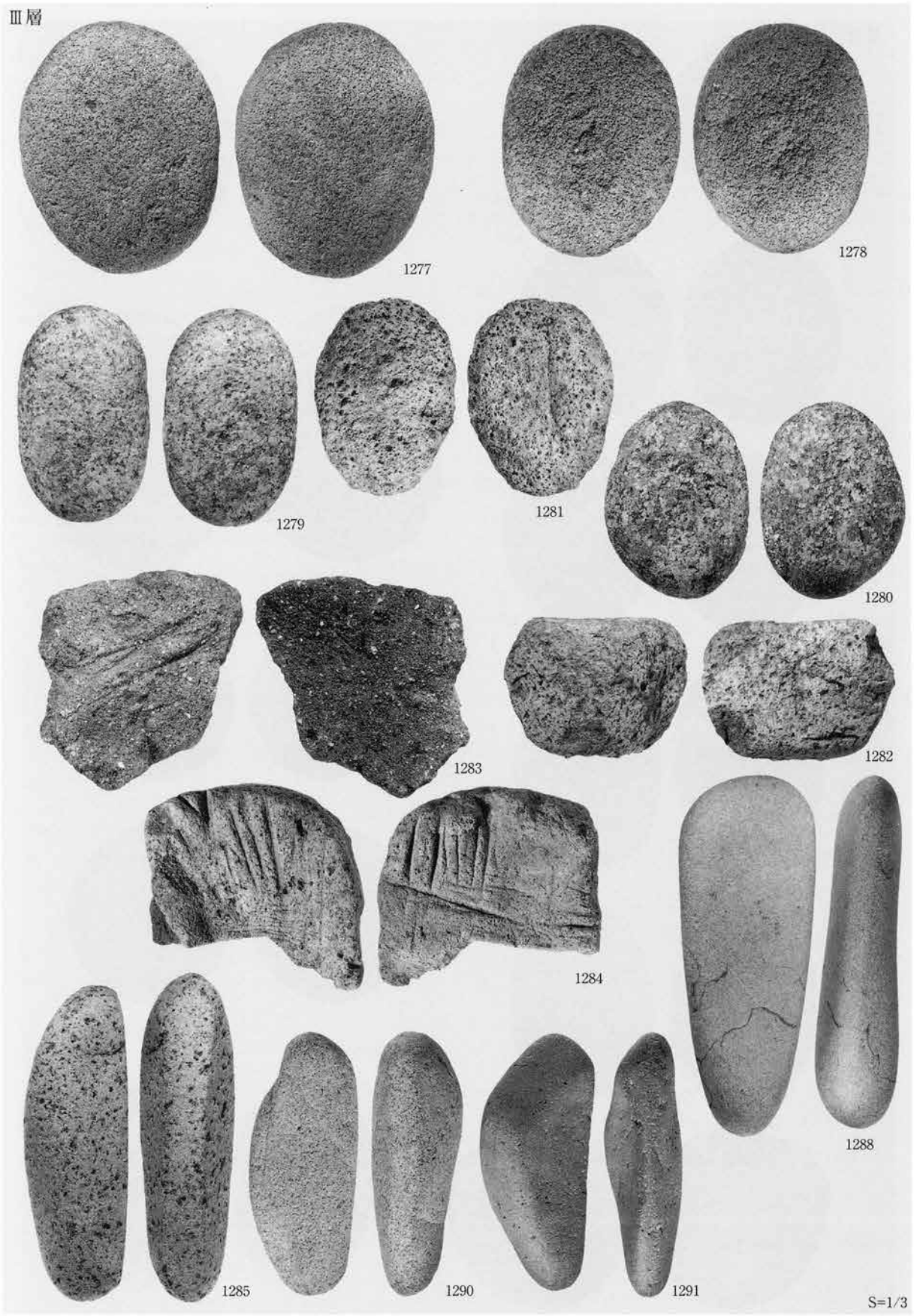
S=1/3

写真図版104　礫石器（5）

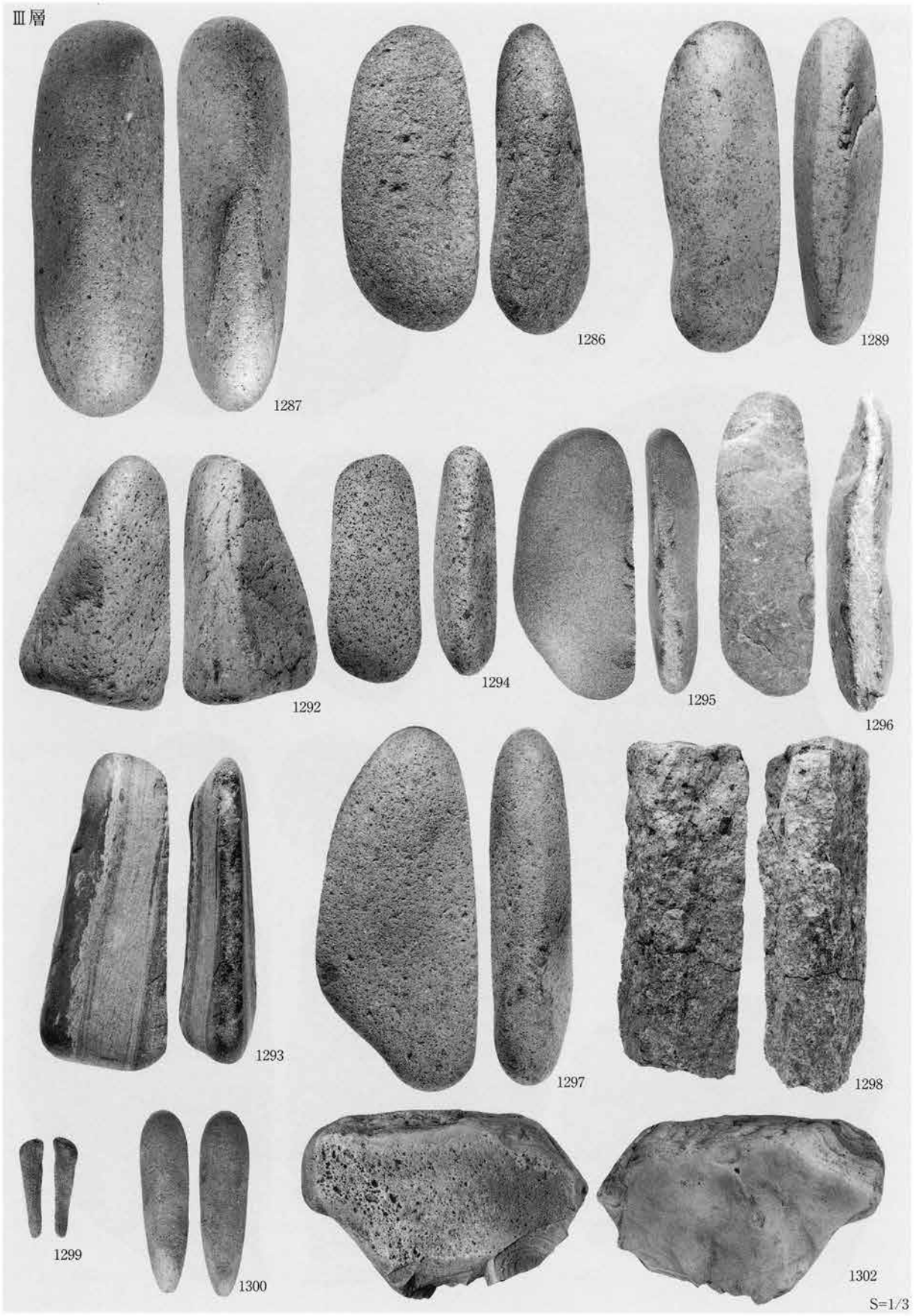


S=1/3

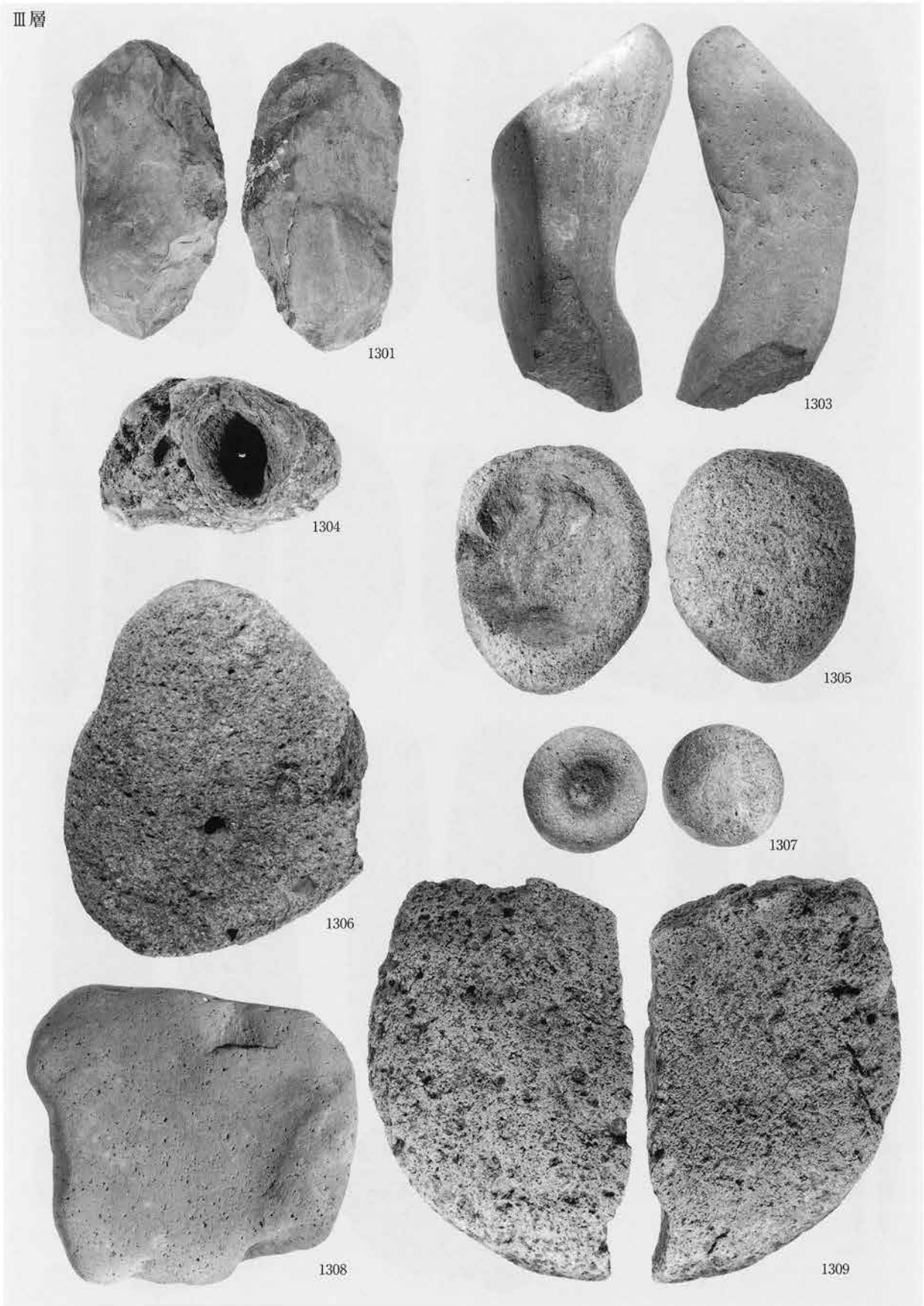
写真図版105　礫石器（6）



写真図版106　礫石器（7）

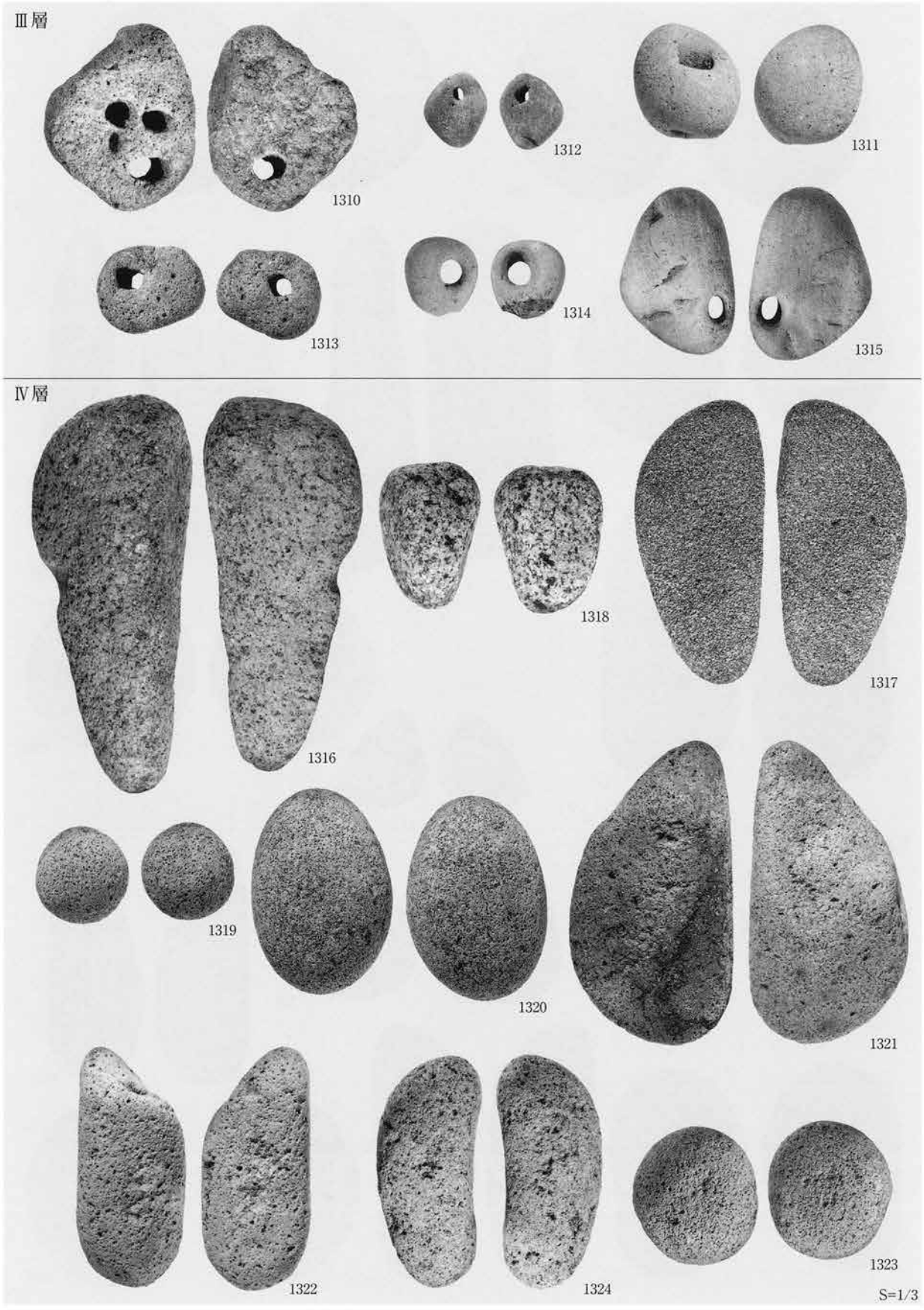


写真図版107　礫石器（8）

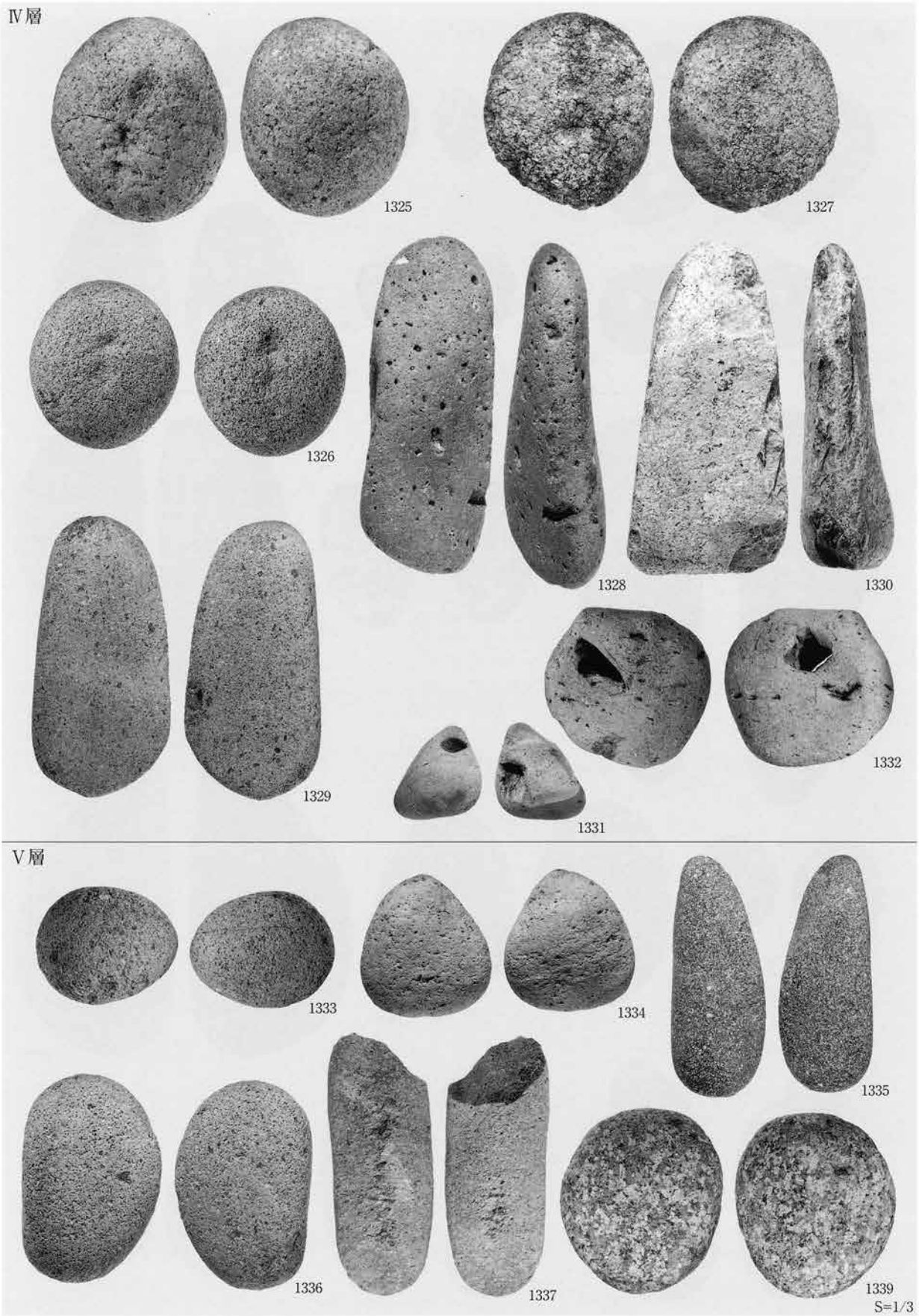


S=1/3

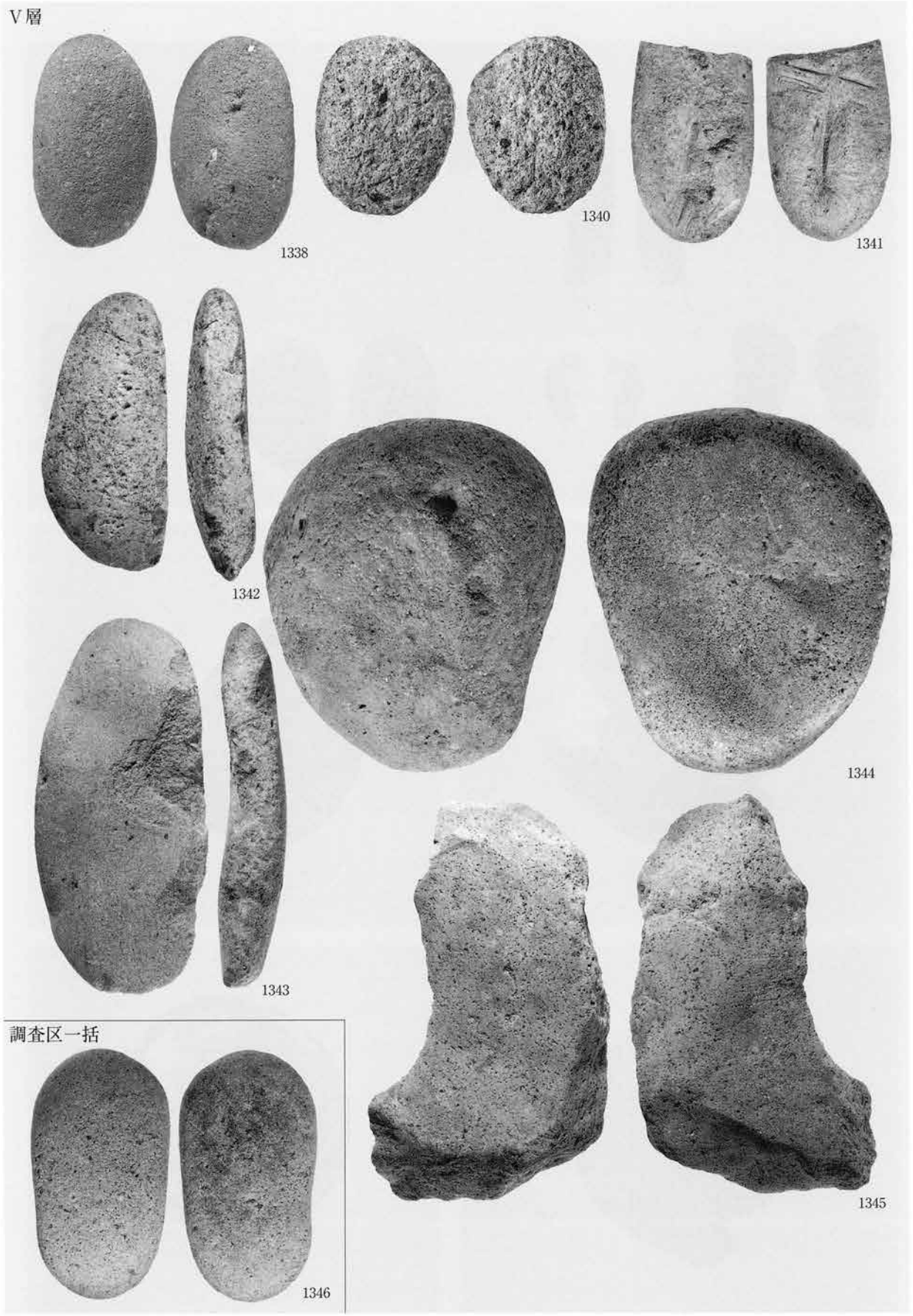
写真図版108　礫石器（9）



写真図版109　礫石器（10）

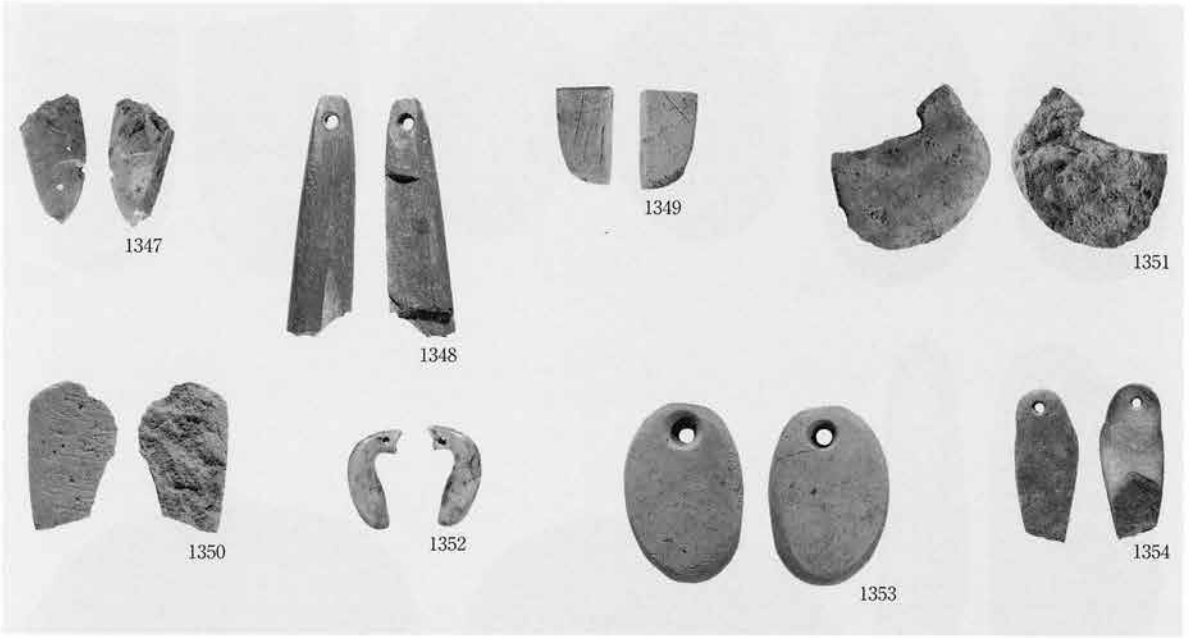


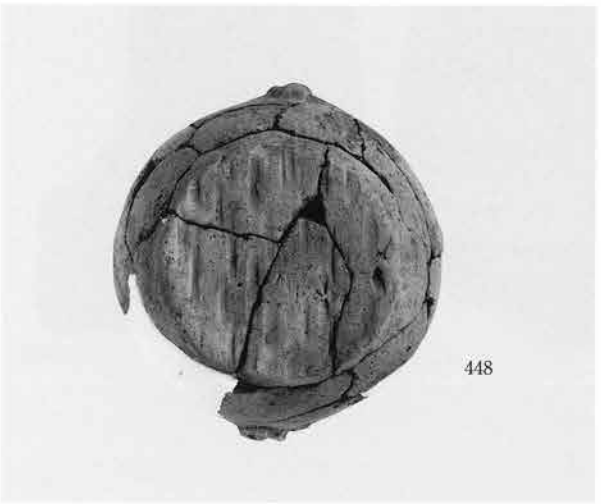
写真図版110　礫石器（11）

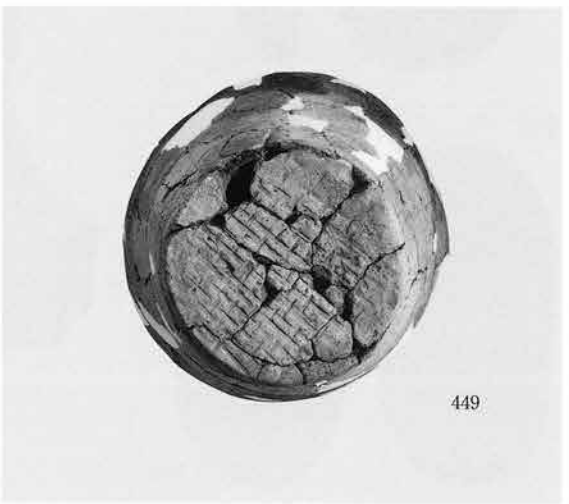


写真図版111　礫石器（12）

1338、1340～1343、1346　S=1/3
他　S=1/4

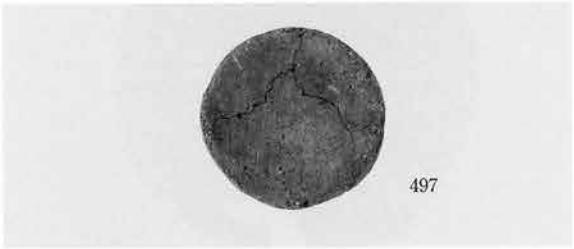


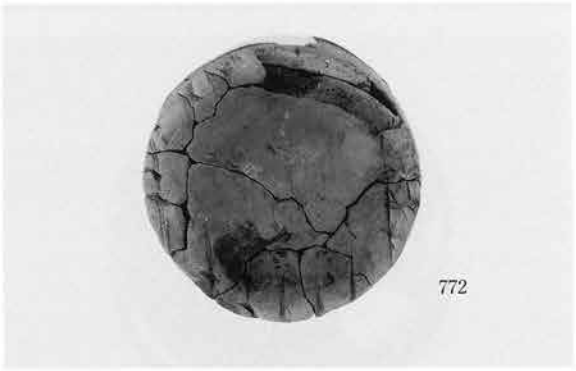


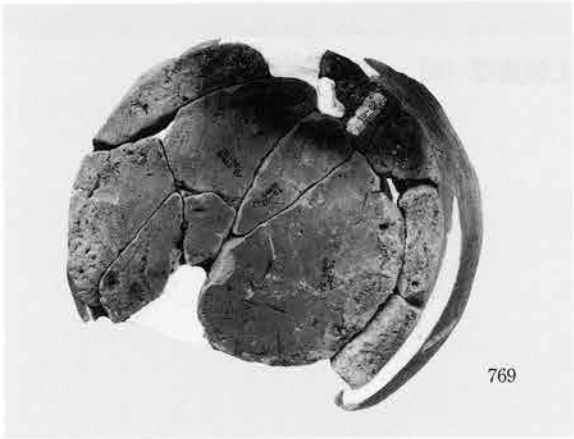


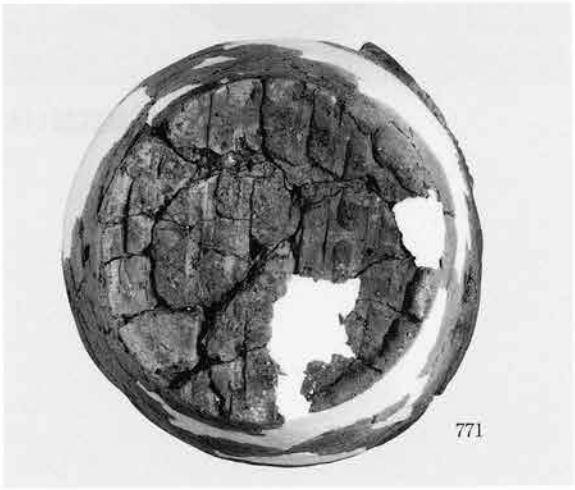
S=1/3

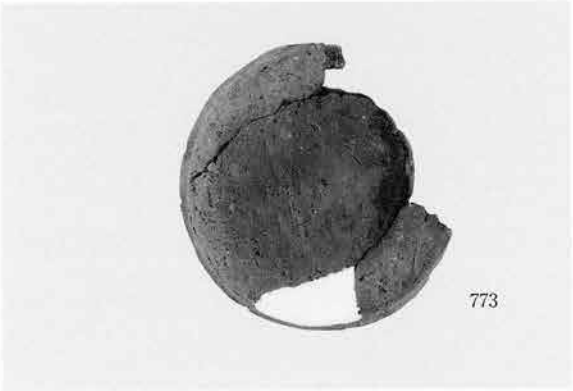
写真図版112　石製品、土器底部（1）





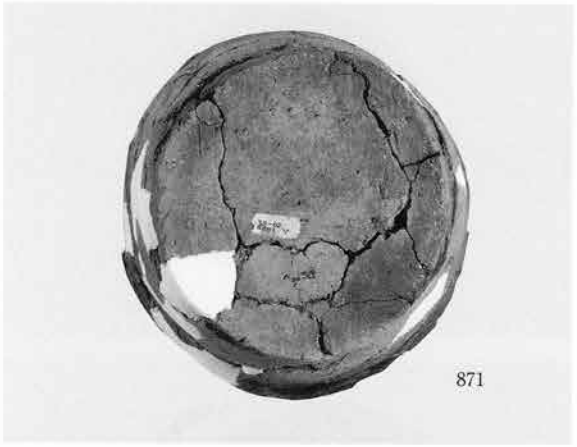


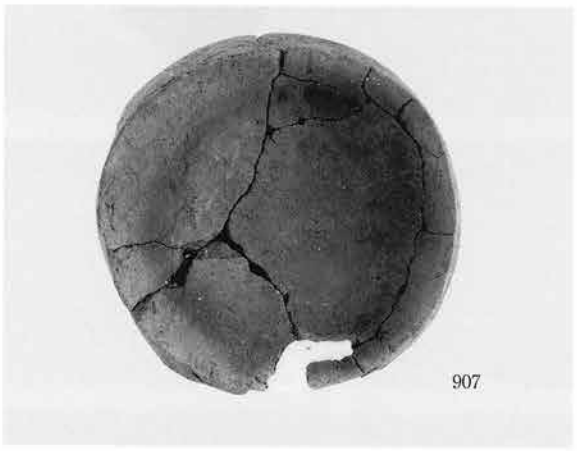




S=1/3

写真図版113　土器底部（2）





写真図版114　土器底部（3）

平成16年度　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

所長	相原康二
副所長	平野允苗

〔管理課〕

課長	韮澤正吾
課長補佐	小田島宏道
主任主査	中嶋賢一
主事	猿橋幸子
嘱託	高橋清助
〃	常泉治美
〃	伊藤滋子

〔調査第一課〕

課長	三浦謙一
課長補佐	高橋義介
文化財専門員	金子昭彦
文化財調査員	水上明博
〃	阿部勝則
〃	杉沢昭太郎（柳之御所支援派遣）
〃	溜浩二郎
〃	村上拓
〃	戸根貴之
〃	八木勝枝
〃	丸山浩治
〃	米田寛
〃	北田勲
〃	島原弘征
〃	村田淳
期限付調査員	石崎高臣
〃	立花裕
〃	菅野梢
〃	新井田えり子

〔調査第二課〕

課長	佐々木清文
主幹兼課長補佐	中川重紀
文化財専門員	小山内透（県教委研修派遣）
〃	金子佐知子
〃	濱田宏
〃	羽柴直人
文化財調査員	吉田充
〃	阿部徳幸
〃	早坂淳
〃	小松則也
〃	窓岩伸吾
〃	亀澤盛行
〃	鈴木裕明
〃	新妻伸也
〃	林勲
〃	星雅之
〃	西澤正晴
〃	丸山直美
〃	村木敬
〃	福島正和
〃	北村忠昭
〃	須原拓
〃	川又晋
〃	中村絵美
期限付調査員	小針大志（6月退職）

報告書抄録

ふりがな	たきのさわちくいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	滝の沢地区遺跡発掘調査報告書
副書名	国道4号拡幅事業関連遺跡発掘調査
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第456集
編著者名	村木　敬
編集機関	財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020－0853　岩手県盛岡市下飯岡11－185　ＴＥＬ019－638－9001
発行年月日	西暦 2005年2月25日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東緯 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
滝の沢地区遺跡	岩手県北上市大堤西1丁目ほか	03206	ＭＥ75－0373	39度15分44.55秒	141度6分9.73秒	2002.09.01～2002.12.06	1,646	国道4号線拡幅事業に伴う緊急発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
滝の沢地区遺跡	集落	縄文時代前期末から中期初頭	竪穴住居　5棟 焼土遺構　5基 埋設土器　6基 配石遺構　6基 陥し穴　1基 土坑　5基 柱穴　219基	土器45,734点 石器7,236点 土製品19点 石製品8点	
		時期不明	溝　1条 土坑　1基		

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書第456集

滝の沢地区遺跡発掘調査報告書

国道４号拡幅事業関連遺跡発掘調査

印刷　平成17年２月21日
発行　平成17年２月25日

発行　（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020－0853　岩手県盛岡市下飯岡11－185
ＴＥＬ（019）638－9001
ＦＡＸ（019）638－8563

印刷　川口印刷工業株式会社
〒020－0841　岩手県盛岡市羽場10－１－２
ＴＥＬ（019）632－2211

©（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2005